
ダブルブラウザ・ソリューション ドキュメント

Ver. Linux 版:2.2 Windows 版:8.2

株式会社アシスト 仮想化事業推進室

アシスト

目次

第 1 章	改訂履歴	1
第 2 章	ソリューション概要	5
2.1	ダブルブラウザ・ソリューションとは	5
2.2	Ericom Connect とは	6
2.3	IVEX ダブルブラウザ Linux とは	7
第 3 章	設計/構築/運用における注意点	9
3.1	設計時の注意点	10
3.2	構築時の注意点	12
3.3	運用に関する注意点	15
第 4 章	システム要件	17
4.1	Windows 版	17
4.2	Linux 版	21
第 5 章	各製品のリリースノート	25
5.1	Ericom Connect リリースノート	25
5.2	IVEX ダブルブラウザ Linux リリースノート	33
5.3	ダブルブラウザ連携キット リリースノート	39
5.4	URL 自動判別オプション (KOTOMINE) リリースノート	47
第 6 章	簡易導入手順	56
6.1	Windows 版	56
6.2	Linux 版	103
6.3	Linux 版 Blaze(コネクションプロカーなし)	177
第 7 章	バージョンアップ手順	210
7.1	Windows 版	210
7.2	Linux 版	234
第 8 章	管理者ガイド	290
8.1	Ericom Connect 管理者ガイド	290
8.2	IVEX ダブルブラウザ Linux 管理者ガイド	545
8.3	ダブルブラウザ連携キット 管理者ガイド	582
8.4	URL 自動判別オプション (KOTOMINE) 管理者ガイド	600
第 9 章	トラブルシューティング	630

9.1	IVEX ダブルブラウザ Linux	630
第 10 章	APPENDIX	636
10.1	構成パターン別 Connect インストールコンポーネント	636
10.2	ダブルブラウザ用サンプルアイコン	638
10.3	IVEX ダブルブラウザ Linux 設計/構築チェックリスト	639
10.4	IVEX ダブルブラウザ Linux ベース OS 対応一覧	643
10.5	IVEX ダブルブラウザ Linux Updater(アップデート/パッチ) の適用について	644
10.6	IVEX ダブルブラウザ Linux の Proxy 設定	649
10.7	IVEX ダブルブラウザ Linux バックアップリストツール	651
10.8	パラメータシート	652
10.9	WBrowser コマンド オプション一覧	653
10.10	ログオプション 出力形式詳細情報	655
10.11	URL 自動判別オプション (KOTOMINE) 補足資料	656
10.12	変換候補表示暫定対応手順	667
10.13	サポートポリシー	667
10.14	サポート / お問い合わせ先	672
第 11 章	法律に基づく告知および免責事項	676

第 1 章

改訂履歴

改定日	版数	改訂内容
2020/3/18	1.18 版	<ul style="list-style-type: none">ダブルブラウザ連携キット 9.2.0.3 のリリースに伴い、「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」の「新機能および修正点」を更新しました。
2020/2/21	1.17 版	<ul style="list-style-type: none">ダブルブラウザ連携キット 9.2.0.2 のリリースに伴い、「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」の「新機能および修正点」を更新しました。
2020/2/7	1.16 版	<ul style="list-style-type: none">Windows 10 SAC 1909 をサポート開始に伴い、「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」の「新機能および修正点」を更新しました。
2019/12/24	1.15 版	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 (R2 含む) ESU のサポートについて、「<i>Ericom Connect</i> リリースノート (ページ 25)」、「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」および「システム要件 <i>Windows</i> 版 クライアント要件 (ページ 17)」を更新しました。KOTOMINE の Windows 7 ESU のサポートについて、「システム要件 <i>Windows</i> 版 クライアント要件 (ページ 17)」を更新しました。

改定日	版数	改訂内容
2019/11/29	1.14 版	<ul style="list-style-type: none"> Windows 7 ESU のサポートについて、「<i>Ericom Connect</i> リリースノート (ページ 25)」、「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」および「システム要件 <i>Windows</i> 版 クライアント要件 (ページ 17)」を更新しました。
2019/9/6	1.13 版	<ul style="list-style-type: none"> ダブルブラウザ連携キット 9.1.0.2 の提供にともない「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新。 バージョン 1.4.3 のリリースに伴い、「<i>URL</i> 自動判別オプション (<i>KOTOMINE</i>) リリースノート (ページ 47)」を更新しました。
2019/6/4	1.12 版	<ul style="list-style-type: none"> 「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」 - 「制限事項および既知の不具合」を更新しました。 「<i>URL</i> 自動判別オプション (<i>KOTOMINE</i>) 管理者ガイド (ページ 600)」 - 「インストールの前に」を更新しました。
2018/12/26	1.11 版	<ul style="list-style-type: none"> ダブルブラウザ連携キット 9.0.0.1 の提供にともない、「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新しました。 「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」 - 「制限事項および既知の不具合」を更新しました。
2018/11/19	1.10 版	<ul style="list-style-type: none"> バージョン 1.4.2 のリリースに伴い、「<i>URL</i> 自動判別オプション (<i>KOTOMINE</i>) リリースノート (ページ 47)」を更新しました。
2018/10/31	1.9 版	<ul style="list-style-type: none"> ダブルブラウザ連携キット 8.5.0.2 の提供にともない「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新。 <i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> 2.5.0 の提供にともない「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」を更新。
2018/10/5	1.8 版	<ul style="list-style-type: none"> ダブルブラウザ連携キット 8.5.0.1 の提供にともない「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新。

改定日	版数	改訂内容
2018/9/27	1.7 版	<ul style="list-style-type: none"> ● Spectre/Meltdown の修正適用を考慮し、Linux 版の「サーバ要件 (ページ 21)」を更新。
2018/8/10	1.6 版	<ul style="list-style-type: none"> ● 「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」 - 「制限事項および既知の不具合」の更新漏れに対応。
2018/8/6	1.5 版	<ul style="list-style-type: none"> ● defunct-x11rdp-clear(暫定運用ツール) 修正リリースの提供にともない「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」を更新。 ● 「APPENDIX」として「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> ベース OS 対応一覧 (ページ 643)」および「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> バックアップリストツール (ページ 651)」を追加。 ● 「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ Linux 管理者ガイド」に「パラメータシート (ページ 573)」を追加しました。
2018/6/18	1.4 版	<ul style="list-style-type: none"> ● ダブルブラウザ連携キット 8.2.0.4 の提供にともない「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新。 ● URL 自動判別オプション (KOTOMINE)1.4.1 Edge リリース Update1 の提供に伴い「<i>URL</i> 自動判別オプション (<i>KOTOMINE</i>) リリースノート (ページ 47)」「<i>URL</i> 自動判別オプション (<i>KOTOMINE</i>) 管理者ガイド (ページ 600)」を更新。
2018/5/2	1.3 版	<ul style="list-style-type: none"> ● ダブルブラウザ連携キット 8.2.0.2 の提供にともない「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新。 ● 「簡易導入手順」において「<i>Linux</i> 版 <i>Blaze</i>(コネクションブローカーなし) (ページ 177)」を分割しました。
2018/4/16	1.2 版	<ul style="list-style-type: none"> ● バージョン 2.2.1 の提供にともない「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」を更新。 ● 「変換候補表示暫定対応手順 (ページ 667)」を公開。 ● 「<i>PDF</i> ファイル (ページ ??)」を章ごとの提供を中止。

改定日	版数	改訂内容
2018/4/2	1.1 版	<ul style="list-style-type: none">● 「<i>IVEX</i> ダブルブラウザ <i>Linux</i> リリースノート (ページ 33)」を更新。● 「ダブルブラウザ連携キット リリースノート (ページ 39)」を更新。
2018/3/8	初版	

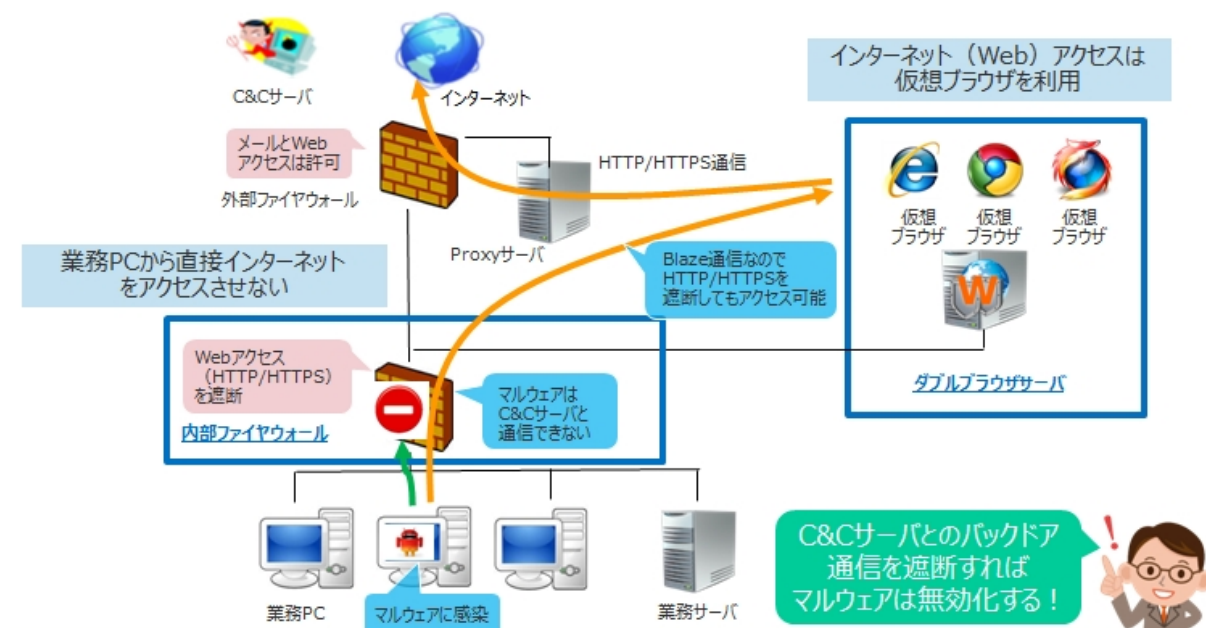
第2章

ソリューション概要

2.1 ダブルブラウザ・ソリューションとは

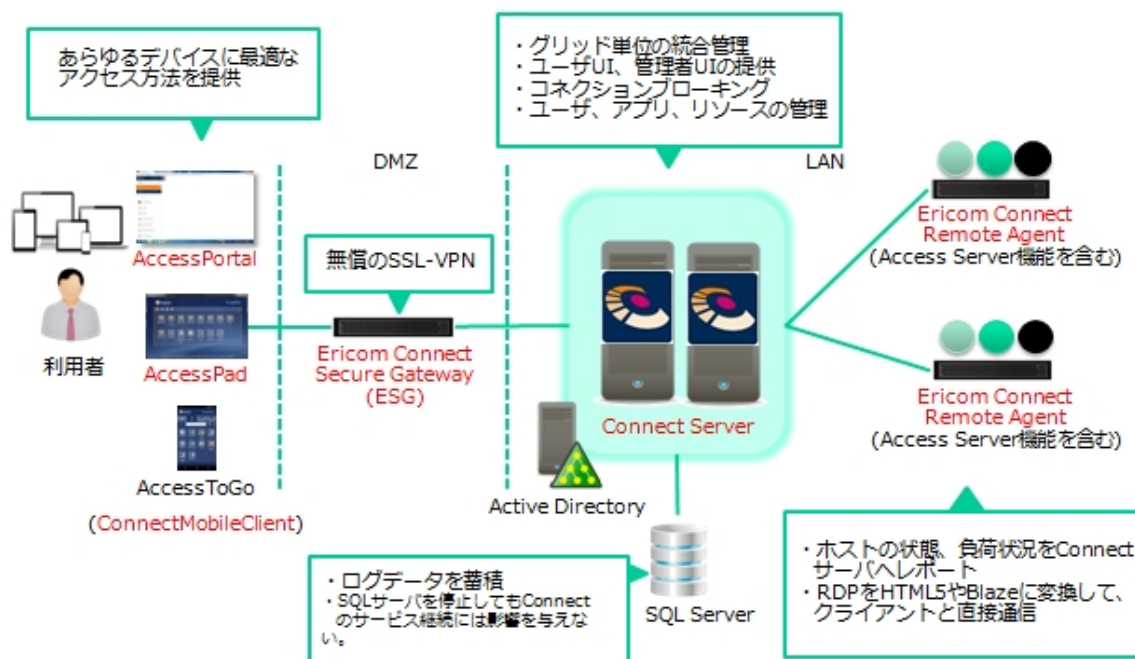
内部ファイアウォールを設置することで、業務端末からのインターネットへのアクセスを遮断します。これにより、仮に業務 PC がマルウェアに感染しても、マルウェアは C&C サーバ間の通信は不可能となり、マルウェアは無効化（情報流出を防止）します。業務 PC からインターネットへアクセスする場合は、ダブルブラウザ・ソリューションが提供する仮想ブラウザを利用します。業務 PC からの仮想ブラウザの操作は、Ericom の画面転送プロトコル（Blaze）を使って通信します。このため、内部ファイアウォールでは業務 PC と仮想ブラウザサーバ間の通信だけは許可しておく必要があります。仮想ブラウザからのインターネットアクセスは許可されているため、ユーザは、仮想ブラウザを操作してインターネットが利用できます。仮想ブラウザサーバが複数台存在する場合は、Ericom Connect を用いて、リソースの管理を行うことが可能です。

仮想ブラウザサーバには Windows サーバと Linux サーバを選択することが可能です。



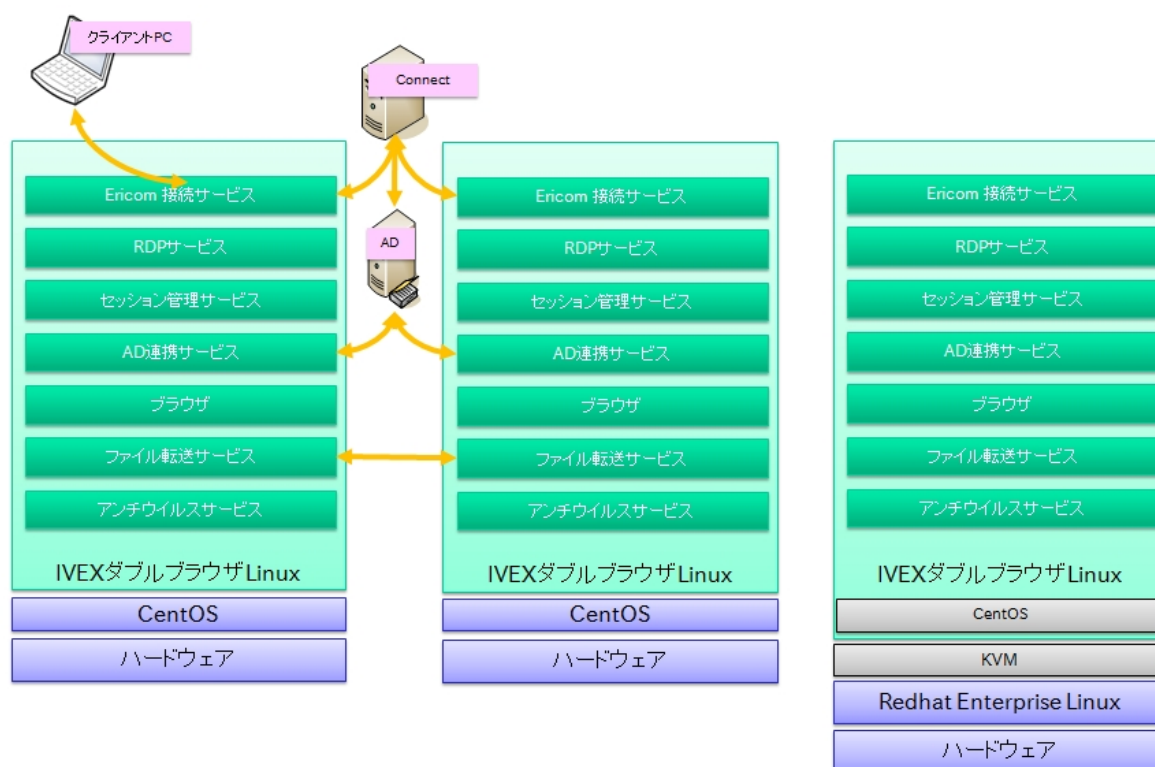
2.2 Ericom Connect とは

Ericom Connect は、世界で初めてグリッドアーキテクチャを接続プロローカーに採用し、10 万ユーザ規模のクライアント仮想化環境もシンプルな構成で実現する無限のスケラビリティを備えた革新的なアクセスソリューションです。エンタープライズレベルのスケラビリティと高い管理性を求める企業、デスクトップやアプリケーションをサービス提供するクラウドプロバイダー、限られた IT リソースでマルチデバイス環境に業務アプリケーションを提供したい企業にとって最適な製品です。



2.3 IVEX ダブルブラウザ Linux とは

IVEX ダブルブラウザ Linux は、Ericom Connect の Remote Agent を内蔵した Ubuntu をベースとした日本ナレッジ社の製品です。クライアントからの接続要求を受けて、AD と連携して認証し、セキュアなブラウザ実行環境を提供します。ブラウザの実行環境はユーザ毎に分離されており、相互の脅威伝播を防ぎます。また、実行環境はセッションの終了と同時に破棄されるため、万が一のマルウェア感染時においても脅威を最小限に抑えることが可能です。さらにファイル転送システムを搭載することで、利用サーバが複数の場合でも、利用者のプロファイルデータを互いに転送しあい、どのサーバに接続しても、利用者は同じ環境を利用する事ができます。

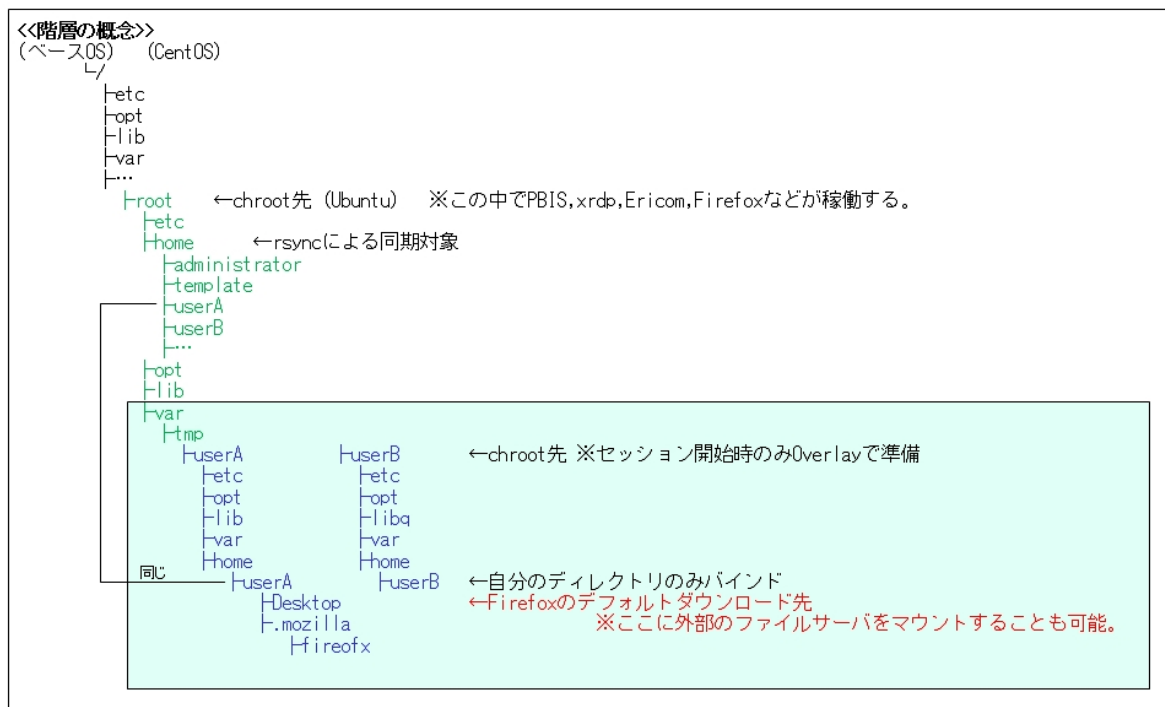


注意:

導入する Linux サーバが RHEL の場合、KVM ゲストとして CentOS をベースとした仮想アプライアンスの形でご提供します。

仮想ゲストの RHEL に導入すると、仮想環境のネスト構成になるため、サポート対象外となります。

2.3.1 IVEX ダブルブラウザ Linux 技術概要



- CentOS ベースとした Linux マシン上で稼働する、Ubuntu ベースの chroot 環境を提供
- chroot 環境内にダブルブラウザに必要なモジュールは一式導入済み
- /home は rsync を用いて全 Linux サーバで同期をする
- chroot 環境内で、さらにユーザのセッション毎に chroot 環境 (ユーザ個別領域) を提供
- ユーザ個別領域の/etc については、除外対象ファイルを指定して隠匿する機能を提供
- ユーザセッション内では Firefox と ClamAV のみを実行
- ユーザの Firefox プロファイルは template ユーザのものを複製
- ログオフ時にはプロファイルは消去される仕組みを提供
- 消去対象は細分化して対応
 - refresh-downloads : ダウンロードフォルダのみ (/home/[ユーザ ID]/Desktop)
 - refresh-firefox_profile : Firefox プロファイル (下記個別の領域以外)
 - refresh-bookmarks : Firefox プロファイル (お気に入りのみ)
 - refresh-password : Firefox プロファイル (保存された ID, パスワードのみ)
 - refresh-cookie : Firefox プロファイル (Cookie 情報のみ)
 - refresh-plugins : Firefox プロファイル (プラグインのみ) を初期化する

第3章

設計/構築/運用における注意点

この資料は、過去のお問い合わせや障害対応より、導入・運用する際に特に注意すべき点をまとめた資料です。ダブルブラウザ・ソリューションの安定稼動のためにお役立てください。

ダブルブラウザ・ソリューションの構築・運用を実施するにあたり、以下の教育受講をお願いします。



お願い:

- **IVEX ダブルブラウザ Linux**

Linux 版の場合に受講してください。(バージョン 2.1 を利用しています。)

オンライン Web トレーニングにて受講可能です。(無償)

<https://mp.ashisuto.jp/public/seminar/view/9304>

- **Ericom Connect**

Windows 版および Linux 版コネクションブローカあり構成の場合に受講してください。

オンライン Web トレーニングにて受講可能です。(無償)

<https://mp.ashisuto.jp/public/seminar/view/7810>

3.1 設計時の注意点

3.1.1 共通

- 紹介資料に記載されている同時 100 ユーザのサーバスペック（CPU 16 コア以上、RAM64GB 以上）は最小要件です。特に CPU は参照する Web コンテンツにより大きく変動するために 22 コア程度を推奨します。



サイジングには実際の利用を想定した PoC の実施をお願いします。

警告:

- サーバ拡張はスケールアップではなくスケールアウトでご検討ください。また、障害対応のために N+1 台構成を推奨します。
- クライアント PC とサーバの間に NAT が存在する場合、Ericom Secure Gateway の導入が必要です。
- ファイル共有オプションは Linux 版専用です。Windows 版では利用できません。

3.1.2 Linux 版

- コネクションブローカーなしで構成する場合、使用権許諾の制限により、ActiveDirectory との認証連携はご利用いただけません。
- 標準構成の場合、Linux サーバ間でユーザプロファイルの同期を取りますが、大規模環境（サーバ 8 台以上）では同期の負荷が高くなるために NFS 構成をご検討ください。



NFS 構成の場合、NFS サーバが単一障害点とならないよう、可用性の設計を合わせてお願いいたします。また、I/O 性能の PoC も実施願います。

お願い:

- Linux 版ではユーザプロファイルは 1 ユーザあたり 50MB~60MB を目安にサイジングしてください。NFS 構成でない場合は各サーバに全ユーザ分のプロファイルが格納されます。



保存するユーザプロファイルのサイズはリフレッシュの設定により変動します。特にダウンロードファイルをリフレッシュしない場合のサイジングには十分ご注意ください。

注意:

- バージョン 2.3 までは、RedHat Enterprise Linux(RHEL)7.3 環境では、IVEX ダブルブラウザ Linux は KVM 仮想アプライアンスとして動作します。仮想化された RHEL7.3 環境は 2 重の仮想化となるためサポート対象外としております。RHEL7.4 以降は通常通りにインストールされます。詳しくは [IVEX ダブルブラウザ Linux 対応 OS 一覧 \(ページ 643\)](#) をご参照ください。



RHEL7.3 をご利用の場合は、必ず物理サーバに RHEL をインストールしてください。

警告:



RHEL7.4 以降をご利用の場合は、仮想サーバでもご利用になれます。

参考:

- Linux 版において、ベース OS (CentOS) にウイルス対策ソフトを導入する場合には、事前に動作検証をお願いします。以下の障害報告があります。

```
- Symantec Endpoint Protection のリアルタイムスキャンを実行すると IVEX ダブルブラウザ Linux が動作しない。  
- Trend Micro ServerProtect for Linux は Kernel 4.4 ではリアルタイムスキャンをサポートしていない。
```

- 以下の IVEX ダブルブラウザ Linux 領域は同梱されている ClamAV にてスキャンされているため、スキャン対象から除外してください。

```
- /var/opt/IVEX/WBrowser/cow/  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/tmp  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.img*  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/var-tmp.img*  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/base/  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/home/  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/root/  
- /var/opt/IVEX/WBrowser/var-tmp/*.img  
- /opt/IVEX/WBrowser/IVEX-WBrowser-Linux.sys
```

- Linux 版では認証 Proxy を利用する際、NTLM 認証による SSO には対応していません。

3.1.3 Windows 版

- Windows 版ではプロファイルのリフレッシュや、ユーザ毎の分離を行う仕組みはありません。



必要に応じて固定ユーザプロファイルや初期化の仕組みを導入してください。

Tips:

3.2 構築時の注意点

3.2.1 Linux 版

- CentOS7.3 のカーネルは 4.4 がサポート対象です。



警告:

CentOS7.3 のデフォルトのカーネルバージョンは 3.10.0 **-514** です。

導入手順に従い、バージョンアップを実施してください。

バージョンアップをしない場合は KVM 構成でのインストールを行うことが可能ですが、サポート対象ではありません。



Tips:

CentOS7.4 のデフォルトのカーネルバージョンは 3.10.0 **-693** です。

このカーネルはそのままの状態です。

以降、CentOS のデフォルトカーネル、および 4.4 がサポート対象となります。

- CentOS は最小構成 (minimal) での導入を推奨しています。



注意:

必須要件ではありませんが、最小構成以外の場合、IVEX ダブルブラウザ Linux の必須ポートとバッティングするなどのトラブルが想定されます。特別な事情がない限り最小構成での導入をお願いいたします。

- CentOS のファイルシステムは標準の xfs で構成してください。



注意:

ext4 を利用した場合、ユーザのプロファイルを保存する領域が 10GB 固定のイメージファイルとして導入されてしまいます。

- バージョン 2.4 以降では、CentOS のファイルシステムは標準の xfs バージョン 5 で構成してください。CentOS7.4 以下で作成された xfs はバージョンが古いため、そのまま導入いただけません。CentOS7.4 以下でインストールしたマシンを 7.5 にアップデートしてもファイルシステムはバージョンアップされません。
- CentOS のホスト名は FQDN では稼働しません。必ずコンピュータ名だけとなるようにしてください。
- IVEX ダブルブラウザ Linux は CentOS のルートパーティションを利用します。CentOS 導入時にパーティション分割が行われる場合、ルートを大きく設定してください。



Tips:

CentOS を導入するマシンの HDD 容量が 50GB より大きい場合にパーティション分割が行われます。導入時にご注意ください。

万が一ルートパーティションのサイズが小さくなってしまった場合、日本ナレッジ社のサポートへお問い合わせください。

- 複数 NIC 環境での注意点

- クライアントから接続されるサービス LAN は最初に指定されている NIC となります。(明示的に NIC は指定できません) インストール時に指定する IP アドレスはプロファイル同期に利用するアドレスです。
- KVM 構成の場合は標準の手順でインストールできません。別途、サポートより手順案内しております。

- IVEX ダブルブラウザ Linux のインストール前に、xfs_progs のバージョンを 4.5.0 以上に更新してください。バージョンが古いと cow.img や var-tmp.img を構成することができません。また、ファイルシステム障害時のリペア処理ができません。

更新コマンド

```
$ sudo yum install xfsprogs
```

PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/
$ sudo -E yum install xfsprogs
```

- IVEX ダブルブラウザ Linux は以下の最新パッチを適用してください。
 - [APPENDIX] - *IVEX* ダブルブラウザ Linux Updater(アップデータ/パッチ) の適用について (ページ 644)



WBrowser-User-Lowercase の適用可否は連携キットのバージョンに依存します。
7.6.1.8 以降をご利用の場合のみ必ず適用してください。

Tips:

- ログオプション (Advanced エディション) を導入する場合、定期的なログのアーカイブとシステム (cow) 領域の拡張を検討してください。標準は 10GB です。



システム (cow) 領域が枯渇すると、システム障害が発生します。

警告:

- /usr/local/bin/WBrowser jointo コマンド実行時に入力をするユーザは対象サーバに対して SSH 可能で sudo 権限を持つユーザが必要です。

■ バージョンアップ時 (1.6.0→2.0.1)

- home は同期処理の対象ですが、バックアップ時点の整合性を保つために全台でリストアを実施してください。
- バージョン 1.6.0 で WBrowser-system.conf のチューニング（ブラウザ起動時の CPU 負荷軽減対策）を実施した場合、バージョン 2.0.1 では不要です。必ず元に戻してください。

■ バージョンアップ時 (1.6.0/2.0.x→2.1.0)

- アプリケーションの公開方法が「デスクトップ」から「アプリケーション」へと変更になっています。URL 自動判別オプションをご利用の場合は重要な変更です。アプリケーションの公開定義を再作成してください。（公開手順は [アプリケーション公開](#) (ページ 144) を参照してください。)

3.3 運用に関する注意点

3.3.1 Linux 版

- 印刷機能の要件は以下の通りです。
 - Ericom Connect および ダブルブラウザ連携キットは 7.6.1 以上をご利用ください。
 - Ericom Connect の設定において、高度な PDF コマンドに「-shell」を設定して下さい。
 - クライアント PC に Adobe Acrobat DC をインストールしてください。
- リフレッシュ設定 (WBrowser.conf) を変更し、リフレッシュ OFF に設定して利用した場合、再度リフレッシュ ON にすると、その時点の状態が初期状態となります。



Tips:

template の状態が初期とはなりません。template の状態を初期としたい場合には、リフレッシュ OFF で利用したユーザのプロファイルを削除する必要があります。

再起動関係

- WBrowser サービスのみを再起動 (停止、起動) した際、ファイル共有オプションサービスは自動で起動しません。以下のコマンドで手動で再起動してください。
サービスのみを停止せずに、サーバを再起動した時は自動で起動します。

```
$ sudo systemctl restart WBrowser-WebDAV.service
```

- WBrowser サービスが停止状態でサーバを再起動すると、サーバ起動時に WBrowser サービスは自動起動しません。手動で起動して下さい。
- バージョン 1.6.0 (GlusterFS 構成) では、3 台以上のサーバ構成において過半数以上のサーバを停止するとシステムが利用できなくなります。なお、バージョン 2.0 以降ではこの制限はありません。

監視関係

- df コマンドなどで以下の領域の空きを監視してください。空き領域がなくなるとシステムは正常に動作しません。
 - /var/opt/IVEX/WBrowser/cow
 - /var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/tmp



/var/opt/IVEX/WBrowser/base は常に 100% が正常です。

参考:

バックアップ/リストア

● システム対象ファイル

- /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.img (v2.4 以降は img ファイルではなく、
/var/opt/IVEX/WBrowser/cow ディレクトリ)

アプリケーションの追加やアップデート等、システムに関する情報が保存されています。

v2.4 以降は、IVEX ダブルブラウザ Linux のサービス停止後に、このディレクトリをバックアップ/リストアしてください。

v2.3 までは、サービス停止前に、[\[IVEX ダブルブラウザ Linux 管理者ガイド\] - \[オペレーションガイド\]](#) (ページ 557) に従って、バックアップしてください。

● ユーザ領域対象ファイル

- /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/

ユーザのプロファイルやダウンロードファイルが保存されています。IVEX ダブルブラウザ Linux の【サービス起動時】の利用者アクセスが無い時に、このディレクトリをバックアップ/リストアしてください。

● ユーザ分離用領域対象ファイル

- /var/opt/IVEX/WBrowser/var-tmp.img (v2.4 以降は img ファイルではなく、
/var/opt/IVEX/WBrowser/var-tmp ディレクトリ)

ユーザ分離アクセス時の情報が保存されています。IVEX ダブルブラウザ Linux のサービス停止後に、このファイルをバックアップ/リストアしてください。但し、この領域は一時ファイルが格納されるだけの領域ですのでバックアップは必須ではありません。

- システムのオンラインバックアップ/リストアには対応していません。(スナップショットも同様) システムバックアップを取得する際は必ず WBrowser のサービスを停止してから取得してください。
- 複数台サーバ構成の場合、バージョン 1.6.0(GlusterFS 構成) 環境では、必ず、全サーバ同時にバックアップ/リストアを実施してください。



警告:

1 サーバだけでシステムのバックアップ/リストアを実施するとユーザプロファイルが破損します。

なお、バージョン 2.0 以降では 1 サーバだけのバックアップ/リストアにも対応しています。

第 4 章

システム要件

4.1 Windows 版

4.1.1 サーバ要件

Ericom Connect サーバ*2	<p>A) SQL Server が同一サーバにインストールされる場合の推奨 OS*1</p> <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2016*4Windows Server 2012 R2Windows Server 2008 R2*5 <p>CPU 8 Core 以上 メモリ 16 GB 以上 HDD 80 GB 以上</p> <p>B) SQL Server が別サーバにインストールされる場合 もしくは SQL Server 同居でも最小限の要件</p> <p>OS*1</p> <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2016*4Windows Server 2012 R2Windows Server 2008 R2*5 <p>CPU 4 Core 以上 メモリ 8 GB 以上 HDD 80 GB 以上</p>
----------------------	---

SQL Server*3	<ul style="list-style-type: none"> ● SQL Server 2012, 2014, 2016 ● SQL Express 2012, 2014, 2016
Ericom Connect Secure Gateway	OS*1 Windows Server 2016*4 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2008 R2*5 CPU 4 Core 以上 メモリ 8 GB 以上 HDD 80 GB 以上
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● Microsoft Active Directory ● DNS(ドメインネームサービス)



警告:

リモートデスクトップサーバのリソース要件は稼働アプリケーションにより大きく異なります。サイジングにおいては必ず実際の利用の要件を鑑みた条件での PoC を実施するようにお願いいたします。

接続対象マシン*8 (RDS サーバ)	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows Server 2008 (x86)*6*9 ● Windows Server 2008 R2*9 ● Windows Server 2012 R2 ● Windows Server 2016*7*4
------------------------	--

*2 Ericom Connect Server の導入には .NetFramework 4.5.2 以上の事前導入が必要。

*1 Windows Server 2016 は、Ericom Connect 7.6.1 までは未サポート。

*4 Windows Server 2016 と Windows 10 の長期サービスチャネルと半期チャネルのサポート対応については、パートナー Web もしくは AWSC の資料検索より対象資料をダウンロードいただき、ご一読ください

*5 Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて

Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

*3 SQL Server 2016 は Ericom Connect 7.6 からサポート。

*8 RemortAgent の導入には .NetFramework 4.6.2 以上の事前導入が必要。

*6 Windows Server 2008 は x86 のみサポート。

*9 Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて

Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

4.1.2 クライアント要件

Windows でタッチインターフェースを有するデバイス

タッチインターフェースの機能を有するデバイスにおいてソフトウェアキーボードでの入力はサポートされません。



警告:

ただし、デバイスに元々付属の物理的なキーボード、または、USB 等で接続した物理キーボードを利用する場合において、タッチ機能を OS 上で無効化して利用いただくことで物理キーボードでの入力はサポート可能です。

タッチ機能を無効化せずとも問題なく利用できる端末もございますが、製品動作サポートの観点ではタッチ機能の無効化状態での利用を動作サポート可とさせていただきます。

ダブルブラウザ連携キット

Microsoft Windows	OS <ul style="list-style-type: none"> ● Windows 7^{*11}、8.1、10^{*10} ● Windows Server 2008R2^{*12}、2012R2、2016^{*10} ● .NET Framework 4.5.2 以上
Apple macOS	未サポート
Linux	未サポート

URL 自動判別オプション (KOTOMINE)

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008** は製品の導入前提に必要な **.Net Framework** のバージョンが未対応のため、**2020 年 1 月 14 日**以降はサポート対象外 となります。

*7 Windows Server 2016 は Ericom Connect 7.6 よりサポート。

*11 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

*10 Windows Server 2016 と Windows 10 の長期サービスチャネルと半期チャネルのサポート対応については、パートナー Web もしくは AWS の資料検索より対象資料をダウンロードいただき、ご一読ください

*12 Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて

Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

Microsoft Windows	OS ● Windows 7 ^{*13} 、8.1、10 ブラウザ ● Internet Explorer 11 ● Microsoft Edge ● Google Chrome ● Firefox
Apple macOS	未サポート
Linux	未サポート

*13 KOTOMINE は Windows 7 ESU には、原則未対応となります。

4.2Linux 版

4.2.1 サーバ要件

Ericom Connect サーバ*2	<p>A) SQL Server が同一サーバにインストールされる場合の推奨 OS*1</p> <p>Windows Server 2016*4</p> <p>Windows Server 2012 R2</p> <p>Windows Server 2008 R2*5</p> <p>CPU 8 Core 以上</p> <p>メモリ 16 GB 以上</p> <p>HDD 80 GB 以上</p> <p>B) SQL Server が別サーバにインストールされる場合 もしくは SQL Server 同居でも最小限の要件</p> <p>OS*1</p> <p>Windows Server 2016*4</p> <p>Windows Server 2012 R2</p> <p>Windows Server 2008 R2*5</p> <p>CPU 4 Core 以上</p> <p>メモリ 8 GB 以上</p> <p>HDD 80 GB 以上</p>
SQL Server*3	<ul style="list-style-type: none"> ● SQL Server 2012, 2014, 2016 ● SQL Express 2012, 2014, 2016
Ericom Connect Secure Gateway	<p>OS*1</p> <p>Windows Server 2016*4</p> <p>Windows Server 2012 R2</p> <p>Windows Server 2008 R2*5</p> <p>CPU 4 Core 以上</p> <p>メモリ 8 GB 以上</p> <p>HDD 80 GB 以上</p>

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Microsoft Active Directory ● DNS(ドメインネームサービス)
------------	--



警告:

IVEX ダブルブラウザ Linux サーバのリソース要件は、1セッションが静的コンテンツを1ページ表示する場合、100セッションの収容に必要と思われる参考値です。動画の再生などを行ったり、複数のタブを同時に開くと消費リソースは増大します。サイジングにおいては必ず実際の利用の要件を鑑みた条件でのPoCを実施するようにお願いいたします。

<p>IVEX ダブルブラウザ Linux サーバ</p>	<p>OS*6</p> <ul style="list-style-type: none"> CentOS 7.2 (64bit) CentOS 7.3 (64bit) CentOS 7.4 (64bit) RedHat Enterprise Linux 7.3*7 RedHat Enterprise Linux 7.4 <p>CPU 20 Core 以上*8</p> <p>メモリ 64 GB 以上</p> <p>HDD 100 GB 以上</p> <p>パッケージ</p> <ul style="list-style-type: none"> firewalld*9 psmisc xfspgms (4.5.0 以上) nfs-utils*10 libvirt-daemon-kvm,virt-install*11
-------------------------------	--

*2 Ericom Connect Server の導入には .NetFramework 4.5.2 以上の事前導入が必要。

*1 Windows Server 2016 は、Ericom Connect 7.6.1 までは未サポート。

*4 Windows Server 2016 と Windows 10 の長期サービスチャネルと半期チャネルのサポート対応については、パートナー Web もしくは AWSC の資料検索より対象資料をダウンロードいただき、ご一読ください

*5 Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて

Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は1年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を1年更新としているため次年度以降サポートするかは1年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

*3 SQL Server 2016 は Ericom Connect 7.6 からサポート。



上記参考値は、OS にて Spectre/Meltdown に対応した修正を適用した場合の、CPU 性能劣化を考慮した値となっています。

参考:



製品の出荷時テストは 2018 年 2 月 27 日時点で長期メンテナンス版である 4.4 系で実施しています。

CentOS7.2/7.3 でカーネルのバージョンが古い (4.4 より前) の場合には、KVM(仮想環境) に導入されます。

参考:

Kernel-lt によるカーネルアップデートを推奨いたします。

4.2.2 クライアント要件

Windows でタッチインターフェースを有するデバイス

タッチインターフェースの機能を有するデバイスにおいてソフトウェアキーボードでの入力はサポートされません。



警告:

ただし、デバイスに元々付属の物理的なキーボード、または、USB 等で接続した物理キーボードを利用する場合において、タッチ機能を OS 上で無効化して利用いただくことで物理キーボードでの入力はサポート可能です。

タッチ機能を無効化せずとも問題なく利用できる端末もございますが、製品動作サポートの観点ではタッチ機能の無効化状態での利用を動作サポート可とさせていただきます。

ダブルブラウザ連携キット

Microsoft Windows	<p>OS</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 7^{*13}、8.1、10^{*12} Windows Server 2008R2^{*14}、2012R2、2016^{*12} .NET Framework 4.5.2 以上
Apple macOS	未サポート

*6 CentOS7.2/7.3 では Linux カーネル 4.4 が必須です。RHEL7.3 はカーネルが 3.10 のため、KVM 構成での導入となります。

*7 RHEL7.3 は物理サーバへの導入のみサポート対象です。[ref] (ページ 10)

*8 必要リソースは表示コンテンツなどにより大幅に変動します。[ref] (ページ 10)

*9 インストール時に必須です。利用を推奨しますが、インストール後に停止しても動作は可能です。

*10 NFS 利用時、及び、ログオプション (Enterprise 版) 利用時に必要です。

*11 KVM 構成の場合のみ必要です。

Linux	未サポート
-------	-------

■ URL 自動判別オプション (KOTOMINE)

Microsoft Windows	<p>OS</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 7^{*15}、8.1、10 <p>ブラウザ</p> <ul style="list-style-type: none"> Internet Explorer 11 Microsoft Edge Google Chrome Firefox
Apple macOS	未サポート
Linux	未サポート

^{*13} 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

- お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
- サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

^{*12} Windows Server 2016 と Windows 10 の長期サービスチャネルと半期チャネルのサポート対応については、パートナー Web もしくは AWSC の資料検索より対象資料をダウンロードいただき、ご一読ください

^{*14} Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて

Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

^{*15} KOTOMINE は Windows 7 ESU には、原則未対応となります。

第 5 章

各製品のリリースノート

5.1 Ericom Connect リリースノート



注意:

ダブルブラウザソリューションでは AccessPortal(AccessNow) での利用はサポートしていません。ダブルブラウザ連携キットをご利用ください。

また、Linux 版では EricomRDP はサポートされておられません。ご了承ください。

5.1.1 パッケージング

- ダブルブラウザ用 Ericom Connect に含まれているコンポーネントのバージョン

(パッケージ番号 : ecn_8200001)

コンポーネント	バージョン
EricomConnect.exe	8.2.0.25596
EricomConnectRemoteHost_x64.exe	8.2.0.25596
.NET Framework 4.5.2	4.5.2
Win8.1_2012R2 用 PS プリンタドライバ	6.3.0.21178
SQLServer2014Express	2014

- ダブルブラウザ用 Ericom Secure Gateway に含まれているコンポーネントのバージョン

(パッケージ番号 : esg_8200001)

コンポーネント	バージョン
Ericom Secure Gateway	8.2.0.23298

5.1.2 新機能および修正点

AccessToGo/Ericom Connect Mobile Client 9.2.1.47967 (iOS 版)

【リリース日：2020/2/20】

新機能

- AccessToGo/Ericom Connect Mobile Client 9.2.1 では iOS 13.x および iPadOS13.x をサポート
- Apple 社の Smart Keyboard をサポート

修正点

- SSL 証明書エラーの場合、続行するかどうかをユーザーに決定させるように変更
- セッションアイドルタイムアウトで切断します
- 接続設定の編集時にパスワードフィールドを非表示にする
- マルチタップ利用時の問題を修正

Ericom Connect 8.2.0.25596

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

Ericom Connect 8.2.0.25596

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート
 1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること

2. サポート期間は1年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を1年更新としているため次年度以降サポートするかは1年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

Ericom Connect 8.2.0.25596

【リリース日：2018/2/23】

新機能

[Ericom Secure Gateway]

- Azure Application Gateway をサポート

[ConnectCLI]

- 「SetConnectionRule」にパラメータ「EsgAddress」および「EsgId」を追加
- 「ConnectCli deleteOldLogMessagesDb」および「DeleteOldLogMessages」にパラメータ「batchSize」を追加 (CA0000039460)
- 「twoFactorConfig」を削除し「radiusConfig」を使用
- 「systems setCurrentAddress」を追加 (24694)
- サブコマンドをオプションの前後どちらに記述してもコマンドが実行可能になりました (24700)

[Team Client]

- ユーザ・インターフェースに CTRL+ALT+DEL ボタンを追加

[管理ツール]

- 新しいテナント固有の設定「ダッシュボードの行の制限」が変更 (22687)
- LUS インジケータを修正 (24460)
- リモート・ホスト・バージョン・インジケータを修正 (24460)
- ログ・メッセージ・キュー・インジケータを修正 (24460)
- 新しいロギング・レベル・インジケータを実装
- 新しい REDO ログのサイズのインジケータを実装 (CA0000033717)
- EricomRDP を初期設定のプロトコルに変更
- 廃止された設定: 汎用プリンタ名 (24736)

[レポート]

- x-forwarded-for データを「ユーザ | エンドユーザセッション」に追加

- x-forwarded-for データを「システムヘルス | 失敗したログイン」に追加
- 「同時ユーザ数 (月ごと)」を追加 (24568)
- 「ネームドユーザ数 (月ごと)」を追加 (24568)
- 失敗したログインのレポートにアクセス元のホスト IP アドレスを表示

[Configuration Tool]

- Active Directory 向けシンプル・バインドを有効化する新しい設定 (24795)

[EricomRDP]

- Seamless アプリケーションモードとセッション共有
- EricomRDP でサードパーティのプラグイン (Lexmark など UPD) のサポートを追加 (現状アシストでは未サポート)
- 接続バーに 127.0.0.1 の代わりに接続先ホストを表示し、ESG の使用を示す「+」を追加 (24353)
- トラブルシューティングのための新しい EC_DEBUG_MODE パラメータを追加 (24814)
- AccessPad クライアントのオペレーティング・システムが Windows 7 であり ESG を介して接続する場合、EricomRDP 接続は Blaze にフォールバック
- OS から独立して任意のデバイス間で動作する暗号化パスワードを作成するための「-generic-configuration」パラメータを追加 (22492)
- EricomRDP CA 問題を解決:CA0000038394

[Blaze]

- AccessPad (Blaze での利用) においてシリアルポートのリダイレクションをサポート

[その他]

- AccessPortal における SSO 機能を利用する際の PATH が変更可能になりました (23812)
- 印刷の高速化のための Lexmark ユニバーサル・プリンタドライバをサポート (現状アシストでは未サポート)
- きめ細やかなアクティブ・パスワードポリシーのサポートを追加 (CA0000033599)
- ユーザが起動しているプロセスを検出する為に使用されるセッショントラッキング API が更新 (CA0000034870)
- AccessPad Proxy のサポート (自動およびマニュアルモード)
- RemoteAgent のデフォルトのサンプリング・レートを 1 秒から 5 秒に変更 (24335)
- Linux RemoteAgent で 256 文字以上のパラメータをサポート (CA0000034836)
- RADIUS 共有鍵 をデータベースで暗号化し、管理コンソールで非表示に (CA0000039446)
- AccessServer と併せてインストールされる不要なサービスが無効になりました (例 : LBAgent 23615)

- Access Server の管理モードで Connect からの接続のみを許可
- SCVMM での VDI を一般提供 (アシストでは現状未サポート)

修正点

- 内部処理を改善し、アプリケーション起動時のパフォーマンスを向上しました (CA0000035495)
- 管理者がシステム・グループにホストを追加/削除できないバグを解決 (CA0000040569)
- EricomRDP: 画面リサイズ時の問題を解決 (CA0000038394)
- RemoteAgentx86 が、グリッドに参加できないことがある問題を修正 (CA0000029847)
- 再起動後に RemoteAgent がグリッドに再接続しない問題を解決 (CA0000040609)
- Linux 版 RemoteAgent において、管理コンソールに意図しない IP アドレスで登録されてしまう問題を修正しました (CA0000037597)
- Linux 版 RemoteAgent のいくつかの不具合を修正しました (CA0000039727, CA0000039537, CA0000037384)
- EricomRDP でデスクトップを最大化で公開した環境において、 ウィンドウを最大化等の操作をした後で上段の接続バーが表示されなくなる問題を修正
- AccessPad 利用時に AD でのロックアウトが解除されたにも関わらずログイン時にロックアウトされた旨のメッセージが出力されログインに失敗する問題を修正 (CA0000039248)
- Ericom シームレスの時、IME バーが表示されていると自動ログオフしない問題を修正 (CA0000038777)
- 公開アプリケーションを最大化した場合、マウスポインタが意図しない場所を指す問題を修正
- 公開アプリケーションを利用者端末上でディスプレイ枠を超えて左側に移動させた場合、マウスポインタが意図しない場所を指す問題を修正

5.1.3 制限事項および既知の不具合

Connect サーバ

管理コンソール

- 「Connect 管理コンソール アイドルタイムアウト (秒)」に 2073600 以上 2678400 以下の秒数を設定すると、グリッドがアクセスできなくなり、再作成が必要となります。この問題は後続のバージョンで修正されます。
- EricomRDP を使用した場合、セッションシェアリングが利用できません。
- Ericom Analytics は Windows Server 2016 には対応していません。 → Ericom Connect Server の対応環境の中で Windows Server 2012 R2 までの OS でご利用ください。

- ScrewDrivers を利用している場合、Blaze 接続 (Microsoft シームレス、Ericom シームレス) を行うと ScrewDrivers によるプリンタリダイレクトに失敗することがあります。回避策として、EricomRDP をご利用ください。

AccessPad(Blaze)



注意:

Linux 版ダブルブラウザソリューションでは EricomRDP はサポートされていません。
Blaze による通信となります。

入力関係

- [英数] キーが効きません。
- Ubuntu において [ひらかな/ローマ字/カタカナ] キーと [英数] キーが有効になりません。
- Windows 10 で [Ctrl]+[Alt]+[End] のコンビネーションキーが効きません。 → 代替策として EricomRDP 利用時に上記コンビネーションキーは対応可能です。
- EricomRDP 利用時に、文字入力変換確定後に再変換候補を出力させるために、[変換] キーを押しても、再変換候補が出力されません。

リダイレクト・印刷関係

- プリンタリダイレクトを利用する場合、クライアントは 7.6.1 以降のバージョンを使用してください。
- プリンタリダイレクトを [汎用] で利用する場合、クライアント PC に Acrobat Reader DC を導入してください。また、事前に Adobe Reader DC を 1 度起動し、ライセンス規約に「同意する」ボタンを押下しておく必要があります。
- プリンタリダイレクトを [汎用] で利用する場合、Ericom Connect のプリンタ構成にて「高度な PDF 印刷コマンド」に「-shell」の設定を行ってください。
- EricomRDP を利用した場合、タイムゾーンのリダイレクトは常に有効です。無効にすることはできません。
- AccessPad8.2 から Connect サーバ 9.0 への EricomRDP 接続時、Ericom のフォルダリダイレクト機能が効きません。最新の AccessPad へバージョンアップをお願いします。
- 以下 3 つ全ての条件で利用しているケースでは、公開アプリケーションが起動できない場合があります。
 - － 接続元端末側でマルチモニタを使用している
 - － Microsoft シームレスモードを使用している
 - － 接続先 RDS サーバが Windows Server 2019 である

回避策として、Connect 管理画面の [公開]>[グループ]>(任意のグループ)>[詳細] にある「シームレス・フルスクリーンモード」設定を「はい」にしてください。

- Windows 10 SAC 1903 利用時に HP ユニバーサルプリンタドライバ (UPD) を利用した場合、初回の印刷に時間がかかる場合があります。これは HP UPD の制限となります。パッケージに同梱されている Lexmark ユニバーサルプリンタドライバ (UPD) を利用することで、この問題を回避可能なためご利用を検討ください。

アプリケーションウィンドウ関係

- フルスクリーンモードの間、セッションが終了すると、最小化機能と最大化機能が機能しなくなることがあります。
→ アプリケーションを再起動して、ウィンドウサイズを調整します。
- Blaze セッションが最小化されると、復元できないことがあります。 → アプリケーションを終了し、再起動してセッションに再接続します。
- シームレスなアプリケーションウィンドウをドラッグするとスムーズに機能しないことがあります。ウィンドウのドラッグ操作が完了するまで黒色の空白領域が表示されます。
- Ericom Connect 8.0 でサポートを開始した EricomRDP は Ericom Blaze の単体利用ではサポートされていません。
- Ericom SecureGateway 経由の場合、EricomRDP セッションの自動再接続はできません。(Ericom Blaze の単体利用では関係ありません。)
- Windows Server 2008 R2 上で AccessPad(Blaze クライアント) を利用した場合、Alt + Tab でウィンドウを切り替えたあと、公開アプリケーションへの最初の文字が欠落する問題があります。
- Blaze Client for Linux ではフルスクリーンで起動したセッションをリサイズした場合、再びフルスクリーンに戻すことができません。一度セッションを切断し、再接続してください。
- Ericom シームレスモードを使用している場合、IME バーは公開アプリケーションの枠内のみ描画される動作となりました。
- AccessPad から公開アプリケーションを起動する時、2つ目に起動したアプリケーションがアクティブにならない(背面に隠れる)事象が一部修正されましたが、Blaze 接続 Microsoft シームレスを利用する場合は発生することがあります。
- Ericom シームレスモードで公開アプリへ Blaze 接続した時、公開アプリの周囲に黒枠が付く場合があります。これは仕様です。
→ Microsoft シームレスモードまたは EricomRDP 接続をご利用ください。
- AccessPad8.0/8.1 から Connect サーバ 9.1 への EricomRDP 接続ができません。最新の AccessPad へバージョンアップをお願いします。
- Windows 10 IoT 上で AccessPad を利用する場合は、EricomRDP 接続をご利用ください。Blaze 接続は未サポートです。

- Windows 10 IoT 上で AccessPad を利用する場合は、WindowsOS の「タスクバーを隠す」をオフにご利用ください。
- Blaze 接続でリモートの全画面プリントスクリーンを取得する場合は、「Ctrl+PrtSC」とする必要があります。

5.2 IVEX ダブルブラウザ Linux リリースノート

5.2.1 パッケージング

■ IVEX ダブルブラウザ Linux 本体に含まれているコンポーネントのバージョン

(パッケージ番号 : ivex_2210001)

コンポーネント	バージョン
IVEX ダブルブラウザ Linux	2.2.1
バージョンアップツール	N/A

■ IVEX ダブルブラウザ Linux ログオプションに含まれているコンポーネントのバージョン

(パッケージ番号 : wb_log_0000003)

コンポーネント	モジュール名
IVEX ダブルブラウザ Linux 2.0 以降用ログオプション (FirefoxESR68 専用)	IVEX-WBrowser-Log-Option-1.2.0.insta
IVEX ダブルブラウザ Linux 2.0 以降用ログオプション (FirefoxESR68 未対応)	IVEX-WBrowser-Log-Option-1.1.0.insta
IVEX ダブルブラウザ Linux 1.6 用ログオプション	IVEX-WBrowser-Log-Option-1.0.6.insta

■ IVEX ダブルブラウザ Linux Updater に含まれているコンポーネントのバージョン

(パッケージ番号 : ivex_updater_0000016)

コンポーネント	バージョン	適用対象
Wbrowser-updater-16001	16001	1.6.0
Wbrowser-updater-16002	16002	1.6.0
Wbrowser-updater-16003_etc	16003	1.6.0

コンポーネント	バージョン	適用対象
Wbrowser-updater-20101	20101	2.0.1
Wbrowser-updater-20102	20102	2.0.1
Wbrowser-updater-16004	16004	1.6.0
Wbrowser-updater-20103	20103	2.0.1
WBrowser-User-Lowcase	N/A	2.0.1
defunct-x11rdp-clear	N/A(TimeStamp:7/9)	1.6.x,2.x
Wbrowser-updater-16005	16005	1.6.0
nouse-iwatch-cleanup-2017-08-10-01	2017-08-10-01	1.6.0
Wbrowser-updater-20104	20104	2.0.1
Wbrowser-updater-16006	16006	1.6.0
Wbrowser-updater-20105	20105	2.0.1
Wbrowser-updater-20201	20201	2.0.2
Wbrowser-updater-21001	21001	2.1.0
Wbrowser-updater-21002	21002	2.1.0
Wbrowser-updater-20202	20202	2.0.2
Wbrowser-updater-20106	20106	2.0.1
Wbrowser-updater-24001	24001	2.4.0
Wbrowser-updater-24002	24002	2.4.0
Wbrowser-updater-25001	25001	2.5.0
Wbrowser-updater-25002	25002	2.5.0
Wbrowser-updater-25003	25003	2.5.0
Wbrowser-updater-25004	25004	2.5.0
Wbrowser-updater-25101	25101	2.5.1
Wbrowser-updater-25102	25102	2.5.1
Wbrowser-updater-25103	25103	2.5.1

5.2.2 新機能および修正点

defunct-x11rdp-clear(暫定運用ツール) 修正リリース

【リリース日：2018/8/6】

- X11rdp の残存プロセスを終了できない場合、追加で別の終了処理を実行するようになりました。

IVEX ダブルブラウザ Linux 2.2.1

【リリース日：2018/4/16】

- [WB-236] 公開設定時に「アプリケーション」を指定した場合、Firefox が正常に起動しない問題を修正しました。

defunct-x11rdp-clear 修正リリース

【リリース日：2018/4/2】

- [WB-232] 必要なプロセスを残留プロセスと誤検知し、クリアしてしまう場合があった問題を修正しました。

IVEX ダブルブラウザ Linux 2.2.0

【リリース日：2018/3/8】

- [WB-216] Ericom Connect8.2 に対応しました。これに伴い、内包する RemoteAgent と AccessServer も 8.2 となりました。
- [WB-39] URL 自動判別オプションを Linux ご利用の場合、リダイレクト可能な URL 文字列の長さ制限がなくなりました。
- [WB-205] バージョン 1.6 からアップグレードした後に AD に再参加するとログインできない問題を改善しました。
- [WB-210] rsyncd.log のローテート設定を追加しました。また、その他ログのローテート設定も見直しました。
- [WB-229] ブラウザ内での CapsLock キーを明示的に利用不可としました。

- 主要モジュールバージョン情報

- Firefox 52.6.0 (esr)
- LibreOffice: 4.2.8
- PCManFM: 1.2.0
- File Roller: 3.10.2

- 出荷時動作確認バージョン情報

- Flash: 26.0
- Java(IcedTea): 1.5.3
- chrome: 61.0

5.2.3 制限事項および既知の不具合

【インストール/構成/サーバ関連】

- [WB-144] 複数の NIC を持つ Linux マシンへのインストールは行えますが KVM を利用する構成の場合には対応できておりません。(別途サポートにて手順を都度ご案内しております。)
- ブラウザと共に稼働するアプリケーションとして、同梱されているもの以外をご利用になる場合は、お客様にて稼働確認
※ Firefox へのプラグイン追加も同様です。
- クライアントと Linux サーバの間に NAT 構成のが存在する場合、Ericom Secure Gateway を利用する必要があります。
- ベースとなる CentOS のホスト名は FQDN では稼働しません。必ずコンピュータ名だけとなるようにしてください。
- 各 Updater には適用可否、および適用順序があります。[APPENDIX] - [*IVEX* ダブルブラウザ *Linux Updater*(アップデータ/パッチ) の適用について (ページ 644)] をご参照ください。
- [WB-221] xrdp-sesman が原因不明で無応答となる場合があります。事象発生時にはサービスの再起動で復旧させる必要があります。詳細は調査中ですが、運用回避のスク립トを個別にご提供可能です。サポートセンターへお問い合わせください。
- Active Directory 連携において、Active Directory ドメイン名と NetBIOS ドメイン名が異なる (ユーザ名による例 : `username@test-domain.local` と `test\username` のようなログインが可能な場合。 ※ `test-domain` と `test` がそれぞれ登録されている) 場合、ユーザが正しくログインすることができません。どうしてもこのような環境での利用が必要な場合、日本ナレッジ社サポートへお問い合わせください。
- Linux のカーネルとして 4.8 系を利用した場合、セッションが正常に起動しません。(正式サポートのカーネルは 4.4 となります。)
- KVM 構成でインストールを行う場合、仮想環境はサポートしていません。必ず物理サーバ上にインストールを行ってください。
- [WB-168] URL 自動判別オプションをご利用の場合で、Ericom Connect を 7.6 から 8.x へバージョンアップした場合、公開アプリケーションの設定を「デスクトップ」から「アプリケーション」へ変更するために、再定義が必要です。
- [WB-175] `var-tmp.img` を利用する領域にアクセスができなくなり、結果としてサービスが応答しなくなる場合があります。(バージョン 2.4 以降では問題となっていたイメージファイルの利用を廃止しています。)

【文字入力・キーボード操作】

- カタカナ/ひらがな/ローマ字キーはサポートしていません。
- 仮想ブラウザ環境側で Print Screen キーによるキャプチャは行えません。
- 日本語入力中に未確定のまま、別の部分をクリックすると、引き続き入力する文字列が表示されなくなります。変換候補には反映されていますが、確定時も表示されずに消えてしまいます。これは製品で利用している日本語入力の仕様です。

- [WB-229] 仮想ブラウザ内で CapsLock キーは切り替えがうまく行えません。 → バージョン 2.5 より利用可能です。ただし、2.5 では既知の不具合が存在します。
- IME バーは表示されません。 → バージョン 2.3 より表示されるようになりました。
- かな入力はサポートしていません。 → バージョン 2.3 よりサポートしています。
- 独自の IME を導入して使うことはできません。導入されている IME をそのままご利用ください。
- [WB-226] Updater21001 以降、変換候補の表示が行えなくなりました。暫定対応として表示させる手順はご案内しておりますが、表示位置が画面左下となってしまいます。根本対応の目処は未定です。暫定対応の手順は「Appendix」 - 「変換候補表示暫定対応手順」 (ページ 667) をご参照ください。

【ブラウザ画面操作】

- ノーマル画面最大化設定時 (normal,0,0) の不具合について、1366x768 解像度で Blaze ウィンドウがそのサイズより大きくなる場合があります。
→ フルスクリーン設定または画面サイズ固定運用で回避が必要となります。
- Blaze 画面サイズ変更時に Firefox 画面サイズが自動調整されません。(シームレスアプリケーションとしては動作しません。

【印刷・リダイレクト関連】

- プリンタリダイレクトを行う場合、連携キット 7.6.1.x 以上が必要です。
- プリンタリダイレクトを行う場合、クライアント PC に Acrobat Reader DC を導入し、デフォルトのビューアとして設定してください。また、事前に Adobe Reader DC を 1 度起動し、ライセンス規約に「同意する」ボタンを押下しておく必要があります。



注意:

他の PDF ビューアでは正しく動作しない場合があります。

プリンタリダイレクトの設定手順は [\[簡易導入手順\]](#) - [\[ダブルブラウザの公開設定\]](#) - [\[アプリケーション公開\]](#) (ページ 146) を参照してください。

- リモートセッションでクリップボードに格納される画像データは BMP 形式となります。ローカル PC での利用時には形式を選択して貼り付けなどを行って下さい。

【Firefox 関連】

- Flash が動き続けるページを閲覧し続けると、Flash プラグインのメモリ使用量が増加し続けます。最終的にはシステムダウンに陥るため、利用時間の制限を行うなど、ご注意ください。バージョン 2.4 以降はセッション毎のメモリ制限を行っているため、システムダウンには至りません。
- ダブルブラウザ Linux Ver.2.0 以降『Firefox (ESR)』をパッケージしており、サポートを ESR 限定としております。Release チャンネルの Firefox はサポート致しません。
- Firefox のプロファイルが破損した場合、仮想ブラウザが起動しなくなります。 → 該当ユーザのプロファイルを削除して初期化してください。テンプレートから新しいプロファイルが複製されて起動します。
- Google Chrome ブラウザをご利用の場合に、閲覧する Web サイト内の特殊記号「 」がチルタ ~ に置換されて表示されることがあります。
→ Chrome のフォントを「Liberation」に変更することで回避可能です。今後のバージョンでデ

フォルト設定を変更する予定です。

- Web ページのエンコードが UTF-8 でファイル名が shift-jis の場合ダウンロード時にファイル名が文字化けします。これは Lixun 版 Firefox の既知の問題です。
- 各ユーザにて、認証に必要な証明書のインポートを行う場合には「refresh-password」と「refresh-certificates」をともに off にする必要があります。
- Firefox において範囲選択後にドラッグ操作を行うとハングアップする場合があります。 → ハングアップした場合には、数秒後に自動的に終了処理が開始されます。この問題はバージョン 2.5 で解消しています。
- [WB-59] Firefox のウィンドウサイズを小さくすると、ファイルマネージャを開くためのアイコンが消失します。 → 一度 Firefox を終了し再接続すると元に戻ります。この問題はバージョン 2.4 で解消しています。
- 出荷時にインストールされている Firefox ESR のバージョンにおいて、中間証明書の期限切れにより、プラグインを利用できない問題が発生しています。対応としては Firefox のバージョンアップが必要となります。



注意:

バージョン 2.3 以前のダブルブラウザ Linux をご利用の場合は、アップデート前に日本ナレッジ社へ対応可否をお問い合わせください。

バージョン 2.4 以降のダブルブラウザ Linux については、マイナーアップデートとなるため、アップデートは可能ですが、事前にメーカーでの動作確認をご希望の場合は同じく日本ナレッジ社へお問い合わせください。

5.3 ダブルブラウザ連携キット リリースノート

5.3.1 パッケージング

- ダブルブラウザ連携キットに含まれているコンポーネントのバージョン
(パッケージ番号 : wbl_9203001)

コンポーネント	モジュール名	バージョン
ダブルブラウザ連携キット	WBrowserLauncher	9.2.0.3
ダブルブラウザ連携キット ConfigurationTool	WBConfigTool	9.2.0.3

- ファイル共有 (WebDav) オプションに含まれているコンポーネントのバージョン
(パッケージ番号 : wb_webdav_0000005)

コンポーネント	モジュール名
v2.4 用ダブルブラウザ連携キット WebDav オプション	WBWebdav
v2.4 用ダブルブラウザ連携キット WebDav オプション ESG 連携モジュール	WBWProxy
v2 用ファイル共有オプション	IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.2
v1.6-v2.3 用ダブルブラウザ連携キット WebDav オプション	WBWebdav
v1.6-v2.3 用ダブルブラウザ連携キット WebDav オプション ESG 連携モジュール	WBWProxy
v2.0-v2.3 用ファイル共有オプション	IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.1
v1.6 用ファイル共有オプション	IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.0

5.3.2 新機能および修正点

WBrowserLauncher 9.2.0.3

【リリース日 : 2020/3/18】

- [DEV-80] AccessPad 9.2.0 以降、初回起動時に Connect サーバとの HTTPS 通信において証明書エラーを無視するかどうかのダイアログが表示されるようになったことに起因し、認証を利用する場合などで正しく動作しない場合があります。この問題に対し、ダイアログを抑止することで問題を回避す

るようになりました。

■ WBrowserLauncher 9.2.0.2

【リリース日：2020/2/21】

- [DEV-77] URL 自動判別オプションを利用して AccessPad が起動される場合、認証に失敗すると AccessPad が複数起動してしまう問題を修正しました。
- [DEV-77] 上記と関係し、AccessPad のタイトルバー変更機能が正常に動作しない場合がある問題を修正しました。これに伴い、認証の有無にかかわらず AccessPad が複数起動してしまう問題が解消します。

■ WBrowserLauncher 9.2.0.1

【リリース日：2020/2/7】

- ダブルブラウザ連携キット 9.2.0.1 で Windows 10 SAC 1909 をサポート開始しました。

■ WBrowserLauncher 9.1.0.2

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

■ WBrowserLauncher 9.0.0.1

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

■ WBrowserLauncher 8.5.0.3

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

■ WBrowserLauncher 8.5.0.2

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

■ WBrowserLauncher 8.5.0.1

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

■ WBrowserLauncher 8.2.0.4

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

WBrowserLauncher 8.2.0.2

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

WBrowserLauncher 8.2.0.1

【リリース日：2019/12/24】

- Windows Server 2008 R2 ESU へのサポートについて Windows Server 2008 R2 ESU は以下の条件でサポートとなります。

お客様が Microsoft 社と Windows Server 2008 R2 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること。サポート期間は 1 年 ※

※ Microsoft 社自体が Windows Server 2008 R2 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断。但し、**Windows Server 2008 は 2020 年 1 月 14 日以降は未サポート** となります。

WBrowserLauncher 9.1.0.2

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 9.0.0.1

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 8.5.0.3

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 8.5.0.2

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 8.5.0.1

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 8.2.0.4

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 8.2.0.2

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 8.2.0.1

【リリース日：2019/11/29】

- 以下の条件で Windows 7 ESU へのサポート

1. お客様が Microsoft 社と Windows 7 ESU の契約を有しており、提供されている ESU の最新版を適用していること
2. サポート期間は 1 年※

※ Microsoft 社自体が Windows 7 ESU を 1 年更新としているため次年度以降サポートするかは 1 年が経過する前に、お客様のニーズを確認して改めて判断

■ WBrowserLauncher 9.1.0.2

【リリース日：2019/9/6】

- [DEV-76] 同梱の Blaze バージョンを 9.1.0.37580 に変更しました。

WBrowserLauncher 9.0.0.1

【リリース日：2018/12/26】

- [DEV-74] 同梱の Blaze バージョンを 9.0.0.32080 に変更しました。

WBrowserLauncher 8.5.0.3

【リリース日：2018/12/26】

- [DEV-71][DEV-72] URI 自動判別にかかわるレジストリ登録で登録プログラム名の間違いによりブラウザからの警告が表示される場合がある問題を修正しました。
- [DEV-73] ClickOnce を利用の際、Blaze.cab を更新しても、実行ファイルが差し替わらない場合がある問題を修正しました。

WBrowserLauncher 8.5.0.2

【リリース日：2018/10/31】

- [DEV-45] ConfigurationTool を MSI 方式でクライアント PC にインストールした場合、AccessPad 起動時に SSO 用のダイアログが表示される問題を修正しました。
- [DEV-70] 連携キット起動時に AccessPad のタイトルが「Ericom AccessPad - WBrowser」に変更されない場合がある問題を修正しました。これに伴い、URL 自動判別オプション利用時に AccessPad が二重起動する場合がある問題も解消しました。

WBrowserLauncher 8.5.0.1

【リリース日：2018/10/5】

- [DEV-69] 同梱の Blaze バージョンを 8.5.0.30851 に変更しました。

WBrowserLauncher 8.2.0.4

【リリース日：2018/6/18】

- [DEV-66] URL 自動判別オプション (KOTOMINE) のバージョン 1.4.1 に対応しました。
- [DEV-67] Linux 版 Blaze(コネクションブローカー無し) の構成で利用している場合、WBrowser-ConfigTool から「Administrator」や「template」のセッションが開始できない場合がある問題を修正

WBrowserLauncher 8.2.0.2

【リリース日：2018/5/2】

- [DEV-59] URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を ClickOnce で導入した場合、Edge 拡張がインストールされない問題を修正

- [DEV-60] URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を ClickOnce で導入した場合、Windows8.1 以上でデフォルトブラウザへの設定が ON になっていると起動の度に設定画面が表示される問題を修正
- [DEV-61] URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を ClickOnce で導入した場合、AccessPad に未ログイン時に自動的に AccessPad を起動するが失敗する問題を修正
- [DEV-62] URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を ClickOnce で導入した場合、IE のアドオンを追加するためにコマンドを実行すると、他のブラウザ拡張が機能しなくなる問題を修正

WBrowserLauncher 8.2.0.1

【リリース日：2018/3/8】

- [DEV-58] 同梱の Blaze バージョンを 8.2.0.25306 に変更しました。
- [DEV-56] コネクションブローカーなしの構成で利用した場合、ClickOnce の導入でもアンインストールスクリプトが生成されない問題を修正しました。
- [DEV-55] URL 自動判別オプション (KOTIMINE)1.4 に対応しました。

5.3.3 制限事項および既知の不具合

- ユーザ ID 生成方式でクライアント名をご利用の場合、利用されるユーザ名は環境変数にセットされている COMPUTERNAME(NetBIOS 名) です。
- [DEV-42] クライアント PC で和暦を利用している場合、ClickOnce での新規配布に失敗します。ClickOnce をご利用の場合、西暦をご利用ください。
- [DEV-26] ユーザ名に半角空白を含むアカウントはコネクションブローカー有りの構成では利用できません。



参考:

ダブルブラウザ連携キットは Ericom AccessPad のラッパープログラムです。 [Ericom Connctet リリースノート]-[制限事項および既知の不具合]- [\[AccessPad\(Blaze\)\]](#) (ページ 30) も合わせてご確認ください。

5.4 URL 自動判別オプション (KOTOMINE) リリースノート

5.4.1 Edge リリース Update3

version 1.4.3 (2019/9)

■ 新機能

- version 1.4.3 で Windows 10 SAC 1909 がサポートされています。

IE Add-on, Edge extension, Chrome extension, Firefox extension

- フレーム内の URL をクリックする際、URL 判別処理が発動するようになりました。

■ 仕様変更

Firefox extension

- Firefox 67 以降のプロファイルの仕様変更に対応しました。

5.4.2 Edge リリース Update2

version 1.4.2 (2018/11)

■ 新機能

Edge extension

- スタートメニューから「Kotomine Edge Extension」をクリックすると、メッセージが表示されるようになりました。そのメッセージから Edge を起動することができます。

■ 不具合修正

- 連携キット (ClickOnce 版) による配布の場合、Kotomine_current.log が LogMaxSize パラメーターで設定されたログの最大サイズを超えた際、LogRetentionDays パラメーターで設定されたログの保持日数より古い CommonSettings ファイルが削除されることで URL 自動判別オプションが正常に動作できなくなる不具合を修正しました。

Edge extension

- Windows 10 Pro で連携キット (ClickOnce 版) による配布を行った場合に、アプリのサイドローディングのレジストリキーが存在しない状態をサイドローディングが無効だと認識して Edge 拡張のインストールを中止する不具合を修正しました。

5.4.3 Edge リリース Update1

version 1.4.1 (2018/6)

■ 新機能

Edge extension

- Windows 10 April 2018 Update 対応。

■ 仕様変更

MSI

- Windows 10 の場合、インストールが完了直前に表示される画面が設定アプリの「既定のアプリ」を開ける画面に変わりました。
- Edge 拡張がインストールするように選択された場合、Edge 拡張が依存しているライブラリーもインストールするようになりました。

BrowserLauncher

- -showDefaultPrograms という引数を引き渡すと、Windows 10 の場合は設定アプリの「既定アプリ」を開ける画面が表示されるようになりました。
- -registerEdgeExt の引数で Edge 拡張をインストールの際、Edge 拡張が依存しているライブラリーもインストールするようになりました。
- 引数は大文字小文字を区別しないようになりました。

Edge extension

Edge 拡張が依存しているライブラリーはパッケージに含まれるようになりました。

■ 不具合修正

BrowserLauncher

- 引数なしで実行する時のヘルプメッセージを最新化しました。

5.4.4 Edge リリース

version 1.4 (2018/3)

■ 新機能

MSI

- Edge 拡張の機能を追加しました。 Windows 10 Fall Creators Update 以降では、Edge がインストールされた際、表示します。

BrowserLauncher

- Edge 拡張の対応。
- -registerEdgeExt という Edge 拡張を登録する引数を追加しました。但し、アプリのサイドローディングが許可されていない場合、或いは Windows 10 Creators Update 以下の場合、効果がありません。また、ドメインに追加されていない端末には拡張を登録しても正常に動作しません。
- -unregisterEdgeExt という Edge 拡張を削除する引数を追加しました。

Edge extension

- Edge 対応。

ConfigEditor:

- イン트라ネットのブラウザとして Edge が選べるようになりました。

■ 仕様変更

MSI

- 既定設定では Config Editor がインストールされるようになりました。

■ 不具合修正

ConfigEditor

- 確認する URL が `https://` から始まると確認結果が適切とならないエラーを修正しました。

■ 廃止機能

このリリースには、廃止機能はありません。

■ 既知の問題

このリリースには、既知の問題はありません。

■ 5.4.5 Browser リリース Update1

version 1.3.1 (2017/12)

■ 新機能

このリリースには、新機能はありません。

■ 仕様変更

Chrome extension

- Chrome の拡張検証アルゴリズムの変更に対応しました。

■ 不具合修正

■ 廃止機能

このリリースには、廃止機能はありません。

■ 既知の問題

このリリースには、既知の問題はありません。

■ 5.4.6 Browser リリース

version 1.3 (2017/06)

■ 新機能

MSI

- Chrome 拡張の機能を追加しました。Chrome がインストールされた際のみ表示します。
- Firefox 拡張の機能を追加しました。Firefox がインストールされた際のみ表示します。
- 設定画面にはインストールされたブラウザをコンボボックスでイントラネットのブラウザとして設定できるようになりました。
- 設定画面には「リセット」ボタンを追加しました。「リセット」ボタンをクリックすると設定の項目は初期値に戻ります。正し、初期値というのは設定画面が表示された時の値です。つまり、値を変更して次のページへ移動すると変更した値が初期値になります。又は、インストーラーのパラメーターとして引き渡された設定の値と前バージョンの設定の値は初期値です。

BrowserLauncher

- Chrome 拡張の対応。
- Firefox 拡張の対応。
- -registerChromeHost という BrowserLauncher を Chrome 拡張の Native Messaging ホストとして登録する引数を追加しました。
- -registerChromeExt という Chrome 拡張を登録する引数を追加しました。管理者権限が必要です。ドメインに追加されていない端末には効果ありません。正し、ドメインに追加された端末であるかどうかに関わらず拡張を登録します。というのは後で端末をドメインに追加したら拡張が使えるようになります。
- -unregisterChromeHost という BrowserLauncher の Chrome 拡張の Native Messaging ホストとしての登録を解除する引数を追加しました。
- -unregisterChromeExt という Chrome 拡張を削除する引数を追加しました。管理者権限が必要です。
- -registerFirefoxHost という BrowserLauncher を Firefox 拡張の Native Messaging ホストとして登録する引数を追加しました。
- -registerFirefoxExt という Firefox 拡張を登録する引数を追加しました。拡張が登録されてから初めて Firefox を起動すると拡張のインストールの確認が求められます。
- -unregisterFirefoxHost という BrowserLauncher の Firefox 拡張の Native Messaging ホストとしての登録を解除する引数を追加しました。
- -unregisterFirefoxExt という Firefox 拡張を削除する引数を追加しました。Firefox 拡張を削除する前には Firefox を閉じてください。
- -updateChromeExt という登録された Chrome 拡張を更新する引数を追加しました。 ※ Firefox 拡張は-registerFirefoxExt の引数で更新できます。更新する前には Firefox を閉じてください。

Chrome extension

- Chrome 対応。

Firefox extension

- Firefox 対応。

ConfigEditor

- BrowserLauncher.exe.config ファイル、即ち設定のファイルが Config Editor で編集できるようになりました。
- Config Editor で BrowserLauncher を既定のブラウザとして設定できるようになりました。
- ある URL がイントラネットの URL の一覧によってイントラネットの URL かどうか確認できる機能を追加しました。
- プログラムのアイコンを追加しました。

仕様変更

- URL がインターネット URL かどうかの確認アルゴリズムに新しいルールを追加しました。基本的にイントラネット URL の一覧の項目に当てはまる URL は該当項目で始まる URL です。例えば、idnet.co.jp/test が一覧に入っていればその項目に当てはまるのは idnet.co.jp/test や idnet.co.jp/test/some_page や idnet.co.jp/test_plus 等ですが、最後の例のような URL を除きたい場合もあると考えられます。

そこで、新しいルールによって、イントラネット URL の一覧の項目が「/」で終わればその項目に当てはまる URL はその項目そのままに当てはまる URL と「/」を除いた URL が該当します。

例を挙げると、idnet.co.jp/test/が一覧に入ったらその項目に当てはまるのは idnet.co.jp/test や idnet.co.jp/test/や idnet.co.jp/test/some_page 等です。つまり、idnet.co.jp/test_plus 等が当てはまらないということです。

※ 正規表現の項目は例外です。

- デジタル署名のアルゴリズムを SHA1 から SHA256 に変えました。

MSI

- Internet Explorer がインストールされていない場合は、IE Add-on 機能が表示しません。
- Config Editor がインストールするように設定した場合は、Config Editor のショートカットがスタートメニューに追加します。

IE Add-on

- インターネットの URL が AccessPad で開かれた際には、それを開こうとしていた IE のタブは閉じます。
- ユーザーが AccessPad の起動を許可しなかった場合は、その時のページを開くプロセスは止めます。

不具合修正

MSI

- COMODO のデジタル署名の確認サーバーに接続できない環境で、.NET 3.5 がインストールされた場合、インストールは長い時間が掛かることがあるという不具合に対応しました。

ConfigEditor

- 保存する時、UAC で適切なユーザーとして認可されてない場合のエラーを修正しました。

廃止機能

このリリースには、廃止機能はありません。

既知の問題

このリリースには、既知の問題はありません。

5.4.7 OS リリース

version 1.2 (2017/04)

新機能

MSI

- 前バージョン (First リリース) がインストールされている場合は、本バージョンに更新します。
- 前バージョンからの更新の際、InternalUrls.ktmn を保存します。
- 更新の際、前バージョンの設定を新しいバージョンに引き継ぎます。(RESET_PROPERTIES=1 をコマンドプロンプトで引き渡した場合、設定の引き継ぎは行われません)
- Windows8.1/10 の場合インストールが終わると、コントロールパネルの「プログラムの関連付けを設定する」という画面を表示します。この画面では「すべて選択」をチェックし、保存ボタンをクリックすると BrowserLauncher を既定のブラウザとして設定します。(無人モードや Quiet モード除く)

- インストール後、ConfigEditor を除いて exe と dll に NGEN*¹ を適用します。
- コントロールパネルの「プログラムと機能」にヘルプのリンク (<https://support.ashisuto.co.jp/>) を追加しました。

BrowserLauncher

- CLR 4.0 対応。
- Windows 8.1, Windows 10 対応。
- -showDefaultPrograms という引数を追加しました。この引数を引き渡すとコントロールパネルの「プログラムの関連付けを設定する」という画面を表示します。この画面では BrowserLauncher を既定のブラウザに設定することが可能です。

IE Add-on

- インストールされている.NET のバージョンにより、アドオンを分けました。
 - ↳ .NET 3.5 がインストールされている場合 →.NET 4.*がインストールされているかどうかに関わらず、BrowserLauncherAddon35 を登録します。
 - ↳ .NET 4.*のみインストールされている場合 →BrowserLauncherAddon40 を登録します。

ConfigEditor

- CLR 4.0 対応。
- InternalUrls.ktmn を更新する際に管理者権限が必要な場合、保存ボタンをクリックすると UAC を表示します。UAC で適切なユーザーとして認可されると、更新内容が保存され、InternalUrls.ktmn を編集が可能になります。

仕様変更

MSI

- Windows 10 の場合、自動的に既定のブラウザを設定しようとしません。 ※グループポリシーによる設定は可能です。

BrowserLauncher

- Windows 10 の場合、-setDefaultBrowser の引数では、自動的に既定のブラウザを設定しようとしません。 ※グループポリシーによる設定は可能です。

*1 NGEN(ネイティブ イメージ ジェネレーター)…パフォーマンス向上のために、exe と dll をマシン・コードにコンパイルし、ディスクに格納します。

■ 不具合修正

このリリースには、不具合修正はありません。

■ 廃止機能

このリリースには、廃止機能はありません。

■ 既知の問題

このリリースには、既知の問題はありません。

■ 5.4.8 First リリース

version 1.1 (2017/03/06)

- 初版リリース

第 6 章

簡易導入手順

ダブルブラウザソリューションをご評価いただくための、Ericom Connect と、IVEX ダブルブラウザ Linux、ダブルブラウザ連携キットの簡易導入手順書をご紹介します。

あくまで、簡易的に環境を構築することに重きを置いておりますので、手順書の前提環境に則る記載になっている点をご容赦ください。

6.1 Windows 版

6.1.1 Ericom Connect のインストール

事前準備

Ericom Connect の環境構築にあたり、事前に必要な設定を行います。以下、手順に沿って設定を行ってください。

Active Directory (以下 AD) ドメインの準備

Ericom Connect 環境は AD のドメインが必要となります。事前に以下の準備を行ってください。

- Connect サーバをドメインへ参加させる。
- Connect サーバのインストール作業用として、ドメイン管理者アカウントを用意する。
- 検証用に、テストユーザアカウントを必要数用意する。
- Connect サーバインストール用のアカウントに UPN(User Principal Name) を登録する。

※ RDS サーバを別立てする場合は、RDS サーバにも本手順を実施してください

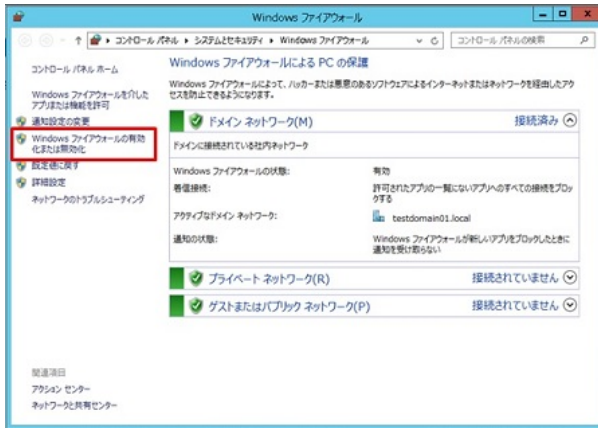
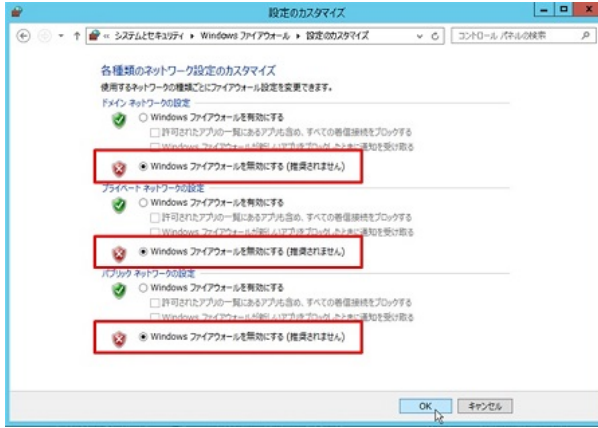
1. AD サーバの「Active Directory ユーザとコンピュータ」にて、ドメインの管理者権限を持つユーザに UPN が正しく登録されているか確認します。

※本手順では **Administrator** ユーザを使用しておりますが、**Administrator** ユーザの利用が難しい場合は、別途ドメインの管理者権限を持つユーザを作成し、利用してください。

The screenshot shows the 'Administratorのプロパティ' dialog box. The 'ユーザー ログオン名(U):' field is highlighted with a red box and contains 'administrator'. The 'ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)(W):' field contains 'Administrator'. The 'アカウント オプション(O):' section has several checkboxes, and the 'アカウントの期限' section has 'なし(N)' selected.

Windows ファイアウォールの受信規則

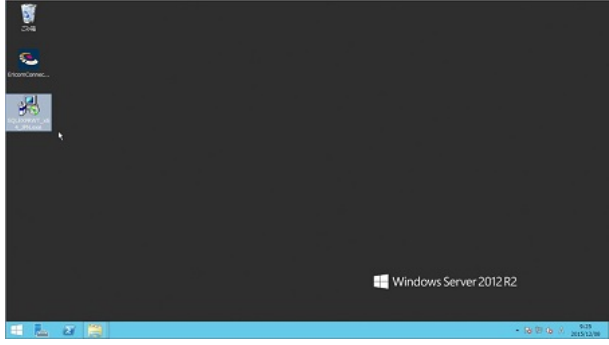
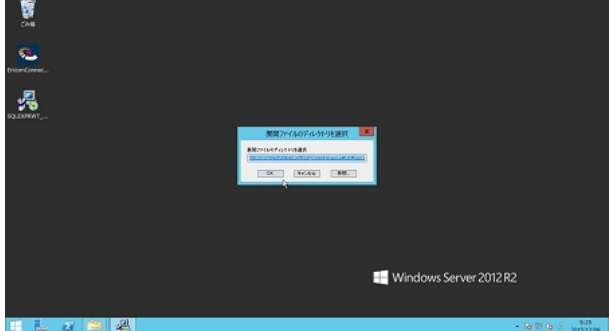
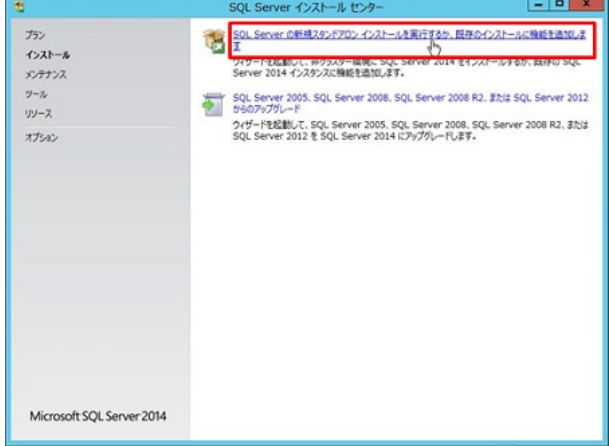
- Connect サーバにて作業を実施します。
- Connect サーバインストール時に必要なポートを自動で開放しますが、今回は検証目的のため、全てのポートを開放する手順にしています。
- Ericom Connect 環境で使用するポートについては、「Ericom Connect 管理者ガイド」の「DNS とポート (ページ 294)」をご参照下さい。
- ※ RDS サーバを別立てする場合は、RDS サーバにも本手順を実施してください

<p>1. [コントロールパネル] より、[Windows ファイアウォール] をクリックし、[Windows ファイアウォールの有効化または無効化] をクリックします。</p>	
<p>2. 今回は簡易に Connect サーバを構築することに重きを置き、疎通が確実に行えるよう [Windows ファイアウォールを無効にする] に設定します。</p>	

■ SQL Server の構成

SQL Server のインストール

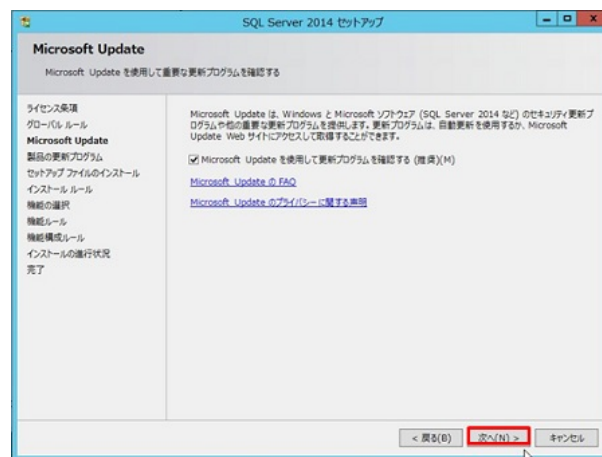
- Connect のインストールには、SQL Server 2012 以降 または SQL Server 2012 Express 以降が必要です。
- SQL Server には Connect のログ情報などが格納されます。
- 本手順では、SQL Server 2014 Express をインストールしています。
- SQL Server 2014 Express の稼働要件として、.NET Framework 3.5 SP1 および .NET Framework 4.0 以上が必要です。(Connect を同居させる環境は.NET Framework 4.5 以上 となります)
- インストーラは提供モジュールに含まれております。(Microsoft 社からダウンロードしたインストーラです)

<p>1. SQL Server 2014 Express のインストーラを実行します。</p>	
<p>2. ファイルの展開先を指定できます。ここではデフォルトのまま進めます。</p>	
<p>3. インストールウィザードが開始されます。「新規インストール」の項を選択します。</p>	

4. 「ライセンス条項に同意します。」にチェックをいれ、[次へ] をクリックします。



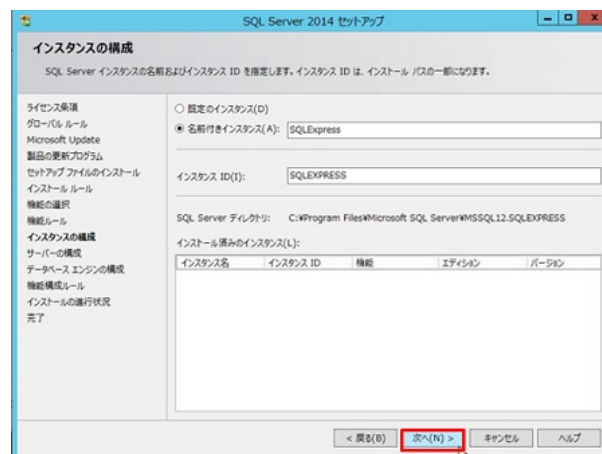
5. [次へ] をクリックします。



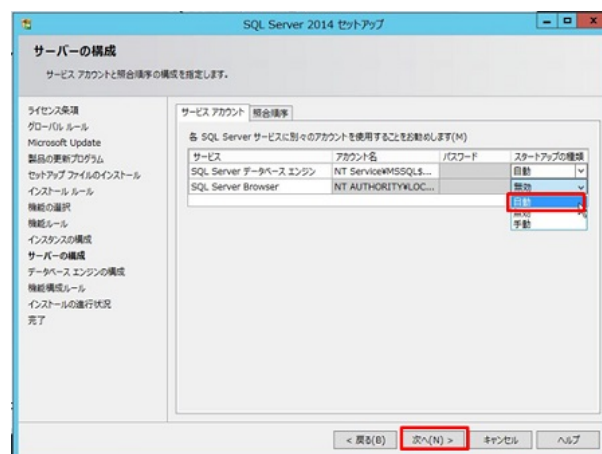
6. インストールする機能や、ルートディレクトリ等を変更できます。ここではデフォルト設定のまま [次へ] をクリックします。



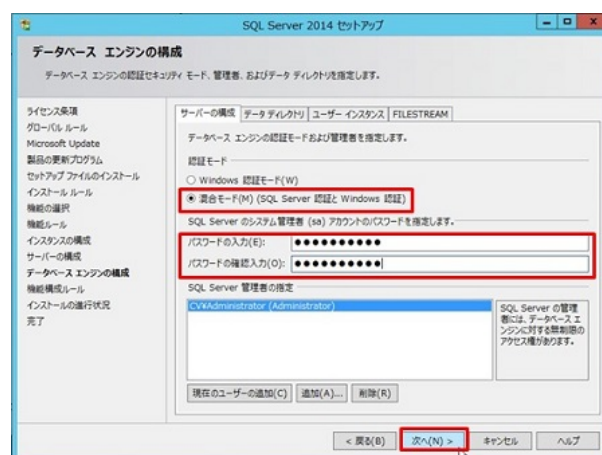
7. SQL Server のインスタンス名を変更できます。
ここではデフォルトのまま [次へ] をクリックし
ます。



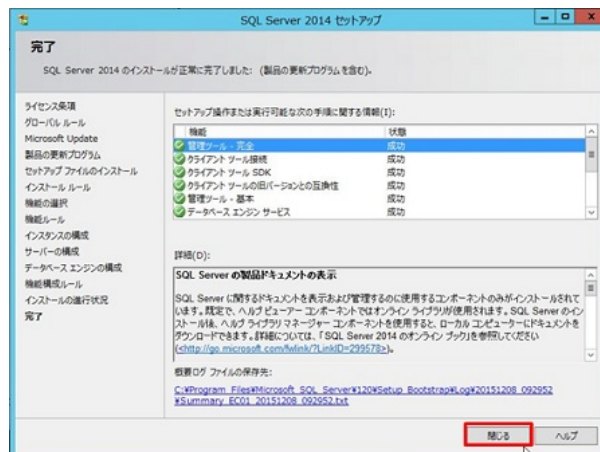
8. 「SQL Server Browser」サービスのスタート
アップの種類を [自動] に変更し、[次へ] をク
リックします。



9. 認証モードを「混合モード」に変更し、任意の
sa アカウント用パスワードを入力します。[次へ
] をクリックすると、SQL Server のインストー
ルが開始します。



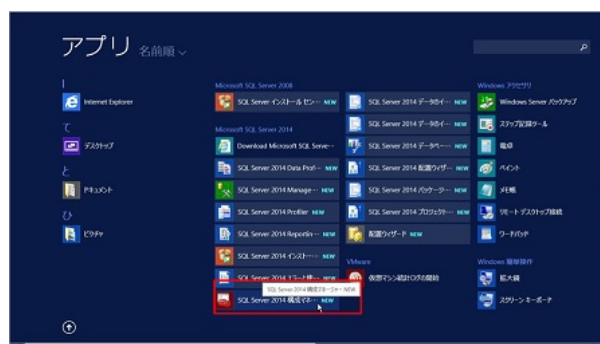
10. インストールが成功したことを確認し、[閉じる] をクリックします。



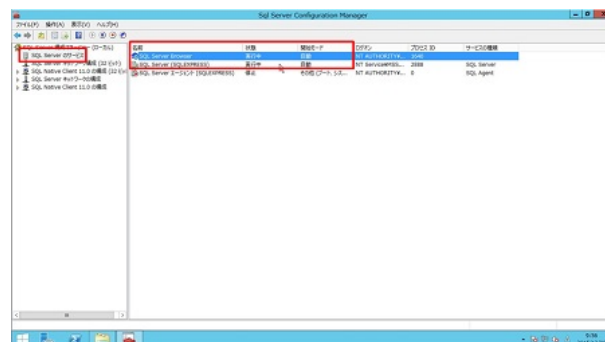
11. インストールセンター ウィンドウも閉じます。



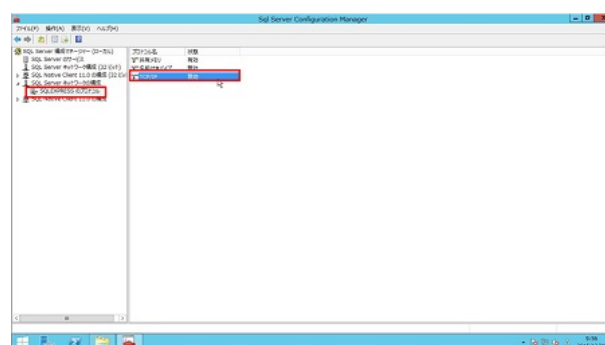
12. Windows スタートメニューより「SQL Server 2014 構成マネージャー」を起動します。



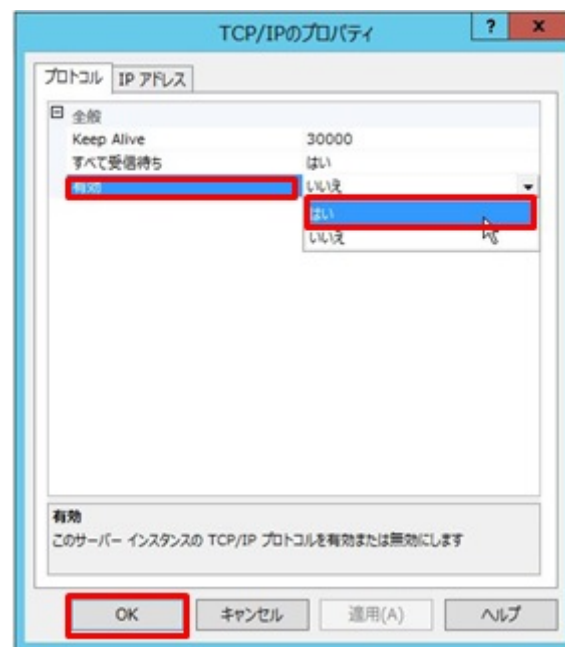
13. 左側ペイン [SQL Server のサービス] の「SQL Server Browser」および「SQL Server」の状態が「実行中」かつ開始モードが「自動」となっていることを確認します。

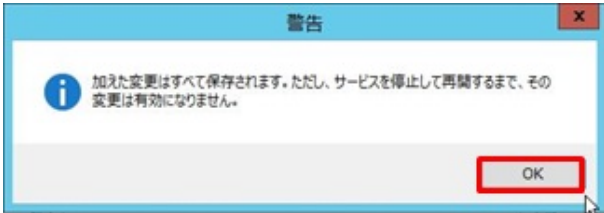
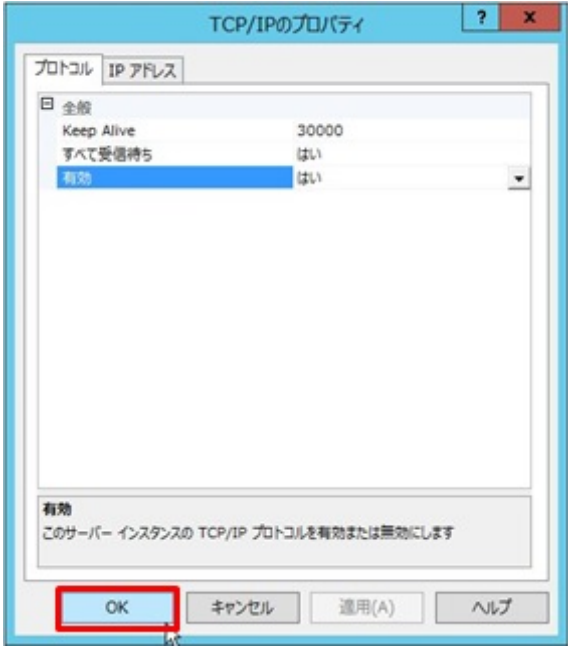
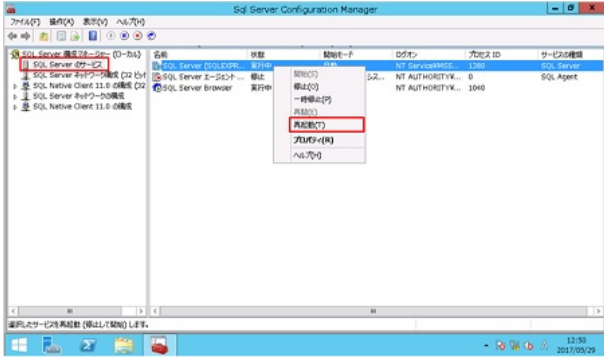


14. 左側ペイン [<SQL インスタンス名> のプロトコル] の「TCP/IP」をダブルクリックします。



15. [有効] の項目を「はい」に変更し、[適用] をクリックします。



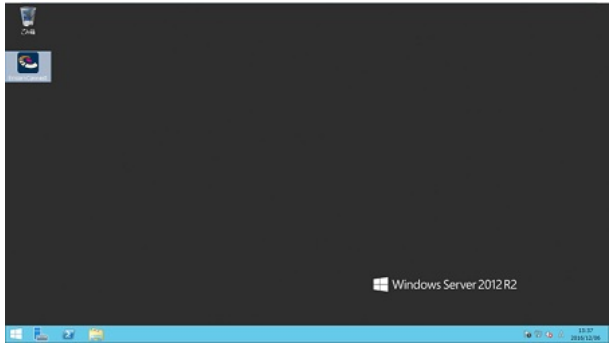
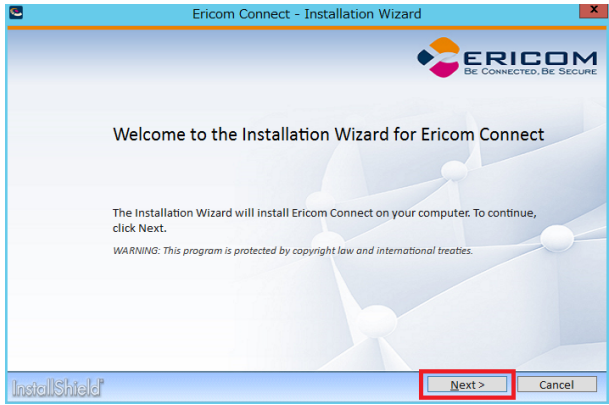

<p>16. サービスを再起動まで設定が反映されない旨の警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。</p>	 <p>A warning dialog box titled "警告" (Warning) with a blue header bar. It contains an information icon and the text: "加えた変更はすべて保存されます。ただし、サービスを停止して再開するまで、その変更は有効になりません。" (All added changes will be saved. However, the changes will not be effective until the service is stopped and restarted). There is an "OK" button at the bottom right, which is highlighted with a red rectangle.</p>
<p>17. [OK] をクリックし、プロパティを閉じます。</p>	 <p>The "TCP/IPのプロパティ" (TCP/IP Properties) dialog box. The "全般" (General) tab is selected. It shows settings for "Keep Alive" (30000), "すべて受信待ち" (Yes), and "有効" (Yes). At the bottom, there is a checkbox for "有効" (Enabled) which is checked. Below the checkbox is the text: "このサーバー インスタンスの TCP/IP プロトコルを有効または無効にします" (Enables or disables the TCP/IP protocol for this server instance). The "OK" button is highlighted with a red rectangle.</p>
<p>18. 設定を反映させるため、SQL Server のサービスを再起動します。左ペインの「SQL Server のサービス」をクリックし、右ペインの「SQL Server(SQLEXPRESS)」を右クリックして「再起動」を選択します。再起動が完了したら「SQL Server 2014 構成マネージャー」を閉じます。</p>	 <p>A screenshot of the "SQL Server Configuration Manager" window. The left pane shows "SQL Server のサービス" (SQL Server Services) expanded. The right pane shows the "SQL Server(SQLEXPRESS)" service selected. A context menu is open over the service, with the "再起動" (Restart) option highlighted with a red rectangle.</p>

■ Connect Server の構成

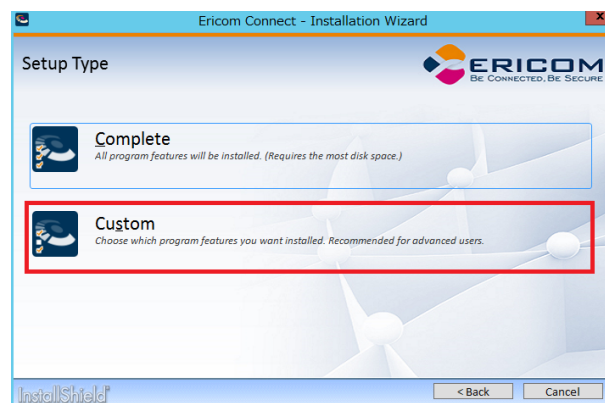
Connect のインストールとグリッドの作成

本項では、EricomConnect.exe を使用し、Connect のインストールおよびグリッドの作成を実施します。

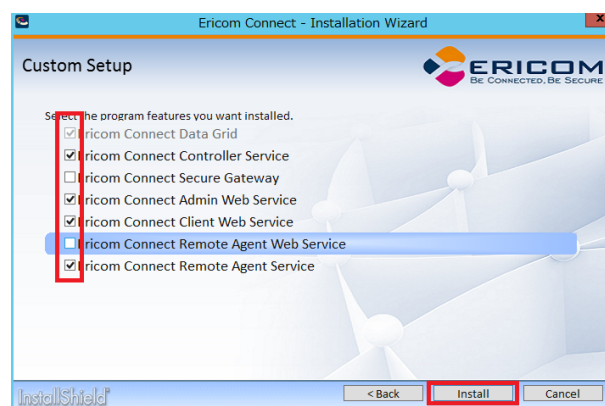
Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

<p>1. EricomConnect.exe を実行します。</p> <p>※ Connect の稼動には「.NET Framework 4.5.2」のインストールが必要です。Connect インストール前にインストールしてください。インストールメディア内の以下フォルダにインストーラーがございます。</p> <p>[.NET Framework 4.5.2] フォルダ</p>	
<p>2. インストールウィザードが起動するので、[Next] をクリックします。</p>	
<p>3. [I accept...] にチェックを入れ、[Next] をクリックします。</p>	

4. 「Custom」を選択します。



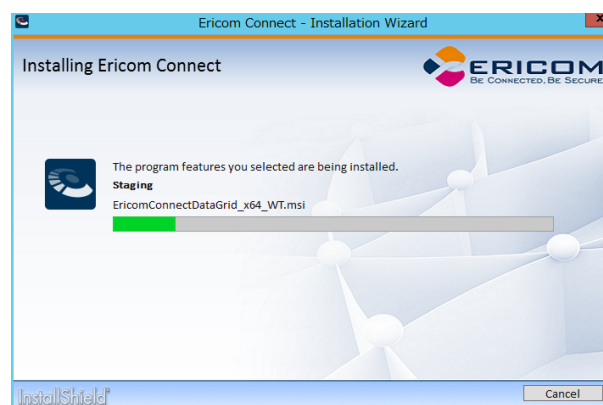
5. インストールするコンポーネントを選択します。
必要なコンポーネントをチェックして、
[Install] をクリックします。



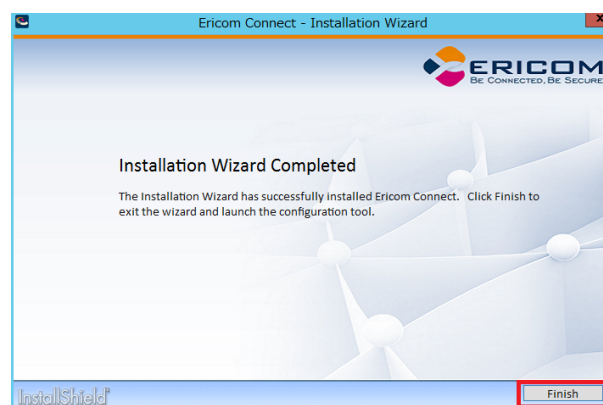
チェックする項目につきましては、「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考にしてください。

Tips:

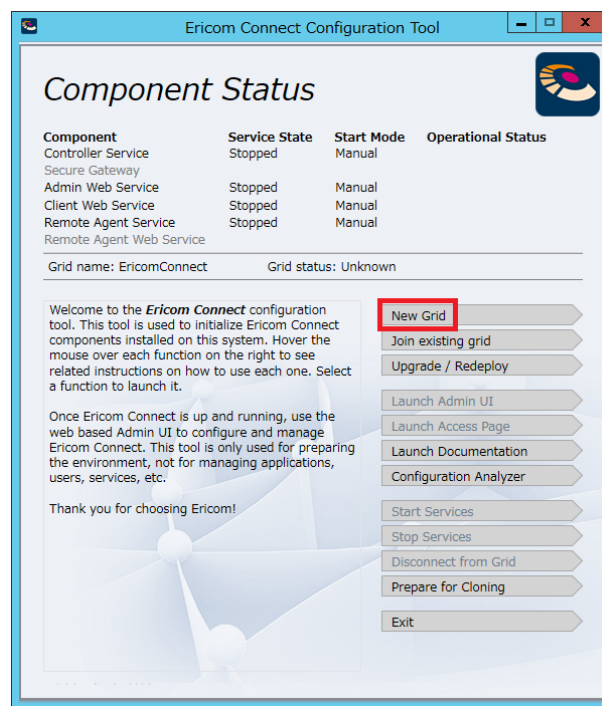
6. インストールが開始されます。終了まで数分かかります。



7. インストールが完了したら [Finish] をクリックし、ウィザードを終了します。



8. 「Ericom Connect Configuration Tool」が自動で起動するので、[New Grid] をクリックします。



9. 以下を設定し、[Initialize Database ...] をクリックします。

[Password]

Connect をインストールしたユーザのパスワードを入力

[Grid Name]

任意のグリッド名を入力 (※ Database Name と Database Admin にも反映されます)

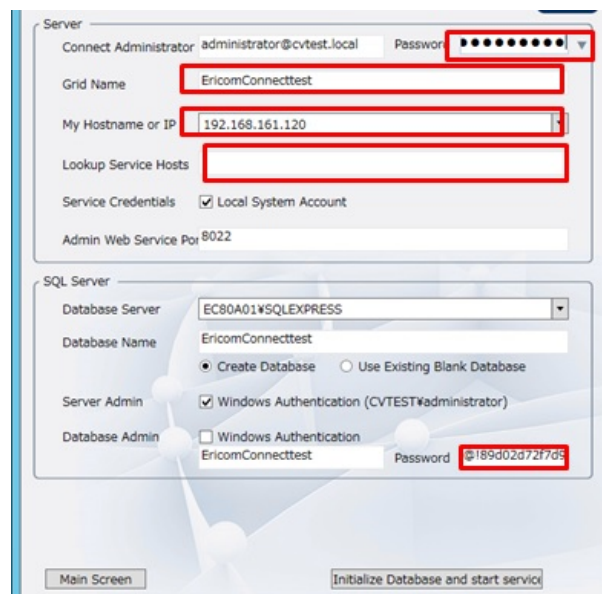
[My Host or IP]

アドレスが Connect サーバのアドレスと同一か確認

[Server User] の [Password]

任意の値に変更

※ Server User のアカウント及びパスワードはバージョンアップ時にも必要となります。



2 台目以降の Connect サーバを別セグメントに構築される場合 [Lookup Service Hosts] には、[自分自身の IP],[他サーバの IP] の順番で Connect サーバの IP アドレスをカンマ (,) 区切りで記述します。

(例)1 台目 : 「192.168.100.1,192.168.200.1」

2 台目 : 「192.168.200.1,192.168.100.1」

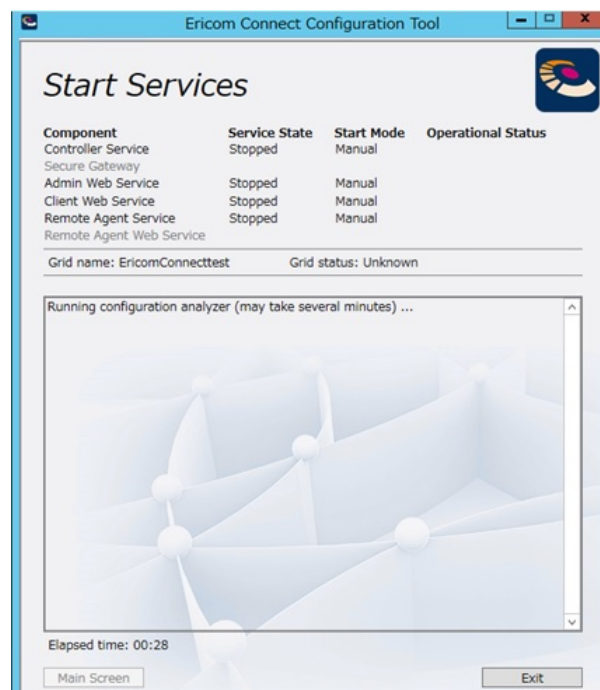


注意:

※ [Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシンで、可能な限り均一に設定する必要があります。

例えば Connect サーバ 2 台、RDS サーバ 4 台の 6 台で構成する場合、Connect 1 台と RDS サーバ 2 台が「192.168.100.1,192.168.200.1」、残り 3 台が「192.168.200.1,192.168.100.1」となるように設定します。

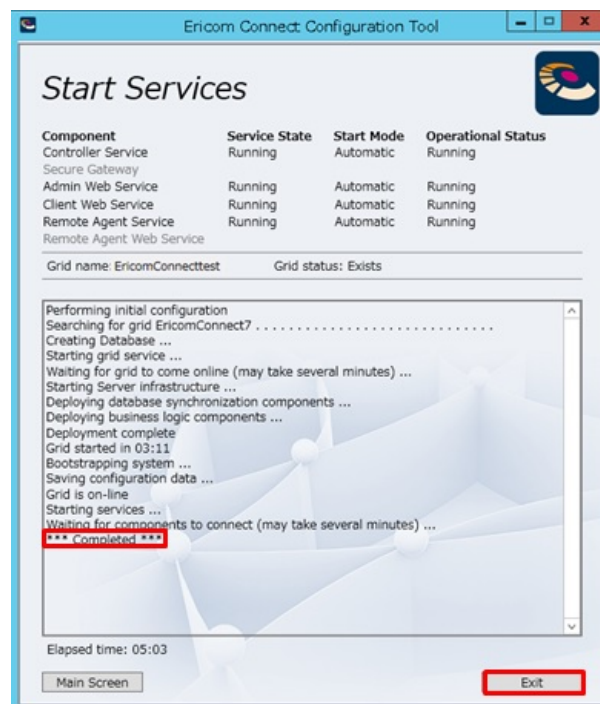
10. グリッドの作成が開始されます。



Tips:

Grid 作成時の画面で「Error: *** A grid named '(Grid 名)' already exists ***」というエラーで Grid 作成に失敗する場合があります。これは Grid 名のデータベース名が重複している場合のエラーですが、Connect インストール直後の場合、データベース名が重複していなくとも同エラーで Grid 作成が出来ない場合があります。このエラーが発生した場合はどのような場合でも再度 Grid を（データベース名が重複していない名前）作成してください。

11. グリッド作成が正常終了した場合、
[Completed] と表示されます。[Completed] の
表示を確認後に [Exit] をクリックして
Configuration Tool を終了します。

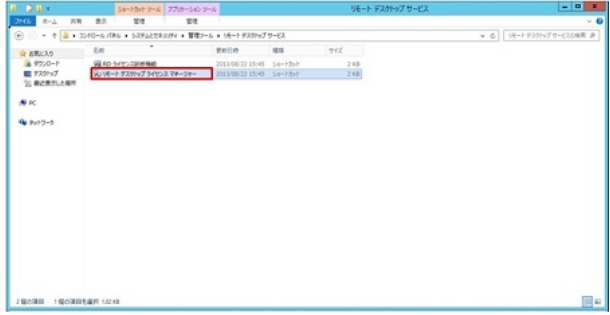
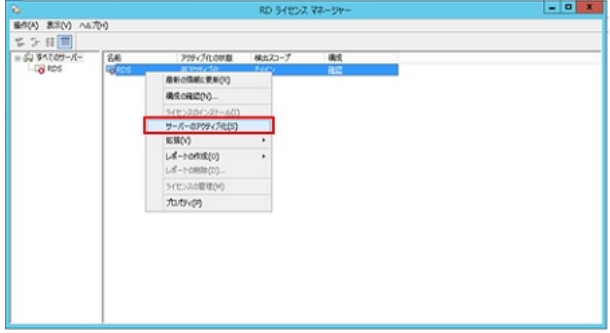



RDS Server の構成

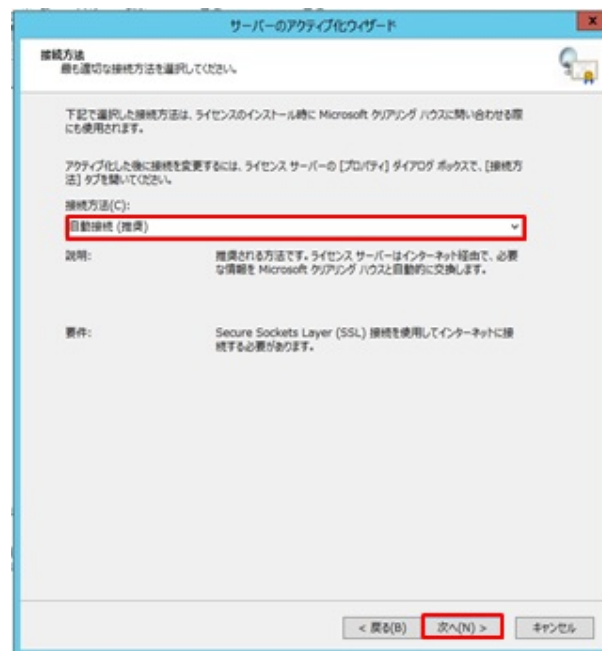
RDS の導入

リモート デスクトップ ライセンス サーバーのアクティブ化

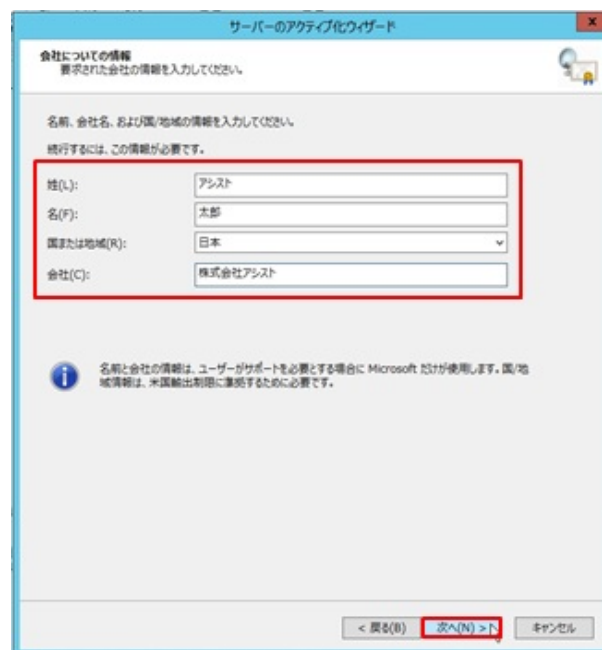
- 本章では、RDS サーバにて作業を実施します。
- 新規でライセンスサーバーを構築した場合は、次の手順でサーバーのアクティベーションを行う必要があります。
- アクティベーションをすることで評価を目的とした 120 日間の一時ライセンスが使用可能となります。また、購入した RDSCAL を適用する場合もアクティベーションが必要です。
- 今回は、RDS サーバーのローカルにライセンスサーバーの機能も持たせたため、新規構築扱いとなります。既に他のサーバにライセンスサーバーをインストールし構成している場合は、後述の「リモート デスクトップ セッション ホストの設定」の設定に進んでください。

<p>1. リモートデスクトップライセンスサーバーを有効化します。[コントロールパネル] - [管理ツール] - [リモートデスクトップサービス] - [リモートデスクトップ ライセンスマネージャー] を起動します。</p>	
<p>2. 対象となるサーバを右クリックし、[サーバのアクティブ化] を選択します。</p>	
<p>3. [次へ] をクリックします。</p>	

4. [接続方法] 画面にて、任意の接続方法を選択します。ここでは [自動接続] を選択し、[次へ] をクリックします。なお、自動接続は [RDS] (ここでは 192.168.161.82 の) サーバからインターネットに接続できる環境が必要です。



5. 会社についての情報を入力し、[次へ] をクリックします。



6. [次へ] をクリックします。

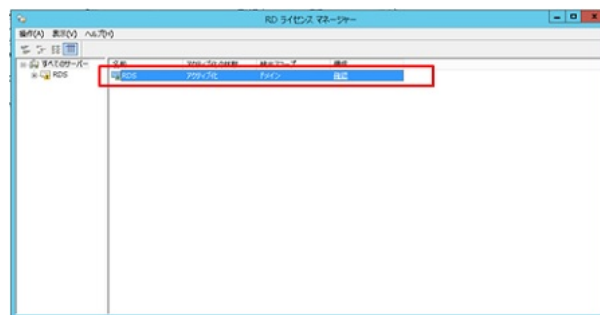
The screenshot shows the 'Server Activation Wizard' window with the title 'サーバーのアクティブ化ウィザード'. The main heading is '会社についての情報' (Company Information) with the instruction 'このオプションの情報を入力してください' (Please enter the information for this option). The form contains several input fields: '郵便番号(P):' (Postal code), '都道府県(S):' (Prefecture), '市区町村(C):' (City/Town/Village), '会社住所(A):' (Company address), '組織単位(O):' (Organization), and '電子メール(E):' (Email). At the bottom, there is an information icon and a note: 'このページに入力したオプションの情報は、ユーザーがサポートを必要とする場合に Microsoft サポート担当者だけが使用します。' (The information entered on this page for the options is used only by Microsoft support staff when the user needs support). The navigation buttons at the bottom are '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ(N) >' button is highlighted with a red box.

7. アクティブ化が正常に完了すると、確認画面が表示されます。[ライセンスのインストールウィザードを開始する]のチェックを外し(※)、[完了]をクリックします。

※ ライセンスを適用しない場合評価を目的とした 120 日間の一時ライセンスが使用可能となります。本番用のライセンスを適用する場合はチェックを入れたままウィザードを進めてください。

The screenshot shows the 'Server Activation Wizard' window with the title 'サーバーのアクティブ化ウィザード'. The main heading is 'サーバーのアクティブ化ウィザードの完了' (Server Activation Wizard Completion). The text says 'サーバーのアクティブ化ウィザードを完了しました。' (Server activation wizard completed). Below this, there is a '状態:' (Status) section with the following text: 'ライセンスサーバーは正常にアクティブ化されました。' (License server activated normally), 'ライセンスをインストールするには、[次へ]をクリックしてください。' (To install the license, click [Next]), and '後でライセンスをインストールするには、[ライセンスのインストールウィザードを開始する] チェック ボックスをオフにして、[完了] をクリックしてください。' (To install the license later, turn off the [Start License Installation Wizard] check box and click [Finish]). At the bottom, there is a checkbox labeled 'ライセンスのインストールウィザードを開始する(S)' (Start License Installation Wizard) which is currently unchecked and circled in red. The navigation buttons at the bottom are '< 戻る(B)' (Back), '完了(F)' (Finish), and 'キャンセル' (Cancel). The '完了(F)' button is highlighted with a red box.

8. サーバがアクティブ化したことを確認し、画面を閉じます。



リモート デスクトップ セッション ホストの設定

- 本項では、RDS サーバにて作業を実施します。
- ここでは、RDS ホストの設定としてライセンスモードの指定とライセンスサーバの指定をします。



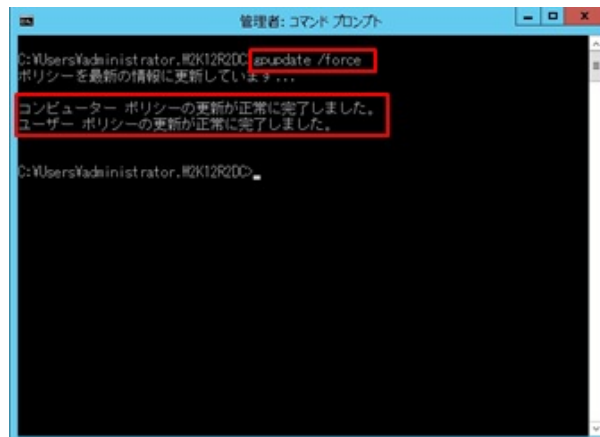
注意:

※ 「事前準備」の「Windows コンポーネントの変更と追加」の項番 28～33 までの設定をあらかじめ実施しておいてください。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトを開きます。



2. [gpupdate /force] コマンドを実行し、実行結果にエラーが無いことを確認します。

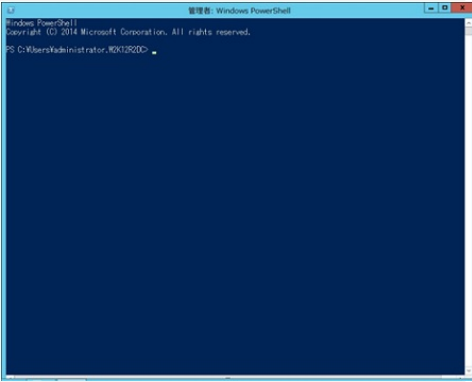
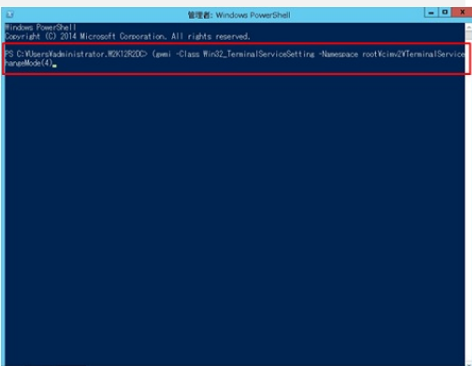
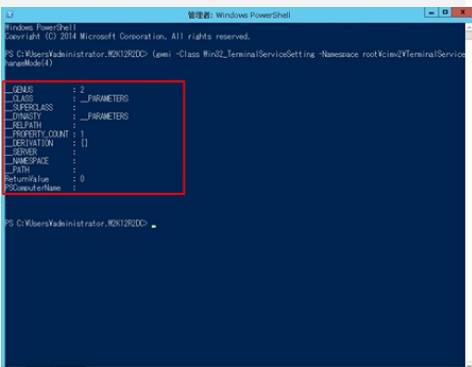
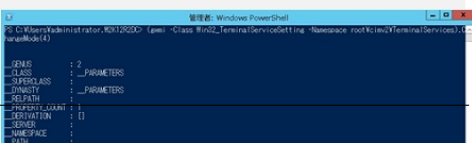


```
管理者: コマンド プロンプト
C:\Users\Administrator.R2K12R20C> gpupdate /force
ポリシーを最新の情報に更新しています...
コンピューター ポリシーの更新が正常に完了しました。
ユーザー ポリシーの更新が正常に完了しました。
C:\Users\Administrator.R2K12R20C>
```

前述「リモートデスクトップセッションホストの設定」にてローカルグループポリシーで設定が出来なかった場合に、ローカルグループポリシーの代わりに PowerShell でライセンスモード指定とライセンスサーバの指定が可能です。

※ ローカルグループポリシーで設定できていれば、本手順は必要ありません。

RDS サーバにて作業を実施します。

<p>1. [Windwos PowerShell] を起動します。</p>	
<p>2. リモートデスクトップライセンスモードを指定するために、以下コマンドを実行します。</p> <pre>(gwmi -Class Win32_TerminalServiceSetting -Namespace root\cimv2TerminalServices).ChangeMode [接続ユーザー数モード]</pre> <p>※ ここでは [接続ユーザー数モード] に設定しています。[接続デバイスモード] の場合は ChangeMode を [2] に設定します</p>	
<p>3. 実行結果にエラー等がないことを確認します。</p>	
<p>4. リモートデスクトップライセンスサーバを指定するために、以下コマンドを実行します。</p>	



参考:

RemoteAgent のインストール

本項では、RDS サーバにて作業を実施します。

RemoteAgent には、RDS サーバ/VDI のエージェント機能も含まれます。

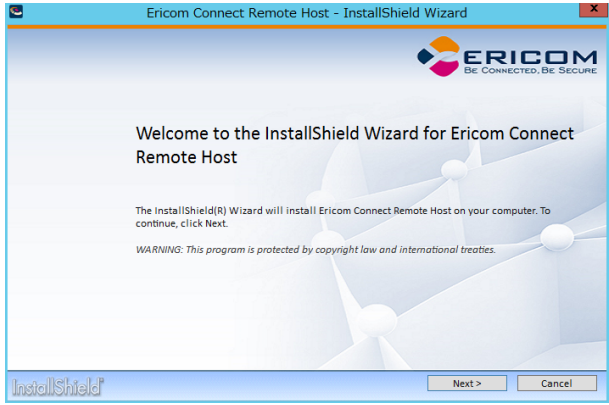
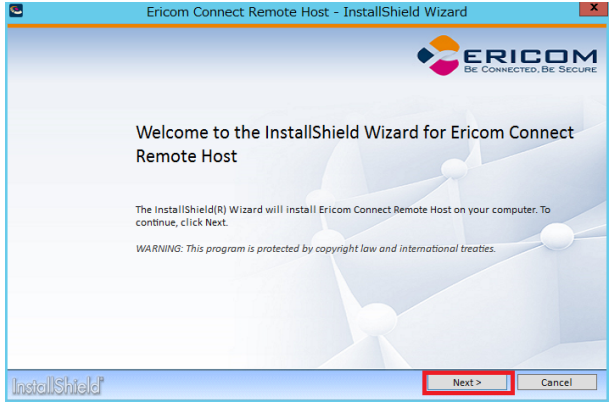
RemoteAgent インストーラで RemoteAgent と Access Server の両方がインストールされます（別々にインストールすることはできません）。


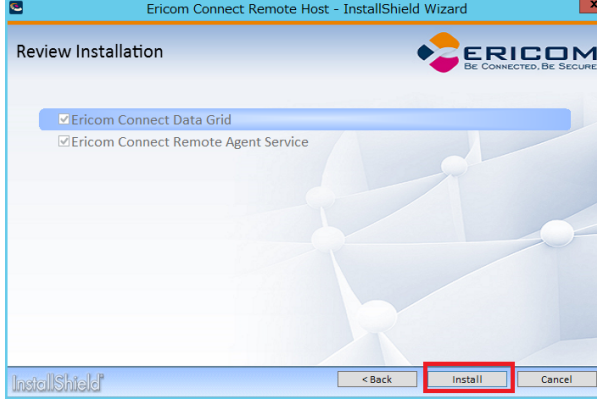
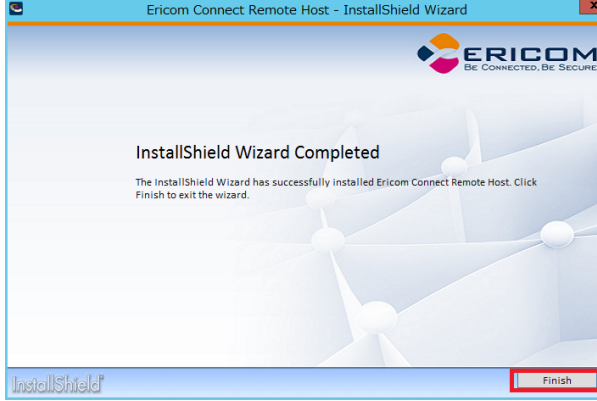
Access Server は、AccessPad(Blaze 通信) や AccessPortal(Access Now 通信) を行うために、接続先にインストールするモジュールです。

RemoteAgent のモジュールは、インストールメディア内からコピーしてインストールしてください。

RemoteAgent のアンインストールはコントロールパネルの「プログラムのアンインストールまたは変更」から行います（RemoteAgent と Access Server は別々にアンインストールできません）。

- ここでは、RDS ホストの設定としてライセンスモードの指定とライセンスサーバの指定をします。

<p>1. RDS サーバ上で、 [EricomConnectRemoteHost_x64.exe] を実行 します。</p> <p>※ 32bit OS の場合は [EricomConnectRemoteHost_x86.exe] を実行 します。</p> <p>注意) [.NET Framework 4.5.2 Features] 以上がインストールされている必要があります。 未インストールの場合はインストールしてくだ さい。インストールメディア内の以下フォルダ にインストーラーがございます。</p> <p>[.NET Framework 4.5.2] フォルダ</p>	
<p>2. [Next] をクリックします。</p>	

<p>3. [I accept the terms in the license agreement] にチェックを入れ、[Next] をクリックします。</p>	
<p>4. インストールコンポーネントは変更できないため、そのまま進めます。[Install] をクリックします。</p>	
<p>5. インストール完了画面が表示されたら、[Finish] をクリックします。</p>	

6. Ericom Connect Remote Agent

Configuration が自動で表示されたら、Connect サーバ導入時に設定したグリッド名 [Grid Name] を設定します。[My Host or IP] は自身の RDS サーバ IP であることを確認し、[Lookup Service Hosts] は空欄のまま [Connect To Grid] をクリックします。

(本環境は同一セグメント内に Connect サーバが存在しているため [Lookup Service Hosts] を空欄としています)

※ Grid 名は Connect サーバの「Ericom Connect Configuration Tool」で確認できます。

2 台目以降の Connect サーバを別セグメントに構築される場合 [Lookup Service Hosts] には、[自分自身の IP],[他サーバの IP] の順番で Connect サーバの IP アドレスをカンマ (,) 区切りで記述します。

(例)1 台目 : 「192.168.100.1,192.168.200.1」

2 台目 : 「192.168.200.1,192.168.100.1」

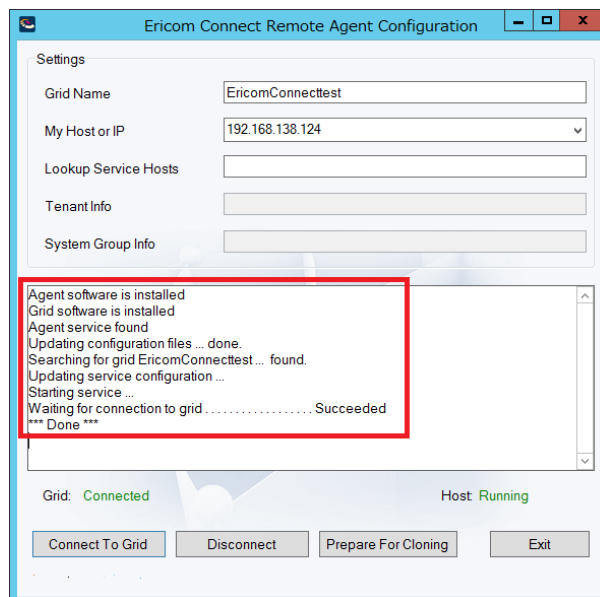


注意:

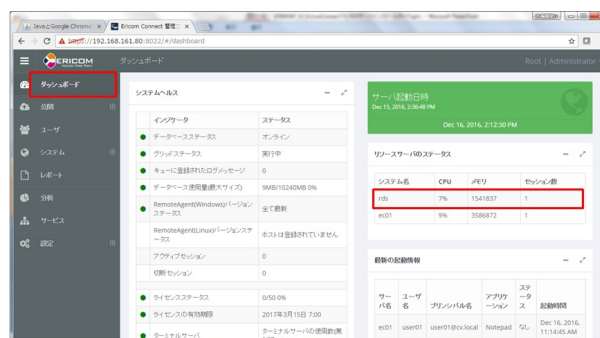
※ [Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシンで、可能な限り均一に設定する必要があります。

例えば Connect サーバ 2 台、RDS サーバ 4 台の 6 台で構成する場合、Connect1 台と RDS サーバ 2 台が「192.168.100.1,192.168.200.1」、残り 3 台が「192.168.200.1,192.168.100.1」となるように設定します。

7. メッセージ領域に設定したグリッドが発見され、サービスが起動 (Starting service) したメッセージが表示されることを確認します。エラー表示がなければ [Exit] で終了します。以上の作業で Connect のグリッドに RDS サーバが登録されました。



8. グリッドに RDS サーバが登録されているか確認します。Connect 管理コンソールにログインして、ダッシュボードを確認します。[ダッシュボード] をクリックしサーバのステータスを確認すると [RDS] (ここでは 192.168.161.82 の) が表示されています。この [RDS] (ここでは 192.168.161.82 の) サーバの詳細を表示するには [接続サービス] で確認をします (次ページ)。



9. [サービス] をクリックすると、グリッドに接続されているサーバの一覧が表示されます。[RemoteAgent サービス] に追加した [RDS] (ここでは 192.168.161.82 の) サーバが表示されています。ステータスが [実行中] になっていることを確認します。[192.168.161.82] の行をクリックすると右ペインに、そのサーバの状況が表示されます。

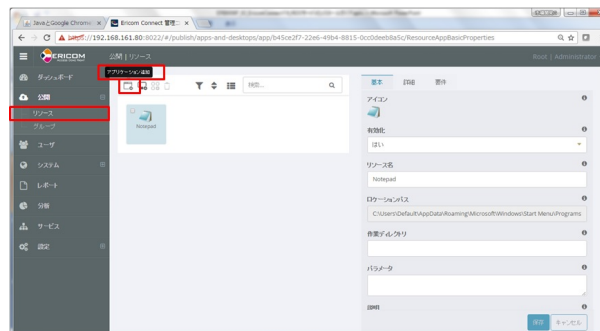


6.1.2 ダブルブラウザの公開設定

アプリケーションの公開設定

下記手順では、Paint(MS ペイント) を公開する手順を紹介しておりますが、ダブルブラウザとしてご利用の場合、公開するリソースは任意のブラウザを指定してください。

1. ブラウザから Connect 管理コンソールにログインします。[リソース]-[アプリケーション追加]をクリックします。



2. 今回は [選択したサーバからアプリケーションを選択] にリストされているサーバからアプリケーションを公開します。今回は<Search All Hosts(全てのホストを検索)>を選択します。



3. [サーバ] の欄に Connect サーバと RDS サーバのアプリケーションが表示されています。

新しいアプリケーションまたはデスクトップを追加します

● サーバへの完全なアプリケーションのパスを入力

● 選択したサーバからアプリケーションを選択

サーバ:

検索

オン:

名前別またはロケーションパス別に移

<Search ALL Hosts>

ec01

rds

Administrative Tools

Administrative Tools

Calculator

Calculator

Command Prompt

Command Prompt

グループに追加

グループに追加しない

追加 キャンセル

4. 公開対象の MS ペイントを選択します。[Paint] を [選択] をクリックします。

新しいアプリケーションまたはデスクトップを追加します

● サーバへの完全なアプリケーションのパスを入力

● 選択したサーバからアプリケーションを選択

サーバ:

検索

オン:

名前別またはロケーションパス別に移

<Search ALL Hosts>

ec01

rds

On-Screen Keyboard

On-Screen Keyboard

3(CommonPrograms)\Accessories\Paint Ink

Paint

Remote Desktop Connection

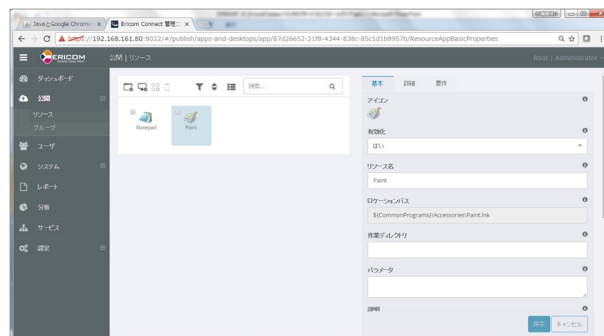
Remote Desktop

グループに追加

グループに追加しない

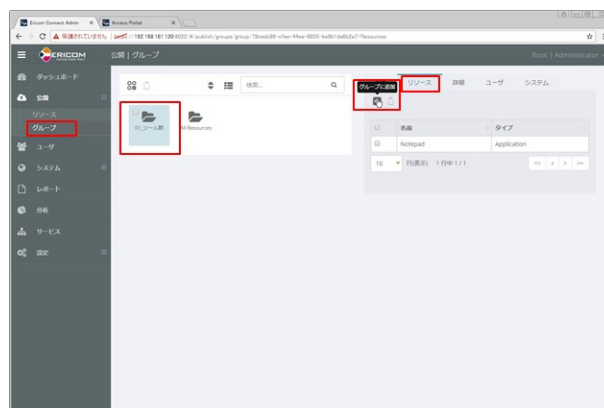
追加 キャンセル

5. 公開した [Paint] のアイコンが表示されました。次に、このアプリケーションを使用するユーザーを設定します。Connect ではグループ単位にユーザー割り当てを行います。



6. 最初に [Paint] アプリケーションをグループに所属させます。「Connect・RDS1 台同居インストールガイド」で作成した [01-ツール群] のグループに [Paint] アプリケーションを登録します。左ペインで [グループ] を選択し、[01-ツール群]-[リソース] タブから [グループに追加] をクリックします。

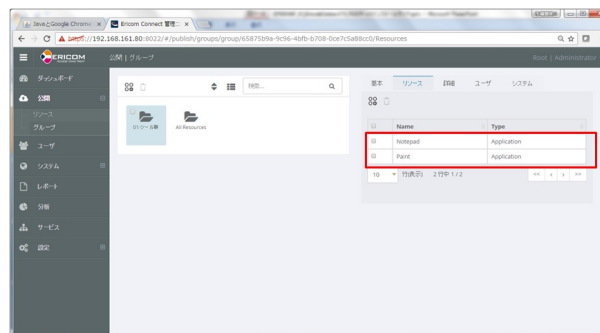
新規グループに追加したい場合は、「Connect・RDS1 台同居インストールガイド」をご参照ください。



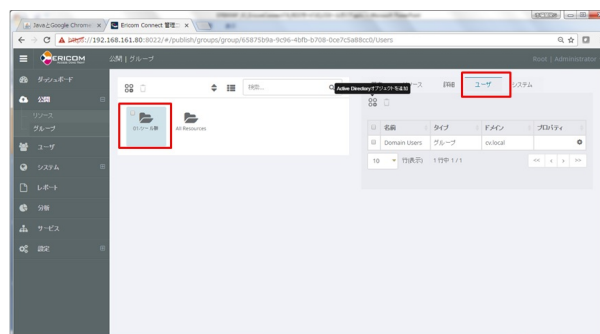
7. [グループに追加] ウィンドウの中の [Paint] アプリケーションを選択し、[追加] ボタンをクリックします。



8. [01-ツール群] グループに [Paint] アプリが追加されたことが分かります。



9. 追加したアプリケーションを使用できるユーザを割り当てます。Connect ではグループに対してユーザ割り当てを行います。[ユーザ] タブをクリックします。すでに [01_ツール群] グループに [Domain Users] が割り当てられています。



10. [user02] というユーザを追加します。[タイプ別 (*) にアイテムを検索] 欄で [ユーザ] を選択します。



11. [user02] というユーザを追加しますので、検索フィールドに [user02] と入力してから虫眼鏡アイコンをクリックします。[user02] が含まれたユーザ名一覧から [user02] を選択して、[追加] をクリックします。

Active Directoryオブジェクトを追加

Active Directoryを選択:
cv.local

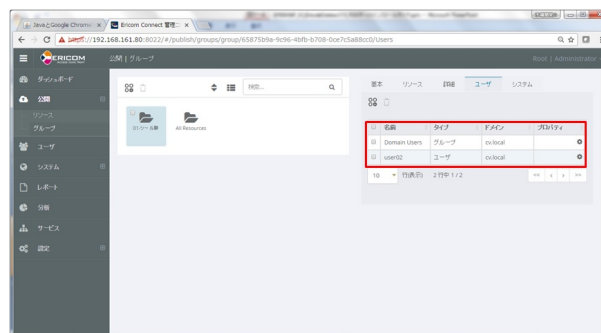
タイプ別(*)にアイテムを検索
ユーザ

すべて(すべてのドメイン)

<input type="checkbox"/>	名前	タイプ	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	user02	ユーザ	

10 行(表示) 1行中 1 / 1

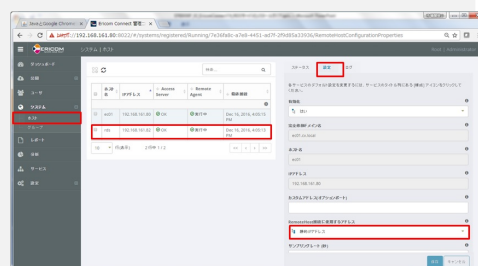
12. [01_ツール郡] グループにユーザ [user02] が追加されました。[Domain Users] に所属しているユーザと [user02] は MS ペイントが使用できるようになりました。





参考:

1. Connect サーバのデフォルト設定では、公開アプリケーションを起動する際に FQDN を使用して接続します。クライアント端末側で名前解決ができない場合は、新規追加したホストを選択し、[システム]-[ホスト]の [設定] タブより、「RemoteHost 接続に使用するアドレス」を「静的 IP アドレス」に変更します。



2. 「スキャンコードの有効化」が未設定の場合。左側メニューから [設定]-[デフォルト] から [詳細] タブを選択しスクロールさせ、設定項目一覧から「スキャンコードの有効化」を [はい] に変更します。変更後 [保存] をクリックし保存します。

※ 「Connect・RDS1 台同居インストールガイド」を参照し Connect サーバを構築された場合は、本設定は既に実施されています。

※ 有効化しない場合「半角/全角」キーなどが利用できないため、必ず設定してください。



6.1.3 ダブルブラウザ連携キットのインストールと設定

クライアントモジュール (ダブルブラウザ連携キット) を利用者端末へ配布する設定や管理について記載いたします。なお、ダブルブラウザ連携キットは、ファイルサーバ上から各利用者がダウンロードして利用する方式 (ClickOnce 方式) と、管理者による MSI インストーラ方式の 2 種類があります。各方式について、事前準備、ユーザ利用手順をご案内します。

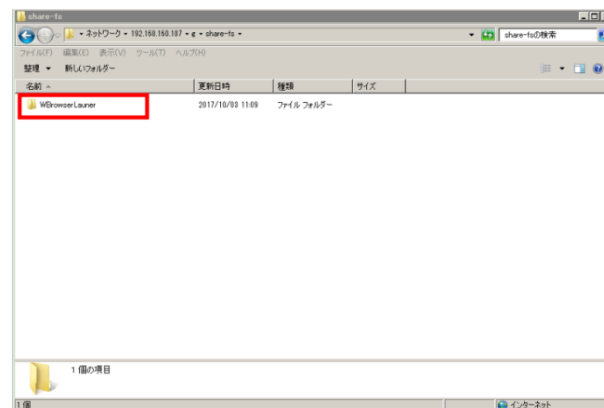
詳細につきましては、「管理者ガイド - ダブルブラウザ連携キット」をご覧ください。

ClickOnce 版

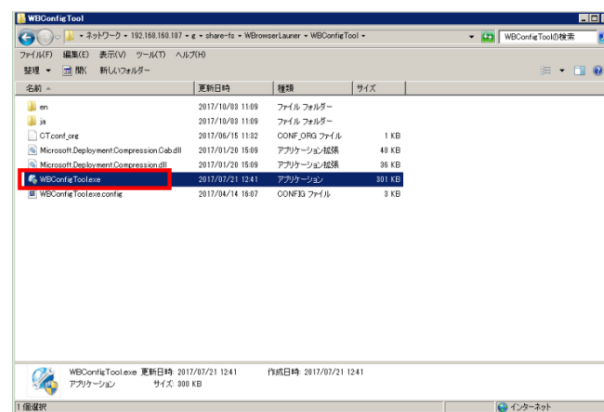
配布準備と設定

配布準備

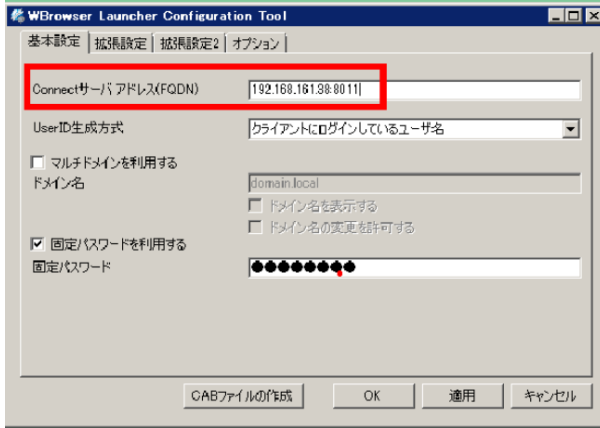
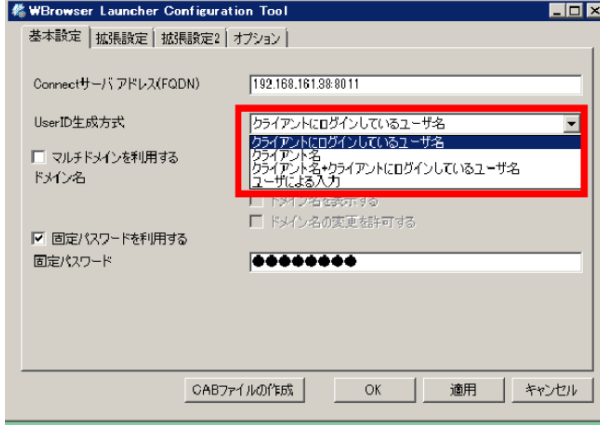
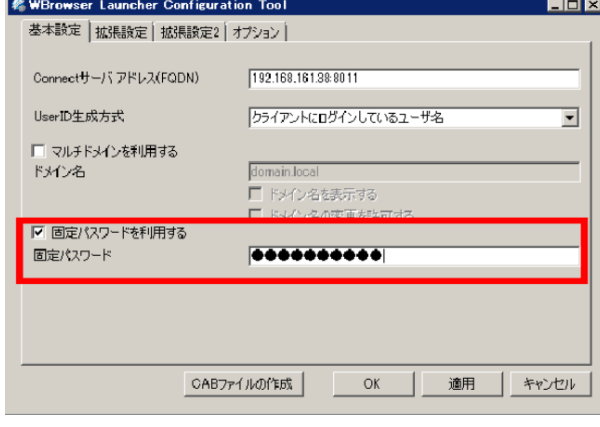
1. まず始めに、インストールモジュールの「連携キット」フォルダ内にある、「WBrowerLauncher.ZIP」を展開します。
展開された「WBrowerLauncher」フォルダを、利用者端末から参照可能なファイルサーバ上に保存します。



2. ファイルサーバ上に保存した「WBrowerLauncher」フォルダ内にある [WBConfigTool] - [WBConfigTool.exe] を起動します。



設定

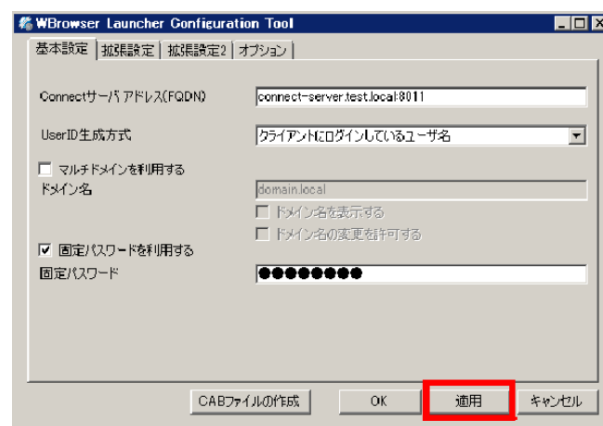
<p>1. WBrowser Launcher Configuration Tool が起動します。</p> <p>Connect サーバ接続アドレス (FQDN) を指定します。</p> <p>Connect サーバへの接続アドレスを下記の形式で指定してください。</p> <p style="text-align: center;">[FQDN 名 or IP アドレス]:8011</p> <p>※ Ericom Connect SecureGateway サーバを利用せず、直接 Connect サーバへ接続する場合、サーバアドレスの最後にポート : 8011 を指定します。</p>	
<p>2. 続いて、User ID 生成方式を指定します。</p> <p>プルダウンから、Connect サーバへ接続する際のログインユーザ方式を指定します。</p> <p>ここでは [クライアントにログインしているユーザ名] を指定します。</p>	
<p>3. 全ユーザ共通の固定パスワードを設定される場合、[固定パスワードを利用する] のチェックボックスを有効にして、ActiveDirectory にて設定されているパスワードを入力します。</p>	



参考:

連携キットによる SSO は、上記設定のように全ユーザ共通の固定パスワードを利用することで、擬似的に実現しています。それぞれの設定の違いについては、管理者ガイドを参照してください。

4. [適用] ボタンをクリックして、設定を反映します。

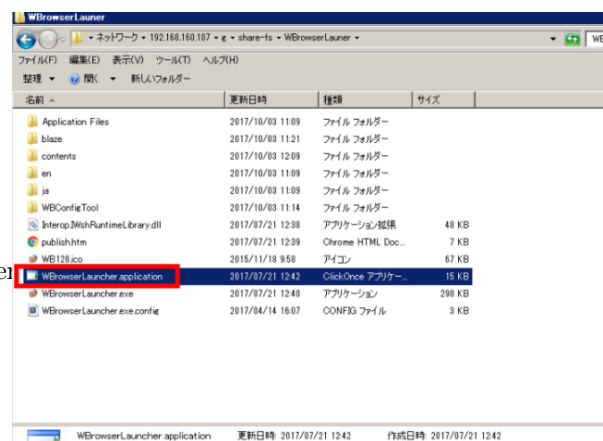


ユーザ端末へのインストールと利用

インストール

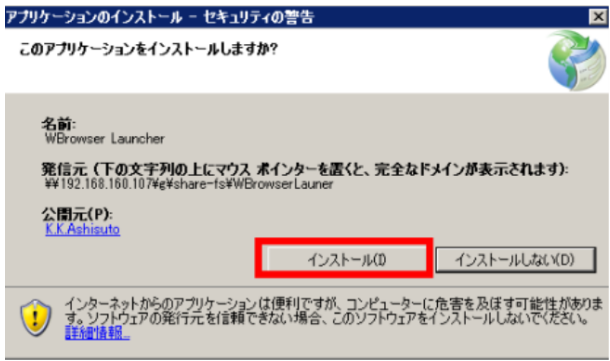
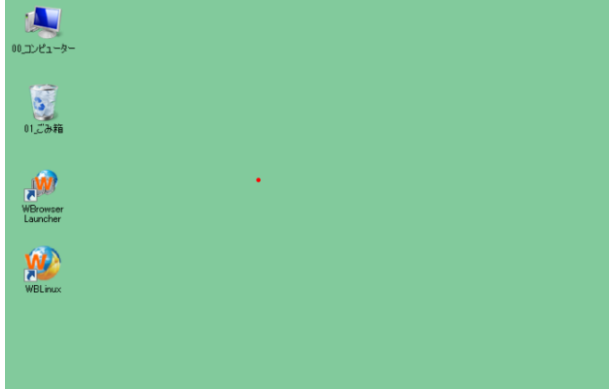
1. 利用者端末より、**配布準備と設定** (ページ 87) でファイルサーバに保存した .application ファイルを実行します。

例: \\(File Server)\WBrowerLauncher\WBrowerLauncher





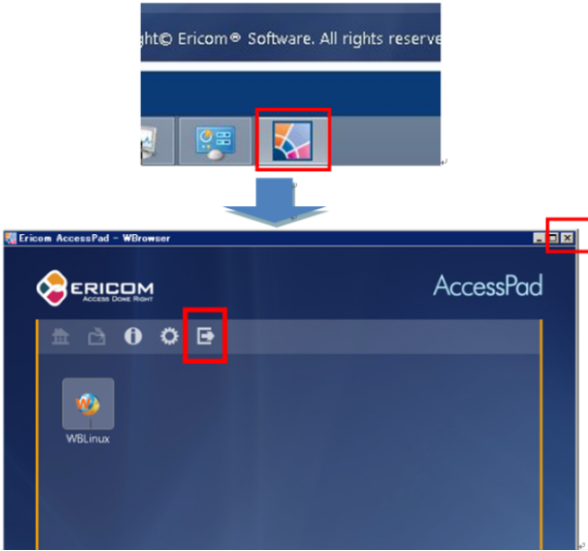

注意:

クライアント端末には、.NetFramework4.5.2 以上が必要です。詳しくは **ダブルブラウザ連携キット リリースノート** (ページ 39) をご確認ください。

<p>2. インストールのセキュリティ警告画面が表示されます。</p> <p>[インストール] ボタンをクリックして実行します。</p> <p>ファイルセキュリティの警告画面が表示されたら、[実行] をクリックして下さい。</p>	
<p>3. 正常にダウンロードして、シングルサインオンも正常に認証されると、利用者端末のデスクトップ上に、[WBrowser Launcher] と公開されたアプリケーションが表示されます。</p>	

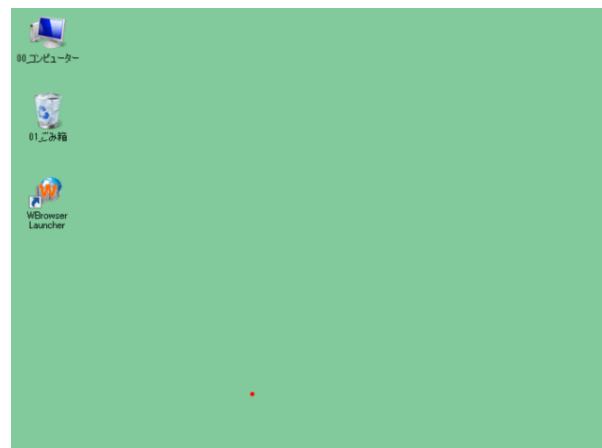
ユーザによる利用

<p>1. デスクトップ上の公開設定されたアプリケーションを実行すると、Blaze の画面が表示され、IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox ブラウザが起動されます。</p>	
--	--

<p>2. 終了時は仮想ブラウザにあるタブの [×] ボタンか、外枠の Ericom Blaze Client の [×] ボタンより終了します。</p>	
<p>3. デスクトップ上に表示されている公開設定された仮想ブラウザアイコンを削除したい場合、デスクトップのタスクバーに表示されている [Ericom AccessPad] アイコンを表示させ、右上の [×] ボタンか、ログアウトボタンをクリックします。</p>	
<p>4. ログアウトの確認画面が表示されましたら、[Logout] ボタンをクリックします。</p>	

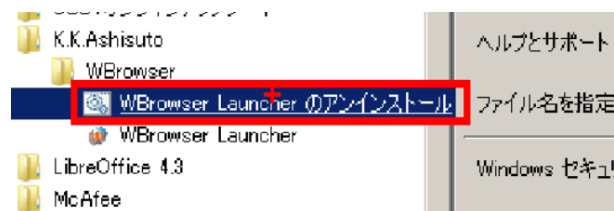
5. デスクトップ上の公開アプリケーションが削除されます。

通常は、初回ログオン時に自動起動しますが、ログオフしてしまった場合の次回起動時は、[WBrowser Launcher] アイコンをダブルクリックして起動します。

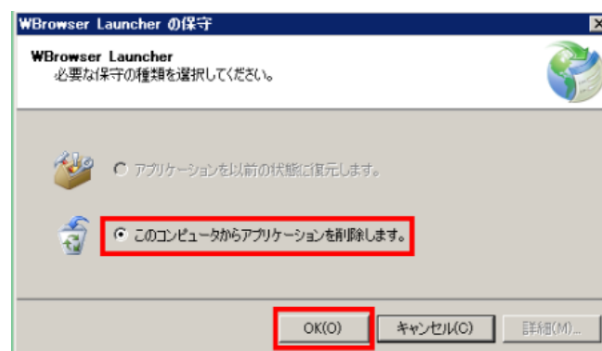


アンインストール

1. クライアント端末デスクトップより、[スタート] - [すべてのプログラム] - [K.K.Ashisuto] - [WBrowser] - [WBrowser Launcher のアンインストール] を実行します。



2. アプリケーションの削除を選択して、[OK] ボタンをクリックします。自動的にアンインストール処理が実行されます。



MSI 版

管理者端末へのインストールと設定

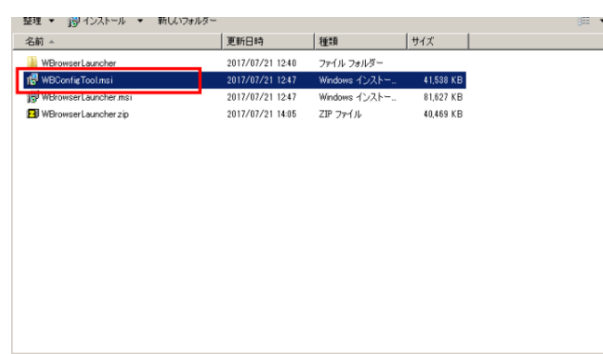
WBConfitTool のインストール



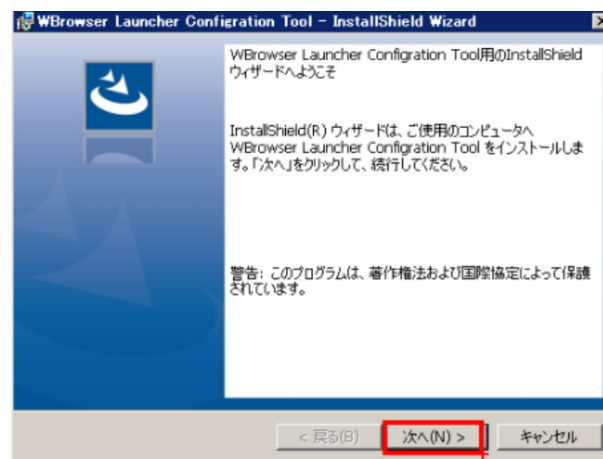
MSI のインストールには端末の管理者権限が必要です。

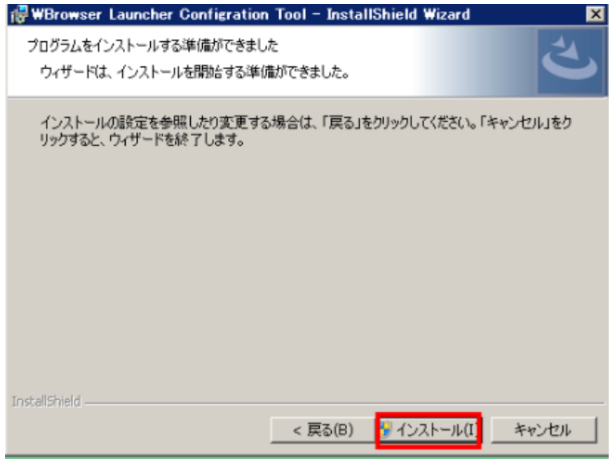

注意:

1. インストールモジュール内に保存されている「WBConfigTool.msi」を実行します。



2. インストーラーが起動したら、[次へ] をクリックします。



<p>3. [インストール] ボタンをクリックして、インストールを開始します。</p>	
<p>4. インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。</p>	

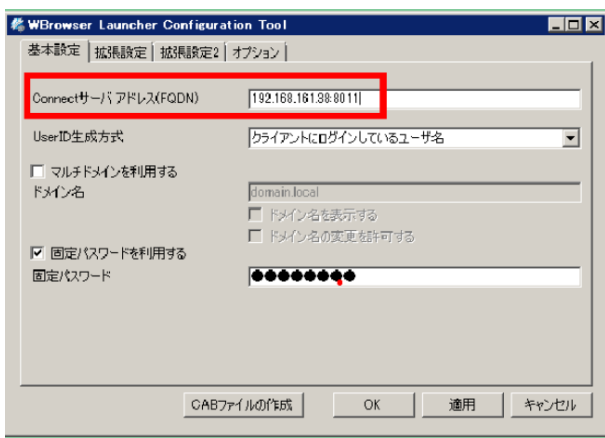
**Tips:**

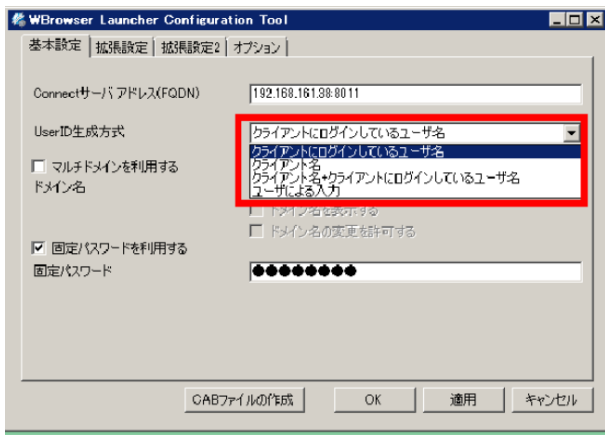
WBrower Launcher Configuration Tool は、下記のフォルダへインストールされます。

- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrower Launcher\

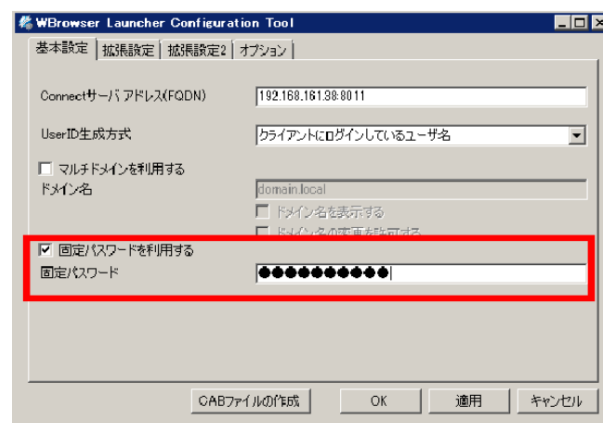
<p>5. 続いて、接続設定のファイルを作成します。</p> <p>スタートメニューの [K.K.Ashisuto] - [WBrowser] - [WBrowser Configuration Tool] を実行するか、「(インストールフォルダ)\WBConfigTool\WBConfigTool.exe」を起動します。</p>	 <p>A screenshot of the Windows Start menu search interface. The search term 'WBConfigTool.exe' is entered in the search bar. The results list includes 'WBConfigTool.exe' under the 'WBrowser' folder, which is highlighted with a red box. Other search results include various Microsoft Office and Windows SDK files.</p>
--	---

設定ファイルの作成

<p>1. WBrowser Launcher Configuration Tool が起動します。</p> <p>Connect サーバ接続アドレス (FQDN) を指定します。</p> <p>Connect サーバへの接続アドレスを下記の形式で指定してください。</p> <p style="text-align: center;">[FQDN 名 or IP アドレス]:8011</p> <p>※ Ericom Connect SecureGateway サーバを利用せず、直接 Connect サーバへ接続する場合、サーバアドレスの最後にポート : 8011 を指定します。</p>	 <p>A screenshot of the 'WBrowser Launcher Configuration Tool' dialog box. The 'Connectサーバアドレス(FQDN)' field is highlighted with a red box and contains the value '192.168.161.88:8011'. Other fields include 'User ID生成方式' (set to 'クライアントにログインしているユーザー名'), 'マルチドメインを利用する' (unchecked), 'ドメイン名' (set to 'domain.local'), and '固定パスワードを利用する' (checked).</p>
---	---

<p>2. 続いて、User ID 生成方式を指定します。</p> <p>プルダウンから、Connect サーバへ接続する際のログインユーザ方式を指定します。</p> <p>ここでは [クライアントにログインしているユーザ名] を指定します。</p>	 <p>A screenshot of the 'WBrowser Launcher Configuration Tool' dialog box. The 'User ID生成方式' dropdown menu is highlighted with a red box and shows the selected option 'クライアントにログインしているユーザー名'. Other options in the dropdown include 'クライアント名', 'クライアント名+クライアントにログインしているユーザー名', and 'ユーザー名入力'.</p>
---	--

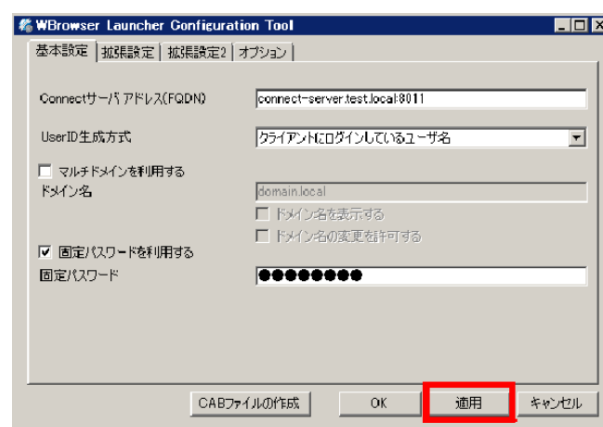
3. 全ユーザ共通の固定パスワードを設定される場合、[固定パスワードを利用する] のチェックボックスを有効にして、ActiveDirectory にて設定されているパスワードを入力します。



参考:

連携キットによる SSO は、上記設定のように全ユーザ共通の固定パスワードを利用することで、擬似的に実現しています。それぞれの設定の違いについては、管理者ガイドを参照してください。

4. [適用] ボタンをクリックして、設定を反映します。



設定ファイルの配布

1. クライアント端末に配布する設定ファイル (def.blaze、WB.conf) は、下記フォルダに保存されています。

(インストールフォルダ)\contents\def.blaze

(インストールフォルダ)\contents\WB.conf

2つの設定ファイルを各ユーザの「(インストールフォルダ)\contents」フォルダ内の設定ファイルと差し替えることで、設定が反映されます。

名前	更新日時	種類	サイズ
accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル	0 KB
blaze.cab	2017/07/03 13:16	CAB ファイル	33,899 KB
contentslist.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書	1 KB
debug	2017/04/14 16:07	ファイル	0 KB
def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル	2 KB
def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル	2 KB
WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル	3 KB
WBconf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル	3 KB

ユーザ端末へのインストールと利用

インストール

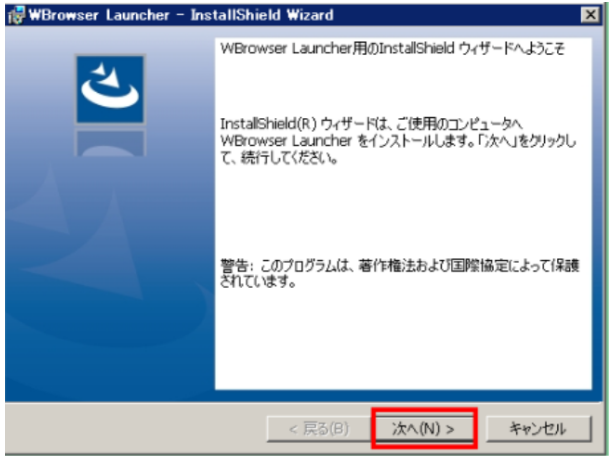



MSI のインストールには端末の管理者権限が必要です。

注意:

1. インストールモジュール内に保存されている「WBrowerLauncher.msi」を実行します。

名前	更新日時	種類	サイズ
WBrowerLauncher	2017/07/21 12:40	ファイル フォルダ	
WBConfigTool.msi	2017/07/21 12:47	Windows インスト...	41,538 KB
WBrowerLauncher.msi	2017/07/21 12:47	Windows インスト...	81,627 KB
WBrowerLauncher.zip	2017/07/21 14:05	ZIP ファイル	48,459 KB

<p>2. インストーラーが起動したら、[次へ] をクリックします。</p>	
<p>3. [インストール] ボタンをクリックして、インストールを開始します。</p>	
<p>4. インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。</p>	



WBrower Launcher は、下記のフォルダへインストールされます。

- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrower Launcher\

Tips:

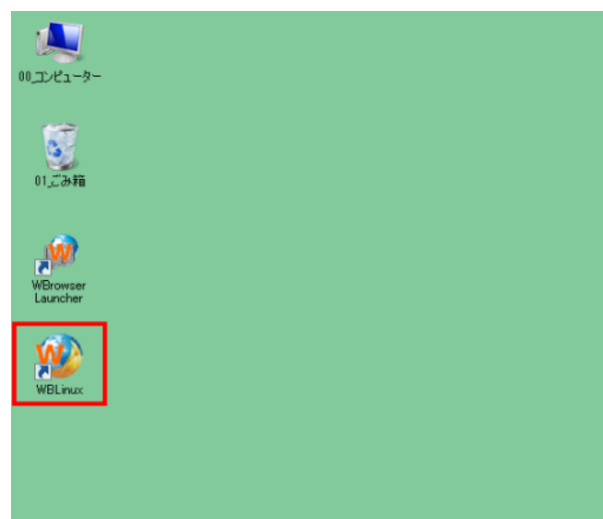
5. 以上でインストールは完了です。

管理者が設定された設定ファイル (def.blaze、WB.conf) を差し替えて接続して下さい。

名前	更新日時	種類
accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル
blaze.cab	2017/07/03 13:16	CAB ファイル
contentslist.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書
debug	2017/04/14 16:07	ファイル
def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル
def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル
WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル
WB.conf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル

6. 利用者がクライアント端末にログインすると自動ログインが実行されます。

ログインが完了すると、デスクトップ上の公開設定されたアプリケーションが表示されます。



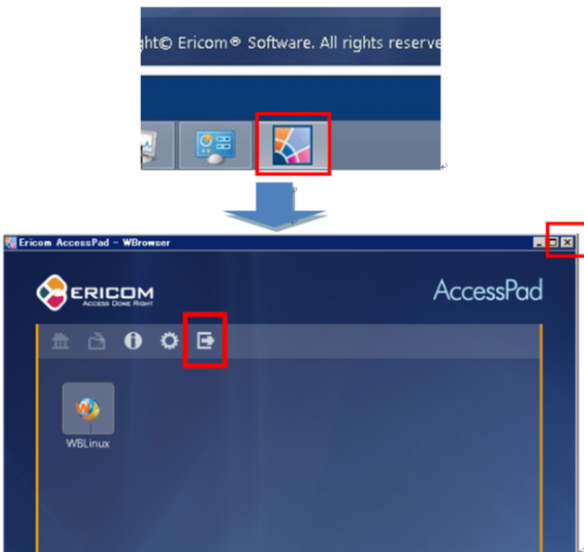

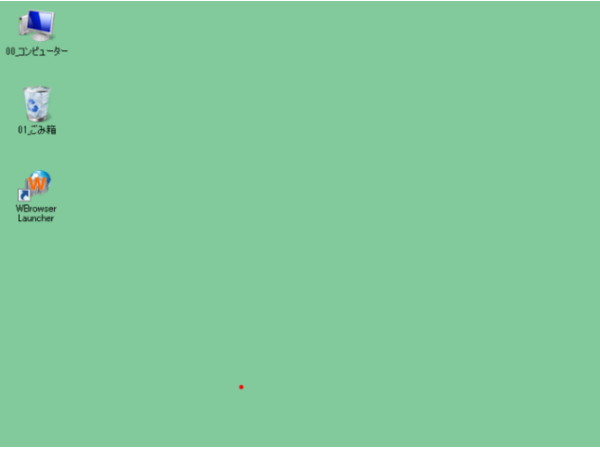
一般ユーザによる利用

1. デスクトップ上の公開設定されたアプリケーションを実行すると、Blaze の画面が表示され、IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox ブラウザが起動されます。




2. 終了時は仮想ブラウザにあるタブの [×] ボタンか、外枠の Ericom Blaze Client の [×] ボタンより終了します。



<p>3. デスクトップ上に表示されている公開設定された仮想ブラウザアイコンを削除したい場合、デスクトップのタスクバーに表示されている [Ericom AccessPad] アイコンを表示させ、右上の [×] ボタンか、ログアウトボタンをクリックします。</p>	
<p>4. ログアウトの確認画面が表示されましたら、[Logout] ボタンをクリックします。</p>	
<p>5. デスクトップ上の公開アプリケーションが削除されます。</p> <p>通常は、初回ログオン時に自動起動しますが、ログオフしてしまった場合の次回起動時は、[WBrowser Launcher] アイコンをダブルクリックして起動します。</p>	

アンインストール

<p>1. コントロールパネルを開き、[プログラムと機能]をクリックします。</p>	
<p>2. プログラム一覧から、[WBrower Launcher]をアンインストールします。</p>	
<p>3. アプリケーションの削除を実行するため、[はい]ボタンをクリックします。</p>	



管理者端末の場合、同様の手順でプログラムと機能より、「Wbrowser Launcher Configuration Tool」をアンインストールして下さい。

参考:

6.2Linux 版

6.2.1 Ericom Connect のインストール

事前準備

Ericom Connect の環境構築にあたり、事前に必要な設定を行います。以下、手順に沿って設定を行ってください。

Active Directory (以下 AD) ドメインの準備

Ericom Connect 環境は AD のドメインが必要となります。事前に以下の準備を行ってください。

- Connect サーバをドメインへ参加させる。
- Connect サーバのインストール作業用として、ドメイン管理者アカウントを用意する。
- 検証用に、テストユーザアカウントを必要数用意する。
- Connect サーバインストール用のアカウントに UPN(User Principal Name) を登録する。

※ RDS サーバを別立てする場合は、RDS サーバにも本手順を実施してください

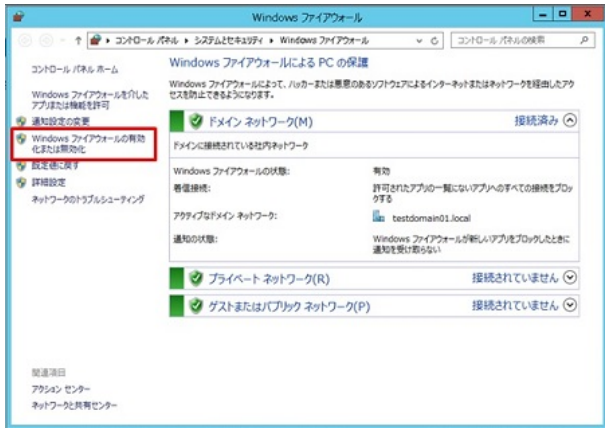
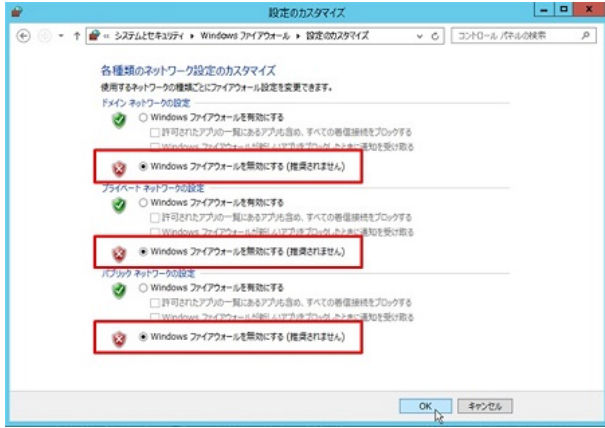
1. AD サーバの「Active Directory ユーザとコンピュータ」にて、ドメインの管理者権限を持つユーザに UPN が正しく登録されているか確認します。

※本手順では **Administrator** ユーザを使用しておりますが、**Administrator** ユーザの利用が難しい場合は、別途ドメインの管理者権限を持つユーザを作成し、利用してください。

The screenshot shows the 'Administratorのプロパティ' dialog box. The 'ユーザー ログオン名(U):' field is highlighted with a red box and contains 'administrator'. The 'ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)(W):' field contains 'Administrator'. The 'アカウント オプション(O):' section has several checkboxes, and the 'アカウントの期限' section has 'なし(N)' selected.

Windows ファイアウォールの受信規則

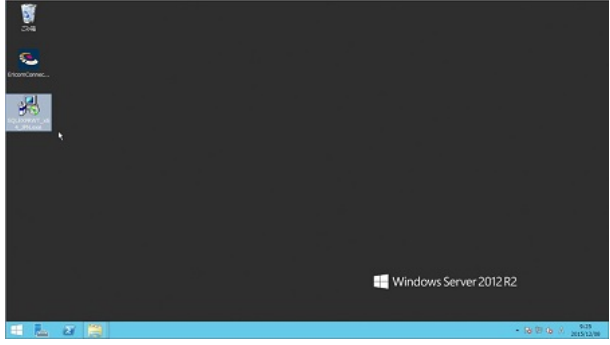
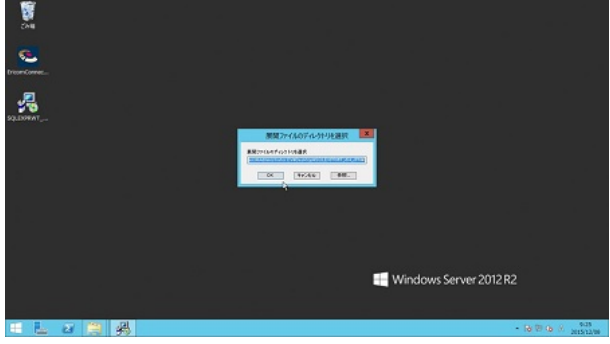
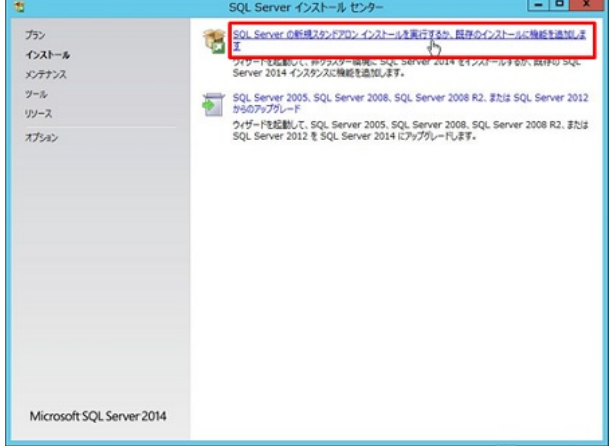
- Connect サーバにて作業を実施します。
- Connect サーバインストール時に必要なポートを自動で開放しますが、今回は検証目的のため、全てのポートを開放する手順にしています。
- Ericom Connect 環境で使用するポートについては、「Ericom Connect 管理者ガイド」の「DNS とポート (ページ 294)」をご参照下さい。
- ※ RDS サーバを別立てする場合は、RDS サーバにも本手順を実施してください

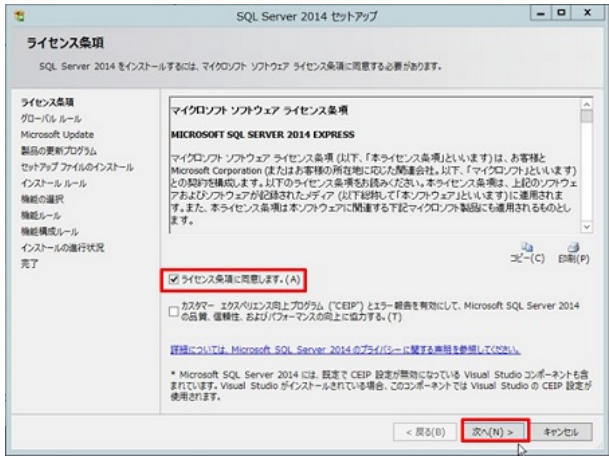
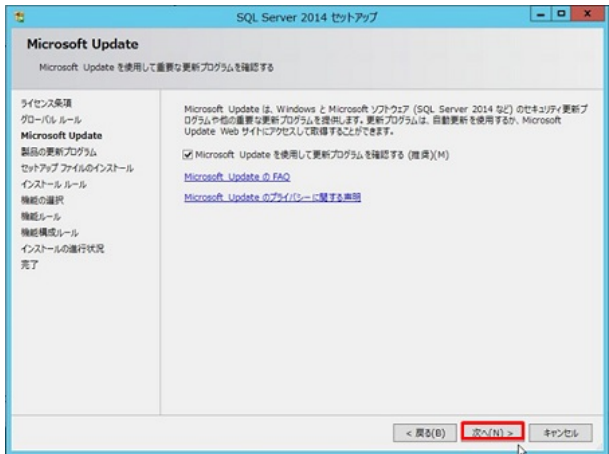

<p>1. [コントロールパネル] より、[Windows ファイアウォール] をクリックし、[Windows ファイアウォールの有効化または無効化] をクリックします。</p>	
<p>2. 今回は簡易に Connect サーバを構築することに重きを置き、疎通が確実に行えるよう [Windows ファイアウォールを無効にする] に設定します。</p>	

■ SQL Server の構成

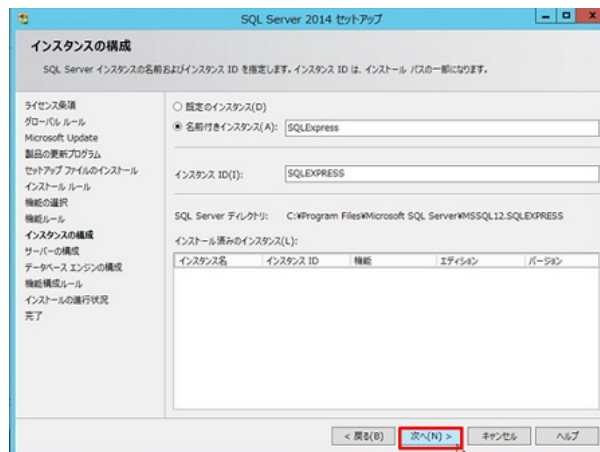
SQL Server のインストール

- Connect のインストールには、SQL Server 2012 以降 または SQL Server 2012 Express 以降が必要です。
- SQL Server には Connect のログ情報などが格納されます。
- 本手順では、SQL Server 2014 Express をインストールしています。
- SQL Server 2014 Express の稼働要件として、.NET Framework 3.5 SP1 および .NET Framework 4.0 以上が必要です。(Connect を同居させる環境は.NET Framework 4.5 以上 となります)
- インストーラは提供モジュールに含まれております。(Microsoft 社からダウンロードしたインストーラです)

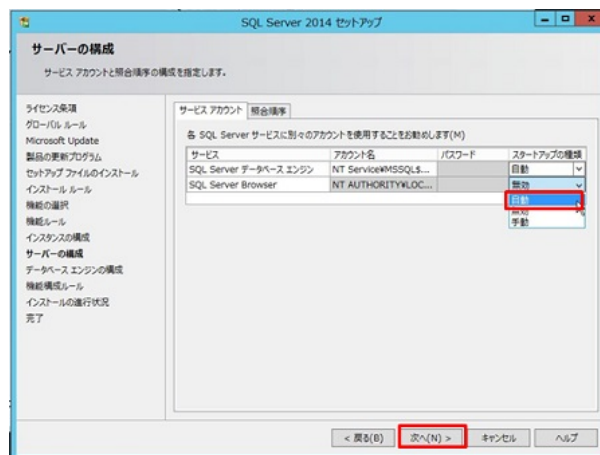
<p>1. SQL Server 2014 Express のインストーラを実行します。</p>	
<p>2. ファイルの展開先を指定できます。ここではデフォルトのまま進めます。</p>	
<p>3. インストールウィザードが開始されます。「新規インストール」の項を選択します。</p>	

<p>4. 「ライセンス条項に同意します。」にチェックをいれ、[次へ]をクリックします。</p>	
<p>5. [次へ]をクリックします。</p>	
<p>6. インストールする機能や、ルートディレクトリ等を変更できます。ここではデフォルト設定のまま[次へ]をクリックします。</p>	

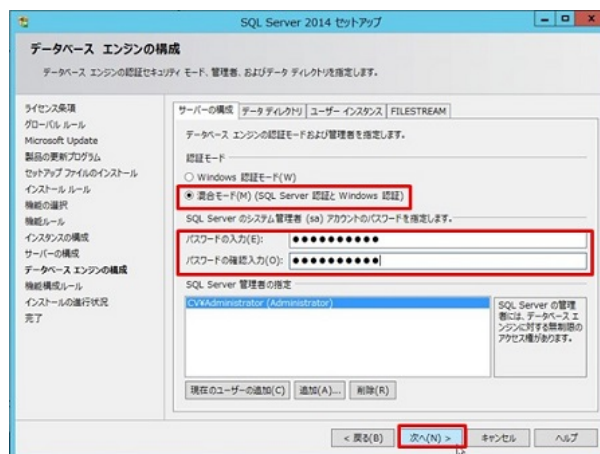
7. SQL Server のインスタンス名を変更できます。
ここではデフォルトのまま [次へ] をクリックします。



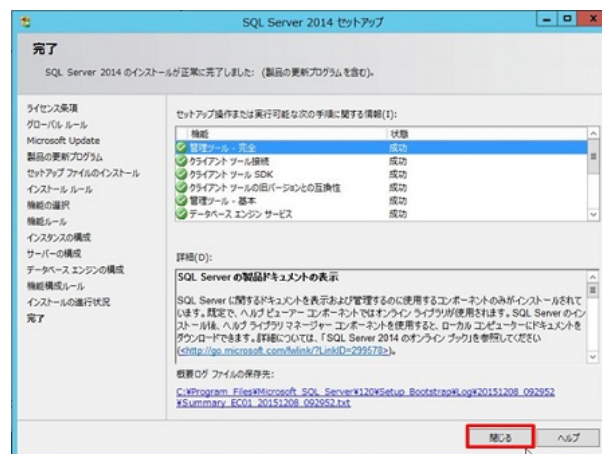
8. 「SQL Server Browser」サービスのスタートアップの種類を [自動] に変更し、[次へ] をクリックします。



9. 認証モードを「混合モード」に変更し、任意の sa アカウント用パスワードを入力します。[次へ] をクリックすると、SQL Server のインストールが開始します。



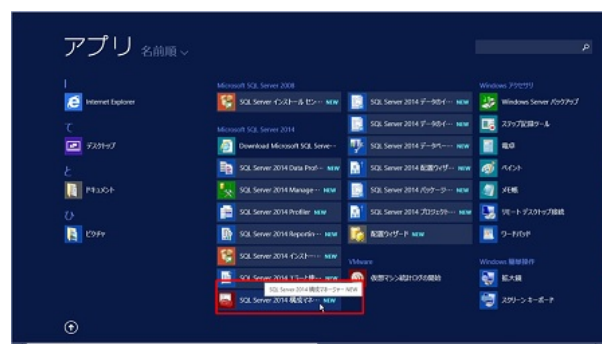
10. インストールが成功したことを確認し、[閉じる] をクリックします。



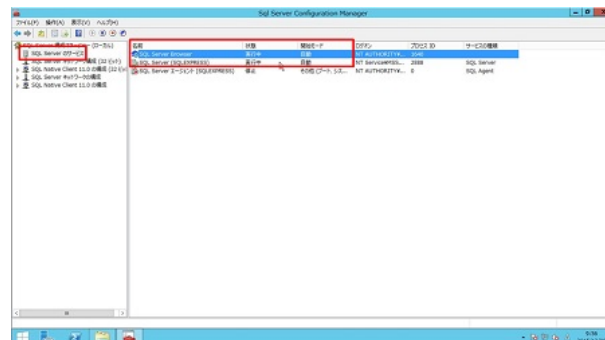
11. インストールセンター ウィンドウも閉じます。



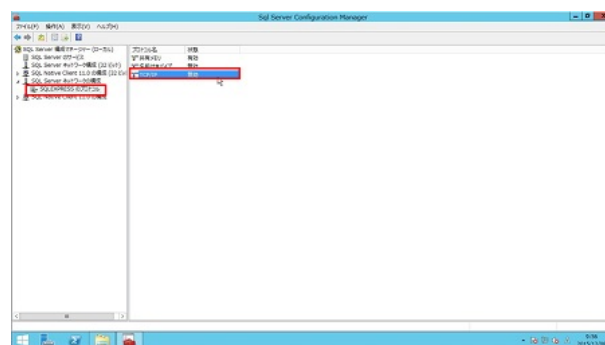
12. Windows スタートメニューより「SQL Server 2014 構成マネージャー」を起動します。



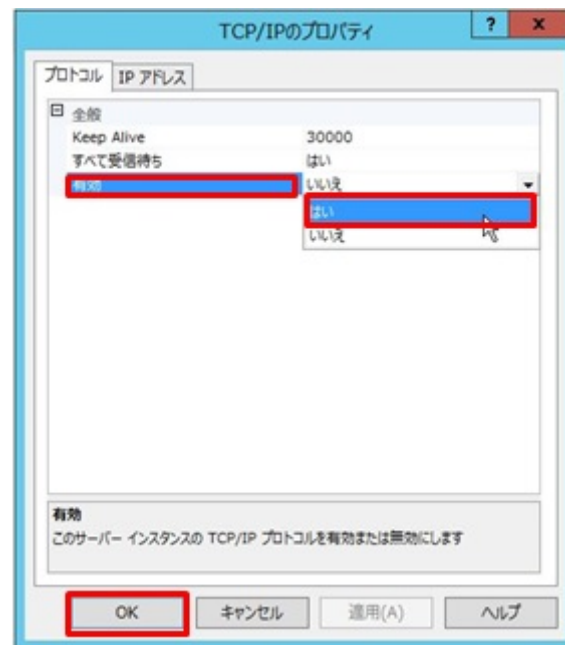
13. 左側ペイン [SQL Server のサービス] の「SQL Server Browser」および「SQL Server」の状態が「実行中」かつ開始モードが「自動」となっていることを確認します。

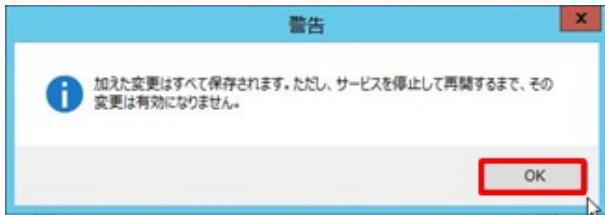
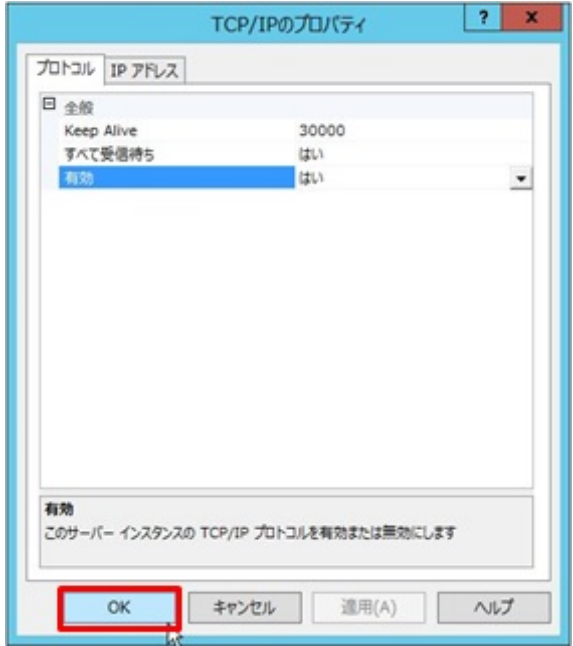
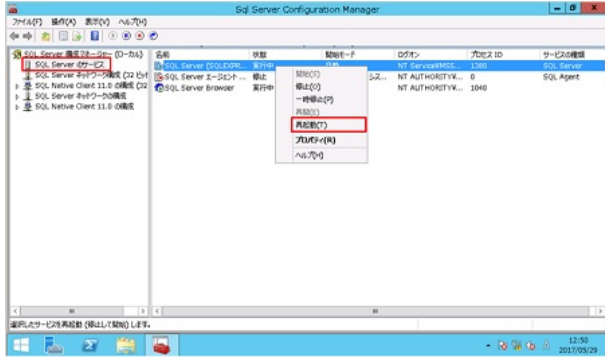


14. 左側ペイン [<SQL インスタンス名> のプロトコル] の「TCP/IP」をダブルクリックします。



15. [有効] の項目を「はい」に変更し、[適用] をクリックします。



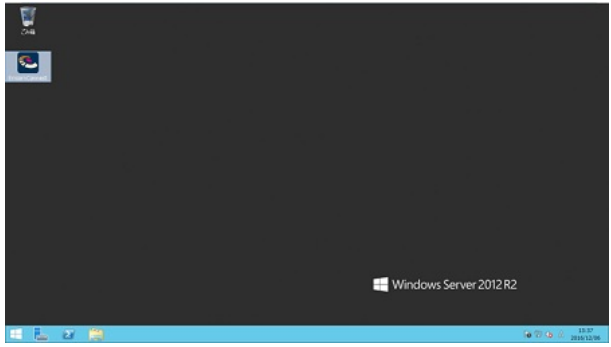
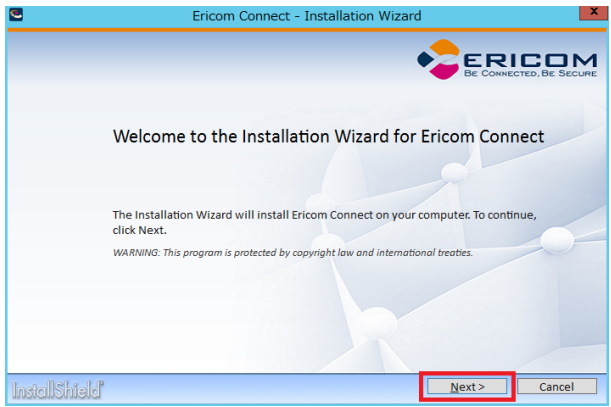
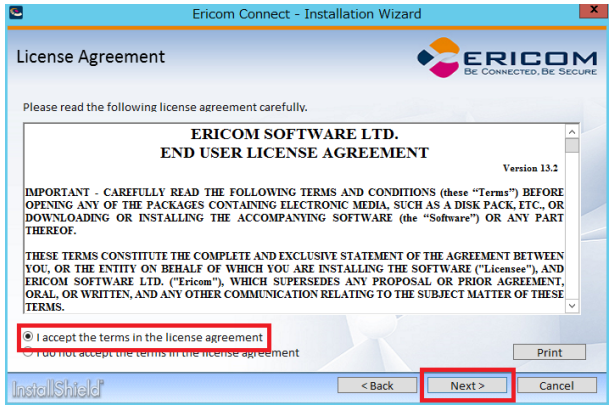
<p>16. サービスを再起動まで設定が反映されない旨の警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。</p>	 <p>A warning dialog box titled "警告" (Warning) with a blue header bar. It contains an information icon and the text: "加えた変更はすべて保存されます。ただし、サービスを停止して再開するまで、その変更は有効になりません。" (All added changes will be saved. However, the changes will not be effective until the service is stopped and restarted). There is an "OK" button at the bottom right, which is highlighted with a red rectangle.</p>
<p>17. [OK] をクリックし、プロパティを閉じます。</p>	 <p>The "TCP/IPのプロパティ" (TCP/IP Properties) dialog box. The "全般" (General) tab is selected. It shows settings for "Keep Alive" (30000), "すべて受信待ち" (Yes), and "有効" (Yes). At the bottom, there is a checkbox for "有効" (Enabled) which is checked. Below the checkbox is the text: "このサーバー インスタンスの TCP/IP プロトコルを有効または無効にします" (Enables or disables the TCP/IP protocol for this server instance). The "OK" button is highlighted with a red rectangle.</p>
<p>18. 設定を反映させるため、SQL Server のサービスを再起動します。左ペインの「SQL Server のサービス」をクリックし、右ペインの「SQL Server(SQLEXPRESS)」を右クリックして「再起動」を選択します。再起動が完了したら「SQL Server 2014 構成マネージャー」を閉じます。</p>	 <p>A screenshot of the "SQL Server Configuration Manager" window. The left pane shows "SQL Server のサービス" (SQL Server Services) expanded. The right pane shows the "SQL Server(SQLEXPRESS)" service selected. A context menu is open over the service, with the "再起動" (Restart) option highlighted with a red rectangle.</p>

■ Connect Server の構成

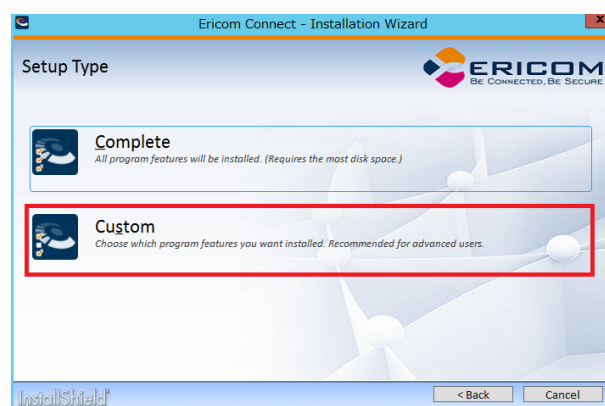
Connect のインストールとグリッドの作成

本項では、EricomConnect.exe を使用し、Connect のインストールおよびグリッドの作成を実施します。

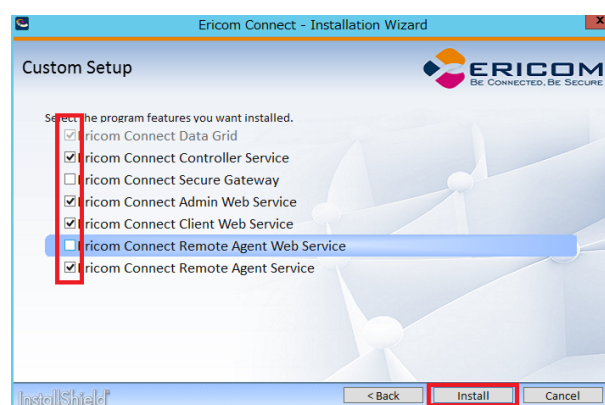
Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

<p>1. EricomConnect.exe を実行します。</p> <p>※ Connect の稼動には「.NET Framework 4.5.2」のインストールが必要です。Connect インストール前にインストールしてください。インストールメディア内の以下フォルダにインストーラーがございます。</p> <p>[.NET Framework 4.5.2] フォルダ</p>	 <p>The screenshot shows a Windows Server 2012 R2 desktop environment. The taskbar is visible at the bottom, and the system tray shows the date and time as 18:05 on 2/10/2016. The desktop background is dark with a few icons.</p>
<p>2. インストールウィザードが起動するので、[Next] をクリックします。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Ericom Connect - Installation Wizard' window. The title bar reads 'Ericom Connect - Installation Wizard'. The main content area says 'Welcome to the Installation Wizard for Ericom Connect' and 'The Installation Wizard will install Ericom Connect on your computer. To continue, click Next.' There is a 'Next >' button highlighted with a red box at the bottom right.</p>
<p>3. [I accept...] にチェックを入れ、[Next] をクリックします。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Ericom Connect - Installation Wizard' window at the 'License Agreement' step. The title bar reads 'Ericom Connect - Installation Wizard'. The main content area displays the 'ERICOM SOFTWARE LTD. END USER LICENSE AGREEMENT' with a scrollable text area. At the bottom, there are two radio buttons: 'I accept the terms in the license agreement' (which is selected and highlighted with a red box) and 'I do not accept the terms in the license agreement'. There is also a 'Next >' button highlighted with a red box at the bottom right.</p>

4. 「Custom」を選択します。



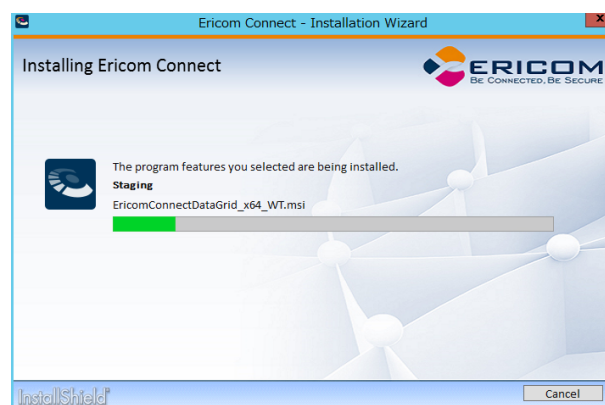
5. インストールするコンポーネントを選択します。
必要なコンポーネントをチェックして、
[Install] をクリックします。



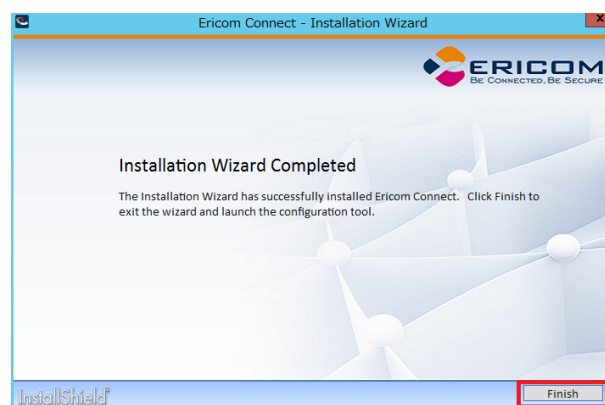
チェックする項目につきましては、「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考にしてください。

Tips:

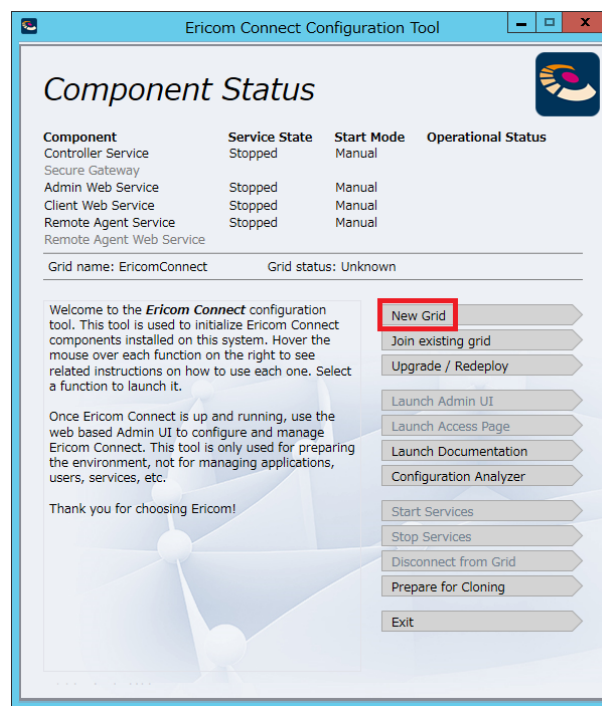
6. インストールが開始されます。終了まで数分かかります。



7. インストールが完了したら [Finish] をクリックし、ウィザードを終了します。



8. 「Ericom Connect Configuration Tool」が自動で起動するので、[New Grid] をクリックします。



9. 以下を設定し、[Initialize Database ...] をクリックします。

[Password]

Connect をインストールしたユーザのパスワードを入力

[Grid Name]

任意のグリッド名を入力 (※ Database Name と Database Admin にも反映されます)

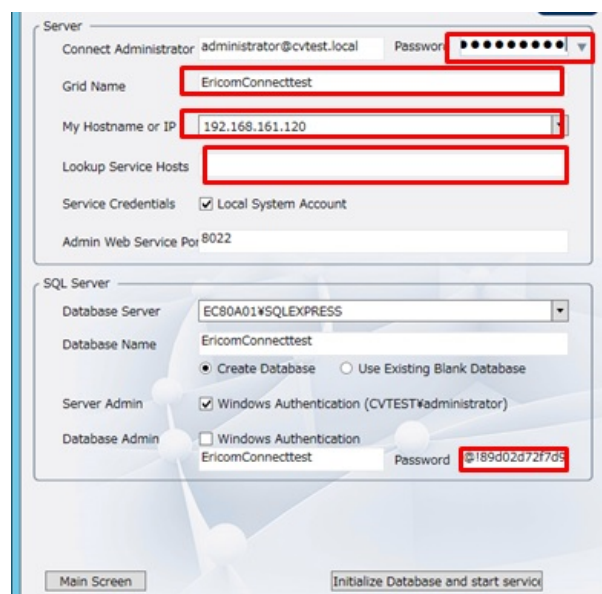
[My Host or IP]

アドレスが Connect サーバのアドレスと同一か確認

[Server User] の [Password]

任意の値に変更

※ Server User のアカウント及びパスワードはバージョンアップ時にも必要となります。



2 台目以降の Connect サーバを別セグメントに構築される場合 [Lookup Service Hosts] には、[自分自身の IP],[他サーバの IP] の順番で Connect サーバの IP アドレスをカンマ (,) 区切りで記述します。

(例)1 台目 : 「192.168.100.1,192.168.200.1」

2 台目 : 「192.168.200.1,192.168.100.1」

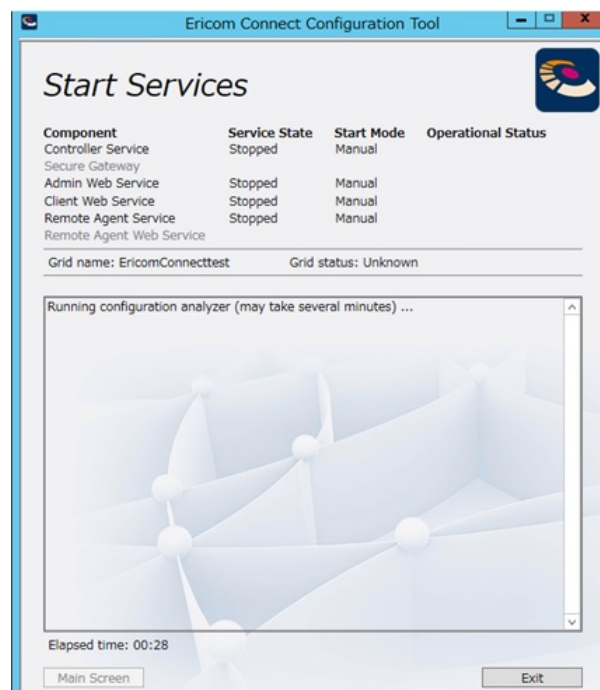


注意:

※ [Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシンで、可能な限り均一に設定する必要があります。

例えば Connect サーバ 2 台、RDS サーバ 4 台の 6 台で構成する場合、Connect 1 台と RDS サーバ 2 台が「192.168.100.1,192.168.200.1」、残り 3 台が「192.168.200.1,192.168.100.1」となるように設定します。

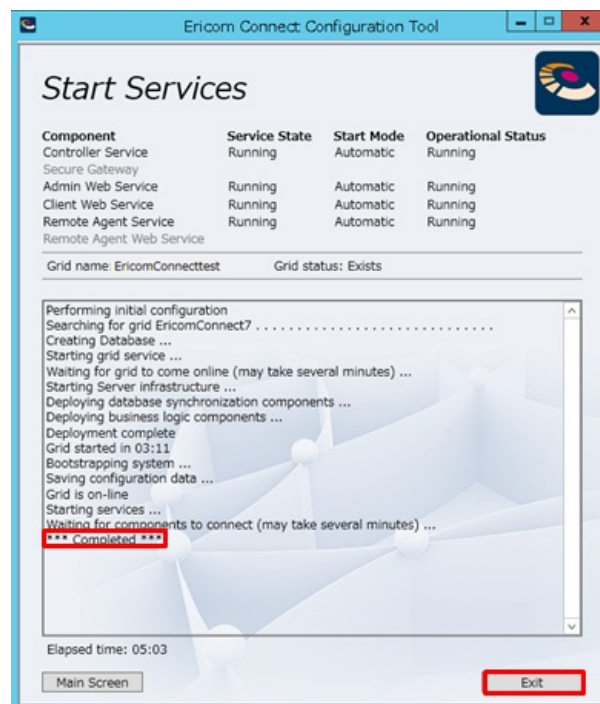
10. グリッドの作成が開始されます。



Tips:

Grid 作成時の画面で「Error: *** A grid named '(Grid 名)' already exists ***」というエラーで Grid 作成に失敗する場合があります。これは Grid 名のデータベース名が重複している場合のエラーですが、Connect インストール直後の場合、データベース名が重複していなくとも同エラーで Grid 作成が出来ない場合があります。このエラーが発生した場合はどのような場合でも再度 Grid を（データベース名が重複していない名前で）作成してください。

11. グリッド作成が正常終了した場合、
[Completed] と表示されます。[Completed] の
表示を確認後に [Exit] をクリックして
Configuration Tool を終了します。



6.2.2 IVEX ダブルブラウザ Linux のインストール

まずは事前作業をご確認いただき、その後は要件によりいずれかの手順をご確認ください。

- 全ての場合において実施/確認
 - － 事前作業
- CentOS 7.2/7.3 (カーネル 4.4) への通常インストール
- CentOS 7.4 への通常インストール
- RHEL 7.4 への通常インストール
 - － 標準的なインストール
- RHEL 7.3(物理サーバ) へのインストール
 - － KVM 構成でのインストール

事前作業

ホスト名の設定 (全環境)

1. ホスト名を確認します。

```
$ hostname
```



ベースとなる Linux サーバのホスト名は FQDN ではなく、コンピュータ名のみで設定をしてください。

警告: 変更が必要な場合、下記コマンドで変更可能です。

2. ホスト名を設定します。

※ 例として SERVERNAME と設定します。

```
$ sudo nmcli general hostname SERVERNAME
```

DNS の設定 (全環境 : Ericom Connect を利用する場合)

1. DNS の設定を確認します。

```
$ cat /etc/resolv.conf
```



ベースとなる Linux サーバが参加する AD を DNS サーバとして指定してください。
変更が必要な場合、下記コマンドで変更可能です。

Tips:

2. DNS サーバの指定を変更します。

※ 例として 192.168.0.*** と設定します。

```
$ sudo nmcli c m $(nmcli c s | grep -v UUID | cut -d' ' -f1) ipv4.dns 192.168.0.***  
$ sudo systemctl restart NetworkManager
```

3. DNS の設定を再確認します。

```
$ cat /etc/resolv.conf
```

xfsprogs アップデート (全環境)

1. xfsprogs のバージョンを確認します。

```
$ xfs_info -V
```



バージョンが 4.5.0 以上の場合は下記の更新手順は必要ありません。

参考:

2. xfsprogs の更新を行います。

```
$ sudo yum install xfsprogs
```

PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ sudo -E yum install xfsprogs
```

psmisc のインストール (全環境)

1. psmisc がインストール済みかを確認します。

```
$ rpm -qa | grep psmisc
```



psmisc がインストール済みの場合は下記の導入手順は必要ありません。

参考:

2. psmisc の導入を行います。

```
$ sudo yum install psmisc
```

PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ sudo -E yum install psmisc
```

カーネルアップデート (CentOS 7.2/7.3)



注意:

CentOS/RHEL 7.4 の場合や RHEL7.3 で KVM 構成を取る場合は、下記手順は必要ありません。

1. カーネルのバージョンを確認します。

```
$ uname -r
```



バージョンが 4.4 の場合は下記の更新手順は必要ありません。

参考:

2. カーネルパッケージのインストールを行います。

```
$ sudo rpm --import https://www.elrepo.org/RPM-GPG-KEY-elrepo.org  
$ sudo rpm -Uvh http://www.elrepo.org/elrepo-release-7.0-2.el7.elrepo.noarch.rpm  
$ sudo yum install --enablerepo=elrepo-kernel kernel-lt  
$ sudo cp -p /etc/yum.repos.d/elrepo.repo /etc/yum.repos.d/elrepo.repo.org  
$ sudo sed -i -e "s/enabled=1/enabled=0/g" /etc/yum.repos.d/elrepo.repo
```


PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/
$ sudo -E rpm --import https://www.elrepo.org/RPM-GPG-KEY-elrepo.org
$ sudo -E rpm -Uvh http://www.elrepo.org/elrepo-release-7.0-2.el7.
↳elrepo.noarch.rpm
$ sudo -E yum install --enablerepo=elrepo-kernel kernel-lt
$ sudo cp -p /etc/yum.repos.d/elrepo.repo /etc/yum.repos.d/elrepo.
↳repo.org
$ sudo sed -i -e "s/enabled=1/enabled=0/g" /etc/yum.repos.d/elrepo.
↳repo
```

オフラインで作業する場合には、下記のようにパッケージをダウンロードし、インストールしてください。



Tips:

入手先例: http://www.ftp.ne.jp/Linux/RPMS/elrepo/kernel/el7/x86_64/RPMS/
 パッケージ例: kernel-lt-4.4.1-1.el7.elrepo.x86_64.rpm

```
$ sudo rpm -ivh kernel-lt-4.4.1-1.el7.elrepo.x86_64.rpm
```

3. 起動カーネルの一覧を確認します。

※最初の行が 0 行目です。

カーネルバージョンが最新のものの行をご確認ください。

```
$ sudo awk -F\' ' $1=="menuentry " {print $2}' /etc/grub2.cfg
```

4. 起動したいカーネルの行番号を指定します。

※最初の行 (0 行目) を指定する場合の例

```
$ sudo grub2-set-default 0
```

5. 起動ファイルに反映し再起動して下さい。

※最初の行 (0 行目) を指定する場合の例

```
$ sudo grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg  
$ sudo shutdown -r now
```

標準的なインストール

IVEX ダブルブラウザ Linux のインストール (1 台目)

1. ダブルブラウザ Linux のインストールモジュールを Linux サーバ上の任意の場所にコピーして、展開します。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2. 展開されたインストーラを実行します。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```



注意:

インストーラの実行はインストーラと同じディレクトリに移動し、相対パスで実行してください。

3. インストールの途中で、どの IP アドレスを利用するか選択する画面が表示されます。
IVEX ダブルブラウザ Linux でプロファイルの同期に利用する IP アドレスを番号で指定して下さい。

どの IP を利用しますか？

1: 192.268.***.***

番号で指定してください: 1

192.168.***.*** を設定しました。

**Tips:**

設定した IP アドレスを変更する場合、`/opt/IVEX/WBrowser/ip.conf` を修正します。複数台構成の場合、その他にも `rsync` の設定ファイルを変更する必要があります。詳しくはサポートまでお問い合わせください。

**参考:**

IVEX ダブルブラウザ Linux でクライアントからの接続と、Ericom Connect との通信に利用される IP アドレスはベース OS の一番若い NIC のアドレスです。

4. インストールが下記のように進行し、「インストールし、起動しました」の出力に続き、Usage が表示されます。

```
2018/01/01-09:00:33 サービスを開始しています。
Created symlink from /etc/systemd/system/multi-user.target.wants/WBrowser.service to ~
2018/01/01-09:00:33 ベースシステムのマウント
2018/01/01-09:00:34 ワーク領域のマウント
2018/01/01-09:00:34 動作環境のマウント
2018/01/01-09:00:38 ユーザ分離用領域のマウント
success
success
success
success
success
success
success
public
  interfaces: ens32
  sources: 192.168.0.0/16 10.0.0.0/8 172.16.0.0/12
2018/01/01-09:00:47 サービスの起動
IP:**.**.**.** で実行します。
2018/01/01-09:00:48 シンクロサービスを起動します。
  * Starting rsync daemon rsync
    ...done.
2018/01/01-09:00:49 AD 連携サービスを起動します。
  * Starting PBIS Service Manager: lwsmd
    ...done.
2018/01/01-09:00:51 印刷 (cups) サービスを起動します。
  * Starting Common Unix Printing System cupsd
    ...done.
  * cupsd is running
2018/01/01-09:00:52 アンチウイルスサービスを起動します。
2018/01/01-09:00:52 RDP サービスを起動します。
2 [2889] [init:46] libscp initialized
  * xrdp-sesman is running
  * xrdp is not running
  * Starting ClamAV virus database updater freshclam
  * xrdp-sesman is running
  * xrdp is not running
  * xrdp-sesman is running
  * xrdp is not running
  * xrdp-sesman is running
  * xrdp is running
2018/01/01-09:00:54 Ericom サービスを起動します。
started
  ...done.
  * Starting ClamAV daemon clamd
sh: echo: I/O error
Starting service ... Service started
2018/01/01-09:00:57 起動しました。
LibClamAV Warning: *****
LibClamAV Warning: *** The virus database is older than 7 days! ***
LibClamAV Warning: *** Please update it as soon as possible. ***
LibClamAV Warning: *****
```

5. Linux サーバを Connect 管理用の AD サーバへ登録します。

登録完了後、サーバを再起動します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ad-adddomain < administrator@yourdomain.local >  
$ sudo shutdown -r now
```

6. 再起動後、Ericom Connect へ Linux マシンを登録する設定を行います。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-connect < Connect サーバの IP アドレス >
```

「/usr/local/bin/WBrowser ericom-connect」コマンドでエラーが発生した場合、一度下記コマンドで切断してから、再度接続を試みて下さい。



Tips:

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-disconnect
```

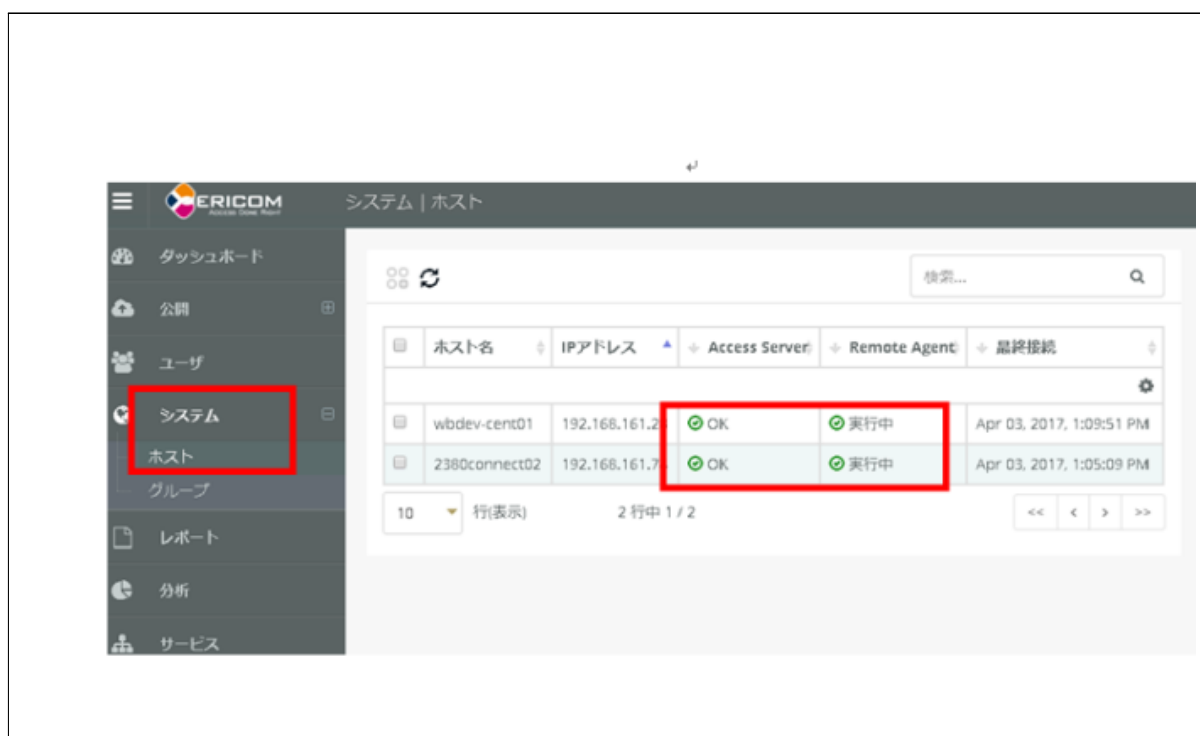
Disconnecting from grid.

Will this system be reconnected to the same Tenant in the future? (y/n) n

※ 「n」で応答してください。

7. Connctet 管理コンソールへログインし、[システム] - [ホスト] の画面を開きます。

サーバステータス一覧の中に、新規登録した Linux サーバが追加登録されます。登録された Linux サーバの「Access Server」と「Remote Agent」が、それぞれ「OK」、「実行中」と表示されていることをご確認ください。



IVEX ダブルブラウザ Linux サーバの追加 (2 台目以降)

1. 1 台目と同じ手順で、IVEX ダブルブラウザ Linux を新規インストールします。
2. 2 台目の Linux サーバ上で、既存のグループへ参加するコマンドを実行します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo <1 台目の IP アドレス>
```



3 台目以降はグループ化されているサーバであれば、どのサーバの IP アドレスを指定しても結構です。

Tips:

KVM 構成でのインストール

IVEX ダブルブラウザ Linux のインストール (1 台目)

1. ダブルブラウザ Linux のインストールモジュールを Linux サーバ上の任意の場所にコピーして、展開します。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2. 展開されたインストーラを実行します。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```

3. インストールの途中で、KVM の利用を確認するメッセージが表示されます。
[yes] と入力し KVM でのセットアップを進めてください。

```
メーカーにて KVM を使用しないセットアップが  
出荷時にテストされていないカーネルです。  
KVM セットアップを行いますか? [yes/no] yes  
この環境のカーネル (4.4 以前) でご利用の場合には、KVM(仮想環境) のご利用が必要です。  
KVM をセットアップしてよろしいでしょうか? [yes/no] yes
```

4. KVM のセットアップが完了すると、下記のようなメッセージが表示され、ゲストへの設定とインストールを指示されます。

IVEX ダブルブラウザ Linux 用のマシンが準備されました。

★ 最初に、KVM 環境のコンソールへ接続し、`nmtui` コマンド等で、ホスト名、IP アドレス、参照先 DNS の設定をしてください。

KVM 環境のコンソールへの接続

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-console
```

初期アカウント「user」パスワード「user」でログインできます。

ホスト名、IP アドレス、参照先 DNS の設定後、ログインしたディレクトリにてインストールを続けてください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```

5. 指示に従い、KVM のコンソールへ接続し、user アカウントでログインします。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-console
```

IVEX ダブルブラウザ Linux 用の仮想マシンのコンソールに接続します。
接続後に何も表示されない場合には Enter キーを押してください。
初期アカウント「user」パスワード「user」でログインできます。
エスケープ文字 (Ctrl を押しながらか) を押す) で切断できます。

```
ドメイン WBrowser に接続しました  
エスケープ文字は ^] です
```

```
CentOS Linux 7 (Core)  
Kernel 3.10.0-693.el7.x86_64 on an x86_64
```

```
wbrowser01 login: user  
パスワード:
```

6. 事前作業 (ページ 117) を参考に、ゲストのホスト名、DNS サーバ設定、を行います。

7. 続いて、IP アドレスの設定を行います。

```
$ sudo nmcli c m eth0 ipv4.method manual
$ sudo nmcli c m eth0 ipv6.method ignore
$ sudo nmcli c m eth0 ipv4.addresses 192.168.***.***/24
$ sudo nmcli c m eth0 ipv4.gateway 192.168.***.***
$ sudo systemctl restart network
$ sudo systemctl restart NetworkManager
```

8. IPv6 を無効にするため、下記設定を実施してください。

```
$ sudo vi /etc/sysctl.conf

<下記を追記>
net.ipv6.conf.all.disable_ipv6 = 1
net.ipv6.conf.default.disable_ipv6 = 1

$ sudo sysctl -p
```

以降、ゲストに設定した IP アドレスに対して SSH で接続して作業していただくことも可能です。
また、この後の手順は標準的なインストールと同様となります。

9. user のホームディレクトリに展開されたインストーラを実行します。

```
$ cd ~
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```

10. インストールの途中で、どの IP アドレスを利用するか選択する画面が表示されます。
IVEX ダブルブラウザ Linux でプロファイルの同期に利用する IP アドレスを番号で指定して下さい。

どの IP を利用しますか？

1: 192.168.***.***

番号で指定してください: 1

192.168.***.*** を設定しました。



Tips:

設定した IP アドレスを変更する場合、`/opt/IVEX/WBrowser/ip.conf` を修正します。複数台構成の場合、その他にも `rsync` の設定ファイルを変更する必要があります。詳しくはサポートまでお問い合わせください。



参考:

IVEX ダブルブラウザ Linux でクライアントからの接続と、Ericom Connect との通信に利用される IP アドレスはベース OS の一番若い NIC のアドレスです。

11. Linux サーバを Connect 管理用の AD サーバへ登録します。

登録完了後、サーバを再起動します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ad-adddomain < administrator@yourdomain.local >
$ sudo shutdown -r now
```

12. 再起動後、Ericom Connect へ Linux マシンを登録する設定を行います。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-connect < Connect サーバの IP アドレス >
```

「/usr/local/bin/WBrowser ericom-connect」 コマンドでエラーが発生した場合、一度下記コマンドで切断してから、再度接続を試みて下さい。



Tips:

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-disconnect
```

Disconnecting from grid.

Will this system be reconnected to the same Tenant in the future? (y/n) n

※ 「n」 で応答してください。

13. Connctet 管理コンソールへログインし、[システム] - [ホスト] の画面を開きます。

サーバステータス一覧の中に、新規登録した Linux サーバが追加登録されます。登録された Linux サーバの「Access Server」と「Remote Agent」が、それぞれ「OK」、「実行中」と表示されていることをご確認下さい。

ホスト名	IPアドレス	Access Server	Remote Agent	最終接続
wbdev-cent01	192.168.161.2	OK	実行中	Apr 03, 2017, 1:09:51 PM
2380connect02	192.168.161.7	OK	実行中	Apr 03, 2017, 1:05:09 PM

IVEX ダブルブラウザ Linux サーバの追加 (2 台目以降)

1. 1 台目と同じ手順で、IVEX ダブルブラウザ Linux を新規インストールします。

2. 2 台目の Linux サーバ上で、既存のグループへ参加するコマンドを実行します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo <1 台目の IP アドレス>
```



3 台目以降はグループ化されているサーバであれば、どのサーバの IP アドレスを指定しても結構です。

Tips:

■ プロファイルを NFS サーバで共有する構成でのインストール

IVEX ダブルブラウザ Linux のインストール (1 台目)

1. ダブルブラウザ Linux のインストールモジュールを Linux サーバ上の任意の場所にコピーして、展開します。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2. 展開されたインストーラを実行します。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer install-with-nfs
```

3. インストールの途中で、どの IP アドレスを利用するか選択する画面が表示されます。
IVEX ダブルブラウザ Linux でプロファイルの同期に利用する IP アドレスを番号で指定して下さい。

```
どの IP を利用しますか？  
1: 192.168.***.***  
  
番号で指定してください: 1  
192.168.***.*** を設定しました。
```



設定した IP アドスを変更する場合、`/opt/IVEX/WBrowser/ip.conf` を修正します。

Tips:



IVEX ダブルブラウザ Linux でクライアントからの接続と、Ericom Connect との通信に利用される IP アドレスはベース OS の一番若い NIC のアドレスです。

参考:

4. NFS サーバをマウントするために、一度サービスを停止します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```

5. /etc/fstab に例示のように NFS サーバをマウントする設定を追記し、NFS サーバをマウントします。

```
$ sudo vi /etc/fstab
```

設定例：「192.168.0.100:/exports」部分は環境に合わせて変更してください。

```
192.168.0.100:/exports /var/opt/IVEX/WBrowser/home/ nfs nfsvers=3,rw,sync,hard,  
↪intr 0 0
```

```
$ sudo mount /var/opt/IVEX/WBrowser/home/
```



NFSv4 には対応していません。v3 でマウントしてください。

注意:

6. サービスを再開します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
```

この後の手順は標準的なインストールと同様となります。

7. Linux サーバを Connect 管理用の AD サーバへ登録します。

登録完了後、サーバを再起動します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ad-adddomain < administrator@yourdomain.local >  
$ sudo shutdown -r now
```

8. 再起動後、Ericom Connect へ Linux マシンを登録する設定を行います。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-connect < Connect サーバの IP アドレス >
```



Tips:

「/usr/local/bin/WBrowser ericom-connect」コマンドでエラーが発生した場合、一度下記コマンドで切断してから、再度接続を試みて下さい。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-disconnect
```

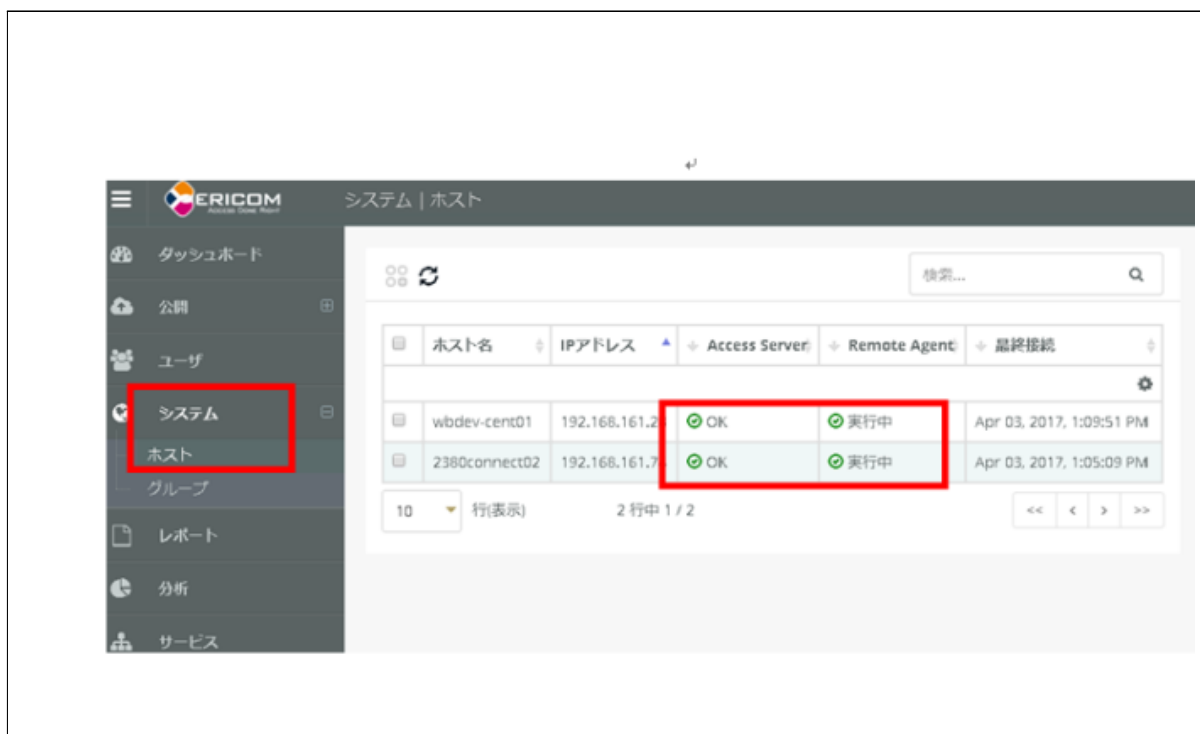
Disconnecting from grid.

Will this system be reconnected to the same Tenant in the future? (y/n) n

※ 「n」で応答してください。

9. Connctet 管理コンソールへログインし、[システム] - [ホスト] の画面を開きます。

サーバステータス一覧の中に、新規登録した Linux サーバが追加登録されます。登録された Linux サーバの「Access Server」と「Remote Agent」が、それぞれ「OK」、「実行中」と表示されていることをご確認下さい。



IVEX ダブルブラウザ Linux サーバの追加 (2 台目以降)

1. 1 台目と同じ手順で、IVEX ダブルブラウザ Linux を新規インストールします。

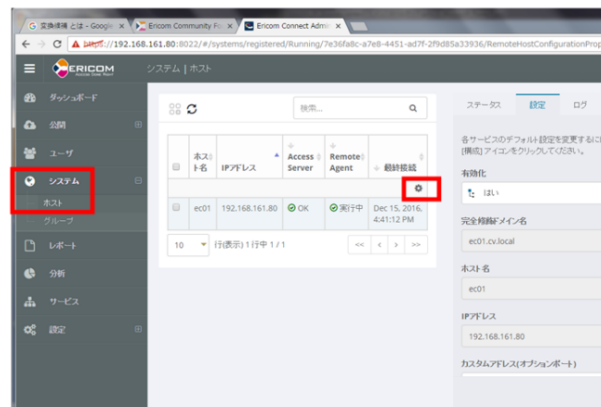
6.2.3 ダブルブラウザの公開設定

RemoteHostAgent 接続設定

クライアント端末から IVEX ダブルブラウザ Linux サーバへ Blaze 接続する際に、Linux サーバの IP アドレス情報を用いて接続させるための設定変更を行います。この設定変更を行わない場合、デフォルトで Linux サーバの FQDN 名を用いて接続を試みますので、名前解決できない環境では接続に失敗してしまいます。

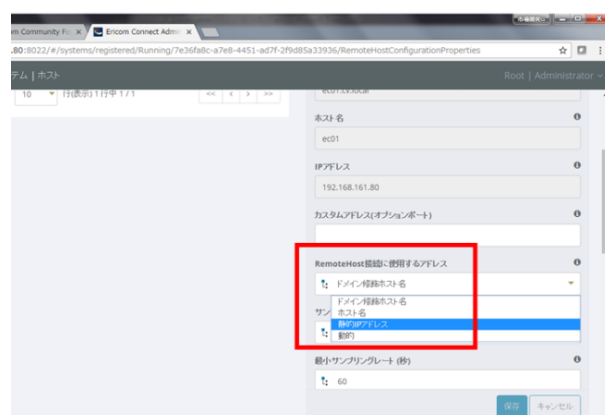
1. Connect 管理コンソールへログインして、左側のナビゲーションパネルより、[システム] - [ホスト] を選択します。

真ん中のプライマリパネルより、全ての Linux サーバへ設定を反映させるために、歯車アイコンをクリックします。

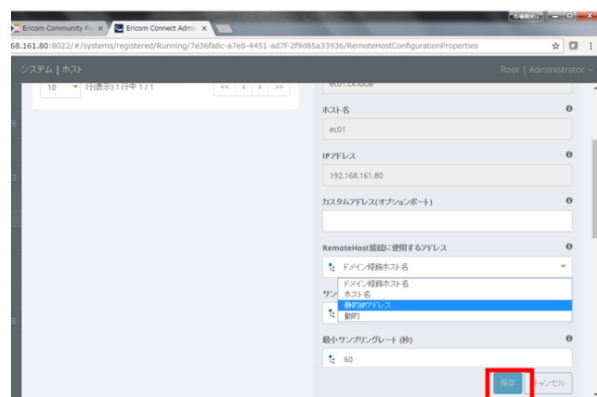


2. 右側の詳細パネルより、[設定] タブを選択します。

[RemoteHost 接続に使用するアドレス] よりプルダウンから、[静的 IP アドレス] を選択します。



3. 最後に [保存] ボタンをクリックして設定を反映します。



サーバグループの設定

IVEX ダブルブラウザ Linux サーバを Connect サーバへ追加後、追加したサーバをサーバグループに追加する手順について記載します。複数の IVEX ダブルブラウザ Linux サーバは、このサーバグループ単位で、ユーザセッションの負荷分散を行います。



Tips:

デフォルトでは全てホストが自動的に登録されている「All remote hosts for Root」が存在しますが、運用/管理の利便性を考慮し、新しいグループを作成していただくことをお勧めします。

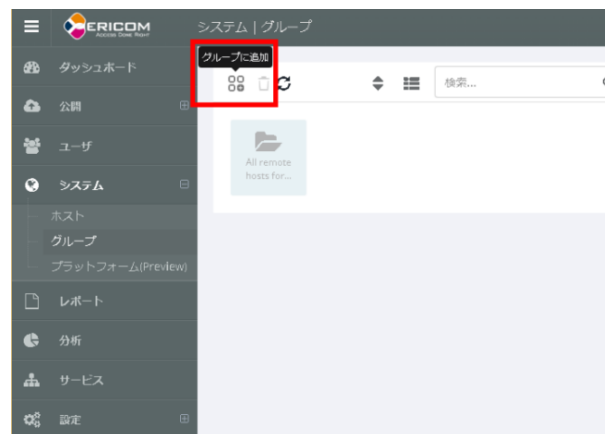
1. Connect 管理コンソールへログインして、左側のナビゲーションパネルより、[システム] - [グループ] を選択します。

真ん中のプライマリパネルより、[All remote hosts for Root] グループを選択します。

右側の詳細パネルより、[設定] タブを選択し、[有効化] のプルダウンから、[いいえ] を選択し、[保存] ボタンをクリックします。

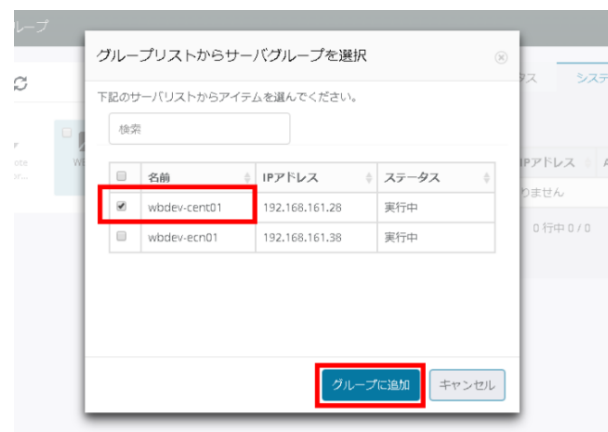


2. 真ん中のプライマリパネルより、[グループに追加] をクリックします。

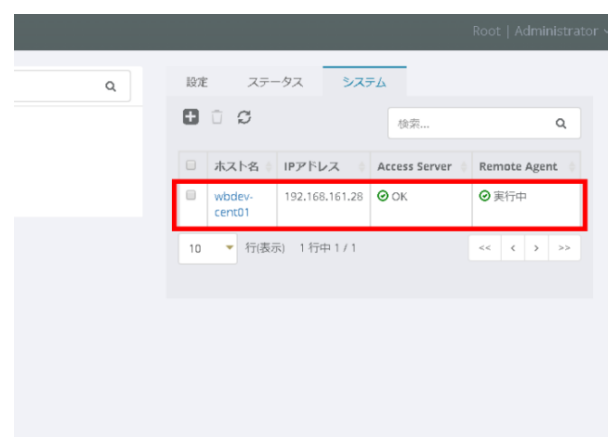


<p>3. [新しいグループを作成] 画面では、任意のグループ名を入力して、[作成] ボタンをクリックします。</p>	
<p>4. 新規グループが作成されましたら、新規作成されたグループが選択されていることを確認し、右側の詳細パネルより [システム] タブをクリックします。</p>	
<p>5. [グループに追加] をクリックします。</p>	

6. [グループリストからサーバグループを選択] 画面にて、新規作成したグループに追加対象の IVEX ダブルブラウザ Linux サーバを選択して、チェックボックスを有効にします。選択後、[グループに追加] ボタンをクリックします。



7. グループが新規追加されました。右側の詳細ペインの [システム] に、追加された IVEX ダブルブラウザ Linux サーバの登録が確認できます。



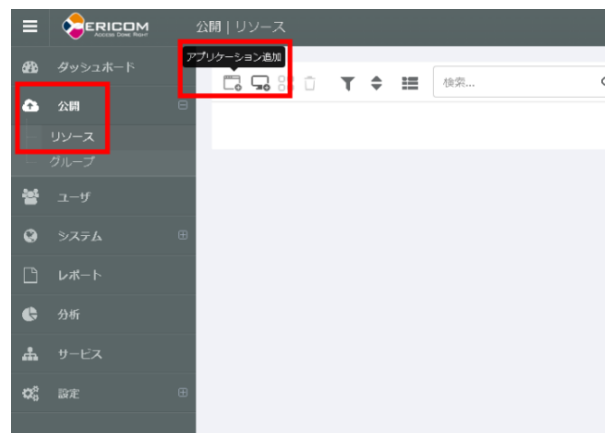
注意:

IVEX ダブルブラウザ Linux と Connect サーバの通信を切断した場合、このグループ内のマシンは使用不可となることがあります。IVEX ダブルブラウザ Linux から再接続した場合に、グループ内のサーバが「永久に切断」などのステータスになったままの場合、接続不可となったマシンを一旦削除していただき、対象のサーバグループにサーバを再登録してください。

アプリケーション公開

1. Connect 管理コンソールへログインして、左側のナビゲーションパネルより、[公開] - [リソース] を選択します。

真ん中のプライマリパネルより、[アプリケーション追加] をクリックします。

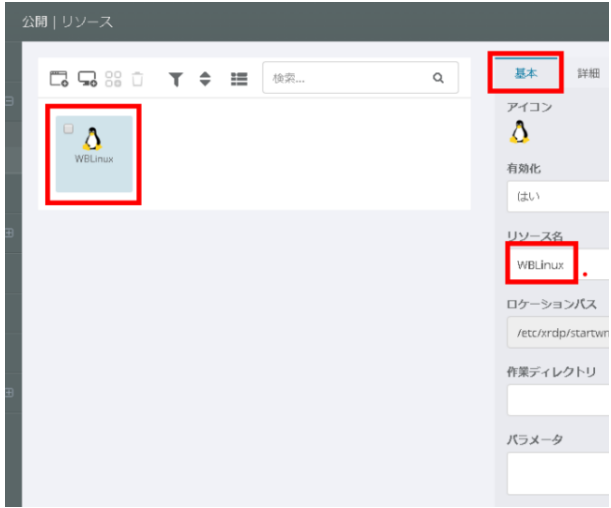



注意:

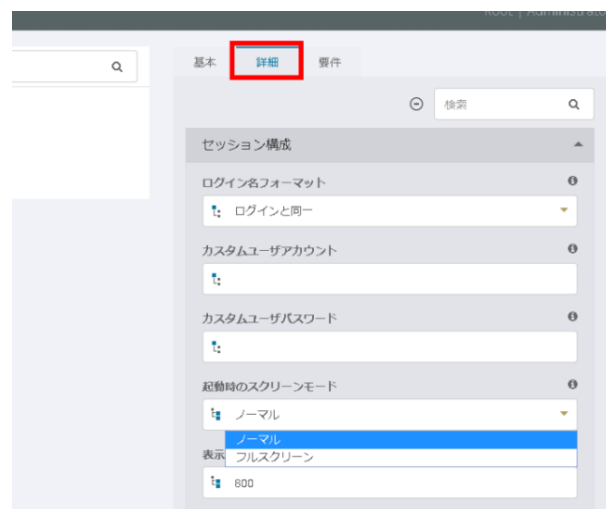
EricomConnect8.1 に対応した、IVEX ダブルブラウザ Linux2.1.0 より、「アプリケーション追加」での公開手順となっています。以前のバージョンでは「デスクトップ追加」での登録となっておりました。ご注意ください。

2. [新しいアプリケーションまたはデスクトップを追加します] では、[サーバ上のアプリケーションのフルパスを入力] に `/etc/xrdp/startwm.sh` と入力し、[追加] ボタンをクリックします。



<p>3. 真ん中のプライマリパネルに、新規にアプリケーションのアイコンが追加されます。</p> <p>右側の詳細パネルより、[基本] タブを選択し、リソース名を変更します。このリソース名が、利用者に表示されるアイコン名となります。</p>	
<p>4. 続いて、[デスクトップショートカットアイコン] を [はい] に 変更します。</p> <p>利用者端末のデスクトップ上に、このアイコンが配布されます。</p> <p>[保存] ボタンをクリックして、設定を反映します。</p>	

5. 右側の詳細パネルより、[詳細] タブをクリックします。



6. 詳細設定の [セッション構成] - [起動時のスクリーンモード] を選択して、プルダウンよりダブルブラウザ起動時の動作を下記より選択します。

● [フルスクリーン]

- デスクトップ全体に Linux ブラウザ画面起動

● [ノーマル]

- 指定画面サイズで Linux ブラウザ画面起動

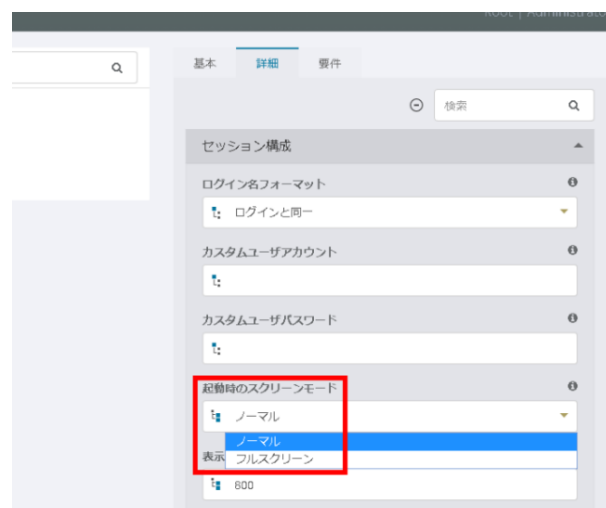
※ノーマルモードを指定する場合、その下の

設定項目にある [表示幅] と [表示高] に表示に最適なサイズをご指定下さい。

(参考例) 1024*768 の画面サイズの場合

[表示幅] : 1024

[表示高] : 768



注意:

1366x768 の画面解像度の端末の場合、上部の Blaze ツールバーが隠れてしまう事象が発生します。その場合、1366x768 以下の最適なサイズをご指定下さい。

7. 続いて、[リダイレクト構成] – [クリップボードリダイレクトの有効化] を設定します。

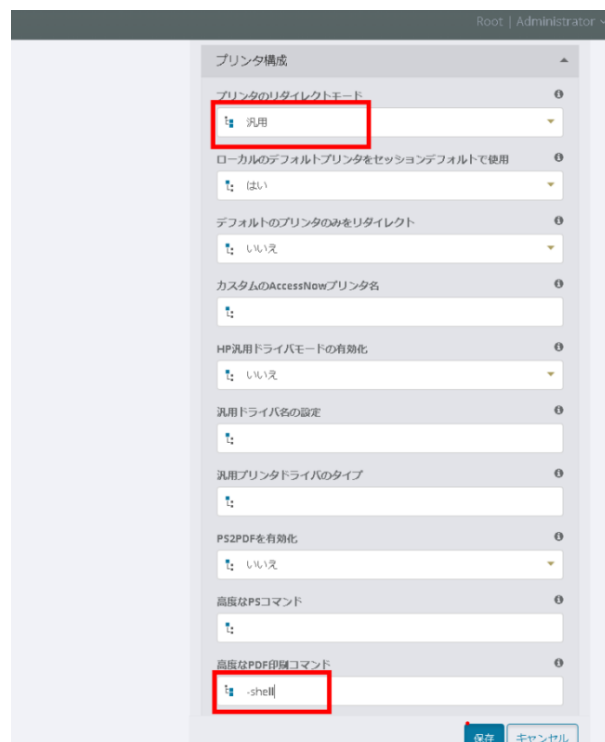
こちらは、お客様のご要件に合わせてプルダウンから選択してご設定して下さい。



8. 続いて、[プリンタ構成] – [プリンタのリダイレクトモード] を設定します。

こちらも、お客様のご要件に合わせて設定ください。

プリンタのリダイレクトを有効とする場合、[汎用] を選択し、[高度な PDF 印刷コマンド] において [-shell] を設定してください。



注意:

[-shell] は文字化け防止のため、クライアント PC で PDF に変換してから印刷する設定です。本機能利用のためにはクライアントに Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。また、Adobe Acrobat Reader をはじめてインストールした場合は、一度起動した上でライセンス規約に「同意する」ボタンを押下する必要がありますのでご注意ください。

9. [保存] ボタンをクリックして、設定を反映します。	
------------------------------	--

アプリケーショングループの設定

公開アプリケーションと、サーバグループ、利用ユーザの紐付けをアプリケーショングループで行います。



Tips:

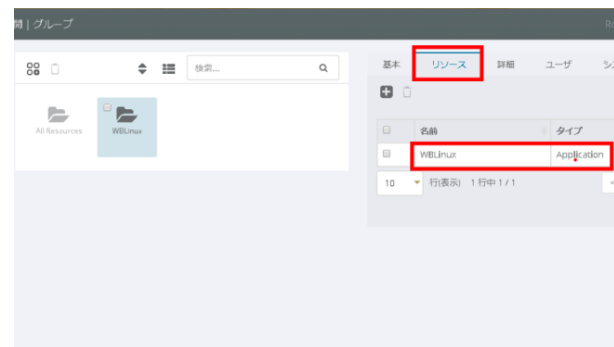
デフォルトでは全てのアプリケーション、全てのホスト、が自動的に登録されている「All Resources」が存在しますが、運用/管理の利便性を考慮し、新しいグループを作成していただくことをお勧めします。

<p>1. 左側のナビゲーションパネルより、[公開] - [グループ] を選択します。</p> <p>真ん中のプライマリパネルより、[All Resources] グループを選択します。</p> <p>右側の詳細パネルより、[設定] タブを選択し、[有効化] のプルダウンから、[いいえ] を選択し、[保存] ボタンをクリックします。</p>	
<p>2. 真ん中のプライマリパネルより、[グループ追加] をクリックします。</p>	

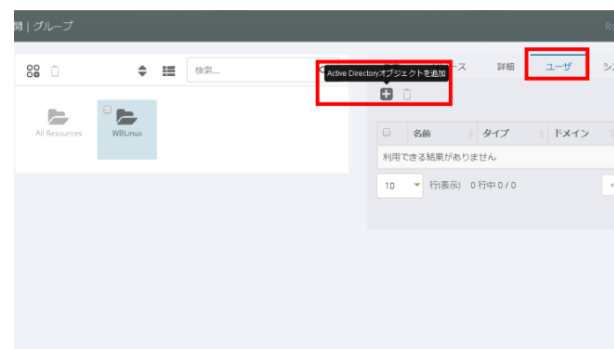
3. 新規グループ名を入力し、[アプリケーション] タブから追加したいアプリケーションのチェックボックスを有効にし、[作成] ボタンをクリックします。



4. 真ん中のプライマリパネルに、先ほど追加したグループが存在することを確認し、右側の詳細パネルより、[リソース] タブを選択します。
リストに先ほど追加設定したアプリケーションが追加されていることをご確認下さい。

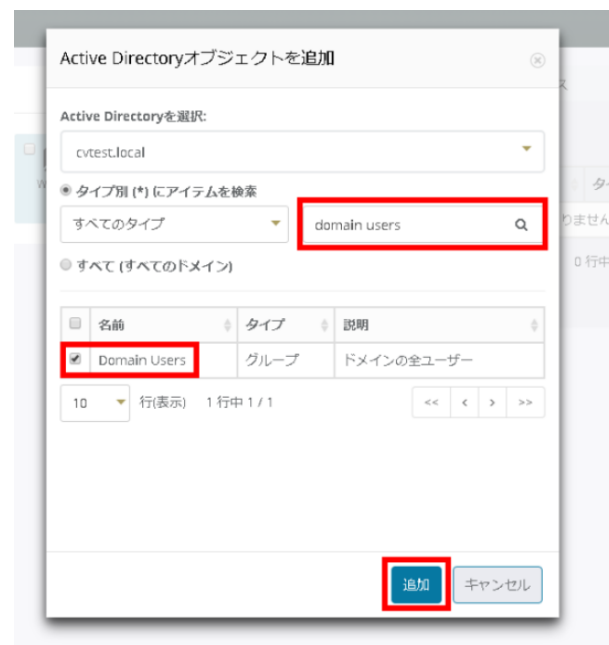


5. 続いてユーザの紐付けを行うために、[ユーザ] タブをクリックして、[Active Directory オブジェクトを追加] をクリックします。

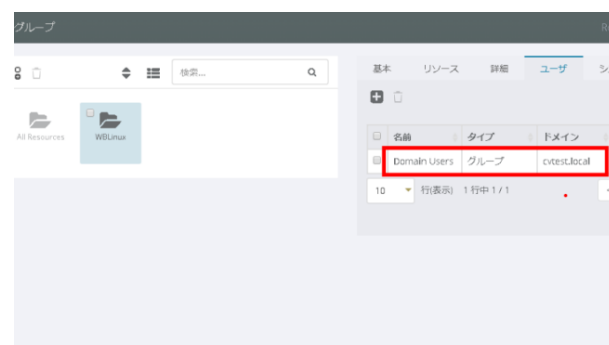


6. ユーザ追加画面にて、検索ボックスに追加対象のユーザ/ユーザグループ名を入力し、エンターを入力します。

ユーザー一覧の中から追加対象のユーザ/ユーザグループを選択し、[追加] ボタンをクリックします。



7. リストに先ほど追加設定したユーザ/ユーザグループが追加されていることをご確認ください。



8. 次に、稼働対象サーバのグループを指定します。ここでは、先に設定したサーバグループ (ページ 141) を設定します。

右側の詳細パネルより、[システム] タブをクリックします。

デフォルトでは、[All remote hosts for Root] グループが登録されています。

まずはデフォルト設定を削除するために [All remote hosts for Root] にチェックを入れて、[削除] をクリックします。

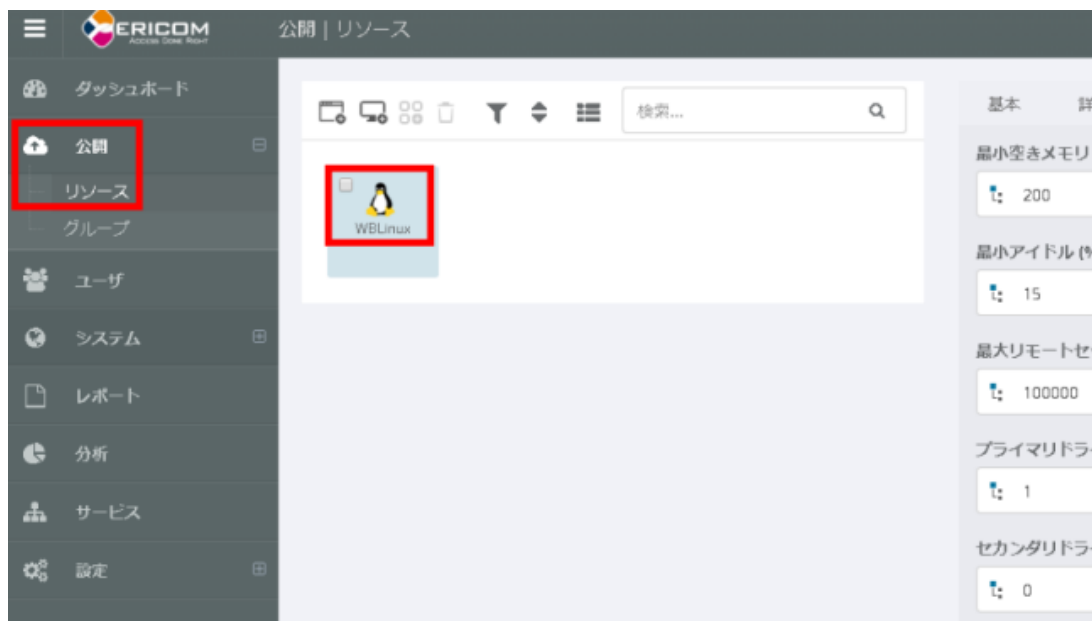


<p>9. 確認のポップアップが出ますので、[削除] ボタンをクリックしてください。</p>	
<p>10. 続いて、[グループに追加] をクリックします。</p>	
<p>11. 追加対象のサーバグループを選択して、チェックボタンを有効にし、[グループに追加] ボタンをクリックします。</p>	
<p>12. 追加したサーバグループがリストに表示されたことを確認してください。</p>	

アイコンの変更

1. Connect 管理コンソールにログインし、左側のナビゲーションパネルより、[公開] – [リソース] を選択します。

公開したアプリケーションアイコンは、Linux アイコンのため、このアイコンを変更します。



2. まずは、変更するアプリケーションアイコンを準備して、Connect サーバ上の任意のフォルダに保存します。

ここでは例として、ドキュメントのパッケージに含まれているアイコンファイルを「C:\icoWBFx64.ico」として保存しております。

独自のアイコンをご希望の場合は、お客様にて 64*64 サイズのアイコンをご準備下さい。

3. Connect サーバ上でコマンドプロンプトを開きます。

下記、ディレクトリまで移動し、connectcli を起動します。

```
c:\> cd "C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool> connectcli
ConnectCli>
```

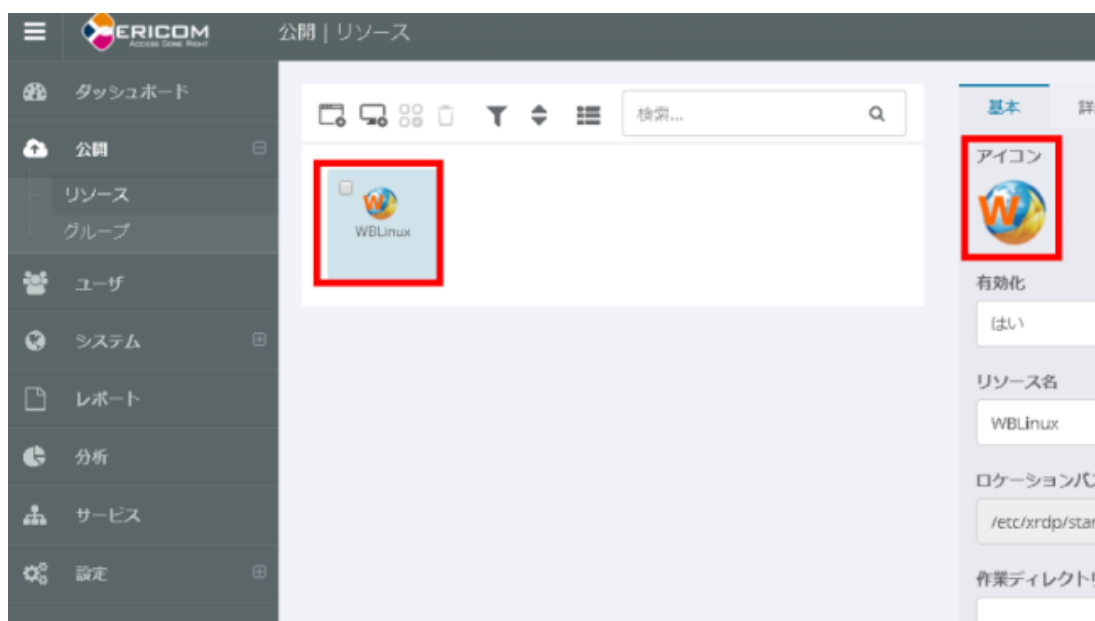

4. 下記の形式で変更コマンドを入力します。

SetIcon /saveIcon (アイコンファイル名) 「(アイコンファイルパス)」 (対象の公開アプリ名)

```
ConnectCli> SetIcon /saveIcon WBFx64.ico "C:\ico\WBFx64.ico" WBLinux
```

5. SetIcon コマンドを実行すると、Connect サーバの管理者アカウントとパスワードが求められます。
管理者アカウントとパスワードを入力してください。

6. Connect 管理コンソール上のアプリケーションアイコンが変更されます。
変更されていない場合は、ブラウザを更新してご確認ください。



Tips:

ダブルブラウザ用のアイコンをサンプルをご用意しております。こちらよりダウンロードしてご利用ください。

6.2.4 ダブルブラウザ連携キットのインストールと設定

クライアントモジュール(ダブルブラウザ連携キット)を利用者端末へ配布する設定や管理について記載いたします。なお、ダブルブラウザ連携キットは、ファイルサーバ上から各利用者がダウンロードして利用する方式(ClickOnce方式)と、管理者によるMSIインストーラ方式の2種類があります。各方式について、事前準備、ユーザ利用手順をご案内します。

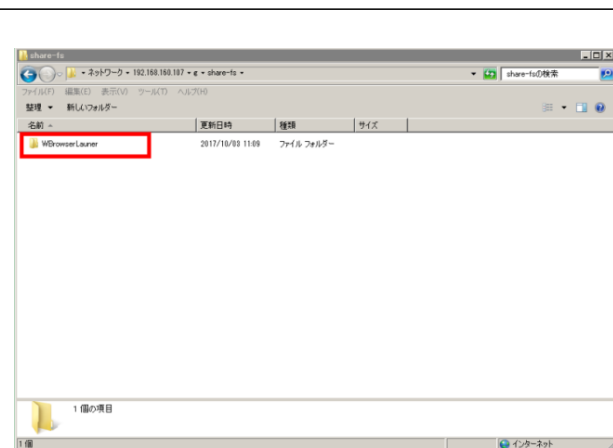
詳細につきましては、「管理者ガイド - ダブルブラウザ連携キット」をご覧ください。

ClickOnce版

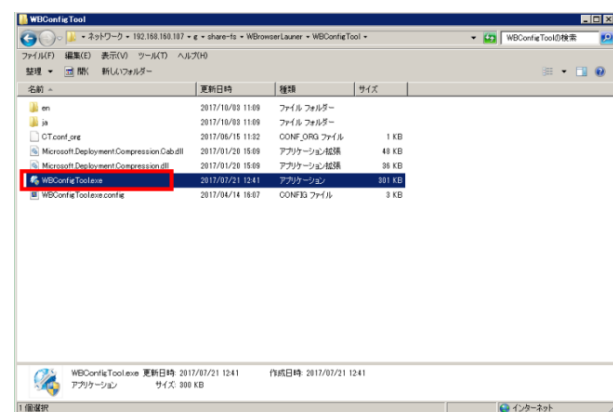
配布準備と設定

配布準備

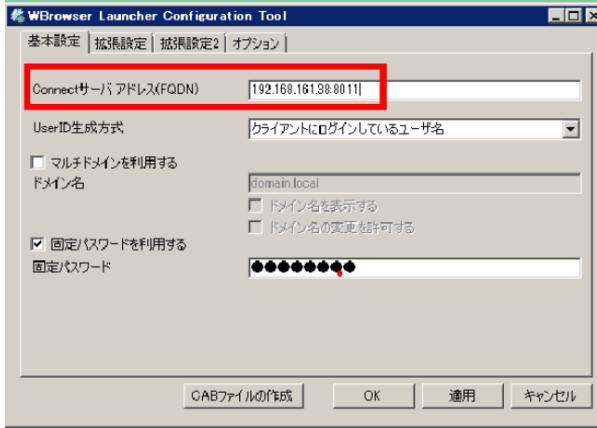
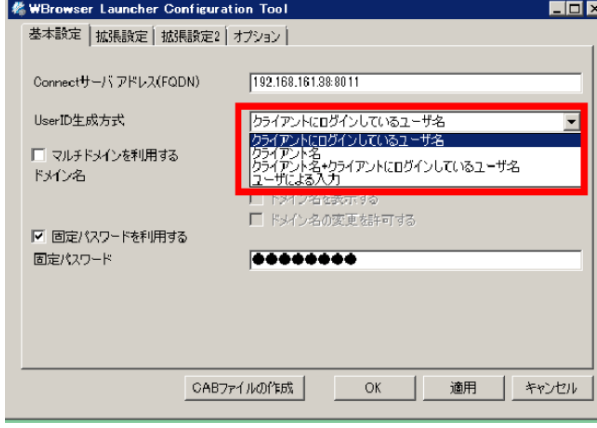
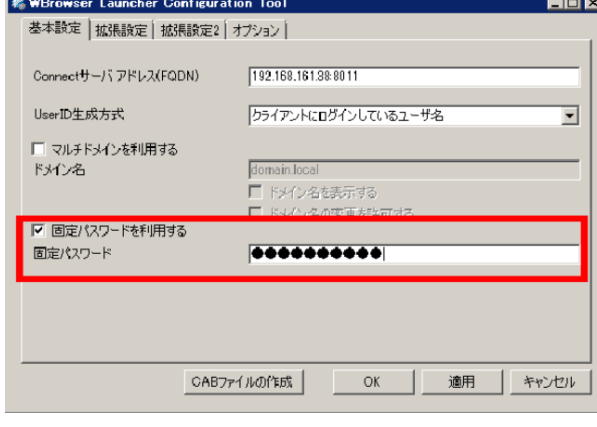
1. まず始めに、インストールモジュールの「連携キット」フォルダ内にある、「WBrowserLauncher.ZIP」を展開します。
展開された「WBrowserLauncher」フォルダを、利用者端末から参照可能なファイルサーバ上に保存します。



2. ファイルサーバ上に保存した「WBrowserLauncher」フォルダ内にある [WBConfigTool] - [WBConfigTool.exe] を起動します。



設定

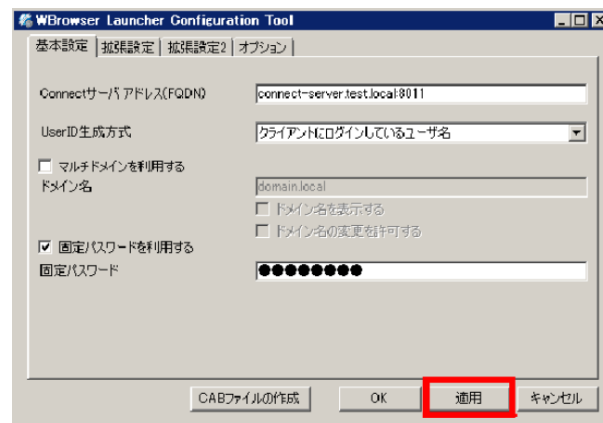
<p>1. WBrowser Launcher Configuration Tool が起動します。</p> <p>Connect サーバ接続アドレス (FQDN) を指定します。</p> <p>Connect サーバへの接続アドレスを下記の形式で指定してください。</p> <p style="text-align: center;">[FQDN 名 or IP アドレス]:8011</p> <p>※ Ericom Connect SecureGateway サーバを利用せず、直接 Connect サーバへ接続する場合、サーバアドレスの最後にポート : 8011 を指定します。</p>	
<p>2. 続いて、User ID 生成方式を指定します。</p> <p>プルダウンから、Connect サーバへ接続する際のログインユーザ方式を指定します。</p> <p>ここでは [クライアントにログインしているユーザ名] を指定します。</p>	
<p>3. 全ユーザ共通の固定パスワードを設定される場合、[固定パスワードを利用する] のチェックボックスを有効にして、ActiveDirectory にて設定されているパスワードを入力します。</p>	



連携キットによる SSO は、上記設定のように全ユーザ共通の固定パスワードを利用することで、擬似的に実現しています。それぞれの設定の違いについては、管理者ガイドを参照してください。

参考:

4. [適用] ボタンをクリックして、設定を反映します。



Firefox テンプレートの設定

IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox テンプレートをカスタマイズする手順について記載しています。ユーザがアクセスする前に、Firefox の詳細設定 (プロキシ設定など) の標準テンプレートの設定を行います。



通信ポートが許可されている場合、IVEX ダブルブラウザ Linux へ、mstsc.exe などにより直接リモートデスクトップ接続して設定することも可能です。

Tips:

1. Connect と連携している AD サーバ上に、「template-user」ユーザを新規作成します。

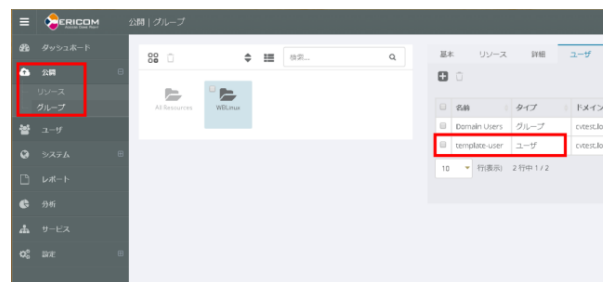


注意:

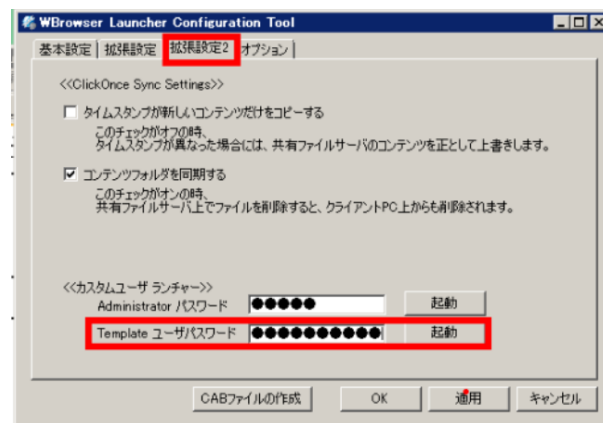
「template-user」ユーザは Firefox のテンプレート設定を行う際に、IVEX ダブルブラウザ Linux 環境に接続する作業ユーザです。過去のバージョンでは「template-user」ユーザは「template」ユーザという ID でご利用いただいていた時期がありますが、一般ユーザの利用中にもテンプレートのメンテナンスが可能ないように、作業ユーザでアクセスしていただくようになっていきます。

2. Connect 管理にログインして、左側のナビゲーションパネルより、[公開] - [グループ] を選択します。

公開されているリソースグループを選択して、[ユーザ] よりテンプレート作業ユーザ (tenmplate-user) を追加して下さい。



3. ファイルサーバ上に保存した「WBrowerLauncher」フォルダ内にある「WBConfigTool.exe」を起動します。
[拡張設定 2] を表示して、Template ユーザの [起動] ボタンをクリックします。



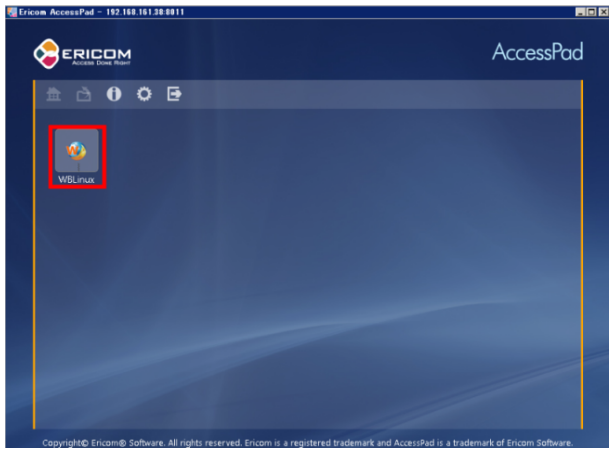
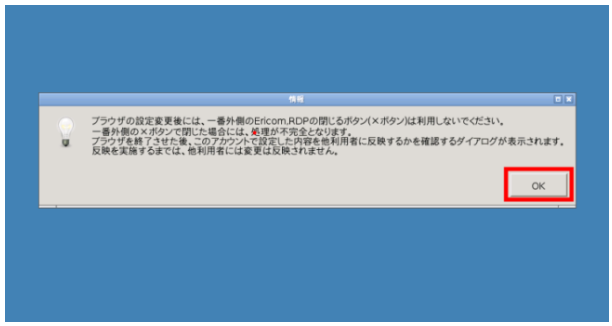

template-user ユーザのパスワードは AD 上に作成した template-user ユーザのものを
入力してください。

参考:



連携キットを使用せずにリモートデスクトップ接続でテンプレートをカスタマイズする
ことも可能です。ログイン ID は **template-user** (パスワードは AD にて設定) を
ご利用下さい。

Tips:

<p>4. Ericom AccessPad の画面が起動します。(表示されていない場合、タスクバーにある AccessPad を表示させてから起動して下さい。)</p> <p>AccessPad の一覧の中に、公開されたダブルブラウザアプリケーションアイコンが表示されますので、このアイコンをクリックして起動します。</p>	
<p>5. Blaze 通信でセッションが開始されます。メッセージを確認してから Firefox を起動して下さい。</p>	
<p>6. Firefox の詳細設定画面より、ネットワーク設定やデフォルト URL、ブックマーク等のデフォルト設定を自由に設定して下さい。</p> <p>設定が完了したら、Firefox のタブの [×] ボタンか、外側の Blaze ウィンドウの [×] ボタンをクリックして、終了して下さい。</p>	



警告:

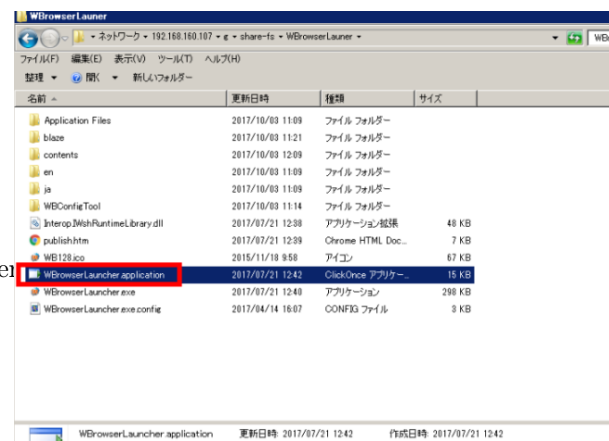
Firefox 画面下部に「お久しぶりです！ Firefox はしばらく使われていないようです。プロファイルを掃除して新品のようにきれいにしますか？」というメッセージが表示される場合がありますが、「Firefox をリフレッシュ」のボタンはクリックしないようにしてください。

ユーザ端末へのインストールと利用

インストール

1. 利用者端末より、 **配布準備と設定** (ページ 155) でファイルサーバに保存した.application ファイルを実行します。

例：\\(File Server)\WBrowserLauncher\WBrowserLauncher



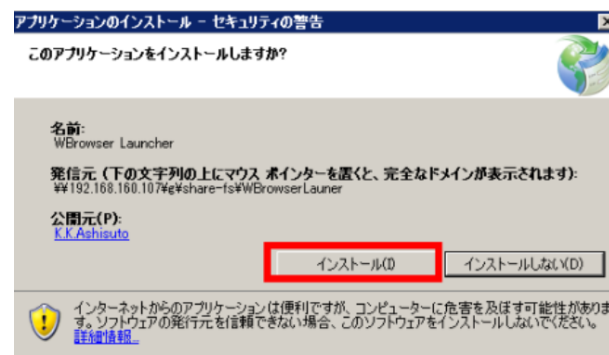
注意:

クライアント端末には、.NetFramework4.5.2 以上が必要です。詳しくは [ダブルブラウザ 連携キット リリースノート](#) (ページ 39) をご確認ください。

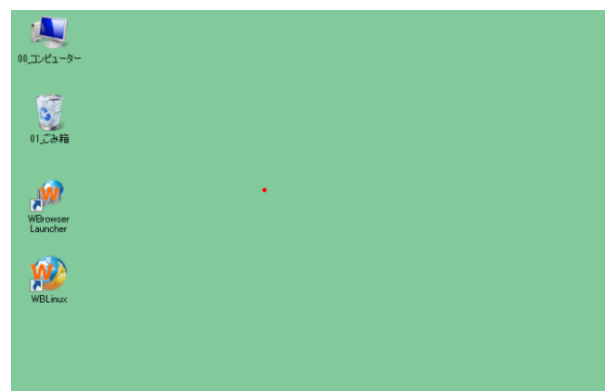
2. インストールのセキュリティ警告画面が表示されます。

[インストール] ボタンをクリックして実行します。

ファイルセキュリティの警告画面が表示されたら、[実行] をクリックして下さい。




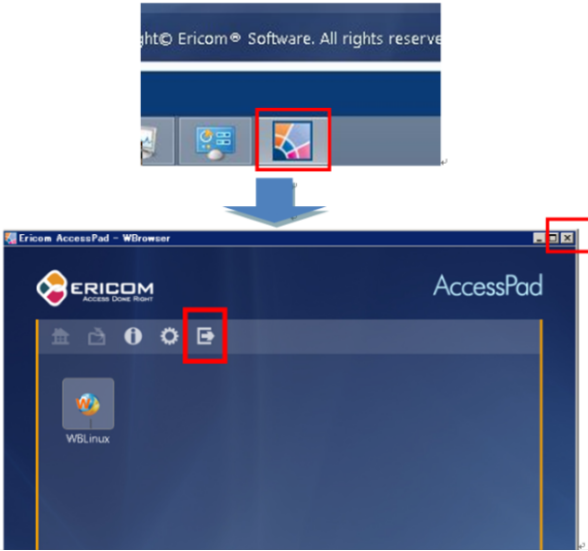
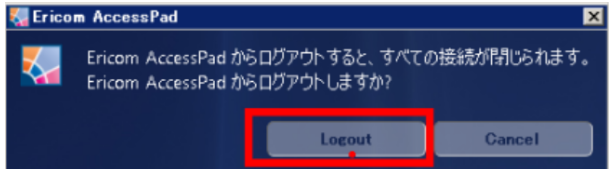
3. 正常にダウンロードして、シングルサインオンも正常に認証されると、利用者端末のデスクトップ上に、[WBrowser Launcher] と公開されたアプリケーションが表示されます。

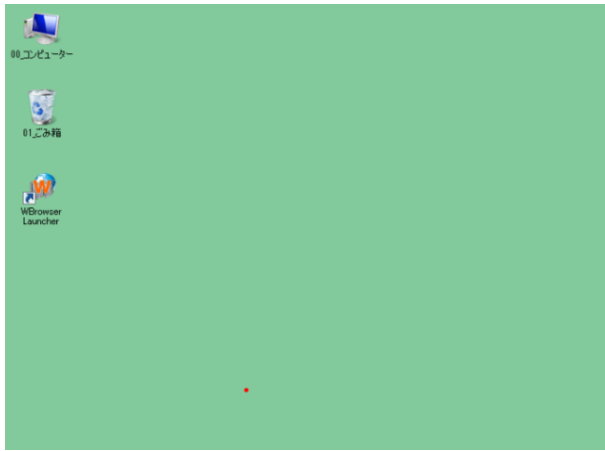


ユーザによる利用

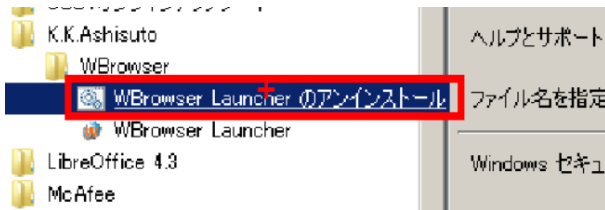
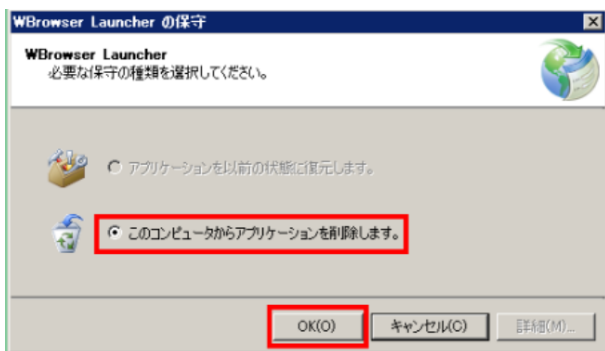
1. デスクトップ上の公開設定されたアプリケーションを実行すると、Blaze の画面が表示され、IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox ブラウザが起動されます。



<p>2. 終了時は仮想ブラウザにあるタブの [×] ボタンか、外枠の Ericom Blaze Client の [×] ボタンより終了します。</p>	
<p>3. デスクトップ上に表示されている公開設定された仮想ブラウザアイコンを削除したい場合、デスクトップのタスクバーに表示されている [Ericom AccessPad] アイコンを表示させ、右上の [×] ボタンか、ログアウトボタンをクリックします。</p>	
<p>4. ログアウトの確認画面が表示されましたら、[Logout] ボタンをクリックします。</p>	

<p>5. デスクトップ上の公開アプリケーションが削除されます。</p> <p>通常は、初回ログオン時に自動起動しますが、ログオフしてしまった場合の次回起動時は、[WBrower Launcher] アイコンをダブルクリックして起動します。</p>	
--	--

アンインストール

<p>1. クライアント端末デスクトップより、[スタート] - [すべてのプログラム] - [K.K.Ashisuto] - [WBrower] - [WBrower Launcher のアンインストール] を実行します。</p>	
<p>2. アプリケーションの削除を選択して、[OK] ボタンをクリックします。自動的にアンインストール処理が実行されます。</p>	

MSI 版

管理者端末へのインストールと設定

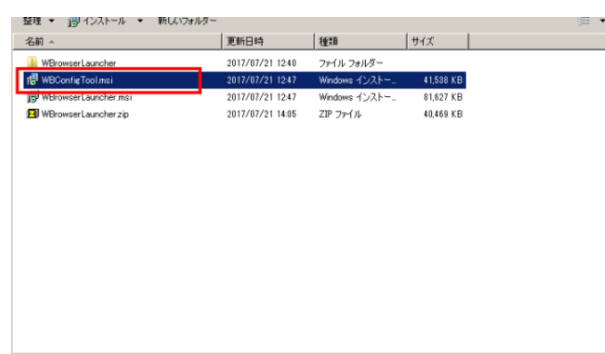
WBConfitTool のインストール



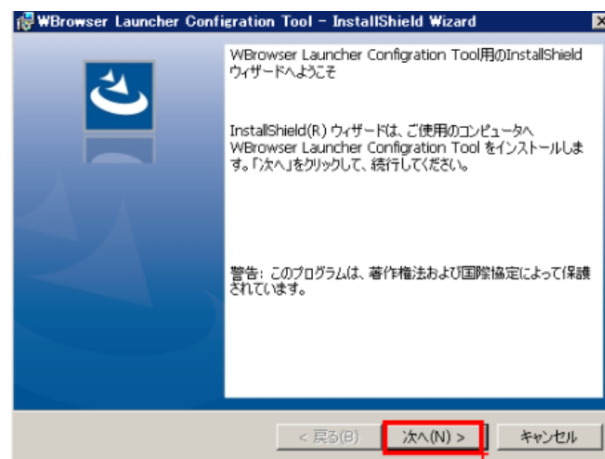
MSI のインストールには端末の管理者権限が必要です。

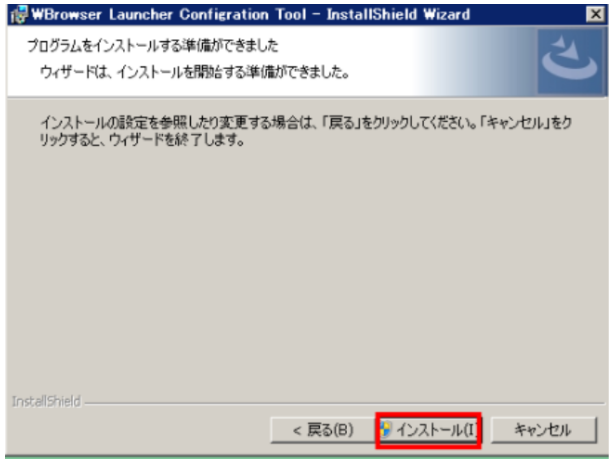
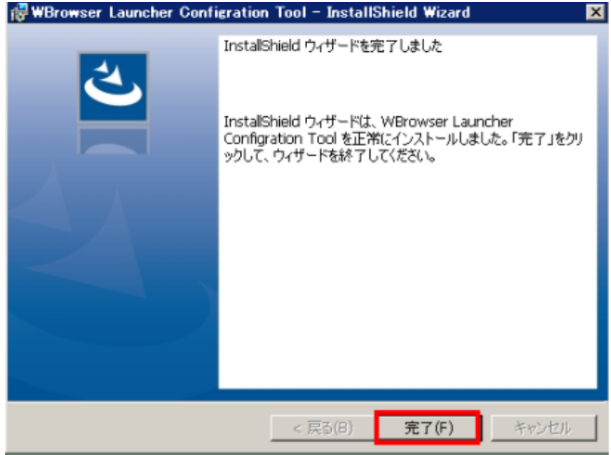
注意:

1. インストールモジュール内に保存されている「WBConfigTool.msi」を実行します。



2. インストーラーが起動したら、[次へ] をクリックします。



<p>3. [インストール] ボタンをクリックして、インストールを開始します。</p>	
<p>4. インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。</p>	

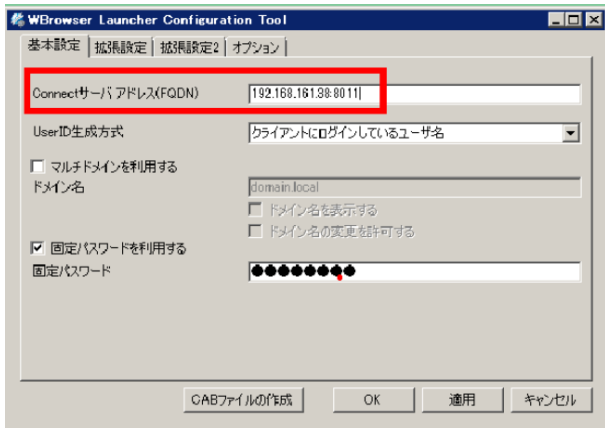
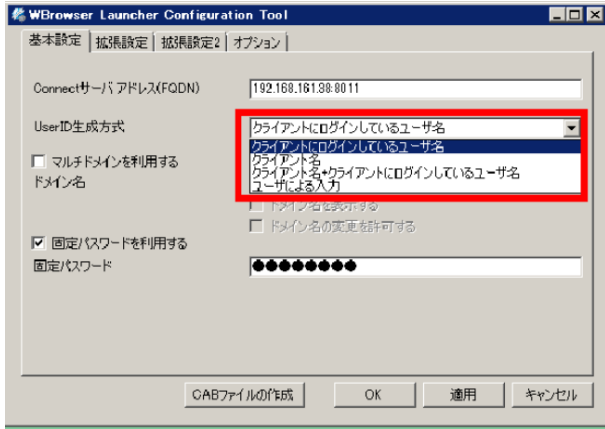
**Tips:**

WBrower Launcher Configuration Tool は、下記のフォルダへインストールされます。

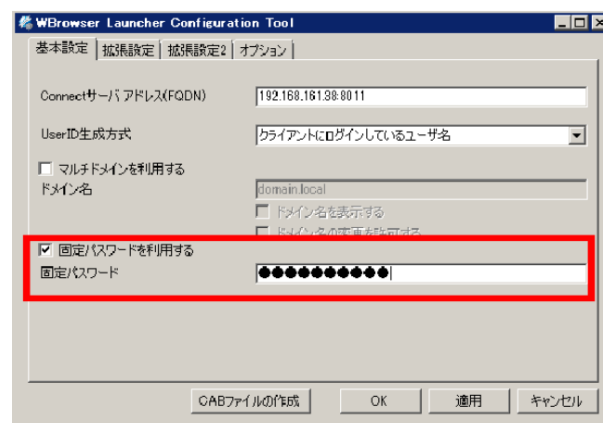
- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrower Launcher\

<p>5. 続いて、接続設定のファイルを作成します。</p> <p>スタートメニューの [K.K.Ashisuto] - [WBrower] - [WBrower Configuration Tool] を実行するか、「(インストールフォルダ)\WBConfigTool\WBConfigTool.exe」を起動します。</p>	 <p>A screenshot of the Windows Start menu search results. The search term is 'WBrower Configuration Tool'. The results list several folders and files. The file 'WBConfigTool.exe' is highlighted with a red box. Other files listed include 'OTconf', 'OTconf_pre', 'Microsoft Deployment Compression Cab.dll', 'WBConfigTool.exe.config', and 'WBtool128.ico'.</p>
--	---

設定ファイルの作成

<p>1. WBrower Launcher Conefiguration Tool が起動します。</p> <p>Conenct サーバ接続アドレス (FQDN) を指定します。</p> <p>Connect サーバへの接続アドレスを下記の形式で指定してください。</p> <p style="text-align: center;">[FQDN 名 or IP アドレス]:8011</p> <p>※ Ericom Connect SecureGateway サーバを利用せず、直接 Connect サーバへ接続する場合、サーバアドレスの最後にポート : 8011 を指定します。</p>	 <p>A screenshot of the 'WBrower Launcher Configuration Tool' dialog box. The 'Connectサーバアドレス(FQDN)' field is highlighted with a red box and contains the value '192.168.161.88:8011'. The 'User ID生成方式' dropdown menu is set to 'クライアントにログインしているユーザー名'. The '固定パスワード' field is filled with dots. Buttons at the bottom include 'CABファイルの作成', 'OK', '適用', and 'キャンセル'.</p>
<p>2. 続いて、User ID 生成方式を指定します。</p> <p>プルダウンから、Connect サーバへ接続する際のログインユーザ方式を指定します。</p> <p>ここでは [クライアントにログインしているユーザ名] を指定します。</p>	 <p>A screenshot of the 'WBrower Launcher Configuration Tool' dialog box, similar to the previous one. The 'User ID生成方式' dropdown menu is highlighted with a red box and shows a list of options: 'クライアントにログインしているユーザー名', 'クライアント名', 'クライアント名+クライアントにログインしているユーザー名', and 'ユーザー名入力'. The first option is selected.</p>

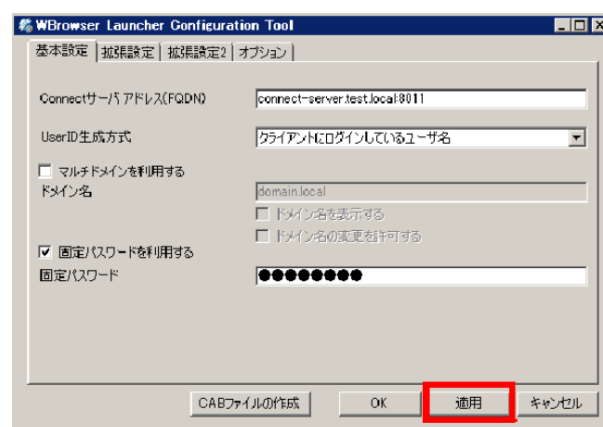
3. 全ユーザ共通の固定パスワードを設定される場合、[固定パスワードを利用する] のチェックボックスを有効にして、ActiveDirectory にて設定されているパスワードを入力します。



参考:

連携キットによる SSO は、上記設定のように全ユーザ共通の固定パスワードを利用することで、擬似的に実現しています。それぞれの設定の違いについては、管理者ガイドを参照してください。

4. [適用] ボタンをクリックして、設定を反映します。



設定ファイルの配布

1. クライアント端末に配布する設定ファイル (def.blaze、WB.conf) は、下記フォルダに保存されています。

(インストールフォルダ)\contents\def.blaze

(インストールフォルダ)\contents\WB.conf

2つの設定ファイルを各ユーザの「(インストールフォルダ)\contents」フォルダ内の設定ファイルと差し替えることで、設定が反映されます。

名前	更新日時	種類	サイズ
accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル	0 KB
blaze.cab	2017/07/03 18:16	CAB ファイル	38,899 KB
contents.list.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書	1 KB
debug	2017/04/14 16:02	ファイル	0 KB
def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル	2 KB
def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル	2 KB
WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル	3 KB
WBconf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル	3 KB

Firefox テンプレートの設定

IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox テンプレートをカスタマイズする手順について記載しています。ユーザがアクセスする前に、Firefox の詳細設定 (プロキシ設定など) の標準テンプレートの設定を行います。



通信ポートが許可されている場合、IVEX ダブルブラウザ Linux へ、mstsc.exe などにより直接リモートデスクトップ接続して設定することも可能です。

Tips:

1. Connect と連携している AD サーバ上に、「template-user」ユーザを新規作成します。

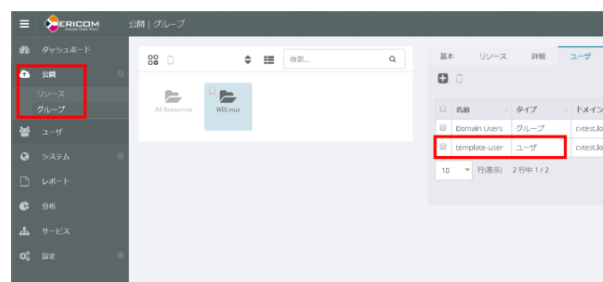


注意:

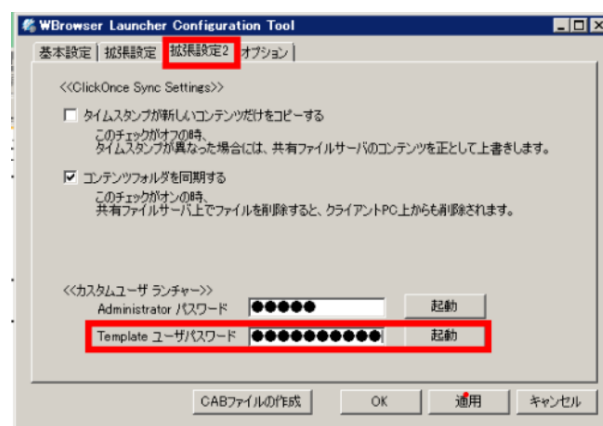
「template-user」ユーザは Firefox のテンプレート設定を行う際に、IVEX ダブルブラウザ Linux 環境に接続する作業ユーザです。過去のバージョンでは「template-user」ユーザは「template」ユーザという ID でご利用いただいていた時期がありますが、一般ユーザの利用中にもテンプレートのメンテナンスが可能ないように、作業ユーザでアクセスしていただくようになっています。

2. Connect 管理にログインして、左側のナビゲーションパネルより、[公開] - [グループ] を選択します。

公開されているリソースグループを選択して、[ユーザ] よりテンプレート作業ユーザ (tenmplate-user) を追加して下さい。



3. ファイルサーバ上に保存した「WBrowerLauncher」フォルダ内にある「WBConfigTool.exe」を起動します。
[拡張設定 2] を表示して、Template ユーザの [起動] ボタンをクリックします。



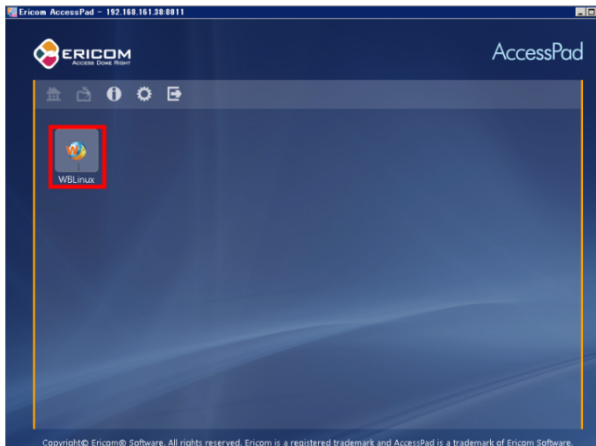
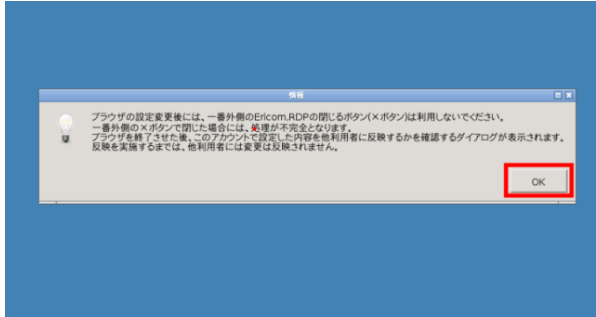

template-user ユーザのパスワードは AD 上に作成した template-user ユーザのものを入力してください。


参考:



連携キットを使用せずにリモートデスクトップ接続でテンプレートをカスタマイズすることも可能です。ログイン ID は **template-user** (パスワードは AD にて設定) をご利用下さい。

Tips:

<p>4. Ericom AccessPad の画面が起動します。(表示されていない場合、タスクバーにある AccessPad を表示させてから起動して下さい。) AccessPad の一覧の中に、公開されたダブルブラウザアプリケーションアイコンが表示されますので、このアイコンをクリックして起動します。</p>	
<p>5. Blaze 通信でセッションが開始されます。メッセージを確認してから Firefox を起動してください。</p>	
<p>6. Firefox の詳細設定画面より、ネットワーク設定やデフォルト URL、ブックマーク等のデフォルト設定を自由に設定して下さい。 設定が完了したら、Firefox のタブの [×] ボタンか、外側の Blaze ウィンドウの [×] ボタンをクリックして、終了して下さい。</p>	

警告:  Firefox 画面下部に「お久しぶりです！ Firefox はしばらく使われていないようです。プロファイルを掃除して新品のようにきれいにしますか？」というメッセージが表示される場合がありますが、「Firefox をリフレッシュ」のボタンはクリックしないようにしてください。

ユーザ端末へのインストールと利用

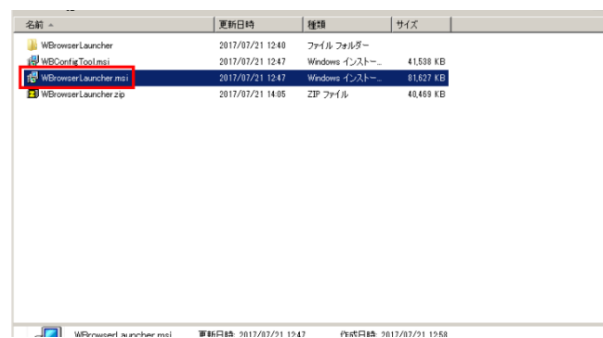
インストール



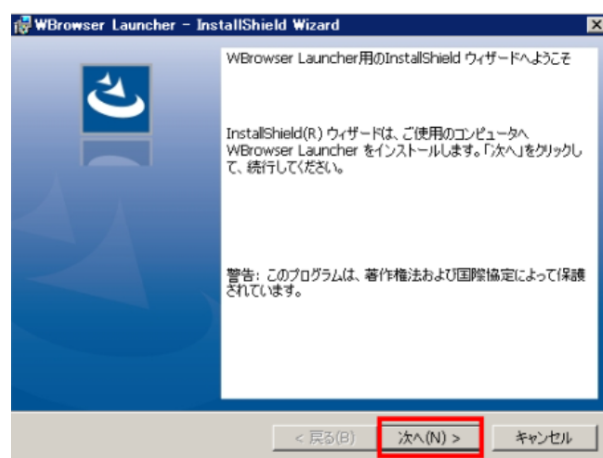
MSI のインストールには端末の管理者権限が必要です。

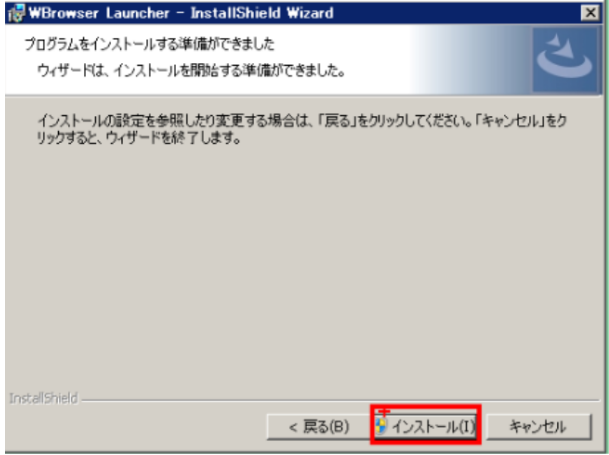
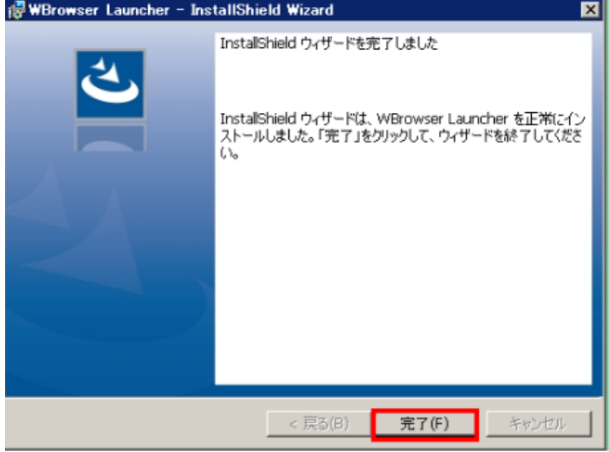
注意:

1. インストールモジュール内に保存されている「WBrowserLauncher.msi」を実行します。



2. インストーラーが起動したら、[次へ] をクリックします。



<p>3. [インストール] ボタンをクリックして、インストールを開始します。</p>	
<p>4. インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。</p>	

**Tips:**

WBrowser Launcher は、下記のフォルダへインストールされます。

- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrowser Launcher\
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrowser Launcher\

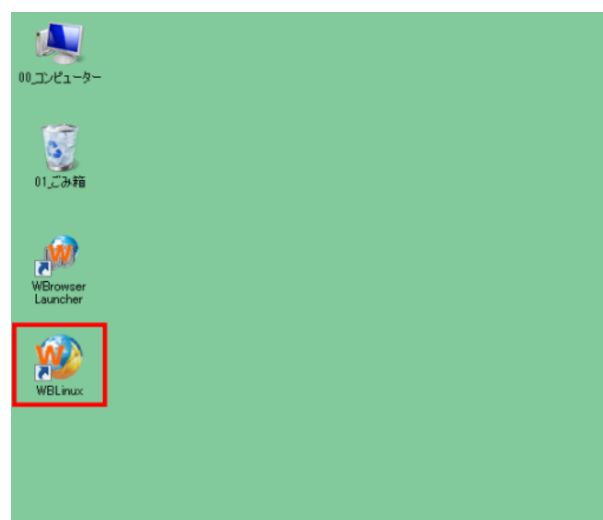
5. 以上でインストールは完了です。

管理者が設定された設定ファイル (def.blaze、WB.conf) を差し替えて接続して下さい。

名前	更新日時	種類
accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル
blaze.cab	2017/07/03 13:16	CAB ファイル
contentslist.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書
debug	2017/04/14 16:07	ファイル
def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル
def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル
WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル
WB.conf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル

6. 利用者がクライアント端末にログインすると自動ログインが実行されます。

ログインが完了すると、デスクトップ上の公開設定されたアプリケーションが表示されます。



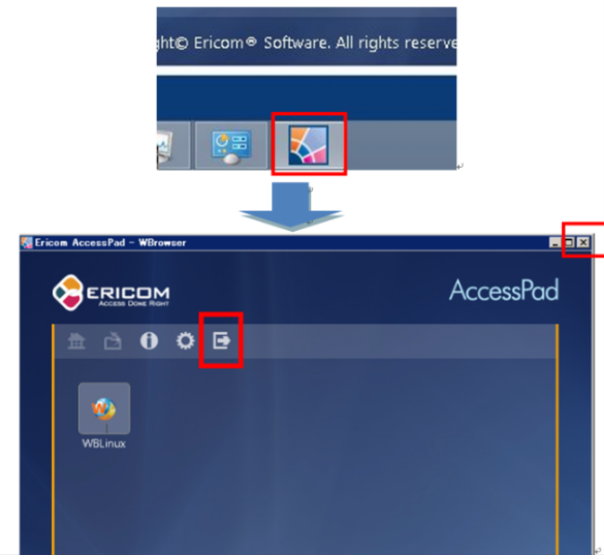
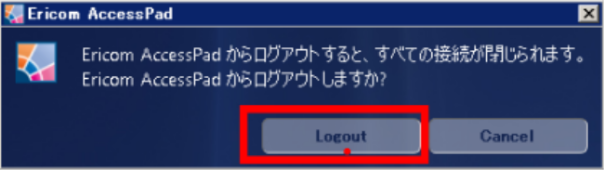

一般ユーザによる利用

1. デスクトップ上の公開設定されたアプリケーションを実行すると、Blaze の画面が表示され、IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox ブラウザが起動されます。




2. 終了時は仮想ブラウザにあるタブの [×] ボタンか、外枠の Ericom Blaze Client の [×] ボタンより終了します。



<p>3. デスクトップ上に表示されている公開設定された仮想ブラウザアイコンを削除したい場合、デスクトップのタスクバーに表示されている [Ericom AccessPad] アイコンを表示させ、右上の [×] ボタンか、ログアウトボタンをクリックします。</p>	
<p>4. ログアウトの確認画面が表示されましたら、[Logout] ボタンをクリックします。</p>	
<p>5. デスクトップ上の公開アプリケーションが削除されます。</p> <p>通常は、初回ログオン時に自動起動しますが、ログオフしてしまった場合の次回起動時は、[WBrowser Launcher] アイコンをダブルクリックして起動します。</p>	

アンインストール

<p>1. コントロールパネルを開き、[プログラムと機能]をクリックします。</p>	
<p>2. プログラム一覧から、[WBrowser Launcher]をアンインストールします。</p>	
<p>3. アプリケーションの削除を実行するため、[はい]ボタンをクリックします。</p>	



管理者端末の場合、同様の手順でプログラムと機能より、「Wbrowser Launcher Configuration Tool」をアンインストールして下さい。

参考:

6.3 Linux 版 Blaze(コネクションブローカーなし)

6.3.1 IVEX ダブルブラウザ Linux のインストール

まずは事前作業をご確認いただき、その後にインストール手順をご確認ください。

- 全ての場合において実施/確認
 - 事前作業
- Ericom Connect(コネクションブローカー) 無しで利用する場合のインストール
 - Linux 版 Blaze のみでのインストール

事前作業

ホスト名の設定 (全環境)

1. ホスト名を確認します。

```
$ hostname
```



ベースとなる Linux サーバのホスト名は FQDN ではなく、コンピュータ名のみで設定をしてください。

警告:

変更が必要な場合、下記コマンドで変更可能です。

2. ホスト名を設定します。

※ 例として SERVERNAME と設定します。


```
$ sudo nmcli general hostname SERVERNAME
```

DNS の設定 (全環境 : Ericom Connect を利用する場合)

1. DNS の設定を確認します。

```
$ cat /etc/resolv.conf
```



Tips:

ベースとなる Linux サーバが参加する AD を DNS サーバとして指定してください。
変更が必要な場合、下記コマンドで変更可能です。

2. DNS サーバの指定を変更します。
※ 例として 192.168.0.*** と設定します。

```
$ sudo nmcli c m $(nmcli c s | grep -v UUID | cut -d' ' -f1) ipv4.dns 192.168.0.***  
$ sudo systemctl restart NetworkManager
```

3. DNS の設定を再確認します。

```
$ cat /etc/resolv.conf
```

xfsprogs アップデート (全環境)

1. xfsprogs のバージョンを確認します。

```
$ xfs_info -V
```



バージョンが 4.5.0 以上の場合は下記の更新手順は必要ありません。

参考:

2. xfsprogs の更新を行います。

```
$ sudo yum install xfsprogs
```



PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。

参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ sudo -E yum install xfsprogs
```

psmisc のインストール (全環境)

1. psmisc がインストール済みかを確認します。

```
$ rpm -qa | grep psmisc
```



psmisc がインストール済みの場合は下記の導入手順は必要ありません。

参考:

2. psmisc の導入を行います。

```
$ sudo yum install psmisc
```



PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。

参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ sudo -E yum install psmisc
```

カーネルアップデート (CentOS 7.2/7.3)



注意:

ConetOS/RHEL 7.4 の場合や RHEL7.3 で KVM 構成を取る場合は、下記手順は必要ありません。

1. カーネルのバージョンを確認します。

```
$ uname -r
```



バージョンが 4.4 の場合は下記の更新手順は必要ありません。

参考:

2. カーネルパッケージのインストールを行います。

```
$ sudo rpm --import https://www.elrepo.org/RPM-GPG-KEY-elrepo.org
$ sudo rpm -Uvh http://www.elrepo.org/elrepo-release-7.0-2.el7.elrepo.noarch.rpm
$ sudo yum install --enablerepo=elrepo-kernel kernel-lt
$ sudo cp -p /etc/yum.repos.d/elrepo.repo /etc/yum.repos.d/elrepo.repo.org
$ sudo sed -i -e "s/enabled=1/enabled=0/g" /etc/yum.repos.d/elrepo.repo
```

PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/
$ sudo -E rpm --import https://www.elrepo.org/RPM-GPG-KEY-elrepo.org
$ sudo -E rpm -Uvh http://www.elrepo.org/elrepo-release-7.0-2.el7.
↳elrepo.noarch.rpm
$ sudo -E yum install --enablerepo=elrepo-kernel kernel-lt
$ sudo cp -p /etc/yum.repos.d/elrepo.repo /etc/yum.repos.d/elrepo.
↳repo.org
$ sudo sed -i -e "s/enabled=1/enabled=0/g" /etc/yum.repos.d/elrepo.
↳repo
```

オフラインで作業する場合には、下記のようにパッケージをダウンロードし、インストールしてください。

**Tips:**

入手先例: http://www.ftp.ne.jp/Linux/RPMS/elrepo/kernel/el7/x86_64/RPMS/
パッケージ例: kernel-lt-4.4.1-1.el7.elrepo.x86_64.rpm

```
$ sudo rpm -ivh kernel-lt-4.4.1-1.el7.elrepo.x86_64.rpm
```

3. 起動カーネルの一覧を確認します。

※最初の行が 0 行目です。

カーネルバージョンが最新のものの行をご確認ください。

```
$ sudo awk -F\' ' $1=="menuentry " {print $2}' /etc/grub2.cfg
```

4. 起動したいカーネルの行番号を指定します。

※最初の行 (0 行目) を指定する場合の例

```
$ sudo grub2-set-default 0
```

5. 起動ファイルに反映し再起動して下さい。

※最初の行 (0 行目) を指定する場合の例

```
$ sudo grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg  
$ sudo shutdown -r now
```

Linux 版 Blaze のみでのインストール

コネクションブローカー無しで小規模構成を構築する場合の手順です。



注意:

コネクションブローカー無しでライセンスをご購入の場合、AD との連携は行えません。

インストール

1. ダブルブラウザ Linux のインストールモジュールを Linux サーバ上の任意の場所にコピーして、展開します。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2. 展開されたインストーラを実行します。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```

3. インストールの途中で、どの IP アドレスを利用するか選択する画面が表示されます。
IVEX ダブルブラウザ Linux でプロファイルの同期に利用する IP アドレスを番号で指定して下さい。

どの IP を利用しますか？

1: 192.168.***.***

番号で指定してください: 1

192.168.***.*** を設定しました。



設定した IP アドレスを変更する場合、`/opt/IVEX/WBrowser/ip.conf` を修正します。

Tips:

IVEX ダブルブラウザ Linux でクライアントからの接続に利用される IP アドレスはベース OS の一番若い NIC のアドレスです。

参考:

ライセンスファイルの適用

ライセンスファイルの入手

ダブルブラウザ Linux 版 Blaze では有効なライセンスファイルを適用する必要があります。評価ライセンスについては、事前にメールにて下記宛先までご申請ください。依頼日を基準として、翌月末まで有効な評価キーをお送りいたします。

<件名>

ダブルブラウザ Linux 版 Blaze 評価用 TB ファイル依頼

<宛先>

To:eri_try@ashisuto.co.jp CC: 貴社担当営業

ライセンスファイルの配置と適用

1. 入手したライセンスファイルを Linux サーバへ転送し、下記パスへ配置してください。

配置先 :

`/var/opt/IVEX/WBrowser/root/opt/ericom/ericom-access-server/`

ファイル名 :

tb (※必ず小文字で設定してください。)

```
$ cp -ip **** /var/opt/IVEX/WBrowser/root/opt/ericom/ericom-access-server/tb
```

****はお送りした TB ファイルのファイル名です。

2. サービスを再起動してください。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop  
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
```


6.3.2 ダブルブラウザ連携キットのインストールと設定

クライアントモジュール(ダブルブラウザ連携キット)を利用者端末へ配布する設定や管理について記載いたします。なお、ダブルブラウザ連携キットは、ファイルサーバ上から各利用者がダウンロードして利用する方式(ClickOnce方式)と、管理者によるMSIインストーラ方式の2種類があります。各方式について、事前準備、ユーザ利用手順をご案内します。

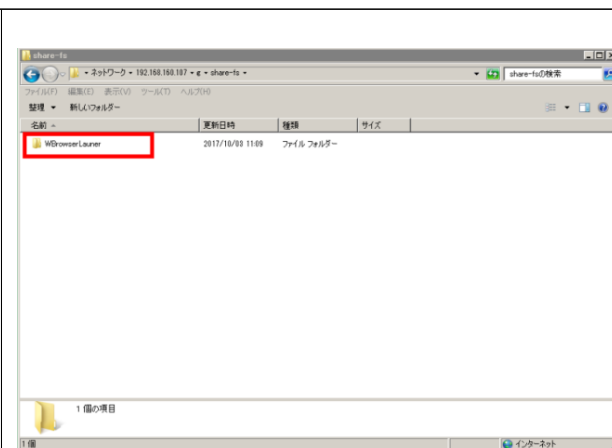
詳細につきましては、「管理者ガイド - ダブルブラウザ連携キット」をご覧ください。

ClickOnce版

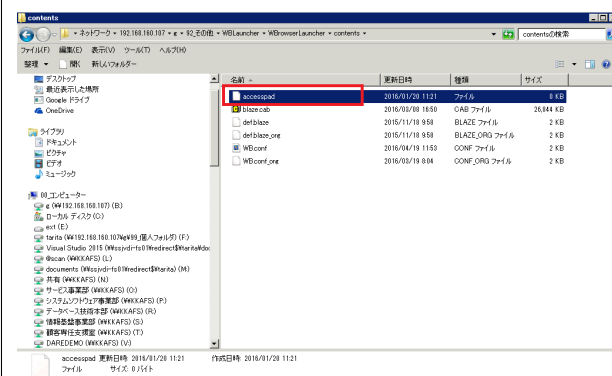
配布準備と設定

配布準備

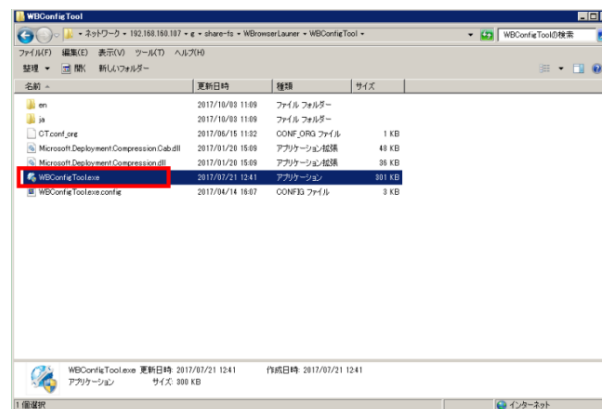
1. まず始めに、インストールモジュールの「連携キット」フォルダ内にある、「WBrowserLauncher.ZIP」を展開します。展開された「WBrowserLauncher」フォルダを、利用者端末から参照可能なファイルサーバ上に保存します。



2. ファイルサーバ上に保存した「WBrowserLauncher」フォルダ内にある [Contents] フォルダの [accesspad] ファイルを削除します。



3. ファイルサーバ上に保存した「WBrowerLauncher」フォルダ内にある [WBConfigTool] - [WBConfigTool.exe] を起動します。



設定

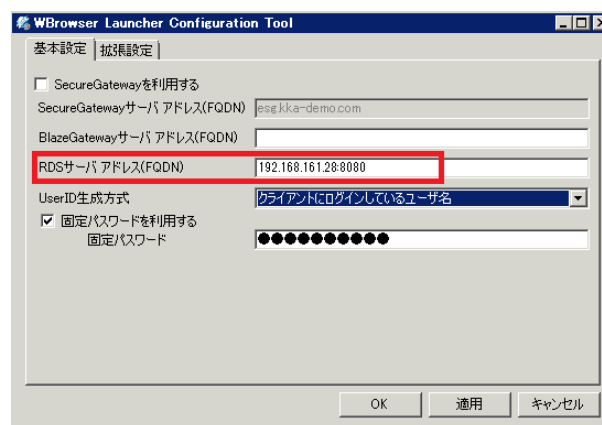
1. WBrower Launcher Configuration Tool が起動します。

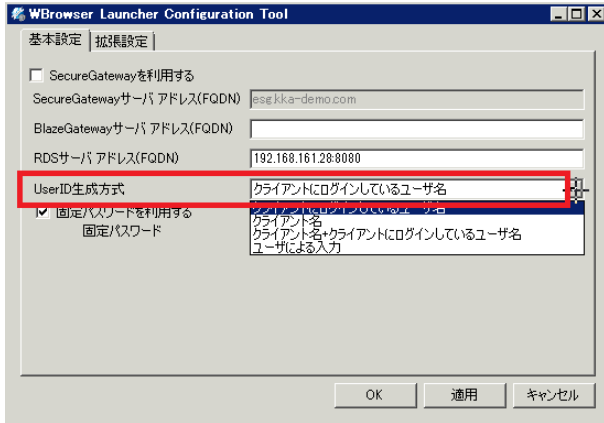
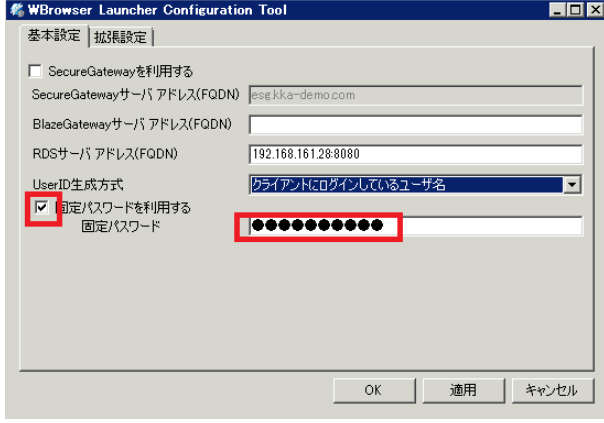
RDS サーバへの接続アドレスを指定します。


Linux サーバへの接続アドレスを下記の形式で指定してください。

[FQDN 名 or IP アドレス] :8080

※ Ericom Connect SecureGateway サーバを利用せず、直接 Linux サーバへ接続する場合、サーバアドレスの最後にポート : 8080 を指定します。



<p>2. 続いて、User ID 生成方式を指定します。</p> <p>プルダウンから、Connect サーバへ接続する際のログインユーザ方式を指定します。</p> <p>ここでは [クライアントにログインしているユーザ名] を指定します。</p>	 <p>The screenshot shows the 'WBrowser Launcher Configuration Tool' window. The 'User ID生成方式' dropdown menu is open, and the option 'クライアントにログインしているユーザ名' is selected. A red box highlights the dropdown menu.</p>
<p>3. 全ユーザ共通の固定パスワードを設定される場合、[固定パスワードを利用する] のチェックボックスを有効にして、ActiveDirectory にて設定されているパスワードを入力します。</p>	 <p>The screenshot shows the 'WBrowser Launcher Configuration Tool' window. The '固定パスワードを利用する' checkbox is checked. The '固定パスワード' field is filled with a series of black dots. A red box highlights the checkbox and the password field.</p>

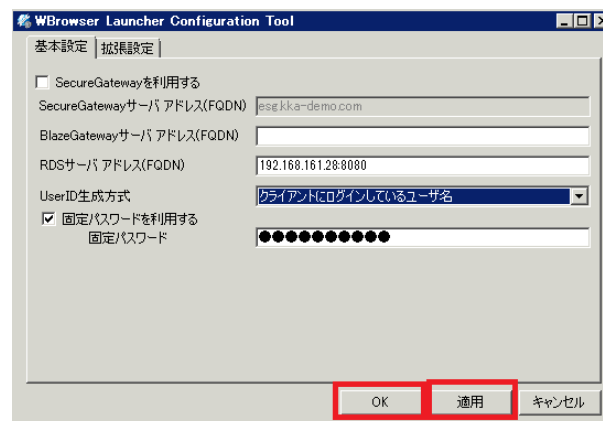


連携キットによる SSO は、上記設定のように全ユーザ共通の固定パスワードを利用することで、擬似的に実現しています。それぞれの設定の違いについては、管理者ガイドを参照してください。

参考:

4. [適用] ボタンをクリックして、設定を反映します。

[OK] ボタンをクリックして終了します。



Firefox テンプレートの設定

IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox テンプレートをカスタマイズする手順について記載しています。ユーザがアクセスする前に、Firefox の詳細設定 (プロキシ設定など) の標準テンプレートの設定を行います。



Tips:

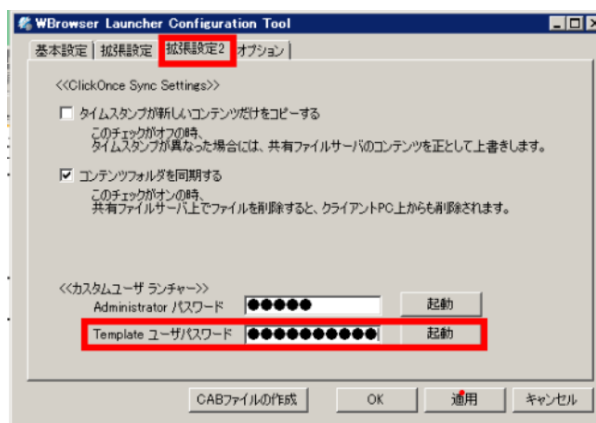
通信ポートが許可されている場合、IVEX ダブルブラウザ Linux へ、mstsc.exe などにより直接リモートデスクトップ接続して設定することも可能です。



注意:

「template-user」ユーザは Firefox のテンプレート設定を行う際に、IVEX ダブルブラウザ Linux 環境に接続する作業ユーザです。過去のバージョンでは「template-user」ユーザは「template」ユーザという ID でご利用いただいていた時期がありますが、一般ユーザの利用中にもテンプレートのメンテナンスが可能ないように、作業ユーザでアクセスしていただくようになっています。

1. ファイルサーバ上に保存した「WBrowserLauncher」フォルダ内にある「WBConfigTool.exe」を起動します。
[拡張設定 2] を表示して、Template ユーザの [起動] ボタンをクリックします。



template-user ユーザのの初期パスワードは「1234」です。

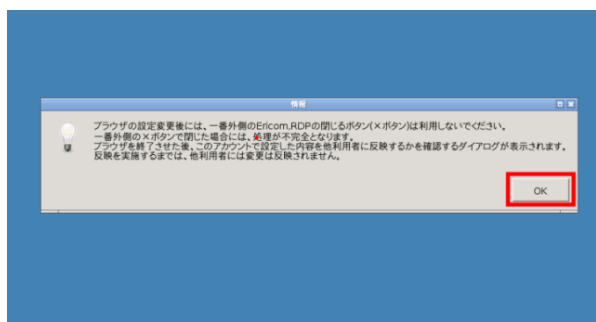
参考:



連携キットを使用せずにリモートデスクトップ接続でテンプレートをカスタマイズすることも可能です。ログイン ID は **template-user** をご利用下さい。

Tips:

2. Blaze 通信でセッションが開始されます。メッセージを確認してから Firefox を起動してください。



3. Firefox の詳細設定画面より、ネットワーク設定やデフォルト URL、ブックマーク等のデフォルト設定を自由に設定して下さい。

設定が完了したら、Firefox のタブの [×] ボタンか、外側の Blaze ウィンドウの [×] ボタンをクリックして、終了して下さい。



警告:

Firefox 画面下部に「お久しぶりです！ Firefox はしばらく使われていないようです。プロファイルを掃除して新品のようにきれいにしますか？」というメッセージが表示される場合がありますが、「Firefox をリフレッシュ」のボタンはクリックしないようにしてください。

Linux ローカルユーザの登録

IVEX ダブルブラウザ Linux のローカルユーザを登録する手順について記載いたします。ユーザがアクセスする前に、ユーザ ID の登録を行います。



Tips:

通信ポートが許可されている場合、IVEX ダブルブラウザ Linux へ、mstsc.exe などにより直接リモートデスクトップ接続して設定することも可能です。

1. ファイルサーバ上に保存した「WBrowserLauncher」フォルダ内にある「WBConfigTool.exe」を起動します。
[拡張設定 2] を表示して、Administrator ユーザの [起動] ボタンをクリックします。



administrator ユーザの初期パスワードは「admin」です。

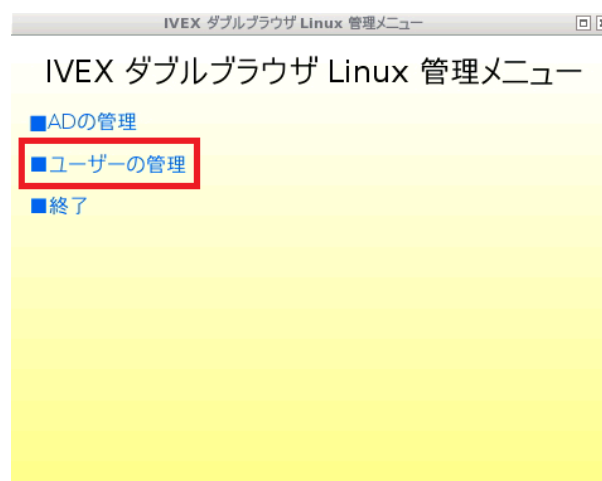
参考:

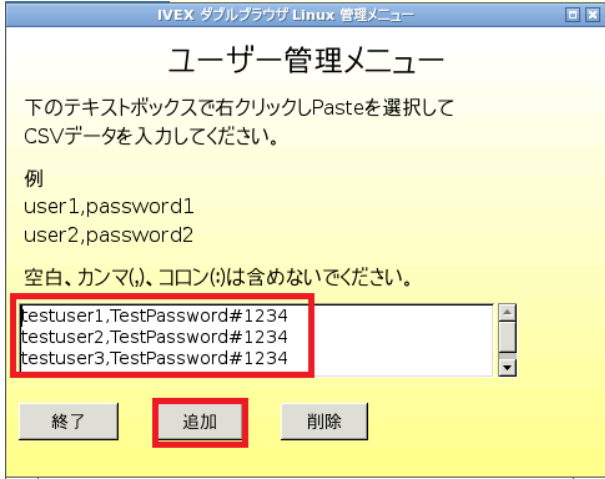
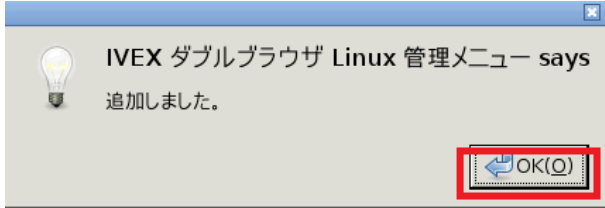


連携キットを使用せずにリモートデスクトップで接続することも可能です。ログイン ID は **administratorr** をご利用下さい。

Tips:

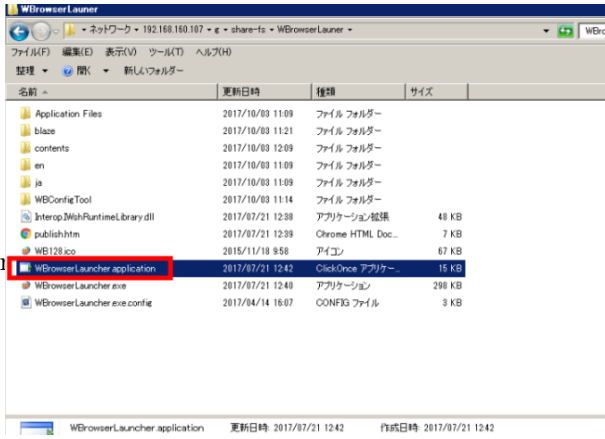
2. IVEX ダブルブラウザ Linux 管理メニューが起動します。
「ユーザーの管理」をクリックしてください。



<p>3. ユーザ ID とパスワードをカンマで区切った形式でウィンドウ内に記載してください。 (作成した CSV をコピーペーストすると簡単です。) 記載の後、「追加」をクリックしてください。</p>	
<p>4. 追加が終わるまで暫くお待ち下さい。 完了するとポップアップが表示されます。 「OK」をクリックし、順次開いたメニューを閉じて終了してください。</p>	

ユーザ端末へのインストールと利用

インストール

<p>1. 利用者端末より、配布準備と設定 (ページ 186) でファイルサーバに保存した.application ファイルを実行します。</p> <p>例：\\(File Server)\WBrowserLauncher\WBrowserLauncher</p>	
--	--




注意:

クライアント端末には、.NetFramework4.5.2 以上が必要です。詳しくは [ダブルブラウザ連携キット リリースノート \(ページ 39\)](#) をご確認ください。

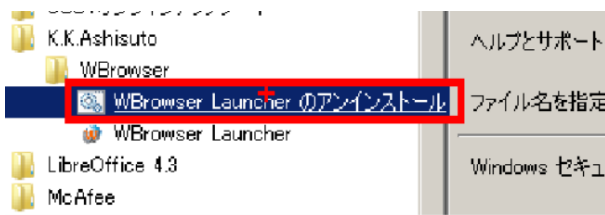
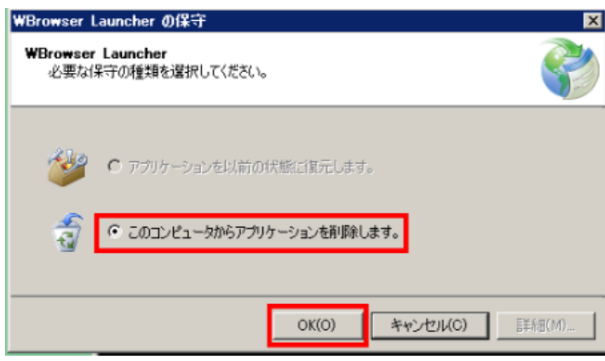
<p>2. インストールのセキュリティ警告画面が表示されます。</p> <p>[インストール] ボタンをクリックして実行します。</p> <p>ファイルセキュリティの警告画面が表示されたら、[実行] をクリックして下さい。</p>	
<p>3. インストールされると、利用者端末のデスクトップ上に、[WBrowser Launcher] が表示されます。</p>	

ユーザによる利用

<p>1. デスクトップ上の [WBrowser Launcher] を実行すると、Blaze の画面が表示され、IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox ブラウザが起動されます。</p>	
--	--

<p>2. 終了時は仮想ブラウザにあるタブの [×] ボタンか、外枠の Ericom Blaze Client の [×] ボタンより終了します。</p>	 <p>The screenshot shows a Mozilla Firefox browser window. The address bar contains 'file:///var/_TC-TOP.html'. The main content area has a blue background with the text '接続先を指定して [ENTER] で利用開始' and a large input field containing 'http://'. The IVEX logo is visible in the bottom left corner. A red box highlights the close button (X) in the top right corner of the browser window.</p>
---	---

アンインストール

<p>1. クライアント端末デスクトップより、[スタート] – [すべてのプログラム] – [K.K.Ashisuto] – [WBrowser] – [WBrowser Launcher のアンインストール] を実行します。</p>	 <p>The screenshot shows a Windows Start menu search result. The search term is 'WBrowser Launcher のアンインストール'. The results list includes 'WBrowser Launcher のアンインストール' (highlighted with a red box), 'WBrowser Launcher', 'LibreOffice 4.3', and 'McAfee'. The right sidebar shows options like 'ヘルプとサポート', 'ファイル名を指定', and 'Windows セキュリティ'.</p>
<p>2. アプリケーションの削除を選択して、[OK] ボタンをクリックします。自動的にアンインストール処理が実行されます。</p>	 <p>The screenshot shows a Windows dialog box titled 'WBrowser Launcher の保守'. The main text says 'WBrowser Launcher 必要な保守の種類を選択してください。'. There are two radio button options: 'アプリケーションを以前の状態に復元します。' and 'このコンピュータからアプリケーションを削除します。' (highlighted with a red box). At the bottom, there are buttons for 'OK(O)', 'キャンセル(C)', and '詳細(M)...'. The 'OK(O)' button is also highlighted with a red box.</p>

MSI 版

管理者端末へのインストールと設定

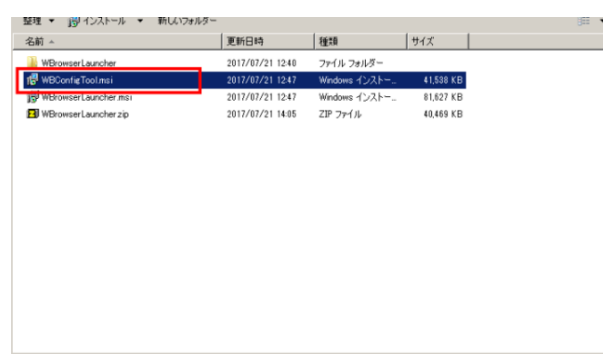
WBConfigTool のインストール



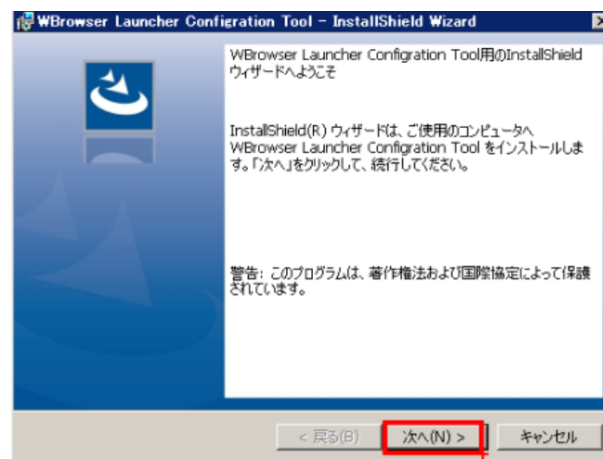
MSI のインストールには端末の管理者権限が必要です。

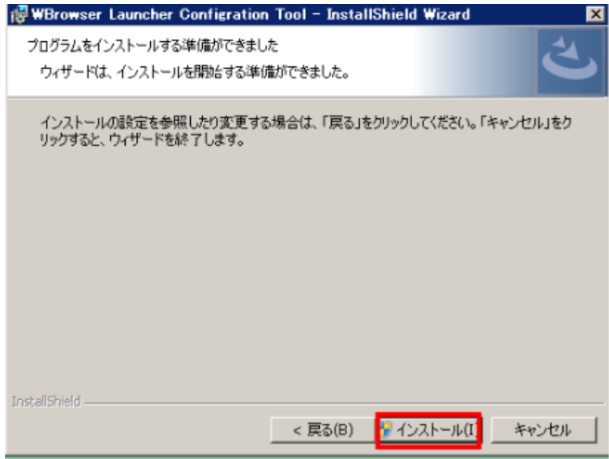
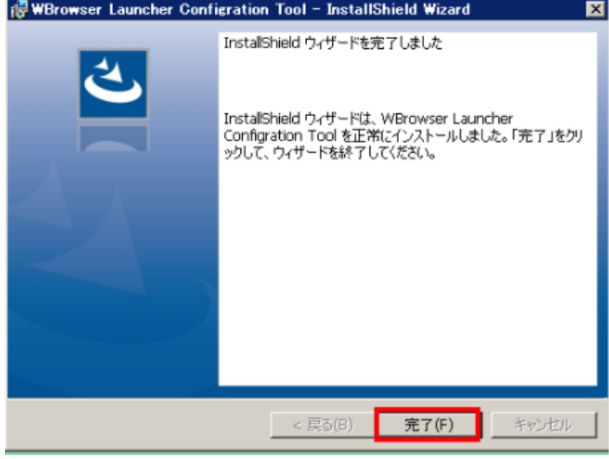
注意:

1. インストールモジュール内に保存されている「WBConfigTool.msi」を実行します。



2. インストーラーが起動したら、[次へ] をクリックします。

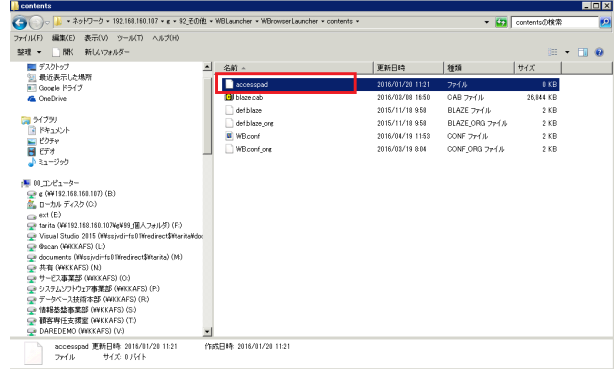
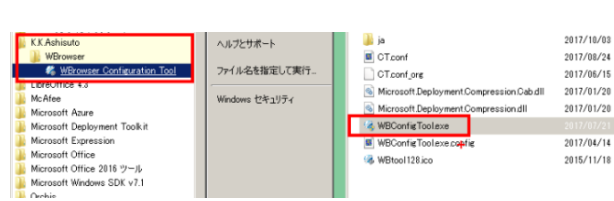


<p>3. [インストール] ボタンをクリックして、インストールを開始します。</p>	
<p>4. インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。</p>	

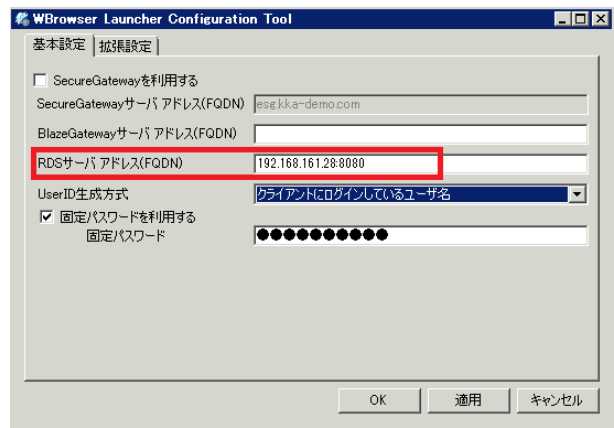
**Tips:**

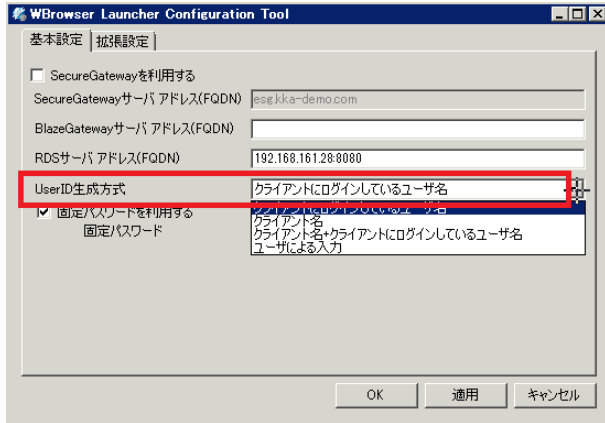
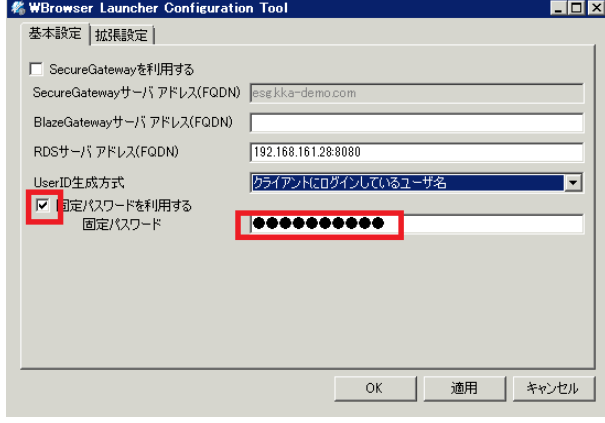
WBrower Launcher Configuration Tool は、下記のフォルダへインストールされます。


- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrower Launcher\

<p>5. 「(インストールフォルダ)\ashisuto\WBrower Launcher」フォルダ内にある [Contents] フォルダの [accesspad] ファイルを削除します。</p>	
<p>6. 続いて、接続設定のファイルを作成します。 スタートメニューの [K.K.Ashisuto] - [WBrower] - [WBrower Configuration Tool] を実行するか、「(インストールフォルダ)\WBConfigTool\WBConfigTool.exe」を起動します。</p>	

設定ファイルの作成

<p>1. WBrower Launcher Conefiguration Tool が起動します。 RDS サーバへの接続アドレスを指定します。 Linux サーバへの接続アドレスを下記の形式で指定してください。 [FQDN 名 or IP アドレス] :8080 ※ Ericom Connect SecureGatway サーバを利用せず、直接 Linux サーバへ接続する場合、サーバアドレスの最後にポート : 8080 を指定します。</p>	
--	--

<p>2. 続いて、User ID 生成方式を指定します。</p> <p>プルダウンから、Connect サーバへ接続する際のログインユーザ方式を指定します。</p> <p>ここでは [クライアントにログインしているユーザ名] を指定します。</p>	 <p>The screenshot shows the 'WBrowser Launcher Configuration Tool' window. The 'User ID 生成方式' dropdown menu is open, and 'クライアントにログインしているユーザ名' is selected. A red box highlights the dropdown menu.</p>
<p>3. 全ユーザ共通の固定パスワードを設定される場合、[固定パスワードを利用する] のチェックボックスを有効にして、ActiveDirectory にて設定されているパスワードを入力します。</p>	 <p>The screenshot shows the 'WBrowser Launcher Configuration Tool' window. The '固定パスワードを利用する' checkbox is checked. The '固定パスワード' field is filled with dots. A red box highlights the checkbox and the password field.</p>

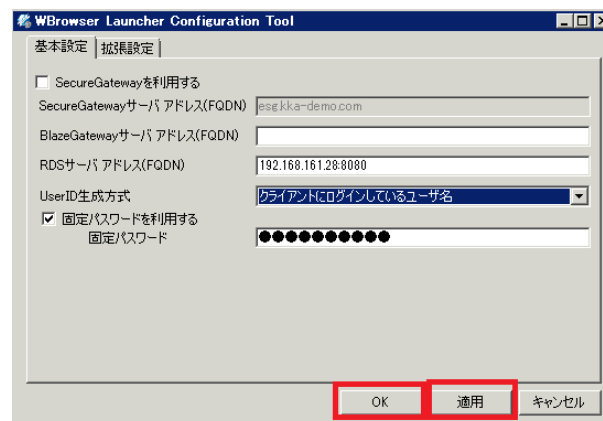


連携キットによる SSO は、上記設定のように全ユーザ共通の固定パスワードを利用することで、擬似的に実現しています。それぞれの設定の違いについては、管理者ガイドを参照してください。

参考:

4. [適用] ボタンをクリックして、設定を反映します。

[OK] ボタンをクリックして終了します。



設定ファイルの配布

1. クライアント端末に配布する設定ファイル (def.blaze、WB.conf) は、下記フォルダに保存されています。

(インストールフォルダ)\contents\def.blaze

(インストールフォルダ)\contents\WB.conf

2つの設定ファイルを各ユーザーの「(インストールフォルダ)\contents」フォルダ内の設定ファイルと差し替えることで、設定が反映されます。

名前	更新日時	種類	サイズ
accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル	0 KB
blaze.cab	2017/07/03 13:16	CAB ファイル	39,899 KB
contentslist.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書	1 KB
debug	2017/04/14 16:07	ファイル	0 KB
def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル	2 KB
def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル	2 KB
WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル	3 KB
WB.conf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル	3 KB

Firefox テンプレートの設定

IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox テンプレートをカスタマイズする手順について記載しています。ユーザーがアクセスする前に、Firefox の詳細設定 (プロキシ設定など) の標準テンプレートの設定を行います。



Tips:

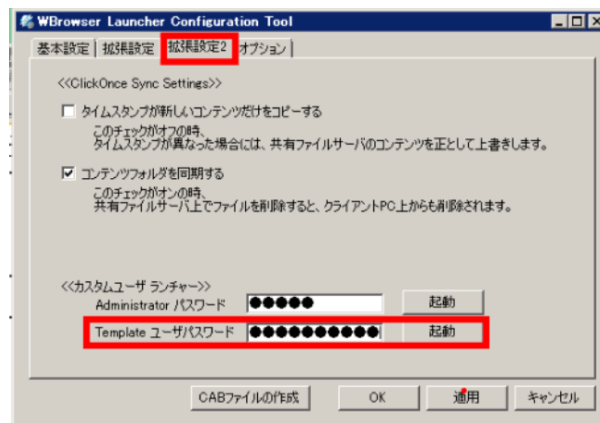
通信ポートが許可されている場合、IVEX ダブルブラウザ Linux へ、mstsc.exe などにより直接リモートデスクトップ接続して設定することも可能です。



注意:

「template-user」ユーザは Firefox のテンプレート設定を行う際に、IVEX ダブルブラウザ Linux 環境に接続する作業ユーザです。過去のバージョンでは「template-user」ユーザは「template」ユーザという ID でご利用いただいていた時期がありますが、一般ユーザの利用中にもテンプレートのメンテナンスが可能のように、作業ユーザでアクセスしていただくようになっています。

1. ファイルサーバ上に保存した「WBrowserLauncher」フォルダ内にある「WBConfigTool.exe」を起動します。
[拡張設定 2] を表示して、Template ユーザの [起動] ボタンをクリックします。



参考:

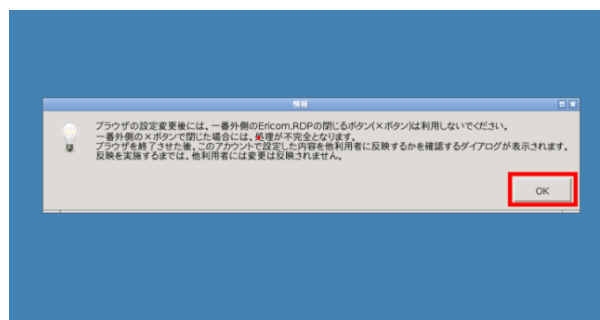
template-user ユーザの初期パスワードは「1234」です。



Tips:

連携キットを使用せずにリモートデスクトップ接続でテンプレートをカスタマイズすることも可能です。ログイン ID は **template-user** をご利用下さい。

2. Blaze 通信でセッションが開始されます。メッセージを確認してから Firefox を起動してください。



3. Firefox の詳細設定画面より、ネットワーク設定やデフォルト URL、ブックマーク等のデフォルト設定を自由に設定して下さい。

設定が完了したら、Firefox のタブの [×] ボタンか、外側の Blaze ウィンドウの [×] ボタンをクリックして、終了して下さい。



警告:

Firefox 画面下部に「お久しぶりです！ Firefox はしばらく使われていないようです。プロファイルを掃除して新品のようにきれいにしますか？」というメッセージが表示される場合がありますが、「Firefox をリフレッシュ」のボタンはクリックしないようにしてください。

Linux ローカルユーザの登録

IVEX ダブルブラウザ Linux のローカルユーザを登録する手順について記載いたします。ユーザがアクセスする前に、ユーザ ID の登録を行います。



Tips:

通信ポートが許可されている場合、IVEX ダブルブラウザ Linux へ、mstsc.exe などにより直接リモートデスクトップ接続して設定することも可能です。

1. ファイルサーバ上に保存した「WBrowserLauncher」フォルダ内にある「WBConfigTool.exe」を起動します。
[拡張設定 2] を表示して、Administrator ユーザの [起動] ボタンをクリックします。



administrator ユーザの初期パスワードは「admin」です。

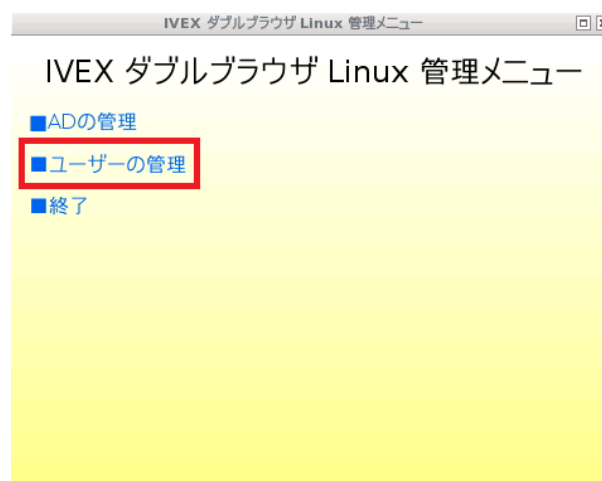
参考:

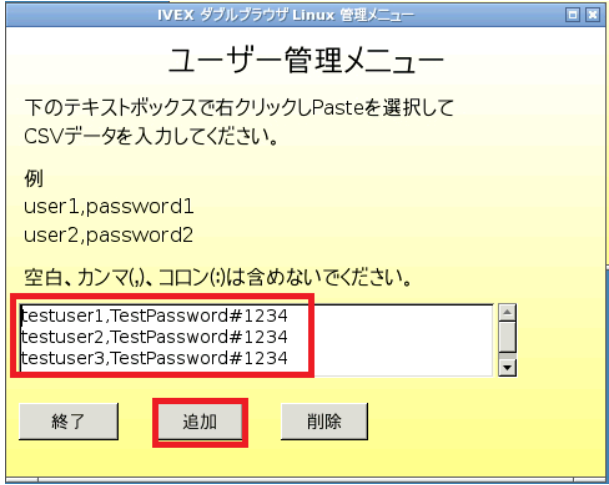
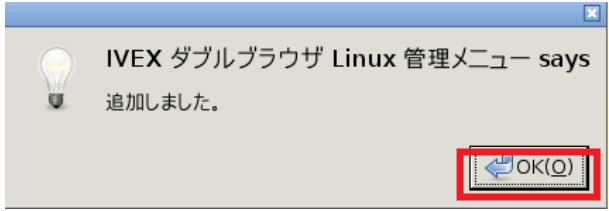


連携キットを使用せずにリモートデスクトップで接続することも可能です。ログイン ID は **administratorr** をご利用下さい。

Tips:

2. IVEX ダブルブラウザ Linux 管理メニューが起動します。
「ユーザーの管理」をクリックしてください。



<p>3. ユーザ ID とパスワードをカンマで区切った形式でウィンドウ内に記載してください。 (作成した CSV をコピーペーストすると簡単です。) 記載の後、「追加」をクリックしてください。</p>	
<p>4. 追加が終わるまで暫くお待ち下さい。 完了するとポップアップが表示されます。 「OK」をクリックし、順次開いたメニューを閉じて終了してください。</p>	

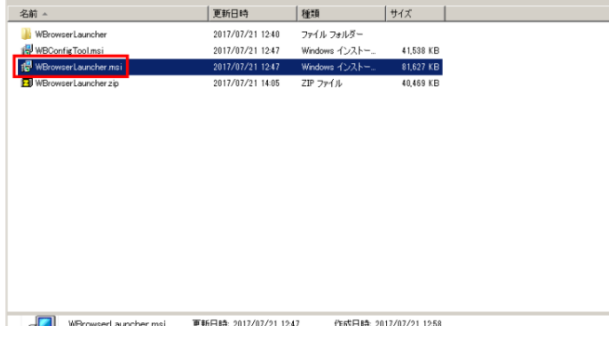
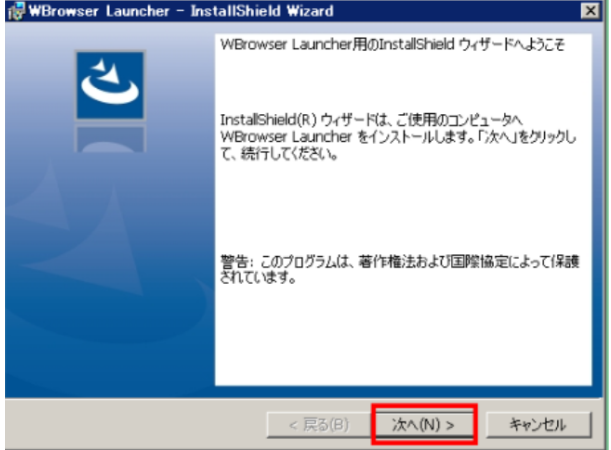
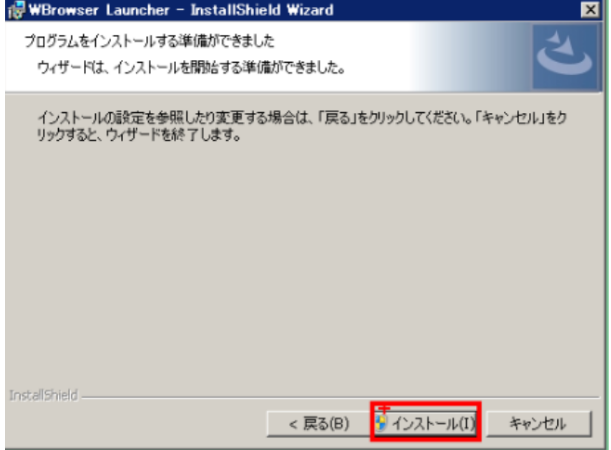
ユーザ端末へのインストールと利用

インストール

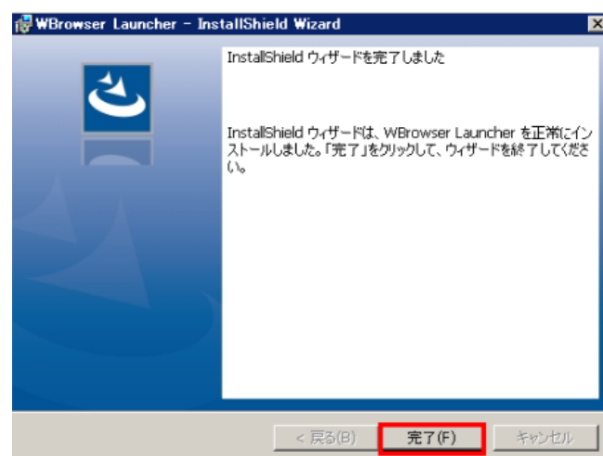


注意:

MSI のインストールには端末の管理者権限が必要です。

<p>1. インストールモジュール内に保存されている「WBrowserLauncher.msi」を実行します。</p>	
<p>2. インストーラーが起動したら、[次へ] をクリックします。</p>	
<p>3. [インストール] ボタンをクリックして、インストールを開始します。</p>	

4. インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。

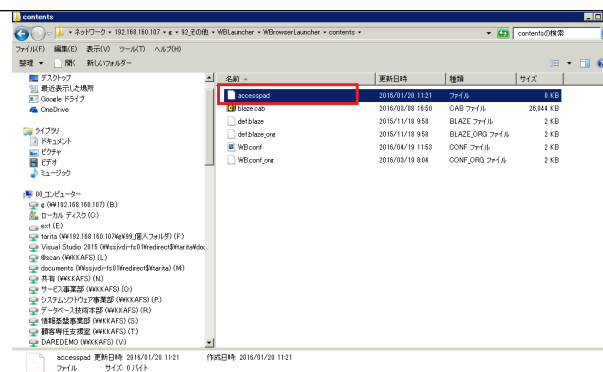


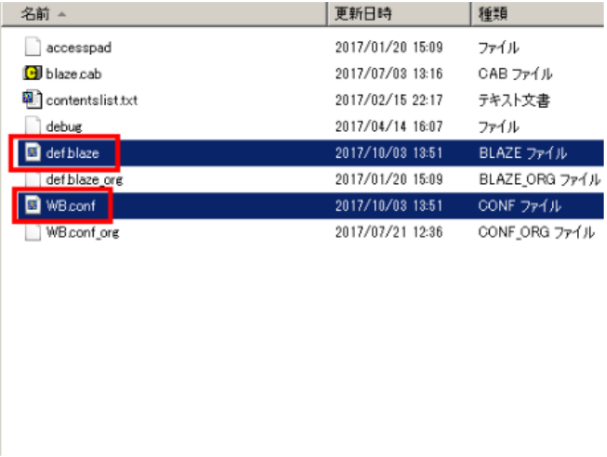

Tips:

WBrowser Launcher は、下記のフォルダへインストールされます。


- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrowser Launcher\
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrowser Launcher\


5. 「(インストールフォルダ)\ashisuto\WBrowser Launcher」フォルダ内にある [Contents] フォルダの [accesspad] ファイルを削除します。



<p>6. 以上でインストールは完了です。</p> <p>管理者が設定された設定ファイル (def.blaze、WB.conf) を差し替えて接続して下さい。</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>更新日時</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>accesspad</td> <td>2017/01/20 15:09</td> <td>ファイル</td> </tr> <tr> <td>blaze.cab</td> <td>2017/07/03 13:16</td> <td>CAB ファイル</td> </tr> <tr> <td>contentslist.txt</td> <td>2017/02/15 22:17</td> <td>テキスト文書</td> </tr> <tr> <td>debug</td> <td>2017/04/14 16:07</td> <td>ファイル</td> </tr> <tr> <td>def.blaze</td> <td>2017/10/03 13:51</td> <td>BLAZE ファイル</td> </tr> <tr> <td>def.blaze.org</td> <td>2017/01/20 15:09</td> <td>BLAZE_ORG ファイル</td> </tr> <tr> <td>WB.conf</td> <td>2017/10/03 13:51</td> <td>CONF ファイル</td> </tr> <tr> <td>WB.conf.org</td> <td>2017/07/21 12:36</td> <td>CONF_ORG ファイル</td> </tr> </tbody> </table>	名前	更新日時	種類	accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル	blaze.cab	2017/07/03 13:16	CAB ファイル	contentslist.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書	debug	2017/04/14 16:07	ファイル	def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル	def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル	WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル	WB.conf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル
名前	更新日時	種類																										
accesspad	2017/01/20 15:09	ファイル																										
blaze.cab	2017/07/03 13:16	CAB ファイル																										
contentslist.txt	2017/02/15 22:17	テキスト文書																										
debug	2017/04/14 16:07	ファイル																										
def.blaze	2017/10/03 13:51	BLAZE ファイル																										
def.blaze.org	2017/01/20 15:09	BLAZE_ORG ファイル																										
WB.conf	2017/10/03 13:51	CONF ファイル																										
WB.conf.org	2017/07/21 12:36	CONF_ORG ファイル																										
<p>7. インストールされると、利用者端末のデスクトップ上に、[WBrowser Launcher] が表示されています。</p>																												

一般ユーザによる利用

<p>1. デスクトップ上の [WBrowser Launcher] を実行すると、Blaze の画面が表示され、IVEX ダブルブラウザ Linux の Firefox ブラウザが起動されます。</p>	
--	--

<p>2. 終了時は仮想ブラウザにあるタブの [×] ボタンか、外枠の Ericom Blaze Client の [×] ボタンより終了します。</p>	
---	--

アンインストール

<p>1. コントロールパネルを開き、[プログラムと機能] をクリックします。</p>																																					
<p>2. プログラム一覧から、[WBrower Launcher] をアンインストールします。</p>	 <table border="1" data-bbox="842 1424 1449 1621"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>会社</th> <th>インストール日</th> <th>サイズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>VMware vSphere PowerCLI</td> <td>VMware, Inc.</td> <td>2016/12/...</td> <td>48.2</td> </tr> <tr> <td>WBrower Launcher</td> <td>K.K.Ashisuto</td> <td>2017/10/...</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>WBrower Launcher Configuration Tool</td> <td>K.K.Ashisuto</td> <td>2017/10/...</td> <td>57.1</td> </tr> <tr> <td>WCF RIA Services V1.0 SP2</td> <td>Microsoft Corporation</td> <td>2015/08/...</td> <td>6.01</td> </tr> <tr> <td>Windows Resource Kit Tools - LockoutStatus...</td> <td>Microsoft Corporation</td> <td>2016/02/...</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>Windows Software Development Kit - Windows ...</td> <td>Microsoft Corporation</td> <td>2016/08/...</td> <td>341</td> </tr> <tr> <td>WinMerge 2.14.0.121 x64</td> <td>Thingamahoochie Software</td> <td>2017/01/...</td> <td>20.3</td> </tr> <tr> <td>WinPop 4.1.3</td> <td>Riverbed Technology, Inc.</td> <td>2016/10/...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	名前	会社	インストール日	サイズ	VMware vSphere PowerCLI	VMware, Inc.	2016/12/...	48.2	WBrower Launcher	K.K.Ashisuto	2017/10/...	96.3	WBrower Launcher Configuration Tool	K.K.Ashisuto	2017/10/...	57.1	WCF RIA Services V1.0 SP2	Microsoft Corporation	2015/08/...	6.01	Windows Resource Kit Tools - LockoutStatus...	Microsoft Corporation	2016/02/...	52.0	Windows Software Development Kit - Windows ...	Microsoft Corporation	2016/08/...	341	WinMerge 2.14.0.121 x64	Thingamahoochie Software	2017/01/...	20.3	WinPop 4.1.3	Riverbed Technology, Inc.	2016/10/...	...
名前	会社	インストール日	サイズ																																		
VMware vSphere PowerCLI	VMware, Inc.	2016/12/...	48.2																																		
WBrower Launcher	K.K.Ashisuto	2017/10/...	96.3																																		
WBrower Launcher Configuration Tool	K.K.Ashisuto	2017/10/...	57.1																																		
WCF RIA Services V1.0 SP2	Microsoft Corporation	2015/08/...	6.01																																		
Windows Resource Kit Tools - LockoutStatus...	Microsoft Corporation	2016/02/...	52.0																																		
Windows Software Development Kit - Windows ...	Microsoft Corporation	2016/08/...	341																																		
WinMerge 2.14.0.121 x64	Thingamahoochie Software	2017/01/...	20.3																																		
WinPop 4.1.3	Riverbed Technology, Inc.	2016/10/...	...																																		
<p>3. アプリケーションの削除を実行するため、[はい] ボタンをクリックします。</p>																																					



管理者端末の場合、同様の手順でプログラムと機能より、「Wbrowser Launcher Configuration Tool」をアンインストールして下さい。

参考:

第 7 章

バージョンアップ手順

7.1 Windows 版

7.1.1 ダブルブラウザ連携キットのバージョンアップ

ClickOnce の場合

- 配布元ファイルサーバのファイルを上書きで差し替えます。新しいバージョンの zip ファイルを解凍したものをそのまま全て上書きしてください。
- 新バージョンとの設定互換を確保するため、配布元ファイルサーバ上にある **WBConfigTool.exe** を起動し、**[OK]** をクリックしてください。これにより設定ファイル (def.blaze と WB.conf が更新されます。)
- 新しい連携キットが上書きされた場合、ユーザの次回実行時に新バージョンが検知され、インストールするかどうかのポップアップがユーザ画面に表示されますのでバージョンアップを選択するように事前にアナウンスしてください。

MSI の場合

- Configuration Tool をインストールした管理者端末で新バージョンの Configuration Tool を上書きインストールします。
- 新バージョンとの設定互換を確保するため、配布元ファイルサーバ上にある **WBConfigTool.exe** を起動し、**[OK]** をクリックしてください。これにより設定ファイル (def.blaze と WB.conf が更新されます。)
- 各クライアント PC の WBrowserLauncher を上書きインストールします。
- 先の手順で更新した新しい設定ファイルを各クライアント PC に再配布します。

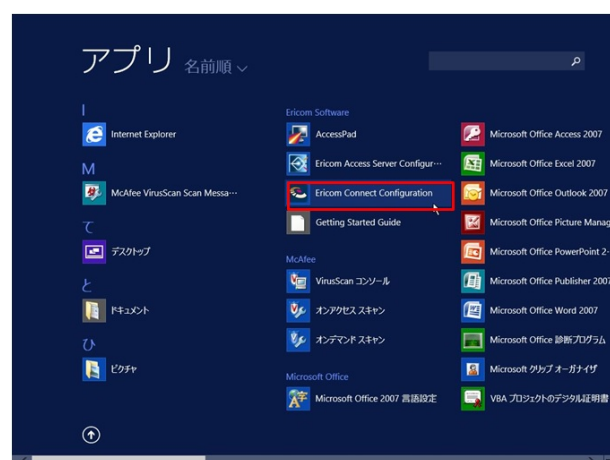
7.1.2 Ericom Connect のバージョンアップ

■ 単体構成の場合のバージョンアップ

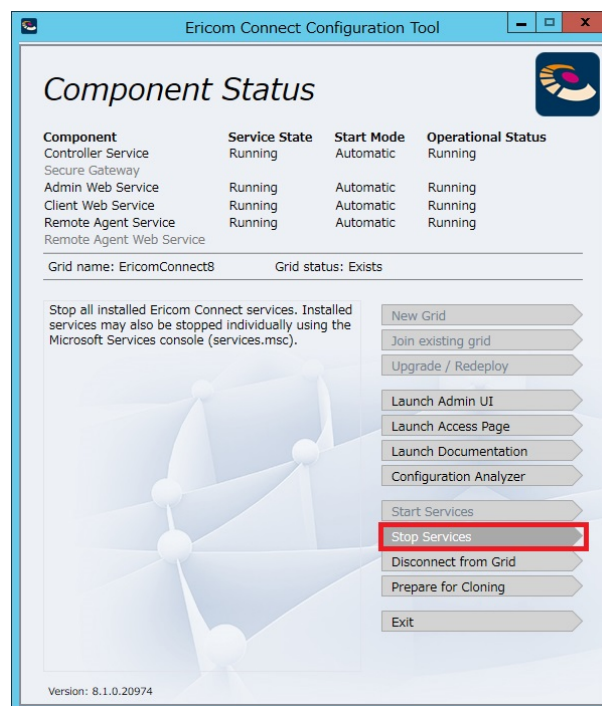
- 既存の Connect サーバにて作業を行います。
- Connect サーバが単体構成の場合の手順です。
- 既存の Connect サーバをアンインストールし、最新の Connect サーバをインストールして、バージョンアップを行います。

Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

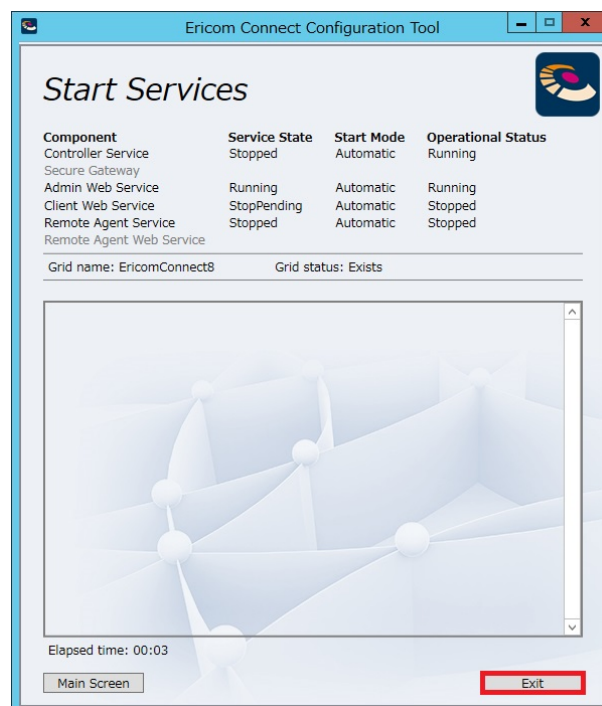
1. Connect の管理者ユーザで Connect サーバにログインし、[スタートメニュー] より、[Ericom Connect Configuration Tool] を起動します。



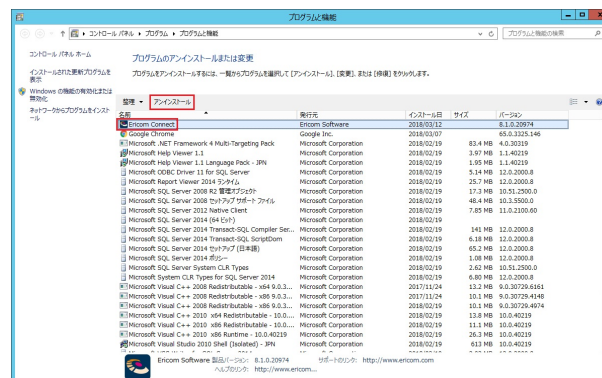
2. [Stop Services] をクリックし、Connect サーバのサービスを停止します。



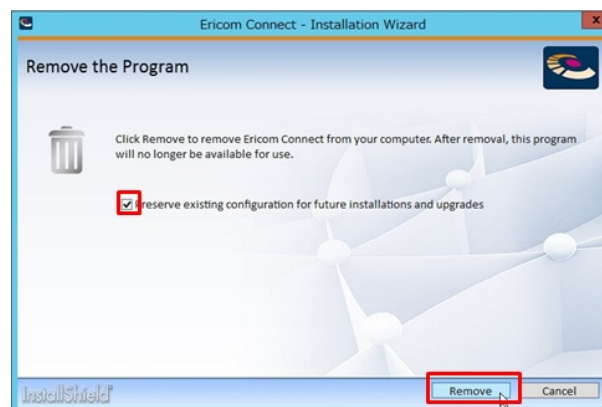
3. サービスが停止したら [Exit] をクリックし、Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



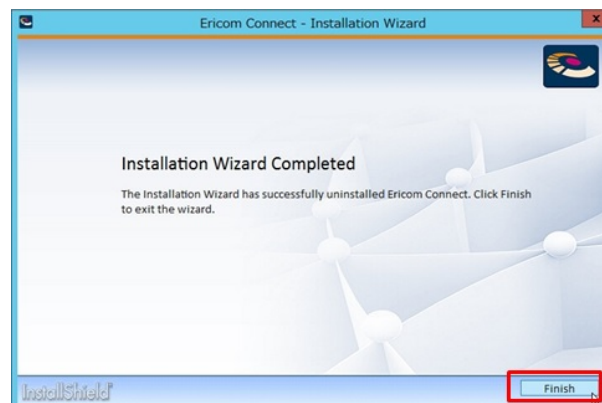
4. コントロールパネルから [プログラムと機能] を開き、[Ericom Connect] を右クリックして [アンインストール] を選択します。


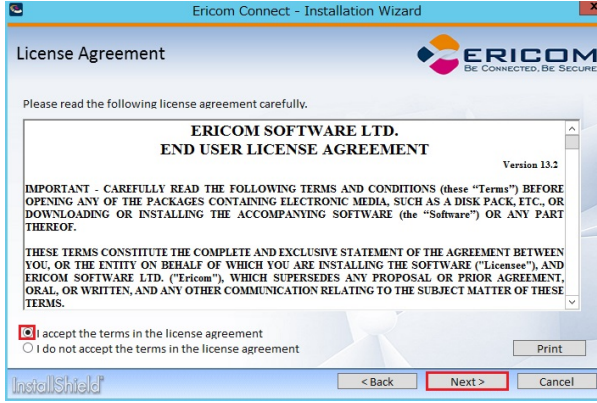
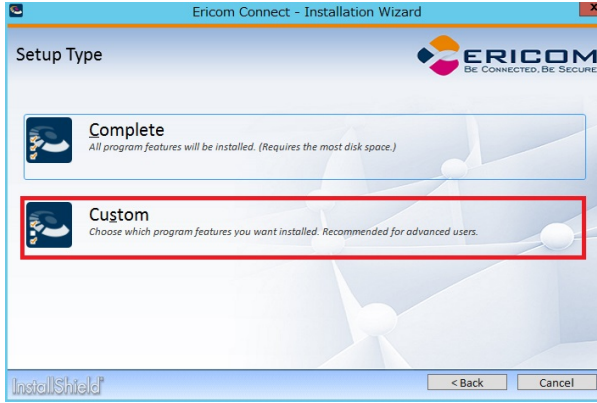


5. [Preserve existing configuration for future installations and upgrades] にチェックが入っていることを確認し、[Remove] をクリックします。

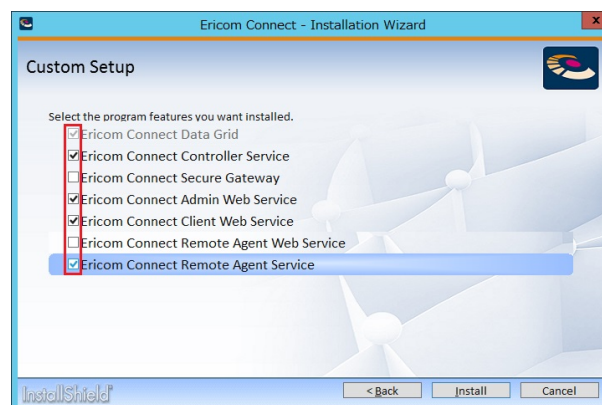


6. [Installation Wizard Completed] と表示されたら、[Finish] をクリックしてウィザードを閉じます。
必ずサーバを再起動してください。

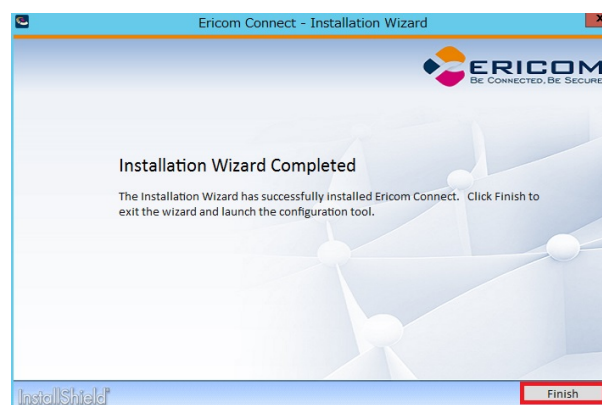


<p>7. 最新バージョンの Connect をインストールします。[EricomConnect.exe] をダブルクリックしてインストールウィザードを開始します。</p> <p>Connect 8.0 以上のインストールには .Net 4.5.2 以上が必要です。必要に応じてインストールしてください。インストールメディア内の以下フォルダにインストーラーがございます。[.NET Framework 4.5.2] フォルダ</p>	
<p>8. 「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、[Next] をクリックします。</p>	
<p>9. [Custom] をクリックします。</p>	

10. インストールするコンポーネントを選択します。チェックする項目につきましては、「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考に、必要なコンポーネントをチェックして、[Install] をクリックします。



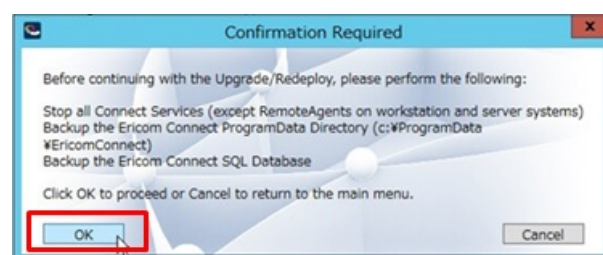
11. インストールが完了したら、[Finish] をクリックして閉じます。



12. Ericom Connect Configuration Tool が起動してきます。[Upgrade / Redeploy] をクリックします。



13. SQL サーバのバックアップを勧めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

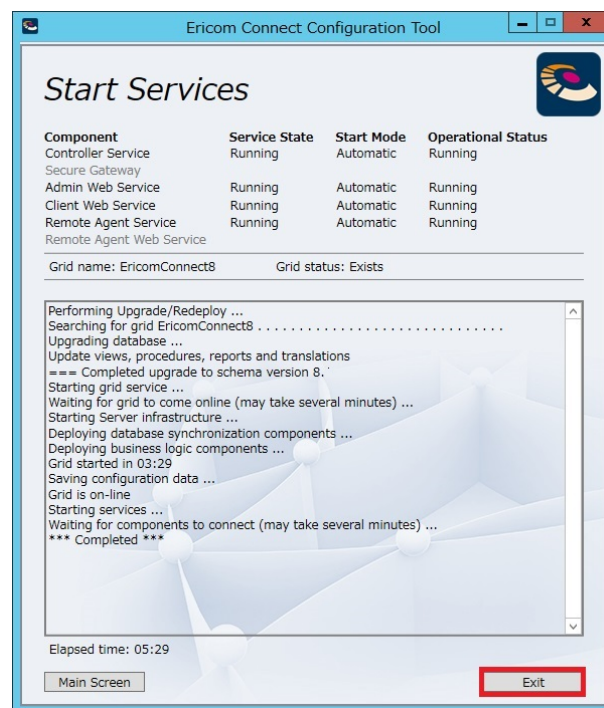


14. [Database Admin] にグリッド作成時に設定したデータベースのアカウント (デフォルトではグリッド名と同じ) とパスワードを入力します。
 ※パスワードが不明な場合は、SQL Server 上の [SQL Server Management Studio] に Windows 認証でログインし、パスワードを変更してください。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。

15. バージョンアップの途中で、Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。

16. [***Completed***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



お願い:

新バージョンは、旧バージョンと管理コンソールの設定や接続時の設定が異なる場合があります。最新の設定を必ずご確認ください。



警告:

グリッドに参加しているコンポーネントはバージョンを統一する必要があります。RemoteAgent がインストールされているリモートデスクトップ/ターミナルサーバ、VDI、IVEX ダブルブラウザ Linux の RemoteAgent、及び SecureGateway、Access-Pad(ダブルブラウザ連携キット含む) もバージョンアップしてください。

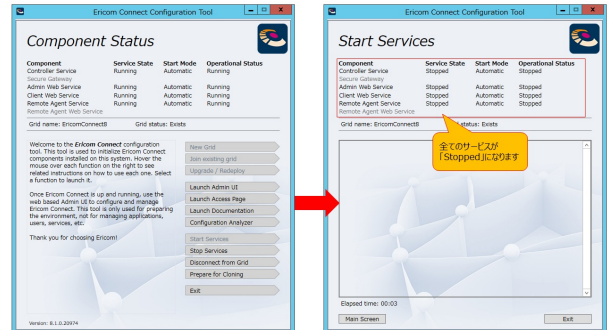
冗長構成の場合のバージョンアップ

- 既存の Connect サーバにて作業を行います。
- Connect サーバの冗長構成が 2 台で構成されている場合の手順です。
- 既存の Connect サーバをアンインストールし、最新の Connect サーバをインストールして、バージョンアップを行います。

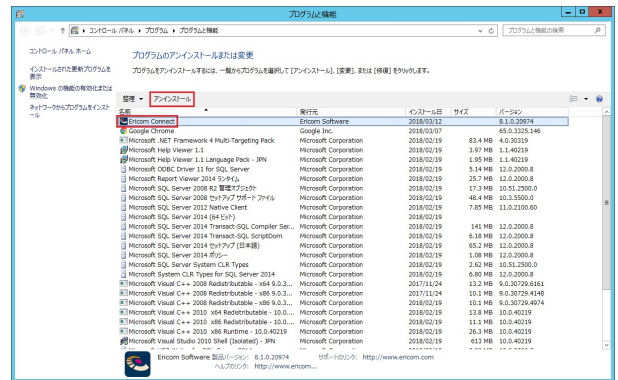
Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

1 台目

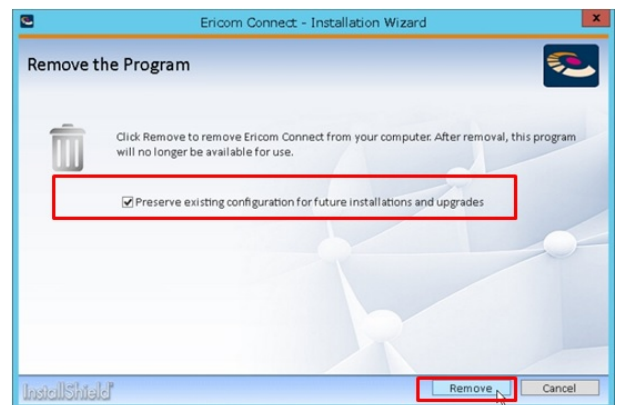
1. Connect の管理者ユーザで Connect サーバにログインし、[スタートメニュー] より、[Ericom Connect Configuration Tool] を起動します。「Stop Services」をクリックして Connect の全てのサービスを停止します。
2 台の Connect サーバで行ってください。

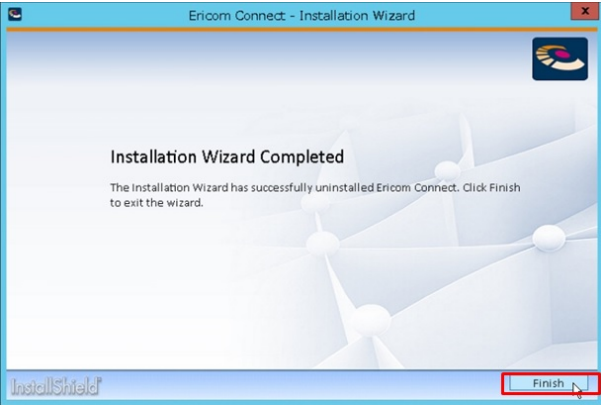
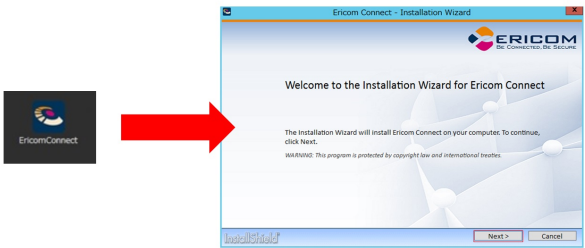



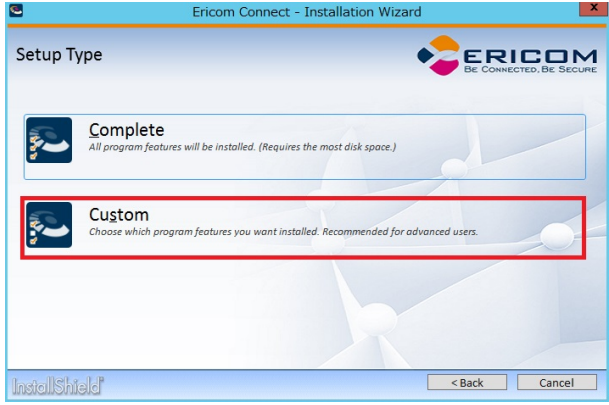
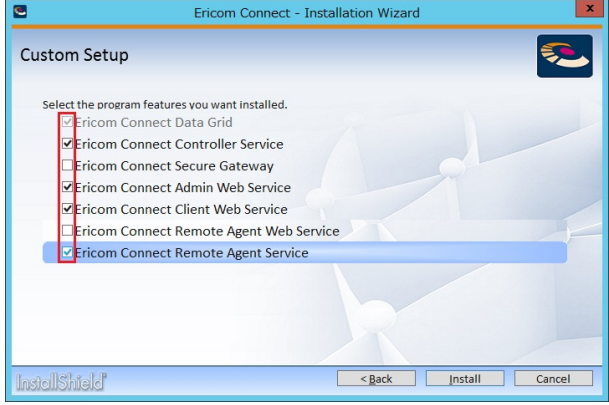
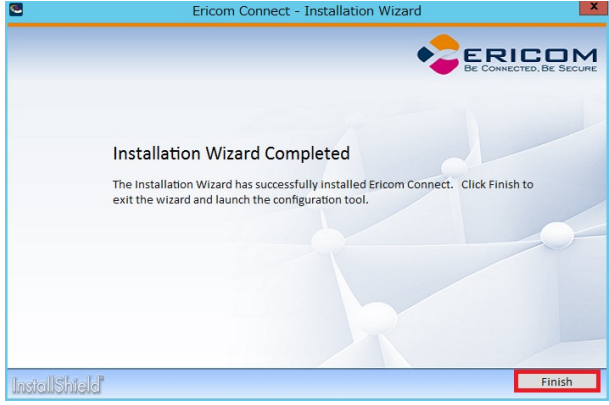
2. サービスが停止後、Connect をアンインストールします。コントロールパネルの「プログラムの機能」から「Ericom Connect」を選択して「アンインストール」を実行します。



3. Connect のインストール・ウィザードが起動します。「Preserve existing configuration for future installations and upgrades」がチェックされているのを確認してから「Remove」をクリックしてアンインストールを実行します。



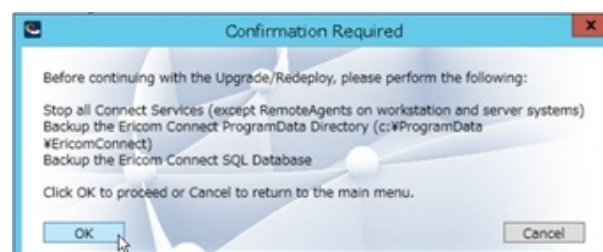
<p>4. Connect のアンインストールが終了したら「Finish」ボタンをクリックして、Connect のインストール・ウィザードを終了します。</p> <p>アンインストール後に必ず OS を再起動してください。</p>	
<p>5. バージョンアップする最新の Connect のインストーラを実行します。Connect のインストール・ウィザードが起動したら「Next」をクリックします。</p> <p>Connect 8.0 以上のインストールには .Net 4.5.2 以上が必要です。必要に応じてインストールしてください。</p>	
<p>6. 「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックします。</p>	

<p>7. [Custom] をクリックします。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Ericom Connect - Installation Wizard' window. The title bar reads 'Ericom Connect - Installation Wizard'. The main area is titled 'Setup Type' and features the ERICOM logo with the tagline 'BE CONNECTED. BE SECURE.'. There are two options: 'Complete' (with a sub-note: 'All program features will be installed. (Requires the most disk space.)') and 'Custom' (with a sub-note: 'Choose which program features you want installed. Recommended for advanced users.'). The 'Custom' option is highlighted with a red rectangular box. At the bottom, there is an 'InstallShield' logo and '< Back' and 'Cancel' buttons.</p>
<p>8. インストールするコンポーネントを選択します。 チェックする項目につきましては、「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考に、必要なコンポーネントをチェックして、[Install] をクリックします。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Ericom Connect - Installation Wizard' window. The title bar reads 'Ericom Connect - Installation Wizard'. The main area is titled 'Custom Setup' and features the ERICOM logo. Below the title, it says 'Select the program features you want installed.' followed by a list of features with checkboxes: 'Ericom Connect Data Grid' (checked), 'Ericom Connect Controller Service' (checked), 'Ericom Connect Secure Gateway' (unchecked), 'Ericom Connect Admin Web Service' (checked), 'Ericom Connect Client Web Service' (checked), 'Ericom Connect Remote Agent Web Service' (unchecked), and 'Ericom Connect Remote Agent Service' (checked). The 'Ericom Connect Remote Agent Service' checkbox is highlighted with a blue rectangular box. At the bottom, there is an 'InstallShield' logo and '< Back', 'Install', and 'Cancel' buttons.</p>
<p>9. インストールが完了したら、[Finish] をクリックして閉じます。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Ericom Connect - Installation Wizard' window. The title bar reads 'Ericom Connect - Installation Wizard'. The main area displays 'Installation Wizard Completed' and a message: 'The Installation Wizard has successfully installed Ericom Connect. Click Finish to exit the wizard and launch the configuration tool.' At the bottom right, there is a 'Finish' button highlighted with a red rectangular box. The 'InstallShield' logo is visible at the bottom left.</p>

10. Ericom Connect Configuration Tool が起動してきます。[Upgrade / Redeploy] をクリックします。



11. SQL サーバのバックアップを推奨するメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



12. [Database Admin] にグリッド作成時に設定したデータベースのアカウント (デフォルトではグリッド名と同じ) とパスワードを入力します。
 ※パスワードが不明な場合は、SQL Server 上の [SQL Server Management Studio] に Windows 認証でログインし、パスワードを変更してください。

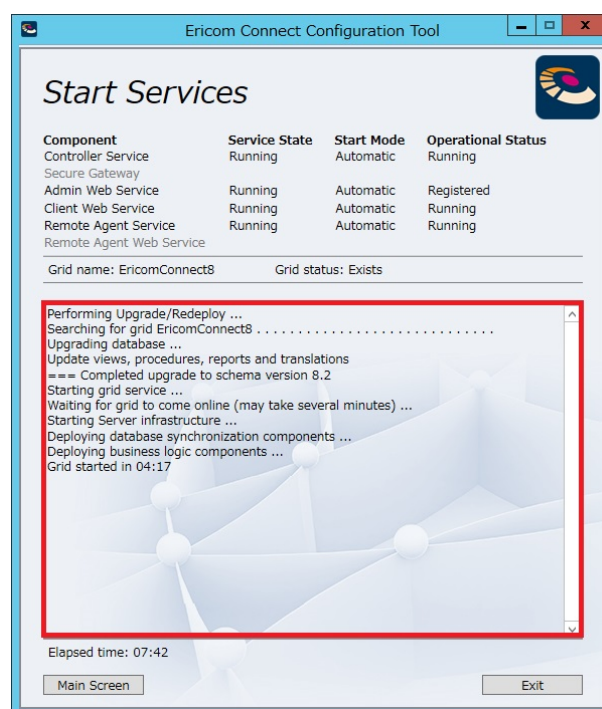
[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。



注意:

[Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシン全てで、同一とする必要があります。

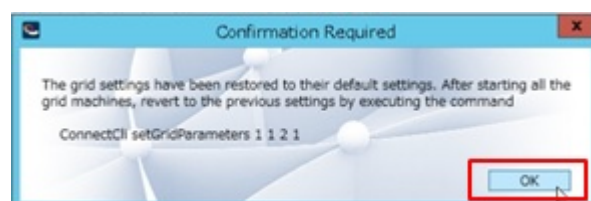
13. メッセージエリアにアップグレードのステータスが表示されていきます。



14. Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。



15. Grid のデータの配置がシングル構成のものに変更されたことを知らせるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

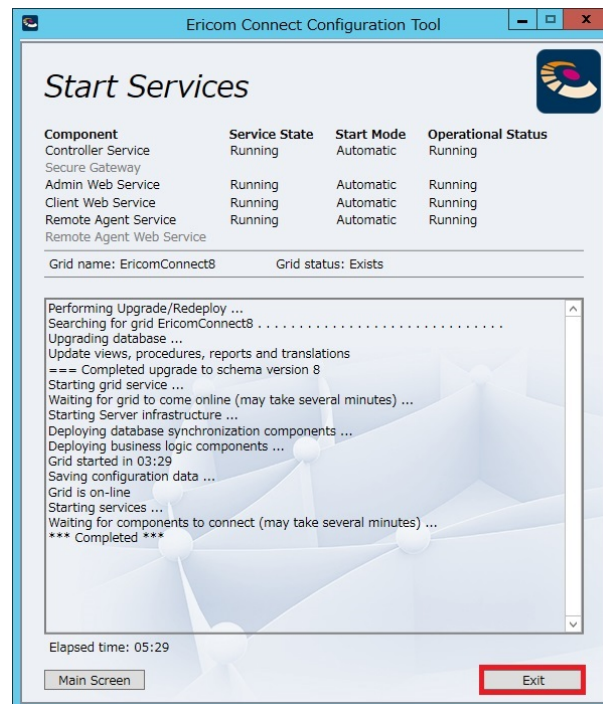




バージョンアップ前と同じグリッドの設定にする必要がありますので、2 台目の Connect サーバのバージョンアップの終了後に「ConnectCLI SetGridParameters」を実行します。手順は後述します。

参考:

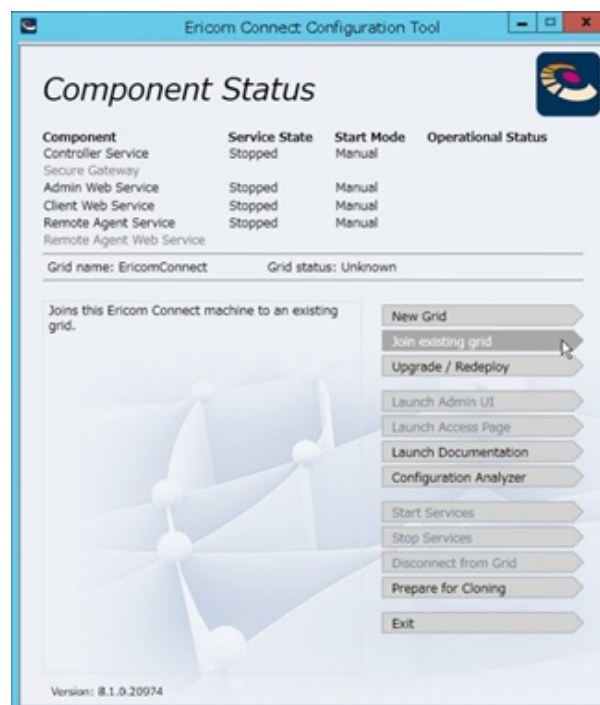
16. [*** Completed ***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



2 台目以降

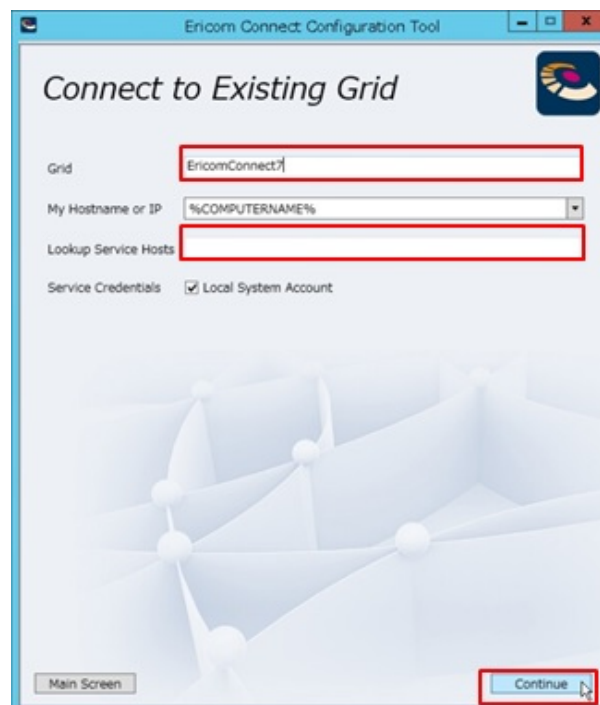
1. 2 台目以降も 1 台目と同じ手順でバージョンアップを行います。手順 1~9 までを実施してください。

手順 10 では「Ericom Connect Configuration Tool」が自動で起動したあと、[Join existing grid] をクリックします。



2. [Grid] を 1 台目のバージョンアップの時に設定されたグリッド名と一致させます。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。





注意:

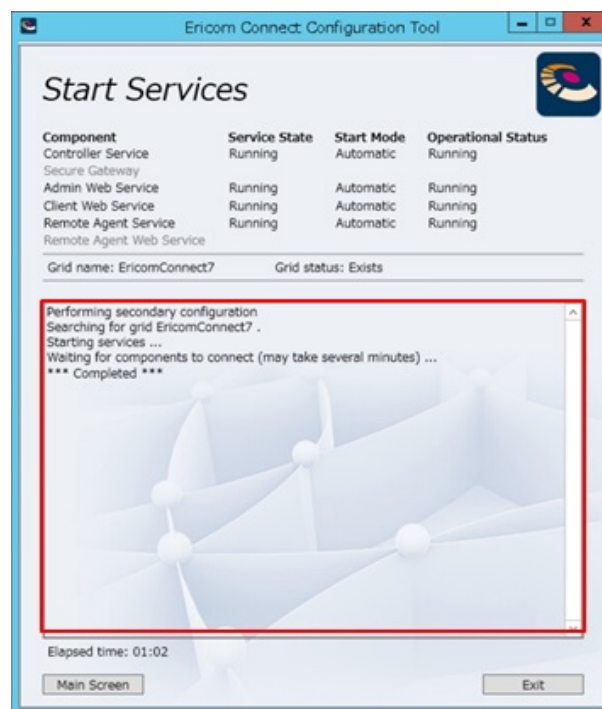
[Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシン全てで、同一とする必要があります。

3. バージョンアップの途中で、Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。



4. [*** Completed ***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。

[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



Grid の分散配置

上記手順まででは、グリッド内のデータがそれぞれの Connect に分散配置されていません。下記の手順によりデータを分散させるように設定します。

1. いずれかの Connect サーバにおいて管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、下記コマンドにより現状を確認します。

```
C:\>cd "c:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
c:\~Tool>connectcli gridinfo

Searching for 30 seconds ...
EricomConnectBusinessLogicPU Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0

ECN01.test.local (192.168.0.1) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Primary [pid 3960]
    RedoLogSize: 0
  mirror-service Partition #1. Primary [pid 3872]
    Mirror: Successful 21; Failed=0

ECN02.test.local (192.168.0.2) #GSC=2. #LUS=1
```

2. 続けて分散の為のコマンドを実行します。

```
c:\~Tool>connectcli setgridparameters 1 1 2 1
```

3. Connect の管理者アカウントとパスワードの入力を促されますので入力して Enter キーを押します。

```
Connect Admin User: Administrator
Connect Admin Password: *****
Searching for deployment .....
```

4. 設定内容の確認が表示されます。確認の上「y」で実行します。

```
Searching for 30 seconds ...
Parameter settings are feasible

Sample deployment (DB = database sync component; Partition.Replica
M1: 1.1 DB
M2: 1.2

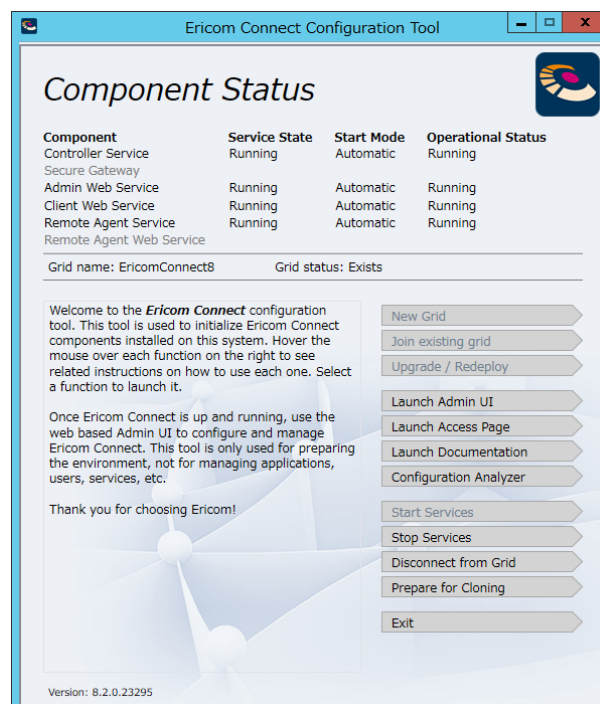
All services must be restarted on all machines
Grid machines: 2
Number Partitions: 1
Number Backups: 1
Gsc per Machine: 2
Instances per Machine: 1
Continue [y/n]? y
```

5. 設定が終了し、すべてのマシンのサービスの再起動を促すメッセージが表示されます。
グリッドに接続されている全てのサーバ、ワークステーション (VM) が対象です。
サーバの再起動によるサービス再起動を推奨します。

```
Changes saved. All Processing unit services must be restarted on all machines.
```

```
c:\~Tool>
```

6. 全ての Connect サーバの再起動が終了し、サービスが全て起動され Grid Status が「Exists」になっていることを確認します。



7. 再度管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、下記コマンドにより現状を確認します。

```
C:\>cd "c:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
c:\~Tool>connectcli gridinfo

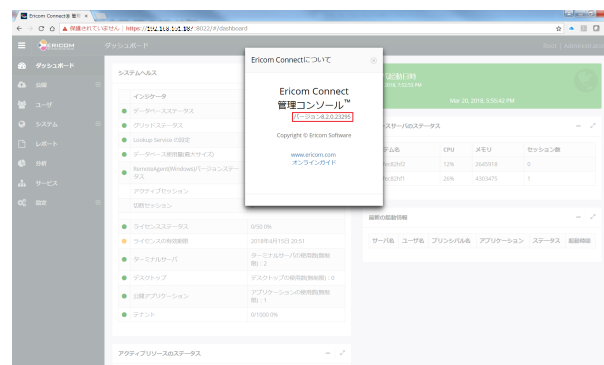
Searching for 30 seconds ...
EricomConnectBusinessLogicPU Intact; Partitions=1; Backups=1; MaxInstancesPerMachine=1
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0

ECN01.test.local (192.168.0.1) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Primary [pid 4644]
    RedoLogSize: 0
  mirror-service Partition #1. Primary [pid 4564]
    Mirror: Successful 44; Failed=0

ECN02.test.local (192.168.0.2) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Backup 0 [pid 1788]
    RedoLogSize: 2

c:\~Tool>
※ EricomConnectBusinessLogic がそれぞれのサーバに配置されていることを確認します。
```

8. これで複数台構成の Connect のバージョンアップが終了しました。
管理コンソールの「Ericom Connect について」から Connect のバージョンを確認できます。



警告:

グリッドに参加しているコンポーネントはバージョンを統一する必要があります。
RemoteAgent がインストールされているリモートデスクトップ/ターミナルサーバ、VDI,IVEX ダブルブラウザ Linux の RemoteAgent、及び SecureGateway、Access-Pad(ダブルブラウザ連携キット含む) もバージョンアップしてください。

7.1.3 Ericom Connect Remote Agent のバージョンアップ

RemoteAgent のバージョンアップ

事前バックアップをお願いします バージョンアップ事前準備として、以下の実施をお奨め致します。



お願い:

- RemoteHostAgent インストール端末上の下記パスにある「EricomConnect」フォルダ
※フォルダのバックアップは、全 Connect サーバのものを取得します。

C: ¥ProgramData¥EricomConnect

このフォルダは隠しファイル属性になっていますので、表示する場合はエクスプローラで [表示] メニューで [隠しファイル] をチェックしてください。

1. RDS サーバへ管理者ユーザでデスクトップログオンします。

2. コントロールパネルの「プログラムと機能」の画面から、「Ericom Connect Remote Host」をアンインストールします。

3. 新バージョンの RemoteHostAgent のインストーラを任意のパスにコピーし、インストーラを実行します。

4. ウィザード画面に従い Next で進め、インストールを実施します。

5. [Ericom Connect Remote Agent Configuration] が起動しますので、以下の補足事項に沿って表示されている画面に入力されている値に間違いがないことを確認の上、[Connect To Grid] をクリックしてください。

※途中 Connect の管理者アカウントの入力画面が表示されますので、入力の上「OK」をクリックします。



参考:

- Grid Name…Name…Connect サーバの [Ericom Connect Configuration Tool] で確認できます。
- My hostname or IP…このサーバの「IP アドレス」を入力してください (ホスト名ではなく、IP アドレス入力をお願い致します。)
- Lookup Service Hosts…Ericom Connect で [Upgrade/Redeploy] もしくは [Join existing grid] した時に設定した値と一致するよう記入してください。Ericom Connect サーバ側で空欄にしていた場合は、ここでも空欄にします。

6. エラーメッセージなく「*** Completed ***」と出ましたらグリッド参加成功です。

もしグリッドが見つからない等のエラーが出る場合は、下記手順を実施後、Ericom Connect の Web 管理コンソールでサーバが登録されているかご確認ください。

グリッド参加に失敗する場合

- 下記にある Settings.xml のバックアップコピーを取得しておきます。

```
C:¥Program Files¥Ericom Software¥Ericom Connect Data Grid¥NET v4.0¥Config
```

- Settings.xml をエディタで開き、下記部分に適切な値を入力して保存します。

```
<XapNet.HostName><このサーバの IP アドレス></XapNet.HostName>
  <XapNet.Multicast.Enabled>< True または False ></XapNet.Multicast.Enabled>
  <XapNet.Groups><グリッド名></XapNet.Groups>
  <XapNet.Locators><上記が True の場合は空欄、False の場合は後述通り指定>
</XapNet.Locators>
  <XapNet.Zones></XapNet.Zones>
```



参考:

<XapNet.Multicast.Enabled>が False の場合の<XapNet.Locators>の設定例：)
以下のように Lookup Service Hosts の値を入れます。

```
<XapNet.Locators>172.16.1.1:4174,172.16.2.2:4174</XapNet.Locators>
```

- Windows サービス画面から、「Ericom Connect Remote Agent Service」サービスを再起動してください。
- Web 管理コンソール上で、[サービス] の画面で「Remote Agent サービス」一覧にこの RDS サーバの情報があり、ステータスが「実行中」となっていることを確認してください。

7.2Linux 版

7.2.1 1.6.0 → 2.2.x の場合



警告:

IVEX ダブルブラウザ Linux1.6.0 から 2.2.x への移行は段階的に行うことはできません。システムを全停止し、全てのバージョンアップを行ってください。

ダブルブラウザ連携キットのバージョンアップ

IVEX ダブルブラウザ Linux2.2 および Ericom Connect8.2 では、ダブルブラウザ連携キットは 8.2.0.1 以上が必要です。

バージョン 7.6.1.6 までをご利用のお客様は 7.6.1.7 以上へ上書きアップデートを行う場合に必ず下記修正を実施してください。



注意:

```

<修正対象マシン>
    WBrowser Configuration Tool 配置しているサーバ (または管理者端末)

<修正対象ファイル>
    *****\WBrowserLauncher\
        ↳ WConfigTool\
            ↳ CT.conf

<修正箇所>
    修正前: <_strTempUser>template</_strTempUser>
    修正後: <_strTempUser>template-user</_strTempUser>
  
```

ClickOnce の場合

- 配布元ファイルサーバのファイルを上書きで差し替えます。新しいバージョンの zip ファイルを解凍したものをそのまま全て上書きしてください。
- 新バージョンとの設定互換を確保するため、配布元ファイルサーバ上にある **WConfigTool.exe** を起動し、**[OK]** をクリックしてください。これにより設定ファイル (def.blaze と WB.conf が更新されます。)
- 新しい連携キットが上書きされた場合、ユーザの次回実行時に新バージョンが検知され、インストールするかどうかのポップアップがユーザ画面に表示されますのでバージョンアップを選択するように事前にアナウンスしてください。

MSI の場合

- Configuration Tool をインストールした管理者端末で新バージョンの Configuration Tool を上書きインストールします。
- 新バージョンとの設定互換を確保するため、配布元ファイルサーバ上にある **WBConfigTool.exe** を起動し、**[OK]** をクリックしてください。(これにより設定ファイル (def.blaze と WB.conf が更新されます。))
- 各クライアント PC の WBrowserLauncher を上書きインストールします。
- 先の手順で更新した新しい設定ファイルを各クライアント PC に再配布します。

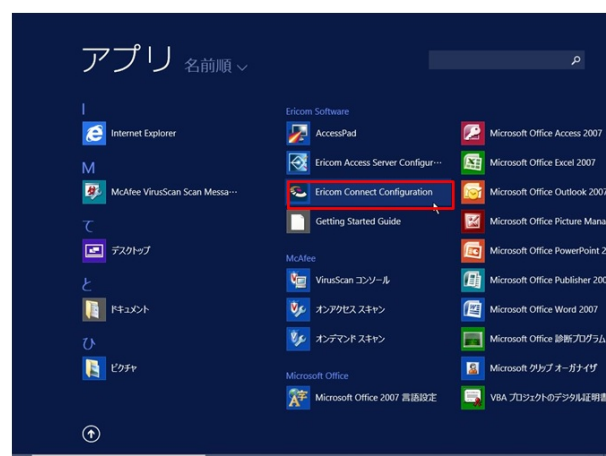
Ericom Connect のバージョンアップ

単体構成の場合のバージョンアップ

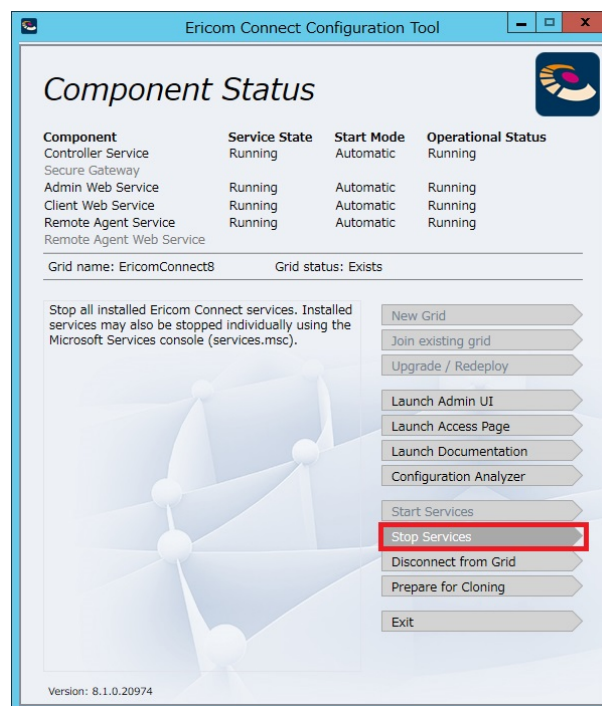
- 既存の Connect サーバにて作業を行います。
- Connect サーバが単体構成の場合の手順です。
- 既存の Connect サーバをアンインストールし、最新の Connect サーバをインストールして、バージョンアップを行います。

Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

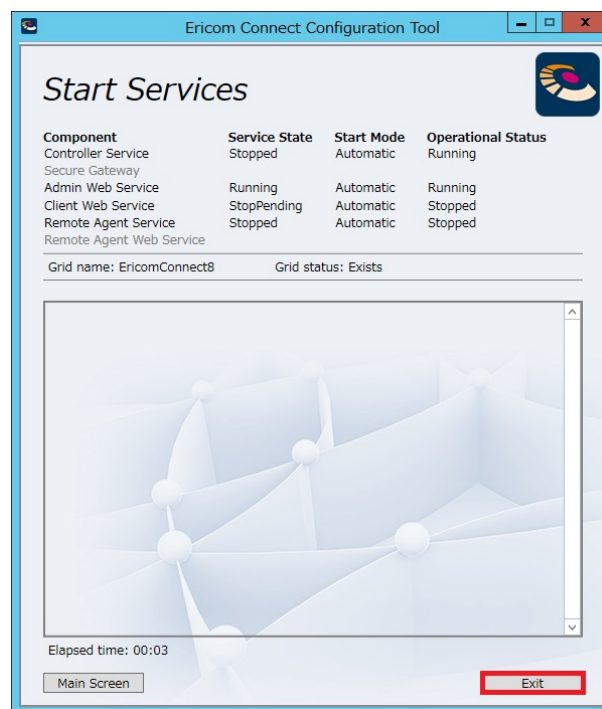
1. Connect の管理者ユーザで Connect サーバにログインし、[スタートメニュー] より、[Ericom Connect Configuration Tool] を起動します。



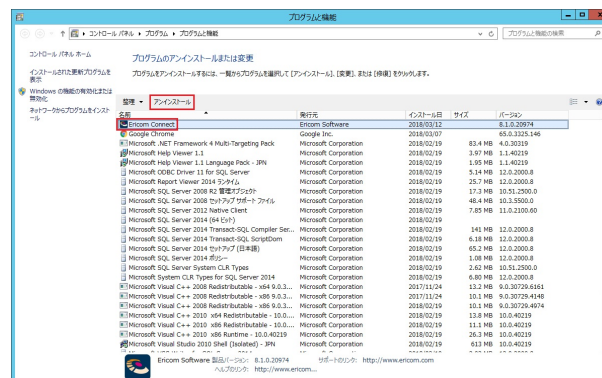
2. [Stop Services] をクリックし、Connect サーバのサービスを停止します。



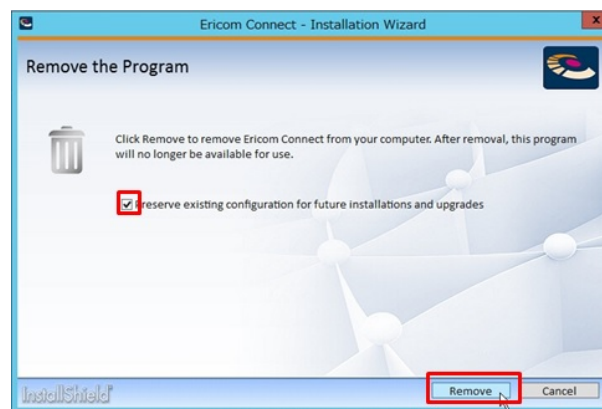
3. サービスが停止したら [Exit] をクリックし、Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



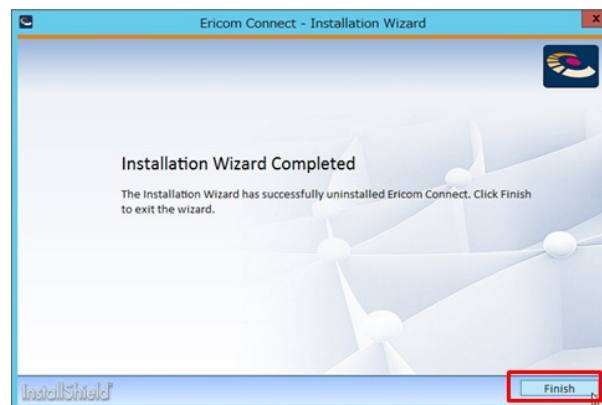
4. コントロールパネルから [プログラムと機能] を開き、[Ericom Connect] を右クリックして [アンインストール] を選択します。

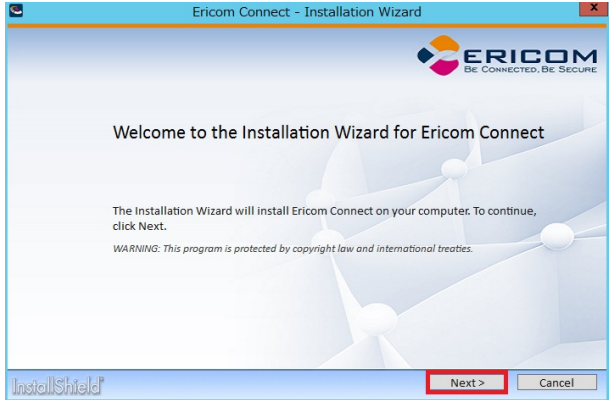

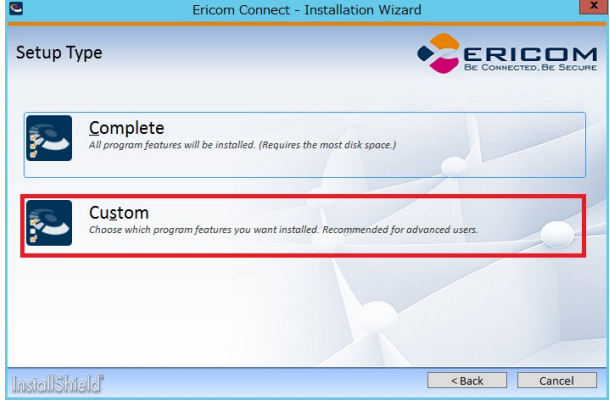


5. [Preserve existing configuration for future installations and upgrades] にチェックが入っていることを確認し、[Remove] をクリックします。

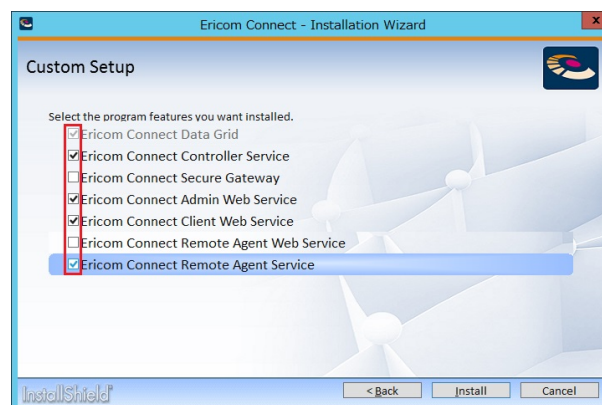


6. [Installation Wizard Completed] と表示されたら、[Finish] をクリックしてウィザードを閉じます。
必ずサーバを再起動してください。

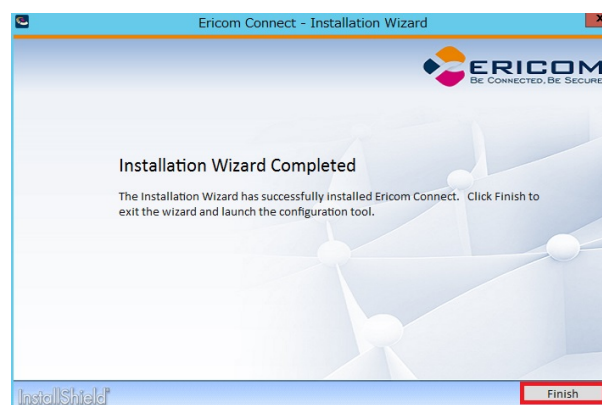


<p>7. 最新バージョンの Connect をインストールします。[EricomConnect.exe] をダブルクリックしてインストールウィザードを開始します。</p> <p>Connect 8.0 以上のインストールには .Net 4.5.2 以上が必要です。必要に応じてインストールしてください。インストールメディア内の以下フォルダにインストーラーがございます。[.NET Framework 4.5.2] フォルダ</p>	
<p>8. 「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、[Next] をクリックします。</p>	
<p>9. [Custom] をクリックします。</p>	

10. インストールするコンポーネントを選択します。チェックする項目につきましては、「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考に、必要なコンポーネントをチェックして、[Install] をクリックします。



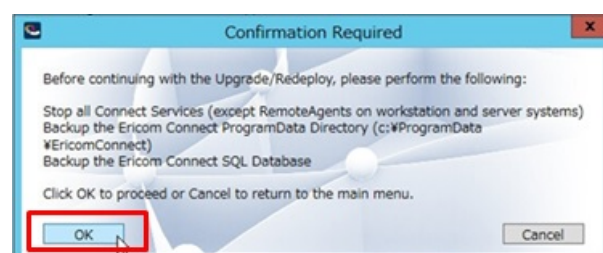
11. インストールが完了したら、[Finish] をクリックして閉じます。



12. Ericom Connect Configuration Tool が起動してきます。[Upgrade / Redeploy] をクリックします。



13. SQL サーバのバックアップを勧めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

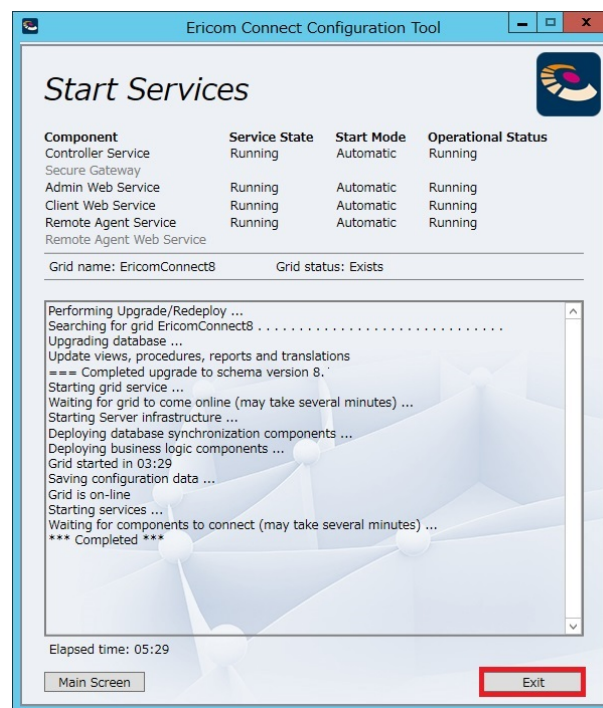


14. [Database Admin] にグリッド作成時に設定したデータベースのアカウント (デフォルトではグリッド名と同じ) とパスワードを入力します。
 ※パスワードが不明な場合は、SQL Server 上の [SQL Server Management Studio] に Windows 認証でログインし、パスワードを変更してください。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。

15. バージョンアップの途中で、Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。

16. [***Completed***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



お願い:

新バージョンは、旧バージョンと管理コンソールの設定や接続時の設定が異なる場合があります。最新の設定を必ずご確認ください。



警告:

グリッドに参加しているコンポーネントはバージョンを統一する必要があります。RemoteAgent がインストールされているリモートデスクトップ/ターミナルサーバ、VDI,IVEX ダブルブラウザ Linux の RemoteAgent、及び SecureGateway、Access-Pad(ダブルブラウザ連携キット含む) もバージョンアップしてください。

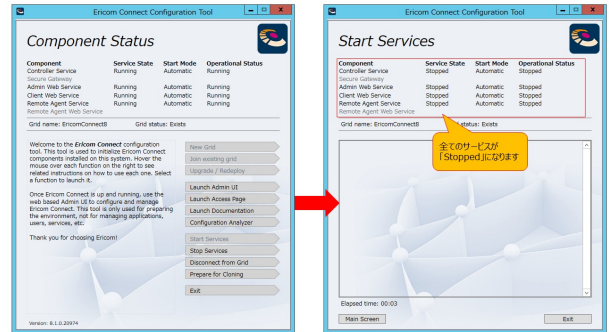
冗長構成の場合のバージョンアップ

- 既存の Connect サーバにて作業を行います。
- Connect サーバの冗長構成が 2 台で構成されている場合の手順です。
- 既存の Connect サーバをアンインストールし、最新の Connect サーバをインストールして、バージョンアップを行います。

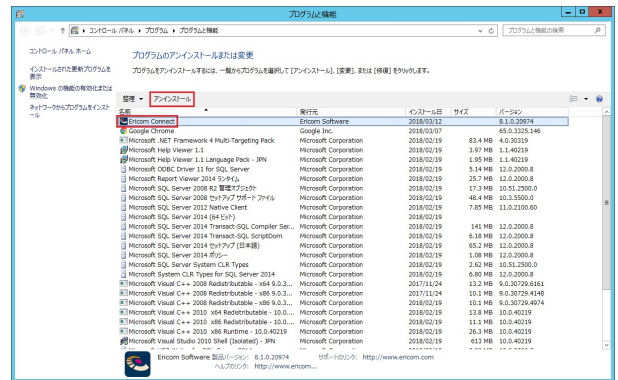
Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

1 台目

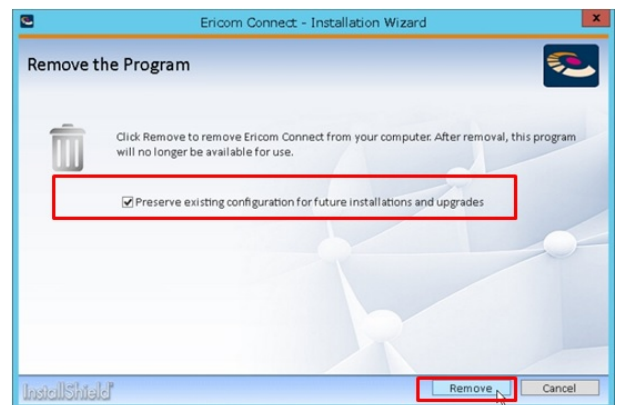
1. Connect の管理者ユーザで Connect サーバにログインし、[スタートメニュー] より、[Ericom Connect Configuration Tool] を起動します。「Stop Services」をクリックして Connect の全てのサービスを停止します。
2 台の Connect サーバで行ってください。

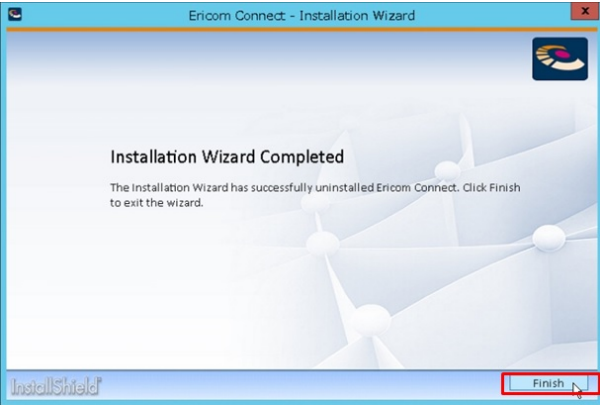
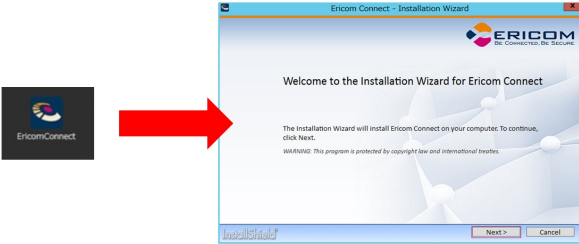



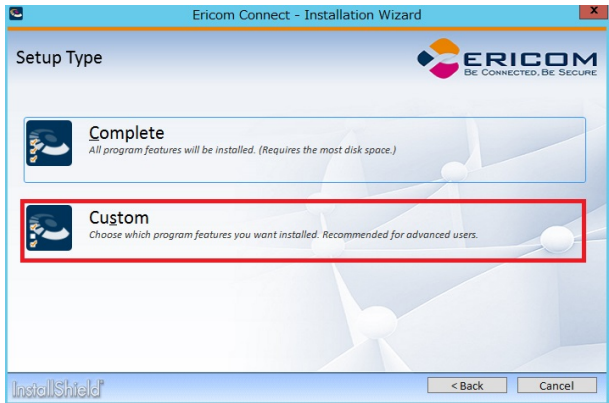
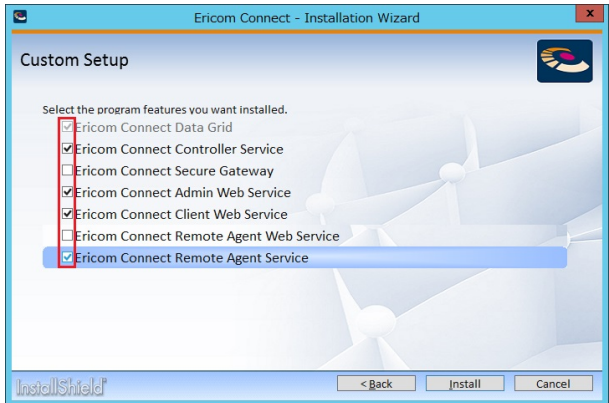
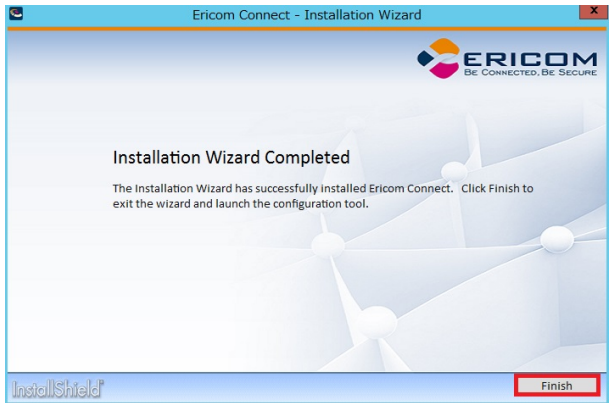
2. サービスが停止後、Connect をアンインストールします。コントロールパネルの「プログラムの機能」から「Ericom Connect」を選択して「アンインストール」を実行します。



3. Connect のインストール・ウィザードが起動します。「Preserve existing configuration for future installations and upgrades」がチェックされているのを確認してから「Remove」をクリックしてアンインストールを実行します。



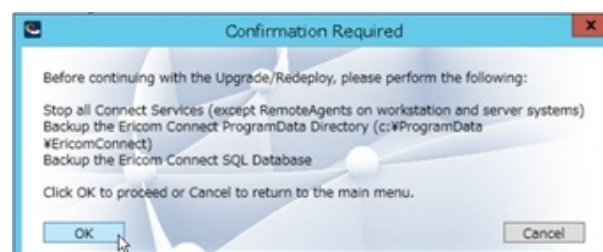
<p>4. Connect のアンインストールが終了したら「Finish」ボタンをクリックして、Connect のインストール・ウィザードを終了します。</p> <p>アンインストール後に必ず OS を再起動してください。</p>	
<p>5. バージョンアップする最新の Connect のインストーラを実行します。Connect のインストール・ウィザードが起動したら「Next」をクリックします。</p> <p>Connect 8.0 以上のインストールには .Net 4.5.2 以上が必要です。必要に応じてインストールしてください。</p>	
<p>6. 「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックします。</p>	

<p>7. [Custom] をクリックします。</p>	
<p>8. インストールするコンポーネントを選択します。 チェックする項目につきましては、「構成パターン別 <i>Connect</i> インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考に、必要なコンポーネントをチェックして、[Install] をクリックします。</p>	
<p>9. インストールが完了したら、[Finish] をクリックして閉じます。</p>	

10. Ericom Connect Configuration Tool が起動してきます。[Upgrade / Redeploy] をクリックします。



11. SQL サーバのバックアップを推奨するメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



12. [Database Admin] にグリッド作成時に設定したデータベースのアカウント (デフォルトではグリッド名と同じ) とパスワードを入力します。
※パスワードが不明な場合は、SQL Server 上の [SQL Server Management Studio] に Windows 認証でログインし、パスワードを変更してください。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。

Ericom Connect Configuration Tool

Upgrade / Redeploy from Database

Welcome to Connect 8.2

In this version, we introduce EricomRDP --- our new native client for windows. Once a user has upgraded to AccessPad 8.1 or greater, EricomRDP will be used instead of Blaze whenever possible. We strongly recommend that users upgrade to AccessPad 8.2.

To use Blaze as the default native client, either execute the ConnectCli command

```
ConnectCli connectionConfig rdp_s_client_s_preference=Blaze
```

or, navigate to Configuration → Defaults → Advanced and set "Native Client Preference"

Server

Grid Name: EricomConnect8

My Hostname or IP: 192.168.161.187

Lookup Service Hosts:

Service Credentials: Local System Account

SQL Server

Database Server: 2287EC82HF1\SQLEXPRESS

Database Name: EricomConnect8

Database Admin: Windows Authentication
EricomConnect8 Password: ●●●●●●

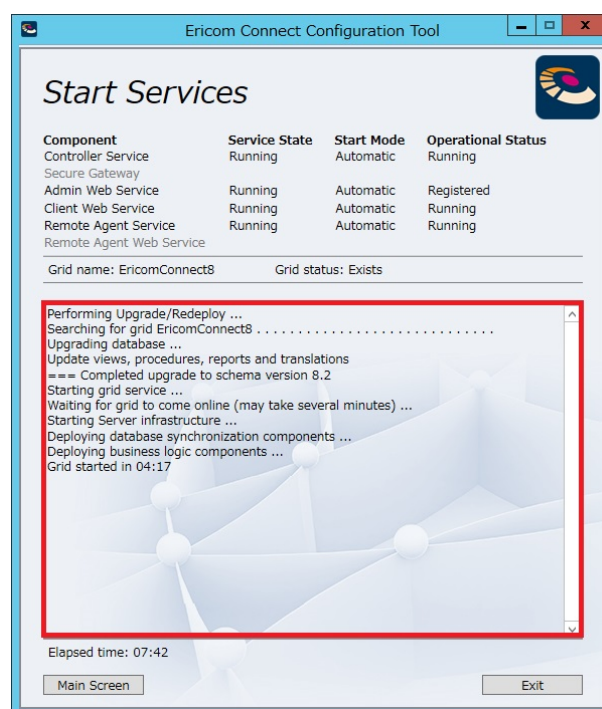
Main Screen Initialize and Start Services



注意:

[Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシン全てで、同一とする必要があります。

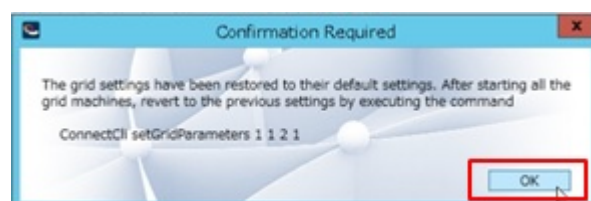
13. メッセージエリアにアップグレードのステータスが表示されていきます。



14. Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。



15. Grid のデータの配置がシングル構成のものに変更されたことを知らせるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

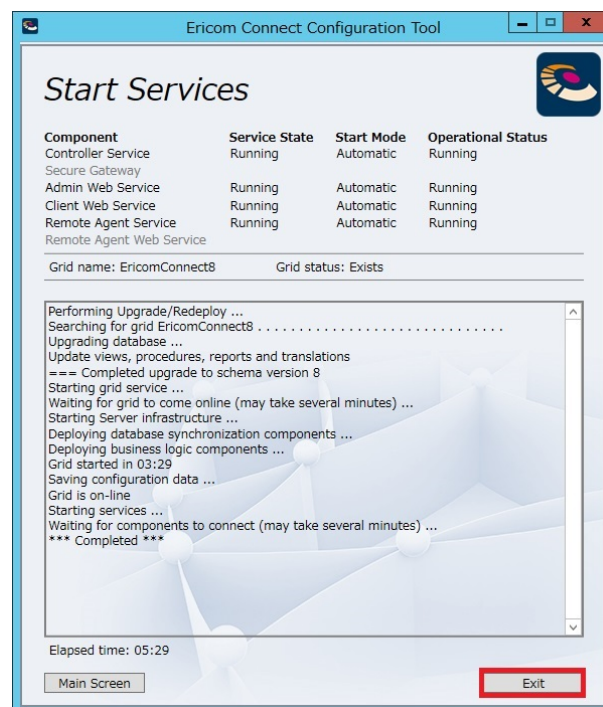




バージョンアップ前と同じグリッドの設定にする必要がありますので、2 台目の Connect サーバのバージョンアップの終了後に「ConnectCLI SetGridParameters」を実行します。手順は後述します。

参考:

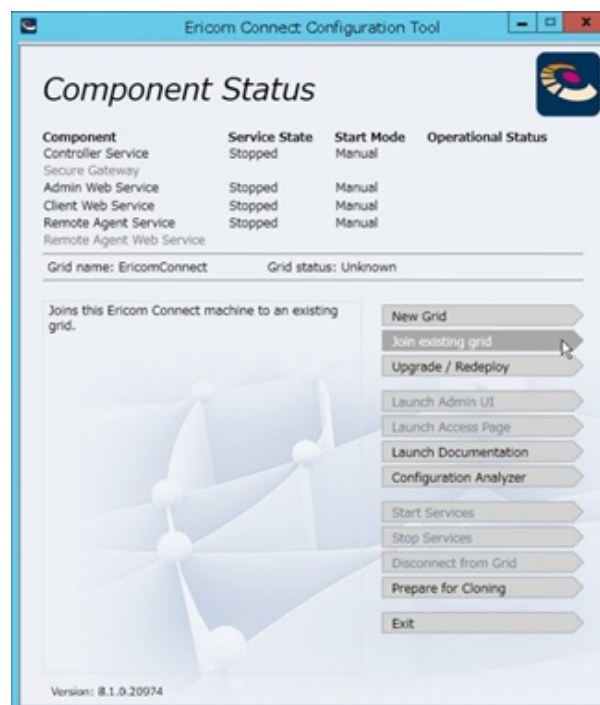
16. [*** Completed ***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



2 台目以降

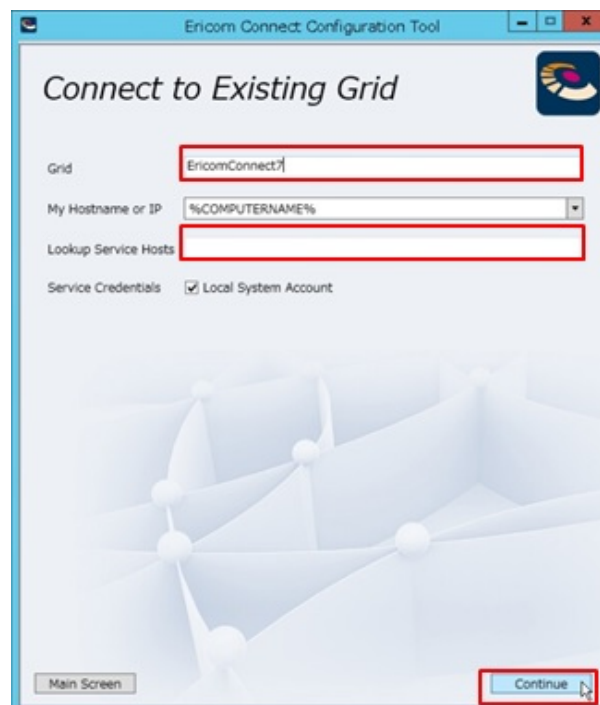
1. 2 台目以降も 1 台目と同じ手順でバージョンアップを行います。手順 1~9 までを実施してください。

手順 10 では「Ericom Connect Configuration Tool」が自動で起動したあと、[Join existing grid] をクリックします。



2. [Grid] を 1 台目のバージョンアップの時に設定されたグリッド名と一致させます。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。





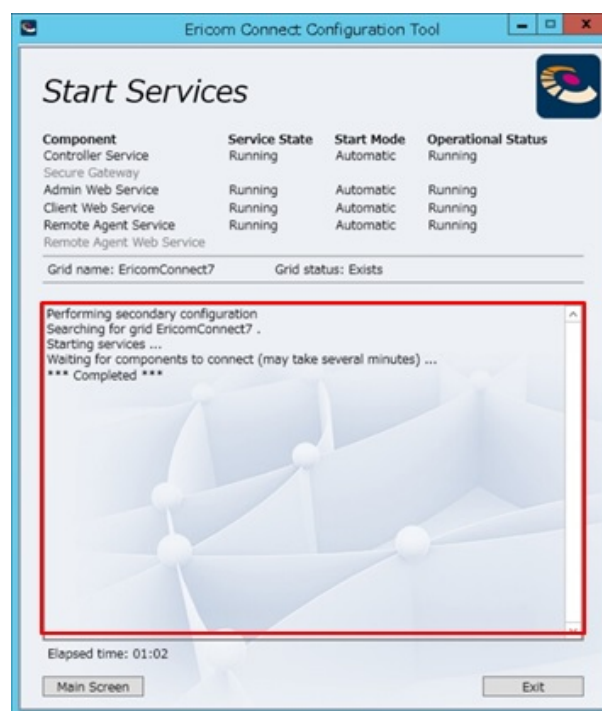
注意:

[Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシン全てで、同一とする必要があります。

3. バージョンアップの途中で、Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。



4. [*** Completed ***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。
[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



Grid の分散配置

上記手順まででは、グリッド内のデータがそれぞれの Connect に分散配置されていません。下記の手順によりデータを分散させるように設定します。

1. いずれかの Connect サーバにおいて管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、下記コマンドにより現状を確認します。

```
C:\>cd "c:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
c:\~Tool>connectcli gridinfo

Searching for 30 seconds ...
EricomConnectBusinessLogicPU Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0

ECN01.test.local (192.168.0.1) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Primary [pid 3960]
    RedoLogSize: 0
  mirror-service Partition #1. Primary [pid 3872]
    Mirror: Successful 21; Failed=0

ECN02.test.local (192.168.0.2) #GSC=2. #LUS=1
```

2. 続けて分散の為のコマンドを実行します。

```
c:\~Tool>connectcli setgridparameters 1 1 2 1
```

3. Connect の管理者アカウントとパスワードの入力を促されますので入力して Enter キーを押します。

```
Connect Admin User: Administrator
Connect Admin Password: *****
Searching for deployment .....
```

4. 設定内容の確認が表示されます。確認の上「y」で実行します。

```
Searching for 30 seconds ...
Parameter settings are feasible

Sample deployment (DB = database sync component; Partition.Replica
M1: 1.1 DB
M2: 1.2

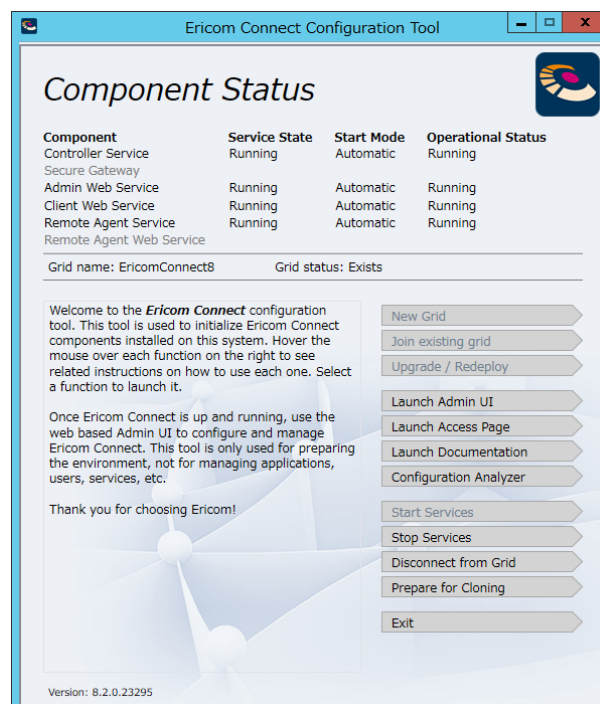
All services must be restarted on all machines
Grid machines: 2
Number Partitions: 1
Number Backups: 1
Gsc per Machine: 2
Instances per Machine: 1
Continue [y/n]? y
```

5. 設定が終了し、すべてのマシンのサービスの再起動を促すメッセージが表示されます。
グリッドに接続されている全てのサーバ、ワークステーション (VM) が対象です。
サーバの再起動によるサービス再起動を推奨します。

```
Changes saved. All Processing unit services must be restarted on all machines.

c:\~Tool>
```

6. 全ての Connect サーバの再起動が終了し、サービスが全て起動され Grid Status が「Exists」になっていることを確認します。



7. 再度管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、下記コマンドにより現状を確認します。

```
C:\>cd "c:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
c:\~Tool>connectcli gridinfo

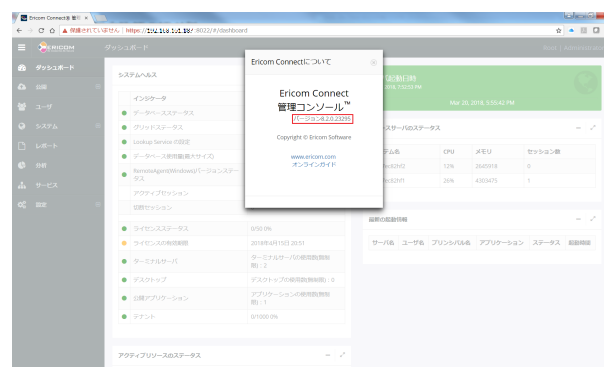
Searching for 30 seconds ...
EricomConnectBusinessLogicPU Intact; Partitions=1; Backups=1; MaxInstancesPerMachine=1
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0

ECN01.test.local (192.168.0.1) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Primary [pid 4644]
    RedoLogSize: 0
  mirror-service Partition #1. Primary [pid 4564]
    Mirror: Successful 44; Failed=0

ECN02.test.local (192.168.0.2) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Backup 0 [pid 1788]
    RedoLogSize: 2

c:\~Tool>
※ EricomConnectBusinessLogic がそれぞれのサーバに配置されていることを確認します。
```

8. これで複数台構成の Connect のバージョンアップが終了しました。
管理コンソールの「Ericom Connect について」から Connect のバージョンを確認できます。



警告:

グリッドに参加しているコンポーネントはバージョンを統一する必要があります。
RemoteAgent がインストールされているリモートデスクトップ/ターミナルサーバ、VDI、IVEX ダブルブラウザ Linux の RemoteAgent、及び SecureGateway、Access-Pad(ダブルブラウザ連携キット含む) もバージョンアップしてください。

**注意:**

URL 自動判別オプション (KOTOMINE) をご利用の場合、アプリケーションの公開定義を再作成してください。(公開手順は [アプリケーション公開](#) (ページ 144) を参照してください。)

■ IVEX ダブルブラウザ Linux のバージョンアップ

IVEX ダブルブラウザ Linux のバージョンアップを行う際は以下手順に従い作業を行っていただけますようお願いいたします。バージョンアップではバージョンアップ用にバックアップツールを用意しておりますがバージョンアップに伴い、処理としてはアンインストール/インストールを行うため、引き継げるデータは下記のものに限定されます。その他に設定を変更している場合は、再設定を行う必要があります。事前に既存の設定値を記録しておいてください。

- Hostname,hosts,DNS 設定などの名前解決設定
- Ericom Connect との接続設定
- AD 連携設定/ローカルユーザ設定などの認証設定
- Xrdp の設定情報
- ユーザデータ (/home 配下のデータ) ※ WBrowser.conf 含む
- プロファイル共有設定 (1.x.x から 2.x.x の場合は除く)

**注意:**

コネクションブロッカー有りで利用されている場合はバージョンアップ作業前に該当サーバへのセッション割り当てを停止しておいて下さい。

**参考:**

バージョンアップ用のバックアップリストツールは出荷時の最新のものを IVEX ダブルブラウザのダウンロードパッケージ内に同梱しておりますが、新しい本体がリリースされるたびに、バージョンアップ先バージョンが追加されたものが作成されます。そのため、利用するタイミングで、こちら から最新のものをダウンロードしてご利用いただくことをお勧めします。

**注意:**

バージョン 2.2.1 をご利用の場合、バックアップは 2.2.0 と同じ手順で実行してください。(例 : backup 1to220) インストーラーのバージョン番号は 2.2.0 を 2.2.1 へと読み替えてご確認ください。

サービス停止

サービスを停止します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```

環境バックアップ

設定情報やユーザ領域などの環境バックアップを行います。

バックアップツールの配置

バックアップツールを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。バックアップツールは下記のようなファイル名になっています。

```
WBrowser-System-Backup-and-Restore.tar.gz
```

バックアップツールの展開

バックアップツールは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf WBrowser-System-Backup-and-Restore.tar.gz
```

※実行ディレクトリ配下に展開されます。

バックアップツールの実行

展開されたディレクトリで、インストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./WBrowser-System-Backup-and-Restore backup 1to220
```



注意:

ツールの実行はインストーラと同じディレクトリに移動し、相対パスで実行してください。



Tips:

第2引数はどのバージョンでバックアップしたデータを、バージョンの IVEX ダブルブラウザ Linux ヘリストアするかを指定します。

- **1to1**: 1.x.x でデータをバックアップし、1.x.x ヘリストアする場合。
- **1to201**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.1 ヘリストアする場合。
- **1to202**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.2 ヘリストアする場合。
- **1to210**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.1.0 ヘリストアする場合。
- **1to220**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.2.0 ヘリストアする場合。
- **20to210**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.1.0 ヘリストアする場合。
- **20to220**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.2.0 ヘリストアする場合。
- **21to220**: 2.1.x でデータをバックアップし、2.2.0 ヘリストアする場合。

実行すると下記メッセージと共にユーザ領域 (home) のバックアップまたは退避を求められます。尚、ユーザ領域は利用者数や利用状況により、サイズが変化しますが、ツールで退避を行う場合にはパスの変更を行うのみの為、時間は要しません。ユーザ領域は次に行う初期化により削除されてしまいますので、必ずバックアップまたは退避を行ってください。


```
下記ファイルにダブルブラウザのシステム情報をバックアップしました。  
'WBrowser-System-Backup_1to220-2018-02-07-15-00-51.tar.gz'
```

!!!! 重要 !!!!

初期化、initialize を行う前に、必ず home 領域をバックアップか退避してください。

まだ home 領域は退避されていません。

引き続き home 領域を退避しますか? [yes/no] yes

home 領域を下記に退避しました。

```
/var/opt/IVEX/WBrowser/../../HOME-BACKUP
```

上記赤字部分がバックアップファイル名となり、Restore 時に必要になります。

バージョンアップ作業（アンインストール/インストール）

バージョンアップ作業では、既存バージョンをアンインストールして、新しく新バージョンをインストールいたします。インストール実行後バックアップデータから環境情報をリストアします。

既存バージョンのアンインストール

各 Linux サーバにて下記コマンドを実行し、アンインストールします。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser uninstall
```

「全てアンインストールしますか?」の質問には「yes」で応答してください。

下記バージョンがインストールされています。

1.6.0

全てアンインストールしますか? [yes/no] 'yes'

アンインストールしました。

ご利用いただきまして誠にありがとうございます。

またのご利用をお待ちしております。

各 Linux サーバにて下記コマンドを実行し、サーバの再起動を必ずしてください。

```
$ sudo reboot
```

新しいバージョンのインストール

インストーラの配置

インストーラを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。インストーラは下記のようなファイル名になっています。

```
IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2.2.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

インストーラの展開

インストーラは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

※実行ディレクトリ配下に展開されます。

インストーラの実行

展開されたインストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```



注意:

インストーラの実行はインストーラと同じディレクトリに移動し、相対パスで実行してください。

環境リストア

サービスの停止

リストアツールを実行する前に、サービスを一旦停止します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```

リストアツールの実行

バックアップした環境情報をリストアします。



注意:

Ver1.x.x から Ver2.2 への移行をする場合は AD に "template-user" が存在することを確認しリストアツールの実行を行って下さい。

```
$ sudo ./WBrowser-System-Backup-and-Restore restore 1to220 [バックアップファイル名]
```

第 2 引数はどのバージョンでバックアップしたデータを、バージョンの IVEX ダブルブラウザ Linux へリストアするかを指定します。



Tips:

- **1to1**: 1.x.x でデータをバックアップし、1.x.x へリストアする場合。
- **1to201**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.1 へリストアする場合。
- **1to202**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.2 へリストアする場合。
- **1to210**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.1.0 へリストアする場合。
- **1to220**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.2.0 へリストアする場合。
- **20to210**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.1.0 へリストアする場合。
- **20to220**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.2.0 へリストアする場合。
- **21to220**: 2.1.x でデータをバックアップし、2.2.0 へリストアする場合。

第 3 引数のバックアップファイル名はバックアップ取得時に表示されます。作業ディレクトリ配下に作成されておりますので、不明な場合は作業ディレクトリにて『ls』コマンドにてご確認ください。

```
'WBrowser-System-Backup_1to220-2018-02-07-15-00-51.tar.gz'
```

リストア対象のバックアップファイルは上記でよろしいでしょうか? [yes/no] yes

ダブルブラウザのシステム情報のリストアが完了しました。

上記赤字部分がバックアップファイル名となります。

サービスの再開

システム情報のリストア完了後、サービスを再開します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
```

利用環境に合わせた追加作業



注意:

本手順で行う再参加は、以前利用していた物のみを行ってください。以前の利用が無い場合は作業不要となります。

tb ファイルの再配置 (コネクションブローカー無しの場合のみ)

コネクションブローカー無しの構成の場合、ライセンスファイルとして TB ファイルを配置していただきますが、バージョンアップに際して再配置していただく必要があります。

詳しくは、[ライセンスファイルの適用 \(ページ 184\)](#) を参照してください。

Flash プラグインのインストール

Adobe Flash Player のプラグインのインストールをして下さい。

Flash のプラグインは下記のようにしてインストールできます。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/
# export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
# export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/
# apt-get update
# apt-get install --no-install-recommends flashplugin-installer
```



PROXY を利用していない場合には export で始まる 2 行は不要です。
192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

参考:

プロファイルを共有するサーバへの再参加



サーバ全台のバージョンアップを行った後、再参加を行ってください。

警告:

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo [既存のサーバの IP]
```

上記コマンド実行後、既存サーバで sudo の実行ができるアカウントを入力してください。サーバが複数ある場合、どのサーバを指定しても結構ですが、別バージョンでの登録は行わないようご注意ください。



3 台目の以降で共有するサーバへの再参加は、参加したいサーバから参加済みサーバの IP を指定して参加を行ってください。

参考:



[ver1 系サーバ⇒ ver 2 系サーバ] [ver 2 系サーバ⇒ ver 1 系サーバ] は行わないでください。

警告:

以上でバージョンアップは完了です。

■ オプション製品のバージョンアップ

オプション製品は IVEX ダブルブラウザ Linux 製品と互換性の問題が発生する場合がありますので、新規にインストールしてください。

ファイル共有オプション

- 『ファイル共有オプション Ver.1.1.0』は『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.2.0.1』以降の製品に対応したオプションとなります。

- 『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.1.5.x/1.6.x』をご利用の場合、『ファイル共有オプション Ver.1.0.2』までとなります。

ログオプション

- 『ログオプション Ver.1.1.0』は『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.2.0.1』以降の製品に対応したオプションとなります。
- 『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.1.6.x』をご利用の場合、『ログオプション Ver.1.0.5』までとなります。
- 『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.1.5.x』をご利用の場合、『ログオプション Ver.1.0.4』までとなります。

オプション製品のバージョンアップ方法は [管理者ガイド]-[IVEX ダブルブラウザ Linux] に記載の通常のインストール方法を行うことで適用可能です。

7.2.2 2.x.x → 2.2.x の場合



注意:

IVEX ダブルブラウザ Linux2.x.x から 2.2.x への移行は下記の順番で実施することで、コンポーネント毎にバージョンアップすることが可能です。

ただし、Ericom Connect と IVEX ダブルブラウザ Linux については、冗長化構成の場合にそれぞれのコンポーネント内でバージョンが混在した状態での運用はできません。(例: Connect サーバ 1 台が 7.6.1 でもう 1 台が 8.2、Linux サーバ 1 台が 2.2.0 で残りが 2.0.1 など)

ダブルブラウザ連携キットのバージョンアップ



注意:

IVEX ダブルブラウザ Linux2.2 および Ericom Connect8.2 では、ダブルブラウザ連携キットは 8.2.0.1 以上が必要です。

バージョン 7.6.1.6 までをご利用のお客様は 7.6.1.7 以上へ上書きアップデートを行う場合に必ず下記修正を実施してください。

<修正対象マシン>

WBrowser Configuration Tool 配置しているサーバ (または管理者端末)

<修正対象ファイル>

```
*****\WBrowserLauncher\  
    └─ WBConfigTool\  
        └─ CT.conf
```

<修正箇所>

修正前: <_strTempUser>template</_strTempUser>

修正後: <_strTempUser>template-user</_strTempUser>

ClickOnce の場合

- 配布元ファイルサーバのファイルを上書きで差し替えます。新しいバージョンの zip ファイルを解凍したものをそのまま全て上書きしてください。
- 新バージョンとの設定互換を確保するため、配布元ファイルサーバ上にある **WBConfigTool.exe** を起動し、**[OK]** をクリックしてください。これにより設定ファイル (def.blaze と WB.conf が更新されます。)
- 新しい連携キットが上書きされた場合、ユーザの次回実行時に新バージョンが検知され、インストールするかどうかのポップアップがユーザ画面に表示されますのでバージョンアップを選択するように事前にアナウンスしてください。

MSI の場合

- Configuration Tool をインストールした管理者端末で新バージョンの Configuration Tool を上書きインストールします。
- 新バージョンとの設定互換を確保するため、配布元ファイルサーバ上にある **WBConfigTool.exe** を起動し、**[OK]** をクリックしてください。これにより設定ファイル (def.blaze と WB.conf が更新されます。)
- 各クライアント PC の WBrowserLauncher を上書きインストールします。
- 先の手順で更新した新しい設定ファイルを各クライアント PC に再配布します。

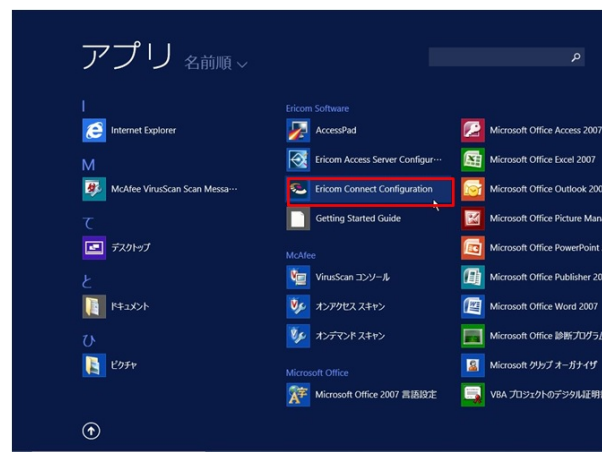
■ Ericom Connect のバージョンアップ

単体構成の場合のバージョンアップ

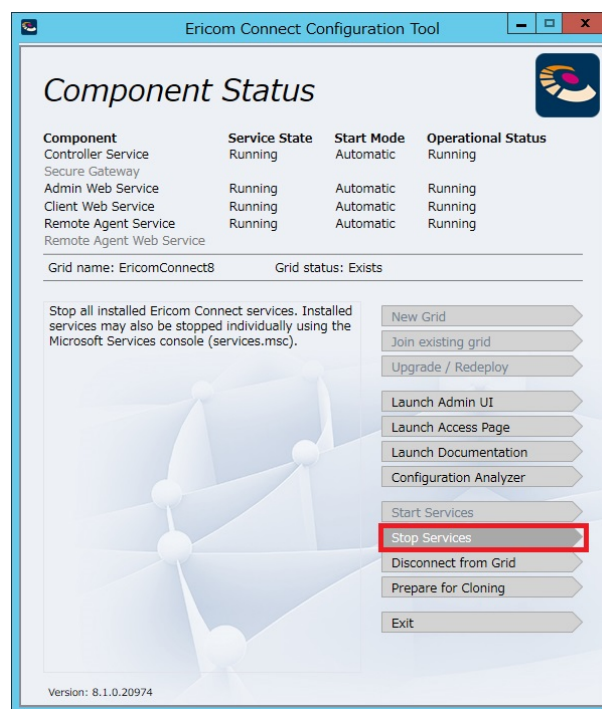
- 既存の Connect サーバにて作業を行います。
- Connect サーバが単体構成の場合の手順です。
- 既存の Connect サーバをアンインストールし、最新の Connect サーバをインストールして、バージョンアップを行います。

Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 *Connect* インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

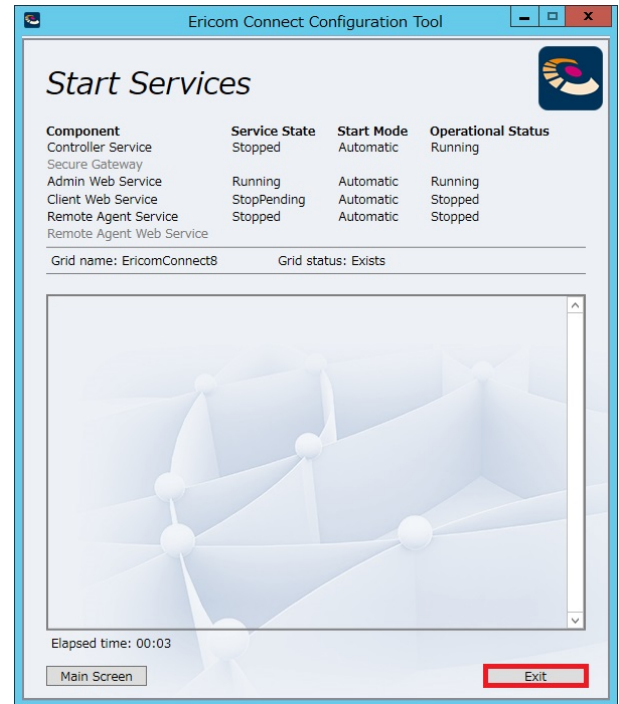
1. Connect の管理者ユーザで Connect サーバにログインし、[スタートメニュー] より、[Ericom Connect Configuration Tool] を起動します。



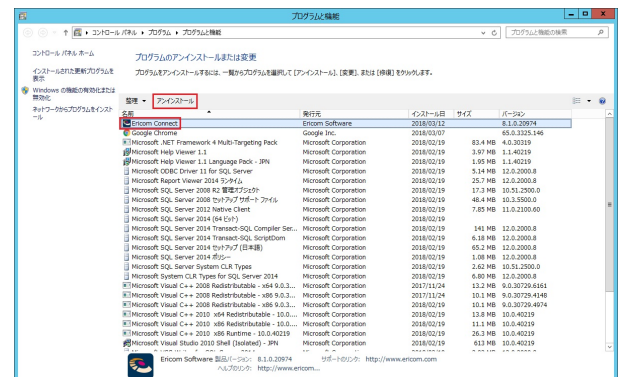
2. [Stop Services] をクリックし、Connect サーバのサービスを停止します。

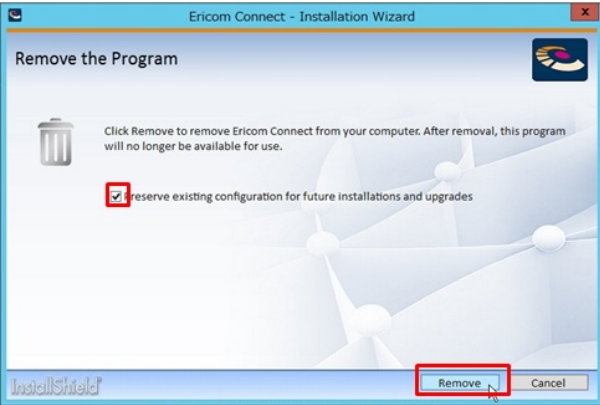
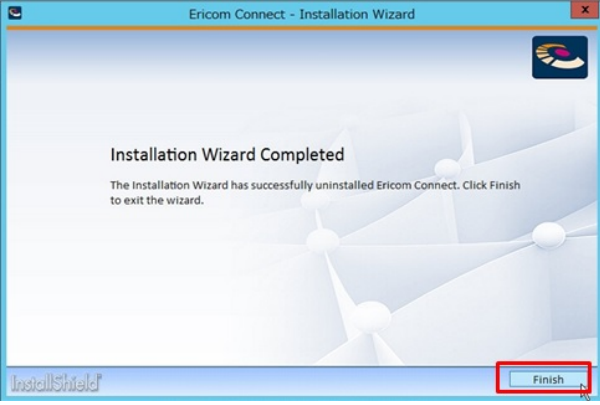
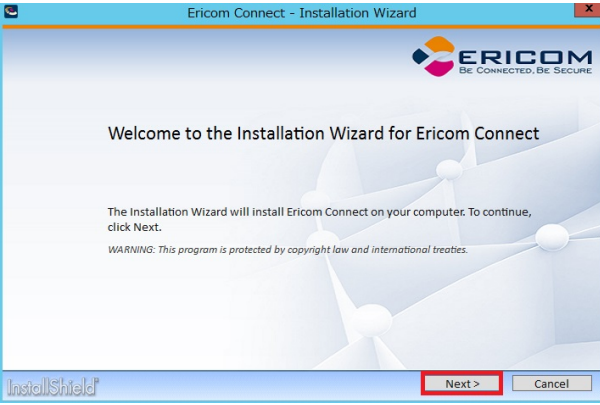


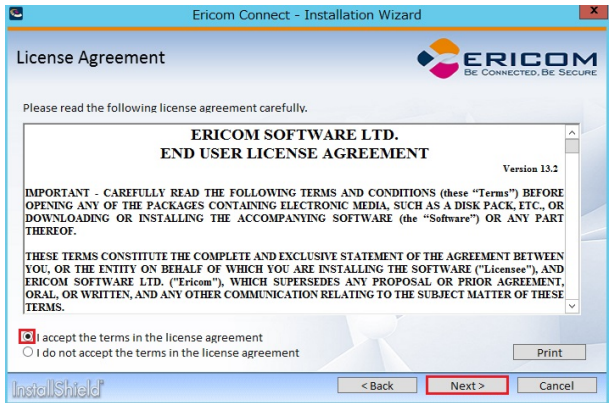
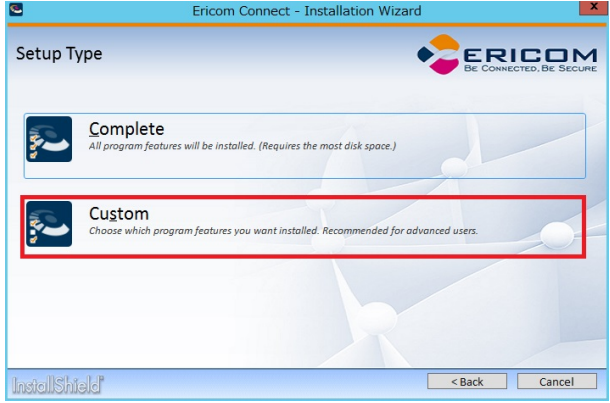
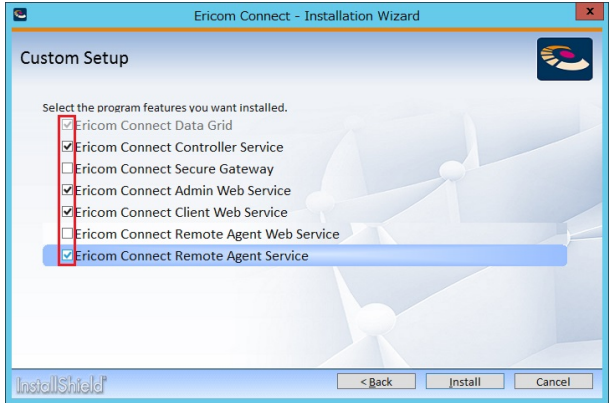
3. サービスが停止したら [Exit] をクリックし、Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



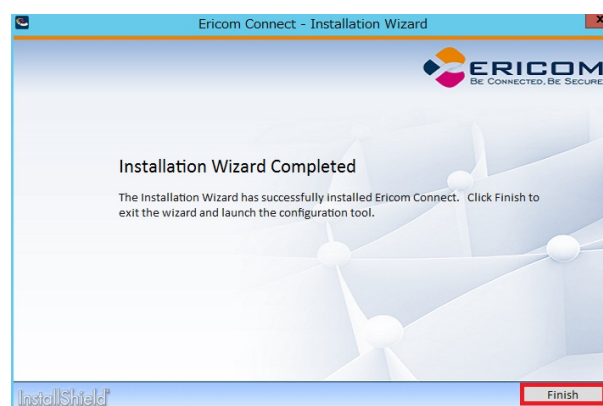
4. コントロールパネルから [プログラムと機能] を開き、[Ericom Connect] を右クリックして [アンインストール] を選択します。



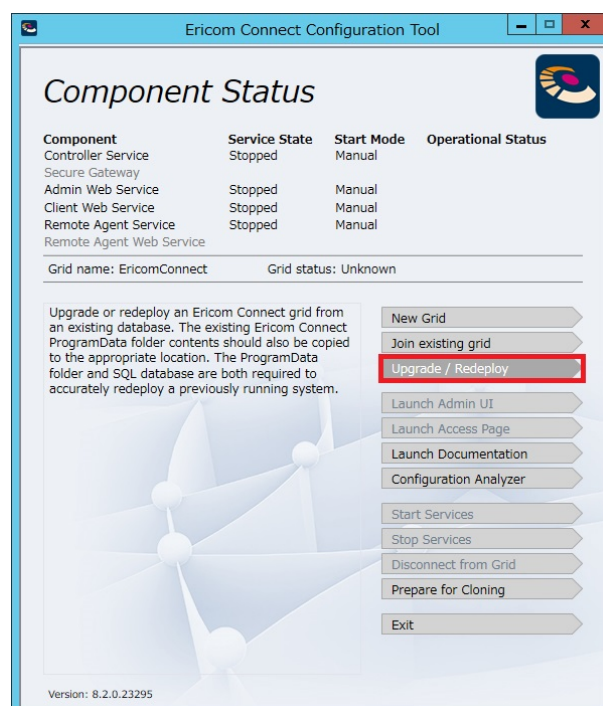
<p>5. [Preserve existing configuration for future installations and upgrades] にチェックが入っていることを確認し、[Remove] をクリックします。</p>	
<p>6. [Installation Wizard Completed] と表示されたら、[Finish] をクリックしてウィザードを閉じます。 必ずサーバを再起動してください。</p>	
<p>7. 最新バージョンの Connect をインストールします。[EricomConnect.exe] をダブルクリックしてインストールウィザードを開始します。 Connect 8.0 以上のインストールには .Net 4.5.2 以上が必要です。必要に応じてインストールしてください。インストールメディア内の以下フォルダにインストーラーがございます。 [.NET Framework 4.5.2] フォルダ</p>	

<p>8. 「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、[Next] をクリックします。</p>	
<p>9. [Custom] をクリックします。</p>	
<p>10. インストールするコンポーネントを選択します。チェックする項目につきましては、「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考に、必要なコンポーネントをチェックして、[Install] をクリックします。</p>	

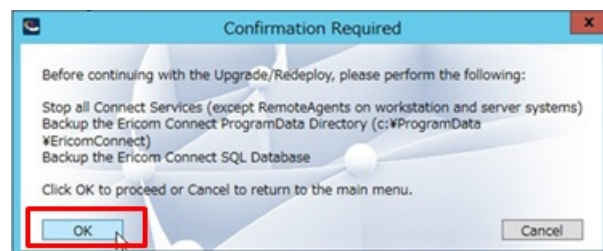
11. インストールが完了したら、[Finish] をクリックして閉じます。



12. Ericom Connect Configuration Tool が起動してきます。[Upgrade / Redeploy] をクリックします。



13. SQL サーバのバックアップを勧めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

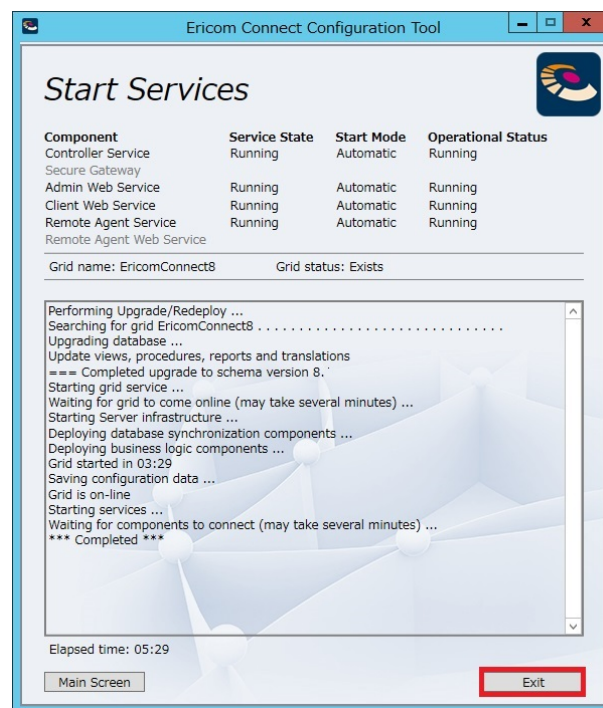


14. [Database Admin] にグリッド作成時に設定したデータベースのアカウント (デフォルトではグリッド名と同じ) とパスワードを入力します。
 ※パスワードが不明な場合は、SQL Server 上の [SQL Server Management Studio] に Windows 認証でログインし、パスワードを変更してください。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。

15. バージョンアップの途中で、Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。

16. [***Completed***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



お願い:

新バージョンは、旧バージョンと管理コンソールの設定や接続時の設定が異なる場合があります。そのため、最新の設定を必ずご確認ください。



警告:

グリッドに参加しているコンポーネントはバージョンを統一する必要があります。RemoteAgent がインストールされているリモートデスクトップ/ターミナルサーバ、VDI,IVEX ダブルブラウザ Linux の RemoteAgent、及び SecureGateway、Access-Pad(ダブルブラウザ連携キット含む) もバージョンアップしてください。

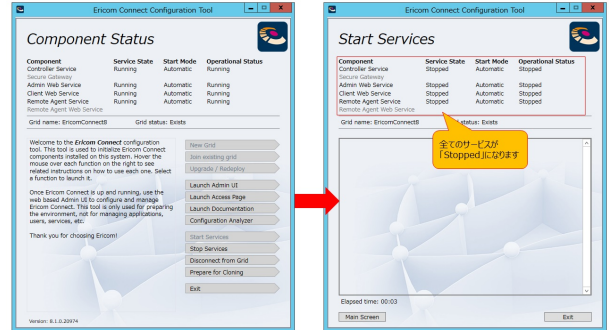
冗長構成の場合のバージョンアップ

- 既存の Connect サーバにて作業を行います。
- Connect サーバの冗長構成が 2 台で構成されている場合の手順です。
- 既存の Connect サーバをアンインストールし、最新の Connect サーバをインストールして、バージョンアップを行います。

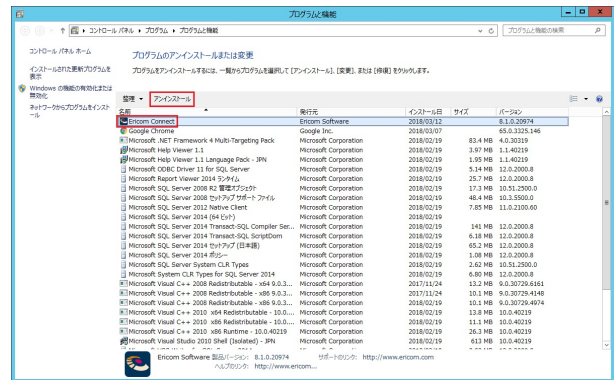
Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参照の上、環境に合わせてコンポーネントをインストールして下さい。

1 回目

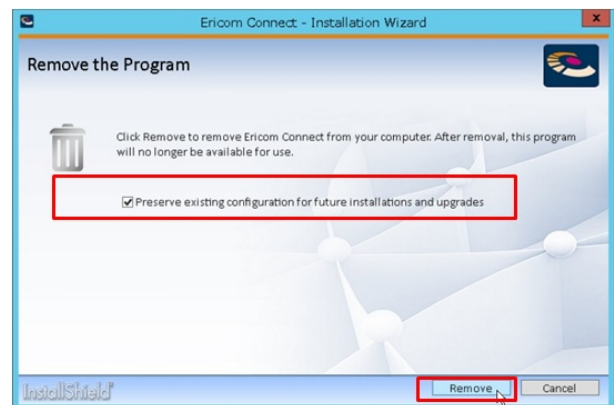
1. Connect の管理者ユーザで Connect サーバにログインし、[スタートメニュー] より、[Ericom Connect Configuration Tool] を起動します。「Stop Services」をクリックして Connect の全てのサービスを停止します。
2 台の Connect サーバで行ってください。

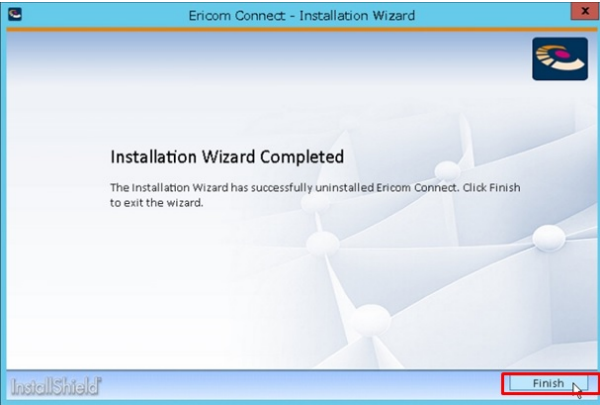
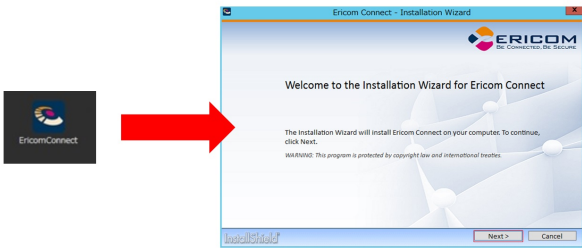



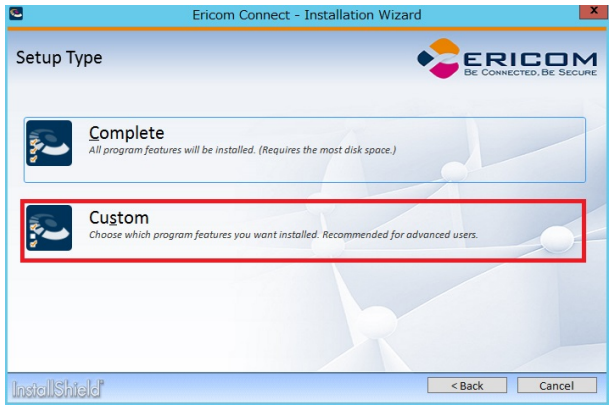
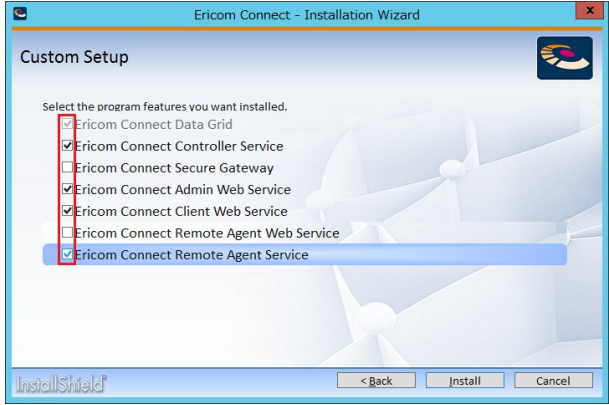
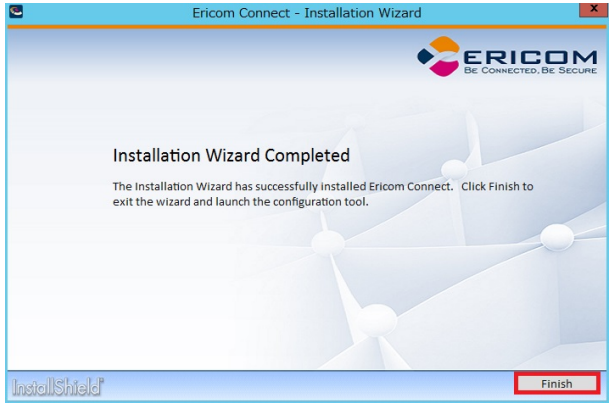
2. サービスが停止後、Connect をアンインストールします。コントロールパネルの「プログラムの機能」から「Ericom Connect」を選択して「アンインストール」を実行します。



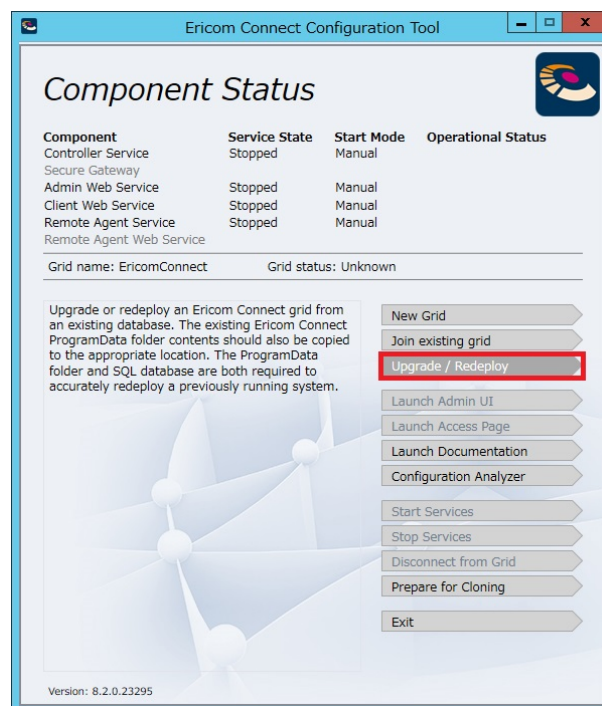
3. Connect のインストール・ウィザードが起動します。「Preserve existing configuration for future installations and upgrades」がチェックされているのを確認してから「Remove」をクリックしてアンインストールを実行します。



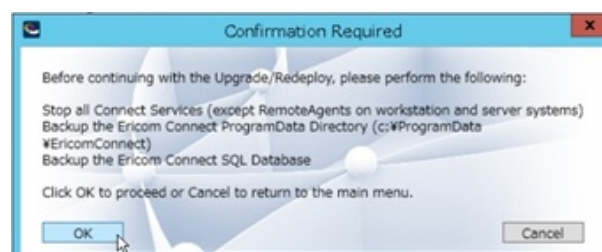
<p>4. Connect のアンインストールが終了したら「Finish」ボタンをクリックして、Connect のインストール・ウィザードを終了します。</p> <p>アンインストール後に必ず OS を再起動してください。</p>	
<p>5. バージョンアップする最新の Connect のインストーラを実行します。Connect のインストール・ウィザードが起動したら「Next」をクリックします。</p> <p>Connect 8.0 以上のインストールには .Net 4.5.2 以上が必要です。必要に応じてインストールしてください。</p>	
<p>6. 「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックします。</p>	

<p>7. [Custom] をクリックします。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Setup Type' window of the 'Ericom Connect - Installation Wizard'. It features the Ericom logo and the tagline 'BE CONNECTED. BE SECURE.'. There are two main options: 'Complete' (with a sub-note: 'All program features will be installed. (Requires the most disk space.)') and 'Custom' (with a sub-note: 'Choose which program features you want installed. Recommended for advanced users.'). The 'Custom' option is highlighted with a red rectangular box. At the bottom, there are '< Back' and 'Cancel' buttons, and the 'InstallShield' logo is visible in the bottom left corner.</p>
<p>8. インストールするコンポーネントを選択します。 チェックする項目につきましては、「構成パターン別 Connect インストールコンポーネント (ページ 636)」を参考に、必要なコンポーネントをチェックして、[Install] をクリックします。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Custom Setup' window. It prompts the user to 'Select the program features you want installed.' and lists several components with checkboxes: <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Ericom Connect Data Grid <input checked="" type="checkbox"/> Ericom Connect Controller Service <input type="checkbox"/> Ericom Connect Secure Gateway <input checked="" type="checkbox"/> Ericom Connect Admin Web Service <input checked="" type="checkbox"/> Ericom Connect Client Web Service <input type="checkbox"/> Ericom Connect Remote Agent Web Service <input checked="" type="checkbox"/> Ericom Connect Remote Agent Service The 'Ericom Connect Remote Agent Service' option is highlighted with a blue selection bar. At the bottom, there are '< Back', 'Install', and 'Cancel' buttons, and the 'InstallShield' logo is in the bottom left corner. </p>
<p>9. インストールが完了したら、[Finish] をクリックして閉じます。</p>	 <p>The screenshot shows the 'Installation Wizard Completed' screen. It displays the text: 'Installation Wizard Completed' and 'The Installation Wizard has successfully installed Ericom Connect. Click Finish to exit the wizard and launch the configuration tool.' At the bottom right, the 'Finish' button is highlighted with a red rectangular box. The 'InstallShield' logo is visible in the bottom left corner.</p>

10. Ericom Connect Configuration Tool が起動してきます。[Upgrade / Redeploy] をクリックします。



11. SQL サーバのバックアップを推奨するメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



12. [Database Admin] にグリッド作成時に設定したデータベースのアカウント (デフォルトではグリッド名と同じ) とパスワードを入力します。
※パスワードが不明な場合は、SQL Server 上の [SQL Server Management Studio] に Windows 認証でログインし、パスワードを変更してください。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。

Ericom Connect Configuration Tool

Upgrade / Redeploy from Database

Welcome to Connect 8.2

In this version, we introduce EricomRDP --- our new native client for windows. Once a user has upgraded to AccessPad 8.1 or greater, EricomRDP will be used instead of Blaze whenever possible. We strongly recommend that users upgrade to AccessPad 8.2.

To use Blaze as the default native client, either execute the ConnectCli command

```
ConnectCli connectionConfig rdp_s_client_s_preference=Blaze
```

or, navigate to Configuration → Defaults → Advanced and set "Native Client Preference"

Server

Grid Name: EricomConnect8

My Hostname or IP: 192.168.161.187

Lookup Service Hosts:

Service Credentials: Local System Account

SQL Server

Database Server: 2287EC82HF1\SQLEXPRESS

Database Name: EricomConnect8

Database Admin: Windows Authentication
EricomConnect8 Password:

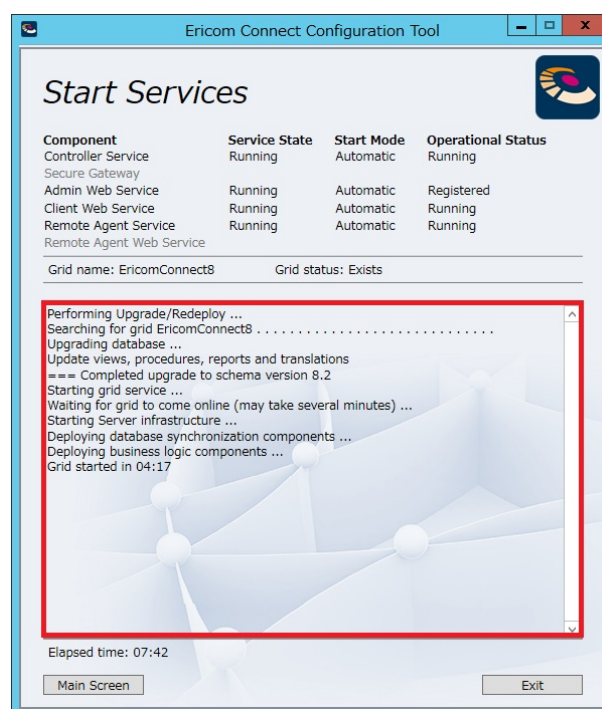
Main Screen Initialize and Start Services



注意:

[Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシン全てで、同一とする必要があります。

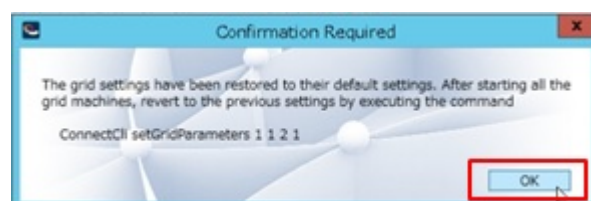
13. メッセージエリアにアップグレードのステータスが表示されていきます。



14. Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。



15. Grid のデータの配置がシングル構成のものに変更されたことを知らせるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

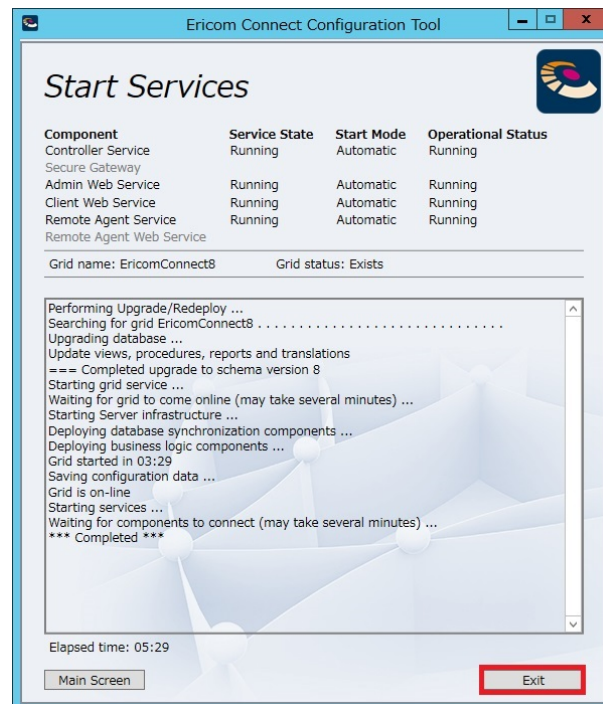




バージョンアップ前と同じグリッドの設定にする必要がありますので、2 台目の Connect サーバのバージョンアップの終了後に「ConnectCLI SetGridParameters」を実行します。手順は後述します。

参考:

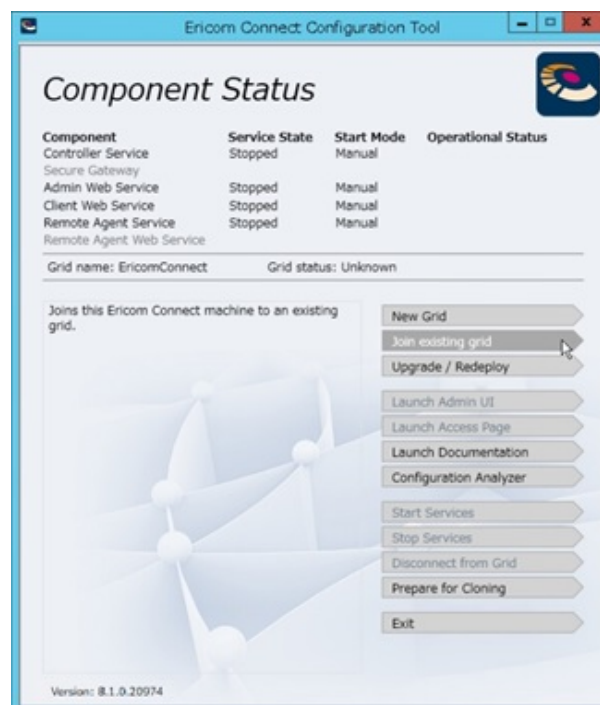
16. [*** Completed ***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



2 台目以降

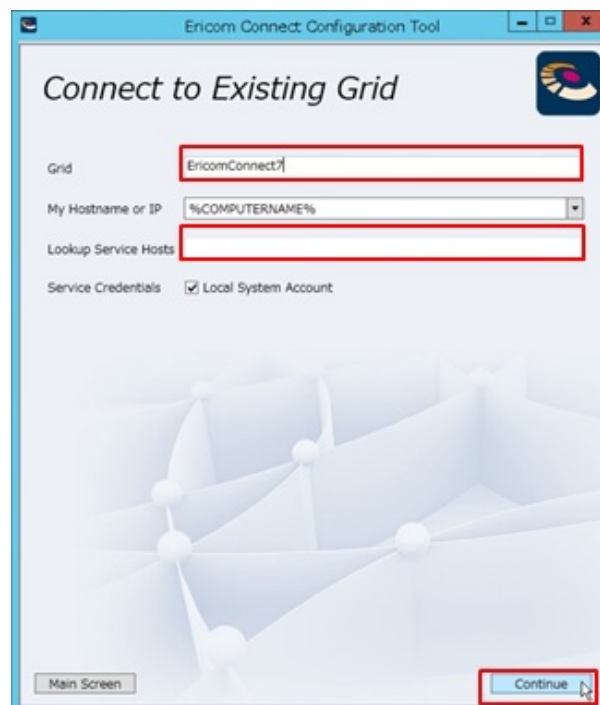
1. 2 台目以降も 1 台目と同じ手順でバージョンアップを行います。手順 1~9 までを実施してください。

手順 10 では「Ericom Connect Configuration Tool」が自動で起動したあと、[Join existing grid] をクリックします。



2. [Grid] を 1 台目のバージョンアップの時に設定されたグリッド名と一致させます。

[Lookup Service Hosts] には、グリッド作成時に設定した Connect の IP(複数台の場合はカンマ区切り) または空欄を入力してください。





注意:

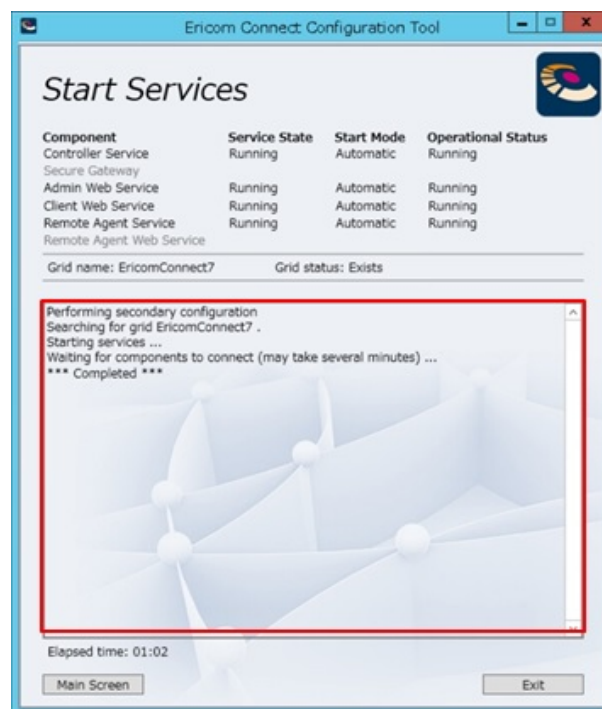
[Lookup Service Hosts] の内容は、同一 Grid に参加しているマシン全てで、同一とする必要があります。

3. バージョンアップの途中で、Connect の管理者アカウントの入力を求められます。アカウント名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。



4. [*** Completed ***] と表示されたら、バージョンアップ完了です。

[Exit] をクリックして Ericom Connect Configuration Tool を閉じます。



Grid の分散配置

上記手順まででは、グリッド内のデータがそれぞれの Connect に分散配置されていません。下記の手順によりデータを分散させるように設定します。

1. いずれかの Connect サーバにおいて管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、下記コマンドにより現状を確認します。

```
C:\>cd "c:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
c:\~Tool>connectcli gridinfo

Searching for 30 seconds ...
EricomConnectBusinessLogicPU Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0

ECN01.test.local (192.168.0.1) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Primary [pid 3960]
    RedoLogSize: 0
  mirror-service Partition #1. Primary [pid 3872]
    Mirror: Successful 21; Failed=0

ECN02.test.local (192.168.0.2) #GSC=2. #LUS=1
```

2. 続けて分散の為のコマンドを実行します。

```
c:\~Tool>connectcli setgridparameters 1 1 2 1
```

3. Connect の管理者アカウントとパスワードの入力を促されますので入力して Enter キーを押します。

```
Connect Admin User: Administrator
Connect Admin Password: *****
Searching for deployment .....
```

4. 設定内容の確認が表示されます。確認の上「y」で実行します。

```
Searching for 30 seconds ...
Parameter settings are feasible
```

```
Sample deployment (DB = database sync component; Partition.Replica
M1: 1.1 DB
M2: 1.2
```

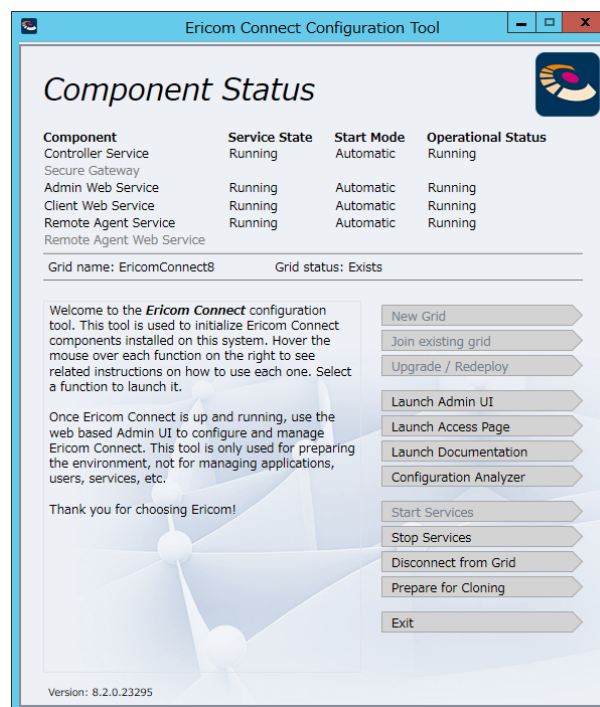
```
All services must be restarted on all machines
Grid machines: 2
Number Partitions: 1
Number Backups: 1
Gsc per Machine: 2
Instances per Machine: 1
Continue [y/n]? y
```

5. 設定が終了し、すべてのマシンのサービスの再起動を促すメッセージが表示されます。
グリッドに接続されている全てのサーバ、ワークステーション (VM) が対象です。
サーバの再起動によるサービス再起動を推奨します。

```
Changes saved. All Processing unit services must be restarted on all machines.
```

```
c:\~Tool>
```


6. 全ての Connect サーバの再起動が終了し、サービスが全て起動され Grid Status が「Exists」になっていることを確認します。



7. 再度管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、下記コマンドにより現状を確認します。

```
C:\>cd "c:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
c:\~Tool>connectcli gridinfo

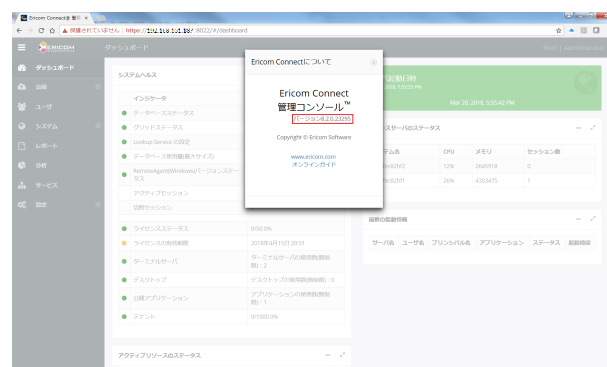
Searching for 30 seconds ...
EricomConnectBusinessLogicPU Intact; Partitions=1; Backups=1; MaxInstancesPerMachine=1
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0

ECN01.test.local (192.168.0.1) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Primary [pid 4644]
    RedoLogSize: 0
  mirror-service Partition #1. Primary [pid 4564]
    Mirror: Successful 44; Failed=0

ECN02.test.local (192.168.0.2) #GSC=2. #LUS=1
  EricomConnectBusinessLogicCluster Partition #1. Backup 0 [pid 1788]
    RedoLogSize: 2

c:\~Tool>
※ EricomConnectBusinessLogic がそれぞれのサーバに配置されていることを確認します。
```

8. これで複数台構成の Connect のバージョンアップが終了しました。
管理コンソールの「Ericom Connect について」から Connect のバージョンを確認できます。



警告:

グリッドに参加しているコンポーネントはバージョンを統一する必要があります。
RemoteAgent がインストールされているリモートデスクトップ/ターミナルサーバ、VDI、IVEX ダブルブラウザ Linux の RemoteAgent、及び SecureGateway、Access-Pad(ダブルブラウザ連携キット含む) もバージョンアップしてください。

**注意:**

URL 自動判別オプション (KOTOMINE) をご利用の場合、アプリケーションの公開定義を再作成してください。(公開手順は [アプリケーション公開](#) (ページ 144) を参照してください。)

■ IVEX ダブルブラウザ Linux のバージョンアップ

IVEX ダブルブラウザ Linux のバージョンアップを行う際は以下手順に従い作業を行っていただけますようお願いいたします。バージョンアップではバージョンアップ用にバックアップツールを用意しておりますがバージョンアップに伴い、処理としてはアンインストール/インストールを行うため、引き継げるデータは下記のものに限定されます。その他に設定を変更している場合は、再設定を行う必要があります。事前に既存の設定値を記録しておいてください。

- Hostname,hosts,DNS 設定などの名前解決設定
- Ericom Connect との接続設定
- AD 連携設定/ローカルユーザ設定などの認証設定
- Xrdp の設定情報
- ユーザデータ (/home 配下のデータ) ※ WBrowser.conf 含む
- プロファイル共有設定 (1.x.x から 2.x.x の場合は除く)

**注意:**

コネクションブローカー有りで利用されている場合はバージョンアップ作業前に該当サーバへのセッション割り当てを停止しておいて下さい。

**参考:**

バージョンアップ用のバックアップリストツールは出荷時の最新のものを IVEX ダブルブラウザのダウンロードパッケージ内に同梱しておりますが、新しい本体がリリースされるたびに、バージョンアップ先バージョンが追加されたものが作成されます。そのため、利用するタイミングで、こちら から最新のものをダウンロードしてご利用いただくことをお勧めします。

**注意:**

バージョン 2.2.1 をご利用の場合、バックアップは 2.2.0 と同じ手順で実行してください。(例: backup 21to220) インストーラーのバージョン番号は 2.2.0 を 2.2.1 へと読み替えてご確認ください。

サービス停止

サービスを停止します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```

環境バックアップ

設定情報やユーザ領域などの環境バックアップを行います。

バックアップツールの配置

バックアップツールを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。バックアップツールは下記のようなファイル名になっています。

```
WBrowser-System-Backup-and-Restore.tar.gz
```

バックアップツールの展開

バックアップツールは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf WBrowser-System-Backup-and-Restore.tar.gz
```

※実行ディレクトリ配下に展開されます。

バックアップツールの実行

展開されたディレクトリで、インストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./WBrowser-System-Backup-and-Restore backup 21to220
```



注意:

ツールの実行はインストーラと同じディレクトリに移動し、相対パスで実行してください。



Tips:

第2引数はどのバージョンでバックアップしたデータを、バージョンの IVEX ダブルブラウザ Linux ヘリストアするかを指定します。

- **1to1**: 1.x.x でデータをバックアップし、1.x.x ヘリストアする場合。
- **1to201**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.1 ヘリストアする場合。
- **1to202**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.2 ヘリストアする場合。
- **1to210**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.1.0 ヘリストアする場合。
- **1to220**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.2.0 ヘリストアする場合。
- **20to210**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.1.0 ヘリストアする場合。
- **20to220**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.2.0 ヘリストアする場合。
- **21to220**: 2.1.x でデータをバックアップし、2.2.0 ヘリストアする場合。

実行すると下記メッセージと共にユーザ領域 (home) のバックアップまたは退避を求められます。尚、ユーザ領域は利用者数や利用状況により、サイズが変化しますが、ツールで退避を行う場合にはパスの変更を行うのみの為、時間は要しません。ユーザ領域は次に行う初期化により削除されてしまいますので、必ずバックアップまたは退避を行ってください。

```
下記ファイルにダブルブラウザのシステム情報をバックアップしました。  
'WBrowser-System-Backup_21to210-2018-02-07-15-00-51.tar.gz'
```

!!!! 重要 !!!!

初期化、initialize を行う前に、必ず home 領域をバックアップか退避してください。

まだ home 領域は退避されていません。

引き続き home 領域を退避しますか? [yes/no] yes

home 領域を下記に退避しました。

```
/var/opt/IVEX/WBrowser/../../HOME-BACKUP
```

上記赤字部分がバックアップファイル名となり、Restore 時に必要になります。

バージョンアップ作業 (アンインストール/インストール)

バージョンアップ作業では、既存バージョンをアンインストールして、新しく新バージョンをインストールいたします。インストール実行後バックアップデータから環境情報をリストアします。

既存バージョンのアンインストール

各 Linux サーバにて下記コマンドを実行し、アンインストールします。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser uninstall
```

「全てアンインストールしますか?」の質問には「yes」で応答してください。

下記バージョンがインストールされています。

2.0.1

全てアンインストールしますか? [yes/no] 'yes'

アンインストールしました。

ご利用いただきまして誠にありがとうございます。

またのご利用をお待ちしております。

各 Linux サーバにて下記コマンドを実行し、サーバの再起動を必ずしてください。

```
$ sudo reboot
```

新しいバージョンのインストール

インストーラの配置

インストーラを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。インストーラは下記のようなファイル名になっています。

```
IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2.2.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

インストーラの展開

インストーラは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

※実行ディレクトリ配下に展開されます。

インストーラの実行

展開されたインストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```



注意:

インストーラの実行はインストーラと同じディレクトリに移動し、相対パスで実行してください。

環境リストア

サービスの停止

リストアツールを実行する前に、サービスを一旦停止します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```

リストアツールの実行

バックアップした環境情報をリストアします。



注意:

Ver2.0.0 から Ver2.2 への移行をする場合は AD に"template-user"が存在することを確認しリストアツールの実行を行って下さい。

```
$ sudo ./WBrowser-System-Backup-and-Restore restore 21to220 [バックアップファイル名]
```

第 2 引数はどのバージョンでバックアップしたデータを、バージョンの IVEX ダブルブラウザ Linux へリストアするかを指定します。



Tips:

- **1to1**: 1.x.x でデータをバックアップし、1.x.x へリストアする場合。
- **1to201**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.1 へリストアする場合。
- **1to202**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.0.2 へリストアする場合。
- **1to210**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.1.0 へリストアする場合。
- **1to220**: 1.x.x でデータをバックアップし、2.2.0 へリストアする場合。
- **20to210**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.1.0 へリストアする場合。
- **20to220**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.2.0 へリストアする場合。
- **21to220**: 2.0.x でデータをバックアップし、2.2.0 へリストアする場合。

第 3 引数のバックアップファイル名はバックアップ取得時に表示されます。作業ディレクトリ配下に作成されておりますので、不明な場合は作業ディレクトリにて『ls』コマンドにてご確認ください。

```
'WBrowser-System-Backup_21to210-2018-02-07-15-00-51.tar.gz'
```

リストア対象のバックアップファイルは上記でよろしいでしょうか？ [yes/no] yes

ダブルブラウザのシステム情報のリストアが完了しました。

上記赤字部分がバックアップファイル名となります。

サービスの再開

システム情報のリストア完了後、サービスを再開します。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
```

利用環境に合わせた追加作業



注意:

本手順で行う作業は、以前利用していた場合のみを行ってください。以前の利用が無い場合は作業不要となります。

tb ファイルの再配置 (コネクションブローカー無しの場合のみ)

コネクションブローカー無しの構成の場合、ライセンスファイルとして TB ファイルを配置していただきますが、バージョンアップに際して再配置していただく必要があります。

詳しくは、[ライセンスファイルの適用 \(ページ 184\)](#) を参照してください。

Flash プラグインのインストール

Adobe Flash Player のプラグインのインストールをして下さい。

Flash のプラグインは下記のようにしてインストールできます。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/  
# export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
# export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
# apt-get update  
# apt-get install --no-install-recommends flashplugin-installer
```



PROXY を利用していない場合には export で始まる 2 行は不要です。
192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

参考:

以上でバージョンアップは完了です。

■ オプション製品のバージョンアップ

オプション製品は IVEX ダブルブラウザ Linux 製品と互換性の問題が発生する場合がありますので、新規にインストールしてください。

ファイル共有オプション

- 『ファイル共有オプション Ver.1.1.0』は『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.2.0.1』以降の製品に対応したオプションとなります。
- 『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.1.5.x/1.6.x』をご利用の場合、『ファイル共有オプション Ver.1.0.2』までとなります。

ログオプション

- 『ログオプション Ver.1.1.0』は『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.2.0.1』以降の製品に対応したオプションとなります。
- 『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.1.6.x』をご利用の場合、『ログオプション Ver.1.0.5』までとなります。
- 『IVEX ダブルブラウザ Linux Ver.1.5.x』をご利用の場合、『ログオプション Ver.1.0.4』までとなります。

オプション製品のバージョンアップ方法は [管理者ガイド]-[IVEX ダブルブラウザ Linux] に記載の通常のインストール方法を行うことで適用可能です。

第 8 章

管理者ガイド

8.1 Ericom Connect 管理者ガイド

8.1.1 はじめてみる

Ericom Connect とは?

Ericom Connect は、様々なホスト・アプリケーションとデスクトップへのアクセスを管理する、エンタープライズ向けのコネクション・ブローカーです。リモート・デスクトップ・セッション・ホスト (ターミナル・サーバ)、仮想および物理ワークステーションのプラットフォームがサポートされています。Ericom Connect は、あらゆる規模の組織において、強固かつユーザ・フレンドリーな方法で、仮想化されたアプリケーションやデスクトップを迅速に展開することを可能にします。エンドユーザは、公開されたアプリケーションやデスクトップ、ドキュメントに次のような様々なクライアント・デバイスから接続できます: Windows、Linux、Mac OS X、タブレット、スマートフォン、Chromebook、各種シンクライアント・デバイス。さらに、Ericom Connect は、社内・社外どちらのアクセスにも暗号化された接続を提供します。(現在、クライアント・デバイスは限定的な対応となっています)

- 先進のグリッド・アーキテクチャ

Ericom Connect には、高可用性、高スケーラビリティ、パフォーマンスの向上を実化するグリッド・テクノロジーが使用されています。グリッド・プラットフォームの分散化の性質により、何千ものホスト・サーバや何十万ものユーザ・セッションをサポートするスケーリングが可能になります。すべてのビジネス・ロジック、状態情報、動作状態は、グリッドの各メンバーに共有されます。グリッドは、Connect のインストール・プロセスの一部として作成と設定が行われます。このプロセスは以下から構成されています:

- データベースの初期化
- ビジネス・ロジック・サービスの設定および起動
- システムのブートストラップ
- その他のグリッド・コンポーネントの起動

グリッドは「グリッド名」によって識別されます。すべてのコンポーネントは特定のグリッド名で登録されます。同一ネットワーク上の各グリッドは、一意の名前を与えられる必要があります。デフォルトの名前は「EricomConnect」です。グリッドのメンバーには、以下が含まれます:

- プロセッシング・ユニットサーバ (Processing Unit Server)
- Ericom Secure Gateway(ESG)
- 管理 Web サービス (Admin Web Services)
- クライアント Web サービス (Client Web Service)
- RemoteAgent Web サービス
- RemoteAgent (Windows のみ)

AccessPortal は Connect の一部としてインストールされますが、グリッドのメンバーではなく、AccessPad や AccessToGo のネイティブ・クライアントでもありません。

● 簡単なエンドユーザ・アクセス

エンドユーザは、何種類かの Ericom ポータル・インターフェースを使用して、Ericom Connect へのサインインと公開されたリソースを起動できます。

- AccessPortal は、Connect へログインして割り当てられたリソースを表示するための Web ベースのポータルです。リソースを起動すると、該当するアプリケーションまたはデスクトップが AccessNow により Web ブラウザに表示されます。HTML5 対応ブラウザが必要です。
- AccessPad は、Connect にログインして割り当てられたリソースを表示するためのネイティブ・クライアントです。リソースを起動すると、該当するアプリケーションまたはデスクトップが、Connect サーバの設定を使用して AccessPad により表示されます。このクライアントでは Blaze のアクセラレーションおよび非アクセラレーションのモードがサポートされています。
- AccessToGo は、Connect へログインして割り当てられたリソースを表示するためのモバイル・アプリです。リソースを起動すると、該当するアプリケーションまたはデスクトップが、Connect サーバの設定を使用して AccessToGo により表示されます。このアプリでは Blaze のアクセラレーションおよび非アクセラレーションのモードがサポートされています。

● Web ベースの管理

すべての管理と監視は、単一の使いやすい Web ベースのインターフェースから実行します。複数の Active Directory アカウントに管理者のアクセス権を割り当てることができます。Web インターフェースはすべてのブラウザでサポートされ、複雑なプラグインやインストーラは必要ありません。

● 強力な起動分析 (Launch Analysis)

この独自の起動分析は、アプリケーションやデスクトップへのユーザの接続をプロアクティブに分析する強力なツールです。これにより、管理者は管理コンソールを使用して、すべてのユーザの接続プロセスのイベントごとの詳細な情報を得ることができます。詳細な情報を使用して接続を分析することで、問題の根本原因を検出し修正できる可能性が大幅に向上します。これは、手動の

トラブルシューティングとエンドユーザの混乱を減らすことにつながります。また、このツールはリモート画面共有ができないタブレットなどのデバイス上での問題を対処するのに役立ちます。

- 役割ベースの分類

Ericom Connect では、様々な用途に対応するためにグループの概念が使用されています。すべての公開されたリソースは、「公開」グループに割り当てられた後、所有者から Active Directory(ユーザ、グループなど)へ割り当てられます。その後、各「公開」グループは1つまたは複数の「システム」グループに割り当てられます。その「システム」グループには、アプリケーションやデスクトップを実行するシステムが含まれています。「システム」グループにより、類似したロールを持つサーバとワークステーションを、割り当て用のグループに分類できます。

- ビジネス・インテリジェンス

Ericom Connect では、リソースの使用状況についての詳細な情報を管理者とビジネス・マネージャに提供するために、すべてのユーザとセッションのアクティビティのログが取得されます。このようなデータは以下の様な多くの用途で役立ちます:

- アプリケーションとデスクトップのサブスクリプション・ベースの利用追跡
- ユーザの生産性の監視
- システムのワークロードと健全性の測定
- 問題解決 (接続性、割当て、エラーなど)

要件

SQL データベース

Ericom Connect には、すべてのシステム情報を格納するための Microsoft SQL が必要です。SQL Server 2012 または SQL Express 2012 (またはそれ以降) が利用可能である必要があります (Connect サーバ・コンポーネントと同一マシン上にある必要はありません)。SQL は、すべてのグリッド情報を格納するために使用されますが、グリッドの動作に必須ではありません。グリッドの各サーバにより、データベース情報のキャッシュが保持されます。SQL データベースとの接続が中断された場合、Ericom Connect サーバによりデータベースのインメモリ・バージョンが使用され動作が継続されます。エンドユーザにダウンタイムは発生しませんが、管理コンソールの「レポート」機能は使用できなくなります。SQL Server への接続が復元されると、すべてのキューのメッセージが送信され、ログが再開されます。Connect では、Windows 認証または SQL 認証を使用してデータベースに接続できます。グリッドの初期化 (Ericom Connect Configuration Tool) 中に適切なオプションを選択してください。Windows 認証には、Connect Processing Unit Service が適切な資格情報で実行されている必要があります。インストール後:

- データベースの「TCP/IP」を有効化していることを確認してください (「SQL Server 構成マネージャ」 | 「SQL Server ネットワークの構成」 | 「SQL server のプロトコル」 | 「TCP/IP」を有効化する必要があります)。
- SQL Server Browser サービスを起動します (既に自動で実行されている必要があります)
- Windows 認証を使用しない場合、SQL 混合 モードの認証を有効にします。

構成:

- データベース作成のために SA ユーザが使用されます
- 現在ログインしているユーザが Windows 認証に使用されます
- 指定した資格情報が SQL 認証に使用されます
- Connect データベースの読み込み/書き込み/更新のために、サーバユーザが Connect サービスにより使用されます
- Connect サービスの資格情報が Windows 認証により使用されます (サービスの資格情報が明示的に指定されている場合のみ)
- Connect のインストールにより、このユーザへ SQL 権限が付与されます。
- SQL ユーザにより、指定した資格情報が使用されます (ユーザが存在しない場合、作成されます)

Active Directory

Ericom Connect は、ユーザ認証のためにマイクロソフトの Active Directory と統合されています。Connect のローカルとドメインの権限を持つサービス・アカウントの使用をお勧めします (初期の Connect 管理者ユーザとして)。ユーザが Ericom Connect へサインインする際には:

- ユーザに指定されたドメインが使用されます。
- ドメインが指定されない場合、システムのデフォルトのドメインが使用されます。

デスクトップ/セッション ホスト

Ericom Connect により、Connect 環境へ登録されているすべてのリソース・ホスト・システム (例:ターミナル・サーバ・セッション・ホスト) が管理されます。以下のオペレーティング・システムがサポートされています:

- Windows 2008 ターミナル・サーバ、またはそれ以上
- Windows 7 ワークステーション、またはそれ以上
- ホスト上で RDP が有効にされ利用可能

Ericom で使用する適切なポートを ローカルの Windows ファイアウォールで設定してください (例:ポート 8080 の新規の着信の規則を作成する)。



ユーザが RDP を使用してデスクトップまたはサーバへ接続できるよう、ターミナル・サーバ上のリモート設定を行ってください。

Windows 2008 R2/2012 R2

Ericom Connect には、Windows 2008R2 または 2012 R2 が必要です。サーバには以下のハードウェア・スペックをお勧めします:

- 4 コア
- 8 GB RAM
- 4GB のハードディスク空き容量
- SQL データベースを同一マシンで実行する場合 (例: PoC 用)、8 コアと 16 GB RAM を推奨します。

信頼された証明書

各 Connect マシン上、特に Ericom Secure Gateway には、信頼された証明書を配置することをお勧めします。ワイルドカード証明書がサポートされています。Ericom Secure Gateway の証明書は、システムの外部 DNS 名と一致させる必要があります。

DNS とポート

Ericom Connect には、ネットワーク上で DNS (ドメイン・ネーム・サービス) が利用可能であることが必要です。Ericom Connect Remote Agents により、Ericom グリッドへ接続する際のアドレス解決のために DNS が使用されます。Ericom Connect の展開には、ネットワーク上で特定のポートが利用可能であることが必要です。以下の表では、Connect または Connect 環境で一般的に使用されるポートを示しています。これらのポートは、「着信を開放する側」の欄で指定されたシステム上で利用可能であることが必要です。これらのポート値がデフォルトから変更されている場合、それらもファイアウォール上で調整する必要があります。SQL サーバとグリッド・コンポーネントを分離しているグリッドでは、SQL サーバ上で SQL 着信ポート (1433) を開放する必要があります。

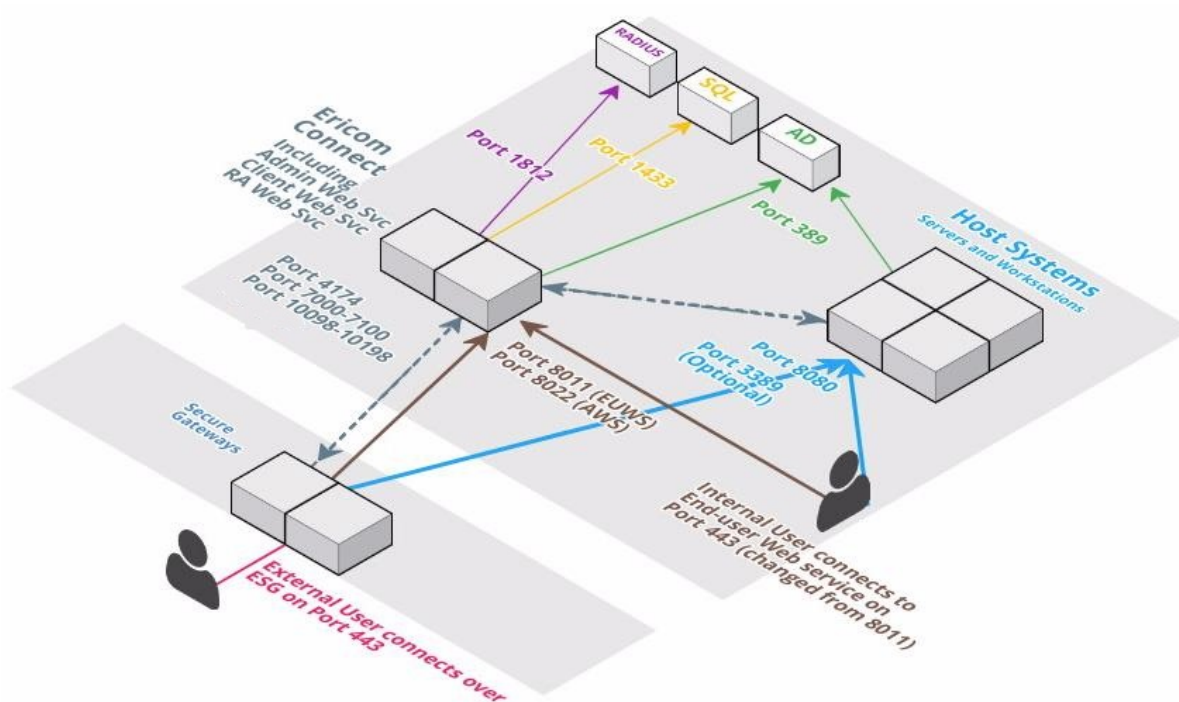
Ericom のコンポーネントで使用されるデフォルト・ポート

ポート番号	使用	着信を開放する側
443	Ericom Secure Gateway	ESG サーバ
8044	RemoteAgent (Type 2) Web サービス	Web サービス・ノード
8011	HTTPS 経由の End User Web インターフェース	クライアント Web サービス (Connect サーバ)
8022	Administrator Web Interface	管理 Web サービス (Connect サーバ)
8080	Access Server Session Communication	TS/RDS
4174	グリッド通信 (LUS)	すべてのグリッド・ノード (ESG/Connect サーバ)
7000-7100	グリッド通信	すべてのグリッド・ノード (ESG/Connect サーバ)
10098-10198	グリッド通信	すべてのグリッド・ノード (ESG/Connect サーバ)
64208	グリッド通信 (ミラー・サービス)	すべてのグリッド・ノード (ESG/Connect サーバ)

一般的に Ericom Connect と組み合わせて使用されるアプリケーションとサービスにより使用されるデフォルト・ポート (これらのポートは、環境でカスタマイズされている場合は異なる可能性があります)。

ポート番号	使用	着信を開放する側
1433	SQL Server	SQL Server
1812	RADIUS 二要素認証 (デフォルト) プロ トコ トル	RADIUS サーバ
3389	Microsoft RDP	TS/RDS(オ プ シ ョ ン)
389	LDAP	AD サーバ

Ericom Connect 環境でのポート設定のサンプル:



■ インストーラの使用

利用可能なインストーラは以下のとおりです:

名前	説明
プロダクション・インストーラ (EricomConnect.exe)	本番環境または高度な環境のためのインストーラです。このインストーラを使用して、各グリッド・コンポーネントを個別にインストールできます。Windows 2008 R2 または 2012 R2 が必要です。
EricomPoC (EricomConnectPOC.exe)	概念実証 (Proof of Concepts) 用のインストーラです。このインストーラには SQL Express が含まれています。Windows 2008 R2 または 2012 R2 が必要です (日本では同梱していません)。
RemoteAgent x64 (EricomConnectRemoteHost_x64.exe)	Windows 2008 R2、2012R2、Windows 7 x64 およびそれ以上のオペレーティング・システム用の RemoteAgent インストーラです。Access Server が含まれています。
RemoteAgent 32 (EricomConnectRemoteHost_x86.exe)	Windows 2008 と 32 bit Windows オペレーティング・システム用の RemoteAgent です。Access Server が含まれています。
AccessPad (Windows、Mac、Linux)	Windows と Mac のオペレーティング・システム用の AccessPad ネイティブ・クライアントのインストーラです (Mac 版
	297AccessPad は日本では将来のバージョンで対応予定)。

プロダクション・インストーラ

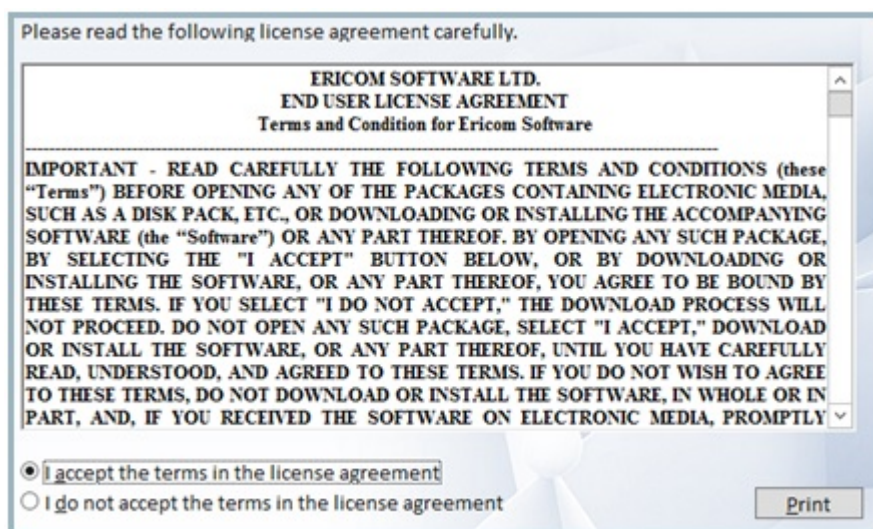
アーキテクチャ

このインストーラを使用して、管理者は個別のグリッド・コンポーネントを専用のサーバへインストールできます。本番運用のシナリオでは、一般的に Ericom Secure Gateway(ESG) をネットワークの末端にある専用サーバで実行します。セッション・ホストとワークステーション上で RemoteAgent を実行します。このインストーラは単一サーバへの展開に使用できますが、SQL データベースは含まれていません。

インストール手順

EricomConnect.exe インストーラを実行して、各ダイアログの手順に従います。

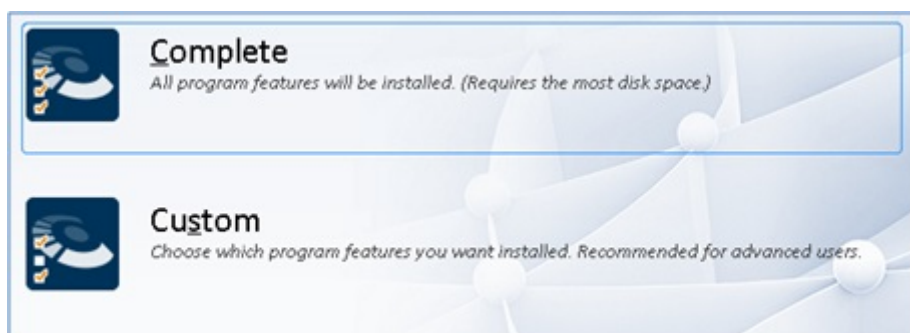
License Agreement(使用許諾契約)を確認し、同意してください。



インストール方法を選択します:

Complete: サーバにすべてのコンポーネントをインストールします。

Custom: サーバにインストールするコンポーネントを選択できます。



「Component Selection」ダイアログにおいて、サーバへインストールするコンポーネントを選択します。



「Finish」ボタンをクリックすると、インストール後の設定のために Ericom Configuration Tool が自動的に起動します。

PoC インストーラ

アーキテクチャ

PoC (Proof of Concept : 概念実証) インストーラは、SQL Express を含むすべての必要なコンポーネントをインストールするために設計されています。このインストーラは、簡単に展開できるように設計され、インストール・プロセスでのユーザ操作を最小限にするよう設計されています。

インストール手順

EricomConnectPoC.exe インストーラを実行し、「Next」をクリックしてインストールを開始します。このインストーラを使用時には、ユーザ・プロンプトは表示されません。インストールの完了後、システムを利用できるようになります。



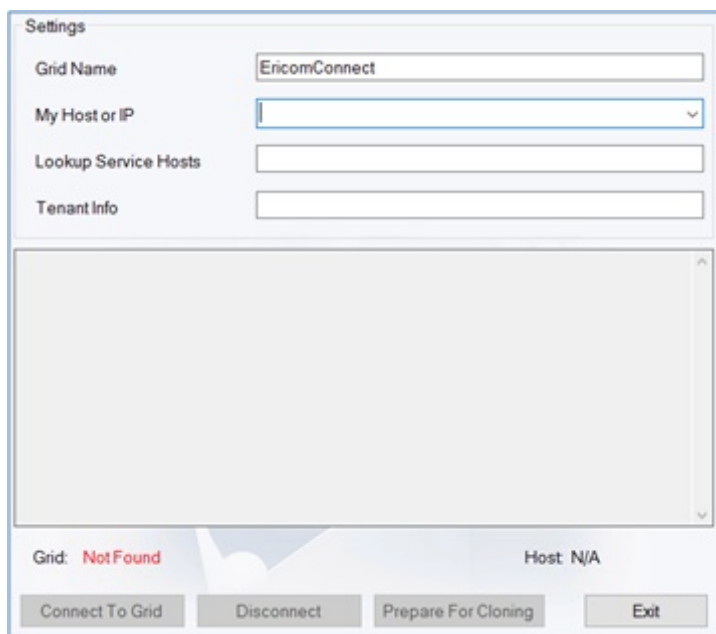
インストール中にユーザ・プロンプトは表示されません。インストールの最後に「Finish」ボタンをクリックすると、インストール後の設定用に「Ericom Configuration Tool」が自動的に起動します。

RemoteAgent インストーラ

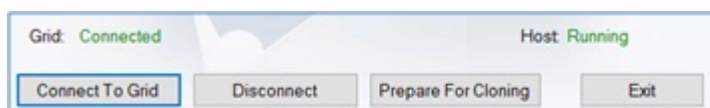
EricomConnectRemoteHost_x64.exe インストーラ (32 bit または旧型の x64 オペレーティング・システムの場合は **EricomConnectRemoteHost_x86.exe**) を実行します。このインストーラにより RemoteAgent(Type 1) コンポーネントのみがインストールされます。インストールが完了すると、設定ダイアログが表示されます。

必要なパラメータを入力します:

- Grid Name (グリッド名)
- My Host or IP - グリッド上のシステムの識別用。ネットワーク上で認識可能かつ一貫性のある値を使用します。
- Lookup Service Hosts (ルックアップ・サービス・ホスト)
- Tenant Info (テナント情報)
- System Group Info(システム・グループ情報)



グリッドへの接続が成功すると、画面下部のステータスで「Grid」が「Connected」と表示され、「Host」が「Running」と表示されます。



注意:RemoteAgent をアンインストールすると、自動的にグリッドから切断されます。RemoteAgent for Linux の展開方法については、「展開ガイド」の Linux セクションを参照ください。

■ インストール後の手順

Connect Configuration Tool

インストールが完了すると、Ericom Configuration Tool が自動的に起動し、「コンポーネント・ステータス」画面が表示されます:

Component	Service State	Start Mode	Connected to Grid Status
Controller Service	Running	Automatic	Running
Secure Gateway			
Admin Web Service	Running	Automatic	Running
Client Web Service	Running	Automatic	Running
Remote Agent Service			
Remote Agent Web Service	Running	Automatic	Running

Grid name: EricomConnect Grid status: Exists

This is the documentation for the **Ericom Connect** configuration tool. This tool controls the Connect components that are installed on just this machine and is normally only used at installation time. Once installed, the administration interface should be used to control and configure the system.

Select the desired operation on the right.

- Configuration Analyzer
- New Grid
- Join existing grid
- Upgrade / Redeploy
- Launch Admin UI
- Launch Access Page
- Launch Documentation
- Start Services
- Stop Services
- Disconnect from Grid
- Prepare for Cloning
- Exit

上部のステータス領域では、現在のサーバ上の Connect コンポーネントの状態が表示されます。「Connected to Grid」の欄では、コンポーネントが正常にグリッドへ接続されているかどうかが表示されます。「Configuration Analyzer」ボタンをクリックして、Ericom グリッドを使用するためのパラメータを入力します。「Configuration Analyzer」によりパラメータの検証が行われた後、グリッド作成のために Configuration Tool にパラメータが渡されます。

Configuration Tool は、次のようにしてコマンド・プロンプトから実行可能です:

```
"<ドライブ>:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool\EricomConnectConfigurationTool.exe".
```

次の方法で実行することもできます:

```
「Start "config" /w "<ドライブ>:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool\EricomConnectConfigurationTool.exe"」
```

この呼び出しは、インストールが完了するまで 待機 状態となります。

すべてのオプションを表示するには、以下を実行します:

```
EricomConnectConfigurationTool /?
```

デフォルトでは、現在のディレクトリ内に「EricomConnectConfiguration.log」という名前でログ・ファイルが作成されます。

Configuration Analyzer

Ericom Connect Configuration Analyzer は、Configuration Tool から利用可能で、Connect で使用する様々なパラメータを検証するために使用します。これは、Ericom Connect システムの初期化が失敗した場合に、不適切な設定の原因を特定するのに役立ちます。

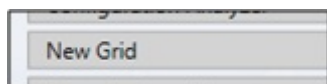
一部の Active Directory(例: 匿名アクセスなし) では、Ericom Connect 管理者としてアカウントを追加するための AD 資格情報が必要となる場合があります。AD にアクセスするための資格情報を特定するには、パスワード入力欄の右にあるドロップ・ダウンの矢印をクリックします。

Ericom Connect 管理者用に使用する資格情報と Active Directory へのアクセスが許可された AD アカウントを入力します。

「Analyze」ボタンを押すと、システムの初期化に使用される設定パラメータの検証が行われます。Configuration Analyzer を Configuration Tool とは別のスタンドアロンのツールとしてダウンロードすることもできます。これは、Ericom Connect をインストールする時間と労力をかける前に、Ericom Connect で使用するサーバを検証するのに役立ちます。

グリッドの初期化

新規の複数サーバ展開の最初のサーバか、単一マシン用の展開の場合、「New Grid」オプションを選択します。



「New Grid」の操作とともに、Configuration Analyzer が自動的に起動します。警告やエラーが発生した場合は、「New Grid」の操作を継続するかを確認するプロンプトが表示されます。例えば、10 台のマシン上に展開する場合、1 台目のサーバは「New Grid」オプションを使用し、その他の 9 台のサーバは「Join existing grid」を使用します。「New Grid」を選択する前に「Configuration Analyzer」を起動しなかった場合、警告メッセージが表示されます。「New Grid」の前に「Configuration Analyzer」を起動することは必須ではありませんが、お勧めします。「New Grid」オプションを選択すると、「Create New Grid」画面が表示されます：

Server

Connect Administrator: Password:

Grid Name:

My Hostname or IP:

Lookup Service Hosts:

Service Credentials: Local System Account

Admin Web Service Port:

SQL Server

Database Server:

Database Name:

Create Database Use Existing Blank Database

Server Admin: Windows Authentication (CORP\visitor)

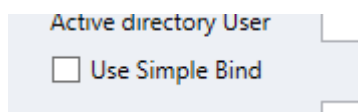
Database Admin: Windows Authentication

Password:

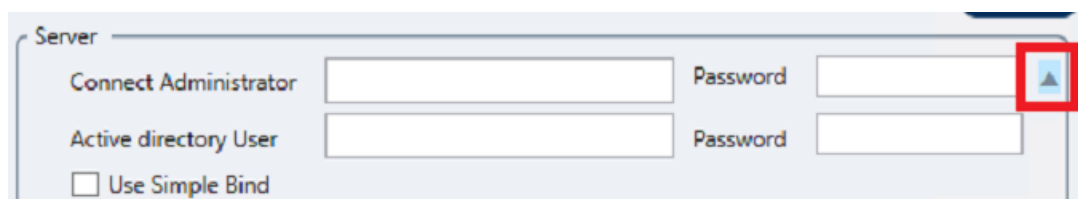
この画面には 2 つのセクションがあります: 「Server」と「SQL Server」: 「Server」セクションでは、以下のフィールドへの入力が必要です:

- **Connect Administrator と Password** – 最初の Ericom Connect 管理者ユーザ資格情報

(展開ボタン) Active directory の User と Password – グリッドの初期化のために Active Directory にアクセスする際に使用する資格情報



(展開ボタン) シンプルバインドを使用 シンプルバインドを使用してディレクトリに接続するには、「Use Simple Bind」(シンプルバインドを使用) オプションをオンにします。注意：シンプルバインドは、組織のセキュリティ基準に違反する可能性があるため、この設定を行う前に使用が可能であることを確認してください。



- **Grid Name** - Connect グリッド の名前
- **My Hostname or IP** - 参照に使用されるローカル・アドレス
- **Lookup Service Hosts (LUS)** - グリッドの自動選択を許可するには空白のままにします。または、検索サービスのホストとして指定するサーバのアドレスを入力します。一つのグリッドの展開につき少なくとも 2 つ持つことをお勧めします。指定する LUS システムには静的 IP アドレスが与えられている必要があります。LUS の設定は、すべてのグリッド・システム上で同一である必要があります (必須ではなく推奨)。
- **Service Credentials** - サービス用の Windows アカウントまたはビルトインのシステム・アカウントを使用します。Windows アカウントを使用する場合、ユーザはローカル管理者である必要があります。
- **Admin Web Service Port** – Admin Web Service(AWS) に使用するポート値。

「データベース」セクションでは、以下のフィールドへの入力が必要です。

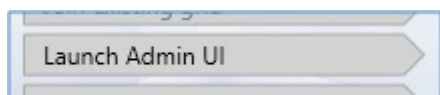
- **Database Server** - SQL Server の名前。リストから選択、または完全なアドレスを入力します。
- **Database Name** - Connect 用に作成するデータベースの名前
- **Create Database** – Ericom Connect によってデータベース・サーバに新たなデータベースが作成されます (ユーザに権限がある場合)
- **Use ExistingBlank Database** – データベース・サーバ上に作成済みのデータベースを使用します。構成済みのデータベース資格情報は、データベースへのアクセス権を持っている必要であり、「db_owner」の権限を有している必要があります。この設定は、SQL サーバにおいてアプリケーションではなく手動によるデータベースの作成が必要とされる場合に使用します。

- **Server Admin User** - SQL SA データベース管理者ユーザ (定義する方法については必要に応じて Microsoft SQL ドキュメントを確認してください) を入力するか、「Windows Authentication」を使用するためにチェックボックスをオンにします。「Windows Authentication」を使用する場合、設定したユーザに SQL データベースの作成と変更するためのアクセス権が与えられていることを確認してください。この手順には「Windows Authentication」をお勧めします。
- **Database Admin User** - データベース用の管理者ユーザを設定する (事前設定値を使用している場合、データを記録) か、Windows アカウントを使用します。

すべてのフィールドへの入力の完了後、「Initialize database and start services」をクリックします。グリッドが初期化されシステムの準備が完了すると、使用可能になった新しい機能 (例:(Launch Admin UI、Stop Service など) が Configuration Tool に表示されます。

管理コンソール

Connect Web ベース管理コンソールを起動するには、「Launch Admin UI」ボタンをクリックします (コンソールはシステムのデフォルトのブラウザを使用して起動されます)



新規グリッドの作成時に使用した管理者アカウントで管理コンソールへログインします。管理コンソールは次の URL を使用して直接起動することもできます:

<https://<サーバアドレス>:8022/Admin>

ConnectCLI を使用する

付属する ConnectCLI ツールを使用して、コマンド・ライン・パラメータ経由で Ericom Connect の設定を実行することも可能です。ConnectCLI ツールを使用するには:

- Windows のコマンド・プロンプト (cmd.exe) を開きます
- 「< Ericom Connect へのパス >Ericom Connect Configuration Tool」に移動します
- 「ConnectCLI リファレンス」のセクションに記載されているパラメータを使用して ConnectCLI.exe を実行します。

- ConnectCLI を実行するには、Ericom Connect の管理者ログインが必要です (各コマンドの実行時に管理者の資格情報が要求されます)

このツールは、以下の「インストール後」セクションの機能を設定するために使用します。

ESG の設定

ESG では、443 ポートがデフォルトで使用されています。デフォルトのポートを変更するには、「サービス」に移動して「ESG サービス」編集ボタン (歯車アイコン) をクリックするか、個別の ESG をクリックして選択します。「設定 | ネットワーク | 保護されたポート」からポート値を変更します。

ConnectCLI を使用して ESG を設定することもできます: 例えば、ポートを 8443 に設定する場合、次を実行します:

```
ConnectCLI EsgConfig common Network$SecuredPort=8443
```

AccessNow セッション向けに HTTP フォールバック・プロトコルを有効化するには、以下のように設定します (接続に Websocket が利用可能でない場合、HTTPS が使用されます):

```
ConnectCLI esgconfig common Sessions$Gateway$Http$Enabled=true
```

証明書の設定

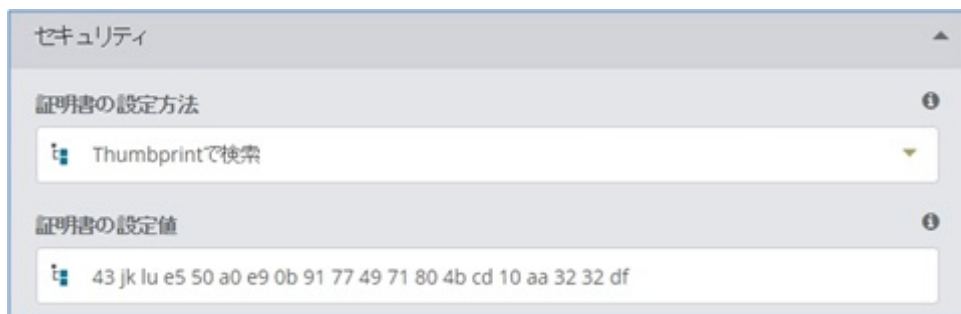
管理コンソールまたは ConnectCLI コマンドを使用して Ericom Connect で証明書を設定できます。

管理用 GUI

「接続サービス」へ移動し、対象サービスの設定ボタン (歯車のアイコン) をクリックします。サーバ名の隣にある設定ボタンをクリックして、サーバ・レベルで証明書を設定できます。または、サービス・レベル (例: ESG サービス) の設定ボタンをクリックし、グローバル・レベルで設定することも可能です。



証明書の設定に移動し、「証明書の設定方法」および「証明書の設定値」を設定します。



ConnectCLI を使用した方法

以下の ConnectCLI コマンドを使用して、システムの証明書を設定します:

- 使用可能な証明書の一覧を確認する (この一覧に表示される証明書のみが使用できます):

ConnectCLI ConfigureCertificates

ESG 用の証明書を設定 (外部アクセス用):

- `ConnectCLI ConfigureCertificates /noaws /esg /noeuws FindByThumbPrint <thumbprint>`

ESG(内部アクセス用) を使用しない Admin Web Service および End User Web サービス 用の証明書の設定:

- `ConnectCLI ConfigureCertificates /aws /noesg /euws FindByThumbPrint <thumbprint>`

設定する証明書は各サーバの名前と一致させる必要があります。証明書はシステム上に「エクスポート可能」としてインストールする必要があります。ワイルドカード証明書がサポートされています。EsgHostAddress に IP アドレスを設定する際は注意してください。アドレスが設定した証明書と一致しない場合、ブラウザによりクロスドメイン (CORS) の問題として処理され、接続が許可されません。

管理者ユーザの追加

管理コンソールを使用して管理者を追加することができます。「設定 (またはテナント) | 役割」に移動し、既存の管理者レベルの役割にユーザを追加するか、希望する管理者権限を持つ新たな役割を作成します。



ConnectCLI を使用して管理者を追加することもできます:

- ConnectCLI AdminUsers add <user または group> <ドメイン> <ユーザまたはグループ名>
- 例: ConnectCLI AdminUsers add user test.local admin@test.local

ドメインの追加

Ericom Connect では、複数ドメインの使用がサポートされています。Active Directory ドメインを個別のビジネス・ユニットや顧客で使用している場合に使用されることがあります。Active Directory ドメインを追加するには、次の ConnectCLI コマンドを使用します:

ConnectCLI ActiveDirectories add **test.local**

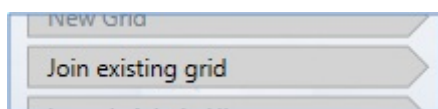
(「test.local」には追加するドメイン名を入力します)

ホスト・システムの追加

グリッドにサーバやワークステーションを追加するには、対象とするシステムに Ericom RemoteAgent MSI をインストールします。RemoteAgent には以下の 2 つのタイプがあります:

- RemoteAgent (x64) - すべての x64 Windows オペレーティング・システムで使用します (Windows 2008R2 Server 以上、または Windows7 x64 以上)
- RemoteAgent (32 64) - すべての 32 bit Windows オペレーティング・システムおよび Windows 2008R2 と Windows 7 以前の x64 Windows オペレーティング・システムで使用します。
- RemoteAgent for Linux – Ubuntu Linux 14.04.3 以降を実行しているシステムではこちらを使用してください。Linux の機能の詳細については、展開ガイドの Linux のセクションを参照してください。

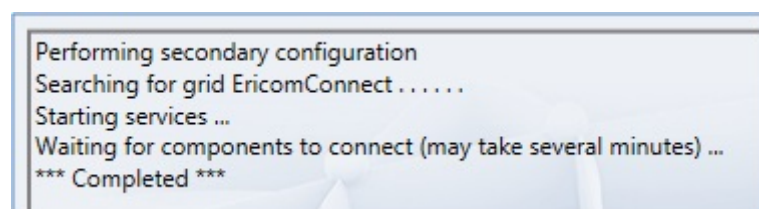
エージェントのインストールが完了すると、Ericom Connect Configuration Tool が起動されます。「Join existing grid」をクリックしてシステムを Connect グリッドへ追加します。



Connect グリッドの詳細を入力します。

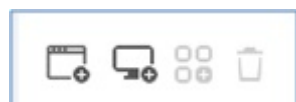
Grid Name	<input type="text" value="EricomConnect777"/>
My Host or IP	<input type="text" value="10.0.0.5"/>
Lookup Service Hosts	<input type="text" value="10.0.0.4"/>
Tenant Info	<input type="text"/>

「OK」をクリックし、グリッドへの登録を開始します。このプロセスは、約4～8分かかる場合があります。



アプリケーションとデスクトップの公開

まず管理コンソールのナビゲーション・パネルで「公開」をクリックします。「リソース」を選択し、「アプリケーション追加」または「デスクトップ追加」を選択します。



アプリケーションを公開するには、完全なパスを入力するか、対象のサーバ上をクリックして、スタートメニューから一つを選択します。リソースを公開すると、自動的に「All Resources」という名前の「公開」グループに割り当てられます。デフォルトでは、「All Resources」グループにはユーザやグループが割り当てられていません。所有者を割り当てるには、「基本」タブでグループのリンクをクリックします。

Active Directory ユーザまたはグループの割り当て

割り当てを行うリソースを選択します。リソースの「詳細」パネル(基本タブ)から、希望する「公開」グループをクリックします:

基本 詳細 要件

アイコン ⓘ

有効化 ⓘ
はい

リソース名 ⓘ
Desktop

説明 ⓘ

Active Directory属性アドレス ⓘ

デスクトップショートカットアイコン ⓘ
いいえ

スタートメニュー・ショートカット・アイコン ⓘ
いいえ

アイコンを隠す ⓘ
いいえ

一意の識別子 ⓘ
ea302466-e4ce-4f6d-ae67-76ce5671c540

リソースグループ ⓘ

- All Resources
- Both


このアクションにより、選択したグループの「プロパティ」に移動します。「ユーザ」タブを選択し、「Active Directory オブジェクトを追加」をクリックし、AD ユーザやグループ・オブジェクト、または「Everyone」をグループに割り当てます。初期状態では、各グループにオブジェクト割り当てられていません。「Everyone」を使用すると、システムへの接続を許可されているすべてのユーザにリソースが割り当てられます。

基本 リソース 詳細 ユーザ システム

名前	タイプ	ドメイン	プロパティ
Everyone	すべて		⚙️

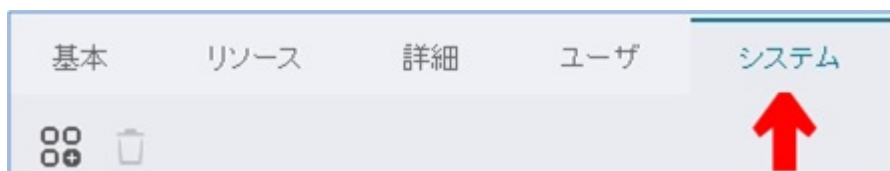
10 行(表示) 1行中 1/1

「公開」グループにリソースが割り当てられ、「公開」グループがユーザ（またはユーザのグループ）に割り当てられると、使用可能になります。すべての「公開」グループにはデフォルトで全システムが割り当てられます（「システム」グループ「All remote hosts for Root」が割り当てられます）。

<input type="checkbox"/>	グループ名
<input type="checkbox"/>	All remote hosts for Root 

「システム」グループの割り当て

「公開」グループの所有権を割り当てた後、「システム」タブをクリックします。このリソースの起動用に利用可能とするサーバとデスクトップを割り当てるために、「システム」グループを追加します。各サーバとデスクトップは、エンドユーザがアクセスできるように、「公開」グループのメンバーにする必要があります。



追加されたすべてのサーバとデスクトップは、自動的にビルトインのグループ「All remote hosts for Root」に追加されます。利用可能な「システム」グループを「公開」グループに追加するには、「システムグループを追加」をクリックします。



選択した「システム」グループを「公開」グループから削除するには、「システムグループを削除」をクリックします。

接続のテスト

Connect 環境が構成されると、エンドユーザ側のテストの準備ができた状態になります。サポートされている Ericom エンドユーザ・アクセス方法をテストする前に、管理コンソールの「システムヘルス」を参照し、すべてのシステムが正常 (赤いステータスではない) ことを確認してください。Ericom Connect に含まれる 3 つのエンドユーザ・アクセス方法で Ericom Connect をテストするには「エンドユーザ ガイド」を参照してください: AccessPortal、AccessPad、および AccessToGo。

■ ConnectCLI リファレンス

Ericom Connect CLI は、一部の特徴と機能を設定するためのコマンド・ライン・インターフェースを提供します。ConnectCLI へのデフォルトのパスは次のとおりです: 「< Ericom Connect へのパス>Ericom Connect Configuration Tool」 Ericom Connect の一部の設定と機能は、コマンド・ライン・ツール「ConnectCLI.exe」以外からは設定できません。一部の ConnectCLI コマンドは、実行前に Ericom Connect 管理者の認証を必要とします。これは、セキュリティ上の理由のための設計です。便宜上、以下のコマンド・ライン・セッションを使用して Ericom Connect 管理者資格情報をコマンド・ライン・セッションに保存します。これにより、複数のコマンドを実行する際に再入力する必要がなくなります。

- set EC_ADMIN_USER=<admin user>
- set EC_ADMIN_PASSWORD=<admin password>

基本的な使用方法

ConnectCLI <コマンド名> [/オプション値] … [引数 …] - 各コマンドでは、異なるオプションと引数のセットを使用可能です。

ConnectCLI /? - 使用可能なすべてのコマンドを一覧表示します。

ConnectCLI /?? 変数、引数などを含むより詳細な形式で、使用可能なコマンドを一覧表示します。

ConnectCLI /? and /?? 7.6.0 以降のバージョンでは、ConnectCLI /? および /?? にオプションの検索文字列を使用することが可能です。

例: ConnectCLI /?remote は、文字列「remote」を含むすべてのコマンドを返します。

ConnectCLI コマンド名 /? - 特定のコマンドの詳細を表示します。

ほとんどのコマンドで、Connect の管理者の資格情報やグリッド名が必要です。これらをオプションとして渡すために、環境変数を使用します。オプション名と、対応する環境変数は以下のとおりです:

- /adminUser <ユーザ名> EC_ADMIN_USER
- /adminPassword <パスワード> EC_ADMIN_PASSWORD
- /gridName <グリッド名> EC_GRID_NAME (使用中のコンピュータに Connect component がインストールされている場合、設定済みのグリッド名がデフォルトで使用されます)

コマンド名とオプション名では大文字と小文字は区別されません。 オプション名は、一意のプレフィックスを使用して短縮できます。例えば、オプション「/adminUser」と「/adminPassword」では、「/adminU」や「/adminUser」 または「/adminUs」を使用できます。オプション名「/admin」は、一意のプレフィックスではないため使用できません。資格情報が要求される状態において指定されていない場合、各 ConnectCLI コマンドでプロンプトが表示されます。バージョン 8.2 以降では、オプション前または後にサブオプションをセットすることができます。例えば、次のコマンドはどちらも同じ機能を実行します。

- ConnectCli ActiveDirectories /opt1 val1 /opt2 add foo.com
- [8.2 以降] ConnectCli ActiveDirectories add /opt1 val1 /opt2 foo.com

システム構成

ConnectCLI Version - Ericom Connect のバージョンが表示されます

ConnectCLI SystemConfig - システム構成のパラメータを確認または設定します。 引数なしの場合、すべての設定が表示されます。 引数を指定すると、指定した値にプロパティが設定されます。

ConnectCLI SystemConfig プロパティ=値 - 1 つまたは複数の構成パラメータを設定します。

ConnectCLI SecondarySystemConfig - セカンダリ構成パラメータの確認または設定に使用します (通常は使用しません)。引数なしの場合、すべての設定が表示されます。 引数を指定すると、指定した値にプロパティが設定されます。

ConnectCLI ConnectionConfig - 共通接続 (Blaze ファイル) オプションを設定または表示します。 これは、このパラメータを上書きしていないすべてのリソースとグループに影響します。

ConnectCLI BindingConfig - 共通のバインド (制限) オプションの設定または確認を行います。 これは、このパラメータを上書きしていないすべてのリソースとグループに影響します。

ConnectCLI radiusConfig - 2 要素 RADIUS 設定のパラメータを設定または確認します。

グリッド・コンポーネントの構成

ConnectCLI EuwsConfig - インスタンスの一覧表示、一般的な設定の表示と確認、インスタンス構成パラメータの確認と設定を行います。

ConnectCLI EuwsConfig List - 現在実行中のすべてのエンドユーザ Web サービスを一覧表示します。ここでの「ID」は、インスタンス構成の取得/設定に使用されます。

ConnectCLI EuwsConfig Common - インスタンスで上書きされていない場合には、すべての EUWS に適用されている共通の構成パラメータが表示されます。

ConnectCLI EuwsConfig common プロパティ=値- 1 つまたは複数の一般的な構成パラメータを設定します。

ConnectCLI EuwsConfig <id> - 特定の EUWS 用のインスタンス特有のプロパティが表示されます。EuwsConfig List コマンドでの ID を使用します。

ConnectCLI EuwsConfig <id> プロパティ=値 - 特定の EUWS 用の 1 つまたは複数のインスタンス特有のプロパティを設定します。EuwsConfig List コマンドでの ID を使用します。

ConnectCLI EsgConfig - インスタンスの一覧表示、共通設定の確認と設定、インスタンス構成パラメータの確認と設定を行います。

ConnectCLI AwsConfig - インスタンスの一覧表示、共通設定の確認と表示、インスタンス構成パラメータの確認と設定を行います。

ConnectCLI RemoteAgentConfig - インスタンスの一覧表示、共通設定の確認と表示、インスタンス構成パラメータの確認と設定を行います。

ConnectCLI GridInfo - 次の情報が表示されます: Business Logic components と Database Sync components(ミラー・サービス)、パーティションのステータス、バックアップの割り当て、コンテナ (GSC) のステータス。

出力のサンプル:

```
EriconConnectBusinessLogic Intact; Partitions=2; Backups=1; MaxInstancesPerMachine=0
EriconConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0
CONNECT3DBUM.corp.jlx3.com
  GSC 1
    EriconConnectBusinessLogic Patition 1 [Primary]
  GSC 2
    EriconConnectBusinessLogic Patition 2 [Primary]
  GSC 3
    EriconConnectBusinessLogic Patition 2 [Backup 1]
  GSC 4
    EriconConnectBusinessLogic Patition 1 [Backup 1]
  GSC 5
    EriconConnectMirrorService Patition 1 [Primary]
```

各マシンには、5つのコンテナがあります。 **ConnectCLI SetGridParameters** - グリッド・パラメータを設定するために使用します。新しいパラメータを定義する場合、指定した値が使用可能であるかどうかの検証がこのコマンドにより行われます。使用可能である場合、サンプルの展開が表示され、確認プロンプトが表示されます。

使用法:

```
ConnectCLI SetGridParameters #partitions #backups #gscPerMachine #maxInstPerMachine
```

式は次のようになっています:

(バックアップ数 + 1)* パーティション数 + 1 = コンテナ数 (コンテナ = GSC)

「SetGridParameters」を使用してシステムを構成した後、パーティションの値を変更した場合は、設定を有効にするためにすべてのグリッド・コンポーネントを再起動します。

「SetGridParameters」を使用してシステムを構成した後、バックアップの値を変更した場合は、設定を有効にするために全ての Business Logic Controller サーバを再起動します。

リモート・ホストの構成

オプションは、グリッド・コンポーネントの構成と同じです。

ConnectCLI RemoteHostConfig - インスタンスの一覧表示、共通設定の確認と表示、インスタンス構成パラメータの確認と設定を行います。例: **ConnectCLI RemoteHostConfig info <guid>** - ホストに関する追加情報を表示します。

ConnectCLI GetHostIdentifyingInfo - システム上で認識されているホスト名とアドレスを表示します。

ConnectCLI RemoteHostGroupMembers - 利用可能なシステム (ホスト) グループの一覧表示またはシステム・ホストの追加や削除を行います。

ConnectCLI RemoteHostGroups - システム (ホスト) グループの一覧表示、作成、削除を行います。

ConnectCLI SystemInfo <address> - Ericom Connect に登録されたすべてのシステム (ホスト) の詳細な仕様が表示されます。

ConnectCLI RemoteHostConfig common WebServerAddressList=https://<サーバ 1>:8044,https://<サーバ 2>:8066 - RemoteAgent Web サービス用に指定したアドレスを RemoteAgent が使用するよう設定します (Type 2 の RemoteAgent のみに適用)。これらの値をサーバ・サイドで設定すると、クライアント・サイドの設定は上書きされます。

高度な設定

ConnectCLI SetLogLevel - すべてのコンポーネント (Server、ESG、EUWS、AWS、RA) のログ・レベルを、指定したレベルに設定します。デフォルトのレベルは警告です。この設定は個々のコンポーネント設定コマンドで行うことができます。

ConnectCLI ConfigureCertificates - (現在のマシン上で) 利用可能なすべての証明書の表示、または ESG、EUWS、AWS 用の共通の証明書を設定します。設定は他のコマンドでも行うことができます。この設定により、すべてのインスタンスに対してグローバルな証明書を設定します。EsgConfig、EuwsConfig と AwsConfig コマンドを使用して、インスタンスごとに証明書を設定することも可能です。

ConnectCli ConfigureCertificates reset - デフォルトの自己署名証明書を使用するようにすべてのコンポーネントをリセットします。

ConnectCLI DeleteCertificates - ローカルの証明書ストアから証明書を削除します。

ConnectCLI DeleteConnectCertificates - システムからすべての Ericom 自己署名証明書を削除します。

ConnectCLI ImportReportDefinitions - 新しいレポート定義をインポートします。

ConnectCLI ServerSideTimings - サーバ・サイドのパフォーマンス・タイマーを表示します。

ConnectCLI EncryptSsoPassword - SSO インターフェースで使用するための暗号化されたパスワードを作成します。パラメータとしてパスワードを入力していない場合、プロンプトが表示されます。このコマンドには管理者の認証が必要です。引数: 暗号化するパスワードを入力します

ConnectCLI ImportLanguageFiles - 言語ファイルをインポートします。

ConnectCli TechnicalSupport [GetConfigurationProperties, SetAllServicesAsStopped, Queued-LogMessages, cbMonitor, expirePassword, changePassword,clearAutoDeletes, gridMonitor, multiVali-

date, dbgmon]

ConnectCLI technicalSupport dbgmon - すべてのデバック・メッセージを高度なデバックで使用するコンソール・ウィンドウに送信します。

アイコンの構成

ConnectCLI SetIcon - 公開済みのリソースにカスタム・アイコンを設定します。引数リストの形式は次のとおりです:

```
[/SaveIcon <ファイル名>] <FileWithIcon> [ <ResourceNameRegex> ]
```

FileWithIcon: (任意の拡張子を使用した) 任意のファイルのパス。ファイルのアイコン (Windows エクスプローラで表示されるアイコン) が一致したリソースと関連付けられています。

ResourceNameRegex: 設定するアプリケーション名にマッチする正規表現 (標準の Connect 式言語を使用)。ここでは、大文字と小文字が区別されます。正規表現に複数のアプリケーションがマッチする場合、それらが一覧表示され、確認が要求されます。

/SaveIcon <filename>: アイコンは指定されたファイル名で保存されます (拡張子は強制的に「.ico」になります)。これは、アイコンを常設として設定せずに、どのアイコンを使用するかを検証するために使用できます。テナントのアプリケーションのアイコンを設定するには、「/tenant」パラメータを追加します。例えば、次のコマンドにより、公開済みの「Browser」アプリケーションにおいて、テナント名「tenant1」のアイコン・ファイル「firefox2.ico」が使用されるよう設定します。

```
ConnectCLI SetIcon /tenant tenant1 c:firefox2.ico Browser
```

ライセンス

ConnectCLI GetLicenseInfo - Ericom に送信されライセンス発行に使用されるデータを生成します。

ConnectCLI ImportLicense - Ericom から受信したライセンスをシステムにインポートします。

エンドユーザ情報

ConnectCLI ResourceTree - ユーザが利用可能なすべてのアプリケーションが表示されます。

ConnectCLI LaunchAnalysis - ユーザがアプリケーションの起動を試行した際に何が発生するかが表示されます。

Active Directory の構成

ConnectCLI ActiveDirectories - エンドユーザに使用されている Active Directory のセットにおいて、管理者が一覧表示、追加、削除を行うことを許可します。

ConnectCLI ActiveDirectories list - 設定済みの Active Directory が一覧表示されます

ConnectCLI ActiveDirectories add test.local - 「test.local」AD を追加します

ConnectCLI ActiveDirectories remove test.local - 「test.local」 AD を削除します

ConnectCLI UserActiveDirectoryInfo user@test.local - Active Directory から「user@test.local」についての情報が表示されます。

ConnectCLI ActiveDirectories /nonStandardUpnSuffixes upntest.local modify test.local - 標準外の UPN サフィックスドメインを設定し、これらのドメイン・サフィックスでユーザがログインできるようにします。

例:**ConnectCLI ActiveDirectories /adUser mike@test.local /adPassword Hello1 add test.local** - adUser 「mike」を指定し、adPassword 「Hello1」を Ad 「test.local」へ追加します。より詳細な使用方法については、展開ガイドの Active Directory ConnectCLI の使用法のセクションを参照してください。

ConnectCli ActiveDirectoryOfflineTest - Ericom Connect サーバを使用せずに Active Directory で現在のセッションの資格情報をテストします。Active Directory の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

例えば、ユーザのデータを表示するには、次を実行します：

ConnectCli ActiveDirectoryOfflineTest <Domain> <User's FQDN> <Password> 実行すると、以下の情報が表示されます：

Information for corp.jlx751.com

MinPasswordLength = 0

MaxPasswordAgeDays = 42

LockoutThreshold = 0

Upn.Suffixes =

Information about userpan@corp.jlx751.com

GetStdLoginName: userpan@corp.jlx751.com

PrincipalName: userpan@corp.jlx751.com

SamAccountName: userpan

Name: userpan

AccountExpirationDate:

CannotChangePassword True

Last password set: 1/30/2017 9:04:56 PM

Enabled: True

Is Locked out: False

Account Lockout Time:

Bad Logon Count: 0

Pre-authentication analysis for userpan@corp.jlx751.com

Password never expires

ConnectCLI 管理者の資格情報の設定

ConnectCLI では、各実行に管理者の資格情報が必要となります。時間を節約するには、「set」を使用して、管理者の資格情報を環境変数として設定可能です。コマンドのサンプルは次のとおりです：

```
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool>set
```

```
ec_admin_user=john.doe@acme.com
```

```
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool>set
```

```
ec_admin_password=MyP@s$w0rd
```

テナント設定

ConnectCLI tenant /? – テナント設定に関連するすべてのコマンドが表示されます。

ConnectCLI tenant list – 設定済みのすべてのテナントが表示されます

ConnectCLI tenant /tenantUrlPrefix acme add company1 – 識別子「company1」とプレフィックス「acme」を使用して新しいテナントを作成します。プレフィックスは管理コンソールへのログインに使用され、テナントの URL として使用されます (例: acme.serviceprovider.com)。



ConnectCLI TenantConfig - テナント設定パラメータを表示または設定します。引数なしの場合、すべての設定が表示されます。引数を指定すると、指定した値にプロパティが設定されます。

ConnectCLI EndUserTenantReassign <user> <tenant> - 新しいテナント「<tenant>」に既存のユーザ「<user>」の再割り当てを行います。

ConnectCLI ActiveDirectories /tenant TenantA add company1.com - Active Directory「company1.com」をテナント「TenantA」に割り当てます。

切断されたサービス・コンポーネントのマーク

サービス・コンポーネントの一覧を表示するには次を実行します:

ConnectCLI Services list - 「切断」のためのコンタクトを失ったすべてのサービスをマークするには次を実行します:

ConnectCLI Services cleanup PermanentlyDisconnected (or TemporarilyDisconnected) - サービスを切断された状態に設定します。このコマンドは「接続不可」状態のものだけが設定され、停止しているサービスへの設定は行われません。バージョン 7.5 で非推奨のコマンド (上記のコマンドを使用してください):

ConnectCLI AwsConfig|EuwsConfig|EsgConfig|BLServiceConfig|RemoteAgentConfig list

ConnectCLI StandaloneServerSetState PermanentlyDisconnected id1 id2 ...

RemoteAgent を切断する

RemoteAgent(サーバおよびワークステーション)の一覧を表示するには次を実行します:

ConnectCLI Systems list - 「切断」するためのコンタクトを失ったすべての RemoteAgent をマークするには、次を実行します:

ConnectCLI Systems cleanup PermanentlyDisconnected (または TemporarilyDisconnected)

バージョン 7.5 で非推奨のコマンド (上記のコマンドを使用してください):

ConnectCLI RemoteAgentConfig の一覧

ConnectCLI RemoteHostSetState PermanentlyDisconnected id1 id2 ...

SQL データベースのバックアップ/リストア

データベースをバックアップするには次を使用します

ConnectCLI BackupDatabase /databaseServer <サーバ名> /databaseName <DB 名> [/databaseUser <ユーザ>] [/databasePassword] /noconfirm backupFileName.bak

データベースをリストアするには次を使用します:

ConnectCLI RestoreDatabase /databaseServer <サーバ名> /databaseName <DB 名> [/databaseUser <ユーザ>] [/databasePassword] /noconfirm backupFileName.bak

この 2 つのコマンドは、「backupFileName」にコピーを保存することで SQL Server データベースのバックアップ/リストアを行います。「/databaseServer」と「/databaseName」を指定する必要があります。「/databaseUser」を指定していない場合、データベースへの接続時に Windows 認証が使用されます。/noconfirm が指定されていない場合、既存のバックアップ・ファイルまたはデータベースを上書きする前に、確認が要求されます。

- バックアップ・ファイルを保存する場所が必要です。
- システムの実行中にバックアップが実行される場合があります。

- 万が一バックアップ作業中にエラーが発生した場合でも、稼働中のデータベースは影響を受けず、データは失われません。その場合はもう一度バックアップ作業を試みます。

これらの作業を問題なく実施するために、データベースで SQL コマンド「backup database」がサポートされている必要があります。これは SQL Server と SQL Server Express に該当し、クラウド・ベースの Amazon と Azure SQL のプロバイダには該当しません。さらに、現在のユーザがデータベースのバックアップ・ディレクトリへのアクセス権を持っている必要があります。

通常、ディレクトリは次のようになります:

```
「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.MSSQLSERVER\MSSQLBackup」
```

サーバがリモート・マシン上にある場合、ユーザが UNC パス経由でのディレクトリへのアクセス権を持つ必要があります。例えば次のようになります:

```
\\サーバ\C$\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.MSSQLSERVER\MSSQLBackup
```

リストアは 2 つ方法のいずれかで実行できます。

- データベースが破損し、同一のデータベース・サーバとデータベース名でバックアップからリストアする必要がある場合:
 - すべての Connect グリッドのサービスを停止します
 - データベースをリストアします
 - サービスを起動します
- データベースは、再配置または名前の変更が行われた状態になります
 - すべてのグリッド・マシンで「Disconnect from Grid(グリッドからの切断)」を実行します
 - 「Redeploy(再展開)」を実行します
 - いかなる状況でも、実行中の Connect システムに対してはリストアを実行しないでください。実行した場合、システムが破損する可能性があります。

リストア作業中にエラーが発生した場合、データベースが破損します。この事態が発生した場合、破損したデータベースを削除し、リストア作業を再度試行してください。

古いデータベースのデータを消去する

ConnectCLI コマンドを使用して、指定したデータ以前のログメッセージを削除することができます。デフォルトの期間は 90 日間です。以下の 2 つのコマンドを使用できます:

ConnectCli DeleteOldLogMessages [オプション]*

ConnectCli DeleteOldLogMessagesDb [オプション]*

DeleteOldLogMessages は、Connect サーバからデータベース接続情報を取得します。DeleteOldLogMessagesDb は、コマンド・ラインからそれを実行します。メッセージが削除されると、データベースの容量が圧縮されます。オプションの一覧を確認するには、/? を使用します。デフォルトでは、レポートレベルでのログメッセージは、レポート機能を維持するために削除されません。バージョン 8.2 ホットフィックスでは、batchSize パラメータが追加されました。以前は DeleteOldLogMessages で終日分のメッセージが削除されました。現在では、最大で「batchSize」件のメッセージが一度に削除されます。そのため、その 1 日に多くのメッセージが存在する場合、その日について複数回の削除が行われます。デフォルト値は 10,000 です。ConnectCLI コマンドを使用して、指定したデータ以前のデータベース・セッション・データを削除することができます。デフォルトの期間は 90 日間です。以下の 2 つのコマンドを使用できます:

ConnectCli DeleteOldSessions [オプション] *

ConnectCli DeleteOldSessionsDb [オプション] *

DeleteOldSessions は Connect サーバから DB 接続情報を取得します。DeleteOldSessionsDb は、コマンド・ラインからそれを実行します。これにより、いくつかのテーブルが消去されます。オプションの一覧を確認するには、/? を使用します。

ライセンスのリカバリ

オフラインの Ericom Connect システムにライセンスをインポートすることが可能です。これにより、異なるグリッド名および Active Directory を持つライセンスを設定できます。

ライセンス要求のデータを生成するには -

ConnectCLI GetLicenseInfoRecovery gridName domainName outputFile.xml

ライセンスをインポートするには -

```
ConnectCLI InstallLicenseRecovery /databaseServer <DB サーバ> /databaseName <DB 名> [/DatabaseUser user] [/DatabasePassword pwd] license.xml
```

管理者ユーザを追加するには -

```
ConnectCLI AddAdminRecovery /databaseServer < DB サーバ> /databaseName <DB 名> [/DatabaseUser user] [/DatabasePassword pwd] license.xml newAdminUser [password]
```

パスワードはアカウントの検証に使用され、保存はされません。

デスクトップのタイトル・ラベルを変更する

デスクトップ・セッションのタイトル・バーに含まれるラベル・テキストを変更する (IP アドレス、Blaze クライアント・ラベル、アクセラレーション・ラベルを入れ替える) には、次のコマンドを使用します:

```
ConnectCli ConnectionConfig title="Custom Title Label"
```



使用法: **ConnectCLI ConnectionConfig** [オプション]* [prop=val or prop=@filename] ...

共通接続 (Blaze ファイル) のオプションを設定または確認します。これは、このパラメータを上書きしていないすべてのリソースとグループに影響します。

```
/adminUser <string> [ ] ユーザ名 (env = EC_ADMIN_USER)
```

```
/adminPassword <string> [ ] パスワード (env = EC_ADMIN_PASSWORD)
```

```
/tenant <string> [rooturl] テナント (env = EC_ADMIN_TENANT)
```

```
/gridName <string> [ECPRE1a] 使用するグリッド名 - (EC_GRID_NAME)
```

`/locators <string> [10.0.0.12:4174]` グリッドを探すために使用する場所

`/[no]ShowInheritance [False]`

`/[no]techSupport [False]` より詳細な情報は、テクニカル・サポートまでお問い合わせください。

データベースからメッセージ・ログ取得する

使用法: **ConnectCLI GetMessageLogRecovery [options]* numberMessages outputFile-Name.xlsx**

最後の *n* 個のログ・メッセージを取得し、出力ファイルに保存する

`/DatabaseServer <string>`

`/DatabaseName <string>`

`/DatabaseUser <string>`

`/DatabasePassword <string>`

`/priorityAtLeast <prioritylevel>` 最小優先度レベル

`/priorityAtMost <prioritylevel>` 最大優先度レベル

`/[no]techSupport` より詳細な情報は、テクニカル・サポートまでお問い合わせください。

`/from <dateTime>`

`/to <dateTime>`

例: **ConnectCli GetMessageLogRecovery /DatabaseServer mysql.acme.com /DatabaseName EricomConnect /DatabaseUser sa /DatabasePassword Abc123 100 LogOutput.xlsx**

■ ライセンス

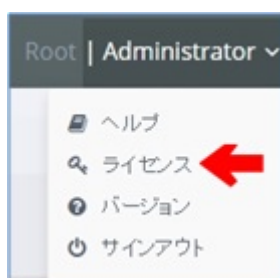
各 Connect グリッドでは、30 日間、50 同時ユーザの評価版ライセンスが提供されます。イニシャル・ライセンス情報の抽出と新しいライセンスのインポートは、管理 GUI または ConnectCLI コマンドを使用して実行できます。追加のグリッドの実装 (例:テスト用) には、別のライセンスが必要になります (こちらについては、Ericom の担当者までお問い合わせください)。公開済みのリソースを Connect 経由で起動する際、ライセンスが利用可能である必要があります。Connect を介して開始されるすべてのリモート・セッション (新規または再接続) は、このライセンスの下でユーザとしてカウントされます。ポータル・セッション (AccessPortal、AccessPad、AccessToGo) のログインはライセンスとしてカウントされず、それらから起動されたリソースのみがカウントされます。

管理コンソールでのアクティベーション

アクティベーションまたは延長のために Ericom にイニシャル・キーを送信するには:

- 管理コンソールにログインします

- 「設定」 | 「ライセンス」 に移動



以下のウィンドウが表示されます:

ライセンス
✕

Number of Licenses

Expiration Date

Initial XML ⓘ

```

<SiteLicenseInfo>
<CreationDateUtc>2017-01-04T05:15:34.6195040Z</CreationDateUtc>
<ActiveDirectoryName>cvtest.local</ActiveDirectoryName>
<GridName>941EC76GA1</GridName>
<SiteKey>bfd06077-a4d1-46d1-ad5a-2343b81bc52b</SiteKey>
</SiteLicenseInfo>

```

コピー

Activation XML ⓘ

```

<License>
<Restriction>
<LicenseType>Issued</LicenseType>
<EditionType>Enterprise</EditionType>
<Mechanism>ConcurrentUser</Mechanism>
<GridName>941EC76GA1</GridName>
<ActiveDirectoryName>cvtest.local</ActiveDirectoryName>
<ExpirationDate>2017-03-14T22:00:00.0000000Z</ExpirationDate>

```

アクティベート
キャンセル

- 「Initial XML」 をコピーして Ericom に送信します
- Ericom が新しいキーを生成します。キーを表示ウィンドウの下部のセクションにコピーし、「アクティベート」を押します。これで、新しいライセンスが有効になります。

ConnectCLI でのアクティベーション

アクティベーションまたは延長を ConnectCLI を使用して実行することが可能です:

- 「ConnectCLI GetLicenseInfo >info.xml」を実行します
- 「info.xml」ファイルを Ericom に送信します。
- Ericom が新しいキーを生成し、「license.xml」という名前のファイルでライセンスが返信されます。

Ericom からライセンス・ファイルを受け取り、そのファイルをシステムにインポートします。ライセンスの内容は以下の構造となっています:

```
<License>
  <Restriction>
    <LicenseType>string</LicenseType>
    <EditionType>string</EditionType>
    <GridName>string</GridName>
    <ActiveDirectoryName>string</ActiveDirectoryName>
    <ExpirationDate> string</ExpirationDate>
    <MaintenanceExpirationDate>string</MaintenanceExpirationDate>
    <NumberOfSessions>number</NumberOfSessions>
    <Id>string</Id>
  </Restriction>
  <Signature>string</Signature>
</License>
```

ファイルを受け取ったら、次の ConnectCLI コマンドを実行してライセンスをインポートします:

「ConnectCLI ImportLicense <license.xml へのパス>」

入手可能なエディション

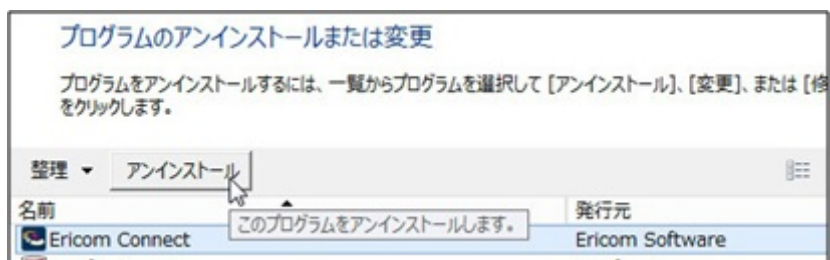
Ericom Connect は様々なエディションが入手可能です。Ericom Web サイトの表を使用して、エディションの違いを参照してください: <http://www.ericom.com/connect-feature-matrix.asp> カスタムの機能セットも入手可能です。詳細については、Ericom の販売代理店にお問い合わせください。

Connect に含まれる AccessNow と Blaze

Ericom Connect のライセンスには、Ericom AccessNow HTML5 と Blaze アクセラレーションのテクノロジーが含まれています。これらのテクノロジーを使用するために追加コストは必要ありません。

■ Connect のアンインストール

Ericom Connect Configuration Tool を起動して、グリッドから切断します。 ツールを終了し、システムの「プログラムの追加と削除」機能を使用して Connect をアンインストールします。



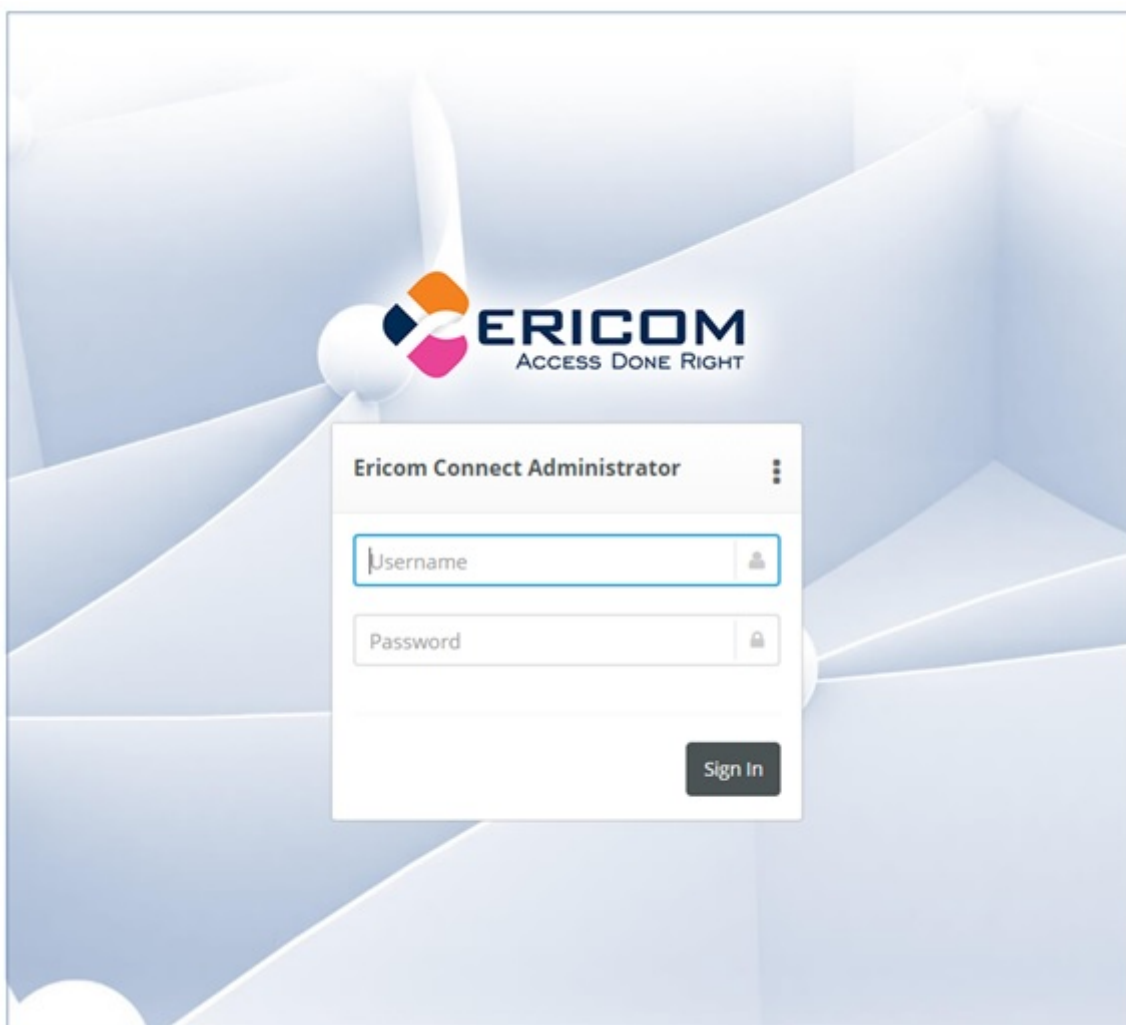
8.1.2 管理コンソールの使用方法

管理コンソールへのサインイン

Web ベースの管理コンソールを起動するには、以下の方法があります：

- Ericom Connect Configuration Tool を起動し、メイン・メニューから「Launch Admin UI」を押します。
- 次の URL を使用します: <https://サーバアドレス:8022/Admin/>

管理コンソールへサインインするための初期アクセス権は、グリッド作成用に設定された管理者ユーザに付与されます。

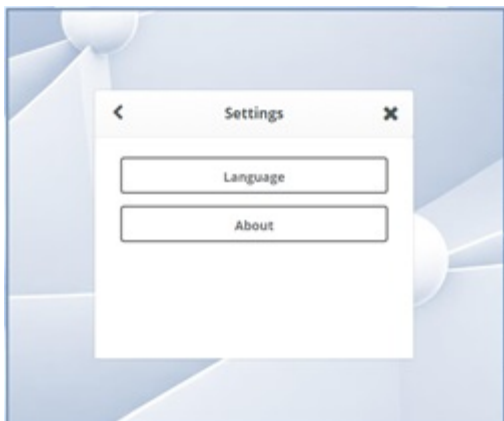


Web インターフェースは、水平解像度 1366 ピクセルに最適化されています。バージョン 7.6 以前の Ericom Connect ユーザは、次のアドレスに移動して旧バージョンの管理コンソールにアクセスできます：

<https://<サーバアドレス>:8022/Admin/classic.html>

ユーザ・インターフェース言語の選択

管理コンソールのユーザ・インターフェース言語を変更するには、右上のコンテキスト・メニューをクリックして、設定画面を開きます:



言語オプションを選択します



一覧から目的の言語を選択すると、選択した言語がユーザ・インターフェースに使用されます。日本語を使用する例:



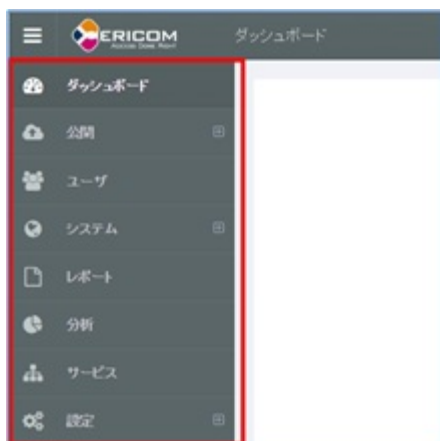


Ericom connect の一部のデフォルト・オブジェクトは英語で作成されており (例: 「All Resources」 や 「All Hosts group」) は翻訳されません。これらのテキストをローカル言語に変更するには、オブジェクトのプロパティに移動し、ローカル言語で任意のテキストを入力します。

管理コンソールを使用する

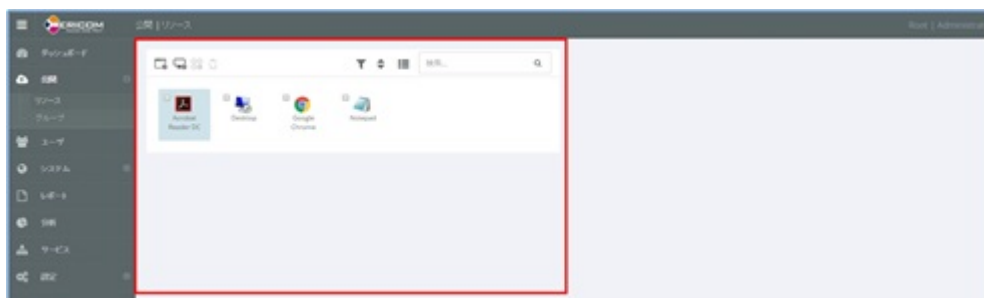
この Web ベースの管理コンソールは、以下のパネルで構成されています:

ナビゲーション・パネル



ナビゲーション・パネルはコンソールの左端にあります。このパネルでは、管理コンソールで使用可能なカテゴリや機能が表示されます。カテゴリの中には、サブ・セクションが含まれていることを示す小さな矢印が右側に表示されるものがあります。カテゴリ名を押して展開すると、サブ・セクションが表示されます。もう一度押すと、サブ・セクションの一覧が閉じます。垂直解像度が低いモニタでは、スクロール・バーが表示されます。

プライマリ・パネル



このパネルはコンソールの中央エリアにあります。このパネルでは、選択したカテゴリに関連する高度な情報および設定が表示されます。一部のカテゴリ (例えば「ダッシュボード」) では、「プライマリ」パネルはワイドに表示され、その他のカテゴリ (例えば「リソース」) では、「詳細」パネルが「プライマリ」パネルに含まれます。

「詳細」パネル



このパネルは、一部のカテゴリでコンソールの右側に表示されます。表示される場合、このパネルには「プライマリ」パネルで選択したアイテムの追加情報および設定機能が含まれます。

一覧オブジェクトの展開と折りたたみ

管理コンソールの一部のオブジェクトは、関連付けられた矢印アイコンをクリックして、展開または折りたたむことができます。通常このようなオブジェクトは、同一カテゴリの追加オブジェクトの一覧です。



「展開」 - 現在は折りたたまれた状態で、内容のオブジェクトは非表示となっています。内容の追加オブジェクトを表示するには、アイコンをクリックして「展開」モードに入ります。

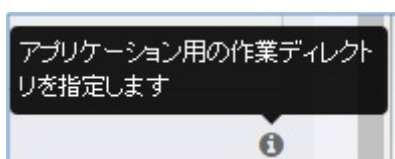


「折りたたみ」 - 現在は展開し、内容のすべてのオブジェクトが表示されています。内容のオブジェクトを非表示にするには、アイコンをクリックして「折りたたみ」モードに入ります。

ツールチップ (ツールヒント)

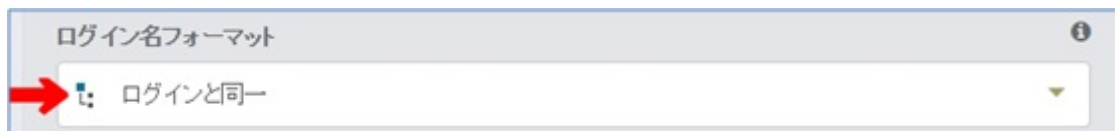


「詳細」パネルで一部の設定の上にマウス・カーソルを置くと、機能の目的や詳細な設定を説明するツールチップのメッセージが表示されます。



継承の切り替え

それぞれの設定には、別のレイヤーから値を継承できます。「継承の切り替え」ボタンを使用して、継承された値を継承するか「ローカル」値を設定するかを管理者が選択できます。Connect で継承を操作する方法の詳細については、「展開ガイド」の「継承階層」を参照してください。継承ボタンの例:

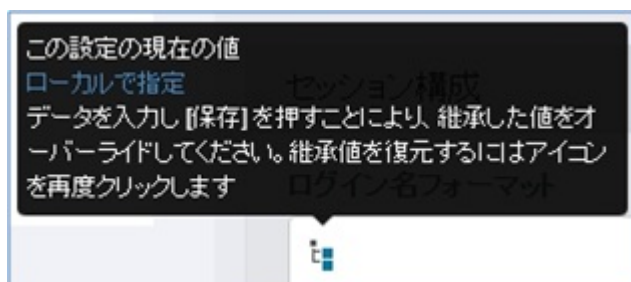


ローカル値の指定

対象の設定を構成し、ローカル値を使用するように「継承」ボタンを設定します:



ローカル値が使用されていることをツールチップから確認できます。

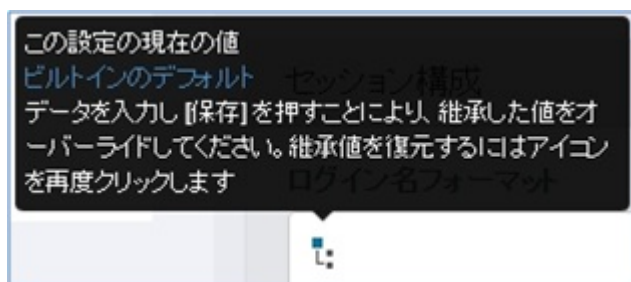


継承された値の使用

継承された値を使用するように「継承」ボタンを設定します:



継承された値が使用されていることをツールチップから確認できます。



ダッシュボード

「ダッシュボード」はウィジェットで構成されています。各ウィジェットには、システムの健全性、ユーザ・アクティビティおよびリモート・ホスト・データに関連する有用な情報が表示されます。

システムヘルス

このウィジェットは、Connect システムの健全性に関連する有用な情報を提供します。システムに問題がある場合、まずこの場所でエラーと警告を確認してください。ウィジェットには、以下のような多くのタイプの情報が含まれます：

- データベースステータス
- リッドステータス
- ログメッセージのキュー
- データベース使用量 (最大サイズ)
- RemoteAgent (Windows) バージョンステータス
- RemoteAgent (Linux) バージョンステータス
- アクティブ・セッション (Connect 以外のリモート・セッションは含まれていません)
- 切断済みセッション (Connect 以外のリモート・セッションは含まれていません)
- ライセンスステータス
- ライセンスの有効期限
- ターミナル・サーバ (数)
- デスクトップ (数)
- 公開アプリケーション (数)
- テナント

ターミナル (RDS) サーバとワークステーションの状態を監視するには、「システム」|「登録済み」に進みます。

ステータス・インジケータ

緑: 正常 - 通常動作

黄色: 動作可能警告 - 動作可能、ただし注意が必要です

赤: 早急な対応が必要です - 動作不可または切迫した問題があります。

インジケータ	測定基準
データベースの使用率	<p>緑: 0-74% の使用率 黄色: 75-89% の使用率 赤: 90-100% の使用率 インジケータなし: 不明</p> <p>75% では警告ログのみ。76% 以上では保存。 90% ではレポート・ログのみ。91% 以上では保存。 95% では監査ログのみ。96% 以上では保存。</p> <p>ログメッセージの優先順位は次のとおりです（最低から最高の順）: 冗長、デバッグ、情報、警告、エラー、レポート、深刻、監査。ユーザのセッション情報が常に保存されます。</p>
RemoteAgent (Windows のみ) のステータス	<p>緑: すべての Windows RA が最新です。 黄色: いずれかの Windows RA が v8.0 未満の場合。 赤: いずれかの Windows RA が v7.6.1 未満の場合。</p> <p>ホストが登録されていない場合、このインジケータは表示されません。</p>
RemoteAgent (Linux) のステータス	<p>緑: すべての Linux の RA が最新です。 黄: いずれかの Linux RA が 8.0 未満の場合</p>
	<p>赤: いずれかの Linux RA が 7.5.1.9573 未満の場合。 ホストが登録されて</p>

アクティブリソースのステータス

各リソースの以下のデータが表示されます:

- リソース名
- アクティブな接続セッション (Connect 経由で開始されたこのリソースのセッション数。Connect 以外の RDP セッション数を含みません)
- 切断状態

リソース名	アクティブな接続セッション	切断状態
Google Chrome	1	0
Notepad	0	1

最近のセッション

各セッションの次のデータが表示されます:

- サーバ名
- ユーザ名
- プリンシパル名
- アプリケーション
- ステータス
- 起動時間

サーバ名	ユーザ名	プリンシパル名	アプリケーション	ステータス	起動時間
ec76all1	user01	user01@cvtest.local	Notepad	アクティブ	Jan 04, 2017, 3:45:37 PM
ec76rdsw2k8r2-1	user03	user03@cvtest.local	Google Chrome	アクティブ	Jan 04, 2017, 3:45:10 PM
ec76all1	user01	user01@cvtest.local	Acrobat Reader DC	アクティブ	Jan 04, 2017, 3:43:45 PM

Connect ステータス

サーバが起動された日時が表示されます。

サーバ起動日時
Dec 28, 2016, 3:14:20 PM

Jan 04, 2017, 3:47:40 PM

リソース・サーバのステータス

各リモート・サーバとワークステーションの以下のデータが表示されます:

- システム名
- CPU(パーセント)
- メモリ
- すべてのセッションの合計 (Connect および Connect 以外のセッションが含まれます)

システム名	CPU	メモリ	セッション数
ec76all1	6%	4451413	2
ec76rdsw2k8r2-1	10%	1185230	1
941w2k16	18%	1793198	2

ユーザ

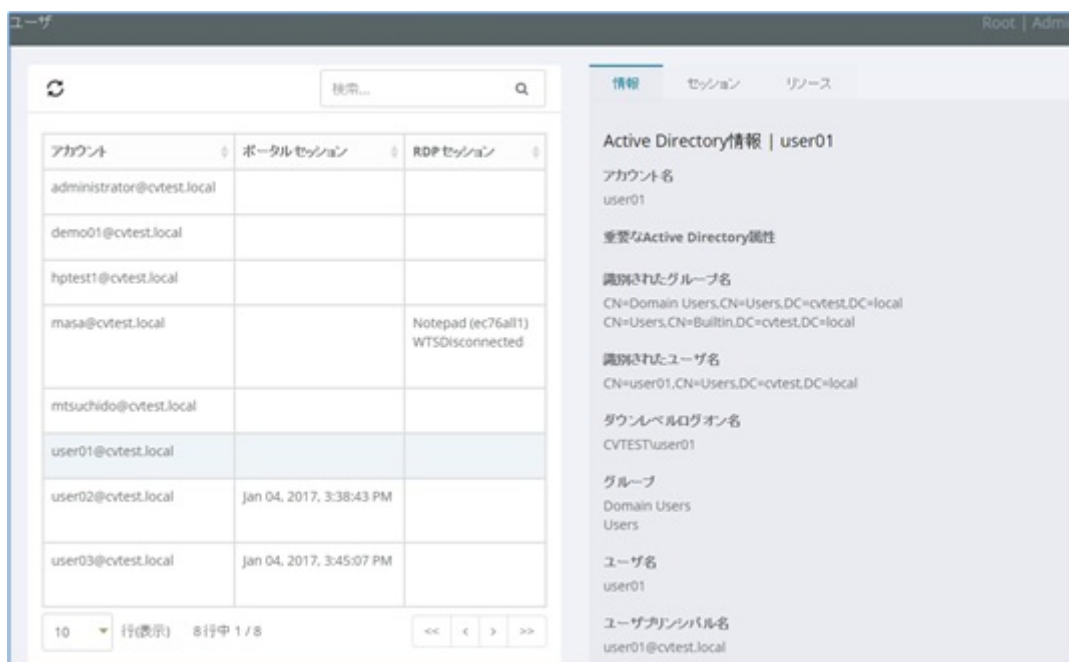
ユーザ・セッションには、Connect にログインしたすべてのユーザが表示されます。「プライマリ」パネルには、各ユーザが Portal と Connect で開始したアクティブな RDP セッションの一覧が表示されます。

アカウント

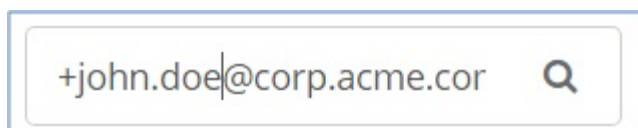
 ポータルセッション

 RDPセッション

詳細なユーザ・データを表示するには、ユーザ・アカウントをクリックします。関連する情報が詳細パネルに表示されます。



バージョン 8.0 以降では、手動でリストにユーザを追加することが可能です。手動でユーザを追加するには、ユーザーの完全修飾ドメイン名の先頭に記号「+」を付けたものを入力します。例:



情報

「詳細」パネルの中にあり、選択したユーザの以下の情報が表示されます:

- Active Directory 情報 - Active Directory から取得したユーザ・アカウントの詳細。

セッション

「詳細」パネルの中にあり、次の 2 つのセクションで構成されています: エンドユーザのセッション情報およびリモート セッションの情報。エンドユーザのセッション情報のセクションには、選択したユーザの各セッションについての以下の詳細が表示されます:

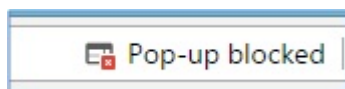
- エンドユーザのセッション詳細
- ESG 情報
- クライアント・アドレス
- ポータルの情報

リモート セッション情報のセクションには、選択したユーザのアクティブ・セッションと、各セッションに適用することが可能な操作が表示されます。アクティブ・セッションに対して操作を実行するには、目的のセッションを選択し、操作をクリックします。以下の操作が可能です:

- ログオフ
- 切断
- リセット
- メッセージの送信
- シャドウ（管理および閲覧オプション）



セッション・シャドウは、マイクロソフトのビルトイン・テクノロジーを利用して HTML5 を使用する際のシャドウイングを行う技術を提供します。これにより、管理者がエンドユーザのセッションを閲覧することが可能になります。管理者がセッションをシャドウイングする際には、ユーザのセッションをシャドウイングするための資格情報が必要です (例: ユーザのワークステーション上のローカル管理者権限)。ドメイン・アカウントを使用する場合、ユーザ名または FQDN にドメイン・プレフィックスを入力します。管理者セッションはブラウザの新規タブで開くため、セッションのシャドウイングを起動するためにポップアップ・ブロッカーを無効化する必要があります。



セッション・シャドウの動作には リモート・デスクトップ・セッション・ホスト (RDSH) が使用されます。RDS CAL が必要となる場合があります。RDSH ホスト上のセッションをシャドウイングする場合、管理者セッションは同じシステムから起動します。ワークステーションまたは VDI インスタンスでセッションをシャドウイングする場合、ランダムに選択された RDSH システムから管理者セッションが起動します。利用可能な RDSH システムが存在しない場合、シャドウ機能は失敗します。

リソース

「詳細」パネルの中にあり、選択したユーザに割り当てられたすべてのアプリケーションが表示されます。リソースの起動分析を開始するには、リソースをクリックします。

起動分析

エンドユーザの選択からリソースの起動までの接続プロセス全体をトレースします。このツールは、接続に関する問題の解決に役立ちます。



起動分析は、異なる Ericom Connect ポータルタイプを使用してシミュレートすることができます。目的のポータルのタイプを設定するには、次の場所へ移動します: 「設定 | 設定 | セカンダリ設定タブ | 起動分析のポータルタイプ」 (テナントユーザ向けは次の場所へ移動します: 「テナント」 | 「設定」 | 「設定タブ」 | 起動分析のポータルタイプ)

システム設定	セカンダリ設定	RADIUS
クライアントログインの有効化		
<input type="text" value="はい"/>		
「マイデスクトップ」用のActive Directoryの属性		
<input type="text"/>		
ワークステーションからの公開を許可		
<input type="text" value="いいえ"/>		
構成ファイル(Blaze)の署名		
<input type="text" value="いいえ"/>		
Blazeファイルの有効期限(秒)		
<input type="text" value="300"/>		
起動分析のポータルタイプ		
<input type="text" value="AccessPortal"/> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> AccessPortal <input type="radio"/> AccessPad <input type="radio"/> AccessToGo <input type="radio"/> AccessNow SSO <input type="radio"/> AccessPortal SSO 		

レポート

「レポート」セクションは、内部に格納されたデータに基づいたレポートを生成するために使用します。これは、すべての Connect サービスのアクティビティを詳細なレベルで監視する強力な機能です。

「カテゴリ」 - ソートに使用する高レベルの区分「レポート」 - 選択した「カテゴリ」に基づく詳細なエリア。使用可能なオプションは、選択した「カテゴリ」により異なります。



「デフォルト」ボタン - すべてのフィールドをリセットし、デフォルトに戻します



「CSV へエクスポート」ボタン - CSV 形式のファイルにレポート出力データを保存します。

「実行」ボタン - 設定したパラメータに基づいた新しいレポートを生成します。デフォルトでは出力は常に「タイムスタンプ」でソートされます。ソート条件として使用するには、1つの列のタブをクリックします(例:「優先度」)

「フィルタ」 - カスタム・レポートに表示される必要な情報を絞り込むために使用します。使用可能な「フィルタ」オプションは、選択された「カテゴリ」と「レポート」により異なります。



「結果」 - 設定した「カテゴリ」、「レポート」、「フィルタ」に基づいたデータの出力を表示します。

カテゴリ

システムヘルス (「システム構成」の役割が必要)

- エラー：一般的なシステムエラー
- 失敗したログイン：次を含むシステムへの失敗したログイン: 情報ユーザー名、タイムスタンプ、アクセスした URL、x-forwarded-for の値、およびソースのユーザ・アドレス。
- 同時ユーザライセンスの使用状況 (月ごと)：月ごとに集計した、アクティブなセッションを起動した一意の同時ユーザの最大数。
- ネームドユーザライセンスの使用状況 (月ごと)：月ごとに集計した、アクティブなセッションを起動した一意のネームド・ユーザの合計数。
- ライセンス使用状況：ライセンス数
- 時間別サービスステータス：サービスステータスのリスト

システムヘルス

- エラー
- 起動要求の有効期限

リソースバインディング

- リソースバインディングの失敗
- リソースバインディングの失敗
- ホストごとのリソースバインディング
- リソースバインディングの詳細

ユーザ

このカテゴリでは、エンドユーザおよびライセンス使用状況を追跡するための以下のレポートが使用可能です。

- エンドユーザ: ユーザのログイン回数、リモートセッションの回数、テナント名、初回ログイン時間を表示します
- エンドユーザセッション: セッション開始タイムスタンプ、ユーザプリンシパル名、ユーザ名、送信元 IP、セッション x-forwarded-for の値、セッション終了タイムスタンプ、セッション終了理由、起動したリモートセッション数、クライアントタイプ、クライアントバージョンを表示します。
- リモートセッション: ユーザのリモートセッションの詳細 (起動したアプリケーション名、サーバ名、セッション終了時間、セッション終了理由、再接続と切断の数) を表示します。
- リモートセッション (日ごと)
- 失敗したログイン: 失敗したログイン (ユーザ名、時間、エラー・メッセージ、テナントソース IP、x-forwarded-for の値、クライアントがアクセスした URL) を表示します。
- セッションの操作: ユーザ・セッションの管理アクションを追跡します: ログオフ、切断、リセット、メッセージ送信、セッション・シャドウイング

アプリケーション

このカテゴリでは、公開済みリソースの起動を追跡するための以下のレポートが使用可能です:

- トップアプリケーション - 起動されたすべてのアプリケーションを表示します。最もよく起動されたものが上部に表示されます。
- トップアプリケーション (日)
- トップアプリケーション (週)
- トップアプリケーション (月)
- トップアプリケーション (年)
- トップアプリケーション (曜日)

システム

このカテゴリでは、Connect サーバのモニタリング用に以下のレポートを利用できます (情報はサーバ名に基づいてフィルタされて表示されます):

- サーバごとの起動: 各リモートサーバホストの起動回数
- サーバログメッセージ: ログからの様々なテクニカルデータを表示します
- システム管理者のサーバログメッセージ

メンテナンス

このカテゴリでは、データベースの特性を追跡する以下のレポートを利用できます:

- テーブルサイズ: すべてのデータベーステーブルおよびそれらの容量の使用状況が表示されます
- データベース情報: SQL Server のバージョン、エディション、サーバ名、データベース名、最大サイズ、および現在のデータベースサイズ

テクニカル・サポート

このカテゴリでは、様々なタイプのログを追跡するために以下のレポートが使用可能です:

- すべてのログメッセージ (sysadmin)
- エラー (sysadmin)
- すべてのログメッセージ (tenant)
- メッセージタイプ
- ESG セッションログ

公開

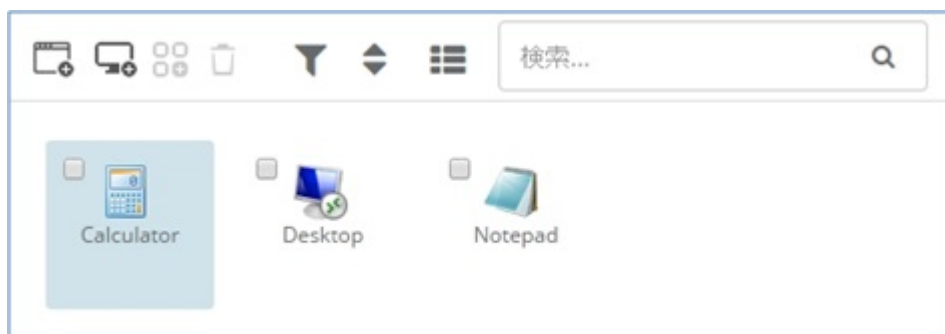
「公開」セクションは、公開アプリケーションとデスクトップ (リソースとも呼ばれます) の追加、削除および管理を行うために使用します。「プライマリ」パネルにリソースの一覧が表示されます。「詳細」パネルでは、現在の設定が表示され、継承された値を上書きできます。

リソース

「プライマリ」パネルには、「アプリケーション追加」、「デスクトップ追加」、「グループに追加」、「削除」の機能が表示されます。



リソースを追加すると、一覧エリアに表示されます。



アプリケーションやデスクトップを追加すると、自動的にデフォルトの「All Resources」グループに割り当てられます。リソースは「公開」グループにのみ割り当てが可能で、Active Directory オブジェクトへ直接割り当てることはできません。リソースを既存のグループまたは新しいグループに追加するには、「グループに追加」ボタンを選択します。

アプリケーションの追加

この機能を使用して、アプリケーションを選択するダイアログを開きます。以下のオプションがあります：

- 「サーバへの完全なアプリケーションのパスを入力」 - リモート・ホスト上のアプリケーションファイル (.EXE、.LNK、または .BAT) への完全なパスが必要です。リモート・ホストの Windows の「ファイル名を指定して実行」コマンドを使用して、パスが有効であることを確認してください。対象のアプリケーションが起動すれば、パスは Connect での使用に有効です。
- 「選択したサーバからアプリケーションを選択」 - 選択したサーバ上で使用可能なアプリケーションのリストが一覧表示されます。公開するには、希望するアプリケーションを一覧から「選択」します。



すべてのホスト上の公開アプリケーションを参照するには、「すべてのホストを検索」をクリックします。Ericom Connect は、対象のアプリケーションが含まれるホストのみからアプリケーションを起動します。例えば、「すべてのホストを検索」を選択し、「メモ帳」を追加した場合 - ユーザが「メモ帳」を起動すると、Ericom Connect はメモ帳がインストールされているホストのみから選択が行われます（「すべての」ホストからの選択は行われません）アプリケーションを追加すると、「プライマリ」パネルに表示されます。

未検証のアプリケーションの追加

アプリケーションを公開する際、管理者が公開操作を完了する前に、そのアプリケーションが以前リソース・ホスト上に存在したかどうか Ericom Connect によって検証されます。検証のためにアプリケーションが利用可能でない場合（例：ユーザがログインした後に共有ネットワーク上のみで利用可能である）、代替となる公開手順があります：

- 「アプリケーションの追加」ダイアログで、接頭辞「+」を使用してアプリケーションのパスを入力します。
- 未検証の公開アプリケーションはアプリケーションのプロパティが解析できないため、一般的なアイコンが使用されます。このアイコンは管理者が手動で変更できます。
- 未検証のアプリケーションの起動を許可するには、リソースタブに移動し、「利用可能と仮定」を有効化します。この設定を有効化すると、RemoteAgent がレポートするデータに関係なく、そのアプリケーションは利用可能であると Ericom Connect から見なされます。実際にアプリケーションがユーザ・セッションで利用可能であることを確認することは、Ericom Connect からは検証できないため、管理者の責任となります。

デスクトップの追加

この機能を使用して、リソースの一覧に新しいデスクトップのアイコンを追加します。



デスクトップ・リソースにより、リソースに割り当てたグループの「システム」からデスクトップ・セッションが開始されます。



「Active Directory 属性アドレス」でユーザアドレスを含む AD 属性を入力すると、デスクトップ・リソースの宛先アドレスを Active Directory から取得することができます。詳細については、「展開ガイド」の「AD を経由してデスクトップとユーザをバインドする」を参照してください。

グループに追加

すべての公開アプリケーションとデスクトップを「公開」グループに割り当てる必要があります。「公開」グループを使用して、グループ・レベルで以下の設定を構成できます：

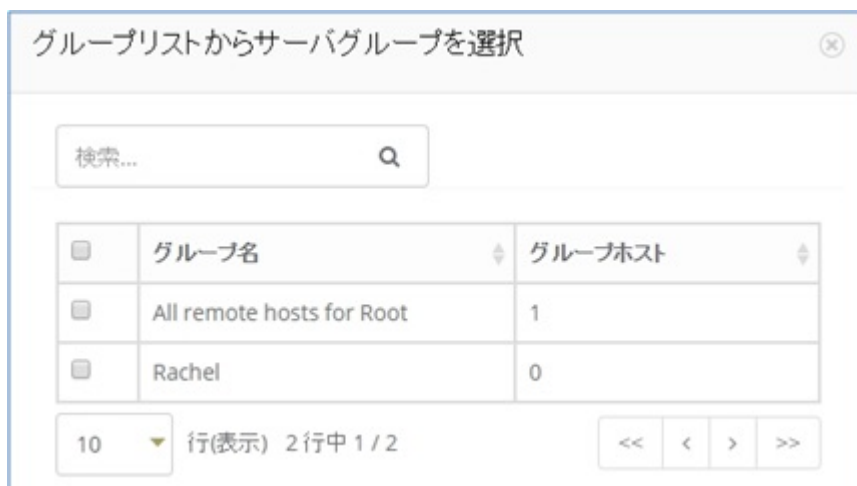
- 詳細設定
- システム・グループ

公開グループの追加

「公開」グループの所有権を割り当てた後、「システム」と「システムグループを追加」をクリックすると、このリソースで起動可能なサーバとデスクトップが割り当てられます。各サーバとデスクトップは、エンドユーザからアクセスできるように、「システム」グループのメンバーである必要があります。



そのリソースに「システム」グループを追加するには、「システムグループを追加」をクリックします。



削除

削除する対象のリソース (複数可) を選択します。Connect からリソースを削除するには、「削除」ボタンを押します。この操作は元に戻すことができませんので、リソースを削除する際は注意してください。



表示オプション

リソース・エリアは、グリッドやビュー表示にできます。



フィルタ

アプリケーションまたはデスクトップのリソースのみを表示するには、「フィルタ」ボタンを使用します。



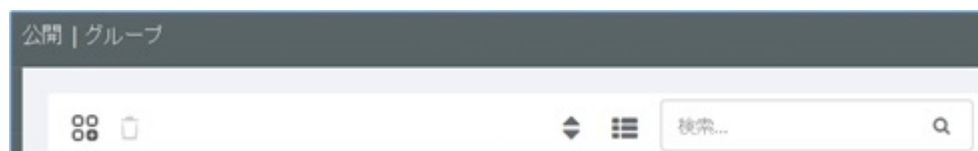
ソート

リソースがグリッド表示されている場合、次のオプションによりソートが可能です:名前順、追加日時順、変更日時順。



グループ

このセクションでは、新しいグループの作成および既存の「公開」グループの表示と管理ができます。このグループには、グループのユーザが利用可能となるリソースが含まれています。



グループの作成

管理者が新しい「公開」グループを作成できます。管理者は「新しいグループを作成」ウィンドウで、新しい名前を入力し、新しいグループに追加するリソース (リソース・エリアで利用可能なリソースから) を選択できます。



新しいグループを作成

グループ名

下記のタブにあるアプリケーションとデスクトップのリストからアイテムを選んでください。

アプリケーション (0) **デスクトップ (0)**

	Name	Last Added
<input type="checkbox"/>	Desktop	Jan 04, 2017, 1:22:06 PM

10 行(表示)1行中 1 / 1 << < > >>

作成 キャンセル

グループの削除

管理者はグループを削除できます。この操作は、単一または複数のグループに対して行うことができます。この操作は元に戻すことができません。



表示オプション

グループは、グリッドまたは一覧の 2 つのオプションで表示できます。



ソート

グループを名前 (昇順/降順) でソートが可能です。



プロパティ

以下の 5 つのタブがあります:

- 「基本」
- 「リソース」
- 「詳細」
- 「ユーザ」
- 「システム」

各設定には、その目的を説明するツールチップがあります。継承された値は、新しい値を入力し「継承の切り替え」ボタンを押すことで上書きできます。

システム

ホスト

「プライマリ」パネルには、すべてサーバとワークステーションとその IP アドレスおよびエージェントのステータスが表示されます。

ホスト名	IPアドレス	Access Server	Remote Agent	最終接続
ec76ga12954	192.168.161.64	OK	実行中	Jan 11, 2017, 2:07:19 PM

青色のタイトル・バーの「編集」ボタンをクリックして、グローバル・レベルでプロパティを変更できます。



- システム名には、システムの DNS 名が表示されます。
- IP アドレスには、Connect により認識されたシステムの IP アドレスが表示されます。
- Access Server には、システムの Access Server エージェントのステータスが表示されます。
- RemoteAgent には、システムの RemoteAgent のステータスが表示されます。
- RemoteAgent には以下の 2 つのタイプがあります: Type 1 はグリッドへ接続され、Type 2 では Web サービスを使用します。
 - グループに追加

一覧表から新規または既存のグループへのサーバの追加を行うことが可能です。



－ 詳細情報

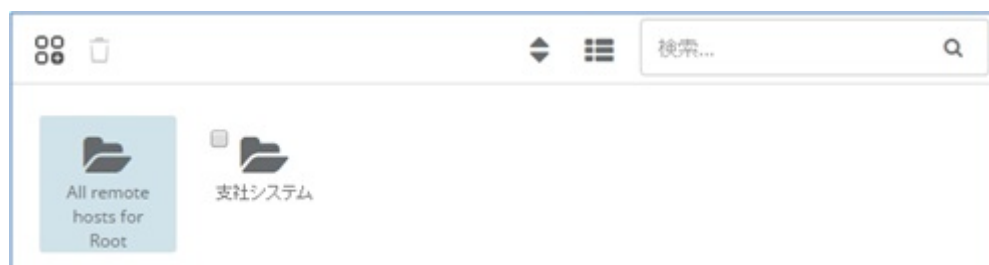
「詳細」パネルには、テーブルに表示される各サーバとワークステーションの詳細な情報が表示されます。詳細な情報には以下のタブが含まれています

- * 「ステータス」
- * 「設定」
- * 「ログ」

それぞれのタブの各プロパティには、項目を説明するツールのヒントがあります。

グループ

このセクションでは、新しいグループの作成、システムの既存グループの表示と管理ができます。すべてのサーバとワークステーション(システム)は、「公開」グループに割り当てるために、「システム」グループのメンバーとする必要があります。



グループの作成

「グループ作成」をクリックして、Connect 環境のメンバーとなる登録システムを編成します。



グループ名を入力し、「作成」をクリックします。

新しいグループを作成 ✕

グループ名

作成 キャンセル

グループの削除

管理者はグループを削除できます。この操作は、単一または複数のグループに対して行うことができます。この操作は元に戻すことができません。



表示オプション

グループは、グリッドまたは一覧の 2 つのオプションで表示できます。



ソート

グループを名前 (昇順/降順) でソートが可能です。



プロパティ

- 「基本」 - グループの基本的なプロパティが表示されます

「基本 | ESG ホストアドレス」 - システムのこのグループからのセッション起動を許可された、ESG のアドレスを入力します。

設定 システム

有効化 ?

はい

グループ名 ?

All remote hosts for Root

ESGホストアドレス ?

DNS アドレス (エイリアス) の入力が必要です (例: both usa.acme.com)。IP アドレスは使用できません (例: 「126.0.3.32」 は使用できません) この機能により、ESG 経由で接続するユーザーによるアプリケーションまたはデスクトップの起動でローカル・ホスト・システム・グループが確実に使用されるようになります。

ESGホストアドレス ?

126.0.0.1






無効なホスト名 '126.0.0.1'。IPアドレスではありません

- 「システム」 - グループに含まれるすべてのシステムが一覧表示されます

サービス

接続サービス一覧表

「プライマリ」パネルには、すべての Connect グリッド・コンポーネント、その IP アドレスとステータスが表示されます。

サーバ名	サーバIP	ステータス	最終接続
管理Webサービス 			
EC76GA12954	192.168.161.64	実行中	Jan 11, 2017, 2:41:13 PM
ビジネスロジックサービス 			
EC76GA12954	192.168.161.64	実行中	Jan 11, 2017, 2:41:01 PM
エンドユーザWebサービス 			
EC76GA12954	192.168.161.64	実行中	Jan 11, 2017, 2:41:06 PM
ESGサービス 			
EC76GA12954	192.168.161.64	実行中	Jan 11, 2017, 2:41:01 PM
Remote Agentサービス 			
EC76GA12954	192.168.161.64	実行中	Jan 11, 2017, 2:38:40 PM
Remote Agent Webサービス 			
EC76GA12954	192.168.161.64	実行中	Jan 11, 2017, 2:41:02 PM

各サービス・タイプのプロパティをグローバル・レベルで変更するには、サーバ・タイトル・バーの「編集」ボタンをクリックします。



各サービス・インスタンスのプロパティの設定は、各行をクリックするか、ConnectCLI を使用して実行します。例えば、特定の ESG の証明書を変更するには、**Connectcli EsgConfig list** を実行し、対象の ESG の GUID を探します。

```
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool>Connectcli EsgConfig list
Connect Admin User: visitor
Password: *****
97cb65d9-2f8b-4e0e-a7d0-9e789ea47129 GATEWAY
```

- 次に、その GUID を「instanceld」として使用し、証明書の「find」メソッドを設定します。

`Connectcli EsgConfig instanceId Security$CertificateFindBy=<on of the Find-ByXXX values>`

- その後、GUI を使用して実際の証明書パラメータを設定します。 `Connectcli EsgConfig instanceId Security$CertificateFindValue=<the value>`

詳細情報

「詳細」パネルには、各 Connect コンポーネント・サーバの詳細なプロパティが表示されます。



「ステータス」タブには、選択したコンポーネント・サーバのステータス情報が表示されます。「ログ」タブには、選択したコンポーネント・サーバから生成されたログ・データが表示されます。「設定」タブには、選択したコンポーネント・サーバに設定可能なパラメータが表示されます。例えば、このタブでサービスのデフォルトのポートの設定を行います。



システム構成

- デフォルト：要件

このセクションでは、「要件」タブのデフォルトをシステム・レベルで設定します。同じ設定を同様にグループまたはリソース・レベルで定義できます。

- デフォルト：詳細タブ

このセクションでは、「詳細」タブのデフォルトをシステム・レベルで設定します。同じ設定を同様にグループまたはリソース・レベルで定義できます。

- 設定 システム設定

このセクションでは、管理 UI の言語およびタイムアウト間隔などのシステム・レベルの各種パラメータを設定します。

- セカンダリ設定

このセクションには、「root」テナント用の追加の構成設定が含まれています。例えば、「クライアントログイン有効化」や「マイ デスクトップの Active Directory 属性」などがあります。テナントを構成すると、このセクションは自動的に「テナント設定」となり、含まれる設定はテナントごとに定義されます。

- RADIUS

このセクションでは、RADIUS 二要素ベース認証と Ericom Connect を使用する場合の RADIUS 設定を構成します。

RADIUS を有効化 - RADIUS 二要素認証を有効化するには、「はい」に設定します。

RADIUS サーバアドレス - RADIUS サーバのアドレスを入力します。

RADIUS ポート - RADIUS サーバのポートを入力します。デフォルトは 1812 です。

RADIUS 共有鍵 - RADIUS サーバ上で設定されている共有鍵を入力します

RADIUS タイムアウト (秒) - RADIUS サーバとの通信のタイムアウトを設定します。

RADIUS 再試行 - 接続が失敗した場合の、RADIUS サーバの再試行の回数を設定します。

RADIUS デフォルト・ドメイン - ユーザ名が完全修飾ドメインでない場合に、ユーザ名に追加するデフォルトのドメインを指定します。一部の RADIUS サーバにより同様の機能が提供される可能性があることに注意してください。デフォルトのドメインが「@」で始まる場合、次の形式が使用されます:「ユーザ@ドメイン」

デフォルトのドメインが「」で終わる場合、次の形式が使用されます:「ドメインユーザ」

それ以外の場合、「ドメインユーザ」が使用され、検証の警告が表示されます。

RADIUS 送信ユーザドメイン - RADIUS サーバに 完全修飾ユーザ名を使用する場合は、「はい」に設定します。この属性を「いいえ」に設定すると、ユーザ名のみが送信されます ((ドメインユーザ のサフィックス部分、または ユーザ@ドメイン のプレフィックス部分)。この属性を「はい」に設定すると、完全修飾ユーザ名が送信されます。ユーザ名が完全装飾ユーザ名でない場合、RadiusDefaultDomain を指定していれば、それがサフィックスとして追加されます (ユーザ@ドメイン)。

RADIUS 認証方法 - RADIUS システムで使用する認証方法を選択します。指定した文字列が、認証の第一段階で「password」として RADIUS サーバに送信されます。

- － パスワード - ネットワーク・パスワード
- － パスコード - パスコード
- － パスワードおよびパスコード - ネットワーク・パスワードとパスコードを連結した値
- － パスコード及びパスワード - パスコードとネットワーク・パスワードを連結した値

RADIUS 使用条件 - エンドユーザに RADIUS の使用を要求する条件を選択します。

RADIUS使用条件
常に使用
常に使用
使用しない
ESG経由で接続された時

- 常に使用 - 常に RADIUS が使用されます
- 使用しない - RADIUS は使用されません
- ESG 経由で接続された時 - Ericom Secure Gateway(ESG) 経由でユーザが接続した場合、RADIUS が有効化されます。
- クライアント IP 属性の送信 - クライアントの IP アドレスを特定した属性の RADIUS サーバへ送信します。

- ログの設定

各 Connect グリッド・コンポーネントのログ・レベルを設定します。

- 役割

Ericom Connect の管理者の役割は、このセクションで定義されています。



プライマリ・パネルには、以下の2つの機能があります:

- 「Adminの役割を作成」 - 事前定義した権限を持つ新しい役割を作成します。
- 「Adminの役割を削除」 - 選択した役割を削除します。

新しい役割を作成するには、「Adminの役割を作成」をクリックします。表示される作成ダイアログに、新しい役割名と説明を入力します。

新しい管理者の役割を作成

管理者の役割名

管理者の役割の説明

管理者の役割を作成

キャンセル

新しい役割の作成後、その役割を選択して「詳細」パネルでプロパティ設定します。

プロパティ

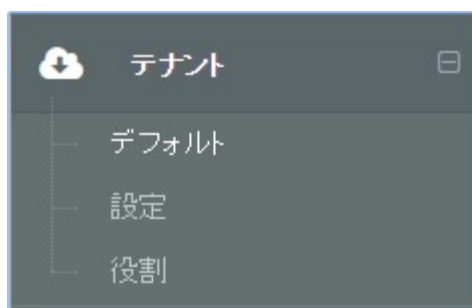
権限

ユーザ/グループ

- 「プロパティ」 - 名前と説明を設定します。
- 権限 - 役割の管理コンソール権限を設定します。 ラベル (クロステナント) の付いたすべてのプロパティは、グローバルに適用されます。
- ユーザ/グループ - 役割のメンバーとなるユーザ (複数可) とグループ (複数可) を設定します。

■ テナント

このセクションには、追加の構成の設定が含まれています。 1つまたは複数のテナントを作成すると、「セカンダリ設定」が「テナント設定」に変わります。



- デフォルト：要件

このセクションでは、テナント・レベルで「要件」タブのデフォルトを設定します。同じ設定を同様にグループまたはリソース・レベルで定義できます。

- デフォルト：詳細タブ

このセクションでは、テナント・レベルで「詳細」タブのデフォルトを設定します。同じ設定を同様にグループまたはリソース・レベルで定義できます。

- 設定：テナント設定

このセクションでは、様々なテナント・レベルの詳細と設定の構成を行います。例えば、「テナント名」や「「マイ デスクトップ」用の Active Directory 属性」などがあります。

- 設定：RADIUS

このセクションでは、テナントの RADIUS 設定を構成します。

- 役割

このセクションでは、テナントの管理者の役割を設定します。

■ 詳細タブの設定

詳細タブには、様々な機能の設定パラメータが含まれています。このセクションでは、いくつかの設定例が示されています。

- サードパーティ・ソリューションの有効化

すべてのサードパーティのリダイレクト・ソリューションを有効にするには、「リダイレクトされるサードパーティのアドオン」に移動し、「*」を入力します。アドオンには、Uniprint、Net2Printer、Tricerat などの数多くの RDP ベースのソリューションが含まれています。Uniprint、Net2Printer や Tricerat などのサードパーティの印刷ソリューションは、「プリンタのリダイレクトモード」を無効としている場合でもリダイレクトされますので注意してください。これらのソリューションは、上記の「リダイレクトされるサードパーティのアドオン」設定を使用して構成します。「プリンタのリダイレクトモード」は、RDP ベースのビルトイン印刷および Blaze 汎用プリンタ のみに適用されます。

- キーボード・ロケールの自動切り替え

この機能は日本語環境でサポートしていません。

Ericom Connect と Access Server 7.6.1 には、入力に基づいた入力ロケールの自動切り替え (AccessNow セッション内部) が追加されました。文字を入力すると、Ericom Access Server によりその文字が特定の言語に関連するものであるかがチェックされます。そうである場合、それに応じてキーボードを変更して設定するよう RDP セッションにメッセージが送信されます。ユニコードおよびスキャンコードの入力の両方がサポートされています。この機能は、互いに大きく異なる言語での使用に最適です (例: 英語とヘブライ語。一方は左から右への言語であり、他方は右から左への言語)。この機能は、デフォルトでは無効になっています。設定は Ericom Connect 管理コンソールを使用して実行します。この機能を有効化するには、以下を実行します：

- Ericom Connect 管理コンソールを開き、「詳細」タブのインプット構成 | キーボード言語の判別」へ移動します。

- この機能を有効化するための任意の設定文字列を入力します。この設定の構文は、以下のとおりです:

keyboard detect languages:s:キーボード ID, 開始-終了, 開始-終了, … ; キーボード ID, 開始-終了, 開始-終了

「開始-終了」の範囲内でキーボード入力を受信される場合は常に、対応する「キーボード ID」を設定する必要があります (キーボード ID はリモート・オペレーティング・システム上の設定オプションである必要があります)。

例:keyboard detect languages:s:0x04090409,41-5A,61-7A;0xf03d040d,5BE-5F4

キーボード ID: 0x04090409 = 英語 (米国)。41-5A、文字「A-Z」および「61-7A」は、「a-z」です。キーボード ID: 0xf03d040d = ヘブライ語。5BE-5F4 は次の文字列です: ヘブライ語の句読点 Maqaf - ヘブライ語の句読点 Gershayim。これには、ヘブライ語のすべての文字が含まれています: https://en.wikipedia.org/wiki/Unicode_and_HTML_for_the_Hebrew_alphabet) 文字の範囲は 16 進数であり、値はユニコード文字の範囲です。サーバ側でキーボードを手動で変更する場合、クライアント上で言語が再度変更されるまで同期対象外となります。この機能が正常に動作するには、RDP セッションの現在のユーザ向けに、該当する言語がインストールされている必要があります。言語によっては、複数のバリエーションが存在します (例: 英語)。Access Server のインストール・ディレクトリに、**LangControl.exe** という名前のプログラムが存在します。現在のユーザ向けにインストールされているすべてのキーボードの一覧を表示するには、**LangControl /list** を実行します。言語が切り替えられると、新しい言語の最初の入力文字を検出・処理するために 500 ミリ秒のわずかな遅延が発生します。

- キープ・アライブ設定

Ericom Connect、AccessPad、AccessNow/AccessPortal、AccessToGo および Access Server 8.1 では、セッションの信頼性を向上させるために、キープ・アライブ・ハートビートが新たに追加されました。以下を実現するために、クライアント (AccessNow、AccessPad または AccessToGo) から Access Server にハートビート・パケットが送信されます:

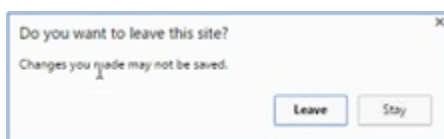
- セッションが接続された場合の検出
- 通信経路内でのアイドル・タイムアウトのオフセット。この機能は、一部のネットワーク機器やアプリケーションによってセッションがアイドル状態であると誤って判断され、セッションが切断されるのを防ぎます。

関連する 2 つの設定値は、管理コンソールの「詳細」タブで設定します。

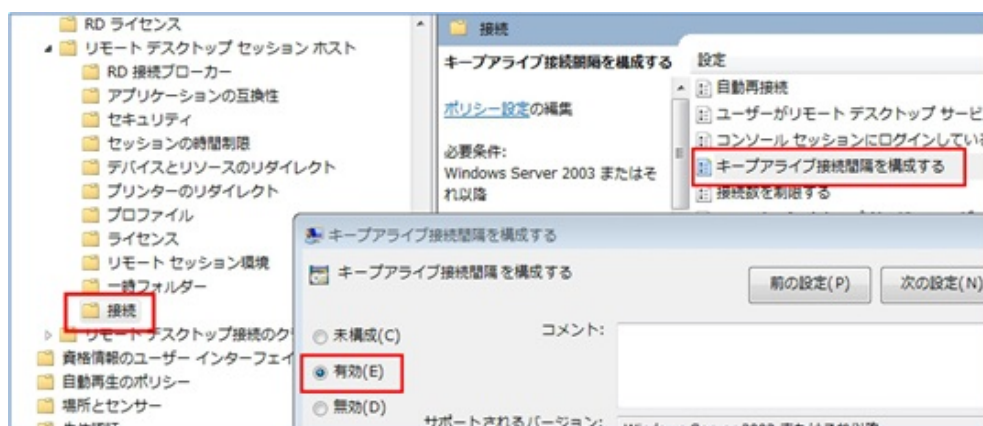


設定	説明	用途	デフォルト
クライアントサービス Keep Alive 間隔 (秒)	クライアントがハートビートを送信する間隔 (秒)。	AccessServer は、ハートビートを使用してクライアントの切断を認識し、サード・パーティのアイドル設定をオフセットします。ロードバランサおよび Secure Gateway とともに動作します。	443
切断されたクライアントの Keep Alive 数	クライアントが切断状態であるとサーバーにより判断される、欠落したハートビート数。	AccessServer は、接続を切断状態と分類するタイミグを決定するために、この設定を使用します。	5

AccessNow セッションでの既知の動作として、モーダルなブラウザ・ダイアログが表示されている場合、セッションのハートビートが送信されない、ということがあります。



ユーザがブラウザ・セッションに「留まる」ことにした場合、再接続が開始され、既存のセッションでハートビート機能が再開されます。上記の設定は、EricomRDP セッションには適用されません。EricomRDP セッションは、マイクロソフトのポリシーのみによって管理されます。これは、以下で設定されています: コンピュータのポリシー | コンピュータの構成 | 管理用テンプレート | Windows コンポーネント | リモートデスクトップサービス | リモートデスクトップセッションホスト | 接続 | キーアライブ接続間隔を構成する



正規表現の使用

Ericom Connect の管理者コンソールでは、検索機能での正規表現 (regex) の使用がサポートされています。これには、以下の領域が含まれています:

- 公開 | リソース
- 公開 | グループ
- システム | ホスト
- システム | グループ
- サービス
- ユーザ
- Active Directory の検索
- レポート

使用法:

* (アスタリスク) - 0 個以上の文字に一致します

? - 1 文字のみと一致します

^ - 文字列の先頭と一致します

\$ - 文字列の末尾と一致します

% - 1 つのリテラル文字と一致します

大文字小文字を区別しません

部分文字列と一致します (デフォルト)

例: データベースに以下の文字列が存在する場合:

Michael Greenberg

James Lui

Eyal Golan

以下の文字列が一致します (実際の入力では「」記号を省略します):

- 「Greenberg」は 1 番目と一致します
- 「^g」は何とも一致しません
- 「g\$」は 1 番目と一致します
- 「g」は 1 番目と 3 番目に一致します
- 「l g」は 1 番目と 3 番目に一致します
- 「l??」は 1 番目、2 番目、3 番目に一致します
- 「l??^」は 2 番目と一致します

■ ESG 経由での管理者ページの公開

```
ConnectCLI EsgConfig common ExternalWebServer$UrlServicePointsFilter="<UrlServicePointsFilter>
<UrlFilter> <UrlPathRegExp>~/Admin</UrlPathRegExp> <UrlServicePoints>https://<local-
admin-address>:8022/</UrlServicePoints> </UrlFilter> </UrlServicePointsFilter>"
```

■ Ericom Analytics

Ericom には、ビジネス・インテリジェンス用のデータのビジュアル化機能が統合されています。このアドオンには、Microsoft IIS が必要とされ、通常は Ericom Connect 管理 Web サービスと共にインストールされます。Ericom Analytics インストーラは、次で示される Ericom Connect 管理 Web サービスのフォルダにあります:

```
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Admin Web Service\Ericom Analytics.msi
```

Ericom Analytics パッケージをインストールするには、MSI を起動します。インストール中、Analytics パッケージで使用するために Ericom Connect データベースのパラメータが自動的に設定されます。Ericom

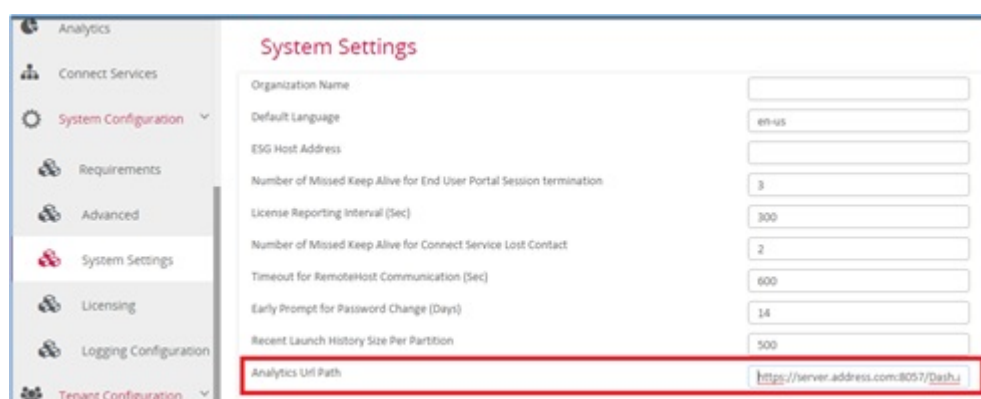
Analytics パッケージのインストールが完了すると、IIS が有効になり、システム上で構成されます。IIS によりポート 8057 がリスンされます。リモート・システムからのアクセスを可能とするために、ローカル・ファイアウォール上でこのポートを手動開放する必要があります。

Ericom Analytics のビジュアル化データにアクセスするために、以下の様なスタンドアロンの URL を使用できます:

Error! Hyperlink reference not valid.

この URL は次の場所で自動的に構成されています:

「Ericom Connect」 | 「システム設定」 | 「Analytics URL パス」



「Analytics」をクリックすると、ビルトインのビジュアル化機能が表示されます。「Analytics」オプションを選択した場合、一部のブラウザではビジュアル化されたデータが新しいブラウザ・タブに表示されます。

- ビルトインのビジュアル化機能

以下のようなレポート・ビジュアル化機能ビルトインで提供されています:

- アプリケーションの使用状況の内訳 (トップ 20) (Application Usage Breakdown (Top 20)) - この棒グラフでは、使用されたトップ 20 のアプリケーションと、各アプリケーションが使用された時間が示されます。
- タイプ別のクライアント使用状況 (Client Usage By Type) - このパイ・チャートでは、エンドユーザの起動タイプの内訳が示されます。次のタイプが含まれます: AccessPortal、AccessPad、AccessToGo、AccessNowSSO、および AccessPortalSSO。
- システムのマッピングおよびエンドユーザへの適用 - このツリー・グラフでは、過去にエンドユーザが使用した公開アプリケーションをホストしているシステムが示されます。このビジュアル化では、システムの視点から過去の使用状況を追跡することができます。Ericom

Connect で使用された各システムがツリーによって示されます。過去に使用されていないシステムは表示されません。システムをクリックすると、そのシステム上で使用されたすべての公開アプリケーションが表示されます。過去に起動されていないアプリケーションは表示されません。アプリケーションをクリックすると、システム上でそのアプリケーションを起動したことがあるユーザが表示されます。そのシステムを使用したことがないユーザは表示されません。

- 月ごとのアプリケーション使用状況 (Application Usage per Month) - このレポートでは、各公開アプリケーション/デスクトップが使用された回数が月別に表示されます。



カスタマイズされたビジュアル化機能を Ericom プロフェッショナル・サービス経由でリクエストできます。詳細については、Ericom の営業担当者にお問い合わせください。

- インストールのトラブルシューティング

Analytics パッケージのインストールに失敗した場合、次のコマンド・ラインを使用してパッケージを再度起動してください:

```
msiexec /i <MSI のパス> /L*v <Log.log のパス>
```

分析のために、このログ・ファイルを Ericom Customer Advocacy に送信してください。

ダッシュボードの行の制限

これは、ダッシュボードのテーブルに表示する行の最大数をコントロールします (例: リソース・サーバーのステータス、最近のセッションなど)。

デフォルトの値は 10 であり、値は 0 から 1,000 までの範囲内である必要があります。

この設定により、各テナントの管理コンソールのダッシュボード・テーブルすべてが制御されます。この設定は、各テナント用に設定されています。

■ サービス・プロバイダ (SaaS) レポート

このセクションでは、サービス・プロバイダ (SaaS) の事例を対象としたレポートを作成する方法について説明します。レポート・データはテナント固有のもので、テナント内で作成された各レポートにはテナントのアクティビティのみが含まれます。

- 同時ユーザライセンスの使用状況 (月ごと)

システム管理者向けのシステムヘルス | 同時ユーザライセンスの使用状況 (月ごと) - 「開始」と「終了」の日付をセットして、月ごとの同時ユーザ数をカウントします。カウントされるユーザは、アクティブなセッションを起動したユーザです (ポータルへのログインはカウントされません)。

- ネームドユーザライセンスの使用状況 (月別)

システム管理者向けのシステムヘルス | ネームドユーザライセンスの使用状況 (月ごと) - 「開始」と「終了」の日付をセットして、月ごとの一意のネームド・ユーザの合計数をカウントします。カウントされるネームド・ユーザは、Ericom のポータルにログインしたユーザです (同時ユーザとはカウント方法が異なります)。

- ユニーク・セッション数 (日別)

ユーザ | リモートセッション (日ごと) - 「抽出開始日時」と「抽出終了日時」の日付を設定すると、日別のリモート・セッションの数が表示されます。各日の値は、すべてのユーザによるユニーク・セッションを表しています。ユーザごとの集計は行われません。

ユーザ リモートセッション(日ごと)

フィルタ

ユーザプリンシパル名(*) ユーザ名(*) 終了 --選択-- 抽出開始日時 --選択--

抽出終了日時 --選択-- 最大列数 100

検索...

リモートセッションタイムスタンプ	セッション数
Sep 11, 2017 9:00:00 AM	1
Sep 08, 2017 9:00:00 AM	1

- アプリケーションの平均起動数 (日別)

このレポートでは、指定した「抽出開始日時」と「抽出終了日時」の期間に基づいて、日別のリソースの平均起動数が表示されます。 特定の日のアプリケーションの起動数を確認するには、1つの日時を入力します。

アプリケーション 1日平均のトップアプリケーション

フィルタ

抽出開始日時 --選択-- 抽出終了日時 --選択-- 最大列数 100

8.1.3 エンドユーザ・ガイド

Ericom Connect では、様々なオペレーティング・システムやデバイスからのアクセスがサポートされています。サポートされるデバイスは次のとおりです:

- HTML5 Web ブラウザが搭載されたすべてのデバイス (Access Now インターフェースを使用)
- Windows(7、8.1、2008R2、2012R2 以上)
- Apple Mac OSX 10.10 以上 (Intel のみ)
- ほとんどの Apple iOS デバイス (iPad、iPhone と iPod touch)
- ほとんどの Android デバイス
- Google Chromebook/Chromebox (AccessNow インターフェースを使用)

アプリケーションまたはデスクトップの表示には、以下の 2 つの方法があります:

- ネイティブ・クライアント - エンドユーザのオペレーティング・システムでネイティブに動作するアプリケーションを使用します。ネイティブ・クライアントは、標準的な RDP の機能をサポートします。
- HTML5 インターフェース - 起動したアプリケーションおよびデスクトップは、Web ブラウザ内に常時されます。エンドユーザのデバイスにダウンロードするものは必要ありません。印刷やファイル転送などの機能は、ブラウザ・ベースとなり、ネイティブ RDP クライアントとは異なる動作をします。

エンドユーザは、以下のようなポータル の 1 つを使用してサインインし、割り当てられたアプリケーションとデスクトップを表示することができます。

- AccessPortal - 公開アプリケーションやデスクトップを起動する Web ベースのインターフェース。AccessNow HTML5 プロトコルを使用します。AccessNow プロトコルはポート 8080 を介して通信します。
- AccessPad - 公開アプリケーションやデスクトップを起動するネイティブ・アプリケーション。RDP または Blaze プロトコルのいずれかを使用します。Blaze プロトコルを使用した場合、通信はポート 8080 を介して行われます。RDP プロトコルを使用すると、通信はポート 3389 を介して行われます。
- AccessToGo - 公開アプリケーションやデスクトップを起動する iOS と Android 向けのモバイル・クライアント。RDP または Blaze プロトコルのいずれかを使用します。Blaze プロトコルを使用した場合、通信はポート 8080 を介して行われます。RDP プロトコルを使用すると、通信はポート 3389 を介して行われます。

この 3 つすべての接続方法は、こちらの URL のページに説明が記載してあります。

<https://<EUWS サーバアドレス>:8011/EricomXml/index.html>

または

<http://< EUWS サーバアドレス>:8033/EricomXml/index.html>



AccessPortal(Web)

使用方法

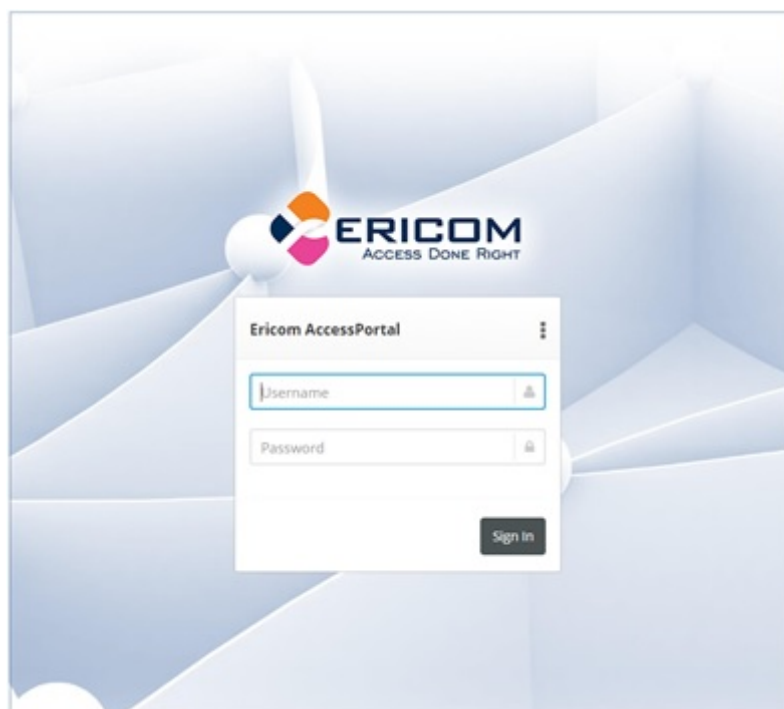
AccessPortal は Ericom Connect のインストールに含まれています。AccessPortal(EUWS) のインストール完了後、ユーザは以下のいずれかの AccessPortal URL を利用します:

HTTPS(信頼された証明書が必要です): `https://<サーバアドレス>:8011`

HTTP (非セキュア): `http://<サーバアドレス>:8033`

ESG: `https://<ESG アドレス>:<ESG ポート>`

ユーザの資格情報のフィールドが含まれたサインイン・プロンプトが表示されます。



ユーザ・インターフェース言語やキーボード・ロケールの選択などの追加設定や「バージョン」情報にアクセスするには、設定ボタンをクリックします。



最初の画面には、以下のオプションが表示されます:

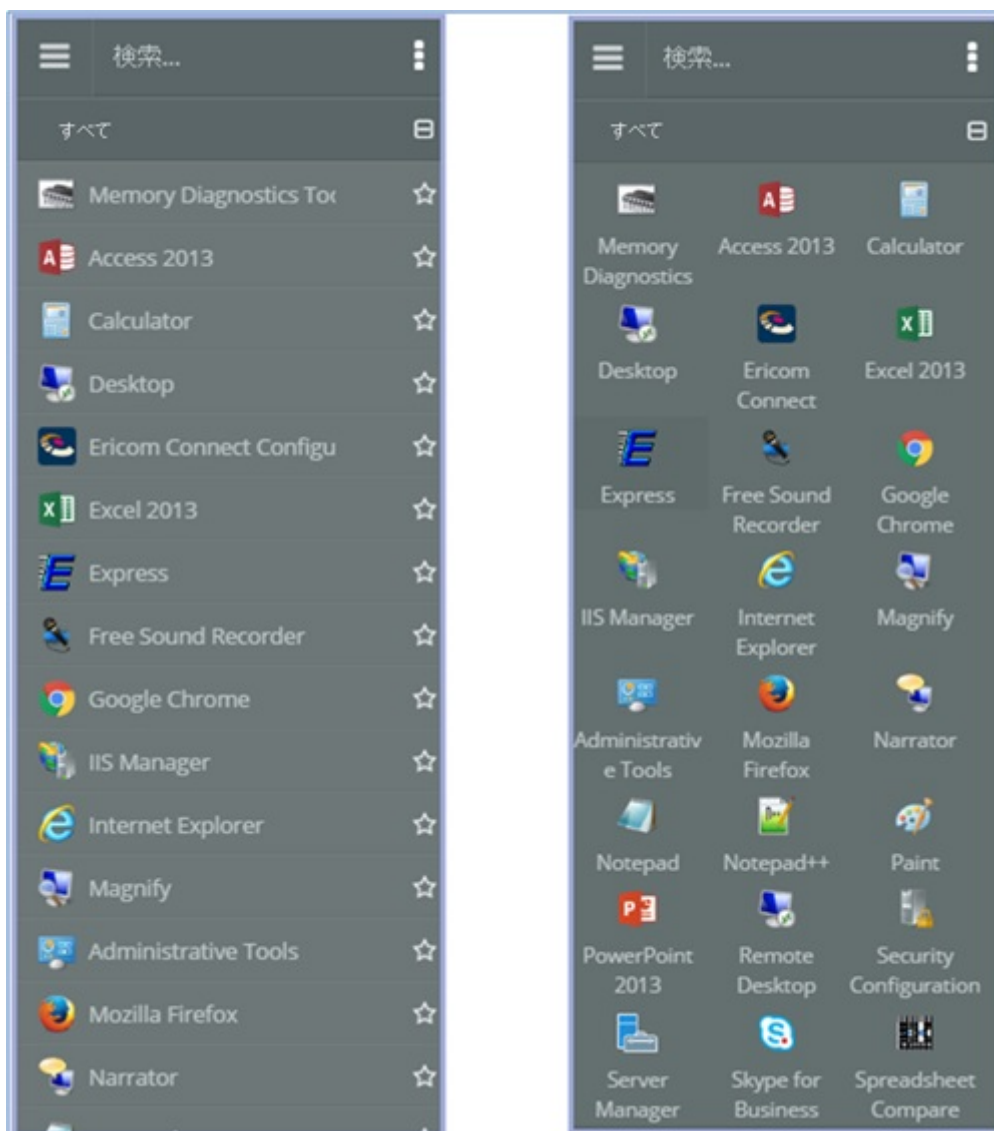


「言語 (Language)」オプションを選択すると、以下の画面が表示され、そこでインターフェース言語およびキーボード・ロケールを選択することができます。「キーボードロケール (Keyboard Locale)」を選択して、ユーザがセッションで使用するキーボードの言語を選択することができます。7.6.1 以降では、言語とキーボード・ロケールの設定はブラウザごとにデバイス上にローカル保存されます。これらの設定をエンドユーザ側で設定すると、Ericom Connect サーバ側のデフォルトが上書きされます。



「バージョン (About)」オプションを選択すると、バージョン番号と Ericom Connect オンライン・ガイドと Web サイトへのリンクが記載されたダイアログが開きます。

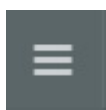
ログインに成功すると、割り当てられたアプリケーションやデスクトップが AccessPortal のメニュー・バーに一覧表示されます。割り当てられたリソースは、以下の 2 つのビューで表示される場合があります: 一覧表示およびグリッド表示 (ビューを変更するには、下部の AccessPortal メニュー・バーのセクションに移動します。)



リソースを起動するには、アイコンをクリックまたはタップします。 AccessNow HTML5 インターフェースを使用してアプリケーションやデスクトップが起動し、AccessPortal バーは自動的に左に最小化されます。 AccessPortal バー上にアクティブなリソースが表示されます。



AccessPortal バーを表示するには、メニュー・ボタンをクリックまたはタップします:



ユーザのアプリケーション・セットに変更が行われた場合、変更を確認するためにはブラウザを更新します。場合により、ログオフしてから再度 AccessPortal へログインする必要があります。

AccessPortal メニュー・バー

AccessPortal メニュー・バーには、以下のような機能があります:

- ファンクション・バー

ファンクション・バーには、以下のオプションがあります: メニュー・ボタン、検索、コンテキスト・メニュー



メニュー・ボタン - AccessPortal メニュー・バーの表示・非表示を操作するための半透明の移動可能なボタン。

AccessPortal 検索 - 公開リソースの検索用の文字列を入力します。「アプリケーション」一覧

は、自動的にフィルタリングされます。すべてのフォルダが表示されます。これらは検索の文字列でフィルタリングされていません。

コンテキスト・メニュー - アイコンをクリックすると、以下のオプションが表示されます:



グリッドビュー/リストビュー - 一覧とグリッドの表示を切り替えることができます。

設定 - ログイン画面の「設定」オプションと同様、言語、キーボード・ロケールおよび追加のクリック・アニメーション設定 (タッチ・デバイスのみ対象) に関連する設定を変更することができます。



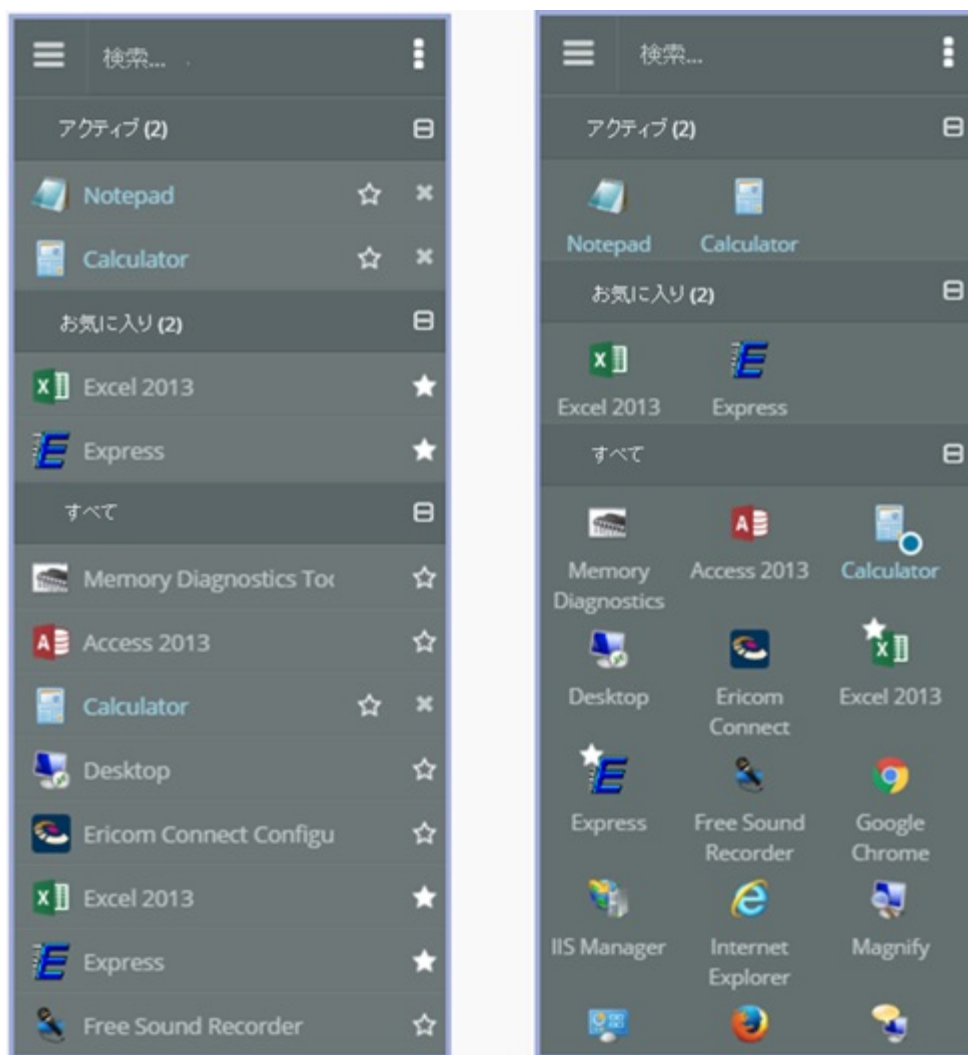
左上の矢印を使用して、前の画面に戻るか、右上の「X」を押してコンテキスト・メニューを完全に閉じることができます。

バージョン - この画面には、現在のバージョン、現在ログインしているユーザ、接続中の一サーバおよび追加の便利なリンクが表示されます。



- リソース・エリア

このエリアには、次の3つのセクションがあります: アクティブ、お気に入り、すべて。



アクティブ - すべてのアクティブなアプリケーションとデスクトップを表示します。アクティブ・セッションが存在する場合のみ表示されます。リソース名は追加の識別として青色で表示され、グリッド表示でも色つきの丸で表示されます。

お気に入り - すべてのお気に入りのアプリケーションとデスクトップを表示します。お気に入りのセッションが存在する場合のみ表示されます。リソースには、白い星のマークが付いています。

すべて - 使用可能なすべてのアプリケーションやデスクトップを表示します。各セクションは、展開または折りたたむことができます。

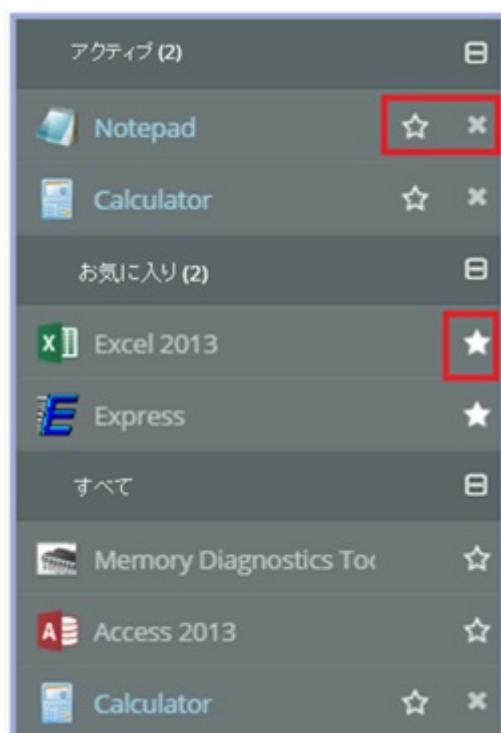
- 使用可能な操作

リストビューでは、割り当てられたリソースについて、以下の操作を使用できます:

お気に入りの追加/削除 - 星のアイコンとして表示されます。使いやすくするために、アプリケーションやデスクトップをお気に入りとして登録することができます。リソースをお気に入りとして

登録すると、自動的に「お気に入り」セクションに表示されます。

閉じる - 「X」アイコンとして表示されます。アクティブなセッションを切断します。そのセッションは、自動的に「アクティブ」セッションから削除されます。



グリッドビューでは、これらのアクションはリソース・アイコンにカーソルを合わせると表示される小さなメニューから使用できます。

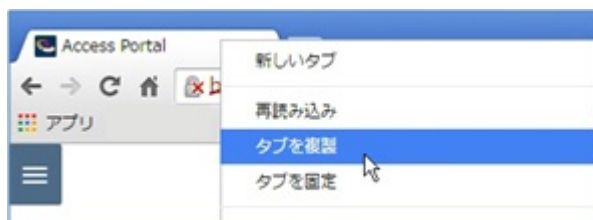


複数タブの使用

AccessPortal では、ユーザが再度ログインすることなく、複数のタブでセッションを使用できます。いずれかの AccessPortal タブからログアウトすると、関連するすべてのタブもログアウトします。この設計は、高レベルのセキュリティを維持するためのものです。新しいタブで同一のユーザ・セッションを使用して AccessPortal を開くには、次のいずれかの方法を使用します：

- ブラウザの「複製」機能 (Chrome のみ)

既存のタブを右クリックし、「タブを複製」を選択します。既存のユーザ・セッションを使用して新しいタブが起動されます。



- AccessPortal の URL をコピー & ペーストします。

AccessPortal の URL(例: <https://<サーバアドレス>>) を新しいブラウザ・タブへコピー & ペーストすると、既存のユーザ・セッションを使用した新しい AccessPortal セッションが起動されます。

RDP システム構成

AccessPortal の最適な使用のために、ユーザごとに複数のセッションを許可する RDP ポリシーを設定してください。これにより、各アプリケーションにより同一のセッションが共有されるのではなく、各セッションを使用して起動されるようになります。

サーバのローカル・ポリシーでこの設定を行うには、「gpedit.msc」を起動して以下を設定します:

セッションコンピュータの構成 | 管理用テンプレート | Windows コンポーネント | リモートデスクトップサービス | リモートデスクトップセッションホスト | 接続 | ユーザリモートデスクトップサービスユーザに対してリモートデスクトップサービスセッションを 1 つに制限する 無効

これは、次のようにシステムのレジストリで設定することもできます:

```
HKLMSYSTEMCurrentControlSetControlTerminal   ServerfSingleSessionPerUser   REG_DWORD
0x00000000
```

設定後、「gpupdate /force」を実行します。

■ AccessPad(ネイティブ)

AccessPad は、Windows、Mac と Linux で利用可能なネイティブ・クライアント・アプリケーションです。AccessPad から起動した公開アプリケーションは、リモート・アプリケーションとローカル・デスクトップが完全に統合されたシームレスなウィンドウとして表示されます。AccessPad では、Microsoft Seamless と Ericom True Seamless Windows の両方の機能がサポートされ、Connect 管理コンソールを使用して一元的にモードの設定を行うことができます。Microsoft Seamless 機能は、その機能がネイティブでサポートされる Microsoft のワークステーション用オペレーティング・システム上でのみ使用可能です。

ダウンロード場所

インストーラは Ericom の Web サイトから入手できます。

- Windows AccessPad x64 (Windows 7.x、8.x、10): <http://www.ericom.com/demos/EricomAccessPadClient64.msi>
- Windows AccessPad 32bit (Windows 7.x、8.x、10): <http://www.ericom.com/demos/EricomAccessPadClient.msi>
- Mac AccessPad x64 PKG: <http://www.ericom.com/demos/AccessPad.pkg>
- Mac AccessPad x64 DMG: <http://www.ericom.com/demos/AccessPad.dmg>
- Linux AccessPad x64 DEB: http://www.ericom.com/demos/nonwin/Ericom-AccessPad_64-bit.deb

使用方法

- AccessPad を起動します。
- AccessPad は、スタンドアロン・クライアントとして起動できます。Mac 用 PKG インストーラと Windows 用の MSI インストーラがあります。
- サインイン・プロンプトが表示されます。Ericom Connect サーバのアドレスに接続するように AccessPad を設定します。



- ポートが 443 以外の場合、明示的に指定します (例: 192.168.1.1:8011)。

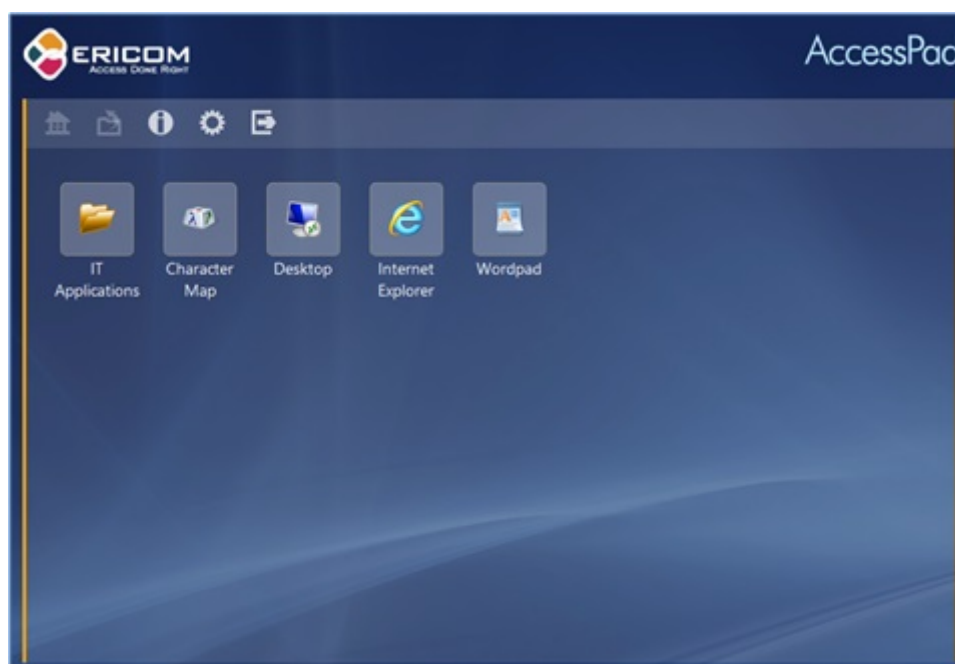


- 複数のサーバ・アドレス値をセミコロン区切りのリストとして入力できます。例: 「sevr1.acme.com; sevr2.acme.com」



The image shows a login form with a dark blue background. It contains three input fields, each with a label and a dropdown arrow on the right side. The first field is labeled 'サーバ:' and contains the text 'sevr1.acme.com;sevr2.acme.com'. The second field is labeled 'ユーザ名:' and contains the text 'jerry.smith'. The third field is labeled 'パスワード:' and is currently empty.

- 二要素認証の機能を有効化している場合には、このマニュアルの「二要素認証」のセクションを参照してください。
- サインインすると、利用可能な接続が AccessPad に表示されます。



- 接続を起動するには、目的の接続をクリックまたはタップします。

- AccessPad を終了すると、すべての接続が切断されます。
- ユーザのアプリケーション・セットに変更を加えた場合、変更を確認するには、ログオフしてから再度 AccessPad にログインする必要があります。

AccessPad メニュー・バー

AccessPad のメニュー・バーには、以下の様な便利な機能が含まれています:



ホーム - メインの一覧へ戻ります



親フォルダ (アップ) - 親フォルダの一覧に戻ります



概要情報 - バージョン番号、インストール・フォルダ、Ericom Connect サーバ・アドレス、現在ログインしているユーザ名が表示されます。



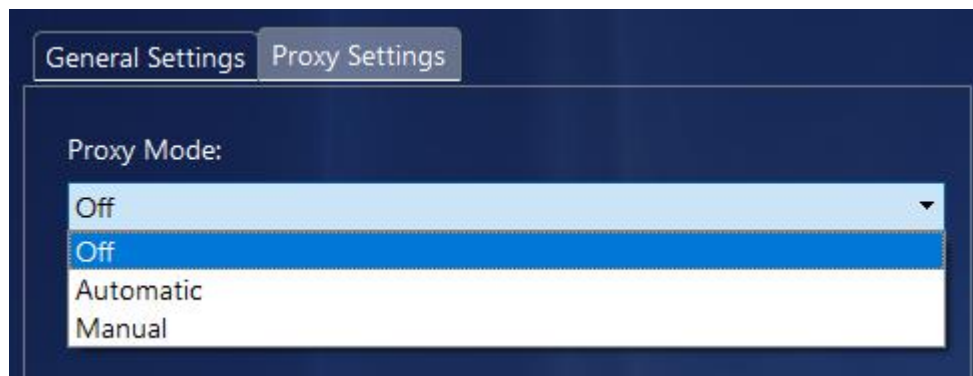
設定 - AccessPad のユーザ側の設定を行います



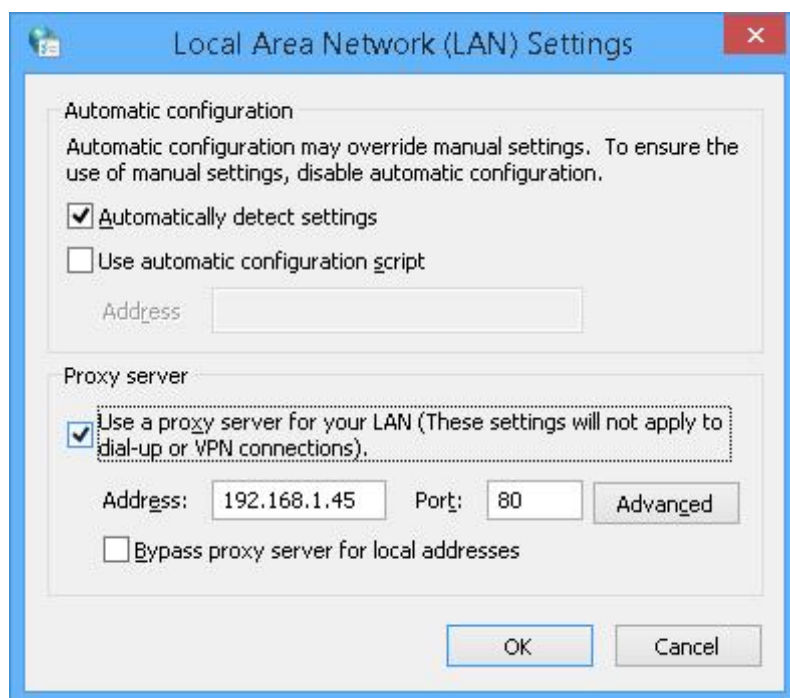
ログオフ - ログオフします

プロキシのサポート

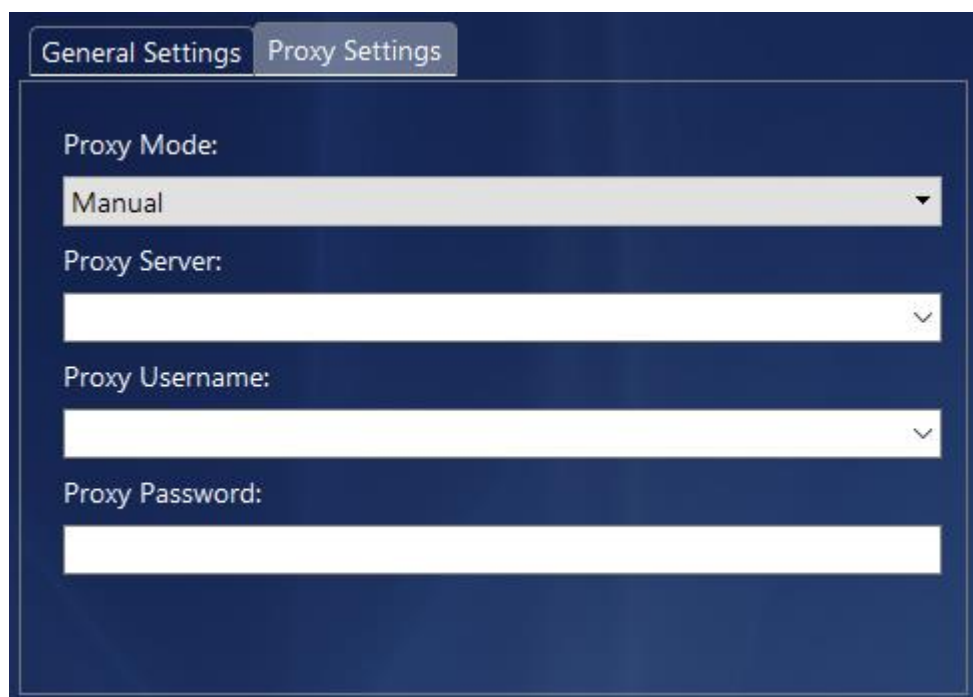
バージョン 8.2 以降では、Web プロキシを介して接続するよう AccessPad を設定できます。プロキシ設定は、AccessPad への接続および起動したすべての接続に使用されます。プロキシのパラメータは、「設定 | プロキシ設定」から設定します。以下の 3 つのオプションがあります: オフ、自動、手動。



自動モードを選択すると、AccessPad はオペレーティング・システム (インターネットプロパティ | 接続タブ | LAN 設定 | プロキシサーバー) で設定されたプロキシを自動的に使用します。



手動モードを選択すると、次を設定するための追加のフィールドが表示されます: プロキシサーバのアドレス、プロキシサーバへのログインに使用するユーザ名、該当するユーザ名のパスワード。



設定を完了すると、定義したプロキシ設定が今後の使用のために保存されます。

プロキシのコマンド・ライン・パラメータ

プロキシ構成は、コマンド・ライン・パラメータ (blaze.exe 用) としても定義できます。設定済みのプロキシを使用してショートカットを展開する場合に便利です。

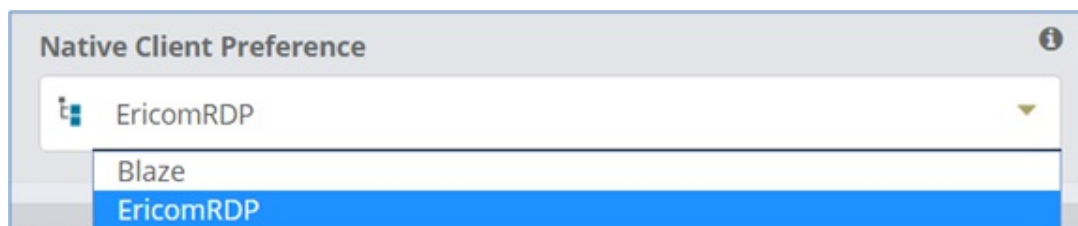
構文: `blaze.exe -proxy-mode [proxy_mode] -proxy-server [proxy_server] -proxy-user [proxy_user] -proxy-password [proxy_password]`

- `proxy_mode` - (数値) 0 - プロキシ・モード: オフ、1 - プロキシ・モード: 自動、2 - プロキシ・モード: 手動。
- `proxy_server` - (文字列) プロキシ・サーバーのホスト名または IP アドレス + コロンとポート番号 (例: `myproxy.com:3138`)。
- `proxy_user` - (文字列。オプション) プロキシへのログインに使用するユーザ名。
- `proxy_password` - (文字列。オプション) 指定したユーザに対応するパスワード。ユーザ名に対してパスワードが必要な場合は、この値は必須です。ユーザ名に対してパスワードが必要であっても、パスワード欄が空白の場合、AccessPad ではプロンプトが表示されません。

RDP モード (Windows のみ)

バージョン 8.0 以降では、AccessPad の新機能で、RDP をプロトコルとして使用し接続を起動できるよう管理コンソールで設定が可能です。AccessPad には、ネイティブ RDP を使用して接続を確立するための「EricomRDP」コンポーネントがビルトインされています。これは、`mstsc.exe` を使用しません。RDP 接続が確立されると、アップストリーム・オーディオ、USB リダイレクション、RemoteFX などを含む標準 RDP 機能の多くが使用可能になります。EricomRDP は、接続先が Windows 2012R2 以降であり、Windows 7SP1 以降を起動しているエンドユーザ・システム上で利用可能です。バージョン 8.1 以降では、EricomRDP は Windows 2008R2 以降を実行しているホストに接続できます。アプリケーションまたはデスクトップでの RDP の使用を有効化するには、以下を実行します: EricomRDP が有効化された接続を Windows 7 SP1 以前の Windows システムや Windows 以外のオペレーション・システムで起動した場合、Blaze プロトコルが自動的に使用されます。

- 管理コンソールを開き、接続の「Advanced」タブに移動します。
- 「Session Configuration | Native Client Preference」に移動します。
- 希望するオプションを選択します。
- この設定は、公開グループまたはシステムのデフォルト・レベルでも構成できます。

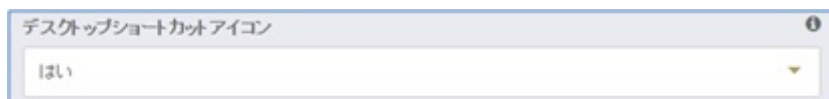


ビルトインの EricomRDP コンポーネントにはいくつかの既知の動作があります:

- タイムゾーンのリダイレクトが常に有効化されます
- ドライブのリダイレクトは、すべてまたは全くなしになります (個別の選択はできません)
- マルチモニタの使用には、すべてのモニタで同一の解像度を使用する必要があります
- ESG と共に使用する場合、RDCB ファームはサポートされません
- Windows 8 および 2012 R2 以降との接続で最適に機能します。
- ESG に接続している Windows 7 システムでは、EricomRDP を使用できません。

ローカル・デスクトップ・アイコン (Windows のみ)

AccessPad では、公開リソースのデスクトップ・ショートカット/アイコンの作成を有効化できます。デスクトップ・アイコンの有効化は、「公開」 | 「リソース」 | 「基本」タブ内で行います。リソースのデスクトップ・アイコンを有効化するには、設定を「はい」に変更し、「保存」を押します。

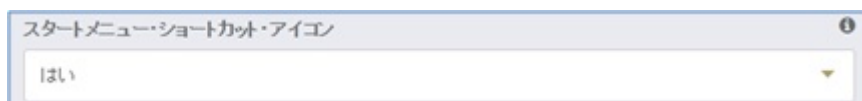


いずれかのデスクトップ・アイコンを有効化した状態でユーザが AccessPad を使用してログインすると、最小化された状態で AccessPad が起動し、デスクトップ・アイコンの有効化が行われたリソースがデスクトップに表示されます。フォルダはアイコンとして表示されないため、フォルダが重要な場合は、各リソースのラベルに次のフォーマットを使用します: <フォルダ名>.<アプリケーション名>.



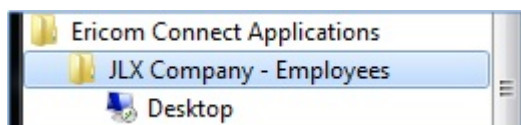
ローカルのスタート・メニュー・アイコン (Windows のみ)

AccessPad for Windows では、公開リソースのスタート・メニュー・ショートカット/アイコンの作成を有効化することができます。スタート・メニュー・アイコンの有効化は、「公開」 | 「リソース」 | 「基本」タブ内で行います。リソースのアイコンを有効化するには、設定を「はい」に変更し、「保存」を押します。



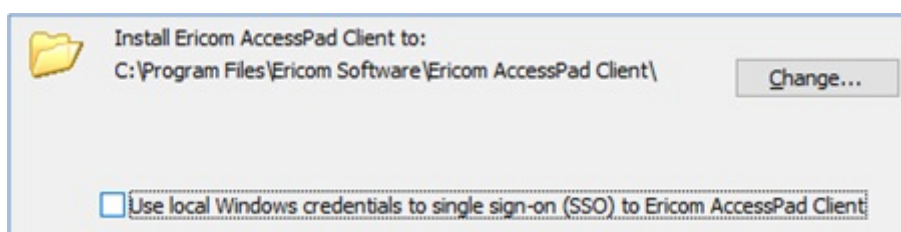
スタート・メニュー・アイコンを有効化した状態でユーザが AccessPad を使用してログインすると、AccessPad は最小化された状態で起動し、スタート・メニュー・アイコンの有効化が行われたリソースがデスクトップに表示されます。

Ericom Connect Applications という名前のルート・フォルダを使用して、スタート・メニューにアイコンが表示されます。各 Ericom Connect 環境には、次のフォーマットを使用したフォルダがそれぞれに存在します: 「組織名 - テナント名」 組織名の値が空の場合、テナント名のみが表示されます。

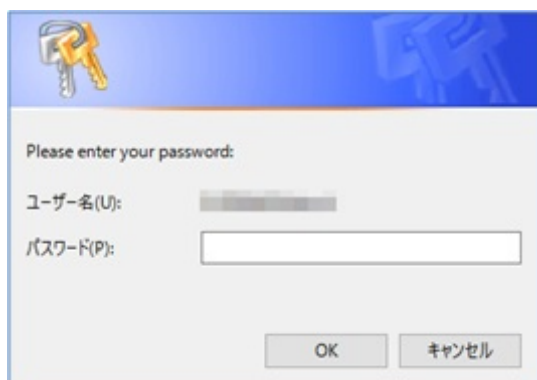


ローカル Windows ・デスクトップからの SSO (Windows のみ)

AccessPad for Windows では、AccessPad へのシングル・サインオン (SSO) に ローカル Windows 資格認証を使用できます。SSO を有効にするには、インストール中に「User local Windows credentials…」チェックボックスをオンにします。



SSO 機能を有効にするには、AccessPad のインストール後に再起動が必要です。再起動を行わない場合、初回の AccessPad の起動でパスワードを入力が必要になります。



RADIUS を有効化している場合、SSO は継続して動作し、接続プロセスで 2 番目の要素のダイアログが表示されます。セッションでデスクトップ・アイコンが有効化されている場合、ログインが成功すると AccessPad は最小化された状態で起動します。

注意: サーバのアドレスが無効または存在しない場合、SSO 機能は停止します。AccessPad MSI でサーバ・アドレスを事前設定することで、シームレスな接続が提供可能になります。初回の接続の成功後、今後の使用のためにサーバ・アドレスをキャッシュすることもできます。

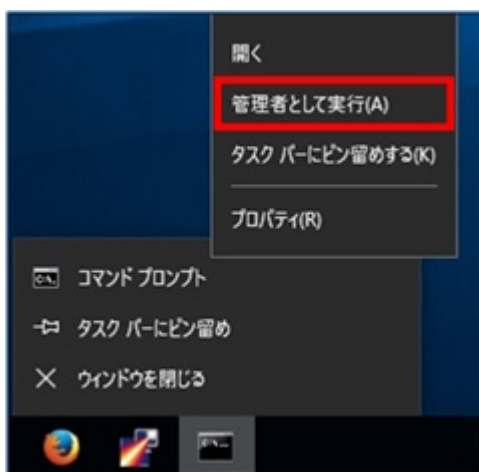
AccessPad Uniprint バンドル (Windows)

Uniprint クライアントがバンドルされた AccessPad MSI インストーラをダウンロードして入手できます。このインストーラを使用すると、AccessPad のインストール中に Uniprint クライアントがインストールされます。以前のバージョンの Uniprint クライアントがシステムにインストール済みの場合、インストールが停

止します (既存のバージョンはそのまま残ります)。 Uniprint クライアントが既に存在する場合、AccessPad のスタンドアロン・インストーラ (Uniprint なし) を使用するか、既存のバージョンの Uniprint をアンインストールして続行します。バンドルされている AccessPad をアンインストールする場合、Uniprint クライアントもアンインストールされます。バンドルされた AccessPad MSI には以下の 2 つのバージョンがあります:

- 32 ビット OS 用: EricomAccessPadClientExtended.msi
- 64 ビット OS 用: EricomAccessPadClientExtended64.msi

「管理者」権限 (推奨) を使用してバンドルされた AccessPad MSI をインストールする場合、Uniprint は「C:\Program Files\UniPrint Client」にインストールされ、システムのすべてのユーザが利用可能になります。コマンド管理者としてインストールするには、「管理者」としてコマンド・プロンプトを使用します



次を実行します: `msiexec /i <AccessPad インストーラ>`

管理者以外のユーザとしてインストーラを使用した場合、Uniprint は「C:\Users<ログイン・ユーザ>\AppData\Roaming」にインストールされ、現在のユーザのみが利用可能になります。

AccessPad Uniprint バンドル (Mac)

AccessPad と Uniprint クライアントがバンドルされたパッケージ・インストーラをダウンロードできます。このインストーラを使用すると、Uniprint クライアントがインストールされ、以前インストールした Uniprint クライアントは上書きされません。Mac OSX 10.8 以降と互換性があります。Mac 用の Uniprint を使用するには、ユーザ・セッションでクリップボードのリダイレクトを有効化する必要があります。詳細な説明については、Uniprint Mac クライアント管理者ガイドの「Uniprint Management Console Settings」セクションを参照してください (Uniprint の Web サイトからダウンロード可能です)。AccessPad からの接続を起動する前に、Uniprint クライアントを開始して実行中にする必要があります。

AccessPad (Linux)

インストールの前提条件は以下のとおりです：

- Ubuntu 14.04 LTS 以上
- MMX 対応の CPU
- 以下の依存関係：：

```
sudo apt-get install libqt5x11extras5
```

```
sudo apt-get install libqt5printsupport5
```

```
sudo apt-get install libqt5serialport5
```

```
sudo apt-get install libqt5multimedia5-plugins
```

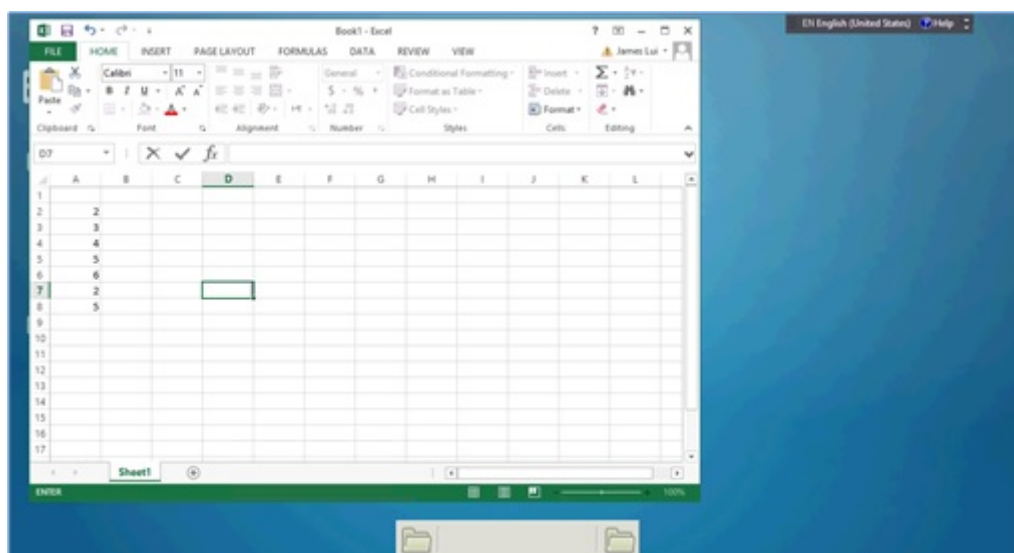
前提条件のインストールの完了後、Ericom のインストーラをダウンロードしてください。Linux 上のすべてのファイル名は、大文字と小文字が区別されます。Debian ベースの Linux ディストリビューション用の DEB インストーラが提供されています。

次を使用してダウンロードします：`sudo wget http://www.ericom.com/demos/nonwin/Ericom-AccessPad_64-bit.deb`

AccessPad for Linux をインストールするには、以下のコマンドを実行します (大文字と小文字が区別されます)：`dpkg -i Ericom-AccessPad_64-bit.deb`

アプリケーションは次のディレクトリにインストールされます：`/opt/ericom/ericom-accesspad/`

アプリケーションを起動するには、このディレクトリから「./blaze」を実行します。



アンインストールするには、以下のコマンドを実行します:

```
sudo dpkg --purge ericom-connect-remote-host
```

Ericom AccessPad/Blaze for Linux 7.6.1 は、64 ビット・クライアントの起動バージョンです。以下は、このリリースにおける既知の制限の一部です。これらは、使用されているウィンドウ・マネージャによって異なります。

- フルスクリーン・モード中、セッションを「復元」すると、最大化・最小化の機能が動作しなくなります。ウィンドウ・サイズを調整するには、アプリケーションを再起動してください。
- Blaze セッションを最小化すると、復元できなくなる場合があります。アプリケーションを閉じ、再起動してセッションに再接続してください。
- フルスクリーン・モードを終了すると、新たなウィンドウが画面の上部隅にロックされる場合があります。
- シームレス・アプリケーションのウィンドウのドラッグがスムーズに動作しない場合があります。ウィンドウのドラッグが完了するまで、黒色の空白エリアが表示されます。
- 低解像度ディスプレイに高解像度セッションを表示する際、セッションに白色の枠が表示される場合があります。

■ AccessToGo Connect (モバイル)

ダウンロードできる場所

次の 2 つのバージョンの AccessToGo で Ericom Connect がサポートされています: ユニバーサル AccessToGo アプリおよび AccessToGo Connect アプリ。AccessToGo Connect は Ericom Connect ユーザー専用です。

- Android AccessToGo Connect: Google Play または Amazon Android アプリストアで Ericom Connect を検索します。
- Apple iOS AccessToGo Connect: iOS App Store で Ericom Connect を検索します。

使用方法

AccessToGo を使用して、Ericom Connect 接続ブローカでホストされているアプリケーションやデスクトップへ接続できます。Ericom Connect で AccessToGo を使用する手順は以下のとおりです:

- エンドユーザー・デバイス (例: iPad) に AccessToGo をインストールします。
- Ericom Connect サーバのアドレスに接続するよう AccessToGo を設定します。ポート 8011 または 443 以外を使用する場合、明示的に指定します (例: 192.168.1.1:4343)。
- 接続がリモートで行われる場合、ファイアウォール/ルータの外部アドレスとポートを使用します。Ericom Connect サーバへの受信接続をポート転送するルールが設定されている必要があります。

- リモート接続用に Ericom Secure Gateway を使用している場合、その外部アドレスとポートを指定します (Ericom Connect の内部アドレスではなく)。Secure Gateway は Ericom Connect サーバへのリバース・プロキシとして動作します。Secure Gateway のポート値を変更することが可能です (デフォルトは 443)。
- ユーザがサインインすると、割り当てられたすべてのリソースが表示されます。



- 目的のリソースをタップして接続を開始します。

■ シングル・サインオン (SSO) のオプション

直接起動用の SSO インターフェース

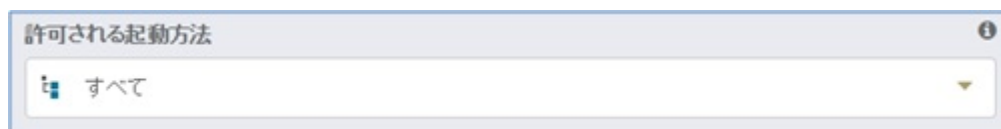
Ericom Connect には、外部の Web サイトからリソースを起動するためのシングル・サインオン (SSO) インターフェースが含まれています。この機能により、AccessNow インターフェースを使用してアプリケーションやデスクトップを直接起動できます。Connect にパラメータを渡すためのランディング・ページを設定する方法のデモとして、サンプルの SSO ページが次のリンク先で提供されています:

<https://host.addr.com:8011/ericomxml/accesssso/ansso.htm>

End User Web Service(EUWS) の呼び出しにより SSO が実行された場合:

- Blaze 設定パラメータは、Cookie または URL パラメータの形式でユーザのブラウザに戻されます。
- AccessNow Start ページへの URL が、指定したリソースで起動されます。
- エンドユーザに対し 1 つのグループのみが公開されている場合、グループ名をパラメータとして指定する必要はありません。

- Connect CLI コマンド「EncryptSsoPassword」により生成した暗号化パスワードを使用するには、SSO ページの「Encrypted」設定を確認してください。POST SSO を実行する場合、値「EncryptedPassword」を渡し、 に設定します。
- アプリケーションとグループのエンコードされた ID がサポートされています。ただし、アプリケーションの「許可される起動方法」が「標準」または「すべて」に設定されていることを確認してください。



- エンコードされた ID を使用した設定例:

End User Web Server	localhost:8033
Username	hpuser
Password	*****
Application (Name ID)	d84dbac3-83d9-4612-8119-aa1bb5d6dbc9
Group (Optional Name ID)	a330d879-5ac6-46fe-84ab-97b604936f41

要件

AccessServer には、信頼された証明書の設定が必要です。Access Server Configuration Tool | Security タブ | に移動し、サーバ上の信頼された証明書の拇印を入力します。変更を適用するために、Access Server を再起動します。

Cookie を使用した起動

EUWS を呼び出すと、接続が呼び出されます。その接続では、Blaze 構成パラメータが直接 AccessNow start.html に Cookie で渡されます。

URL パラメータを使用した起動

EUWS を呼び出すと、Blaze 構成パラメータを含む URL に基づいて接続が呼び出されます。URL の例:

```
https://servername/EricomXML/AccessNow/start.html?autostart=true&settingsURL=/EricomXML/GetAccessNow/0267-49a5-be73-6c88a5abed46_____user01_bf59952c-8f2b-4c24-a579-407705c22119
```


キオスク端末での SSO ページ

Ericom Connect 7.5.1 以降には、AccessNow インターフェースを使用して直接アプリケーション/デスクトップを起動するためのシングル・サインオン (SSO) ページが含まれています。このページは、アプリケーション名、フォルダ名、フルスクリーン・モードを事前設定できます。アプリケーションが最上位に存在し、ユーザのアプリケーション一覧の他の場所に存在しない場合のみ、「グループ」値がオプションとなることに注意してください。アプリケーションが複数のグループに存在する場合、そのうち 1 つが最上位に存在する場合でも、「グループ」値を定義する必要があります。次の例の URL を使用してこの SSO ページにアクセスできます。

https://host.addr.com:8011/ericomxml/accesssso/ANSSO_LaunchApp.htm

このページは、キオスク端末や Chromebook で使用する際に、アプリケーションやデスクトップをフルスクリーン・モードで直接起動するのに役立ちます。アプリケーション、フォルダ、フルスクリーン・モードを指定するには、htm ファイルを編集し、次の各変数を見つけます: 「application」、「group」、「fullScreen」。ファイルの記載に従って各変数を設定します。このファイルは、EndUserWebService 上の次の場所にあります: C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Client Web Service\WebServer\AccessSso 編集した設定ファイルをすべての EndUserWebService サーバにレプリケートしてください。Ericom Connect のバージョン 7.2 と 7.3 に互換性があります。

AccessPortal 用 SSO インターフェース

Ericom Connect には、外部の Web サイトから AccessPortal を起動する、シングル・サインオン (SSO) インターフェースが含まれています。この機能により、SSO を介して資格情報を使用し、AccessPortal を起動します。Connect AccessPortal にパラメータを渡すためのランディング・ページ設定方法のデモとして、サンプルの SSO ページが次のリンク先で提供されています:

<https://your-host.ericom.local:8011/ericomxml/accesssso/accessportalso.htm>

以下のパラメータが SSO インターフェースに渡されます:

- このリソースへの POST: /EricomXML/AccessPortalSso.htm
- Username(ユーザ名)
- Password(パスワード)
- Application(アプリケーション)
- Connect CLI コマンド「EncryptSsoPassword」により生成した暗号化パスワードを使用するには、

SSO ページの「Encrypted」設定を確認してください。POST SSO を実行する場合、値「EncryptedPassword」を渡し、yes に設定します。

詳細については、「accessportalsso.htm」ページのソースを参照してください。

■ エンコードされた AccessPad アイコンの配置

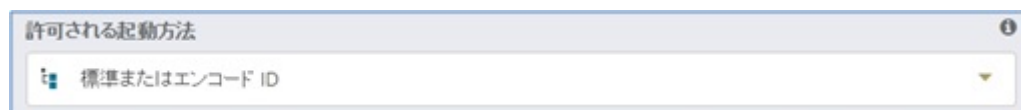
Ericom Connect と AccessPad 7.5.2 以降では、独自のエンコードされた AccessPad ショートカットを手動で作成することができます。これにより、AccessPad へのユーザのログインを必要とせずに、事前に作成したショートカットを配置することができます。エンコードされたショートカットには、BASE64 文字列が使用されます。公開済みのアプリケーションとグループ用に、エンコードされた ID を作成します。アプリケーションが複数のグループに割り当てられている可能性があるため、このグループ値が必要とされます。

ConnectCLI GenerateEncodedConnectionID <アプリケーション名 | アプリケーション固有 ID >
<グループ名 | グループ固有 ID >

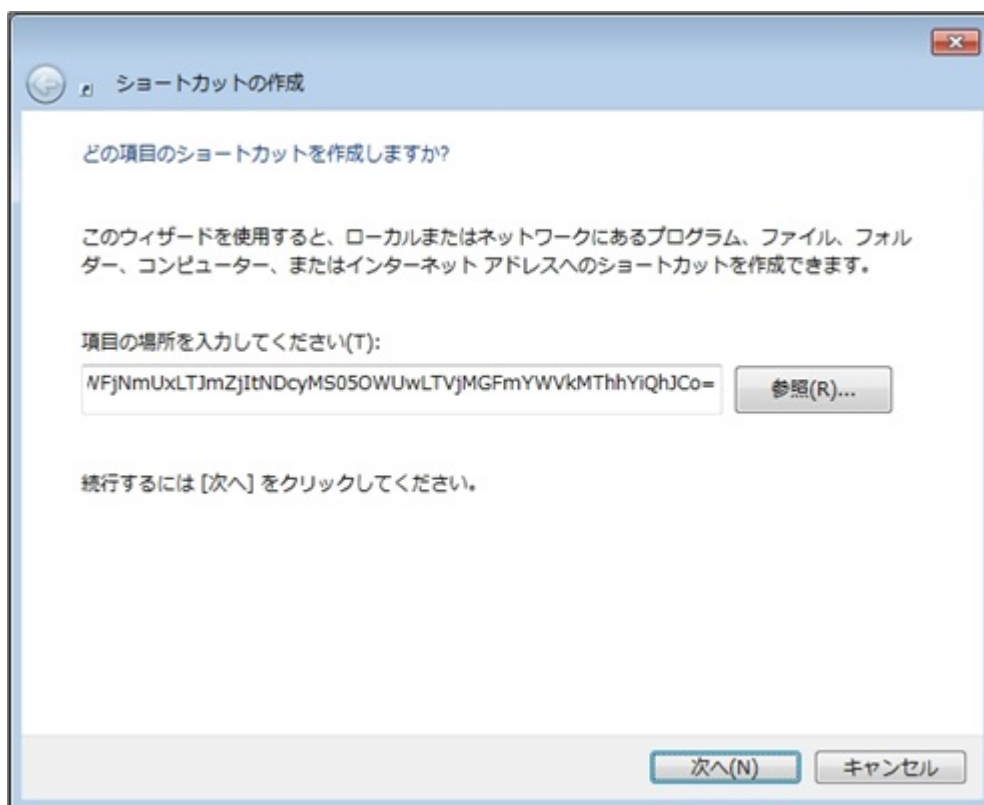
アプリケーション名およびグループ名は大文字小文字が区別されることに注意してください。これにより、エンコードされた接続 ID が生成されます。この ID を AccessPad アプリケーションの起動用ショートカットで使用します。

```
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool>connectcli GenerateEncodedConnectionID d84dbac3-83d9-4612-8119-aa1bb5d6dbc9 a330d879-5ac6-46fe-84ab-97b604936f41
Connect Admin User: vis
Password: *****
Before encoding: d84dbac3-83d9-4612-8119-aa1bb5d6dbc9$!$*a330d879-5ac6-46fe-84ab-97b604936f41$!$*
Invoke as
<Path to AccessPad installation>\Blaze.exe -accesspad /encodedConnectionId=v1/ZDg0ZGJhYzMtODNkOS00NjEyLTIgMTktYWExYnI1ZDZkYmMSJCEkKnEzMzBkODc5LTUhYzYtNDZmZS04NGFiLTk3YjYwNDkzNmY0MSQhJC0=
```

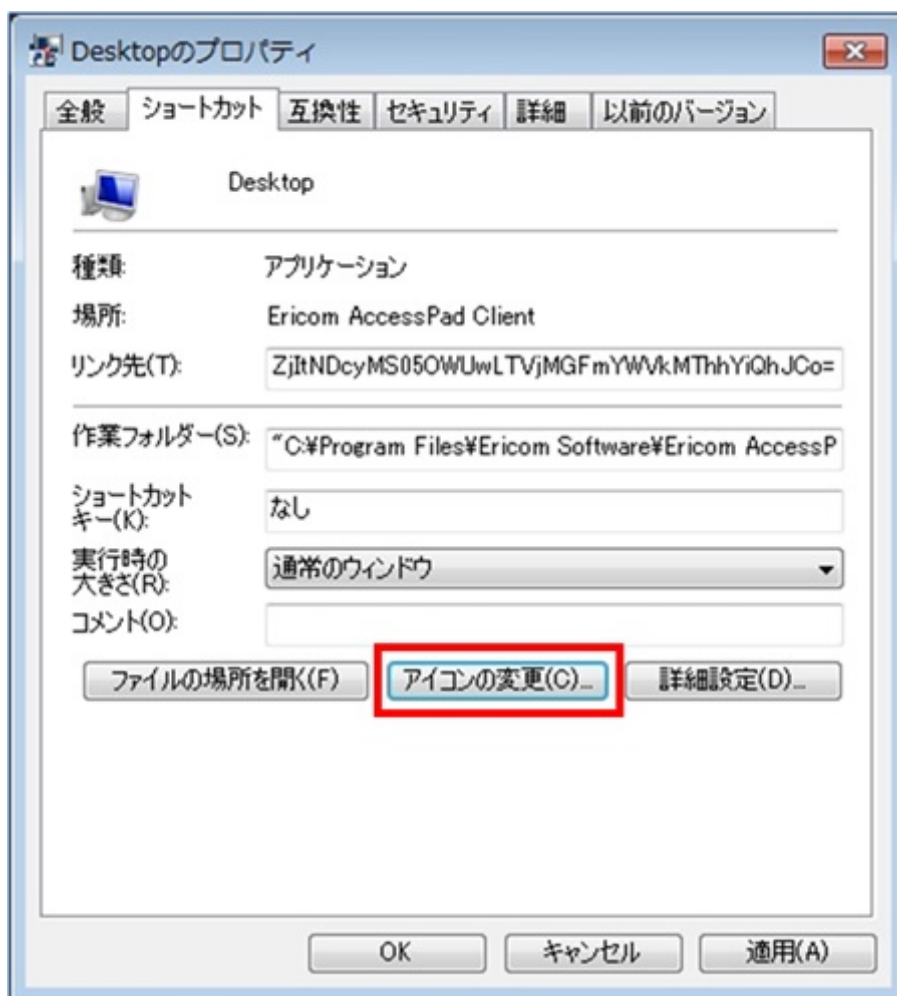
エンコードされた値をショートカットで使用する際には、「設定 | デフォルト | 要件 | 許可される起動方法」で「エンコード ID」の使用が許可されていることを確認してください。



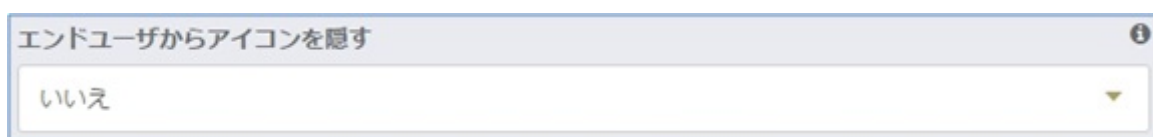
AccessPad へのパスとエンコード ID を使用して新しいショートカットを作成します。以下は、Windows の「新しいショートカットの作成」での例です。



目的のアプリケーション・アイコンと使用し、目的の場所 (例: デスクトップ、スタートメニューなど) にアプリケーションを配置するようショートカットを設定します。



初回の AccessPad の起動では、Ericom Connect サーバのアドレスの手動入力が必要であることに注意してください。一度アドレスを入力して使用すると、今後の使用のためにキャッシュされます。さらに、「エンドユーザ・ポイントのカスタマイズ」に記載の手順を使用して、アドレスを事前設定できます。「エンコードされた ID のみ」を使用するように設定したアプリケーション (および関連するグループ) は、「デスクトップ・アイコン」または「スタートメニュー」を有効化することができません。さらに、「エンドユーザからアイコンを隠す」を有効化する必要があります。



■ Web サイトからのアプリケーションの起動

公開済みのアプリケーションとデスクトップは、URI(Uniform Resource Identifier) を使用して、AccessPad 経由で起動することができます。デフォルトの UR は、「estp」ですが、カスタマイズが可能です。この機能を使用すると、構成済みのパラメータを使用して公開済みアプリケーションを起動できる独自の URL を公開できます。この機能には以下のような使用例があります:

- 公開済みの Web ブラウザを起動し、構成済みの Web サイト URL を起動するセキュアな URL リンクの公開

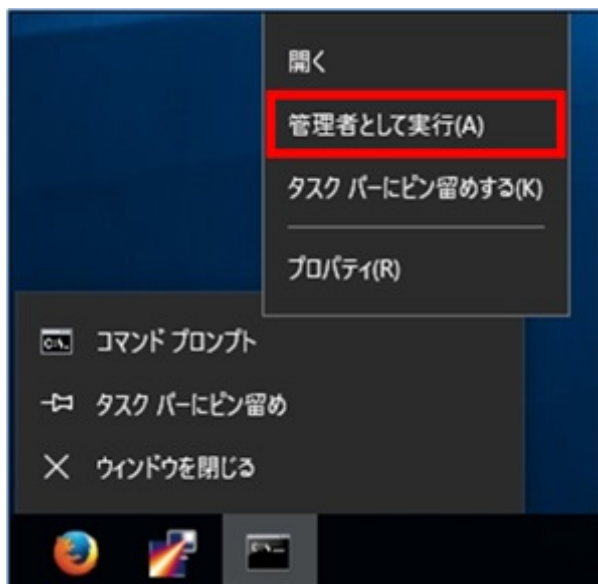
- ターミナル・サーバの仮想 Excel を使用して開く Excel ドキュメントの公開
- 事前定義した設定ファイルを使用したターミナル・エミュレーターの起動

この機能には Windows ホスト・オペレーティング・システムが必要です。この機能は AccessPad 7.5.2 以降のバージョンでサポートされています (AccessPortal および AccessToGo には対応していません)。

インストール

URI 登録は、AccessPad Windows インストーラのオプション機能です。この機能を使用するには、「管理者」権限を使用してコマンド・プロンプトから MSI を起動する必要があります。「管理者」権限でコマンド・プロンプトを起動するには、アイコンを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。

インストール中、構成オプションのプロンプトが表示されます。この機能を有効化するには、「Register the Ericom URI on this machine (Ericom URI をこのマシンに登録)」をチェックします。



エンコードされた URL を作成する

Ericom Connect と AccessPad 7.5.2 以降では、エンコードされた AccessPad URI を作成できます。これにより、管理者は、ローカルにインストールした AccessPad を使用して公開アプリケーションを起動する指示をウェブサイトに配置することが可能になります。エンコードされた URI は、アプリケーションとグループを BASE64 の文字列にエンコードします。まず、公開済みのアプリケーションとグループ用に、エンコードされた URI を作成します。アプリケーションが複数のグループに割り当てられている可能性があるため、このグループ値が必要とされます。

ConnectCLI GenerateEncodedUri <アプリケーション名 | アプリケーション固有 ID> <グループ名 | グループ固有 ID>

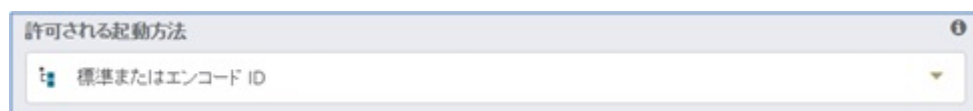
アプリケーション名およびグループ名は**大文字小文字が区別される**ことに注意してください。名前ではなく ID を使用することは、推測が困難になるため、一般的にセキュアな方法となります。ID は時間経過によって変更されることがありません。「名前」は管理者によって変更され、以前エンコードされた URL が使

用不可能となる可能性があるため、ID はより信頼性のあるものとなります。これにより、エンコードされた接続 URI が生成されます。この URI を AccessPad アプリケーションを起動するための Web ページに使用します。

```
C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool>connectcli GenerateEncodedUri ?
Connect Admin User: vis
Password: *****
Too few arguments

C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool>connectcli GenerateEncodedUri d84dbac3-83d9-4612-8119-aa1bb5d6dbc9 a330d879-5ac6-46fe-84ab-97b604936f41
Connect Admin User: visitor
Password: *****
Before encoding: d84dbac3-83d9-4612-8119-aa1bb5d6dbc9$!$*a330d879-5ac6-46fe-84ab-97b604936f41$!$*
estp://accesspad/v1/ZDg0ZGJhYzMtODNkOS00NjEyLTg0MTktYWEeXnI1ZDZkYmM5JCEkKnEzMzBkODc5LTUhYzYtNDZnZS04NGFiLTk3YjYwNDkzNmY0MSQhJCo=
```

エンコードされた値をショートカットで使用する際には、「設定 | デフォルト | 要件 | 許可される起動方法」で「エンコード ID」の使用が許可されていることを確認してください。



URL の生成後、目的の Web ページにこれを埋め込みます。URL を使用した HTML コードのサンプル:

```
<A href="estp://accesspad/v1/NDg4NTMwYTUtZDI0Zi00ZGMylWE1OTEtNTM3YTc0ZTQ1ZTgyJCo=">ESTP Encoded</A>
```

ESTP Encoded 初回の AccessPad の起動では、Ericom Connect サーバのアドレスの手動入力が必要であることに注意してください。一度アドレスを入力して使用すると、今後の使用のためにキャッシュされます。さらに、「エンドユーザ・ポイントのカスタマイズ」に記載の手順を使用して、アドレスを事前設定できます。

カスタム URI を作成する

デフォルトの Ericom URI は「estp」です。対象のシステムに新しいレジストリ・エントリを追加することで、カスタム URI を作成できます。新しい URI レジストリ・キーを作成するには、デフォルトの estp キーを変更し、目的の URI を入力します (estp の文字列を置換します)。

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\estp]
```

```
@="URL:Ericom Protocol"
```

```
"URL Protocol"=""
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\estp\DefaultIcon]
```

```
@="Blaze.exe,1"
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\estp\Shell]
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\estp\Shell\Open]
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\estp\Shell\Open\Command]
```

```
@="C:\Program Files\Ericom Software\Ericom AccessPad Client\Blaze.exe" "-accesspad" "%1"
```

URI を使用するためのホスト Web ページを構成する

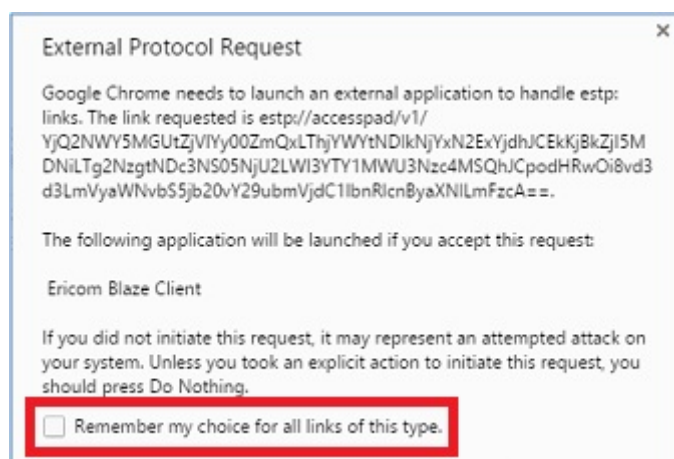
Ericom URI は、Web ページから起動します。Ericom より、URL を構成する方法例のページが提供されています (EncodedShortcut.html) URL リダイレクションを使用する各ページに、次の 2 つの Javascript ファイルが必要です: jquery-2.2.3.min.js および EricomLaunch.js この 3 つのファイルのご要望は、Ericom テクニカル・サポートまでお問い合わせください。

以下に沿って EricomLaunch.js を構成します:

- App : 名前または ID。(ID は、リソースの「基本」タブ内にあります)
- Group : 空白、名前または ID。(ID は、グループの「基本」タブ内にあります)
- URI [構成済み URI の値 (デフォルト = estp)] 構成のサンプルについては、「4.15 Windows RDS でのセキュアなブラウジング」のセクションを参照してください。

ブラウザの警告メッセージ

一部のブラウザでは、Web サイトから AccessPad のようなローカル・アプリケーションを起動する際に、警告メッセージが表示されます。今後このメッセージを非表示とするには、「Remember my choice for all links of this type(このようなリンクの設定をすべて保存する)」を選択します。



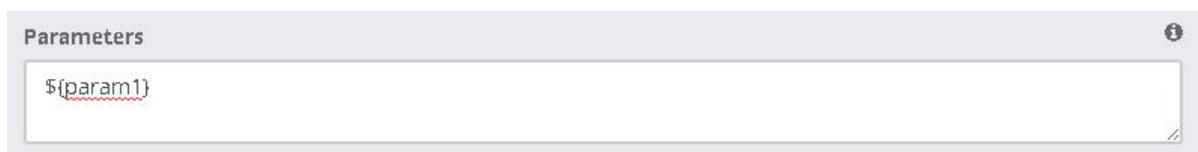
公開アプリケーションにパラメータを渡す

Ericom Connect は、ローカル・デバイスから公開アプリケーションにパラメータを渡すための革新的な方法を提供します。これは、AccessPortal、AccessPad、および AccessToGo でサポートされています。パラメータによって呼び出されるリソースは、リモート・セッションからアクセス可能である必要があることに注意してください。パラメータを受け取るために特別に使用するアプリケーションを公開する方法は以下のとおりです:

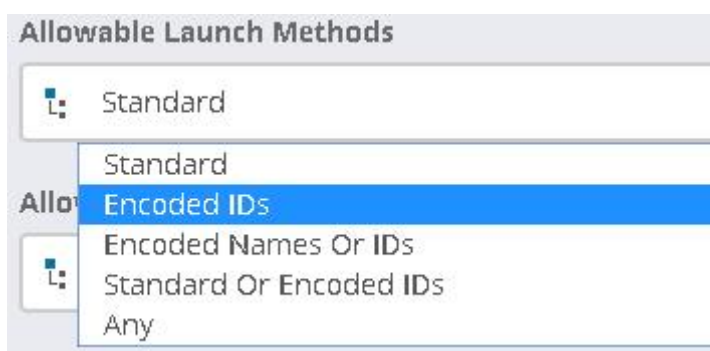
- (LNK ファイルではなく) 完全なパスを使用してアプリケーションを公開します
- $\${param1}$ を使用して、パラメータの使用を指定します
- 渡されるパラメータ値の長さは、256 文字に制限されていることに注意してください。8.1 以降では、RDP ホストが Windows である場合、文字数が 256 文字に制限されなくなりました。8.2 以降では、

Linux においても文字数が 256 文字に制限されなくなりました。

- 公開済みのアプリケーションは一般的な目的で使用するものではない (URI から渡すパラメータを必要とする) ため、アイコンをエンドユーザに対し非表示にします

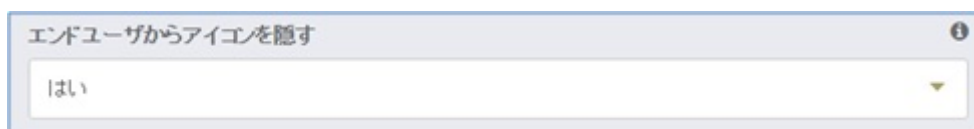


「要件」タブに移動し、「許可される起動方法」がアプリケーションの参照方法と一致していることを確認します。方法は、「リソース名」または「エンコード ID」を使用します。例えば、ConnectCLI コマンドまたは Javascript を使用して生成したエンコード済みの値には、「エンコード ID」を許可する必要があります。



既知の動作

「エンコードされた ID のみ」を使用するように設定したアプリケーション (および関連するグループ) は、「デスクトップ・アイコン」または「スタートメニュー・アイコン」を有効化することができません。さらに、「エンドユーザからアイコンを隠す」(Hide icon from end-user) を有効化する必要があります。



■ エンドユーザ・ポイントのカスタマイズ

このセクションでは、環境をカスタマイズするために様々なエンドユーザ・タッチポイントを設定する方法を説明します。カスタマイズは Ericom のテクニカル・サポートの対象ではなく、Ericom のエンジニアはオリジナル・ファイルの問題に限りトラブルシューティングを提供することにご留意ください。変更を行う前に、すべてのオリジナル・ファイルをバックアップしてください。

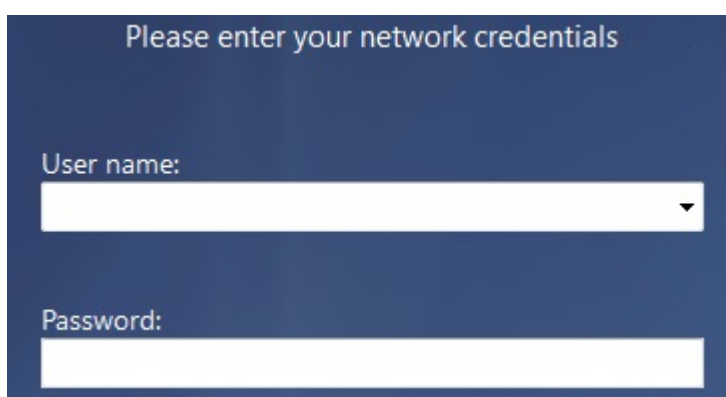
AccessPad の事前構成アドレス

- AccessPad exe には、事前設定およびサーバ・アドレスの非表示を行うためのサーバ・パラメータを使用できます。
- パラメータには、次のフォーマットを使用します:"-accesspad /server=<サーバ名>"

- 例:



- セミコロンで区切ることで、複数のアドレスを使用できます。 例: 「-accesspad /server=svr1.acme.com;svr2.acme.com」
- 事前設定したアドレス値を使用する場合、サーバ・アドレス入力用の GUI の項目は非表示になります。



AccessPad SSO と URI コマンド・ライン

AccessPad SSO と URI の機能は、インストーラのコマンド・ラインで標準 MSI パラメータを使用することで有効化できます。

SSO と URL の両方を有効にするには、次のコマンドを使用します:

- EricomAccessPadClient64.msi ESSO=1 URI1=1

SSO 機能のみを有効化するには、以下のいずれかを使用します:

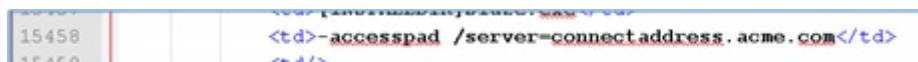
- EricomAccessPadClient64.msi ESSO=1
- EricomAccessPadClient64.msi ESSO=1 URI1=""

URI 機能のみを有効化するには、以下のいずれかを使用します:

- EricomAccessPadClient64.msi URI1=1
- EricomAccessPadClient64.msi ESSO="" URI1=1

独自の AccessPad 設定のパッケージ化

- 「msi2xml/xml2msi」などのツールを使用して、独自の AccessPad 設定の再配布可能な MSI パッケージを作成できます。
- MSI を編集可能な XML に展開するには、次を実行します: `msi2xml.exe -b streams -c files EricomAccessPadClient64.msi`
- 「EricomAccessPadClient64.xml」ファイルを開き、15458 行目に移動し、「SHORTCUT_PARAMS」をアドレス・パラメータで置き換えます。



- XML を MSI に再パッケージ化するには、次を実行します: `xml2msi -m EricomAccessPadClient64.xml`

AccessPortal

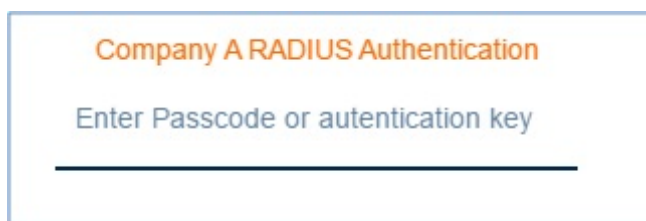
- AccessPortal の画像は、エンドユーザ Web サーバ 上の次の場所にあります: `C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Client Web Service\WebServer\AccessPortaling`
- 「background-neuronal.jpg」などの任意のファイルに変更を加えることで、外観のカスタマイズが可能です。

RADIUS マルチファクターのプロンプト

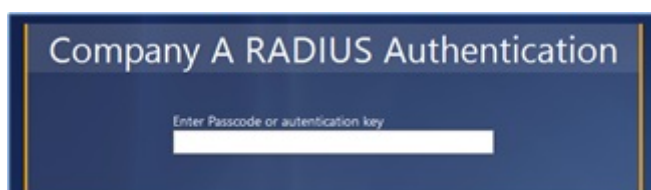
- Ericom Connect サーバ上で、次の場所へ移動します: `C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool`
- 次のファイルを編集します: `Csi4MessageDescriptors\Translatable.xml`
- 288 行目を編集し、パスワードフィールド・ラベル (最大 36 文字) を以下のように変更します:


```
<TranslatableMessage id="Passcode">**Enter Passcode or authentication key**</TranslatableMessage>
```
- -290 行目を編集し、説明テキスト (最大 36 文字) を以下のように変更します: `<TranslatableMessage id="RadiusAuthentication">**Company A RADIUS Authentication**</TranslatableMessage>`
- コマンド・プロンプトから以下の CLI コマンドを実行し (同じディレクトリから)、変更を読み込みます:


```
ConnectCLI ImportLanguageFiles "C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Configuration Tool"
```
- 次回ユーザが AccessPortal、AccessPad、AccessToGo (Connect Mobile App) でログインすると、変更内容を利用できる AccessPortal の結果:

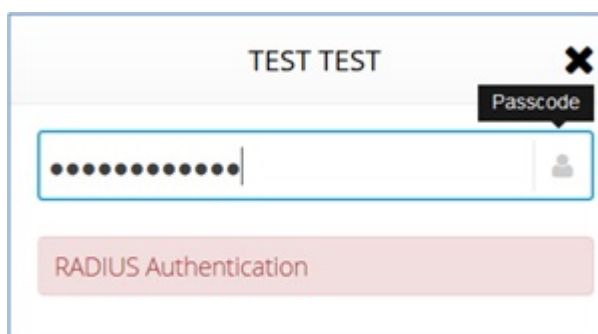


AccessPad の結果:



AccessPortal のプロンプトには、タイトルに追加のテキストが存在します。デフォルトのテキスト「RADIUS Login」を変更するには、以下の手順を実行します:

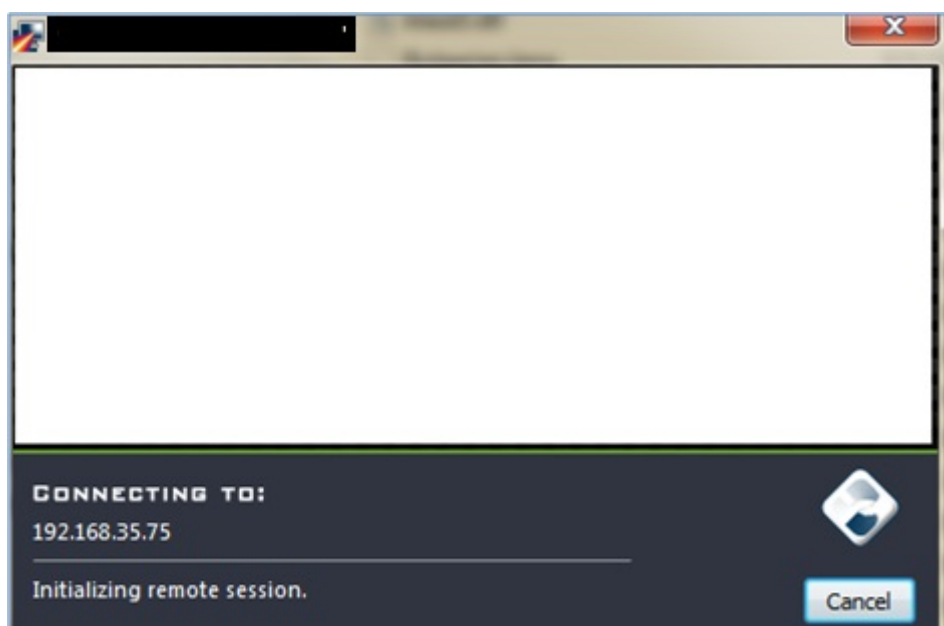
- C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Client Web Service\WebServer\AccessPortal\templates へ移動します
- テキスト・エディタで Open radius-form.htm を開きます
- 次の行を編集します: `{{ 『TEST TEST』 | translate }}`
変更を確認するために、ブラウザ・キャッシュのクリアが必要となる場合があります。



独自の AccessPad ログイン・バナー画像

このカスタマイズは、Ericom プロフェッショナル・サービスを通して利用可能です。AccessPad のログイン・バナーに独自のロゴを設定することができます。独自のスプラッシュ画面を有効化するには、Ericom に

PN ファイルを依頼します。PN ファイルを受け取った後、「splash.png」という名前の PNG 画像を作成します。画像の解像度は 462x194 である必要があります。PN ファイルには、バナーのタイトルを変更するため独自のラベルを含めることも可能です。以下の例では、黒いエリアは独自のラベルを表し、白いエリアは splash.png ファイルで設定されたイメージを表しています。



PN ファイルおよび内部に含まれる PNG ファイルと AccessPad MSI を再バンドルすることで、独自の MSI を作成することができます。

■ パスワードの変更

ユーザが Ericom Access のポイントにログインし、パスワードの変更が必要な場合、プロンプトが表示されます。



継続するには、現在のパスワードを正しく入力し、一致する新しいパスワードを 2 箇所に入力する必要があります。変更と認証が成功すると、公開リソースのページが表示されます。パスワード変更ダイアログで元のパスワードの入力に失敗すると、次のエラー・メッセージが表示されます:

「古いパスワードが間違っています」

古いパスワードが間違っています。

「古い」パスワードの再入力が可能です。操作をキャンセルするには、AccessPad を閉じます。ユーザが入力した新しいパスワードがセキュリティ・ポリシーを満たしていない場合、次のようなエラー・メッセージが表示されます:

「パスワードはパスワードポリシー要件に一致していません。パスワード長の制限 …履歴の要件を確認してください」

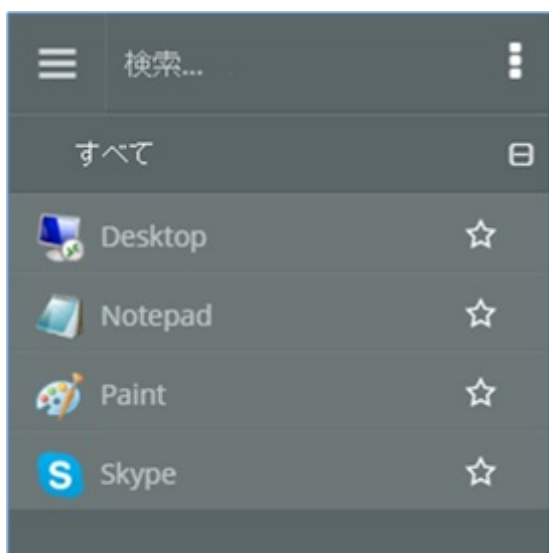
パスワードはパスワードポリシー要件に一致していません。パスワード長の制限、パスワードの複雑性、パスワード履歴の要件を確認してください。

フォルダの構造

ユーザ向けの公開グループが 1 つだけ存在する場合、グループのすべてのコンテンツはルート「最上位」に表示されます。ユーザが 2 つ以上のグループのメンバーである場合、各グループのコンテンツはフォルダとして表示されます。管理コンソール内のグループの「基本」設定に移動して、すべてのグループのコンテンツを最上位 (フラット化した状態) に表示できます。設定「クライアントの最上位に表示」を「はい」に設定します。

The screenshot shows the 'Basic' settings tab for a group. The 'Client display at top level' setting is highlighted with a red box and set to 'Yes'.

基本	リソース	詳細	ユーザ	システム
有効化				
はい				
名前				
All Resources				
説明				
クライアントの最上位に表示				
いいえ				
はい				
いいえ				



設定が「いいえ」の場合、各グループのコンテンツはフォルダとして表示されます。



ユニバーサル印刷

Ericom AccessNow と Blaze は、ユニバーサル印刷をサポートしています (詳細については、AccessNow および Blaze のガイドを参照してください)。Ericom ユニバーサル印刷を使用するには、RDP ホストに汎用ドライバを印刷することが必要です。Ericom により、次の 2 つのタイプの汎用ドライバがテストされています: Lexmark および HP。

社内ラボテストの結果によると、AccessNow では Lexmark ドライバがより高速に動作します。Lexmark ドライバはこちらの Lexmark サイトからダウンロードできます: https://www.lexmark.com/en_us/support/universal-print-driver.html

目的の RDP ホストにドライバをインストールした後、Ericom Connect でそれを有効化するには以下の 2 つの方法があります:

- 管理用 GUI (8.2 以降) でドライバ名を入力します。デフォルトは HP です。これを使用する場合、フィールドを空のままにしておきます。Lexmark を使用する場合、次を入力します: Lexmark Universal v2 PS3



- ConnectCLI コマンドを使用する (Lexmark ドライバ向け): `ConnectCli connectionconfig "universal_S_printer_S_driver=Lexmark Universal v2 PS3"`
- ConnectCLI コマンドを使用する (HP ドライバに戻すため): `ConnectCli connectionconfig "universal_S_printer_S_driver= HP Universal PS Printer Driver"`

8.1.4 展開ガイド

Ericom Connect を展開するための計画プロセスの中で、以下の項目を検討してください:

- どのユーザが Ericom Connect リソースへのアクセス権を持つ必要がありますか?
- すべてのユーザに同じようなニーズがありますか? または、個別のアクセス・ニーズを持つユーザのグループがありますか?
- その環境にプライベート・ネットワークの外部からアクセスするユーザが存在しますか?
- 担当者と彼らグループ内での変更は、アクセス・ポリシーにどのような影響を与えるでしょうか?
- どのような種類のアプリケーションが公開されますか?

このような質問は、リソースの公開の方法や、リソースを「公開」と「システム」のグループに編成する方法を定義するのに役立ちます。

データ・モデルの理解

継承階層

「詳細」や「要件」タブなどの Ericom Connect の設定は、複数のレベルで定義できます。階層レベルを定義する優先順位は以下のとおりです:

- ハードコードされた (ビルトインの) デフォルト - 優先順位: 最低
- システム定義のデフォルト (グローバル・レベル)
- アプリケーションとデスクトップ (リソース・レベル)
- 「公開」グループ (グループ・レベル)
- ユーザ (Active Directory とグループ・ポリシー) – 最も高い 優先順位

より上位のレベルで変更されるまで、下位レベルの設定が継承されます。上位レベルで定義された設定は、下位レベルに反映されません。例えば、アプリケーション・レベルで「接続バー」が「いいえ」に設定されている場合、優先順位が低いために「グループ」では表示されません。公開グループがアプリケーションよりも高い優先順位を持つ理由は、公開グループには詳細な設定が含まれているためです。例えば、アプリケーションのインスタンスは、異なる構成が含まれる複数のグループのメンバーである場合があります。

システム・オブジェクト

システム・オブジェクトには、システム全体にグローバル・レベルで定義されているプロパティがあります (例: 「詳細」設定と「要件」)。これは、管理コンソールにあるナビゲーション・パネルの「設定」オプションで設定されています。

グループ・オブジェクト

グループ・オブジェクトには、類似した属性を持つオブジェクトのグループが含まれています (例: 同じ部署の従業員)。これにより、類似したエンティティを分類することや見つけ出すことが容易になります。Connectには、次の2つのタイプのグループがあります: 「公開」グループと「システム」グループ。

公開グループ

「公開」グループには、次が含まれています: ユーザの割り当て、リソース、「詳細」タブの設定、「システム」要件、リンクされた「システム」グループ。



リソースが「公開」グループに属している場合、グループから一部またはすべてのプロパティを継承します。リソース・オブジェクトで明示的に定義されていないすべてのプロパティは、グループから取得されます。設定がグループ・レベルで明示的に定義されていない場合、グループのユーザはシステム・オブジェクトからデフォルトの設定を継承します。

システム・グループ

「公開」グループと同様、「システム」グループには、そこに含むシステム (サーバまたはワークステーション) を定義するための値が含まれています。「システム」グループを使用して類似したシステムをグループ化して、「公開」グループへ割り当てることができます。例えば、デスクトップ接続に割り当てられる「システム」グループにワークステーションを割り当てます。ユーザがそれぞれのデスクトップ接続を選択すると、定義済みのバインド要件に基づいて1つのワークステーションが割り当てられます。

グループの無効化

グループ・オブジェクトを無効化または削除すると、システムで無効になり、すべての設定と要件は接続に適用されなくなります。

リソース・オブジェクト

アプリケーションとデスクトップは、リソースとみなされます。詳細設定とバインド「要件」は、各リソースで定義できます。リソース・オブジェクトには、アプリケーション名、リダイレクト機能、接続動作などの起動パラメータを定義するプロパティが含まれています。Ericom Connectでは、次の3つの異なるタイプのホストがサポートされています: リモート・デスクトップ・サーバ (ターミナル・サーバ)、物理ワークステーション、仮想デスクトップ。リソースにアクセスするには、リソースが「公開」グループ・オブジェクトに割り当てられている必要があります。このグループ・オブジェクトが接続の所有者になります。1つのリソースを複数の「公開」グループに割り当てることが可能です。

ユーザ・オブジェクト

ユーザ・オブジェクトには次が含まれています: Active Directory で定義された資格情報、属性、グループ・メンバーシップ、ポリシー情報。Ericom Connect にはこのデータへの完全な可視性があり、認証、リソースの割り当て、セッション・プロパティの定義のためにデータが使用されます (例: ユーザのオフィス・ワークステーションの場所を決定するなど)。Connect 内では、設定をユーザ・オブジェクトに直接割り当てることはできません。すべての設定は、ユーザの Active Directory オブジェクトで定義され、それらがユーザのセッション最も高い優先順位を与えられます。

■ バインド要件の理解

ビルトインのリソース・バインド・アルゴリズムにより、接続リクエストに一連のルールが適用され、リソースの起動方法が決定されます。

ルールでは以下がチェックされます:

- 定義されたホストの制限があるかどうか
- 既存の切断されたセッションに再接続するかどうか
- セッションを共有するべき既存のアクティブ・セッションがあるかどうか
- 「要件」タブで定義されたしきい値に基づいた新しいセッションのための有効なシステムかどうか

リソースのリクエストは、上記の基準を満たす最初のシステムへ接続されます。

AD を経由してデスクトップとユーザをバインドする

デフォルトでは、既にサインインしているデスクトップへの接続を試行する際、すでにサインインしているユーザによる試行であっても、接続は失敗します。この動作は、セキュリティ上の理由のためです。Connect には、「後続」のデスクトップ・セッションを可能にするために、構成されたユーザのみがデスクトップに接続できるよう割り当てする機能が含まれています。この「マイデスクトップ」機能を使用するには、目的のデスクトップのアドレスが Active Directory 属性で利用可能であることが必要です。この機能は以下のように動作します: その後この AD 属性は、管理用 GUI またはコマンド・ラインを使用して、利用のために設定されます。「マイデスクトップ」機能を使用する場合、システム・グループのユーザ・アフィニティ設定は、「None」(なし)に設定する必要があります。「None」(なし)に設定されていない場合、次の条件を満たす必要があります: ターゲット・アドレスが、ユーザ属性に含まれること、かつターゲット・ホストの「ユーザーに割り当て済み」設定に割り当てられていること。

GUI を使用した方法: LDAP 属性の割り当て

「Active Directory 属性アドレス」でユーザアドレスを含む AD 属性を入力すると、デスクトップ・リソースの宛先アドレスを Active Directory から取得することができます。この設定を行うには、まずデスクトップ・アドレス (複数可) を含む Active Directory 属性を設定します。

- 「設定」 | 「テナント設定」または「セカンダリ設定」に移動し、「マイ デスクトップ」用の Active Directory の 属性」設定で、ユーザのワークステーション (ターゲット) アドレスを含むすべての Active

Directory 属性を入力します。

「マイデスクトップ」用のActive Directoryの属性

- 次に、デスクトップ・コネクションの「基本」タブ | 「Active Directory 属性アドレス」で属性値を入力します。

The screenshot shows a configuration window with three tabs: '基本' (Basic), '詳細' (Details), and '要件' (Requirements). The '基本' tab is active. It contains the following fields:

- アイコン** (Icon): A dropdown menu showing a desktop icon.
- 有効化** (Enabled): A dropdown menu set to 'はい' (Yes).
- リソース名** (Resource name): A text input field containing 'Desktop'.
- 説明** (Description): An empty text input field.
- Active Directory属性アドレス** (Active Directory attribute address): An empty text input field.

複数のデスクトップ接続がある場合、各コネクションにより 1 つの「属性アドレス」が使用されますが、すべての属性値が「Active Directory 属性」設定に含まれている必要があります。

- デスクトップ対象のユーザの「起動分析」を使用し、接続が正しく目的のデスクトップに設定されていることを確認します。

デスクトップからのシームレス・アプリケーション

管理コンソールを使用してアプリケーションを公開します。次に、アプリケーションの「要件」タブを開き、プロパティ「ワークステーション OS でのアプリの起動を許可」を有効にします。ユーザがこのアプリケーションを選択すると、Connect は、利用可能な (現在どのユーザもサインインしていない) ワークステーションを使用して公開アプリケーションを起動します。

切断のステータス

RemoteAgent およびコンポーネント・サービスには、次の 2 つの切断ステータスがあります: 「永久に切断」と「一時的に切断」サーバ/コンポーネントは以下の方法でこれらの状態になります:

- 一般的な構成ツールから: Disconnect or Prepare for cloning(複製用の切断または準備)
- RemoteAgent 構成ツールから: Disconnect or Prepare for cloning(複製用の切断または準備)

- サーバ/コンポーネントがアンインストールされた場合。
- ConnectCLI 経由でサーバ/コンポーネントをその状態とした場合

Ericom Connect 8.0 以降では、「永久に切断」をマークされているすべてのシステムは、管理コンソールに表示されなくなります。次を使用して、すべてのシステムを表示できます:

ConnectCli remoteHostGroupMembers list <グループ名>

PermanentlyDisconnected とマークされたホストは、今後利用できない状態であり、「Host Not Running Action = Start」などのコマンドに応答しません。

公開グループをポータル・タイプにバインドする

SetConnectionRule コマンドを使用して、公開グループを特定のポータル・タイプと ESG モードに割り当てることができます。例えば、AccessPad クライアント・タイプに「ap」という名前の公開グループを割り当てるには、次のコマンドを実行します:

```
connectcli setconnectionrule ap * PortalType== ' AccessPad'
```

ユーザが AccessPad を使用してログインすると、AccessPad とすべてのタイプ (『*』) にバインドされているグループのみが表示されます。

全コマンドの詳細: 使用法:

```
ConnectCLI SetConnectionRule { リソースのグループ名または ID } { バインドするグループ名または ID | * } formula
```

1 つのリソース・グループ内で 1 つまたは複数のバインディング・グループ用の接続ルールを設定します。

式の例

true : 常に有効化

false : 常に無効化

ViaEsg : ESG へ接続している時

ViaEsg==false : ESG へ接続していない時

PortalType!= ' AccessPortal' : AccessPortal への接続時

PortalType== ' AccessPortal' && ViaEsg : ESG と AccessPortal を経由して接続している時

有効なポータル・タイプ (大文字と小文字を区別): AccessPortal、AccessPad、AccessToGo、AccessNowSso、AccessPortalSso、*

演算子: && || (..) == !=

変数 (大文字と小文字を区別): ViaEsg, PortalType

リテラル (大文字と小文字を区別): true, false, ' string value'

/adminUser <string> []

```

/adminPassword <string> []
/tenant <string> [rooturl]
/gridName <string> [EricomConnect]
/locators <string> [10.0.0.12:4174]
/[no]techSupport [False]

```

より詳細な情報は、テクニカル・サポートまでお問い合わせください。

このコマンドには 8.2 ホットフィックス・バージョン以降では、次の 2 つのパラメータが追加されています。

- EsgAddress : これは、ESG に接続するために使用するホスト [:ポート] です。ホスト名は、小文字で入力する必要があり、ポートは特定することもしないことも可能です (デフォルト: 443)。
- EsgId : ESG の GUID です。

2 つの値は、エンドユーザーセッション情報のレポートで確認できます。

● 作成例

- クライアント IP: 126.0.8.33
- ESG アドレス: srv12lo2-4.cloudconnect.local:443
- スタンドアロンサーバ ID: 9d8d4e16-179a-47db-a331-8d414900d80b
- グループ : ap

にルールを設定する場合。

- setconnectionrule ap * EsgAddress==’srv12lo2-4.cloudconnect.local:443’
- setconnectionrule ap * "RegexMatch(EsgAddress,『 srv12lo2-4|srv12lo2-1』)"

(ESG を介して接続していない場合、変数値は空白の文字列に設定します。)

ESG ポートは存在する場合と存在しない場合があるため、以下のルールを使用できます:

- setconnectionrule ap * "EsgAddress==’srv12lo2-4.cloudconnect.local:443’ || EsgAddress==’srv12lo2-4.cloudconnect.local’"
- setconnectionrule ap * "RegexMatch(EsgAddress, '^srv12lo2-4|srv12lo2-1(:[0-9]+)?\$')"



Tips:

● SetConnectionRule の既知の動作

- PortalType は、コマンドを実行する際に公開グループに割り当てられているすべてのユーザ/グループに適用されます。このコマンドの後に追加されたユーザやグループには、PortalType が継承されず、デフォルトの「*」が使用されます。公開グループのすべてのメンバーに Portal Type を適用するには、Connect CLI コマンドを実行します。
- PortalType ラベルは大文字と小文字が区別されます。AccessPad は「AccessPad」として入力する必要があります。「Accesspad」と入力すると、公開グループが無効なポータルに割り当てられます。この失敗を修復するには、公開グループを「*」PortalType にもう一度割り当てます。

ESG 階層

ユーザの接続に使用される ESG アドレスの決定には、3 つのレベルが使用されます。階層の順序は次のとおりです:

- システム・グループ・レベル
- システム全体のデフォルト
- ユーザ・アクセスのアドレス

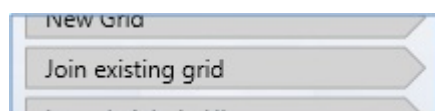
例えば、システム全体のデフォルトのアドレスが aaa.company.com であり、システム・グループ・レベルのアドレスが bbb.company.com である場合、bbb.company.com が使用されます。ユーザ・アクセスのアドレスは、他の 2 つの値が空白である場合のみ使用されます。

■ ビジネス・ロジック・サービスの理解

Ericom Connect サービスの高可用性を維持するために、グリッドに Connect Business Logic(BL) コンポーネント・サーバを追加し、冗長性を持たせることができます。サーバに障害が発生した場合、他のサーバのいずれかがサーバの停止をカバーできます。

Connect BL サーバ

高可用性のために Connect BL サーバを追加するには、Connect をインストールし、Ericom Configuration Tool を使用してサーバを「existing grid」(既存グリッド)に「Join(参加)」します。



プロンプトが表示されたら、新しいサーバが接続するグリッド名を入力します。

 A screenshot of a configuration form with three input fields. The first field is labeled 'Grid' and contains the text 'EricomConnect'. The second field is labeled 'My Host or IP' and contains the text '10.0.0.4'. The third field is labeled 'Lookup Service Hosts' and is currently empty.

データ・パーティション

データ・パーティションには、データの素集合が保持されています。全体として、すべてのパーティションですべてのデータが保持されています。オブジェクトがパーティションに加わると、そこに恒久的に存在し続けます。システムの起動後にパーティション数を変更するには、RemoteAgent を含む接続されたすべての Ericom グリッド・コンポーネントを再起動する必要があります。そのため、後の大規模な再構成変更を避けるために、インストール時にパーティション数を適切に決定することが重要です。パーティション数を変更した場合、すべての Ericom Connect グリッド・コンポーネントを再起動する必要があります。

パーティション内のデータは、インスタンスとしてすべてのマシンに分散されます。各インスタンスには、パーティション内のデータの完全なコピーが保持されます。インスタンスをプライマリとすると、他のすべてのものはバックアップ・インスタンスとなります。プライマリ・インスタンスに障害が発生すると、バックアップ・インスタンスの1つがプライマリとなります。データのコピー数は、インスタンス数と等しくなります。

バックアップ数は、インスタンス数から1を引いた数となります。システムにより、プライマリ・インスタンスからバックアップ・インスタンスへのレプリケートが自動的に行われます。バックアップ数は、インスタンス数から1を引いた数となります(バックアップ数 = インスタンス数 - 1)。バックアップ数を変更した場合、Ericom Connect Business Logic Controller サービスのみを再起動する必要があります。

Grid Storage Container(GSC) は、単一インスタンス(プライマリまたはバックアップ・インスタンス)を保持するプロセスです。各マシンには、任意の数のコンテナを持たせることができます。GSCの必要数を決定するための式は次のようになります: $GSC \text{ 必要数} = \text{パーティション数} \times (1 + \text{バックアップ数}) + 1$ (ミラー用)。デフォルト(バージョン 7.5.1 より)では、単一マシンの展開はバックアップ0の1つのパーティションとなります。 $1 \times (0 + 1) + 1 = 2$ ミラーは、データベースへの書き込みを担当します。

グリッド・ステータスの定義

- Intact - 健全で、すべてが利用可能です
- Compromised - すべてのプライマリが利用可能ですが、一部またはすべてのバックアップが利用不可能です
- Damedged - 一部またはすべてのプライマリが利用不可能で、BL サービスが自動的に再起動します

データの分散

利用可能なシステム数に基づいて複数の構成の組み合わせがあります。まず、ユーザ数を均等にパーティションに割ります。例えば、30,000 ユーザが存在する場合、組み合わせは次の通りになります:

それぞれが1つのパーティションを持つ4つのシステム (7,500 ユーザ/パーティション)

それぞれが2つのパーティションを持つ2つのシステム

4つのパーティションを持つ1つのシステム

下図は、4つのBLコンポーネント・サーバのグリッドのパーティションにデータがどのように保存されているかをサンプルとして図解したものです:



高可用性の実装

高可用性は、システムに単一障害点が存在しないことを保証するものです。単一のサーバまたはコンポーネントに障害が発生しても、システムが正常に動作し続けることを意味します。グリッドを複数のサーバで実行することにより、高可用性を実現できます。グリッドは、レプリケートし、データを共有することが可能で、各サーバのメモリに渡り処理を行います。これにより、ソリューションに高い拡張性を追加し、単一障害点を防ぐことができます。データ・グリッドには、ユーザ、ホスト・マシン、公開リソース、アクティブ・セッション、サーバ・ステータスについてのすべてのデータが含まれています。Ericom Connect により、データの整合性とコンポーネントの整合性の両方が管理されます。

データの整合性

データの整合性は、コンポーネントに障害が発生した場合でも、オペレーティング・システムに必要なすべてのデータが利用可能なことを保証するものです。グリッド・サービスは、サーバのメモリ (RAM) で実行されます。サービスの内部には、データのコンテナが含まれています。各コンテナには、システムの全体的なデータのインスタンスが保持されています。グリッド上で管理されている各データには、少なくとも 2 つのコピーが存在します。これにより、データの整合性と高可用性が保証されます。Ericom Connect のインフラストラクチャを設計する際、データ整合性に関連した以下の事項を検討してください：

- 各データ・インスタンスは、どのくらいの数のコピーを維持する必要がありますか？
- 各グリッド (BL) マシン上に、どのくらいのコンテナをホストしますか？
- どのような方法で、各マシンのコンテナに渡ってデータを分散しますか？

概念実証 (Proof of Concept) 環境または小規模な本番稼働システムでは、単一サーバ上でグリッドを動作させることができます。各データ・インスタンスの少なくとも 2 つのコピーが維持されますが、単一サーバは単一障害点となります。2 台のサーバ構成では、各パーティションの 1 つのインスタンスは、それぞれのサーバで維持される必要があります。いずれかのサーバに障害が発生した場合、データ整合性はそのまま維持されます。

コンポーネントの整合性

Ericom Connect コンポーネントはモジュール式であり、コンポーネント・レベルの高可用性を提供するように設計することが可能です。各 Ericom Connect コンポーネントは、グリッドのクライアントです。コンポーネントはグリッドから設定情報を受け取り、グリッドとリアルタイムで通信しステータスの送受信と情報の更新を行います。グリッドには各コンポーネントとそのステータスが認識されます。例えば、End User Web Service(EUWS) が応答しなかった場合、以降グリッドはそのサービスへリクエストを送信しなくなり、利用可能な他の EUWS コンポーネントにリクエストをルーティングするようになります。ベスト・プラクティスとしては、各 Ericom グリッド・コンポーネントに少なくとも 2 つのインスタンスを維持するようにします。複数のコンポーネントがアクティブ/アクティブ構成で動作することで、ファイルオーバー中のダウンタイムの心配がありません。Ericom Connect では、システム内のグリッド・コンポーネント数は無制限にサポートされています。新しいコンポーネントの登録は迅速かつ容易に行うことができます。コンポーネントをインストールしてグリッドに接続するだけです。このプロセス全体は通常数分以内で完了します。

2 台のサーバ構成 (例)

GSC の必要数を決定するための式は次のようになります: $GSC \text{ 必要数} = \text{パーティション数} \times (1 + \text{バックアップ数}) + 1$ (ミラー用)。小規模な展開 (5,000 ユーザ未満) には、1 つのみパーティションが必要なため、次のコマンドを使用します:

```
ConnectCLI SetGridParameters 1 1 2 1
```

より規模の大きい展開 (5,000 ~ 10,000) には、次のコマンドを使用して 2 つのパーティションを割り当てます:

```
ConnectCLI SetGridParameters 2 1 3 1
```

次の構成は、高可用性に適していません:

```
ConnectCLI SetGridParameters 2 1 3 2
```

システム設定データを保存するためにバックアップが必要です。バックアップを 2 つにすることをお勧めします。構成後、構成を検証するために ConnectCLI GridInfo を実行し、設定を反映するためにすべてのグリッド **Controller** サーバを再起動します (バックアップ値のみがデフォルトのグリッド・パラメータ「1 0 2 1」から変更されます)。サーバがダウンした場合、BL サービスに欠陥が生じていること、およびミラーが失われていること (ミラーがダウンしているサーバにホストされている場合) が、自動的にグリッドに検知されます。

```
EricomConnectBusinessLogic Compromised; Partitions=2; Backups=1; MaxInstancesPerMachine=1
EricomConnectMirrorService Broken; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0
```

ダッシュボードのシステムヘルスにも、グリッド・ステータスが「障害 (Compromised)」であることが表示されます。数分以内に、ミラーが運用サーバへ移されます。

```
EricomConnectBusinessLogic Intact; Partitions=2; Backups=1; MaxInstancesPerMachine=1
EricomConnectMirrorService Intact; Partitions=1; Backups=0; MaxInstancesPerMachine=0
```

グリッドを「Intact」の状態にリストアするには、破損したサーバを復旧します。即時にリカバリを実行できない場合は、可用性を高めるために 3 番目のサーバを追加することを検討してください。

複数パーティション・コピーの構成

2 台のサーバがダウンしても問題ないように Ericom Connect を構成するには、最低 3 台のサーバが必要です。3 つのうち 2 つがダウンした場合、システムは「Compromised」状態になります。2 台のサーバがダウンしてもシステムを「Intact」状態を維持できるように Ericom Connect を設定するには、4 台のサーバが必要です。4 つのパーティションと 2 つパーティションを持つ 4 台のサーバを構成するには次を実行します:

ConnectCLI SetGrid parameters 4 2 3 1

(これにより、2 台のサーバがダウンしても問題ないようになります)

ConnectCLI SetGrid parameters 4 2 5 1

(これにより、グリッドの起動を維持するための 2 台のサーバ用として十分な 5 つのパーティションが設定され、3 つのサーバがダウンしても問題ないようになります)

次の構成は、高可用性に適していません:

ConnectCLI SetGridParameters 3 2 4 3

1 台のサーバがデータ・セット全体 (パーティション + バックアップ) を保持する可能性があるため、この構成が正しく動作するには、3 台すべてのサーバがオンラインである必要があります。

Connect での Active Directory の使用法

Connect は、認証のために 1 つまたは複数の Active Directory を使用するよう構成されています。項目「ActiveDirectoryInfo」では、単一の Active Directory ドメインの構成情報が参照されています。項目「ActiveDirectorySet」では、1 つまたは複数の ActiveDirectoryInfo オブジェクトを含むコレクションが参照されています。Connect の構成情報には、以下の 2 つの独立した ActiveDirectorySets が含まれています。

- AdminSet: Connect 管理者の検証に使用される ActiveDirectorySet です。
- EndUserSet: エンドユーザの検証に使用される ActiveDirectorySet です。

Connect では、ドメイン間の信頼関係がサポートされていません。これは次のことを意味します: ドメイン A がドメイン B を信頼し、ドメイン B がドメイン C を信頼している場合、3 つすべてのドメインのユーザを含めるためには、3 つすべてのドメインを EndUserSet に追加する必要があります。Connect では、ドメインで明示的に設定された UPN をすべてのユーザに与えることが必要になります。これはすべての最新の Active Directory におけるデフォルトの動作ですが、古いオペレーティング・システムから移行したディレクトリでは設定されていない可能性があります。

認証プロセス

Connect の認証プロセスは以下のように動作します:

- ユーザ名が管理者またはエンドユーザにより入力されたとします:
- 入力されたユーザ名にドメインが含まれていない場合 (例: Michael@test.com または Test\Michael ではなく、Michael が入力された場合)、ActiveDirectorySet の設定からデフォルトのサフィックス (またはプレフィックス) が使用されます。

- ActiveDirectorySet 内のどのドメインに対して検証するかが決定されます。
- ドメインでユーザが見つかるかどうか検証されます。
- 資格情報が検証されます。
- 検証が失敗した場合、エラー・メッセージが返されます (無効な資格情報、パスワード有効期限切れなど)。
- 検証が成功すると、ドメインからユーザの情報が取得されます。

認証の詳細

ユーザ名の補完: ユーザ名にドメインが含まれていない場合、セットのデフォルトのドメインからデフォルトのサフィックス (またはプレフィックス) が取得されます。セット内で、ドメインの 1 つがデフォルトとして設定されています。この目的のために、デフォルト・ドメインにはサフィックス/プレフィックスが設定されています。

- 複数のドメインで同一の UPN サフィックスを使用することが可能です。
- ドメインで UPN サフィックスを適切に公開しないことが可能です。このようなサフィックスは、「非標準 UPN サフィックス」として知られています。

各ドメインに、既知の UPN サフィックスの一覧が関連付けられています。この一覧により、自動的に「標準 UPN サフィックス」が決定されます。複数のドメインを使用する場合、非標準 UPN サフィックスを追加する必要があります。検証対象となるドメインは、以下のように決定されます:

- セットに単一のドメインが存在する場合、そのドメインが使用されます。
- 複数のドメインが存在する場合:
 - user@domain または domain\user からの UPN サフィックスが、セット内のドメイン名と一致する場合、そのドメインが使用されます。
 - UPN サフィックスがドメインの標準 UPN サフィックスと一致する場合、そのドメインが使用されます。同じサフィックスを持つ複数のドメインの場合、動作は指定されません。
 - UPN サフィックスが、ドメインに構成済みの非標準サフィックスと一致する場合、そのドメインが使用されます。

最初の **ActiveDirectorySets** の作成

インストール時に、以下のようにエンドユーザと管理者用の Active Directory が作成されます:

- 「初期管理者ユーザ」が user@upnsuffix として提供されている場合。
- 「upnsuffix」が Active Directory ドメイン名である場合、そのドメインが追加され、デフォルトのサフィックスが「@upnsuffix」に設定されます。

- 「upnsuffix」が Active Directory ドメイン名ではなく、現在のマシンが登録されている Active Directory で user@upnsuffix が検出可能な場合、マシンのドメインが追加され、デフォルトのサフィックスが「@upnsuffix」に設定されます。
- 「初期管理者ユーザ」が domainuser として提供された場合
- 「ドメイン」が Active Directory ドメインである場合、そのドメインが追加され、デフォルトのプレフィックスは「domain」に設定されます。

初期管理者ユーザの「upnsuffix」がドメイン名か現在のマシンのドメインのどちらでもない場合、そのユーザを初期管理者として設定することはできません。後でその追加を行うことができます。エンドユーザと管理者の Active Directory セットの両方で同様の初期設定が使用されます。

複数の Active Directory の使用

Ericom Connect で使用するために複数の Active Directory を設定する場合、すべてのドメインにアクセスするのに十分な権限を持った資格情報がグリッド・サービスにより使用されることを確認してください。

例:

Ericom Connect が信頼されていない「abc.local」上にインストールされています。

管理者は、次のコマンド・ラインを使用してドメインを追加します: `ConnectCLI ActiveDirectories add test.local`

エラーは返されませんでした。しかし、管理者が「test.local」からユーザを追加しようとした際にエラーが返されました: `Unable to add domain 'test.local' (ドメイン「test.local」を追加できません)`

これは、グリッドサービスがドメイン「test.local」へアクセスできない資格情報を使用しているために発生します。

Active Directory ConnectCLI の使用法

ConnectCli ActiveDirectories を使用して、追加と変更のコマンドを実行することで、すべてのアクティブ・ディレクトリ情報を設定することができます。これらのコマンドは、綿密なテストを実行するためにも使用できます。「add」(追加)と「modify」(変更)コマンドは、同じセットのパラメータと引数を使用できます。システムに登録されていない Active Directory には、「add」コマンドを使用します。使用法: `ConnectCli ActiveDirectories [オプション]* add | modify ドメイン名 [ユーザ [パスワード]]` 例:

- `ConnectCli activeDirectories add test.local user@test.local passwordForUser`
 - user@test.local が認証可能であることをテストした後、Active Directory に test.local を追加します
- `ConnectCli activeDirectories /default modify test.local`
 - test.local をデフォルトの Active Directory に設定します

- ConnectCli activeDirectories /adUser domainAdmin@test.local test.local testuser@test.local passwordForTestUser

- testuser@test.local が認証可能であることを検証した後、Active Directory に test.local を追加します
- ユーザ domainAdmin@test.local がすべての Active Directory 操作に使用されます。
- Connect サービスの実行に使用している資格情報を用いるには、「<domainAdmin@test.local>」を入力する代わりに、「"」（2つの二重引用符）を入力します。

ユーザを指定する場合、そのテスト・ユーザ用の情報がアクセス可能であること、およびそのユーザが認証可能であることが、Ericom Connect によって検証されます。パスワードなしでユーザ名を指定した場合、プロンプトが表示されます。/noconfirm を指定している場合を除き、変更を適用する前に確認が必要です。

「add」コマンドを使用すると、指定した設定で Active Directory が作成されます。

「modify」コマンドを使用すると、コマンド・ラインで指定したすべての設定により、現在の値が置き換えられます。

ConnectCLI ActiveDirectories のオプション	説明
/adUser <文字列>	Active Directory に接続する際に使用するユーザ。指定しない場合、Controller サービスで使用されている資格情報を使用して Active Directory の操作が実行されます。Connect サービスの実行に使用している資格情報を用いるには、<文字列>の位置に管理者ユーザ名を入力するか、「"」(2つの二重引用符)を入力します。
/adPassword <文字列>	Active Directory ユーザのパスワード。コマンド・ライン上で / adUser の指定があり、/ adPassword の指定がない場合、パスワードのプロンプトが表示されます。
/adDefaultSuffix <文字列>	Active Directory のデフォルトのサフィックス (@domain-name のデフォルト)。これには、任意の UPN サフィックスを使用できます。@upnsuffix または domain の形式である必要があります。
/[no]default	これがデフォルトの Active Directory に設定されます。テナントに複数の Active Directory がある場合、ログイン時に
	UPN サフィックスが指定されなかった時にこれが使用されます

Active Directory ドメインに関する情報を取得するには、次を使用します:

- ConnectCLI GetDomainInfo domainName

Active Directory からユーザの情報を取得するには、次を使用します:

- ConnectCLI UserActiveDirectoryInfo username

ユーザの資格情報を確認するには (Connect で使用するのと同じ方法で)、次を使用します:

- ConnectCLI CheckUserCredentials

ユーザが初期管理者アカウントとして使用可能かどうかを確認するには、次を使用します:

- ConnectCLI CheckInitialUser

ユーザ・ログインのトラブルシューティング

Active Directory のユーザ・ログインは、ConnectCLI ActiveDirectories コマンドを使用して診断できます。

```
ConnectCli ActiveDirectories <オプション> /adUser domainUser /adPassword domainPassword /
↪authenticationOptions <オプション> /contextOptions <オプション> <ドメイン>
```



注意:

これらのコマンドは、必ずしも実際のユーザ・アカウントでなくテストユーザで使用する必要があるので、ユーザ・パスワードワードは平文で入力します。

Ericom Connect(ドメインが指定されていない) で現在の Active Directory 設定を使用中のユーザを検証するには:

```
ConnectCli ActiveDirectories testUser [ユーザ] [パスワード]
```

このコマンドは、ポータル・クライアントを経由してログインしているかのように、ユーザのログイン手順全体をシミュレートします。また、デバッグ情報が返されます。複数の Active Directory が Connect に登録されている場合、このコマンドではログインに選択されたものが表示されます。

【testUser の出力サンプル】

```
connectcli activedirectories testuser user-0000000@cloudconnect.com
Password for user-0000000@cloudconnect.com: *****
Authentication analysis for user-0000000@cloudconnect.com
----- Analysis -----
ActiveDirectorySet created:False
Attempt to authenticate user-0000000@cloudconnect.com in domain CloudConnect.Com
AuthenticationOptions:None
Authenticate: user-0000000@cloudconnect.com
AccountExpirationDate:
PasswordExpiration:12/31/9999 11:59:59 PM
PasswordHasExpired:False
PasswordNeverExpires:True
UserCannotChangePassword:False
```

```
LastPasswordSet:3/23/2016 8:00:11 AM
LastBadPasswordAttempt:10/19/2017 8:10:46 PM
IsAccountLockedOut:False
AccountLockoutTime
MaxPasswordAgeDays:500
Enabled True
ValidateCredentials user-0000000@cloudconnect.com Domain => True
AuthenticateValidateLast:ValidateCredentials succeeded
----- Result -----
Status:Succeeded
UserPrincipalName: user-0000000@cloudconnect.com
DownLevelLogonName: CLOUDCONNECT\user-0000000
NetBiosDomainName: CLOUDCONNECT
DnsDomainName: CloudConnect.Com
AccountName: user-0000000
PersonName: user-0000000
DistinguishedUserName: CN=user-0000000,OU=CloudConnectUnit-001,OU=CloudConnectRootUnit,
↔DC=CloudConnect,DC=Com
CanonicalName: user-0000000_af8ac477-b37a-4202-806b-98f25ecc7351
CanChangePassword:True
PasswordDaysLeft:
PasswordExpiration:
Groups:Domain Users, Remote Desktop Users, Users, group-0000005

To authenticate the user against a specific domain (regardless of whether or not the domain is
↔currently added to Connect):

ConnectCli ActiveDirectories test [Domain] [domain user] [domain password]
testUser の出力サンプル:
ConnectCli activedirectories test cloudconnect.com user-0000000@cloudconnect.com ThePassword
Domain Information for CloudConnect.Com
MinPasswordLength = 7
MaxPasswordAgeDays = 500
LockoutThreshold = 10
UpnSuffixes = t.com, ericom.com, upn2.com, upn3.com, upn1.com

Information about user-0000000@cloudconnect.com
GetStdLoginName: user-0000000@cloudconnect.com
PrincipalName: user-0000000@cloudconnect.com
SamAccountName: user-0000000
Name: user-0000000
AccountExpirationDate:
CannotChangePassword False
Last password set:3/23/2016 8:00:11 AM
Enabled:True
Is Locked out:False
Account Lockout Time:
Bad Logon Count:0

Pre-authentication analysis for user-0000000@cloudconnect.com
Password never expires

Authentication succeeded
```

```
Member of:Domain Users, group-0000005, Remote Desktop Users, Users
```

```
UPN Suffix(es) for CloudConnect.Com1: @CloudConnect.Com, @t.com, @test.com, @upn2.com, @upn3.
↳com, @upn1.com
```

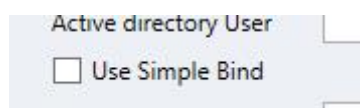
```
**** Active directory configuration is OK ****
```

ネストされた AD グループのサポート

Ericom Connect では、ネストされた AD グループがサポートされています。グループ B がグループ C のメンバーであり、グループ C にアプリケーション D へのアクセス権が与えられている場合、そのユーザはアプリケーション D へのアクセス権を持つことになります。

Simple Bind

Simple Bind を使用してディレクトリに接続するには、Ericom Connect Configuration Tool から、「Use Simple Bind」(シンプルバインドを使用) オプションをオンにします。



注意:

Simple Bind は、組織のセキュリティ基準に違反する可能性があるため、この設定を行う前に使用が可能であることを確認してください。

Simple Bind を使用するための ConnectCLI コマンドは以下のとおりです:

```
ConnectCLI ActiveDirectories <サブコマンド> /contextOptions SimpleBind <ドメイン名>
```

シンプル・バインドが役立つことが知られている例として、以下のエラーを解決することが挙げられます:

新しいグリッドの初期化の際に「デフォルトの設定では Active Directory を再利用できません (Unable to reuse active directory connections with the default settings.)」というメッセージが表示される場合。

きめ細かなパスワード・ポリシーのサポート

Ericom Connect バージョン 8.2 以降では、パスワード有効期限のロジックにおいて、きめ細かなパスワード・ポリシーが考慮されます。「ユーザ」タブでユーザのパスワード有効期限を確認できるようになりました。

ConnectCLI コマンド「ConnectCli userActiveDirectoryInfo」でも、パスワード・ポリシーの情報が表示されます。

例えば、


```
ConnectCli userActiveDirectoryInfo ExpWithFineGrained@cloudconnect.local
```

を実行すると、以下が返されます：

```
MaxPasswordAgeDays (AD) = 500  
MaxPasswordAgeDays (Fine) = 100
```

Active Directory レベルでのデフォルトの有効期限 (この例では 50 日) とユーザに適用されるきめ細かいポリシー (この例では 100 日) の両方が表示されます。きめ細かいポリシーの値は、AD レベルの値よりも優先されます。

要件と既知の問題

要件

初期ユーザは、次のいずれかの形式である必要があります：

user@domain (domain は Active Directory ドメイン) または user@upnsuffix (UPN サフィックスはマシンのドメインに存在するもの) 複数のドメインを使用する場合、現在のマシンが登録されているドメインに非標準 UPN サフィックスが存在する必要があります。

既知の問題

Active Directory からの情報にアクセスするための権限が不十分な場合、Connect により ログインの失敗が誤って診断される可能性があります。例えば、「パスワードを変更する必要があります」の代わりに、「アカウントが無効です」というエラーがユーザに表示される場合があります。この問題は、「ConnectCLI UserActiveDirectoryInfo」を実行してアカウントが無効になっているかを確認することで検出できます。Connect サービスは通常「local service account」として実行されます。このアカウントに十分な権限が与えられていない場合、以下のオプションを検討する必要があります：

- ドメインの完全な読み取りアクセスを許可するように Active Directory の権限を変更する
- サービスに別の資格情報を使用する
- Active Directory にアクセスする際に使用する資格情報を設定する

■ アップグレードと再展開

Ericom グリッド・コンポーネントとサービスの一部には、相互互換性がありません。新しいバージョンへアップグレードする場合 (例: 7.2 から 7.3)、以下の順序で Ericom コンポーネント (例: ESG, EUWS など) のアップグレードを実行します：

- Ericom Business Logic
- エッジサービス: ESG, AWS, EUWS など
- RemoteAgent

- 最後に、エンドユーザの AccessPad クライアント

アンインストール手順

Ericom の展開に関連する以下のデータを収集します:

- Grid Name (グリッド名)
- Ericom Connect SQL データベースのユーザ・アカウント
- Ericom Connect SQL データベースのパスワード
- Ericom Connect の管理者ユーザ (任意のマスター管理者)

Windows のアンインストール機能を使用して Ericom Connect をアンインストールします。



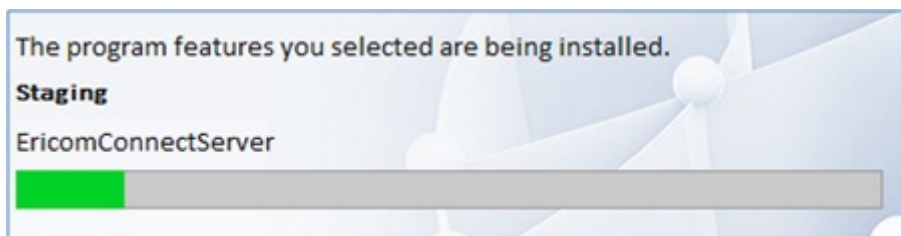
削除プロセス中に「Preserve existing configuration」チェックボックスが表示されたらそれを選択し、「Remove」ボタンをクリックします。これにより、今後の使用のためにサーバ上の展開情報が保存されます。この手順は、バージョン 7.0 では必要ありません。



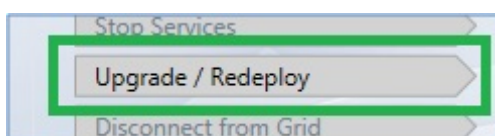
「アンインストール」後にロールバックが必要となる場合に備え、SQL データベースと次のフォルダ (隠しフォルダ) C:\ProgramData\EricomConnect をバックアップします。

再展開の手順

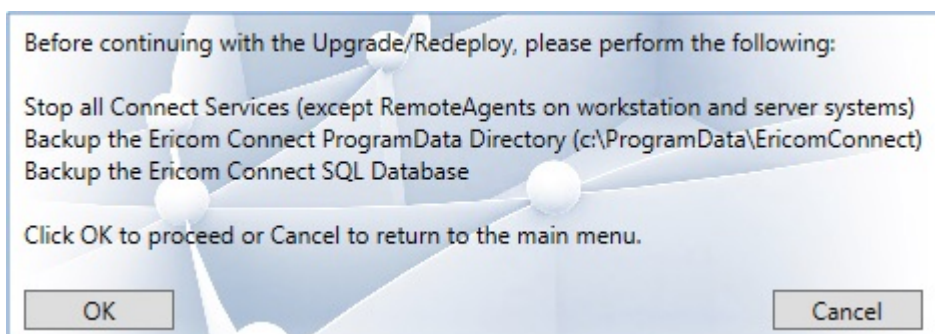
Ericom Connect を同じサーバにインストールする場合、メモリ内の以前のファイルがすべて消去されたことを確実にするために、アップグレードの前に再起動することをお勧めします。



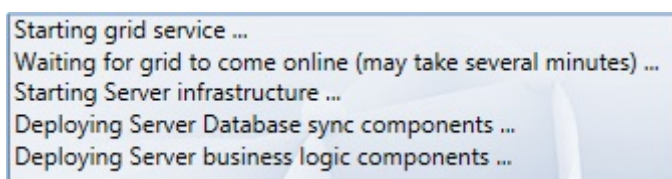
インストールの最後で、自動的に Configuration Tool が起動します。「Upgrade /Redeploy」を選択します。



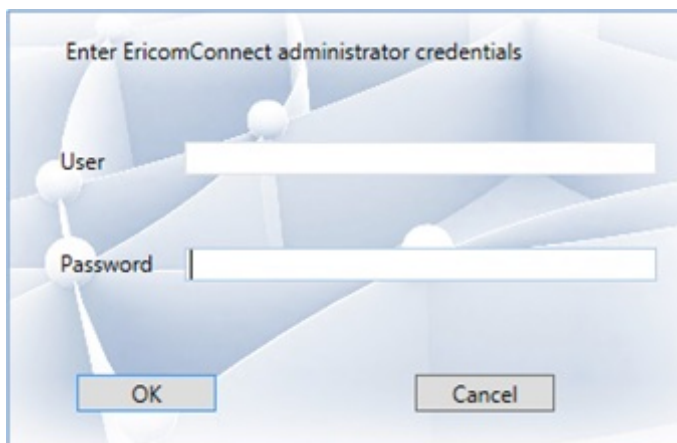
続行する前に、c:\ProgramData\EricomConnect フォルダと SQL データベースをバックアップするようにメッセージが表示されます。これは、必要な場合にロールバックを実行するために強く推奨されています。



「OK」をクリックして続行すると、Ericom Connect の再展開が開始されます。



初期化プロセス中に、初期管理者の資格情報を要求するプロンプトが表示される場合があります (通常は以前のバージョンからアップグレードする場合)。続行するには有効な資格情報を入力します。



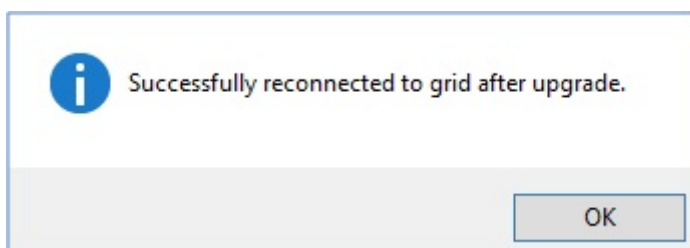
元の環境に 2 つ以上の Ericom Connect サーバが存在する場合、グリッドのパラメータはアップグレード後にデフォルトに戻ります。この動作について警告メッセージが表示されます。すべての独自のグリッドのパラメータを再適用する必要があります。

RemoteAgent のアップグレード

バージョンのアップグレードの最後の手順として、RemoteAgent をアップグレードします。バージョン 7.3 より、既存の RemoteAgent をインストールしたままで RemoteAgent をアップグレードすることが可能になりました。以前のバージョンが存在する場合、インストーラによりアップグレードの通知が表示されます。



RemoteAgent のアップグレードが成功すると、成功のメッセージが表示されます。この時点で、アプリケーションやデスクトップは Ericom Connect で使用可能な状態になっています。



新しい RemoteAgent は、以前のバージョンの Ericom Connect サーバと互換性がありません (例: 7.5 RemoteAgent は 7.3 Ericom Connect では動作しません)。ただし、新しい Ericom Connect サーバは、現行バージョンの RemoteAgent と旧バージョンの RemoteAgent の併用に対応しています。これは、RemoteAgent のアップグレード移行時の下位互換性を提供するためです。

SQL DB からの再展開

元のグリッドのパラメータが保存されている場合、既存の SQL データベースからグリッドを展開できます。

- ライセンスの有効性を維持するために、グリッドの名前は元のグリッドと一致する必要があります (グリッド名はライセンス・ファイルの必須項目です)。
- 最初に作成した管理者ユーザのドメインにアクセスできる必要があります (既存の SQL DB を新しいドメインに再展開することはできません)。
- Ericom Connect データベースの資格情報は既知である必要はありません (ただし、データベースにアクセスするために SQL Server 内で適切な資格情報が要求されます)。元の資格情報を持つことで、データベースの構成を効率的に行うことができます。
- データベースが異なるサーバへ移動されている場合、元の資格情報が有効でない場合があります。このシナリオでは、新しいセット資格情報を作成し、データベースへアタッチします。
- SQL データベース名が必要です (データベースの詳細を取得するには SQL Management Studio を使用します)。
- LUS 値は元のものとは一致する必要はありません。

以前のバージョンへのロールバック

以前のバージョンにロールバックするには、以下の手順を実行します:

- 現在のバージョンをアンインストールします
- 以前の SQL データベースをリストアします
- ProgramData フォルダをリストアします (オプションとして、ローカル構成情報をリストアします。手動で入力することもできます)
- 以前のバージョンの Ericom Connect をインストールします
- 「Upgrade /Redeploy」を実行します
- グリッド名、データベース名、データベース・ユーザ、および LUS アドレスが正しいことを確認します 必要に応じて任意のパラメータを設定します
- 以前のバージョンの展開を続行します

マルチテナント機能

Ericom Connect では、マルチテナントがサポートされています。Ericom Connect アプリケーションの 1 つのインスタンスが、複数ユーザに提供するためのプライベート・コンテナに細分されます。マルチテナント機能の利点は以下のとおりです:

- 多くのバラバラなサイロをインストールするのではなく、1 つのスケラブルなインストールを活用します。

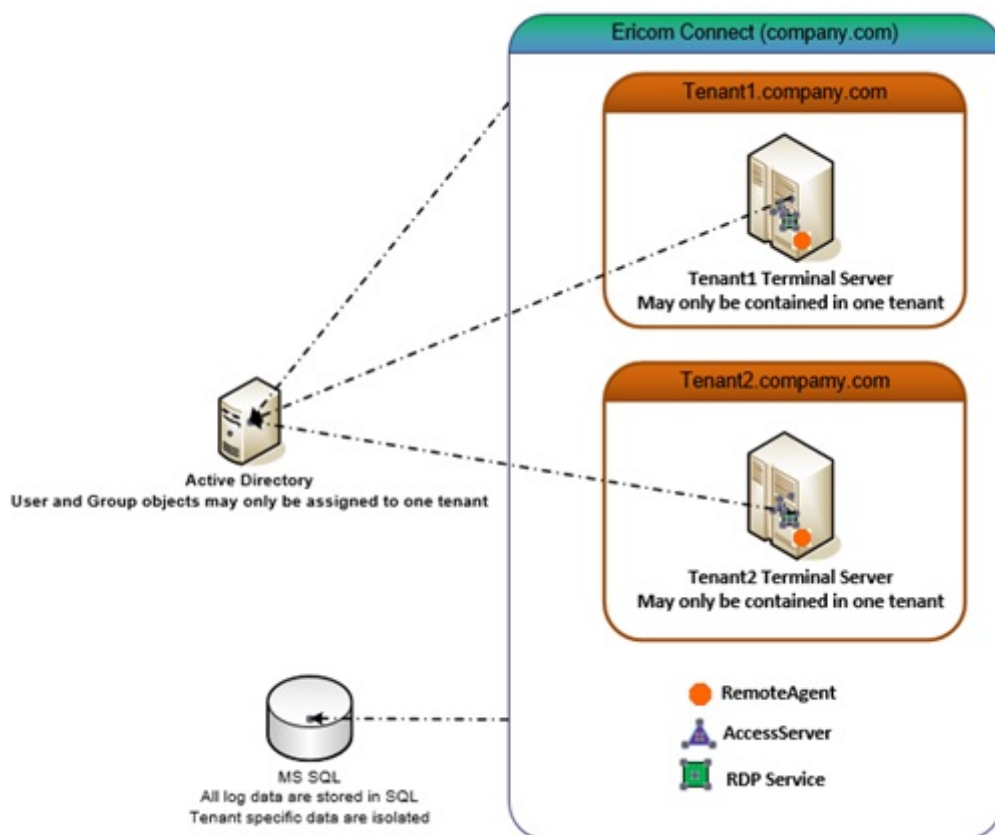
- 複数顧客をサポートする 1 つのインストールにより、インストール、設定、保守にかかるオーバーヘッドが削減されます。
- 各テナントのリソース (ユーザ、グループ、ターミナル・サーバなど) は、他のテナントから保護されています。
- 各顧客は専用のアクセス URL を受け取ります。

以下はマルチテナントの使用例の一部です:

- 各顧客が自らのユーザ、設定、リソースを管理できる Daas(Desktop as a Service) プラットフォームを、クラウドに展開する。
- ベンダー業者用に、内部ネットワークとリソースから分離されたテナントを展開する。
- クリティカルなアプリケーションを非クリティカルなアプリケーションから分離する。 クリティカルなアプリケーションをホストするテナントに、より高度なセキュリティ要件 (例: 二要素認証) を追加する。

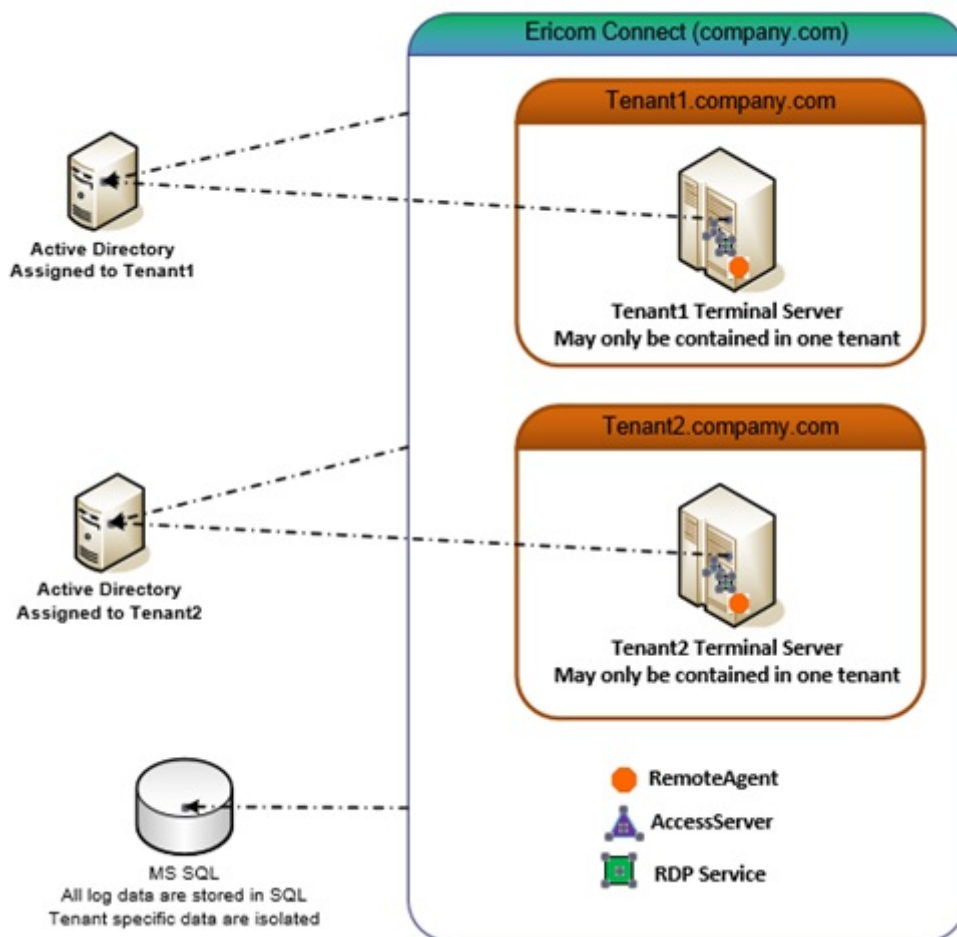
■ 共有 Active Directory モデル

複数テナントで 1 つの Active Directory を共有できます。 厳密なリソース保護を確実にするため、Ericom Connect ではテナントにつき 1 ユーザ が許可されています。



専用 Active Directory モデル

Ericom Connect では、複数の Active Directory の使用がサポートされています。この機能により、各テナントが独自の Active Directory を持つソリューションを実装できます。



テナントに特定の Active Directory を割り当てる CLI コマンドは次のとおりです:

```
ConnectCLI ActiveDirectories /tenant TenantA add company1.com
```

マルチテナント機能のベスト・プラクティス

- テナントの使用を計画している場合、ルートテナントを空のままにしておきます。テナントのアーキテクチャを設計し、ユーザ、サーバ、ワークステーションおよびアクティブ・ディレクトリをそれぞれのテナントに割り当てます。
- テナントへの接続元となる URL と URL プレフィックスが一致する必要があります。接続を確立するために、DNS の構成が必要となる場合があります。ホスト・ファイルの設定をローカル・テストに使用します。
- ルート・テナントは、「rooturl」のラベルがついています。これにより、その IP にマップされた未設定のアドレスを使用して、ルート・テナントのログイン・ページを閲覧できます。ユーザの資格情報を使用したページはセキュリティで保護されていますが、ルート・テナントを特定のアドレスの下に隠す

ことをお勧めします。ただし、これを実施する場合、そのアドレスを書き留めておいてください。そのアドレスが不明になると、ルート・テナントへのアクセスができなくなります。このアドレスは、管理者のログインのために、DNS またはホスト・ファイル構成からもアクセス可能である必要があります。

- ユーザがログインすると、テナントへ割り当てられた状態になります。テナントにログインすると、ユーザは恒久的にマップされます。
- 特定の委任された管理者要素は「クロステナント」です。これらを割り当てる場合は注意してください。通常は、ルート管理者のみにこれらへのアクセス権が必要です。
- 通常は、ルート・テナントのプレフィックスを変更する必要はありません。ただし、ルート・テナント用の特定の値を定義することで、ユーザがそのテナントへ誤ってログインする可能性を最小限にできません (特定の値を非公開とした場合)。

テナントの作成

Ericom マルチテナント機能は、ConnectCLI を介して管理されます。使用可能なすべてのオプションを参照するには、次を実行します:

```
ConnectCLI tenant /?
```

新しいテナントを作成するには、次を実行します:

```
ConnectCLI tenant /TenantUrlPrefix acme add company1
```

このコマンドにより、一意の識別子「**company1**」とプレフィックス「**acme**」を持った新しいテナントが作成されます。このプレフィックスは管理コンソールへのログインに使用され、テナントの URL プレフィックスとして使用されます (例: **acme.serviceprovider.com**)。構成済みのすべてのテナントを一覧表示するには、次を実行します:

```
ConnectCLI tenant list
```

テナントの管理

テナントを管理するには、Ericom 管理コンソールのログイン・ページに移動します。テナントが作成されている場合、テナント・フィールドが表示されます。テナント用に設定したプレフィックスを入力します。これがテナントの URL プレフィックスとなります (例: **acme.serviceprovider.com**)。ルート・システム管理者グループが自動的にテナント管理者として割り当てられます。テナント管理者の割り当てを行うためにログインする際は、ルート・アカウントを使用します。テナントの「管理者の役割」セクションに移動し、テナント管理者の割り当てと管理を行います。

注意: 同一のブラウザを使用して同時に複数のテナントの管理を行わないでください。異なるテナントの管理を行うには、シークレット・モードまたは違う種類のブラウザを使用してください。

テナントにホストを追加/削除する

テナントの値が RemoteAgent で設定される場合、ホスト・システム (例: リモート・デスクトップ・サーバ) はテナントに関連付けられています。例えば、「テナント情報」(青いボックス) に「Acme」を入力し、

「Connect to Grid」を選択します。接続時にシステムを既存のシステム・グループ (指定したテナントの) に直接追加する必要がある場合、オプションの「システム・グループ・情報」を指定することができます (緑色のボックス)。

Settings

Grid Name: EricomConnect

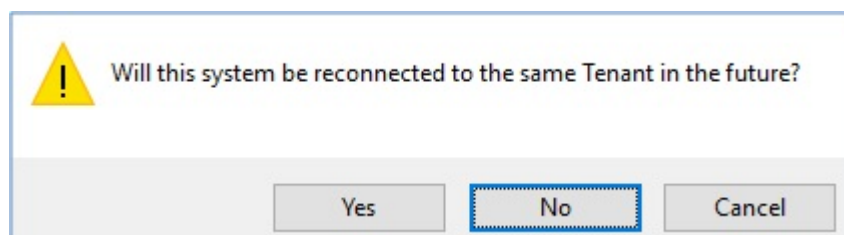
My Host or IP: 10.0.0.18

Lookup Service Hosts: 10.0.0.22

Tenant Info: acme

System Group Info: Accounting

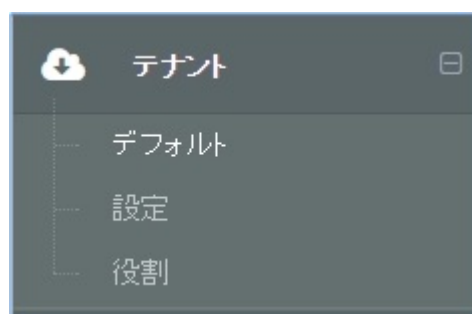
RemoteAgent を一度追加 (接続) すると、ホストとテナントの関連付けは永続的となります。テナントを消去すると、関連付けられたすべての「孤立した」ホストは、再構成するまで使用不可能になります。孤立したホストを Connect に接続しようとした場合、「テナントを見つけることが出来ません (Cannot find tenant)」というエラーが発生します。新しいテナントが同じ名前で作成されたとしても、再構成されるまで、ホストは機能しません。RemoteAgent をテナントに再構成したり、テナントから削除するには、それをグリッドから切断し、「同じテナントに再接続しました」というプロンプトが表示されたら、「いいえ」をクリックしてください。



RemoteAgent をテナントから切断すると、それを別のテナントに追加することができます (または、新たな一意の ID を使用して同じテナントに再追加できます)。

テナント設定

テナント固有の設定は、「テナント設定 | テナント設定」の下の管理コンソールで構成します。



必要に応じて、テナントの URL プレフィックスを FQDN URL として定義できます (例: xyz.abc.com)

ESG の設定

Ericom Secure Gateway(ESG) は、テナント固有ではありません。Ericom Connect の展開において構成された任意の ESG を介して、すべてのテナントのユーザがログイン可能です。異なるテナント用に ESG を展開するには、複数のシナリオがあります。

オプション 1:

すべての ESG 用に、同一のワイルドカード証明書 (例: *.provider.com) を使用する

- すべてのテナントにわたり、1つのワイルドカード証明書を使用することができます。
- アクセスレベルのセキュリティは、テナントの公開グループにそれぞれの「ESG ホスト・アドレス」を設定することで提供されます。例えば、company2.provider.com のユーザは、「ESG ホスト・アドレス」を company1.provider.com に制限した公開グループからはリソースを起動できません。
- 認証レベルのセキュリティは、テナントにそれぞれの Active Directory を割り当てることで提供されます。

オプション 2:

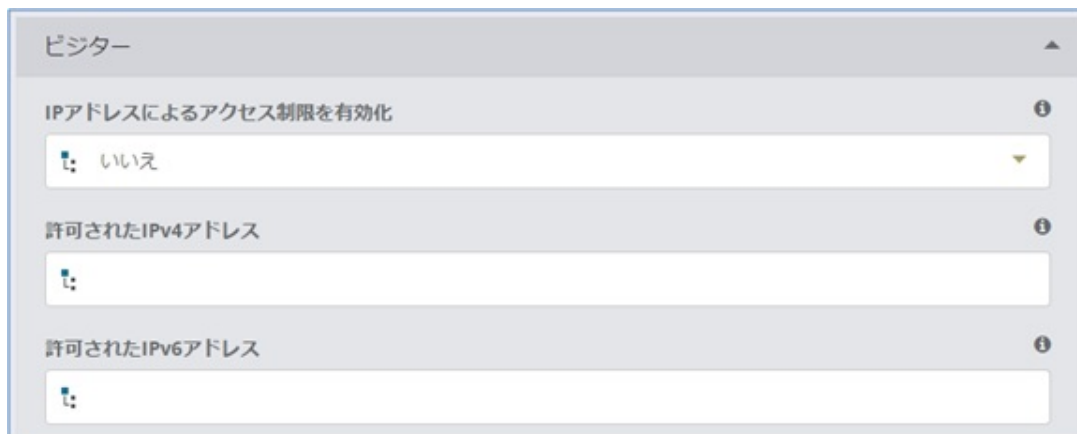
特定の ESG をテナントに割り当て、専用の証明書を使用する。

- 管理コンソールを使用して、割り当てられた ESG システムに専用の証明書を設定します (「サービス | ESG サービス Secure Gateway」に移動し、目的の ESG サーバをクリックします。「設定タブ」をクリックし、「証明書の設定方法」および「証明書の設定値」を設定します)。



- 専用の名前を割り当てます。例: 構成済みの ESG の手前のロード・バランサに users.company1.com を割り当てます。
- 「company1」のユーザには、その専用のアドレスを使用するよう指示します。
- アクセスレベルのセキュリティは、テナントの公開グループにそれぞれの「ESG ホスト・アドレス」を設定することで提供されます。例えば、company2.provider.com のユーザは、「ESG ホスト・アドレス」を users.company1.com に制限したすべての公開グループからリソースを起動できません。

- 認証レベルのセキュリティは、テナントにそれぞれの Active Directory を割り当てることで提供されます。
- ESG の「設定 | ビジター」セクションから、ホワイトリスト・セキュリティ (エンドユーザの IP アドレスが分かる場合) を構成できます:



ユーザを別のテナントに移動する

ConnectCLI を使用して、ユーザーをあるテナントから別のテナントへ移動できます。移動元 (現在) のテナントにログインした状態で、以下のコマンドを実行します:

```
ConnectCLI /adminUser <ルート管理者ユーザ> /adminPassword <ルート管理者ユーザのパスワード> /tenant
-><現在のテナント ID> <testuser@demo.internal などのユーザ名> <移動先のテナント ID>
```

RemoteAgent の展開を自動化する

以下のスクリプトを使用して、Ericom Connect RemoteAgent を自動的に展開し、リモート・デスクトップ・サーバを起動できます (スクリプトと EricomConnectRemoteHost_x64.exe が同じフォルダ/場所に存在する必要があります):

- `start /wait EricomConnectRemoteHost_x64.exe /LAUNCH_CONFIG_TOOL=false /silent`
- `"C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Remote Agent Client\RemoteAgentConfigTool_4_5.exe" connect /GridName (既存のグリッド名を使用) /myIP (グリッドで表示されるシステムのアドレス) /LookupService (1 つまたは複数のカンマ区切りのアドレス) /groupinfo <グループ名または ID>`
- 以下のサンプルのコマンドでは、EricomConnect という名前のグリッドに接続します。その際、%computername% 変数の使用、検索ホストの特定、テナント xyz とグループ abc への接続を行います: `C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Remote Agent Client>RemoteAgentConfigTool_4_5.exe connect /gridName EricomConnect /myIP %computername% /lookupServiceHosts 10.0.2.76 /tenantinfo xyz /groupinfo abc`
- システムには複数の環境変数が存在する可能性があるため、myIP 設定用に環境変数を使用して IP アドレスを指定することはできません。

RemoteAgentConfigTool のコマンド・ライン・オプションの一覧は以下のとおりです:

```
Usage: RemoteAgentConfigurationTool command [options]*

Commands
connect      [<connectOptions>] [/logFile <logFile>] [/interactive]
disconnect   [/permanent] [/logFile <logFile>] [/interactive]
upgrade      [/logFile <logFile>] [/interactive]
prepareForCloning [/logFile <logFile>] [/interactive]
ui

Connect options:
/gridName <gridName>           Grid Name.
/myIP <hostOrIP>              HostName or IP to register as. At amazon, use AWS_PRIVATE_IP
/lookupServiceHosts <hosts>   Comma separated List of Lookup Service Hosts, separated with comma (.).
/tenantInfo <tenantInfo>      Tenant association information.
/groupInfo <groupInfo>        Group association information.

Others options
/logFile <logFile>            Log file name (not used by 'ui'). Default is 'ConnectInstall.log' in the working directory.
/interactive                  Show final status message in a pop-up window for connect, disconnect and upgrade.
/permanent                    Make the 'disconnect' permanent.
```

以下のコマンドを使用してアップグレードを実行できます:

- インストーラのアップグレードと現在のグリッドへの接続を含む、エンドツーエンドのアップグレード:

```
<RemoteAgent EXE> LAUNCH_CONFIG_TOOL=True
```

- グリッドに接続せずに、RemoteAgent をアップグレード:

```
<RemoteAgent EXE> LAUNCH_CONFIG_TOOL=False
```

```
RemoteAgentConfigTool_4_5.exe upgrade
```

- グリッドに接続せずに、RemoteAgent をサイレント・アップグレード:

```
<RemoteAgent EXE> /silent LAUNCH_CONFIG_TOOL=False
```

```
RemoteAgentConfigTool_4_5.exe upgrade
```

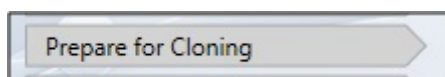
RemoteAgent(Win) を使用してサーバを複製する

今後の展開用に複製されるように設計されているシステム上に、RemoteAgent を構成できます。以下の手順に従って、既存システムを複製する準備を行います。Ericom Connect インストーラまたは RemoteAgent インストーラを使用して、RemoteAgent をインストールします。どちらのインストーラにも、「複製の準備」のためのオプションがあります。各セッション・ホストには、RemoteAgent のみをインストールします:

Ericom Connect Remote Agent Service

グリッド名と「Lookup Service Hosts」(通常は最初の Business Logic サーバが Lookup Service Hosts であるため、そのアドレスを使用します)を入力し、RemoteAgent をグリッドに接続します。「My Host or IP」値の環境変数を選択します。IP アドレスまたは DNS 名を使用しないでください。それらを使用すると、Sysprep 後に生成されたすべての新しいマシンでは同一の Ericom Connect へのアドレスが表示されてしまいます(コンピュータ名を解決のために作動する DNS が必要になります)。

そのセッション・ホスト上でエンドユーザにより使用されるすべてのアプリケーションのインストールと設定を行います。マシンのイメージ化の準備が完了したら、Configuration Tool を実行し、「Repair for Cloning(複製の準備)」を選択します。



複製の準備では、以下の 3 つが実行されます:

- サービスの停止
- 「c:\ProgramData\EricomConnect」ディレクトリの削除
- Ericom Connect を起動した際に作成されたすべての証明書の削除

システムの Sysprep を実行すると、自動的にシャットダウンされます。シャットダウンが成功すると、システムは複製の準備が完了した状態になります。

LUS 設定 - マルチキャストが無効化されている場合

マルチキャストが利用できない場合は、最初の Connect マシンをインストールする前に以下の事項を決定する必要があります:

- どのサーバを「Lookup Service Hosts」(LUS) とするかを決定します。2 つにすることをお勧めします。
- これらは、「Business Logic Server」が実行されるマシンであることが必要です。
- コントローラ・システムに静的 IP アドレスを割り当てます。
- LUS マシンの数は冗長性に影響します。すべての LUS マシンがダウンすると、システムが動作しなくなります。マルチキャスト環境では、Ericom Grid により自動的に冗長性が管理されます。
- (最初のサーバを含む) それぞれの Connect インストールにおいて、「Lookup service host」入力フィールドに適切な IP をカンマ区切りリストとして入力します (これらは静的 IP であることに注意してください)。これには RemoteAgent マシンが含まれています。

LUS マシンのリストを変更するには:

- 各マシンをグリッドから切断します
- 「Join Existing Grid」を選択すると、すべての既存の設定値が入力されます。LUS リストへの正しいアドレスの入力のみが必要になります。

- グリッドへ再接続すると、新たな LUS の値が反映された状態になります。
- 代わりに、設定ファイル C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Data GridNET v4.0\ConfigSettings.xml を手動で編集し、次の値を変更する方法もあります (アドレス例を実際の値に置換してください): `<XapNet.HostName>192.168.0.1,192.168.0.2</XapNet.HostName>`
- 静的アドレスが使用されるため、以下が false に設定されていることを確認してください: `<XapNet.Multicast.Enabled>>false</XapNet.Multicast.Enabled>`
- XML ファイルを編集した場合、Business Logic サーバのサービスを再起動してください。

LUS 設定 - 混合モード

混合モード設定とは、マルチキャストが有効化されたネットワーク上にプライマリ・グリッド・コンポーネント (Business Logic サーバ) が存在し、マルチキャストの対象外である他のサブネット上にリモート・システム (RemoteAgent) が存在するものです。このような環境では、プライマリ・サブネットのすべてのグリッド・コンポーネントは、LUS 設定を必要としません。最初にオンラインになる 2 つの Business Logic サーバが、LUS サービスとして自動的に指定されます。プライマリ以外のサブネット内のグリッド・コンポーネントは、2 つの LUS (静的) アドレスを設定する必要があります。ベスト・プラクティスとして、すべてのグリッド・コンポーネントで明示的に LUS アドレスを設定し、環境全体で一貫性を持たせるようにしてください。

ワークステーション OS でのアプリケーションの展開

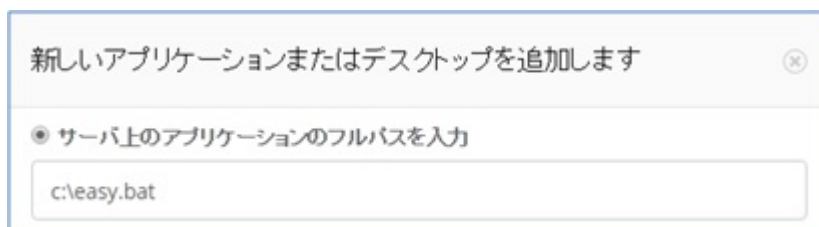
Ericom Connect では、Windows ワークステーションのオペレーティング・システムからアプリケーションを公開することができます。ワークステーション OS 上でアプリケーションを公開する場合、エンドユーザのセッションにはアプリケーションのみが表示され、デスクトップ要素 (例: スタート・メニュー) は表示されません。ワークステーション OS からアプリケーションを公開するには、以下を実行します:

- Ericom Connect 管理コンソールを開き、「設定」 | 「デフォルト」に移動します: 要件
- 「ワークステーション OS でアプリの起動を許可」 (Allow App Launch on Workstation OS) の設定を「はい」 (Yes) にします (この設定は、すべての公開アプリケーションに適用されます)。これは、公開アプリケーションのレベルでも設定が可能です。
- ワークステーション OS からアプリケーションを公開するには、「セカンダリ設定」または「テナント設定」に移動し、「ワークステーション OS からの公開を許可」 (Allow Publish From Workstation OS) を「はい」 (Yes) に設定します。
- (RDS とワークステーションを使用する環境への推奨) すべてのリモート・デスクトップ・サーバから分離させるために、ワークステーションから構成されるシステム・グループを作成します。
- 公開グループを作成し、ワークステーションが含まれるシステム・グループに関連付けます。

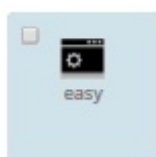
目的のアプリケーションを (ワークステーションから) 公開し、ワークステーションのシステム・グループにマップされている公開グループに関連付けます。

.BAT バッチファイルの公開

アプリケーションの追加機能を使用して、バッチファイル（.BAT 形式）を公開できます。ファイルを正常に公開するために、そのファイルがいずれかの RDS サーバ上に存在することを確認してください。「アプリケーション追加」をクリックし、「サーバ上のアプリケーションのフルパスを入力」を選択します。バッチファイルのパスを入力します。



アプリケーションを追加する既存の公開グループ（オプション）を選択して、「追加」ボタンをクリックします。



Linux 前提条件の設定

このセクションでは、Ericom Connect で Ubuntu 14.04.3 Linux システムを使用するための、手動構成の手順の概要を説明します。（Linux 環境はサポートしていません）

Ubuntu のアップグレードとアップデート

Ubuntu 14.04.3 をお勧めします。

次を使用してバージョンを確認します: `lsb_release -a`

```
ubuntu@:~$ lsb_release -a
No LSB modules are available.
Distributor ID: Ubuntu
Description:    Ubuntu 14.04.3 LTS
Release:        14.04
Codename:       trusty
ubuntu@:~$
```

14.04.2 から 14.04.3 にアップグレードするには、最初にすべてのアップデートをインストールします。

`sudo apt-get update`

QT ライブラリの依存関係をインストールします: `sudo apt-get install qt5-default`

Linux Ericom RDX のインストール

Ericom から、Ericom RDX という名称の X ウィンドウ向けの RDP コンポーネントが提供されています。このパッケージにより、印刷やオーディオのリダイレクトなどの強化された機能が提供されます。

まず、以下の前提条件をインストールします:

```
sudo apt-get install cups
```

```
sudo apt-get install cups-filters
```

```
sudo apt-get install cups-daemon
```

```
sudo apt-get install socat
```

次に、Ericom パッケージをインストールします。Linux 上のすべてのファイル名は、大文字と小文字が区別されます。

以下を使用して SSH シェルからダウンロードします。

```
sudo wget http://www.ericom.com/demos/ericom-x11rdp.deb
```

以下を使用して SSH シェルからインストールします。

```
sudo dpkg -i ericom-x11rdp.deb
```

以下を使用して SSH シェルからダウンロードします。

```
sudo wget http://www.ericom.com/demos/ericom-xrdp.deb
```

以下を使用して SSH シェルからインストールします。

```
sudo dpkg -i ericom-xrdp.deb
```

インストールの際、いずれかの依存関係が不足している場合は、以下を実行します:

```
sudo apt-get -f install
```

これにより、不足している依存関係がインストールされます。完了したら、元のインストール・コマンドを再度実行します。Ericom RDX xrdp をアンインストールするには、以下を実行します:

```
sudo dpkg --purge xrdp
```

```
sudo dpkg --purge x11rdp
```

ネイティブ RDP 印刷リダイレクトを使用する場合、Linux からソフトウェア・ベースのプリンタへの印刷は使用できないことに注意してください。例: Microsoft OneNote および Microsoft XPS ドキュメント ライター。このようなプリンタへ印刷するには、ユニバーサル印刷を使用してください。

XFCE4 のインストール

- XFCE4 をインストールします: `sudo apt-get install -y xfce4`

RDP を使用して接続をテストします。ウィンドウ・マネージャが表示されない場合、以下の手順に進みます。

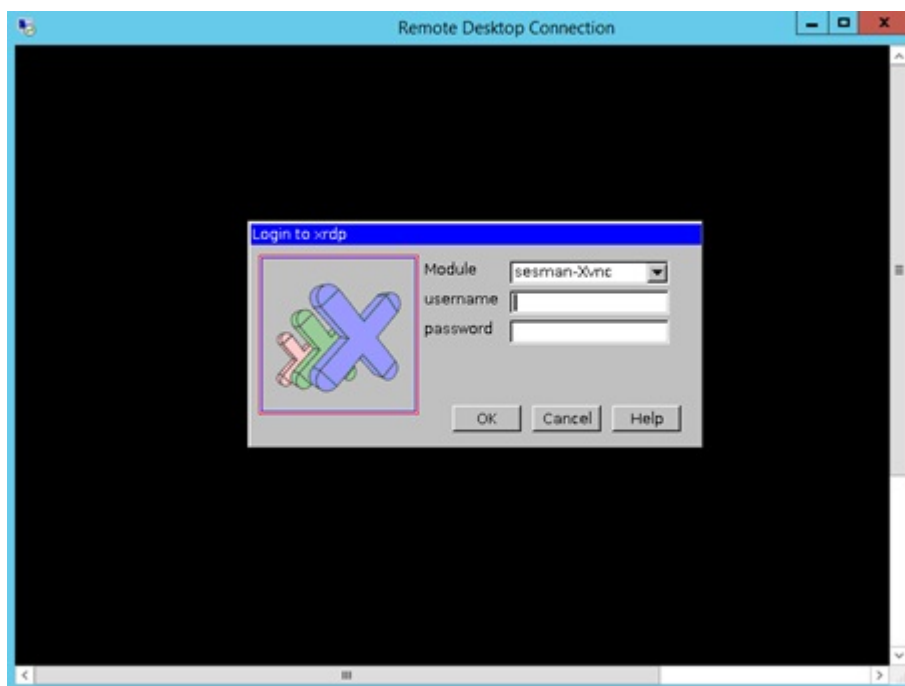
- XFCE4 をデフォルトとして設定します: `echo > ~/.xsession`
- `/etc/xrdp/startwm.sh` を編集し、セッションのデフォルト・アプリケーションを変更します。これを実行する方法は複数ある場合がありますが、目的は「`/etc/X11/Xsession`」を「`/usr/bin/xfce4-session`」で置き換えることです。

以下は、`xfce4-session` を追加する例です:

```
GNU nano 2.2.6 File: startwm.sh
#!/bin/sh
#WM="/etc/X11/Xsession"
WM=xfce4-session
LC_ALL=C
export LC_ALL
```

```
if [ -r /etc/X11/Xsession ]; then
# ./etc/X11/Xsession
xfce4-session
exit 0
fi
```

- 行の先頭に「#」を入力し、デフォルトのウィンドウ・マネージャを無効化します。
- アクティブなウィンドウ・マネージャとして `xfce4-session` を入力します。
- オプション: 起動するブラウザを追加します (例: `firefox`)
- XRDP を再起動します: `sudo /etc/init.d/xrdp restart`
- `mstsc.exe` などの RDP クライアント を使用して、XRDP がアクセス可能な状態であることを確認します。



ActiveDirectory サポート (Likewise) を追加する

Likewise を使用して、Ubuntu Linux に Active Directory 対応を構成できます。この構成により、Linux セッションへのログインに ActiveDirectory の認証された資格情報を使用することで、シングル・サインオン機能を実現できます。

必要なパッケージをインストールする前に、Linux システムがインターネットに接続され、パブリック DNS ネーム・サーバ が構成済みであることを確認します。

まず、必要な likewise パッケージをダウンロードします:

- `sudo wget http://de.archive.ubuntu.com/ubuntu/pool/main/l/likewise-open/likewise-open_6.1.0.406-0ubuntu5.1_amd64.deb`
- `sudo wget http://de.archive.ubuntu.com/ubuntu/pool/main/libg/libglade2/libglade2-0_2.6.4-2_amd64.deb`
- `sudo wget http://de.archive.ubuntu.com/ubuntu/pool/universe/l/likewise-open/likewise-open-gui_6.1.0.406-0ubuntu5.1_amd64.deb`

ダウンロードしたパッケージをインストールします:

- `sudo dpkg -i likewise-open_6.1.0.406-0ubuntu5.1_amd64.deb`
- `sudo dpkg -i libglade2-0_2.6.4-2_amd64.deb`
- `sudo dpkg -i likewise-open-gui_6.1.0.406-0ubuntu5.1_amd64.deb`

Likewise GUI を使用して Linux を Active Directory に追加します (nano エディターが必要です)。

- ターミナル・ウィンドウを開き、次を実行します: `sudo nano /etc/nsswitch.conf`

- 次の行を見つめます `hosts: files mdns4_minimal [NOTFOUND=return] dns mdns4`
- 上記の行を次のように変更します `hosts: files dns [NOTFOUND=return]`
ネットワークを再起動します: `sudo /etc/init.d/networking restart`
ドメインに参加します: `sudo domainjoin-gui` (or `sudo domainjoin-cli`)

Active Directory ユーザを使用して Ubuntu 14.04 上の GUI ログオンを実行するには: 「`/usr/share/lightdm/lightdm.conf.d/`」にある「`50-ubuntu.conf`」ファイルを編集し、以下の行を追加します:

- `allow-guest=false`
- `greeter-show-manual-login=true`

最後に、システムを再起動します。再起動後、ログオン画面で「ログイン」を選択し、適切な構文を使用して Active Directory ユーザの資格情報を入力します:

- `abc.comdomain_user_name`

または

- `domain_user_name@ericom.local`

ActiveDirectory サポート (Pbis) を追加する

- `sudo wget http://download.beyondtrust.com/PBISO/8.0.1/linux.deb.x64/pbis-open-8.0.1.2029.linux.x86_64.deb.sh`
- `sudo chmod +x pbis-open-8.0.1.2029.linux.x86_64.deb.sh`
- `sudo ./pbis-open-8.0.1.2029.linux.x86_64.deb.sh`

ターミナルから以下を設定します:

```
cd /opt/pbis/bin/

sudo domainjoin-cli join --disable ssh $domainname $domainaccount
```

例: `sudo domainjoin-cli --disable ssh abc.com admin@abc.com`

パスワードを要求された場合、適切な資格情報を入力し、完了後に「成功」プロンプトが表示されます。

参 考 資 料: https://community.spiceworks.com/how_to/80336-join-ubuntu-14-04lts-to-a-windows-domain-using-pbis-open

ドメイン・プレフィックスを定義するには、次を使用します:

```
sudo ./opt/pbis/bin/config UserDomainPrefix <domain-name>
```

デフォルトのドメインを使用するには、次を使用します:

```
sudo ./opt/pbis/bin/config AssumeDefaultDomain true
```

DNS の構成

Linux システムから Active Directory の接続に問題が発生している場合、その Active Directory システムが DNS ネーム・サーバ・リストの最上部にあるかを確認します。

DNS ネーム・サーバを追加するには:

`cd /etc/network/interfaces.d` に移動します

ネットワーク・アダプタ・ファイルを編集します: `sudo nano eth0.cfg`

`dns-nameservers 10.0.1.1` を追加します (実際の DNS アドレスを入力してください)

ネットワークを再起動します: `sudo /etc/init.d/networking restart`

使用されているネーム・サーバを確認します: `cat /etc/resolv.conf`

```
ubuntu@:~$ cat /etc/resolv.conf
# Dynamic resolv.conf(5) file for glibc resolver(3) generated by resolvconf(8)
#     DO NOT EDIT THIS FILE BY HAND -- YOUR CHANGES WILL BE OVERWRITTEN
nameserver 10.0.0.2
nameserver 10.0.2.76
nameserver 8.8.8.8
```

Linux アプリケーションとデスクトップの展開

Ericom Connect 7.5 以降では、Ubuntu ベースの Linux システムへの接続がサポートされています。Linux は、デスクトップとアプリケーションを実行するための理想的な低コストのオペレーティング・システムです。以下の説明は、Linux の基本的な知識を前提としています (例: ファイルの編集など)。前提条件をインストールするために Linux シェルへアクセスできるよう、PowerTerm InterConnect などの SSH アプリケーションの知識も必要とされます。

前提条件

- Ubuntu 14.04.3 x64
- Ericom RDX Linux xRDP
- Windows デスクトップ環境 (XFCE4 など)
- QT ライブラリ依存関係パッケージ
- Linux システムの Root(su) アクセス
- AccessPad 7.5.0 以上
- 接続先となる Ericom Connect RemoteAgent Web サービス

前提条件をインストールするには、「7.4.13 Linux 前提条件の設定」の章に記載されている説明に従ってください。前提条件の準備完了後、Ericom RemoteAgent for Linux のインストールを開始します。

Ericom RemoteAgent for Linux のインストール

Ericom Connect グリッドが存在し、アクセス可能であることを確認した後、Ericom RemoteAgent for Linux のプロセスを開始してください。前提条件の準備完了後、Ericom RemoteAgent for Linux のインストールを開始します。

- ターミナル・ウィンドウから su モードに入ります: **sudo su** (Ericom RemoteAgent for Linux をインストールするために、この操作が必要です)
- インストーラはコマンド・ラインから起動する必要があります。デスクトップからファイルをダブルクリックする操作ではインストールすることができません。
- Ericom RemoteAgent for Linux のインストール:

```
sudo dpkg -i ericom-connect-remote-host_x64.deb
```

- これにより、「/opt/ericom/」にフォルダがインストールされます

- ericom-access-server
- ericom-connect-remote-agent-client

- インストーラのログ・ファイルは次の場所にあります:

```
/var/log/ericom/install
```

- ログ・ファイルは次の場所にあります: /var/log/ericom/
- サービスは次の場所にあります: /etc/init.d
- 識別子ファイルは次の場所にあります: ~/.local/share/applications/ericom-connect-remote-agent
- 「service」を使用してアクション・コマンドを実行します。

例: **service ericom-connect-remote-agent start**



注意:

- su アクセスなしでインストールを起動した場合、次のエラーが表示されます: 「dpkg: エラー: 要求された操作にはスーパーユーザの権限が必要です」
- xrdp が存在しない状態でインストールを起動した場合、次のエラーが表示されます: 「エラー: このインストールを続行するには xrdp パッケージが必要です。」 (Error: xrdp package is required for this installation to continue.)」

AccessServer for Linux

Ericom AccessServer for Linux は、RemoteAgent と共にインストールされ、インストール後に自動的に起動します。手動で Ericom AccessServer を起動するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-access-server start
```

AccessServer を再起動する際、通信の同期を維持するために RemoteAgent も同様に再起動してください。

Ericom RemoteAgent for Linux の実行と構成

Ericom RemoteAgent for Linux を実行するコマンドには、以下の形式を使用します (注意: http ではなく、https を使用してください):

```
sudo service ericom-connect-remote-agent connect -server-url
https://<RAWAddress>:8044 [-host-name RemoteAgentAddress] [-tenant-info
TenantInfo]
```

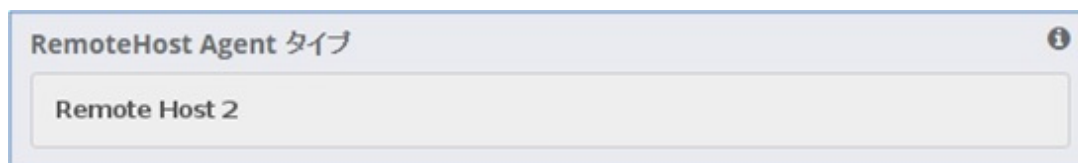
上記の内容について:

- **RAWAddress** は、RemoteAgent Web サービスを実行しているシステムの IP アドレスです - 通常は Ericom Connect サーバです。
- **RemoteAgentAddress** (省略可能) は、RemoteAgent を実行しているシステムの IP アドレスです。
- **TenantInfo** (省略可能) は、この RemoteAgent の割り当て先とする必要のあるテナントの名前です。

例えば:

```
sudo service ./ericom-connect-remote-agent connect -server-url https://10.0.2.76:8044
-host-name 10.0.2.184 -tenantInfo myTenantId
```

- ここまでの手順で、Linux RemoteAgent が管理コンソールに登録されます。Linux RemoteAgent は Type 2 の RemoteAgent であり、次から確認できます 「システム | ホスト | 設定」



Linux RemoteAgent アクション・コマンド

Linux RemoteAgent を Ericom Connect から切断するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent disconnect
```

Linux RemoteAgent のバージョンを確認するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent version
```

Linux RemoteAgent のステータスを確認するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent status
```

Linux RemoteAgent を起動するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent start
```

Linux RemoteAgent を停止するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent stop
```

Linux RemoteAgent を再起動するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent restart
```

すべての RDP セッションの一覧表示 (セッション・ステータス、ローカル・ユーザ名、セッション ID、プロセス ID、セッション経過時間、セッション切断経過時間) するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent list-sessions
```

システムと AccessServer の情報を確認するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent system-info
```

グリッドから取得された Linux RemoteAgent 設定を確認するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent grid-settings
```

Linux RemoteAgent サービスの使用状況を確認するには、次を実行します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent
```

高いログ・レベルで Linux RemoteAgent を実行するには、以下を使用します:

```
sudo service ericom-connect-remote-agent start -log-debug-level <目的のレベル> | 使用可能なオプション: Debug, Verbose
```

Linux デスクトップを公開する

Linux リソースは、「デスクトップ」セッションとして公開されます。「公開」に移動し、「デスクトップ追加」を選択します。

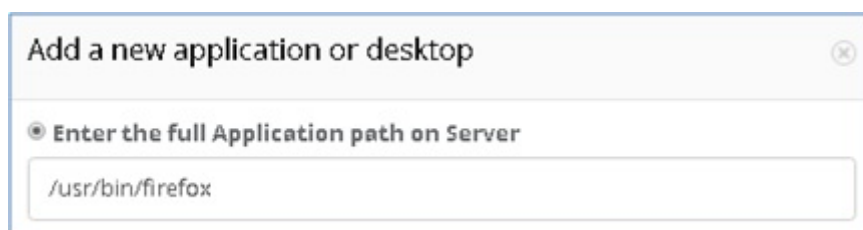


Linux デスクトップの公開グループへの関連付けを行った後、目的の Linux システムを含むシステム・グループにその公開グループを割り当てます。Ericom Connect に Windows と Linux 両方のシステムを使用する場合、エンドユーザの混乱の可能性をさけるために、同じタイプのオペレーティング・システム用にシステム・グループを別に作成することを強くお勧めします。

Linux アプリケーションを公開する

7.6.1 以降では、ネイティブ Linux アプリケーションの公開が利用可能です。以下の最新のコンポーネントが必要です: Ericom RDX、Ericom Connect、Ericom AccessServer、および AccessPad(すべてのコンポーネントは同一バージョンである必要があります)。Linux アプリケーションを公開するには、以下を実行します:

- 管理コンソールを使用して、「公開 | リソース | アプリケーションの追加」に移動します。
- アプリケーションの完全なパスを Unix 形式で入力します (例: `/usr/bin/firefox`)



- デフォルトのアイコンが使用されます。これは、ConnectCLI SetIcon コマンドを使用して変更できます。

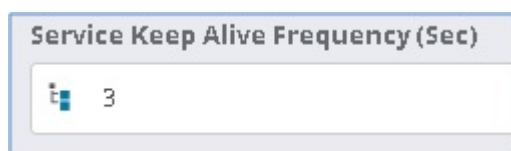


- ユーザがアプリケーションを起動すると、そのアプリケーションを含むホスト・システムが Ericom Connect によって自動的に選択されます。
- すべてのアクティブ・アプリケーションを終了した場合、ユーザのセッションはログオフされます。

Linux でのセッション共有

後続の Linux アプリケーションを起動すると、既存のアクティブな Linux セッション内にアプリケーションが起動する場合があります。Linux アプリケーションでのセッション共有を有効化するには、以下を実行します:

- Ericom Connect 管理コンソールで、公開アプリケーションの「要件」タブに移動し、「接続共有を使用」の設定を「はい」に変更し、「保存」ボタンをクリックします。
- セッション共有には、Ericom Linux RemoteAgent が必要です。デフォルトでは、エージェントは `opt/ericom/ericom-connect-remote-agent/ericom-remote-session-agent` にインストールされています。Linux アプリケーションを起動すると、プログラムと引数がエンコードされます (base64)。
- Linux でのセッション共有のパフォーマンスを向上するには、「システム | ホスト | 設定 (歯車アイコン) | サービスの Keep Alive 間隔 (秒)」を「30」から「3」に変更し、「保存」をクリックします (Windows には適用できません)。



- 「ログオン名のフォーマット」が次のいずれかに設定されていることを確認します: AsLoggedIn、UserPrincipalName、DownLevelLogonName、または OmitDomain

アプリケーションとしての Linux デスクトップ

Linux デスクトップをアプリケーション (設定されたアプリケーションのみを起動し、デスクトップ・マネージャを表示しないデスクトップ) として公開するには、以下を実行します:

- Linux アプリケーションは、本質的には特定のアプリケーション (例: Firefox) を起動する Linux セッションです。目的のアプリケーションをシステムの次の場所で指定します: `/etc/xrdp/startwm.sh`
- 目的のアプリケーションのみを起動する すべての Linux システムを含んだシステム・グループを作成し、それに応じたグループの名前をつけます。例: 「Linux Firefox システム」
- 「公開」に移動し、「デスクトップ追加」を選択します。



- デスクトップ・リソースの名前をアプリケーション名に変更します。例: 「Linux Firefox」 - これがエンドユーザに表示されます。
- アイコンを変更したい場合は、次の ConnectCLI コマンドを使用します: **ConnectCLI SetIcon**
- 「Linux Firefox」という名前の公開グループを作成し、アプリケーションをそのグループに割り当てます (「デスクトップ」タブの下にあります)。

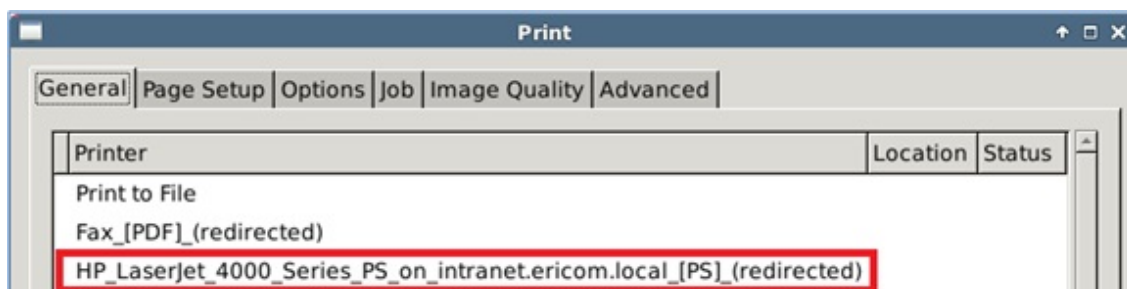
最後に、アプリケーションの公開グループにシステム・グループを関連付けます「Linux Firefox」公開グループに割り当てられたユーザには、クライアント (例: AccessPortal) でこのリソースが表示されます。

Linux セッションでの印刷

Linux セッションでの印刷機能がサポートされています (Ericom RDX の機能の 1 つ)。印刷を有効化するには、Ericom Connect 管理コンソールを使用して、「汎用」ベースの印刷リダイレクトを有効化します。これは、「詳細タブ | プリンタのリダイレクトモード」で設定されています。



ユーザがログインすると、ローカル・プリンタが Linux セッションへリダイレクトされます。PostScript 印刷が利用可能な場合、プリンタ名にラベル「PS」が表示されます。



PostScript が利用可能でない場合、印刷ジョブをローカル・デバイスへ送信するために PDF 変換が使用されます。この場合、プリンタ名にラベル「PDF」が表示されます。

HP_Universal_Printing_PCL_6_(Dell_Color)_[PDF]_(redirected)

Linux セッションでのオーディオ

Linux セッションでのオーディオのリダイレクトがサポートされています (Ericom RDX の機能の 1 つ)。オーディオを有効化するには、Ericom Connect 管理コンソールを使用して、「詳細タブ | リダイレクト構成 | オーディオのリダイレクト」を有効化します。



Linux RemoteAgent をアンインストールする

サービスを停止します:

- `sudo service ericom-connect-remote-agent stop`
- `sudo service ericom-access-server stop`

次に、パッケージをアンインストールします:

- `sudo dpkg --purge ericom-connect-remote-host`

AccessPortal の設定

Linux セッションへの接続には、手動の設定を AccessPortal で行う必要があります。Ericom Connect エンド・ユーザ・ウェブサービスを実行しているシステム上で、次の場所に移動します:

`C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Client Web Service\WebServer\AccessNow`

「config.js」をテキスト・エディタで開きます。「encryption: false」に対してのコメント「//」を削除します。ファイルを保存すると、今後の AccessPortal セッションで Linux リソースへ接続できるようになります。

Windows RDS でのセキュアなブラウジング

セキュアな Web ブラウジングのソリューションとして Ericom Connect を構成することができます。セキュアなブラウジングとは、エンドユーザのローカル・デバイスとブラウジング環境を隔離することを意味します。ブラウジングのアクティビティは、DMZ などのセキュアな場所で稼働するサーバ上で実施されます。このアーキテクチャには、以下のようなセキュリティ上の利点があります:

- マルウェアやランサムウェアなどの悪意のある攻撃をネットワークの境界で隔離、ブロックし、ローカル・ネットワークへの侵入を防止します
- パスワードや Cookie などのユーザの機密情報はサンドボックス環境へ隔離され、使用後に消去されます

Ericom Connect では、Windows リモート・デスクトップ・サーバ (RDS) と Linux Ubuntu サーバの両方にセキュアなブラウジングを提供できます。機能は、バックエンドのオペレーティング・システムとブラウザにより異なります。悪意のあるコードが内部ネットワークへ到達することを防ぐため、DMZ またはローカルのネットワークやコンピューティング・リソースから隔離されたテナント上にセッション・ホストを展開することをお勧めします。

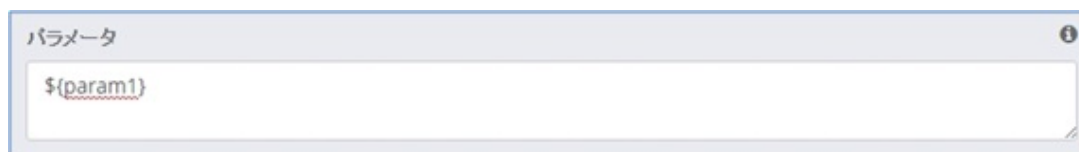
Windows RDS サーバの構成

Windows でのセキュアなブラウザの構成には、目的のブラウザの公開およびブラウザ・セッション用のパラメータの指定 (例: キオスク・モード) を行います。RDS システムへブラウザをインストールした後、そのブラウザを Ericom Connect で公開します。

Web サイト・アクセス用にブラウザを公開する

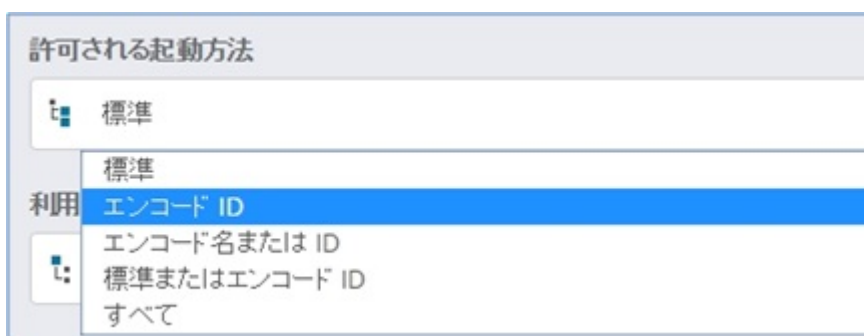
Ericom Connect では、任意の Web ページに埋め込み可能な URL を使用して、ブラウザ・セッションを起動するための革新的な方法が提供されています。ユーザが URL をクリックすると、AccessPad と公開済みのブラウザが起動し、構成済みの Web サイトが自動的に開きます。これは、セキュアなブラウザ環境 (例: DMZ でブラウザを実行する RDS サーバ) で隔離する必要があるインターネット・リンクを公開する際に特に便利です。セキュアなブラウジングのために特別に使用する Web ブラウザを公開する方法は以下のとおりです:

- (LNK ファイルではなく) 完全なパスを使用してブラウザを公開します
- `$(param1)` を使用して、パラメータの使用を指定します



- 渡されるパラメータ値の長さは、256 文字に制限されていることに注意してください。8.1 以降では、RDP ホストが Windows である場合、文字数が 256 文字に制限されなくなりました。8.2 以降では、Linux においても文字数が 256 文字に制限されなくなりました。
- 公開済みのブラウザは一般的な目的で使用するものではない (URI から渡すパラメータを必要とする) ため、アイコンをエンドユーザに対し非表示にします。
- 「要件」タブに移動し、「許可される起動方法」がアプリケーションの参照方法と一致していることを確認します。方法は、「リソース名」または「エンコード ID」を使用します。

例えば、ConnectCLI コマンドまたは Javascript を使用して生成したエンコード済みの値には、「エンコード ID」を許可する必要があります。



EricomLaunch.js ファイルの構成

URI を使用する場所に EricomLaunch.js ファイルを配置します。公開済みのブラウザ、そのブラウザがメンバーとなっているグループおよび URI に、名前または一意の ID を設定します。

- 起動するアプリケーションの名前または ID

```
var app = "Secure Browser ";
```

- アプリケーションの含まれるグループの名前または ID 空白文字列を使用可能です。
- その場合、ユーザにとっての一意の存在がサーバにより検索されます。

```
var group = "DMZ ";
```

- これはデフォルトで使用される URI です。異なる URI を使用する場合、この行を変更してください。

```
var uri = "estp ";
```

Web ページへの URI の追加

ID への参照を Web ページに追加します。渡される URL は、256 文字の文字制限があることに注意してください。例:

```
<A id="ERICOM" href="http://www.ericom.com">http://www.ericom.com</A>
```

比較として、ローカルで起動される標準的な URL は次のとおりです:

```
<a href="http://www.ericom.com">Ericom</a><br />
```

ConnectCLI GenerateEncodedUri コマンドにより生成される静的なエンコード済み URL は、「id=ERICOM」タグを使用せずに入力することもできます。例:

```
<A
```

```
href="estp://accesspad/v1/NDg4NTMwYTUtZDI0Zi00ZGMylWE10TEtNTM3YTc0ZTQ1ZTgyJ
```

```
webpage</A> <br/>
```

AccessPad URI の使用方法のサンプル HTML:

```
<!DOCTYPE html>
```

```
<html>
```

```
<head>
```

```
<meta charset="UTF-8">
```

```
<title>Ericom Sample URI Launch Page</title>
```

```
</head>
```

```
<body>
```

```
<h2>Dynamic entry of website URL into secure browser defined in EricomLaunch.js</h2>
```

```
<A id="ERICOM" href="http://www.ericom.com/connect-  
enterprise.asp">http://www.ericom.com/connect-enterprise.asp</A>
```

```
<br>
```

```
<!-- 下記により、id="ERICOM" を持つ要素のすべての href が置換されます -->
```

```
<script type="text/javascript" src="./jquery-2.2.3.min.js"></script>
```

```
<script type="text/javascript" src="./EricomLaunch.js"></script>
```

```
<h2>Static URL to launch AccessPad with website already encoded</h2>
```

```
<A
```

```
href="estp://accesspad/v1/ZGU3MzdmMzMtNjQwMi00YmNlWFkMGEtYzBkYTk3MzFjZDdjJCEkKjc4NDE3Y2NhLW
```

Encoded URL to pre-configure website

</body>

</html>

Linux Ubuntu でのセキュアなブラウジング

オペレーティング・システムとして Linux を使用するには、まず Ericom Connect に Linux Ubuntu 14.04 サーバを展開する手順に従います。Linux システムを実行後、Web ブラウザをインストールします (例: Chrome をインストールするには、`sudo apt-get-install chromium-browser` を実行します)。ブラウザのインストール後、『Linux アプリケーションを公開する』の説明に従ってそれを公開します。ブラウザは、パラメータ付きで公開できます。例えば、キオスク・モードで最大化された状態で起動し、URL `www.ericom.com` を開くには、以下のように設定します:

```
chromium-browser --start-maximized --kiosk "http://www.ericom.com"
```

キオスク・モードでは、タブやアドレスバー、設定ボタンなどの一部のブラウザ要素が非表示となることに注意してください。ブラウザの「終了」ボタンが利用できなくなるため、セッションの切断時にオペレーティング・システムによりユーザが自動的にログオフされるようにしてください。

ロード・バランサ Ping ポイント

Ericom Connect では、HTTP(S) プロトコルによる ping ベースの健全性モニタリングを使用したロード・バランサがサポートされています。ロード・バランサを以下のいずれか 1 つのポートに誘導します:

- EUWS HTTPS:

```
https://サーバアドレス:8011/ericomxml/ping
```

- EUWS HTTP:

```
http://サーバアドレス:8033/ericomxml/ping
```

- ESG

```
https://ESGサーバアドレス:443/ping
```

ワークステーションでのセッション・フォロー

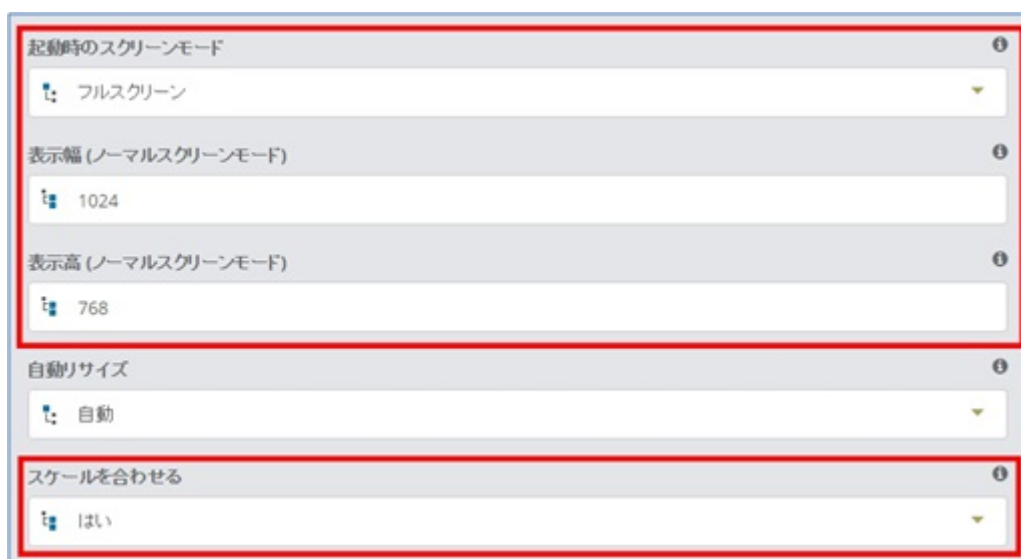
Ericom Connect 7.3 より、ユーザがワークステーションへの接続を既存のセッション (例: ロックされた状態) で試みた場合、ユーザは自動的にそのワークステーションに再接続されます。他のユーザがそのワークステーションにログオンした場合、オペレーティング・システムの警告メッセージが表示されます (ここではオペレーティング・システムの標準ルールが適用されます)。ルール「ワークステーションの OS で条件を無視」はデフォルトで「はい」に設定されているため、ワークステーション・ベースの接続にはバインド条件が無視されます。Ericom Connect 7.2 とそれ以前のバージョンでは、「マイデスクトップ」ワークステーション

(LDAP) 属性が設定されている場合のみ、ユーザは既存セッションに再接続することができました。(「マイデスクトップ」を使用しない場合、1 台のワークステーション上で許可されるのは 1 つのセッションでした)

セッション・ホスト機能を構成する

AccessNow 用の Scale-to-Fit 機能を使用する

一部のアプリケーションでは、固定の解像度が要求され、その解像度がエンドユーザのブラウザや Chromebook で利用可能な解像度を超える場合があります。Ericom Connect には、Scale-toFit 機能 (スケールを合わせる) が含まれ、AccessNow セッションを実行しているブラウザで利用可能な表示域にフィットするようアプリケーションの自動的な拡大縮小を行うことが可能です。Scale-to-Fit を設定するには、「起動時のスクリーンモード」を「フルスクリーン」に設定します。「表示幅」と「表示高」に必要な解像度を設定します。「スケールを合わせる」で「はい」をクリックして有効にします。



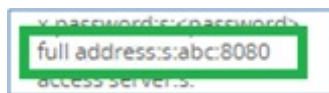
アクティブ・セッション中、ブラウザをリサイズすると、新しいサイズにフィットするようアプリケーションの拡大縮小が行われます。

構成済みのカスタム・ホスト名を使用する

Ericom Connect では、ユーザ接続用のリモート・ホストを識別する際に、リモート・ホストの「完全修飾ドメイン名」が使用されます。一部のネットワークでは、「ホスト名」または「IP アドレス」のみが要求されます。ネットワーク内で接続先のアドレスが渡される方法 (例:ESG の接続先となるホスト・アドレスの決定) を設定するには、「システム」|「登録済み」に移動し、「共通」(歯車) アイコンと「設定」タブをクリックします。アドレス値が渡される方法の定義には、次の 2 つのオプションがあります:

- 「RemoteHost 接続に使用するアドレス」から目的の値を選択する
- 「カスタムアドレス (オプションポート)」に値を入力する - この値は最も高い優先順位が与えられ、「RemoteHost 接続に使用するアドレス」の値はこの値により上書きされます。

設定を行ったシステムに対して起動分析を実行し、正しい値が使用されているか確認してください。



TsAgent による切断したセッションのログオフ

以下の設定は、デスクトップとシームレス・アプリケーション・モードに関連するものです。

- 「切断されたセッションをログオフ」 (デフォルト: 「いいえ」)
- 「ログオフ遅延 (秒)」 (デフォルト: 3 秒)

「ログオフ」遅延秒数を使用する

リモート・デスクトップ・セッションを明示的にログオフするには、リモート・デスクトップの「スタートメニュー」の「サインアウト」機能を使用します。この機能が選択されると、セッションは直ちにログオフされます。特定のアプリケーションのみが実行されるセッションであるリモート・シームレス・アプリケーション・セッションでは、この方法でログオフすることができません。代わりに、これらのセッションでは、表示されるウィンドウがなくなった時に自動的にログオフされます。例えば、すべてのアプリケーションを閉じた時です。読み込み中など、一部のケースでは、通常操作中の短い時間にアプリケーションから何も表示されない場合があります。このようなセッションが途中でログオフされるのを防ぐため、自動ログオフを遅延させます。この遅延中に新しいウィンドウが作成されるか既存のウィンドウが表示された場合、ログオフはキャンセルされ、セッションはアクティブな状態で保たれます。

デフォルトの遅延時間は、構成により異なります:

- マイクロソフト シームレス (デフォルトのモード) を使用する AccessPad では 30 秒です。
- Ericom True Seamless を使用する AccessPad では 300 秒です。
- AccessNow と AccessToGo では 3 秒です。

セッションの作成から 30 秒間は、そのセッションは終了されません。上記の 300/30/3 秒の遅延時間は、Ericom Connect 「ログオフ遅延 (秒)」 (「詳細」 タブの下) を使用して調整できます。この設定で指定した値は、すべての種類のクライアントに使用されます。セッション作成からの 30 秒間の遅延は変更できないことに注意してください。AccessPad で長い遅延が使用されているのは、クライアントにより追加アプリケーション用に既存セッションの再利用が可能のためです。このことは、ログオフの遅延の間に新しいアプリケーションが起動された場合、そのアプリケーション用に新しいセッションを作成するのではなく、既存のセッションを再利用できることを意味します。AccessNow と AccessToGo では、セッション共有は使用できません。

TsAgent によるログオフ

以下のシナリオでは、TsAgent によりセッションのログオフが実行されます。

- デスクトップまたはシームレス・モードを使用中に、セッションが切断され、かつ 「切断されたセッションをログオフ (Logoff Disconnected Sessions) 」 が 「はい (Yes) 」 の場合。次のケースでは、「ログオフ遅延 (秒)(Logoff Delay(sec))」が無視されることに注意してください。

- Microsoft シームレス・モードを使用中に、セッションが切断され、かつアクティブ・ウィンドウが存在しない場合。
- Ericom シームレス・モードを使用中に、セッションが切断され、かつ「ログオフ遅延 (秒)(Logoff Delay(sec))」タイマーが期限切れとなった場合。「ログオフ遅延 (秒)(Logoff Delay(sec))」タイマーは、最後のウィンドウが閉じられた時に開始されます。

TSagent VBS のスクリプト

PowerTerm TSagent では、特定の RDP セッションのイベント間に .vbs スクリプトを実行する機能がサポートされています。この機能により、アプリケーションが起動時やセッションの接続または接続解除時に特定のコマンドを実行する機能のレイヤーを追加することが可能です。

すべてのセッションの Startup 後のログイン・スクリプト (`_login`)

`_login.vbs` という名前のファイルを作成し、TSagent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは、TS/RDS セッションが Startup フォルダを処理した後に実行されます。

すべてのセッションの Startup 前のログイン・スクリプト (`__login`)

`__login.vbs` という名前のファイルを作成し、TSagent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは、TS/RDS セッションが Startup フォルダを処理する前に実行されます。

既存セッションへの接続時スクリプト (`_connect`)

`_connect.vbs` という名前のファイルを作成し、TSagent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは既存の TS/RDS セッションへの接続時に実行されます。

セッション切断時スクリプト (`_disconnect`)

`_disconnect.vbs` という名前のファイルを作成し、TSagent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは既存の TS/RDS セッションの接続解除時に実行されます。

セッション共有

ターミナル・サーバのリソース使用を効率化するために、複数のシームレス・アプリケーションで同一の RDP セッションが共有されます。セッションを共有すると、複数のシームレス・アプリケーションを実行するために複数回サインインする必要がなくなります。サインイン・プロセスは、最も多くリソースを消費するターミナルサービスの操作の 1 つです。「セッション共有」はデフォルトで有効化されているため、このプロセスは可能な限り削減されます。「セッション共有」が有効な場合、最初に起動したアプリケーションのプロパティ (色深度など) が使用されます。後続のアプリケーションには、独自の設定に関わらず、最初のアプリケーションのプロパティが使用されます。リソースのセッションが常に設定通り起動されるようにするには、「セッ

セッション共有」を無効にします。Ericom Connect 管理コンソールでは、セッション内のすべてのプロセスが同一のステータスを持ちます。セッションのプロセスが終了する際、Ericom Connect には認識されません。

セッション共有の使用を改善するには:

- すべてのターミナル・サーバに同じアプリケーションをインストールする必要があります。これにより、既にアクティブなターミナル・サーバに、追加で起動するアプリケーションが存在している状態になります。
- ターミナル・サーバへのサインインには、同一の形式で指定された同一の資格情報(ユーザ名とドメイン)を使用する必要があります。Ericom Connect 資格情報を使用するよう設定した公開アプリケーションでは、これは自動的に行われます。

FIPS 準拠

Ericom Secure Gateway は、FIPS への準拠のためにハードニングされた Windows システムに対応しています。ESG 向けに FIPS を有効にするには、他の Connect サービスが実行されていない専用のシステム上で Connect を実行する必要があります。FIPS は、グローバル/ローカル・ポリシーまたはレジストリのいずれかを使用して、オペレーティング・システム上で設定できます。

- グループ・ポリシー:コンピュータの構成 | Windows の設定 | セキュリティ設定 | ローカルポリシー | セキュリティオプション | システムの暗号化を設定:FIPS 準拠アルゴリズムを使う
- レジストリ:HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Lsa\FipsAlgorithmPolicy | 「Enabled」を「1」に設定します

設定を有効化した後、システムを再起動します。

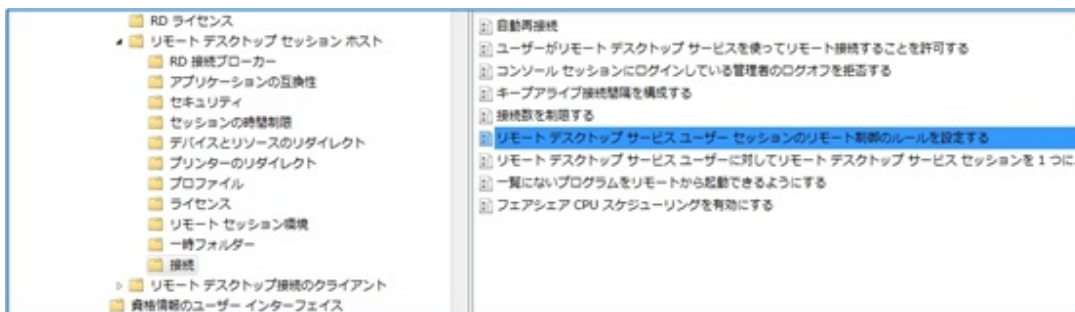
Ericom グリッド・コンポーネントと Access Server は、FIPS に対応していないことに注意してください。FIPS 準拠が必要な場合、Ericom Secure Gateway を使用する必要があります。

Ericom Team Client

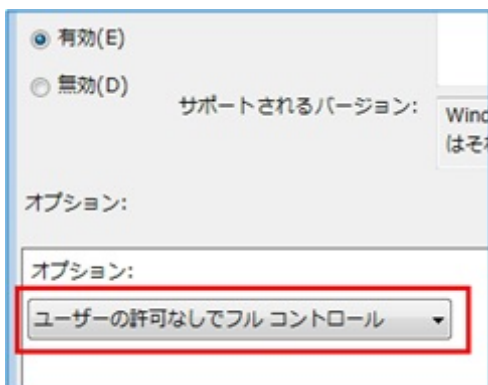
Ericom Team Client は、複数のユーザがメイン・セッションを閲覧することを可能にする、Enterprise エディション限定の機能です。1つのメインのコントロール・セッションが存在し、他はすべて閲覧のみのセッションとなります。任意の閲覧専用のセッションでコントロールを取得して、コントロール・セッションとすることができます。最大で 22 の閲覧とコントロールのセッションが許可されています。

前提条件

- Ericom Connect Enterprise
- Microsoft Windows Server 2012R2 または 2016
- 各ユーザの RDS クライアント・アクセス・ライセンス (CALs)
- 次の GPO を設定します:コンピュータの構成 | 管理用テンプレート | Windows コンポーネント | リモートデスクトップサービス | リモートデスクトップセッションホスト | 接続 | リモートデスクトップサービスユーザーセッションのリモート制御のルールを設定するを 有効 に設定します。



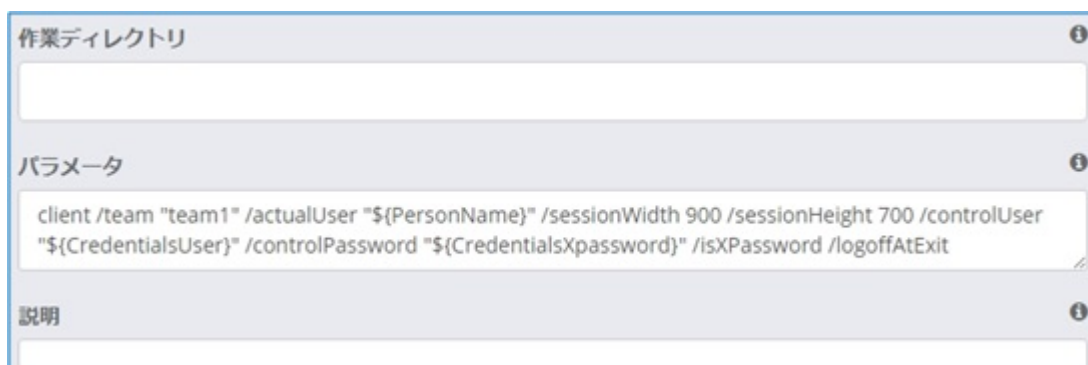
- 次のオプションを有効にします: ユーザの許可なしでフルコントロール



設定

Ericom Team Client(ETC) のコンポーネント (EricomTeamClient.exe) は、RemoteAgent とともに EricomTeamClient サブフォルダにインストールされています。 Ericom Team Client を起動すると、チーム・アクション・ダイアログを備えた Windows デスクトップセッションが表示されます (デフォルト動作)。 特定のアプリケーションを直接起動するには、Windows シェル (explorer.exe) を目的のアプリケーションまたはファイルに置換します (ファイルを開くには、ファイルの関連付けがシステム上に存在する必要があります)。 シェルは、次の場所のレジストリで構成されています: HKLMSoftwareMicrosoftWindowsNTCurrentVersionWinlogonShell (シェルを設定すると、Ericom Team を使用していない場合であってもすべてのユーザに対して適用されます) Ericom Connect 管理コンソールを使用して、Ericom Team Client をアプリケーションとして公開します。

Team Client 要の必要なパラメータを入力します。 例:



client /team 「My Team」 /actualUser 「\${PersonName}」 /sessionWidth 900 /sessionHeight 700 /controlUser 「\${CredentialsUser}」 /controlPassword 「\${CredentialsXpassword}」 /isXPassword /logoffAtExit

詳細な設定オプションについては、**EricomTeamClient.exe /?** を入力します。

```
Usage: EricomTeamClient <command> [command opts]
Usage: EricomTeamClient /? | /?? | /?search | /??search - for a
list of commands. ?? includes all details.
    Use a 'search' term to look for commands with a name or
description matching the search term.
    Example 'ConnectCli /?host' to find all commands with 'host'
as part of their name or description.
    EricomTeamClient <command> /? - for a list of options for
a specific command

client [options]*

inner [options]*

outer [options]*

cleaner [options]*
```

アプリケーションを公開する際、静的ユーザを指定する必要があります。このユーザは、RDP セッションへの接続および Ericom Team Client を起動するためのアクセス権を持っている必要があります。公開アプリケーションの「詳細」タブで、以下を設定します:

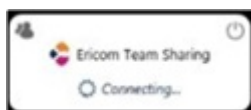
- ログイン名フォーマット: 「カスタムの資格情報」として設定します。
- カスタムユーザアカウント: すべてのセッションで使用する静的ユーザを入力します
- カスタムユーザパスワード: 設定したユーザ名に対応するパスワードを入力します。

使用方法

公開済みの Ericom Team アプリケーションをクリックして、最初のセッションを起動します。Ericom Team アクションのボックスが表示されます。

Ericom Team Client のステータス

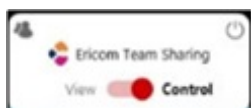
接続中 (Connecting) – Ericom Team はセッションに接続中です



閲覧 (View) – これは閲覧のみのセッションです。コントロール・アクセスを取得するには、「コントロール」をクリックします。



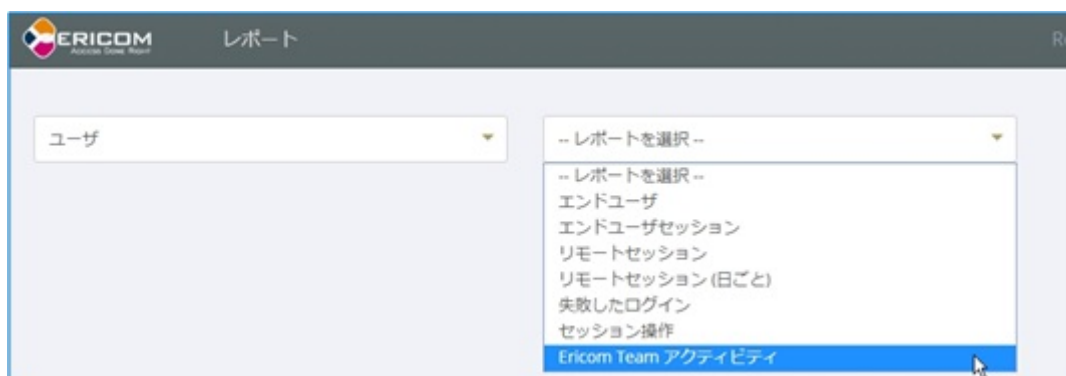
コントロール (Control) – これはコントロール・セッションです。ある時点において、1つのコントロール・セッションのみがアクティブとなることができます。コントロール・セッションは、任意の閲覧セッションから取得することができます。閲覧専用モードに切り替えるには、「閲覧」(View) をクリックします。



ステータス (Status) – Team アイコンの上にカーソルと置くと、既存のユーザ、チーム名、およびコントロール・ユーザを確認できます。



すべての Ericom Team アクションは、システムに記録されます。アクティビティを表示するには、「レポート | ユーザ | Ericom Team アクティビティ」に移動します。



目的のパラメータを入力し、「実行」をクリックすると結果が表示されます。このレポートには以下が含まれています:タイムスタンプ、コンピュータ名、ユーザ名、メッセージ、Team 名。

 A screenshot of the Ericom Reports web interface showing a table of activity logs. The table has columns for 'Timestamp', 'Computer Name', 'Person Name', 'Message', and 'Team Name'. The data rows show various actions like 'Controlling', 'Viewing', 'Requested Control', and 'Client Registered' performed by users on a computer named 'WNSERVER0012TG' for the team 'team1'.

Timestamp	Computer Name	Person Name	Message	Team Name
Jun 25, 2017 4:16:54 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Controlling	team1
Jun 25, 2017 4:16:54 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Viewing	team1
Jun 25, 2017 4:16:54 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Requested Control	team1
Jun 25, 2017 4:16:27 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Controlling	team1
Jun 25, 2017 4:16:27 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Requested Control	team1
Jun 25, 2017 4:15:49 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Viewing	team1
Jun 25, 2017 4:15:48 PM	WNSERVER0012TG	██████████	Client Registered	team1

Team の強制終了

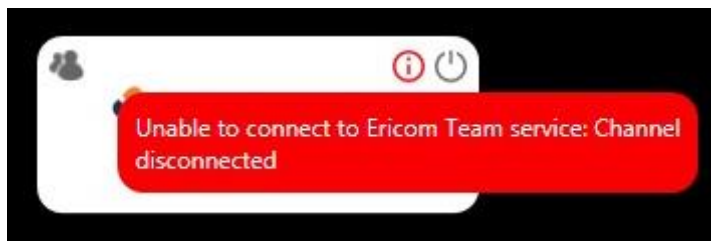
アクティブな Team セッションは、「cleaner」パラメータを使用して公開アプリケーションを実行することで、強制的に閉じることができます。例:

- Parameters: **cleaner** /team "\${AppName}" /actualUser "\${PersonName}" /sessionWidth 1024 /sessionHeight 786 /controlUser "\${CredentialsUser}" /controlPassword "\${CredentialsXpassword}" /isXPassword

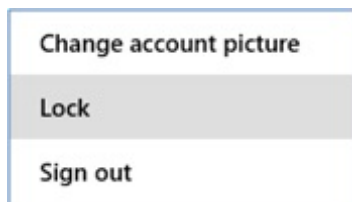
必要に応じて、このパラメータを使用して新しい公開アプリケーションを作成します。

既知の動作

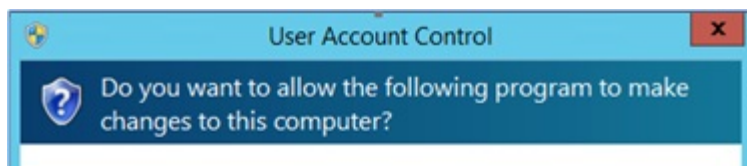
- Ericom Team Client で障害状態が検出されると、エラーが表示されます。エラーには、以下のようなものがあります:Team サーバに接続しませんでした (Unable to connect to Team server)。サーバーが切断されました (Server disconnected)。接続の起動でタイムアウト (120 秒) が発生しました (Timeout (120 seconds) to launch connection)。以下はエラー表示のサンプルです。



- コントロール・セッションを使用する場合、Windows セッションをロックしないでください。これを行うと、セッションが回復不可能な状態になります。Team セッションを閉じなければならなくなり、保存されていかに作業が失われる可能性があります。



- コントロール・セッションを使用する場合、UAC プロンプトにアクセスできなくなります。サーバー上でセッション起動時に自動的に立ち上がる UAC アプリケーションを無効化してください。



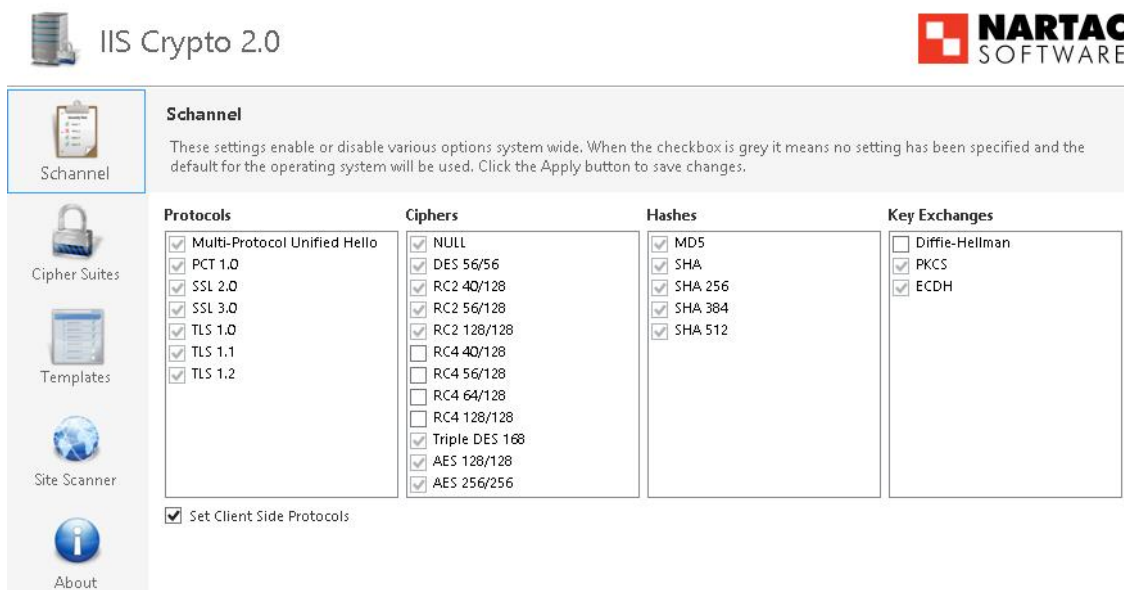
8.1.5 エコシステムガイド

このエコシステムガイドは、Ericom Connect で様々なサードパーティの技術ソリューションを活用する方法についての説明とヒントを提供しています。このセクションに含まれるコンテンツは、Ericom 社外の事情により変更される可能性があります。問題が発見された場合、ドキュメントを更新しますので、Ericom のテクニカル・サポートまでご報告ください。

Qualys のグレードを A に向上する

Qualys (https://www.ssllabs.com/) は、リモート・アクセスページのセキュリティを評価するためのオンライン・ツールを

- 証明機関から信頼された証明書を使用します。ワイルドカード証明書の使用を避けてください。自己署名証明書を使用しないでください。
- 最新の Microsoft のパッチすべてが Windows オペレーション・システムに適用されていることを確認してください。
- 無償のツール (IISCrypto.exe) を使用して、システム上の RC4 暗号を無効化します。これは、「A」グレードを達成するのに不可欠です。RC4 オプションをオフにするだけです。暗号の設定後、システムを再起動します。



IIS Crypto 2.0 **NARTAC**
SOFTWARE

Schannel
These settings enable or disable various options system wide. When the checkbox is grey it means no setting has been specified and the default for the operating system will be used. Click the Apply button to save changes.

Protocols	Ciphers	Hashes	Key Exchanges
<input checked="" type="checkbox"/> Multi-Protocol Unified Hello	<input checked="" type="checkbox"/> NULL	<input checked="" type="checkbox"/> MD5	<input type="checkbox"/> Diffie-Hellman
<input checked="" type="checkbox"/> PCT 1.0	<input checked="" type="checkbox"/> DES 56/56	<input checked="" type="checkbox"/> SHA	<input checked="" type="checkbox"/> PKCS
<input checked="" type="checkbox"/> SSL 2.0	<input checked="" type="checkbox"/> RC2 40/128	<input checked="" type="checkbox"/> SHA 256	<input checked="" type="checkbox"/> ECDH
<input checked="" type="checkbox"/> SSL 3.0	<input checked="" type="checkbox"/> RC2 56/128	<input checked="" type="checkbox"/> SHA 384	
<input checked="" type="checkbox"/> TLS 1.0	<input checked="" type="checkbox"/> RC2 128/128	<input checked="" type="checkbox"/> SHA 512	
<input checked="" type="checkbox"/> TLS 1.1	<input type="checkbox"/> RC4 40/128		
<input checked="" type="checkbox"/> TLS 1.2	<input type="checkbox"/> RC4 56/128		
	<input type="checkbox"/> RC4 64/128		
	<input type="checkbox"/> RC4 128/128		
	<input checked="" type="checkbox"/> Triple DES 168		
	<input checked="" type="checkbox"/> AES 128/128		
	<input checked="" type="checkbox"/> AES 256/256		

Set Client Side Protocols

ESG システムを再起動した後、アドレス名 (SSL でセキュリティ保護されたもの) を Qualys の Web サイトに入力し、「A」グレードに達したことを確認します。このスクリーンショットは、2017 年 8 月 1 日に取得されました (Windows 2012R2 および 2016 サーバから)。

Assessed on: Tue, 01 Aug 2017 19:46:05 UTC | **HIDDEN** | [Clear cache](#)[Scan Another »](#)

注: Windows 2008 R2 サーバでは、この手順では「B」グレードと評価されます。

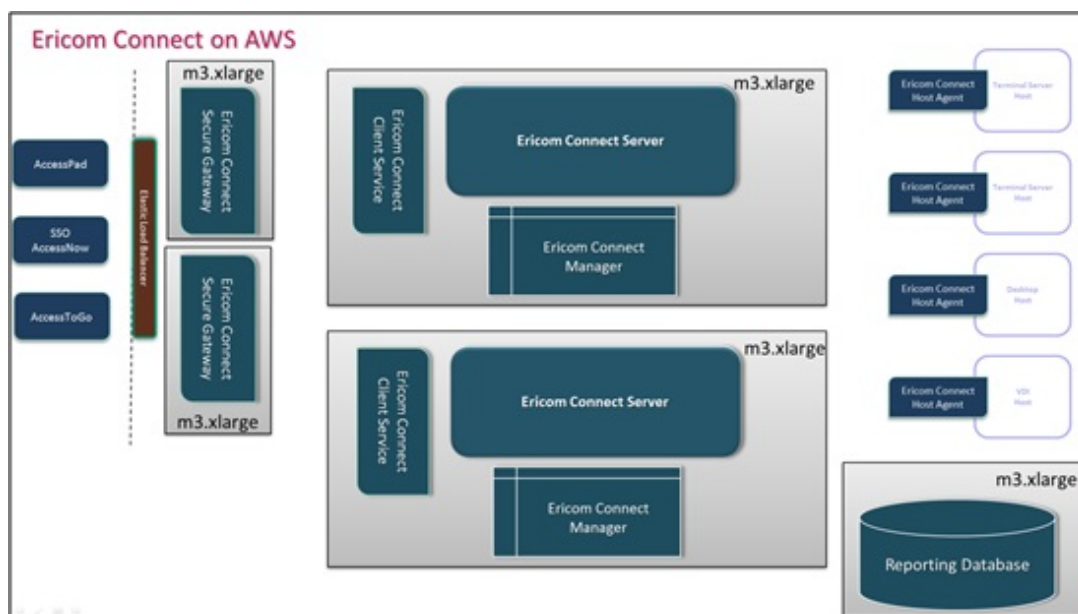
■ Amazon AWS での展開

概要

セッション・ホスト・ベースのアプリケーションとデスクトップ・セッションを管理するために、Ericom Connect を Amazon AWS EC2 上に展開可能です。Ericom Connect のクラウドでの使用には、以下ののような利点があります:

- 設備投資から定量課金型の変動費への移行
- インフラストラクチャの弾力性 - 必要に応じて拡張
- 迅速なグローバル展開 - 高速にスケール
- まだまだ沢山あります。

次の図では、Amazon AWS 上の Ericom Connect 7 のリファレンス・アーキテクチャが示されています。

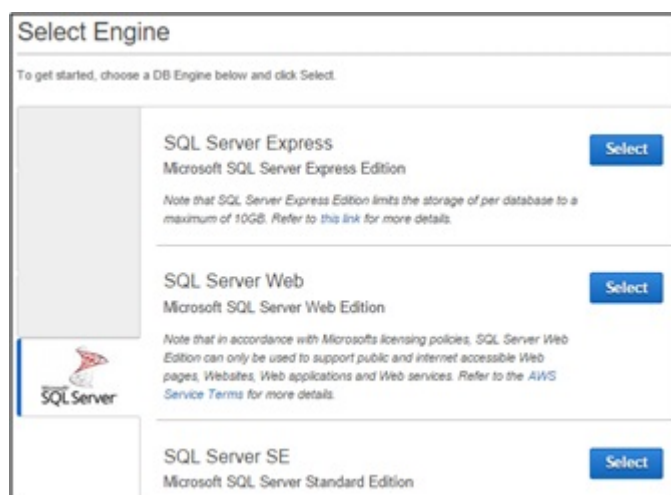


要件

Ericom Connect サーバ用に、AWS EC2 **m3.xlarge** インスタンスをお勧めします。SQL サーバを同一マシンにホストする場合、100 GB のストレージを確保することをお勧めします。

AWS RDS SQL データベースを使用する

Ericom Connect は、AWS でホストされている MS SQL 互換データベースと互換性があります。新しい RDS データベースを追加する場合、互換 SQL エンジンから選択します：



データベース・エンジンのパラメータを設定します。識別子、ユーザ名、パスワードを定義します。この情報はグリッド設定のために必要になりますので注意してください。

Specify DB Details

Instance Specifications

DB Engine sqlserver-ex

License Model license-included ▼

DB Engine Version 11.00.2100.60.v1 ▼

DB Instance Class db.t2.medium — 2 vCPU, 4 GiB RAM ▼

Scaling storage after launching a DB Instance is currently not supported for SQL Server. You may want to provision storage based on anticipated future storage growth.

Storage Type General Purpose (SSD) ▼

Allocated Storage* 20 GB

Settings

DB Instance Identifier*

Master Username*

Master Password*

「Publicly Available」エンドポイントを使用している場合、セキュリティ・グループを介して SQL ポート (1433) が利用可能であることを確認してください。

Security Groups default
(active)

Publicly Accessible Yes

セキュリティ・グループで、SQL ポートの着信ルールを定義します。

Edit inbound rules

Type ⓘ	Protocol ⓘ	Port Range ⓘ
MS SQL ▼	TCP	1433

SQL インスタンスへの DNS アドレスはデフォルトで提供されていることに注意してください (例: connecttestdb.cozfm12xxroy.us-east-1.rds.amazonaws.com:1433) データベース・インスタンスへの IP を、Ericom Connect グリッド設定にも使用できます (IP アドレスを取得するには、DNS アドレスに ping します)。

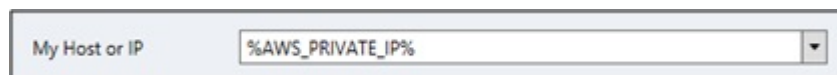
AWS RDS Microsoft SQL を使用する

Ericom Connect では、AWS RDS MSSQL がサポートされています。AWS SQL を使用するよう Ericom Connect を設定するには、Ericom Conenct の設定で「Admin User(管理者ユーザ)」と「Server User(サーバユーザ)」の両方に SQL 管理者アカウントを使用します。接続が完了すると、Ericom Connect により SQL データベース・サーバ内に新しいデータベースが作成されます。注意: MS SQL の着信ポート (1433) が

Ericom Connect サーバに対し利用可能となっていることを確認してください。この設定を、関連する AWS セキュリティ・グループで行います。

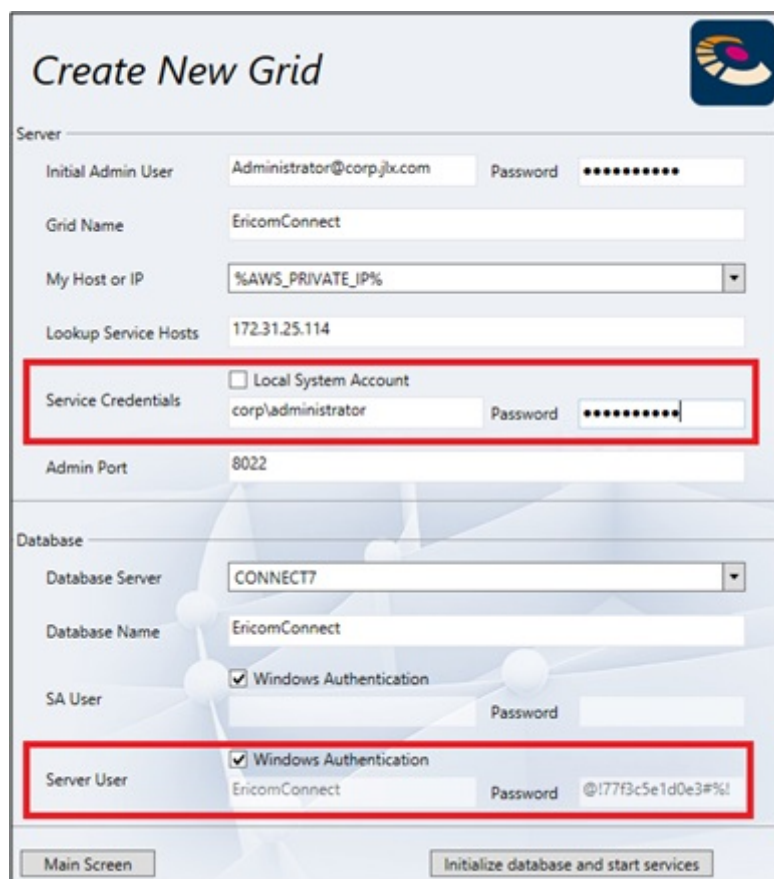
Business Logic マシンのインストール

EC2 インスタンスに Ericom Connect をインストールします。最初のサーバのインストール中に「**New Grid**」を選択します。Host IP が AWS PI であることを確認します。



My Host or IP: %AWS_PRIVATE_IP%

SQL へのアクセス権を持つサービス・アカウントを使用して、「Server Service Credentials」を定義します。



Create New Grid

Server

Initial Admin User: Administrator@corp.jix.com Password: [masked]

Grid Name: EricomConnect

My Host or IP: %AWS_PRIVATE_IP%

Lookup Service Hosts: 172.31.25.114

Service Credentials: Local System Account
corp\administrator Password: [masked]

Admin Port: 8022

Database

Database Server: CONNECT7

Database Name: EricomConnect

SA User: Windows Authentication Password: [masked]

Server User: Windows Authentication
EricomConnect Password: @!77f3c5e1d0e3#%!

Main Screen Initialize database and start services

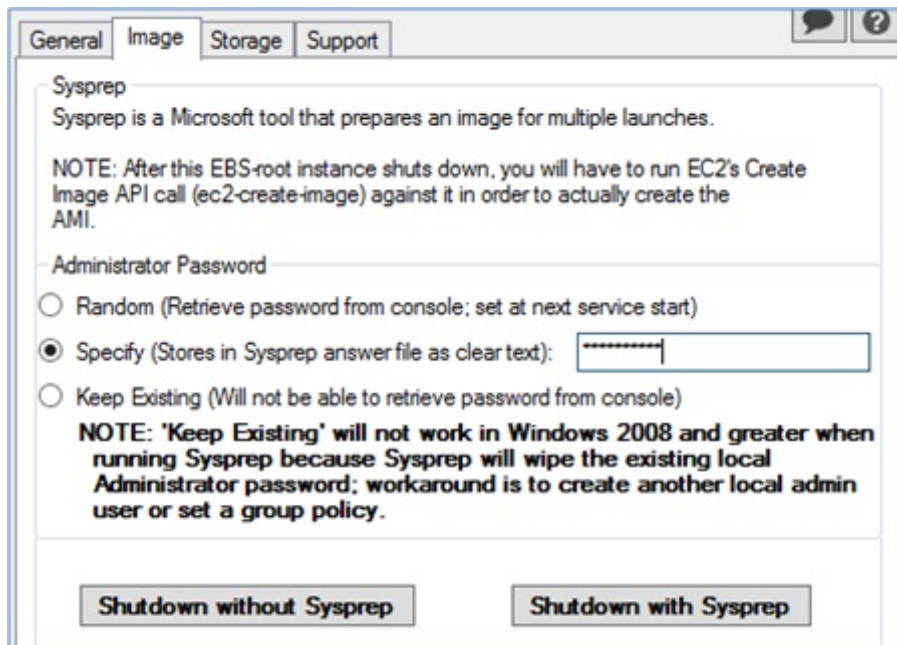
すべての追加のグリッド・マシンでは、「**Join existing grid**」を選択し、最初のマシンのインストールで使用したグリッド名を指定します。「Lookup Service Hosts」を入力します (通常は最初の Business Logic サーバが Lookup Service Hosts であるため、そのアドレスを使用します)。このサービス向けの将来のマシン作成のために、2 台目のマシンを使用し、そのマシンが既存のグリッドに参加するよう構成できます。

RDS ターミナル・サーバの設定

以下のセクションに記載されている手順に従ってください: **RemoteAgent** を使用してサーバを複製する Windows の Sysprep コマンドは使用しないでください。EC2ConfigService 設定の使用



このツールを使用して、Sysprep パラメータと管理者パスワードを設定します。「Shutdown with Sysprep」をクリックし、Sysprep の操作を開始します。



詳細については、こちらの AWS Web サイトを参照してください:

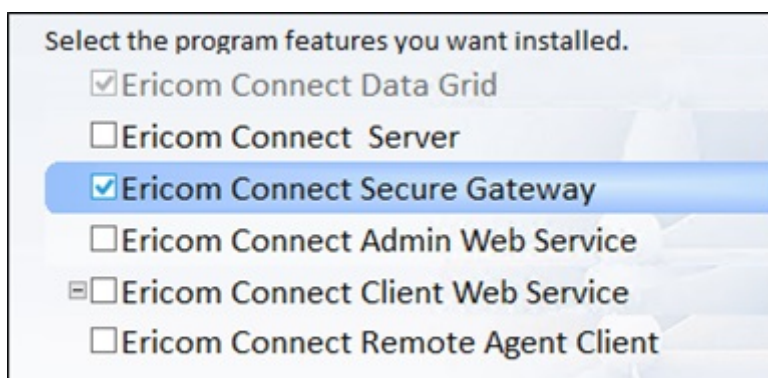
<http://docs.aws.amazon.com/AWSEC2/latest/WindowsGuide/ami-create-standard.html#sysprep-gui-procedure>

上記の Web サイトの手順では、新しいインスタンスのドメインへの追加は行われません。AWS XML 応答ファイルでこれを実行する方法があります (例:UnattendedJoin)。

システムのシャットダウン後、今後の展開のための AMI の作成にそれが使用されます。

Ericom Secure Gateway のインストール

Ericom Secure Gateway(ESG) 専用のインスタンスを作成します。Connect をインストールし、「Custom」を選択します。「Ericom Connect Secure Gateway」を選択します:



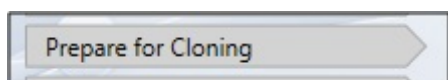
インストールの完了後、Configuration Tool で次を選択します:

Join existing grid(既存グリッドへの参加)

グリッド名と「Lookup Service Hosts」を設定します (通常は最初の Business Logic サーバが Lookup Service Hosts であるため、そのアドレスを使用します)。

- Elastic Load Balancer を複数の ESG の負荷分散に使用する場合、そのロード・バランサと一致する署名された証明書 をインストールします。
- Connect で ESG 名 を 設定 します (ConnectCLI SystemConfig EsgHostAddress=%ELB_NAME%:443)
- ポート 443 以外を使用する場合、ポートを設定します (ConnectCLI EsgConfig common Network\$SecuredPort=%EC_ESG_PORT%)
- 証明書を設定します (ConnectCLI ConfigureCertificates FindByThumbPrint xyz)

マシンのイメージ化の準備が完了したら、構成ツールを実行し、「Prepare for Cloning(複製の準備)」を選択します。

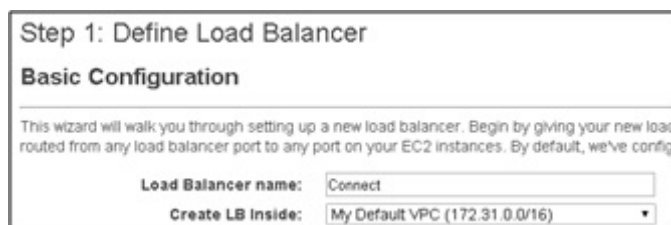


システムの Sysprep を実行すると、自動的にシャットダウンされます。このシステムは、今後の ESG 展開用の AMI の作成に使用できます。

ELB と DNS の設定

ESG 間の負荷分散を行うための ELB を作成するには、EC2 Admin Console を使用します。

- Load Balancers -> Create Load Balancer に移動します
- ELB の名前を入力します:



- Configure Health Check に移動します
- Ping protocol: 「HTTPS」を選択し、Port 「443」を指定します
- Path: 「/ping」を指定します

- Security Group を割り当てます
- グループを作成します: TCP 443
- リスナーを追加します



- インスタンスを追加します
- ESG マシンを指すように ELB を設定します

Ericom Connect AMI の準備

Amazon Machine Images(AMI) を使用して、他のイメージの生成元となるベース・マシンの準備を行います。Ericom Connect AMI には以下が含まれている必要があります:

- 最新の Windows Update
- インストール済みの署名された証明書

AMI を使用して、ESG とセッション・ホストを展開できます。この時点では、Business Logic サーバの展開に AMI を使用しないでください。AMI は、イベントの自動スケールにも使用できます。

Microsoft Azure Cloud での展開

概要

セッション・ホスト・ベースのアプリケーションとデスクトップ・セッションを管理するために、Microsoft Azure Cloud(サービス・マネージャまたはリソース・マネージャ) 上に Ericom Connect を展開できます。このドキュメントは、リソース・マネージャ (ARM) に基づいています。Ericom Connect のクラウドでの使用には、以下のような利点があります:

- 設備投資から定量課金型の変動費への移行
- インフラストラクチャの弾力性 - 必要に応じて拡張
- 迅速なグローバル展開 - 高速にスケール

要件

Ericom Connect サーバには、Azure A3 インスタンス (4 コア、7GB) の使用をお勧めします。Windows オペレーティング・システム上に SQL が必要です。バージョン 7.3 以降では、Azure Cloud SQL がサポートされています。SQL サーバを同一マシンにホストする場合、100 GB のストレージを確保することをお勧めします。

Business Logic マシンのインストール

VM インスタンスに Ericom Connect をインストールします。最初のサーバのインストール中に「New Grid」を選択します。ホスト IP が正しいアドレスであることを確認します。SQL へのアクセス権を持つサービス・アカウントを使用して、「Server Service Credentials」を定義します。すべての追加のグリッド・マシンでは、「Join existing grid」を選択し、最初のマシンのインストールで使用したグリッド名を指定します。「Lookup Service Hosts」を入力します (通常は最初の Business Logic サーバが Lookup Service Hosts であるため、そのアドレスを使用します)。このサービス向けの将来のマシン作成のために、2 台目のマシンを使用し、そのマシンが既存のグリッドに参加するよう構成できます。

Microsoft Azure SQL の使用

Ericom Connect では、Azure Cloud での Microsoft SQL がサポートされています。Azure SQL を使用するよう Ericom Connect を設定するには、Ericom Conenct の設定で「Admin User(管理者ユーザ)」と「Server User(サーバユーザ)」の両方に SQL 管理者アカウントを使用します。

Ericom Connect を使用して Azure SQL 上にデータベースを作成できない場合は、まず手動で Azure SQL 上にデータベースを作成 (つまり、Microsoft SQL Server Management Studio を使用) した後、Ericom Connect で「既存の Blaze データベースを使用する」を選択し、パラメータを指定して作成済みのデータベースに接続します。

接続が完了すると、Ericom Connect により Azure データベース・サーバ内に新しいデータベースが作成されます。



注意:

MS SQL の着信ポート (1433) が Ericom Connect サーバに対し利用可能となっていることを確認してください。関連するエンドポイントの設定でこれを設定します。

RDS ターミナル・サーバの設定

Ericom Connect インストーラまたは RemoteAgent インストーラのいずれかを使用して、RemoteAgent をインストールします。どちらのインストーラにも、「複製の準備」のためのオプションがあります。各セッション・ホストには、RemoteAgent のみをインストールします:

Ericom Connect Remote Agent Service

グリッド名と「Lookup Service Hosts」(通常は最初の Business Logic サーバが Lookup Service Hosts であるため、そのアドレスを使用します)を入力し、RemoteAgent をグリッドに接続します。

今後の展開用に VM のイメージを作成するには、以下のセクションに含まれる手順に従ってください:

RemoteAgent を使用してサーバを複製する

起動中の Azure インスタンスで、Windows の Sysprep コマンドは使用しないでください。Sysprep で使用するためにイメージをキャプチャする方法については、次のリンクに記載されている手順に従ってください:

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-machines/windows/capture-image-resource>

RemoteAgent をインストールし Ericom Connect への接続を構成済みのイメージは、オンデマンドでインスタンス化できます。また、新たに生成されたホストは、自動的に Ericom Connect で使用可能になります。Sysprep を使用した新しいマシンの起動が完了するまでには 5 分から 20 分かかる点に注意してください。

8.0 以降では、新たに生成されたホストが構成済みのグループに自動的に割り当てられるよう、システム・グループを RemoteAgent で定義できます。

Ericom Secure Gateway

Ericom Secure Gateway(ESG) 専用のインスタンスを作成します。Connect をインストールし、「Custom」を選択します。「Ericom Connect Secure Gateway」を選択します:

Ericom Connect Secure Gateway

インストールの完了後、Configuration Tool で次を選択します:

Join existing grid (既存グリッドへの参加)

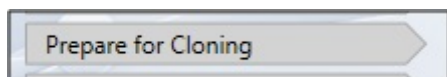
グリッド名と「Lookup Service Hosts」を設定します (通常は最初の Business Logic サーバが Lookup Service Hosts であるため、そのアドレスを使用します)。

- エンドユーザーの接続元となるアドレスと一致する署名付き証明書 をインストールします。複数の ESG サーバを負荷分散するために Azure Load Balancer を使用する場合、これは Azure Load

Balancer に割り当てられたアドレスとなる場合があります。

- ESG をスケールする。RDS ホストと同様に、ESG インスタンスは負荷需要に応じてスケールアップおよびスケールダウンができます。

ESG システムのイメージ化の準備が完了したら、Configuration tool(構成ツール) を実行し、「Prepare for Cloning (複製の準備)」を選択します。



起動中の Azure インスタンスで Windows の Sysprep コマンドを使用しないでください。Sysprep で使用するためにイメージをキャプチャする方法については、次のリンクに記載されている手順に従ってください:

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-machines/windows/capture-image-resource>

このイメージを使用して、追加の ESG システムを作成することができます。ESG システムがオンラインになると、それらは自動的にグリッドに接続し、使用可能な状態になります。Sysprep を使用した新しいマシンの起動が完了するまでには 5 分から 20 分 かかることがある点に注意してください。

新しく作成した ESG は、サービスの一部とするために、プログラムによって Azure Load Balancer に追加する必要があります。

負荷分散の設定


ESG インスタンス間で要求を分散するために Azure Load Balancer を使用します。Azure の Web コンソールを使用して、手動でロードバランサのバックエンド・プールに ESG インスタンスを割り当てることができます

Name
LBBAP



IP version
 IPv4 IPv6


Associated to
availabilityset (availability set)

Target network IP configurations
 Only VMs within the current availability set can be chosen. Once a VM is chosen, you can select a network IP configuration related to it.

Virtual machine: gw-vm 

Network IP configuration: gw-nif/ipconfig (10.0.0.6)

* Target virtual machine  

None 

None

gw-vm
size: Standard_D1, network interfaces: 1

+ Add a target network IP configuration

Azure PowerShell を使用して、新しく作成した ESG ホストをバックエンド・プールに自動的に追加するよう設定します。


次に、受信 NAT 規則にポート 443 を追加します。ポート 80 は、ESG の HTTP から HTTPS の自動リダイレクトに使用されるため、オプションです。

+ Add

🔍 Search inbound NAT rules

NAME	IP VERSION	DESTINATION	TARGET	SERVICE
HTTP	IPv4	-	gw-vm	HTTP (TCP/80) ...
https	IPv4	-	gw-vm	HTTPS (TCP/443) ...

最後に、ロードバランサ用のパブリック・インターフェースを作成します。

 Public IP address

このアドレスには、DNS 名もあります。

IP address
-

DNS name
[redacted].eastus.cloudapp.azure.com

Associated to
loadBalancer

IP アドレスを A レコードしてドメイン名に割り当てるか、DNS 名を CNAME レコードとして割り当てます。

Ericom Connect 8.2 ホットフィックス・バージョン以降では、Azure Application Gateway も Secure Gateway によってサポートされています。

可用性セット

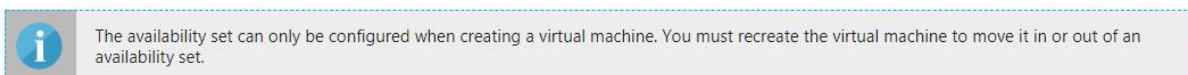
Azure 上の Ericom Connect システムの高可用性を確保するために、次の各階層に可用性セットを使用します:

ESG、Ericom Connect サービス、および RDS ホスト。

可用性グループの詳細な使用方法については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-machines/windows/manage-availability>

可用性セットはインスタンス作成時にのみ割り当てが可能で、インスタンスの展開後には変更ができない場合があるため、インスタンスを展開する前に Ericom Connect の環境を計画・設計してください。



High availability

* Availability set ⓘ
(new) ESG_Layer >

Monitoring

Boot diagnostics ⓘ

Disabled Enabled

Guest OS diagnostics ⓘ

Disabled Enabled

* Diagnostics storage account ⓘ
(new) ec75diag768 >

OK

イメージの使用

VM をイメージとして保存した後、「ギャラリー」内のイメージを使用して新しいマシンを作成します。新しいマシンの準備ができると、Sysprep によりシステムが初期化されます。

Ericom Connect コンポーネントはすでにイメージ上にインストールされているため、新しく作成したサーバは初期化後にグリッドに追加されます。Azure で使用するためにイメージを作成する方法については、Microsoft の説明に従ってください。

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-machines/windows/capture-image-resource>

Ericom Connect イメージの準備

将来のインスタンス作成のためにイメージを作成する場合、イメージをキャプチャする前に必要なソフトウェアをインストールしてください。例えば:

- 最新の Windows Update
- インストール済みの署名された証明書

イメージを使用して、ESG とセッション・ホストを展開できます。この時点では、Business Logic サーバの展開にイメージを使用しないでください。

ホストへの遅いログインの解決

イメージから作成されたセッション・ホストには、イメージのユーザ・プロファイルが含まれない場合があります。そのため、イメージを使用してセッション・ホストを展開する場合、すべてのユーザのログインは初回のログインとなり、予想以上に長い時間がかかることがあります。この遅れにより、Microsoft シームレス (Connect でのデフォルトの設定) を使用するシームレス・アプリケーションが切断される場合があります。この問題は、Ericom Seamless を使用することで回避できます。

■ RSA SecurID RADIUS 二要素認証

RSA RADIUS の設定

Ericom Connect 管理コンソールにログオンし、「RADIUS」タブを開きます。

「**RADIUS 有効化**」を「はい」に設定し、RSA 認証マネージャ・サーバの設定を構成します。

- サーバ・アドレスを入力します。
- サービス記述を入力します。
- 共有シークレットを入力します。
- 認証方法を パスコード に設定します。
- 認証ポートを 1812 または 1645(デフォルト) に設定します。

エージェント・ホスト設定

Ericom Connect と RSA 認証マネージャ間の通信を確立するために、エージェント・ホスト・レコードを RSA 認証マネージャ・データベースに追加する必要があります。エージェント・ホスト・レコードには

Ericom Connect を識別する機能があり、通信と暗号化についての情報が含まれています。認証エージェントを追加するには、エージェント・タイプを「Radius クライアント」に設定します。Ericom Connect では RADIUS を経由して RSA 認証マネージャが行われるため、エージェント・ホスト・レコードに対応する RADIUS クライアントを RSA 認証マネージャ内に作成する必要があります。RADIUS クライアントは、RSA セキュリティ・コンソールを使用して管理されます。

RADIUS クライアントを作成するには、以下の情報が必要です:

- ホスト名
- ネットワーク・インターフェースの IP アドレス
- RADIUS シークレット

(vf020715)

■ SecurEnvoy RADIUS 二要素認証

SecurEnvoy RADIUS の設定

- Ericom Connect 管理コンソールにログオンし、「RADIUS」タブを開きます。
- 「RADIUS 有効化」を「はい」に設定し、RADIUS サーバ設定を構成します。

設定 | 設定

システム設定 セカンダリ設定 **RADIUS**

RADIUS有効化
はい

RADIUSサーバアドレス

RADIUSポート
1812

RADIUS共有シークレット

RADIUSタイムアウト (秒)
6

RADIUS再試行
3

RADIUSデフォルトドメイン

RADIUS送信ユーザドメイン
いいえ

RADIUS認証方法
パスワード

- 「サーバアドレス」を入力します
- 認証ポート値を確認します。
- 「サービス記述」を入力します。このテキストは、Connect Access クライアントに表示されます。
- 「共有シークレット」を入力します。
- 必要な認証方法を選択します。

エージェント・ホスト設定

Ericom Connect と SecurEnvoy 管理サーバ間の通信を可能にするために、NAS クライアントを SecurEnvoy 管理データベースに追加する必要があります。NAS レコードで Connect サーバの識別が行われ、2つのシステム間の接続が可能になります。

NSA クライアントを作成するために以下の情報が必要です:

The screenshot shows a configuration form for a NAS client. The fields and options are as follows:

- NAS IP Address:** 129.168.0.10 (Format: xxx.xxx.xxx.xxx or default for undefined IP's)
- Shared Secret:** *****
- Authenticate passcode only (password/pin authenticated by NAS):**
- Prompt all passcode types in the same way as Real Time Codes:** **Access Challenge All**
- Default Domain:** [Dropdown menu]
- Allow these domains:**
 - test.local
 - subtest.test.local
- Select All** and **Unselect All** buttons.
- Only allow users that are in the LDAP group:** [Dropdown menu] **Change Group** button
- Leave group blank to authenticate all users**
- Override customer name in SMS message with:** [Text input] **Max 20**
- Leave blank to use default**
- Pass Back Data To Radius Client in Attribute:** 25
- Radio buttons for Pass Back Data:**
 - No information is passed back
 - Password is passed back
 - LDAP group members are passed back (Return distinguished names)
 - User's Distinguished Name
- Trusted Networks (no 2FA required):** [Text input]
- Blocked Networks (black listed IP's):** [Text input]
- Space separated IP's (Example 10.* 192.168.1.1) NAS must send IP address in attribute 31**
- Update** and **New** buttons.

- NAS の IP アドレスを入力します。
- 共有シークレットを入力します。
- 必要なオプションを選択します。

設定オプション

SecurEnvoy は、複数の方法で Connect に設定できます。どの場合でもエンドユーザ・エクスペリエンスは同じです。Ericom クライアントが SecurEnvoy にデータを送信する方法に違いが存在します。

認証サーバ・モードを使用するには「パスワード/PIN」、SecurEnvoy を次のように設定します:

Authenticate passcode only (password/pin authenticated by NAS)
 Prompt all passcode types in the same way as Real Time Codes Access Challenge All

認証サーバ・モードを使用するには「パスコード」、SecurEnvoy を次のように設定します:

Authenticate passcode only (password/pin authenticated by NAS)
 Prompt all passcode types in the same way as Real Time Codes Access Challenge All

このモードでは、ユーザ名とパスワードは Connect により確認され、パスコードのみが SecurEnvoy に確認されます。認証サーバ・モードを使用するには「パスワード/PIN + パスコード」、SecurEnvoy を次のように設定します:

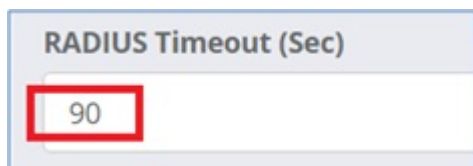
Authenticate passcode only (password/pin authenticated by NAS)
 Prompt all passcode types in the same way as Real Time Codes Access Challenge All

■ Duo RADIUS 二要素認証

Duo RADIUS の設定

- Ericom Connect 管理コンソールにログオンし、「RADIUS」タブを開きます。
- 「RADIUS を有効化」を「はい」に設定し、RADIUS サーバ設定が Duo 認証プロキシを指定するように構成します。
- 「サーバ・アドレス」を入力します

- 認証ポート値を確認します。
- 「サービス記述」を入力します。このテキストは、Connect Access クライアントに表示されます。
- 「共有シークレット」を入力します。
- 認証方法を設定します。「パスコード」に設定します (これは各環境の Duo 認証プロキシモードにより異なります)。
- 電話による DUO 方式 (「phone1」を RADIUS プロンプトに入力する) を適切にサポートするには、電話の発信と応答のために十分な時間を確保するために、タイムアウトを 90 に増やします。

A screenshot of a configuration interface. At the top, there is a label "RADIUS Timeout (Sec)" in a grey box. Below it is a text input field containing the number "90". The number "90" is highlighted with a red rectangular border.

DUO プロキシの構成

Ericom Connect により Active Directory 認証が処理されるため、DUO では DUO パスコードの認証のみが必要です。authproxy.cfg ファイルにて、「duo only client」として DUO を構成します。

この構成では、プッシュ、携帯電話、パスコードのモードがサポートされています (SMS 認証は現在サポートされていません)。管理者用バイパス・コードもサポートされています。

```
[duo_only_client]
[radius_server_duo_only]
ikey=DJ9DHWX3WQCQ9OJW4RTC
skey=im7Ra4DFEbSW85Iei1JcxQQmP31ddEiYhNab0uwR
api_host=api-18906ea1.duosecurity.com
radius_ip_1=enter-ericom-server-address
radius_secret_1=YourPass123
failmode=safe
client=duo_only_client
port=1812
```

エンドユーザ・アクセス

AccessPortal、AccessPad または AccessToGo からログインしてください。第二要素のプロンプトでは、3つのオプションが使用可能です。

- DUO アプリのパスコードのみを使用して認証のパスコードを入力する。
- 値「push」を入力して、ユーザの登録済みデバイスにプッシュ通知を送信する。Ericom にログインするには、「APPROVE」をタップします。
- 値「phone1」（または「phone#」：#は認証に使用する電話機の ID）を入力して、ユーザの登録済みの電話機を呼び出す。認証を完了するには、ユーザが呼び出しに応答し、指示に従う必要があります。

認証を確認するには、DUO ダッシュボードを参照します。

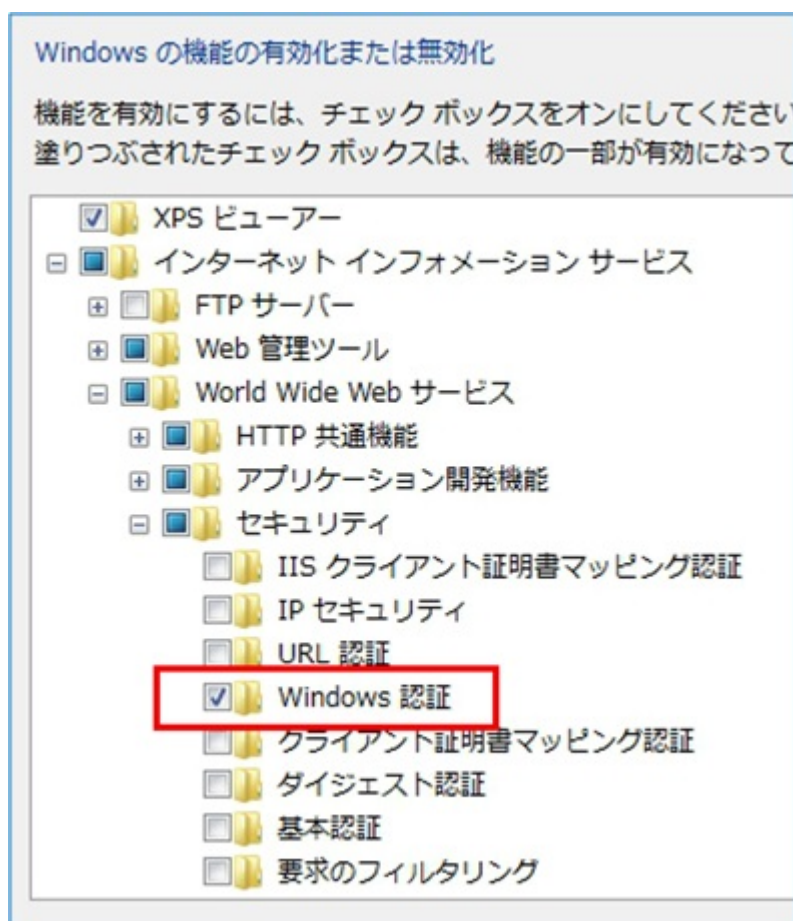
Timestamp	User	Application	Event	Result	Access Device	Second Factor
3:16 PM		RADIUS	Authentication	Access Granted User approved	0.0.0.0	Duo Push

AccessPortal での IIS IWA SSO

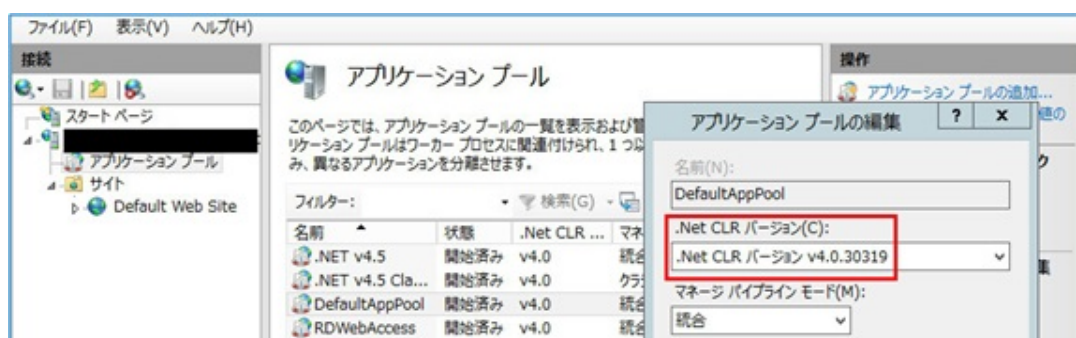
Ericom Connect には、IIS、ASP、および Windows 統合認証 (IWA) を使用して SSO 機能を提供するコンポーネントが含まれています。

IIS の設定

- Windows 2012R2 または 2016
- IIS の役割が有効化されていること
- ASP.NET 4.x の機能が有効化されていること
- 「インターネットインフォメーションサービス | World Wide Web サービス | セキュリティ | Windows 認証」が有効化されていること:

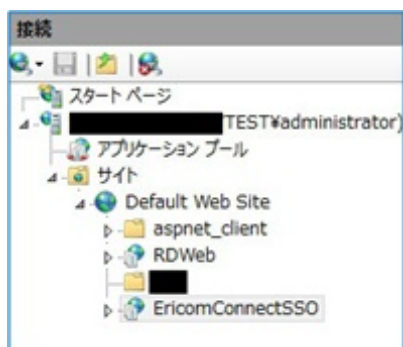


- CLR バージョン 4.X を使用するようアプリケーション・プールを設定します。

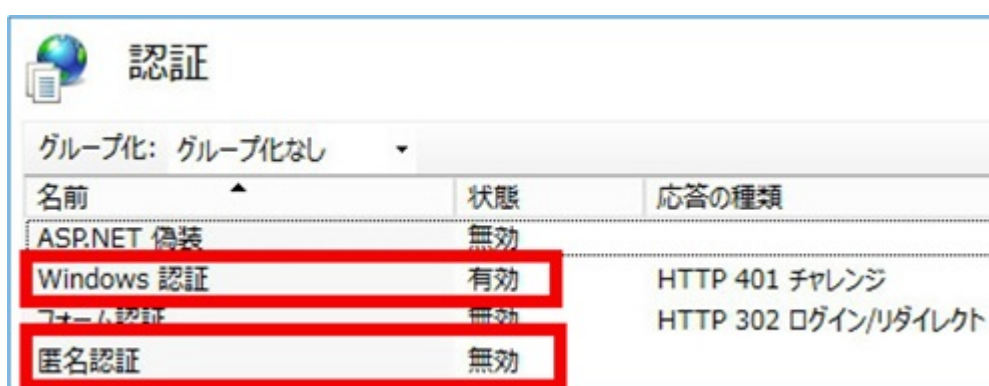


ASP と Ericom Connect の設定

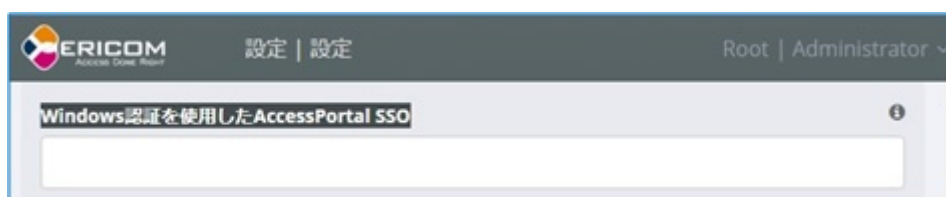
- INETPUB フォルダのサブフォルダに EricomConnectWindowsAuthentication.zip ファイルを解凍します
- IIS のサイト (デフォルトの Web サイト) を右クリックし、「アプリケーションの追加」を選択します
- 新しいアプリケーションのエイリアス名 (EricomConnectWindowAuthentication または EricomConnectSSO) を入力し、新しく作成したサブフォルダの物理パスを参照させます。



- 右ペインの「IIS のカテゴリ」の内の「認証」アイコンをダブルクリックします。
- 「匿名認証」を無効化します。
- 「Windows 認証」を有効化します。



- サブフォルダの Web.Config ファイルに移動し、「Configuration | appSettings | EuwsUrl」にエンド・ユーザ Web サービス (EUWS) の URL を設定します。
- IIS(iisreset.exe) を再起動します
- SSO の URL は `http://iisaddress/SiteAliasName/api/authenticate` となり、HTTP の GET および POST の両方のメソッドで使用することができます。
- Ericom Connect 管理 UI にログインし、テナント/セカンダリ設定に移動します。
- 「Windows 認証を使用した AccessPortal SSO」を設定します。 Windows 認証を使用した AccessPortal への SSO が有効化されている IIS のアドレス (アドレス名/IP) のリストを入力します。複数のアドレスをセミコロン (「;」) で区切って入力することができます。任意のアドレスを受け入れるには、値を「*」に設定します。



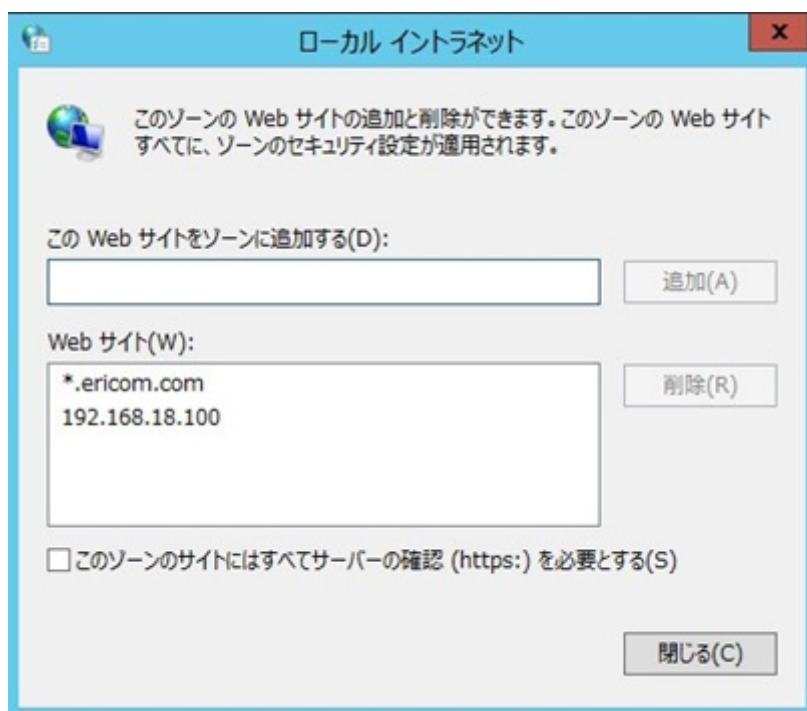
使用

- ブラウザを起動し、IIS アプリケーションのパス (例: `http://server/EricomConnectWindowAuthentication/api/authenticate`) に移動します。
- 取得された資格情報を使用して、自動的に AccessPortal へのログインが行われます。

様々なブラウザでの IWA

IWA は、エンドユーザと IIS サーバが同一のドメインまたは信頼されたドメインに存在する場合にサポートされます。MS IE、MS Edge、Chrome - デフォルトで、イントラネット・サイト (FQDN または IP アドレスではないホスト名) 向けに IWA がサポートされています。

- 別のサイトの規則 (FQDN や IP アドレスなど) で使用するには、「コントロールパネル | インターネットオプション | セキュリティタブ | ローカルイントラネットサイト」のボタンから「詳細設定」ボタンを開きます
- Web サイトをゾーン・リストに追加します。



Mozilla FireFox では、デフォルトで IWA がサポートされていません。IWA を有効化するには、ブラウザのアドレス・フィールドに: `about:config` と入力します。次のフィールドを設定します: `network.negotiate-auth.delegation-uris` および `network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris` に IIS アドレスを設定します (FQDN、ホスト名、または IP アドレスがサポートされています)。

Setting	Value **
network.negotiate-auth.delegation-uris	MyIISServer.domin.com
network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris	MyIISServer.domin.com

AccessPortal での OneLogin SSO

AccessPortal SSO は、OneLogin のフォームをベースにした SSO と互換性があります。フォームベースの認証は、保存されたパスワードを取得して、アプリケーションのログイン・ページへの挿入、フォームへの入力、ユーザのログインを実行するサインイン方法です。この方法は、SAML を採用していないアプリケーションや API インターフェースを持たないアプリケーションで SSO アクセスを使用するために役立ちます。OneLogin では、アカウント・パスワード (OneLogin 自体のアカウントへのログインに使用するパスワード) に加え、SAML または OAuth 認証がサポートされていないアプリケーション用のパスワードも管理されます。ソルト OneLogin のアカウント・パスワードは、ソルト (salt) 付きハッシュを使用して保管されます。アプリケーションのパスワードは、強力な対称鍵暗号化アルゴリズムを使用して暗号化されます。OneLogin と Ericom Connect 間の SSO で正常に機能するために、Active Directory のユーザが使用されます。このため、OneLogin AD Connector を使用して、AD と OneLogin のアカウント情報を同期する必要があります。OneLogin のフォームベースのアプリケーションでは、ユーザが OneLogin ブラウザ拡張をインストールすることが必要になります。(20160831)

システム構成

設定を開始するには、OneLogin ポータルで Ericom Connect AccessPortal コネクタを検索します。



新しいコネクタに名前を付け、「保存」をクリックします。これで、パラメータ設定ページが使用可能になります。

次のオプションを選択します: **Configured by admin**

4 つの設定を構成する必要があります。

The screenshot shows the 'Ericom Connect AccessPortal' configuration page, specifically the 'Parameters' tab. At the top right, there are 'MORE ACTIONS' and 'SAVE' buttons. Below the navigation tabs (Info, Parameters, Rules, SSO, Access, Users), there are three radio buttons under 'Credentials are': 'Configured by end-users', 'Configured by admin' (which is selected), and 'Configured by admins and shared by all users'. A table below lists the parameters:

Ericom Connect AccessPortal Field	Value
AccessPortal SSO URL	- Macro -
Password	SSO password
Redirect	- Macro -
Username	AD ID

- 「AccessPortal SSO URL」をクリックし、「マクロ」を選択します。
- AccessPortal SSO のアドレスを入力し、「保存」をクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled 'Edit Field AccessPortal SSO URL'. It has two main sections: 'Name' and 'Value'. The 'Name' field is labeled 'AccessPortal SSO URL'. The 'Value' field contains a dropdown menu with '- Macro -' selected. Below the dropdown is a text input field containing the URL 'https://server.acme.com/Eric'. At the bottom right of the dialog, there are 'CANCEL' and 'SAVE' buttons.

- 「パスワード」をクリックし、「SSO パスワード」を選択し、「保存」をクリックします。

- 「リダイレクト」をクリックし、「マクロ」を選択します。「true」を入力し、「保存」をクリックします。
- 「ユーザ名」をクリックし、AD ユーザの ID(例: AD ID) を示すユーザ名の変数を選択します。その後、「保存」をクリックします。

アプリケーションの作成が完了すると、目的のユーザへの割り当てが行われ、使用できるようになります。

Juniper SSL VPN を使用した展開

Ericom Secure Gateway と SSL VPN を組み合わせて使用することで、2重ファイアウォール環境用のセキュアなアクセス・ソリューションを実現できます。このセクションでは、参照用としてファームウェア 8.0 を実行する Juniper SA SSL VPN が使用されています。Juniper と共に動作するように Ericom Connect を設定するには、次の 2 つの Web リソース・プロファイルが必要です:

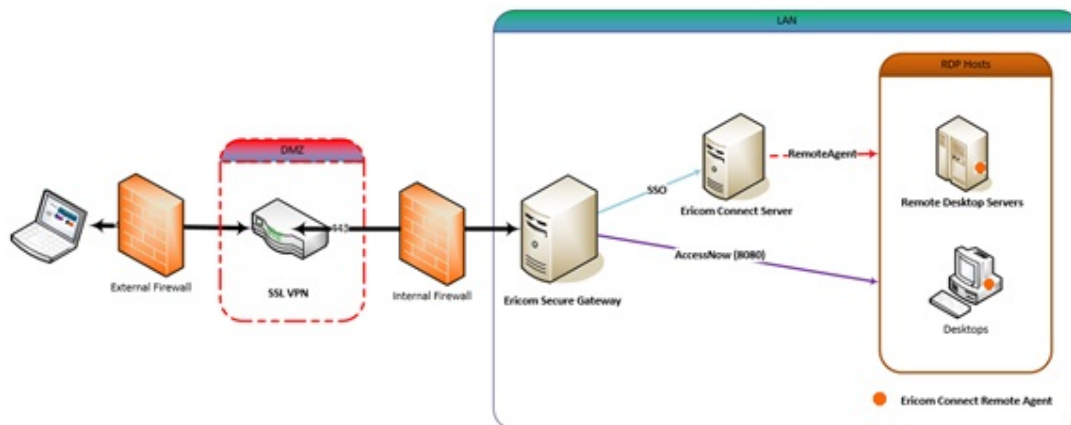
- Juniper ポータルから Ericom AccessPortal への SSO 用のプロファイル。このプロファイルは、ユーザのブックマークに表示されます。
- ESG 経由での AccessPortal への接続を許可するリバース・プロキシで、書き換えを無効にしたもの。

Juniper から公開アプリケーションへの接続プロセスは以下のようになります:

- ユーザが Juniper にログインし、AccessPortal ブックマークを選択します。
- Juniper により、ESG 経由で AccessPortal SSO への POST が実行されます。
- Connect SSO によりブラウザ Cookie が設定され、リバース・プロキシ経由で AccessPortal のスタート・ページへブラウザがリダイレクトされます。
- AccessPortal ページは、ESG 経由で EUWS により提供されます。リバース・プロキシが使用されるため、ページの書き換えは発生しません。

ユーザにより、起動するアプリケーションが選択された場合:

- ESG とリバース・プロキシを経由して、EUWS に起動要求が送信されます。
- リバース・プロキシ経由で 起動ファイルから ESG が参照されます (ESG ホスト・アドレス で適切なアドレスが指定されます)。
- リバース・プロキシを介して、AccessPortal により AccessNow セッションが起動されます。
- セッションを確立するために、AccessNow によりリバース・プロキシと ESG を経由して ターゲットの AccessServer に WebSocket が作成されます。



リバース・プロキシの構成

リバース・プロキシにより、書き換えルールを使用せず AccessPortal にアクセスすることが可能になります。リバース・プロキシを使用するには、追加の仮想ホストを使用する必要があります。この実装例では、以下の設定が使用されています:

Juniper アドレス: <https://juniper.acme.com>

仮想ホスト・アドレス: juniper2.acme.com

ESG アドレス: ESG.acme.com:443

「juniper2.acme.com」が「juniper.acme.com」のエイリアスとなる DNS エントリを作成します Ericom Connect で、ESG ホスト・アドレスは「juniper2.acme.com:443」用である必要があります。以下を例として新しい Web リソースを作成します (ユーザはこのブックマークをクリックしないでください):

Resource Roles Bookmarks

Type: * Custom
Name: * AccessPortal Reverse Proxy
Description:
Base URL: * acme.com/ericomxml/accessportal/start.html
Autopolicies: Autopolicies are https://esg.acme.com/ericomxml/accessportal/start.html

Autopolicy: Web Access Control
Use this autopolicy to control access to web servers and URLs.
Delete [up] [down]

Resource	Action
<input type="checkbox"/> https://esg.acme.com:443/ericomxml/accessportal/*	Allow
<input type="checkbox"/> https://esg.acme.com:443/ericomxml/*	Allow
<input type="checkbox"/> https://esg.acme.com:443/blaze	Allow

Autopolicy: Rewriting Options
Use this autopolicy to bypass rewriting content through the Content Intermediation Engine.
 Passthrough Proxy
 No rewriting (use WSAM)
A passthrough proxy will be configured based on the following:
 Use virtual hostname juniper2.acme.com

SSO の設定

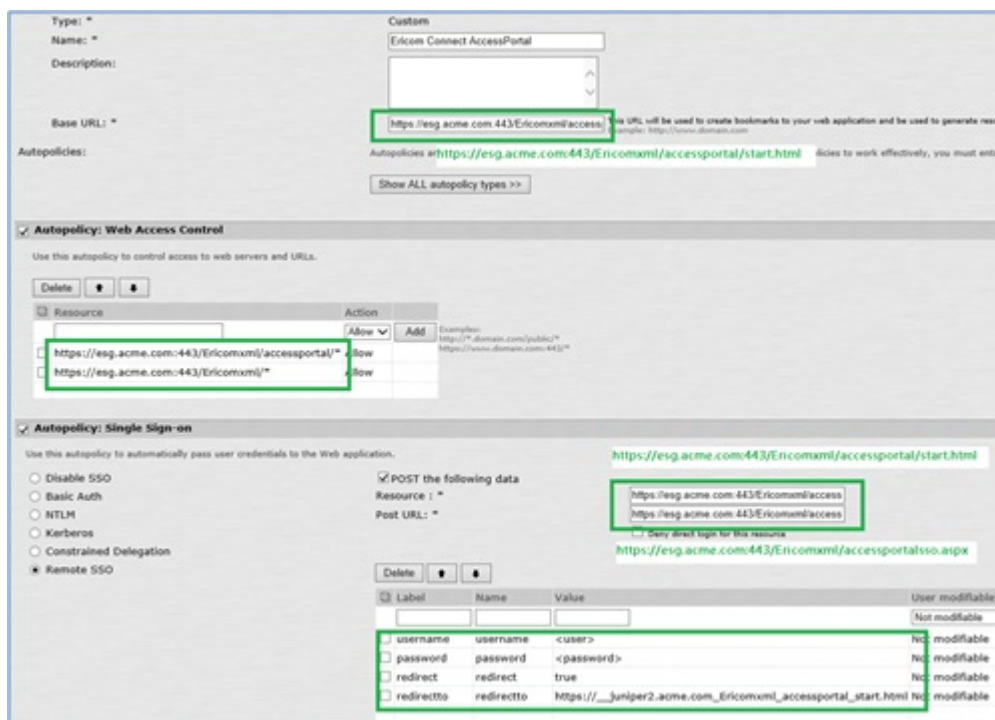
以下の設定が使用されています:

Juniper アドレス: <https://juniper.acme.com>

仮想ホスト・アドレス: juniper2.acme.com

ESG アドレス: ESG.acme.com:443

以下を例として新しい Web リソースを作成します (このブックマークは、ユーザが今後使用するものとなります)



POST の「RedirectTo」の値は、次の値である必要があります:
「https://juniper2.acme.com/EricomXml/accessportal/start.html」ただしすべての「/」は「_」により置換されるため、正しい値は次のようになります:

「https://__juniper2.acme.com_EricomXml_accessportal_start.html」

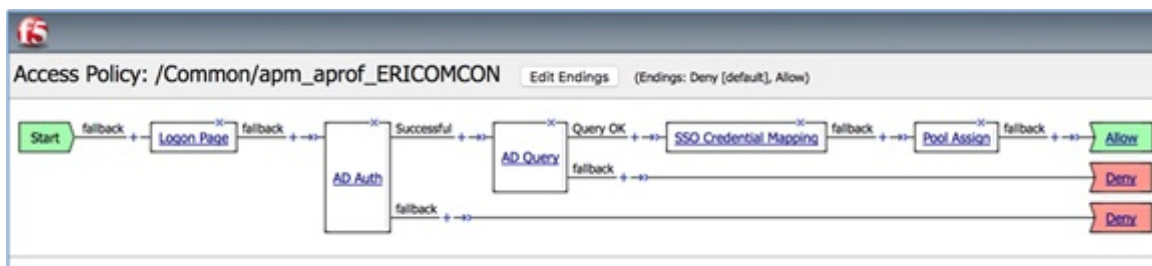
これが、SSO が完了した後にブラウザがリダイレクトされる AccessPortal スタート・ページとなります。「_」により書き換えが防止されます。

■ F5 SSL VPN での展開

Ericom Secure Gateway と SSL VPN を組み合わせて使用することで、2重ファイアウォール DMZ 環境用のセキュアなアクセス・ソリューションを実現できます。このセクションでは、バージョン 12.1.1 を実行する F5 BIG-IP SSL VPN が参照用として使用しています。バージョン 11.4 以降の F5 HTTP プロファイルでは、Websocket アップグレード・ヘッダーがサポートされています。(13022017JL)

オプション 1: リバース・プロキシ

リバース・プロキシにより、書き換えルールを使用せず Ericom Connect の AccessPortal にアクセスすることが可能になります。Ericom Connect インフラストラクチャに使用される内部ホスト名 (例: Ericomcon.acme.com) は、アプリケーションの「公開された」外部 DNS 名と一致する必要があります。Ericomcon.acme.com は、内部ネットワーク上の内部 IP (Ericom Connect Gateway サーバを指すもの) に解決する必要があります。同一のホスト名が、外部ネットワークの別のパブリック IP (AMP プロファイルを持つ F5 VS を指す物) に解決します。



アクセス・プロファイル:

```

apm profile access apm_aprof_ERICOMCON {
accept-languages { en }
access-policy apm_aprof_ERICOMCON
app-service none
customization-group apm_aprof_ERICOMCON_logout
default-language en
domain-cookie none
domain-mode single-domain
eps-group apm_aprof_ERICOMCON_eps
errormap-group apm_aprof_ERICOMCON_errormap
exchange-profile none
framework-installation-group apm_aprof_ERICOMCON_frameworkinstallation
general-ui-group apm_aprof_ERICOMCON_general_ui
generation 6
generation-action noop
httponly-cookie false
log-settings {
    default-log-setting
}
logout

```

Virtual Server Configuration for ERICOMCON

```

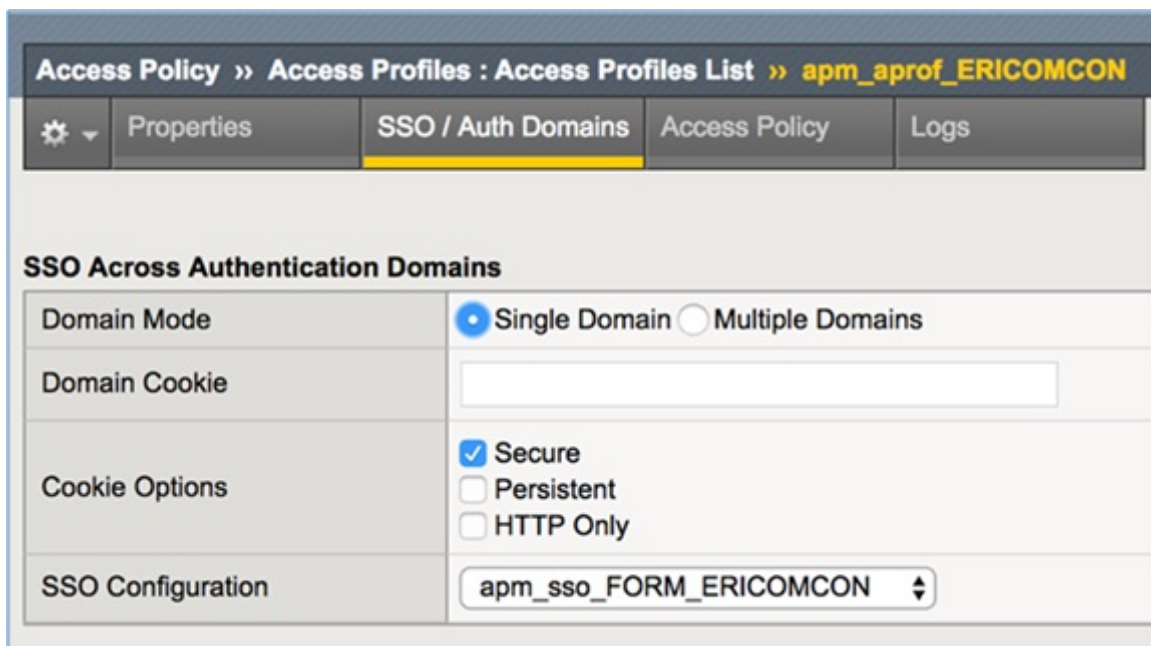
ltm virtual virt_ERICOMCON {
destination <F5_external_address>:https
ip-protocol tcp
mask 255.255.255.255
profiles {
apm_aprof_ERICOMCON { }
clientsssl {

```

```
context clientside
}
http { }
rba { }
serverssl {
context serverside
}
tcp-lan-optimized { }
websso { }
}
source 0.0.0.0/0
source-address-translation {
type automap
}
translate-address enabled
translate-port enabled
vlans {
vlan_VIRTS_115
}
vlans-enabled
vs-index 44
}
```

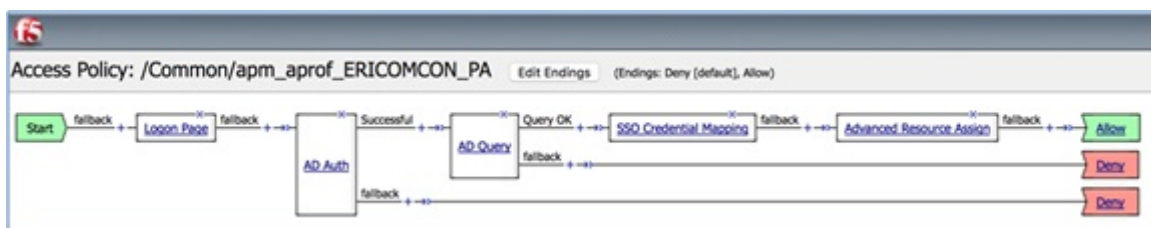
SSO の設定

以下のスクリーンショットの例のように、アクセス・ポリシーの「SSO/Auth ドメイン」セクションから SSO ポリシーを設定します:



オプション 2: リライタ

F5 の別の設定オプションは、リライタを使用する方法です。ビルトインのリライタを使用する場合、F5 APM モジュールによりユーザ認証が行われます。オプションとして Ericom Connect サーバへの SSO を行い、必要に応じてアプリケーション・トラフィック (Websocket コールを含む) を書き換えることができます。F5 により、Webtop(アイコン付きのポータル) 上のポータル・アクセス・リソースを使用してリンクが書き換え (非表示化) されます。このオプションには、この章で後述する iRule の設定が必要です。Ericom Connect で使用する内部ホスト名 (例: ericomcon.prod.lab) は、アプリケーション用の「公開された」外部 DNS 名とは異なります。



アクセス・プロファイル:

Access Policy » Portal Access : Portal Access List » **apm_par_ERICOMCON**

⚙ Properties

General Properties

Name	apm_par_ERICOMCON
Partition / Path	Common
Description	<input type="text"/>
ACL Order	17

Configuration: **Advanced** ⌵

Match Case For Paths	Yes ⌵
Patching	Type Full Patching ⌵ <input checked="" type="checkbox"/> HTML Patching <input checked="" type="checkbox"/> JavaScript Patching <input checked="" type="checkbox"/> CSS Patching <input checked="" type="checkbox"/> Flash Patching <input type="checkbox"/> Java Patching
Publish on Webtop	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
Link Type	Application URI ⌵
Application URI	<input type="text" value="https://ericomcon.prod.lab/EricomXml/AccessPortal/index.html"/>
Proxy Host	<input type="text"/>
Proxy Port	0

Customization Settings for English

Language	English
Caption	<input type="text" value="Ericom Connect"/>
Detailed Description	<input type="text"/>
Image	<input type="button" value="Choose File"/> No file chosen View/Hide

Resource Items

<input checked="" type="checkbox"/>	Host or IP Address	Port	Paths
<input type="checkbox"/>	ericomcon.prod.lab	443	↗

Access Policy » Portal Access : Portal Access List » apm_par_ERICOMCON

⚙ Properties

Resource Item: **Advanced** ⬇

Link Type	Paths ⬇
Destination	Type: <input checked="" type="radio"/> Host Name <input type="radio"/> IP Address Host Name <input type="text" value="ericomcon.prod.lab"/>
Paths	<input type="text" value="/"/>
Scheme	https ⬇
Port	<input type="text" value="443"/>
Headers	Name <input type="text"/> Value <input type="text"/> Add <input type="text"/> Edit Delete

Resource Item Properties: **Advanced** ⬇

Compression	GZIP Compression ⬇
Client Cache	Default ⬇
SSO Configuration	apm_sso_FORM_ERICOMCON ⬇
Session Update	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled
Session Timeout	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled
Home Tab	<input type="checkbox"/> Enabled
Log	None ⬇

Virtual Server Configuration for ERICOMCON_PA

```
ltm virtual virt_ERICOMCON_PA {
  destination <F5_external_address>::https
  ip-protocol tcp
  mask 255.255.255.255
  profiles {
```

```
apm_aprof_ERICOMCON_PA { }
apm_seccon_PORTAL {
context clientside
}
clientssl {
context clientside
}
http { }
ppp { }
rba { }
rewrite-portal { }
serverssl {
context serverside
}
tcp-lan-optimized { }
websso { }
}
rules {
irule_APM_ERICOMCON
}
source 0.0.0.0/0
source-address-translation {
type automap
}
translate-address enabled
translate-port enabled
vlans {
vlan_VIRTS_115
}
vlans-enabled
vs-index 44
}
Connectivity / rewrite-portal profiles: Use Default
Required iRule configuration:
when HTTP_REQUEST {
set tmm_apm_rewrite_request 0
}
```

```

when REWRITE_REQUEST_DONE {
set tmm_apm_rewrite_request 1
if { [HTTP::header exists Upgrade] && \
[string tolower [HTTP::header Upgrade]] contains "websocket" } {
# 元のヘッダーをバックエンドアドレスで置換
HTTP::header replace Origin "https://[HTTP::host]"
# リライト・プラグインを無効化。無効化しない場合はリクエスト停止します
REWRITE::disable
}
}

when HTTP_RESPONSE {
if { !$tmm_apm_rewrite_request } { return }

set tmm_apm_chunked 0
if { [HTTP::header Content-Type] contains 「javascript」 } {
if { [HTTP::header Transfer-Encoding] == 「chunked」 } {
set tmm_apm_chunked 1
} elseif { [HTTP::header Content-Length] == 0 } {
return
}
HTTP::collect 1
}
}

when HTTP_RESPONSE_DATA {
if { !$tmm_apm_rewrite_request } { return }

set tmm_apm_patch {
function wsWrapper(F5_orig) {
var wrapper = function WebSocket() {
if (typeof(arguments[0]) === 『string』 ) {
arguments[0] = F5_WrapURL(
arguments[0].replace(/^ws/,『 http』 ))
.replace(/^http/,『 ws』 );
}
}
var socket = new F5_orig(arguments[0], arguments[1]);
socket.constructor = wrapper;

```

```

return socket;
};
if (Object.setPrototypeOf) {
Object.setPrototypeOf(wrapper, F5_orig);
} else { // IE10
Object.keys(F5_orig).forEach(function (key) {
wrapper[key] = F5_orig[key];
});
}
wrapper.F5_original = F5_orig;
wrapper.prototype = F5_orig.prototype;
wrapper.toString = function toString() { return F5_orig.toString();};
return wrapper;
};
if ((typeof(window.MozWebSocket) !== 『undefined』) &&
!window.MozWebSocket.F5_original) {
window.MozWebSocket = wsWrapper(window.MozWebSocket)
}
if ((typeof(window.WebSocket) !== 『undefined』) &&
!window.WebSocket.F5_original) {
window.WebSocket = wsWrapper(window.WebSocket)
}
}

if { $tmm_apm_chunked } {
set tmm_apm_patch 「[format %x [string length $tmm_apm_patch]]rn$tmm_apm_patch」
}

HTTP::payload replace 0 0 $tmm_apm_patch
HTTP::release
}

when HTTP_RESPONSE_RELEASE {
if { [HTTP::header exists Content-Security-Policy] } {
HTTP::header replace Content-Security-Policiheader Content-Security-Policy]]
}
}
}

```

SSO の設定

SSO を使用する場合、SSO ポリシーをアクセス・ポリシー内に設定してください (設定方法により場所が異なります。使用している方法のスクリーンショットを参照してください)。以下の画像は、Ericom Connect インターフェース用に F5 SSO ポリシーを作成する方法の例を示しています：

The screenshot shows the configuration page for an SSO policy. The breadcrumb trail is 'Access Policy >> SSO Configurations >> apm_sso_FORM_ERICOMCON'. The 'Properties' tab is active. The 'General Properties' section is set to 'Advanced' and includes fields for Name, Partition / Path, SSO Method, and Headers. The 'Credentials Source' section has fields for Username Source and Password Source. The 'SSO Method Configuration' section includes Start URI, Pass Through (checked), Form Method (POST), Form Action, Form Parameter For User Name, Form Parameter For Password, Hidden Form Parameters/Values, Successful Logon Detection Match Type, and Successful Logon Detection Match Value.

General Properties: Advanced	
Name	apm_sso_FORM_ERICOMCON
Partition / Path	Common
SSO Method	Forms
Headers	Name <input type="text"/>
	Value <input type="text"/>
	<input type="button" value="Add"/>
	<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="Delete"/>
Credentials Source	
Username Source	<input type="text" value="session.sso.token.last.username"/>
Password Source	<input type="text" value="session.sso.token.last.password"/>
SSO Method Configuration	
Start URI	<input type="text" value="/EricomXml/AccessPortal/index.html"/>
Pass Through	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
Form Method	POST
Form Action	<input type="text" value="/EricomXML/AccessPortalSso.aspx"/>
Form Parameter For User Name	<input type="text" value="Username"/>
Form Parameter For Password	<input type="text" value="password"/>
Hidden Form Parameters/Values	<input type="text" value="redirect yes"/>
Successful Logon Detection Match Type	By Presence Of Specific String In Cookie
Successful Logon Detection Match Value	<input type="text" value="MegaConnectSessionId"/>

RDSH 上の App-V クライアントの公開

目的の OSD ファイルをパラメータとして使用し sftrun.exe を公開することで、Microsoft App-V パッケージを Ericom Connect に公開することができます。

例：

.OSD ファイルからの SOFTPKG NAME と VERSION。名前とバージョンは大文字と小文字が区別されます：

- PATH\sfttrun.exe "Default App-V Application 1.0" [%*]

ローカル・ドライブまたは.OSD ファイルへマップされたドライブ：

- PATH\sfttrun.exe "" [%*]

.OSD ファイルの汎用名前付け規則 (UNC) パス：

- PATH\sfttrun.exe "\\SERVER NAMESHARE NAMEDefaultApp.osd" [%*]

.OSD ファイルの HTTP パス：

- PATH\sfttrun.exe "http://SERVER NAME/SHARE NAME/DefaultApp.osd" [%*]

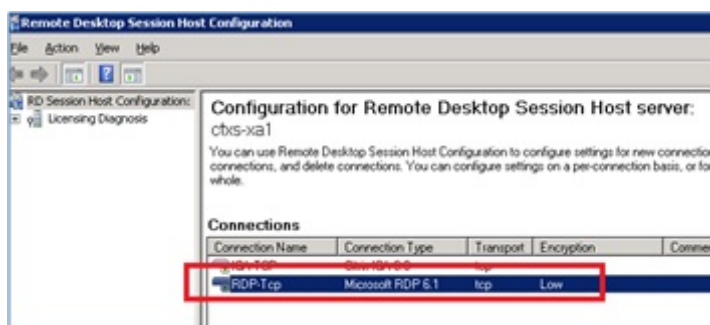
XenApp 6.x サーバからの公開

既存の Citrix XenApp サーバを、Ericom ターミナル・サーバ・ファーム (ターミナル・サーバまたは RDS サーバ) として使用できます。RDP 着信接続を許可するために、2つの設定変更を XenApp サーバに追加する必要があります。以下の情報は Citrix の Web サイトから改変したものであり、違うバージョンの Citrix Presentation Server または XenApp では、情報が異なる場合があります。

Web サイトのリンク:<http://support.citrix.com/article/CTX124745>

XenApp サーバで RDP を有効にします (Windows Server 2008 R2)

- 「リモート デスクトップ セッション ホストの構成」を開きます
- 「新規接続の作成」を選択します
- 「接続プロトコル」に RDP を選択します。



- 「次へ」をクリックし、設定を完了します。追加の RDP 設定を実行するには、プロトコルの「プロパティ」に移動します。

アプリケーションとデスクトップ・アクセスの許可

Citrix XenApp サーバでは、ユーザが RDP 経由で直接アプリケーションを起動できなくなります。この制約は、ターミナル・サーバとして使用する Citrix XenApp(6.0) で以下の手順を実行することにより、取り除くことができます。

Changing the Default Unfiltered User Policy Settings for ICA in the DSC

To change the default unfiltered User policy settings for ICA in the DSC, complete the following procedure:

1. Select **Policies**.
2. Activate the **User** tab (you notice the default unfiltered policy).
3. To access the default policy settings, activate the **Settings** tab in the lower pane.
4. Click **ICA** on the Categories window.

Allowing Non-administrative Users to Connect to the Server Desktop

To allow non-administrative users to connect to the server desktop, complete the following procedure:

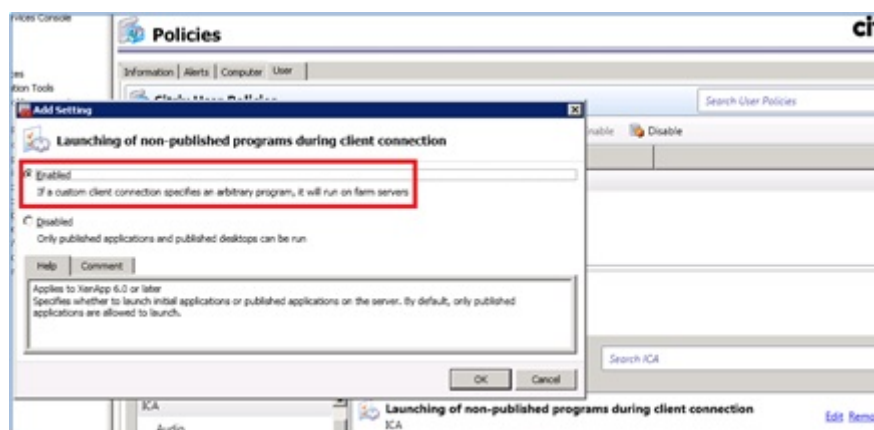
1. Click the **Add** link for starting the Desktop.
2. Select **Allowed**.
3. Click **OK**.

Allowing Non-administrative Users to Start Any Application during Client Connection

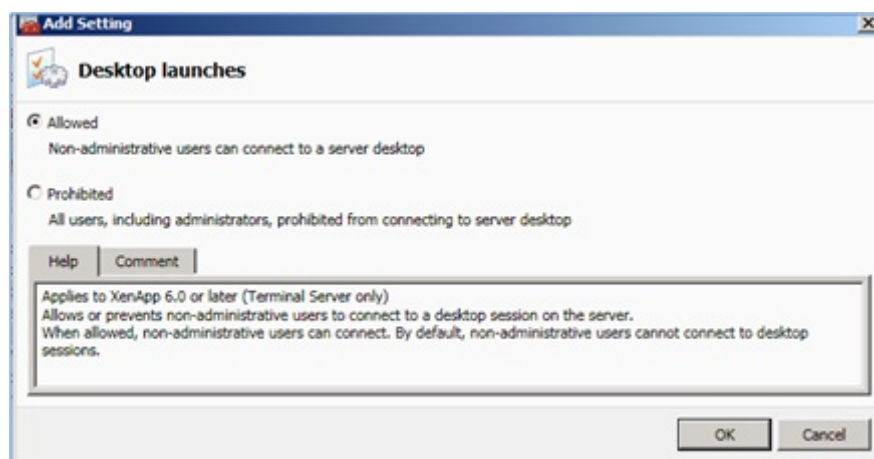
To allow non-administrative users to start any application during client connection, complete the following procedure:

1. Click the **Add** link for starting the non-published programs during client connection.
2. Select **Enabled**.
3. Click **OK**.

「Launching of non-published programs during client connection」ルールを「Enable」にします。



「Desktop launches」ルールを「Allowed」にします。



■ SQL AlwaysOn のサポート

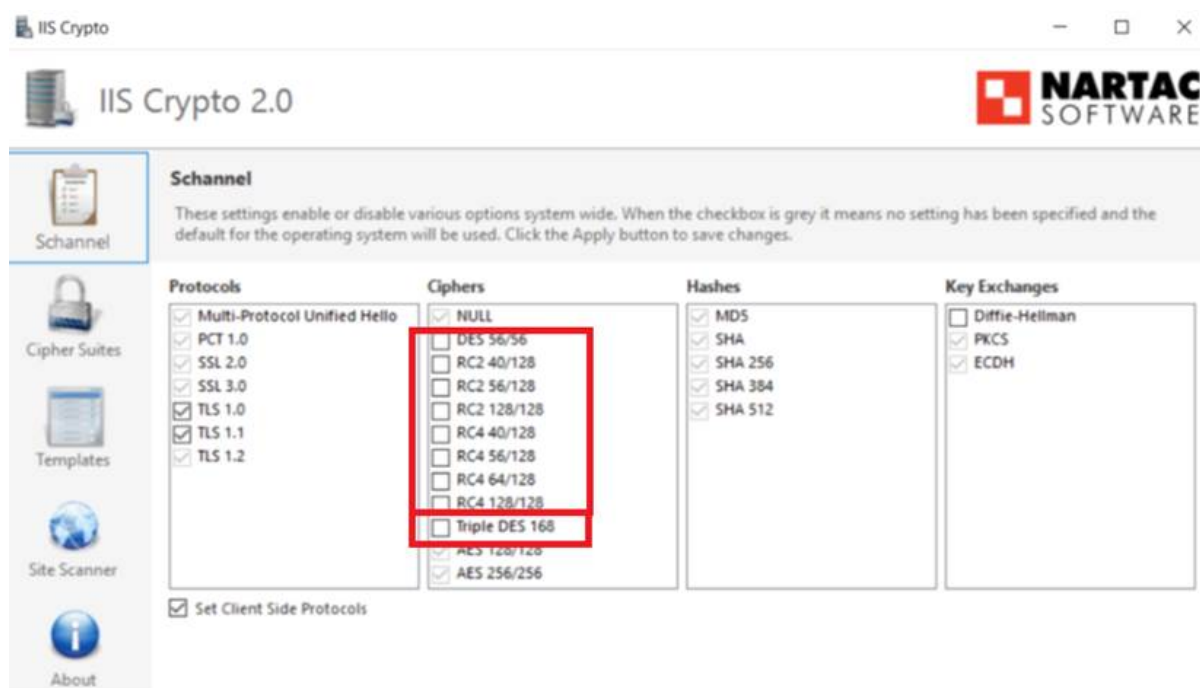
Ericom Connect 7.6 は、Microsoft 2016 SQL AlwaysOn を使用した実地テストに成功しています。Ericom Connect では、SQL AlwaysOn を使用するための特別な設定は必要ありません。

■ SWEET32 に対する保護

Ericom Secure Gateway は、SWEET32 へのセキュリティ保護対策が施されたオペレーティング・システムに対応しています。SWEET32 に対する保護の基本的なステップは、トリプル DES を無効化することです。これは Nartac の IISCrypto を使用して実行できます。システムを用意にロールバックできるよう、変更を適用する前にシステムのバックアップやスナップショットの作成を忘れないでください。

■ SL Medium Strength Cipher Suites Supported に対する保護

Ericom Secure Gateway は、「SSL Medium Strength Cipher Suites Supported」へのセキュリティ保護対策が施されたオペレーティング・システムに対応しています。この脆弱性に対する保護の基本的なステップは、すべての下位ビット暗号 (RC2 および RC4) を無効化することです。これは Nartac の IISCrypto を使用して実行できます。例えば、Nartac の IISCrypto を使用して、以下を設定した後にオペレーティング・システムを再起動します。



また、上記の画像は、トリプル DES を無効化することによる SWEET32 の対策も示しています。システムを用意にロールバックできるよう、変更を適用する前にシステムのバックアップやスナップショットの作成を忘れないでください。

8.1.6 VDI ガイド



現状日本では未サポートです。

警告:

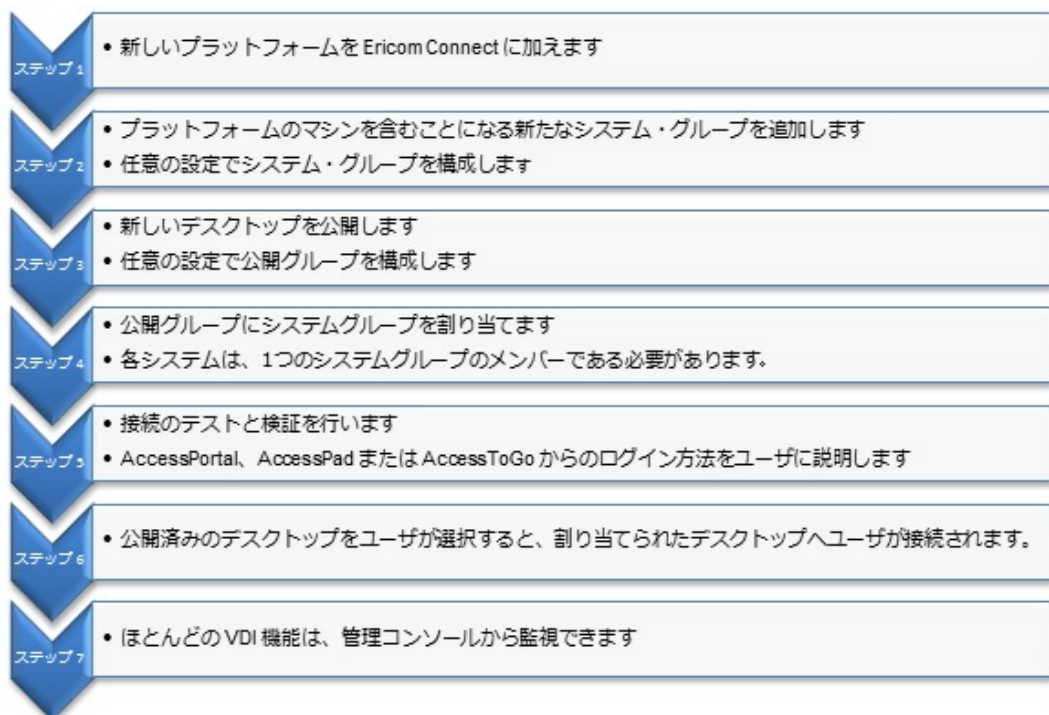
VDI の概要

Ericom Connect には、Microsoft System Center Virtual Machine Manager から仮想マシン・ホストを展開するための機能がふくまれています。VDI 機能は、組織の営業経費に関連する費用を節約することに役立ちます。例えば、オンプレミスのサーバを稼働している組織は、使用されていない仮想マシンをシャットダウンすることにより、電力費を節約することができます。また、不要となったインスタンスを自動的に削除することで、他の用途のためにストレージを解放することができます。プラットフォームにより管理されるホストは、「Managed」(マネージド)として分類され、1つのシステム・グループが関連付けられます。RemoteAgent のみで管理されるホストは、「Unmanaged」(非マネージド)と分類され、1つのシステム・グループが関連付けられます。

以下のような便利な機能があります:

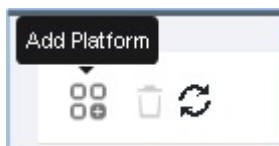
- 仮想マシン (VM) の電力管理
- テンプレートからの新たなホストのインスタンス化
- 使用されなくなったホストのシャットダウン
- マシンへの静的・動的なユーザの割り当て
- 適切なグループへの自動的なマシンの参加

コネクション・ブローカーにより、ユーザの各自のデスクトップ・セッションへのアクセスを許可

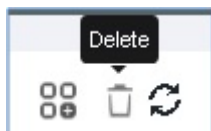


■ プラットフォーム

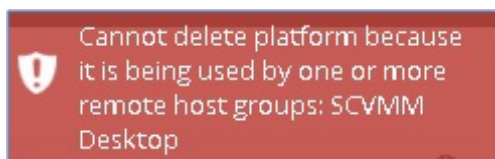
「プラットフォーム」セクションは、VDI プラットフォームが Ericom Connect に追加されている場所です。プラットフォームを追加すると、サポートされた API を介して、Ericom Connect によりプラットフォーム上にホストされた仮想マシンをコントロールできるようになります。異なるプラットフォームでは、異なるパラメータがアクセスに必要とされる可能性があります。管理コンソールで新しいプラットフォームを追加するには、「システム | プラットフォーム」に移動します。「プラットフォームを追加」ボタンをクリックして、新しいプラットフォームを追加します。



既存のプラットフォームを削除するには、「システム | プラットフォーム」に移動して、削除するプラットフォームを選択し、「削除」ボタンを押します。



プラットフォームは、関連付けられたシステム・グループを削除するまで、削除できません。削除が完了できない場合、通知が表示されます。



Microsoft SCVMM 2016

新しい Microsoft System Center Virtual Machine Manger(SCVMM) サーバを追加するには、プラットフォームを追加し、要求されたパラメータを入力します。

Platform Name : プラットフォームのわかりやすい名前を入力します

Platform Name : Microsoft System Center 2016 を選択します

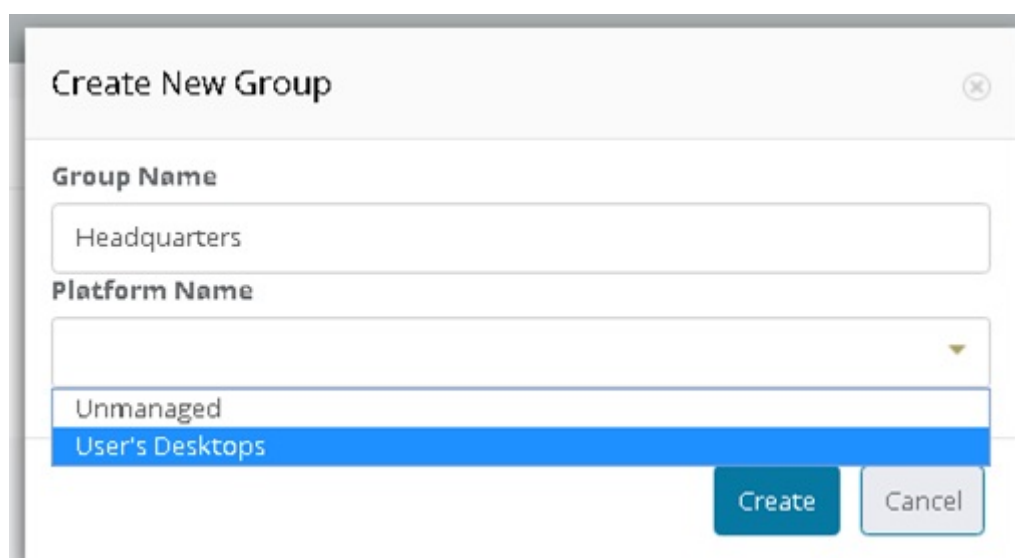
Host and Port : サーバのホスト・アドレスとポートを入力します (ポートの入力がない場合、8100 が使用されます)

User Name : プラットフォームに接続するためのユーザ名を入力します。注意:グリッドの初期化に「SQL 用に Windows 認証を使用する」を使用している場合、指定した Windows ユーザは、プラットフォームへの接続するために入力されたユーザ名と同じドメインに存在する必要があります。

Password : プラットフォームに接続するためのパスワードを入力します。

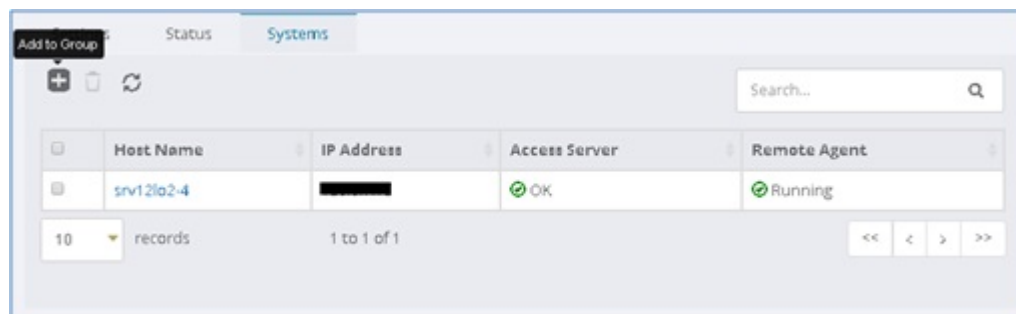
■ システム・グループ (マネージド)

プラットフォームを追加すると、「マネージド」システム・グループを作成することが可能になります。マネージドのシステム・グループは VDI プールと同様、特定のホストまたはホストのグループへユーザを割り当てるための手段を提供します。また、プラットフォーム・レベルからマシンを管理する機能を提供します。例えば、慎重に扱うべき HR アプリケーションをホストする仮想デスクトップを「HR」システム・グループに追加できます。その後、HR システム・グループを「HR デスクトップ」公開グループのみに割り当てます。「HR デスクトップ」公開グループのメンバーであるユーザのみが、ログイン時に HR 固有のデスクトップにアクセスできるようになります。ベストプラクティスとして、偶然その中に含まれたシステムにユーザが接続できないことを確実にするために、「すべてのホスト」グループを無効化することをお勧めします。新しいシステム・グループを作成する場合は、「Platform Name」オプションを選択し、グループに関連付ける任意のプラットフォームを選択します。



システム

プラットフォームからグループにホストを追加するには、「システム」タブに移動し、「グループに追加」ボタンを押します。



RemoteAgent をインストール済みのホストのみが選択可能になります。

設定

マネージド・システム・グループには、非マネージド・システム・グループよりも多くの構成オプションがあります (非マネージド・システム・グループには、プラットフォーム API をとじて管理されないホストが含まれています)。

マネージド・システム・グループには、非マネージド・システム・グループよりも多くの構成設定があります。次のセクションでは、追加の設定について説明します。

自動切断タイムアウト：ホストが「永久に切断」をマークされるタイミングを決定する継続時間。ホストが複数のシステム・グループに存在する場合、最も低い値が使用されます。この値は、サービスの停止が発生した場合にはカウントされません。

切断済みの自動削除：有効化すると、「永久に切断」の状態となったホストは、自動的にグループから削除されます。無効化すると、切断されたホストはシステム・グループのメンバーであり続けますが、管理コンソールでは非表示になります。非表示 (切断済み) のものを含む、ホストの完全なリストを確認するには、以下を実行します：**ConnectCli remoteHostGroupMembers list <グループ名>**

登録モード：RemoteAgent によるこのグループへの自動登録を可能にするかどうかを制御します。

ユーザ・アファニティ：このグループにおいてユーザをどのようにホストに割り当てるかを設定します：静的永続または動的永続。この設定を有効化して使用する場合、すべてのシステムが 1 つだけのシステム・グループに存在することを確認するをお勧めします。システムを永続的に割り当て、複数のシステム・グループに存在する場合、ユーザがシステムに到達できない状況が発生する可能性があります。

ホストが起動していない場合のアクション：(オプション：なし、スタート) ユーザが割り当てられたホストを選択した際に実行されるアクション。マシンがオフで、オプションが「なし」に設定されている場合、ユーザは接続ができません。オプションが「スタート」に設定されている場合、ホストの電源がオンになります (マシンの使用準備ができるまで、ユーザは待機します)。ユーザのホストが「PermanentlyDisconnected」の場合、Start コマンドは機能しません。

ユーザがログアウトした場合のアクション：(オプション：なし、シャットダウン) ユーザがホストからログア

ウトした際に実行するアクション セッションを切断すると、シャットダウン時のイベントはトリガされません。シャットダウン時のアクションは、ホスト上に RDP セッション (アクティブまたは切断済み) が存在しない場合のみ発生します。

利用可能なホストの最小数 : 将来の要求のための準備状態とする利用可能な (未割り当ての) ホストの最小数

利用可能なホストの最大数 : このグループに存在することができる利用可能な (未割り当ての) ホストの最大数

テンプレート : 新しいホストをインスタンス化するために使用されるプラットフォーム上に存在するゴールド・テンプレート。ゴールド・テンプレートは、使用前に管理者がインスタンス化の準備をする必要があります (例: Sysprep 操作を実行し、ホストをシャットダウンする)。

マシン名の接頭辞 (Machine Name Prefix):(オプション) ホストをインスタンス化すると、新しいコンピュータ名にこのプレフィックス文字列が追加されます (上限 9 文字)。

ハードウェア・プロファイル :(オプション) 新しいホストをインスタンス化するのに使用するハードウェア・プロファイルを指定します (ハードウェア・プロファイルでは、CPU などのホストに割り当てられるリソースが記述されます)。これにより、テンプレートで定義した設定が上書きされます。

Hyper-V のホスト名 : (SCVMM のみ) 新しいホストをインスタンス化する Hyper-V ホストを指定します。クラスタを使用する場合、クラスタ名を指定します。これは、8.0 では必須設定です。

ステータス

ステータス・パネルには、管理対象システム・グループの様々な指標が表示されます。

プロバイダにアクセス可能 (Provider Accessible): Ericom Connect がプラットフォーム・プロバイダと通信可能であるかどうかを示します。プロバイダがアクセス不可の場合、Ericom Connect はそのプロバイダへの接続を管理することができません。

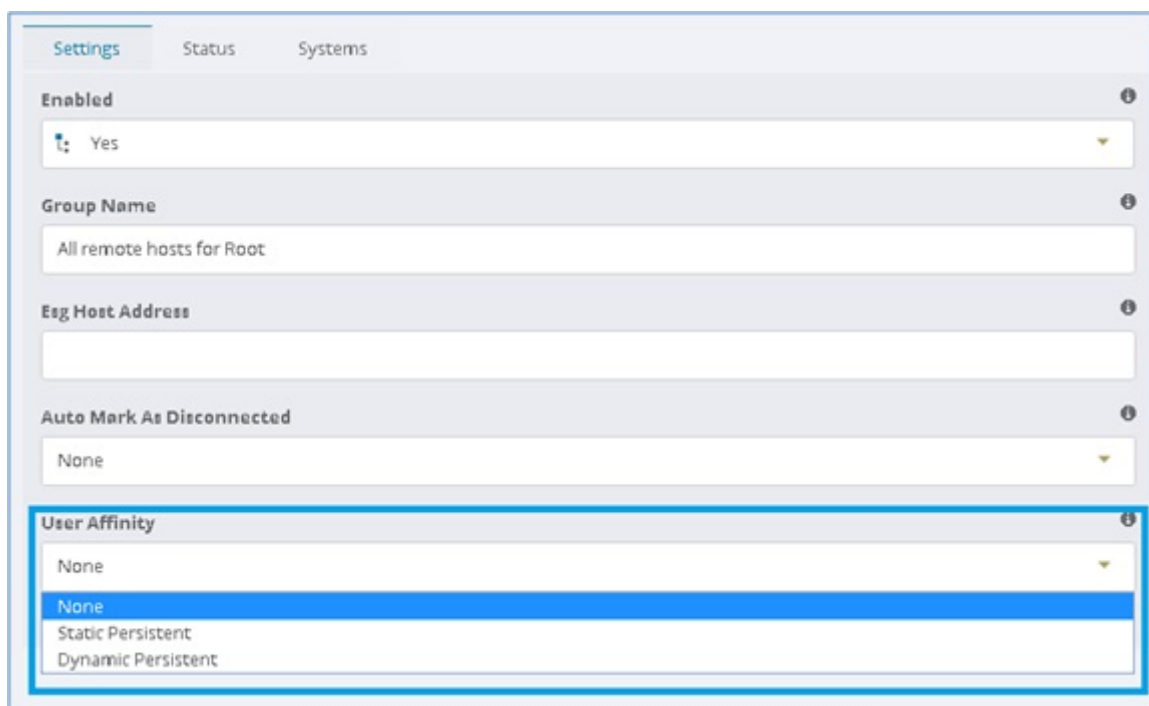
起動中の未割り当てホスト数 (Running Unassigned Hosts): 現在ユーザに割り当てられていないホストの数。

起動中のホスト数 (Running Hosts) : 実行中のホストの数 (割り当て済み、未割り当ての両方を含む)。

停止中のホスト (Stopped Hosts): 停止している (起動していない) ホストの数。

■ ユーザ・アフィニティの例

Ericom Connect 8.0 以降では、ユーザ・アフィニティの割り当てを設定する機能がシステム・グループに追加されました。



ユーザ・アフィニティは、システム・グループから提供されたホストにユーザを割り当てるためのメカニズムを提供します。以下は、ユーザ・アフィニティを設定するための方法の例です。

例 1: 静的割り当て

ユーザ Steve は、独占的に使用されるホストに割り当てられています:

- 「すべてのリモート・ホスト」システム・グループを無効化します
- マネージド・システム・グループを作成し、ホストを割り当てます
- ユーザ・アフィニティを「静的永続」に設定します
- ホストの「設定」タブで、Steve のアカウントを「ユーザーに割り当て済み」に割り当てます。
- 新しいデスクトップ・アプリケーションを公開します
- デスクトップ・アプリケーションを新しい公開グループに割り当てます
- マネージド・システム・グループを公開グループに割り当てます
- このホストの割り当てを解除するには、ホストの「設定」タブに移動し、「ユーザーに割り当て済み」の下の「ユーザの解除」ボタンを押します。

例 2: 動的割り当て

ユーザ Steve は、最近の買収による新しい従業員です。新しい従業員は、独占的に使用される新しいデスクトップを受け取りますが、管理者は手動でそれぞれを割り当てたくありません。

- 「すべてのリモート・ホスト」システム・グループを無効化します
- マネージド・システム・グループを作成し、ホストを割り当てます
- ユーザ・アフィニティを「動的永続」に設定します

- 新しいデスクトップ・アプリケーションを公開します
- デスクトップ・アプリケーションを新しい公開グループに割り当てます
- マネージド・システム・グループを公開グループに割り当てます
- このホストの割り当てを解除するには、ホストの「設定」タブに移動し、「ユーザに割り当て済み」の下の「ユーザの解除」ボタンを押します。

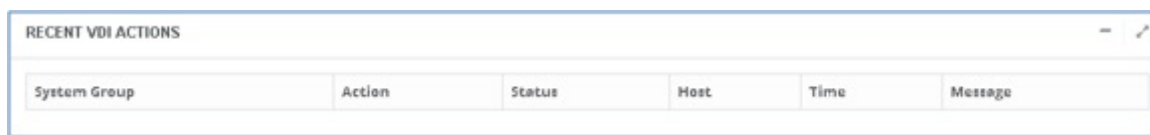
例 3: 非永続的な動的割り当て

シフト勤務の従業員は、ユーザがアクティブである間だけ割り当てられるホストに接続されます (アクティブまたは切断された RDP セッションが存在する可能性があります)。ユーザがログオフすると、ホストは別のユーザのために利用可能となります。

- 「すべてのリモート・ホスト」システム・グループを無効化します
- マネージド・システム・グループを作成し、ホストを割り当てます
- ユーザ・アフィニティを「なし」に設定します
- 新しいデスクトップ・アプリケーションを公開します
- デスクトップ・アプリケーションを新しい公開グループに割り当てます
- マネージド・システム・グループを公開グループに割り当てます
- ユーザがデスクトップ・アプリケーションを選択するごとに、そのセッションの間、未割り当てのホストがユーザに割り当てられます。
- ユーザがログアウトすると、ホストは未割り当て状態に戻り、将来の要求のために利用可能になります。

ダッシュボード

マネージド・システム・グループを作成すると、「最近の VDI アクション」ウィジェットがダッシュボードに追加されます。システムにマネージド・システム・グループが存在しない場合、このウィジェットは表示されません。



System Group	Action	Status	Host	Time	Message
--------------	--------	--------	------	------	---------

システム・グループ：関連付けられたシステム・グループの名前

アクション：実行されたアクション

ステータス：実行されたアクションのステータス (例: 完了)

ホスト：フォーカスしているホストのアドレス

時間：Ericom Connect により認識されたアクションのタイムスタンプ コネクション・ブローカーによるイベントの認識には常に多少の遅れが存在するため、この列の時刻は、プラットフォーム上で記録された時刻と一致しません。Ericom Connect では RemoteAgent がオンラインとなった時にホストが起動したと認識され

るため、このタイムスタンプはプラットフォームのホストの起動時刻と異なります。完了していないアクションについては、時刻はアクションの開始時刻を示します。完了したアクションについては、時刻はアクションの完了時刻を示します。

メッセージ：アクションに関連するすべてのメッセージとエラー。情報は、プラットフォームの API や Ericom Connect から報告される場合があります。

■ ConnectCLI VDI コマンド

「ConnectCLI vdi」コマンドを使用して、VDI 関連の様々な機能をコマンド・ラインから実行することができます。

```
ConnectCLI Vdi [オプション]* pending | start グループ名 ホストまたは ID … | stop グループ名  
ホストまたは ID … | instantiate グループ名 | binding ホストまたは ID | setBinding ホストまた  
は ID {vdiId | unbound}
```


ConnectCLI VDI の機能	
Start	指定したシステム・グループ名とホスト・アドレス/ID に基づいてホストを開始します
Stop	指定したシステム・グループ名とホスト・アドレス/ID に基づいてホストを停止します
Instantiate	システム・グループで指定されたテンプレート名に基づいて、新しいホストをインスタンス化 (作成) します。 システム・グループの名前がパラメータとして使用されます
Pending	ダッシュボードからも閲覧可能なアクションについての情報をより詳細に表示します。
Binding	Ericom テクニカル・サポート用 (Connect ホスト ID とプラットフォームのホスト ID との関連付けを表示します)
setBinding	Ericom テクニカル・サポート用

その他の便利な ConnectCLI コマンド

特定のホストの GUID を検索する:

Connectcli remotehostconfig list

GUID を使用して特定のホストにユーザを割り当てるには:

Connectcli remotehostconfig <ホストの GUID> **AssignedToUser** =user@corp.domain.com

特定のシステム・グループにホストを割り当てるには:

Connectcli remotehostconfig <ホストの GUID> **AutoAssignToGroup** =abcgroup

RemoteAgent Type 2 のインストール

Ericom Connect RemoteAgent Type 2(NG - Next Generation と呼ばれる) は、Ericom Connect への参加のために各仮想・物理ホストにインストールされているエージェントです。これは、Ericom Connect RemoteAgent Web サービスと通信して、ホストのステータスにカンする重要な情報を中継します。RemoteAgent を設定して実行すると、Ericom Connect 管理コンソールの「システム | ホスト」にホストが表示されます。Windows ホストに Ericom RemoteAgent 8.0 インストールするには、以下の手順を実行します:

- 次のインストール zip ファイルをダウンロードします: RemoteAgentNG.zip
- zip ファイルをフォルダに解凍します。例: C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Connect Remote Agent Type2
- 必要に応じて、**setupnra.bat** を編集します (例: ファイアウォールの無効化を削除します)
- 管理コマンド・プロンプトを開き、**setupnra.bat** スクリプトを実行します。このスクリプトには、3つのパラメータを使用できます:
- パラメータ 1: RemoteAgent Web サービスを実行中のホストのホスト名 または IP
- パラメータ 2: マシンが自動的に参加するシステム・グループ名 (オプションですが、強くお勧めします)
- パラメータ 3: ローカルの「リモート・デスクトップ・ユーザ」グループに追加するユーザ・グループ (通常はドメイン)
- このスクリプトにより、以下が実行されます (setupnra.bat ファイルを編集して、任意の機能をカスタマイズできます):
- ローカルの Windows ファイアウォールの無効化
- ホストへの RDP アクセスの有効化
- ローカルの「リモート・デスクトップ・ユーザ」グループに特定のグループを追加
- Access Server のインストール
- RemoteAgent のインストールと構成
- 「Ericom Access Server」と「Ericom Connect RemoteAgent Type 2」サービスは、自動的に開始されません

setupnra.bat 用のコマンド・ラインの例: setupnra.bat user-desk-002 usersgroup "acmeusersdomain users"

RemoteAgentServiceNRA.exe 用のコマンド・ラインの例:

```
RemoteAgentServiceNRA.exe /run /config /GroupClassification <参加するシステムグループ>
/RemoteAgentWebServiceUrls <RAWS のアドレス> /hostClassificationInfo <参加するテナント>
```

テンプレート用に **RemoteAgent** を準備する

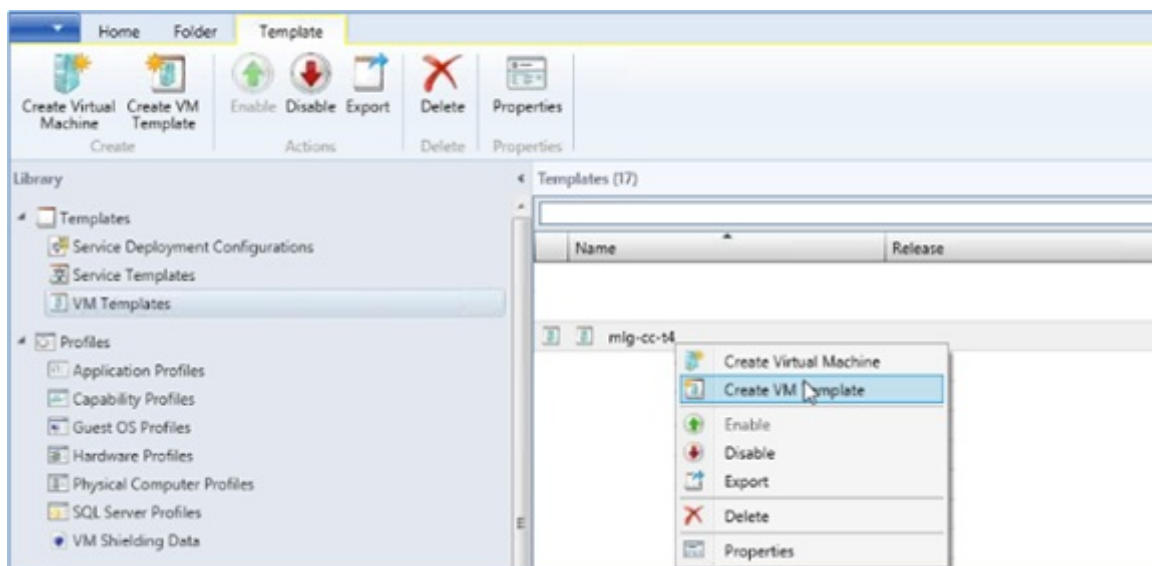
このスクリプトは、今後ホストをインスタンス化するためのテンプレートとして使用する、初期状態のホストへインストールするために設計されています。初期状態のホストを準備する手順は以下のとおりです:

- クリーンな Windows ホスト・インスタンスを起動します
- 任意のドメインにホストを追加します (オプション。setupnra.bat ファイルを使用してドメインのユーザをローカルの「リモート・デスクトップ・ユーザ」グループに関連付ける場合のみ必要)
- 任意のパラメータを使用して setupnra.bat を実行します
- 追加したドメインからホストを削除します (Sysprep のための要件)
- そのマシンを使用してテンプレートを作成します

■ テンプレートを作成する

Ericom Connect では、プラットフォーム上に事前作成されたテンプレートを使用して新しいホストがインスタンス化されます。

SCVMM 2016 を使用してテンプレートを作成する:

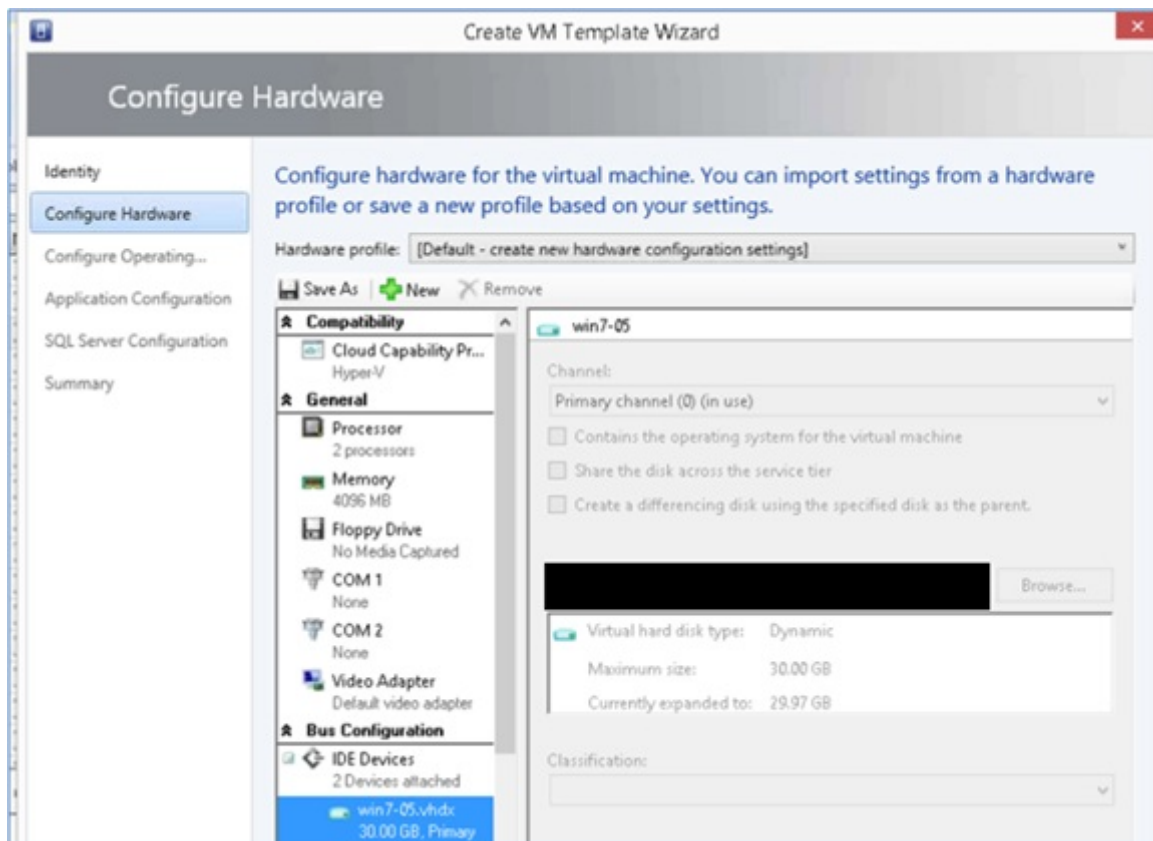


テンプレートを作成後、(マネージド) システム・グループの「テンプレート」フィールドに名前を入力します。

テンプレートは、新しいホストのインスタンス化に使用する前に、以下の準備が完了している必要があります:

- 必要なすべてのアプリケーション、ツール、アンチウイルスなどのインストール
- オペレーティング・システムとドライバのアップデートの適用

- Ericom RemoteAgent Type 2 のインストール、および『テンプレート用に RemoteAgent を準備する』セクションの手順の実行
- プラットフォームの管理ツールを使用して、テンプレート作成プロセスにおいて必要なすべてのシステム・プロパティ (例: 差分ディスクの使用) を構成します。



- 「コンピュータ名」の値には文字数制限がある場合があります。



■ ホストのインスタンス化とシャットダウン

ホストは、手動またはマネージド・システム・グループで定義したポリシーを使用してインスタンス化することができます。新しいホストのインスタンス化は、最大 10 分必要な場合があります。「自動インスタンス化」は、十分な数の待機中ホストが存在することを確実にし、すばやいユーザ・アクセスを確保できます。

手動でのインスタンス化

ホストをテンプレートから手動でインスタンス化するには、コマンド・ラインから「ConnectCLI vdi」を実行し、任意のシステム・グループ名をパラメータとして入力します。例: 「ConnectCLI vdi instantiate g2」は、グループの「テンプレート」フィールドに定義されたテンプレートを使用して、システム・グループ「g2」に新しいホストを作成します。

ダッシュボード VDI ウィジットには、アクションとそのステータスが表示されます。

RECENT VDI ACTIONS		
System Group	Action	Status
g2	Instantiate	InProcess

RECENT VDI ACTIONS		
System Group	Action	Status
g2	Instantiate	Completed

手動でのシャットダウン

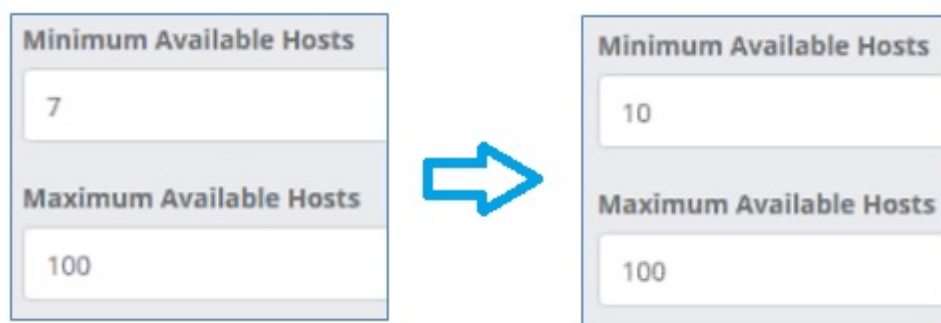
テンプレートを使用したホストを手動でシャットダウンするには、コマンド・ラインから「ConnectCLI vdi」を実行し、任意のシステム・グループ名をパラメータとして入力します。

例: 「ConnectCLI vdi shutdown g2 computer005」または、正規表現を使用します: 「ConnectCLI vdi shutdown g2 computer00*」または 「ConnectCLI vdi shutdown g2 computer0??」

自動インスタンス化

マネージド・システム・グループの設定では、「使用可能なホストの最小数」の設定により、潜在的なユーザのために利用可能な起動中のホストの数が決定します。

例えば、「最小」値を 7 から 10 に変更した場合:



3つの未割り当てホストがグループに存在し、起動していない場合、この変更により3つのホストの起動がトリガされます。未割り当てのホストがグループに存在しない場合、この変更により、定義済みのテンプレート

を使用した 3 つのホストの自動インスタンス化がトリガされます。ホストがインスタンス化されると、ユーザが割り当てられるまで、それらは未割り当ての状態になります。VDI ダッシュボード・ウィジェットには、関連する VDI アクションが表示されます。

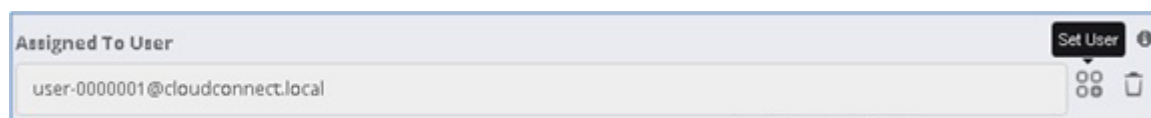
RECENT VDI ACTIONS			
System Group	Action	Status	Host
g2	Start	Completed	sim-000006.dummyhost.com
g2	Start	Completed	sim-000008.dummyhost.com
g2	Start	Completed	sim-000014.dummyhost.com

自動シャットダウン

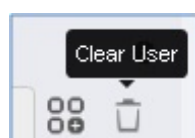
利用可能なホストの最大数の値を減少させた場合、未割り当てホストは自動的にシャットダウンします。例えば、「最大」値を 10 から 7 に変更した場合、RDP セッションが存在しない実行中の未割り当てホストのうちランダムな 3 台がシャットダウンされます (起動中の未割り当てホストが 7 台となるまで)。ホストのシャットダウンは、一般的に消費電力を節約します。

ユーザに割り当てられた機能

マネージド・システム・グループのホストは、「設定」タブの下で特定のユーザに割り当てることができます。「ユーザをセット」(Set User) ボタンをクリックし、ホストに割り当てるユーザを選択します。この設定は、ホストをユーザに割り当てるためのユーザ・アフィニティ機能と組み合わせて使用されます (ユーザ・アフィニティを「なし」に設定している場合、この設定は反映されません)。



既存の割り当てを削除するには、「ユーザをクリア」(Clear User) ボタンをクリックします。



構成済みのホストを含むシステム・グループにバインドされた公開リソースをユーザが選択すると、ユーザが割り当てられたホストは、常に特定のユーザに割り当てられます。これは、「静的永続」および「動的永続」システム・グループのユーザ・アフィニティの設定に該当します。ホストへのユーザの割り当てでは、関連付けられたリソースをユーザが閲覧可能にすることは自動的に行われません。そのリソースをユーザが閲覧可能にするには、管理者がリソースを公開し、関連付けられた公開グループのメンバーであるユーザまたはグループを明示的に割り当てる必要があります。ホストのシステム・グループが、ユーザがメンバーである公開グループに割り当てられていない場合、ホストには到達できなくなります。

■ コール・センターの事例

この事例は、シフト勤務ベースのコール・センター従業員向けにデスクトップを割り当て、インスタンス化、提供するために Ericom Connect を使用方法の例を提供します:

- コール・センターのホストの起動元となるプラットフォームを追加します
- 「ゴールド」テンプレートとして使用する仮想マシンを準備します
- システム・グループを追加し、任意の「プラットフォーム」を選択します

- 登録モード: 「名前または ID」(By Name or ID) (インスタンス化されたマシンを自動的に登録するため)
- ユーザ・アフィニティ: なし (ユーザは永続的にマシンに割り当てられません)
- ユーザがログアウトした場合のアクション: シャットダウン (プラットフォームのリソースを節約するため)
- 利用可能なホストの最小数: 5 (利用可能な実行中マシンを 5 台確保し、新しいユーザが迅速にログインできるようにするため。新しいホストのインスタンス化は時間がかかります)
- エンドユーザがログインすると、公開リソースが起動します。ホストが選択され、一時的にユーザに割り当てられます (5 つのホストが存在します)。
- 「使用可能なホストの最小数」を満たすために、Ericom Connect により自動的に新しいホストがインスタンス化されます。
- エンドユーザがログアウトすると、プラットフォームのリソースを節約するためにホストは自動的にシャットダウンされます。

■ Type 2 RemoteAgent

Type 2 RemoteAgent は、ワークステーション・オペレーティング・システムで利用可能になりました。このバージョンは、zip ファイルを使用した手動インストールが必要です。インストーラは、将来のバージョンで利用可能になります。

■ 既知の制約

以下は、VDI 展開における既知の制限の一覧です。

- 新しいホストをインスタンス化するのに使用するテンプレートでは、Type 1 RemoteAgent を使用しないでください。Type 2 RemoteAgent では、BIOS の GUID を使用して、ホストをインスタンス化の際の新しいコンピュータ名が生成されます (これは、Ericom Connect 内でホストを特定するのに使用されます)。
- SCVMM 2016 クラスタはまだサポートされていません。
- Ericom Connect は、マシンが削除された際にそれを (プラットフォーム API を介して) 認識しません。そのため、マシンが手動で削除された場合、Ericom Connect は起動を試行し続ける場合があります。将来的には、API レベルでも Ericom Connect からマシンの可用性を追跡できるようになります。

8.1.7 サポート・ガイド

用語集

AccessNow	公開されたアプリケーションやデスクトップへのアクセスに使用される HTML5 ベースの技術。ホスト側に「AccessServer」が必要です。
AccessPad	Windows と Mac 用のネイティブ・クライアント
AccessPortal	エンドユーザが割り当てられたリソースへアクセスするための Web ベースサインイン・ポイント。起動したアプリケーションとデスクトップでは AccessNow HTML5 インターフェースが使用されます。
AccessToGo	iOS と Android で利用可能なネイティブ・モバイル・アプリ
管理コンソール	Ericom Connect の監視、設定、管理を行うための Web ベースの管理インターフェース。
AWS (管理 Web サービス)	ユーザが、Ericom Connect を管理するための Web ベースの管理コンソールを参照するのを可能にします。
EC (Ericom Connect)	任意のデバイス・場所のユーザと企業のアプリケーションおよびデスクトップを接続する、エンタープライズ・クラスの接続ブローカ。
EC BL (Ericom Connect)	コントローラ・サービス

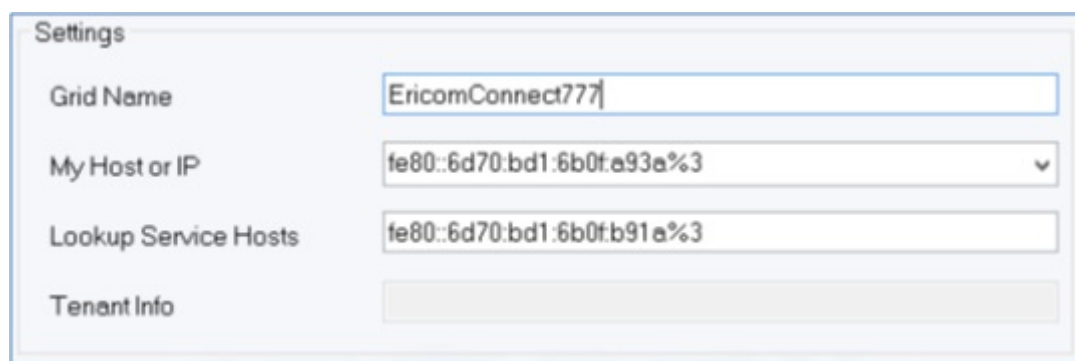
サーバ・サイドの FAQ

Ericom Connect のインストール用にサーバを検証する

Configuration Analyzer を Ericom Connect Configuration Tool とは別に起動することができます。これは、Ericom Connect をインストールする時間と労力をかける前に、Ericom Connect で使用するサーバを検証するのに役立ちます。

IPv6 ホストをグリッドに参加させる

IPv6 を使用しているホストをグリッドに参加させるには、「Lookup Service Hosts」フィールドに IPv6 アドレスを入力します。IPv6 以外のアドレスが使用されている場合、エラーが表示されます。



Settings	
Grid Name	EricomConnect777
My Host or IP	fe80::6d70:bd1:6b0f:a93a%3
Lookup Service Hosts	fe80::6d70:bd1:6b0f:b91a%3
Tenant Info	

ホストの IP アドレスの変更

ホストの IP アドレスを変更した場合、RemoteAgent をグリッドに接続することができなくなり、Configuration Tool 以下のエラーが表示されます:

```
Updating configuration files ... done.  
Searching for grid EricomConnect ...  
*** Cannot find EricomConnect ***
```

これを解決するには、RemoteAgent の Configuration Tool を起動し、「%COMPUTERNAME%」を使用します (システムに 2 つ以上の IP アドレスが存在する場合、この変数により正しい IP アドレスへ誘導されることを確認してください)

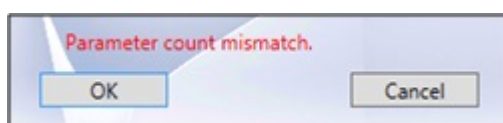
最初の Connect 管理者を割り当てることができない

ドメイン管理者ユーザには、ユーザ・ログオン名とドメイン名が定義されない場合があります。「Active Directory ユーザとコンピュータ」に移動し、目的の管理者ユーザの「アカウント」タブ内のすべての項目が定義されていることを確認してください。例:

全般	住所	アカウント	プロフィール	電話	組織	所属するグループ
ユーザー ログオン名(U):						
<input type="text" value="admin"/>			<input type="text" value="@corp.jx3.com"/>			
ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)(W):						
<input type="text" value="CORP¥"/>			<input type="text" value="admin"/>			

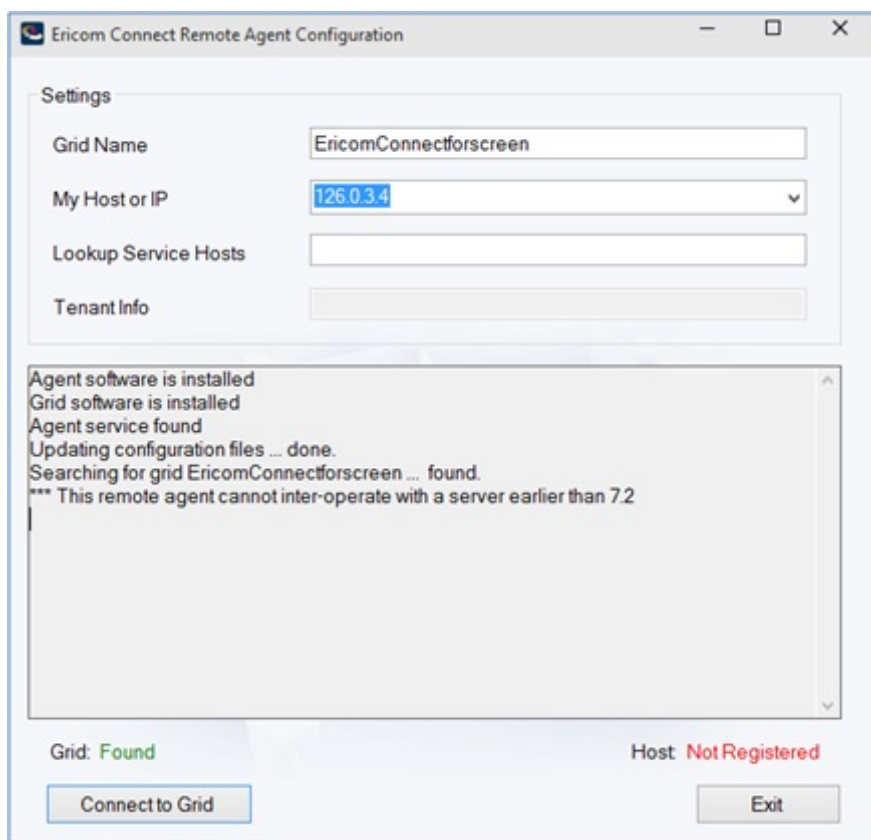
グリッド・コンポーネントに同じバージョンを使用する

Ericom Connect コンポーネントは、同じバージョン内で動作するように設計されています。古いバージョンの RemoteAgent を新しいバージョンのグリッドに接続できる場合がありますが、同じバージョンとなるようにすべてのグリッド・コンポーネントをアップグレードしてください (例:EUWS)。グリッド・コンポーネントが一致しない場合、「パラメータのカウン트의不一致」のエラーが表示されます。



古いバージョンのグリッドとの互換性がない **RemoteAgent**

新しいバージョンの RemoteAgent で古いバージョンのグリッドに接続を試みた場合、初期化プロセスでエラーが表示されます。



RemoteAgent をグリッド・コンポーネントと同じバージョンにアップデートしてください。

SQL での Windows 認証

SQL アクセスに Windows 認証を使用する場合、明示的に Ericom Connect 管理者ユーザを管理者グループに追加する必要があります。さらに、Ericom Connect システムが登録されているドメインに、その管理者ユーザが登録されている必要があります。

ビルトイン証明書の復元

ESG、管理 Web サービス、およびエンドユーザ Web サービス用の元の自己署名証明書を復元するには、Ericom Connect サーバで次のコマンドを実行します:

```
ConnectCLI ConfigureCertificates FindByExtension 1.2.840.113556.1.8000.2554.57748.52896.21682.18417.45066.8514989.0
```

AccessPortal HTTP ポイントの無効化

「接続サービス」|「エンドユーザ Web サービス」に移動します。

「HTTP 有効化」を「いいえ」に設定します。

この変更後に EUWS サービスを再起動します (7.1)。

HTTP を使用することにより、接続のトラブルシューティング中の SSL エラーを回避できます。

AccessServer ポートの変更

AccessServer では、デフォルトで 8080 ポートを使用して通信が行われます。このポート値は、次のレジストリから変更することができます:

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Ericom Software\Access Server\CLIENT Side]\Port"=
```

AccessServer にカスタム値を使用する場合、適用した変更が約 1 分で自動的に RemoteAgent に認識されます。管理者に必要とされるサーバ・サイドの追加設定はありません。

■ サーバ・サイドの既知の動作

Database Server User は英語の名前である必要があります

「Database Server user name」は、英語である必要があります。デフォルトでは、この値はグリッドと同じ文字列に設定されており、英語の文字列を使用して再入力する必要があります。(Connect 7.0.x が対象です)

レポート: **Access Server** フィルタには **RemoteAgent** が必要です。

AccessServer ステータスには、RemoteAgent が必要です。 RemoteAgent サービスが「実行中」でない場合、AccessServer ステータスは無効となります。

クロス・ドメイン・グループはサポートされません

クロスドメイン・グループ・メンバーシップはサポートされていません。例えば、あるドメインのユーザ/グループが別ドメインのグループのメンバーである場合、別のドメインに割り当てられたリソースは、前述のユーザ/グループからアクセスすることができません。

レポートの結果における負の数

Ericom グリッドのすべてのホストは、共通のタイム・ソースを使用して同期する必要があります。ホストが同期されていない場合、レポートの時系列の結果に負の数が表示される場合があります。

信頼された証明書によるページの中断

システムにインストールされた信頼された証明書を Connect に使用する場合、その証明書は「エクスポート可能」としてシステムにインストールする必要があります。証明書が適切にインストールされていない場合、各コンポーネントにアクセスすることができなくなります。証明書が適切にインストールされたことを確認するには、HTTPS アクセス用の IIS でその証明書を設定します。IIS で証明書が動作する場合、Connect でも同様に動作します。

EUWS グローバル証明書の問題

EUWS でのグローバル証明書の設定に関する既知の問題は次のとおりです:証明書をグローバル・レベルで設定した場合に、ホストの追加で問題が発生する可能性があり、新しいサーバに「Unable to function」というエラーが表示されます。

RemoteAgent が存在しない場合のセッション・リダイレクト

RDS ファームを使用する場合、ユーザがセッションを開始した際にセッションのリダイレクトが発生する場合があります。

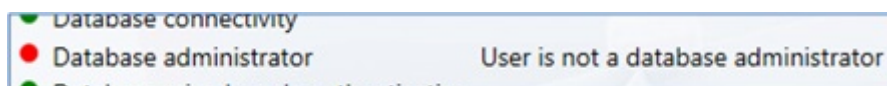
例えば、ログインするユーザが他のホスト上に切断されたセッションを持つ場合です。リダイレクトが行われたターゲット・ホストに RemoteAgent がインストールされている場合、Connect 管理 (ユーザ) コンソールにユーザの RDP セッション・データが正しく表示されます。

しかし、リダイレクトが行われたターゲット・ホストに RemoteAgent が存在しない場合、ユーザのセッション・データは空になります。対応するレポートのエントリでは最終的なホスト・アドレスは表示されませんが、元のリダイレクトが発生したホストは表示されます。したがって、リダイレクト機能は適切に実行されるものの、レポートのデータには最終的なホスト・アドレスが反映されません。

このレポートの不一致を避けるには、可能な限りすべての宛先ホスト上に RemoteAgent をインストールすることをお勧めします。

Cloud DB での Configuration Analyzer のエラー

Amazon AWS SQL と Microsoft Azure SQL でのテストの際、Configuration Analyzer により「User is not a database administrator(ユーザがデータベース管理者ではありません)」というエラーが返されます。Ericom Connect は適切な資格情報を使用して SQL データベースと正常に通信できるようになるため、このエラーは無視します。



サービスの再起動後に管理者がオフラインとなる

Admin サーバ・サービスを再起動した後、そのサービス用の信頼された証明書がインストールされていない場合は、次のエラー・メッセージが表示されます:

ログイン・プロンプトを回復するには、Web ページを強制的に更新します。今後この問題が発生するのを避けるには、Admin サービス用の信頼された証明書をインストールします。

RemoteAgent WMI エラー

RemoteAgent Configuration Tool により次のメッセージが表示される場合があります:

Unable to retrieve all the required information from WMI. Please see the documentation on how to proceed.(すべての必要な情報を WMI から取得することができません。続行する方法については、マニュアルを参照してください)

このメッセージは、システム上で WMI リポジトリが破損している可能性を示しています。詳細については、WMI Diagnosis Utility を実行してください:

<https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=7684>

RemoteAgent では、システム・レベルのイベント (例: CPU 使用率) を監視するために、WMI が使用されます。

セッションの ClientName の CC# とは

Ericom Connect 7.5.1 およびそれ以前のバージョンでは、RDP セッションの「ClientName」の末尾に「CC#」という文字列が追加されていました。この文字列は、追跡のためにセッションを識別するために使用されます。一部のアプリケーションでは、「ClientName」は「CC#」ラベルのない、ネイティブな状態を維持する必要があります。Ericom Connect 7.5.2 以降では、Ericom Connect サービス、AccessPad、RemoteAgent のバージョンが 7.5.2 以降であれば、「CC#」ラベルは必要なくなりました。バージョン 7.5.2 で「CC#」識別子の使用を無効化するには、「システム構成 | システム設定」に移動し、「RDP クライアント名を保持 (Preserve RDP Client Name)」を「はい (Yes)」に設定します。

「RDP クライアント名を保持 (Preserve RDP Client Name)」が有効化され、古いバージョンのクライアントが使用される場合、以前と同様「CC#」が「ClientName」に追加されます。

バージョン 7.6 以上では、CC# の存在は自動で設定され、手動設定は必要ありません。

ファームと NLA で IP アドレスを使用する

Ericom Connect を使用して、NLA を有効化したホストの RDS ファームからセッションを起動する場合 - FQDN ではなく静的 IP を使用するよう RemoteAgent が設定されます。

この動作は、DNS サーバによってファーム名がファームのホスト IP の 1 つへと名前解決されるために発生します。名前解決された IP は、各 DNS 呼び出しごとに異なる場合があります。ファーム名によって選択されたホストが、実際のサーバ・アドレス (AccessServer の接続先) と異なる場合、NLA 認証は失敗します。

IPv4 または IPv6 の使用 (どちらか一方のみ)

グリッドのコンポーネントは、環境全体にわたって一貫したアドレスによって認識される必要があります。システム上の同じ NIC を参照している場合であっても、IPv4 と IPv6 のアドレスを混合して一致させないでください。

また、環境全体にわたって変数 %COMPUTERNAME% のアクセス先が同じであることを確認してください。例えば、Business Logic Controller サービスによって ESG gateway.acme.com を IPv6 アドレスに解決している一方で、ESG サーバによって変数 %COMPUTERNAME% を IPv4 アドレスへと解決している場合、この 2 つのエントリは同期されず、Business Logic Controller によって ESG システムが認識されません。

ユニバーサル・アプリケーションを公開できない

マイクロソフト・ユニバーサル (Metro としても知られています) は、公開することができません。Microsoft Edge ブラウザは、このようなアプリケーションの一例です。

Ericom Analytics でデータベースを読み込むことができない

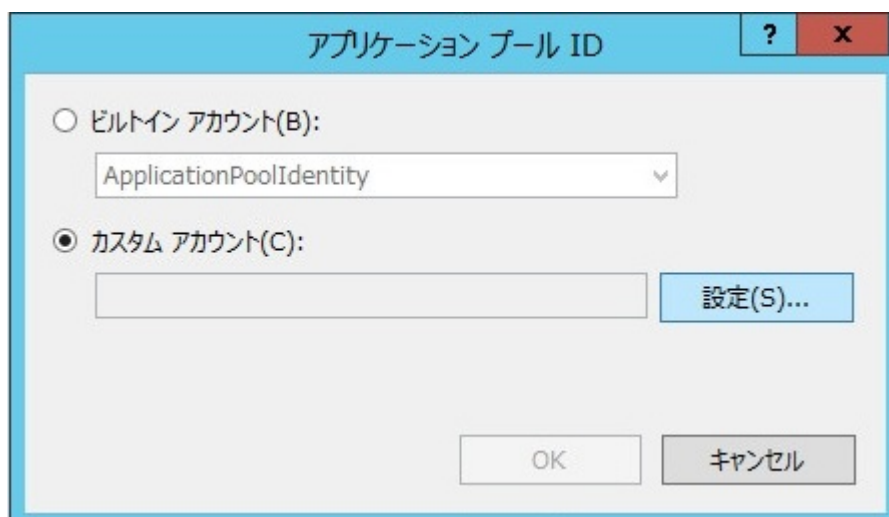
Ericom Analytics で Ericom データベースに接続できない場合は、IIS アプリケーション・プールがデータベースの読み込みが可能なアカウントで設定されていることを確認してください。

以下の手順を実行して、アカウントの確認・設定します

- Global.aspx (C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Analytics) のデータベース接続文字列を確認・設定します。 AdHocSettings.SqlServerConnectionString = @"server=<SQL サーバ>=<データベース名>;Trusted_Connection=SSPI;"
- IIS マネージャを起動し、「アプリケーション プール | EricomConnectBIAppPool」へ移動します。
- 「EricomConnectBIAppPool」を右クリックし、「詳細設定」を選択します。

The screenshot shows the IIS Manager interface for the 'Application Pools' section. The left pane shows a list of application pools, with 'EricomConnectBIAppPool' selected and highlighted with a red box. The right pane displays the 'Advanced Settings' for this pool. The 'Process Model' section is expanded, and the 'ID' property is highlighted with a red box, showing the value 'ApplicationPoolIdentity'. Below this, there is a section for 'ID' with a description: '[identityType, username, password] アプリケーション プールが、Application Pool Identity (推奨)、Network Service、Local System、Local Service などのビルトイン アカウントとして、または特定のユーザー ID として実行されるように構成します。'

- ID の「参照」ボタンをクリックします。
- カスタム アカウントをクリックし、Ericom Connect データベースにアクセスできるユーザの詳細を入力します。



- IIS をリセットします (iisreset.exe)

Windows 7 のセッション・シャドウイング

Windows 7 ホスト上でのセッション・シャドウイングを許可するには、以下の設定が構成されていることを確認します:

- ポート 445 上の 受信 TCP トラフィックを許可するよう、ホストのファイアウォールを設定します
- 以下のレジストリ・キーの値を「1」に設定します:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal  
Server\AllowRemoteRPC
```

MS ユニバーサル/Metro アプリケーションの公開

マイクロソフト・ユニバーサル・アプリケーション (Metro として知られます) は、LINK または EXE ファイルとして公開することができません。ユニバーサル・アプリケーションを公開するには、explorer.exe をアプリケーションとして公開し、AppUserModelId をアプリケーションのパラメータとして入力します。

explorer.exe

```
shell:AppsFolder\Microsoft.WindowsReadingList_8wekyb3d8bbwe!Microsoft.WindowsReadingList
```

AppUserModelId およびそれを Windows でアプリケーション・ショートカットを作成するための詳細な方

法については、インターネットで検索してください。

SQL データベースの資格情報を変更する

Ericom Connect (SQL) データベースに使用されている資格情報を変更するには、以下を実行します:

- すべての Connect グリッド・サービスを停止します
- データベースの資格情報をリセットするには、以下のコマンドを実行します:

```
ConnectCli setDatabaseConnectionRecovery[ /databaseServer server ] [/databaseName name]
[/databaseUser user] [/databasePassword password] [/ServerDatabaseUser serverUser user]
[/ServerDatabasePassword password]
```

databaseServer = SQL サーバのアドレス

databaseName = Ericom Connect データベース名

databaseUser = Ericom Connect をアップロードするアクセス権を持つユーザ。これは、データベースを更新するために ConnectCLI によって使用されます。デフォルトは Windows 認証です。

databasePassword = データベース・ユーザのパスワード

ServerDatabaseUser = システム稼働中にデータベースの読み取りと更新するためのアクセス権を持つユーザ (db_owner がマークされている必要があります)。これは、各 Business Logic Controller マシンの dbconnection.xml ファイルに保存されます。

ServerDatabasePassword = ServerDatabaseUser のパスワード (暗号化され dbconnection に保存されます)。

- このコマンドは、システムが稼働していない時にすべてのグリッド・マシン上で実行する必要があります。別のアプローチは、このコマンドを 1 つのグリッド・マシンで実行した後、更新された DbConnection.xml ファイルを他のすべてのグリッド・システムにコピーすることです。これらの資格情報は、DbConnection.xml ファイルとデータベースの両方に保存されます。

最小パスワード長

Ericom Connect では、パスワードの長さが最低 3 文字必要です。ユーザの Active Directory パスワードが 2 文字である場合、ポータル (e.g. AccessPad) にはログインできますが、アプリケーションを起動する際にエラーが発生します。

空のデータベースの権限を割り当てる

「既存の空のデータベースを使用」設定を使用する際、ユーザが db_owner でない場合、権限の問題が発生する可能性があります。これを解決するには以下の 2 の方法があります:

- データベースの管理ユーザに db_owner の権限を付与します

- Configuration Tool を実行後、Ericom Connect データベース上で以下の SQL コマンドを実行します (「u1」 と実際のデータベース・ユーザ名を置き換えてください)。 「grant execute」 コマンドには、db_owner 権限が必要です。
 - grant execute on GetDatabaseInfo to u1
 - grant execute on GetAllTableSizes to u1

CER 証明書が機能しない

Ericom サービスと Secure Gateway で使用する署名入り証明書は、それに関連付けられた秘密鍵を持つ必要があります。

信頼された証明書は、信頼された証明機関 (GoDaddy など) から購入する必要があります。証明機関により返される「.CER」ファイルには、秘密鍵が含まれていないことが一般的です。「.CER」ファイルは、秘密鍵を持つ「PFX」に変換する必要があります。通常これは、元の CSR を作成したシステム (例: IIS) 上で実行します。「PFX」を作成する際は、新たに入力したパスワードのメモを取り、証明書をエクスポート可能に設定します。

Ericom Secure Gateway では、Windows 証明書ストア (コンピュータ・アカウント) でその証明書が使用されます。

Firefox で Analytics が開かない

Firefox ではデフォルトでブラウザ・ポップアップが無効化されていますが、Ericom Analytics を使用するにはポップアップの表示が必要です。Ericom Analytics を Firefox で使用する場合、ポップアップ・ウィンドウを有効化するか、手動で Ericom Analytics URL を許可リストに追加してください。

SQL 2016 データベースを復元する

SQL 2016 からのデータベース復元が低速な場合、Database Instant File Initialization (<https://docs.microsoft.com/en-us/sql/relational-databases/databases/database-instant-file-initialization>) を有効化し、再度試してください。

■ エンドユーザのトラブルシューティング

MSTSC/RDP を使用したテスト

Ericom クライアントは、新しいセッションを開始するために RDP の可用性に依存しています。RDP にアクセスできない場合、Ericom クライアントを接続することができません。接続の問題を Ericom に報告する前に、mstsc.exe を使用したアクセスがリモート・ホストで使用可能であることを確認してください。

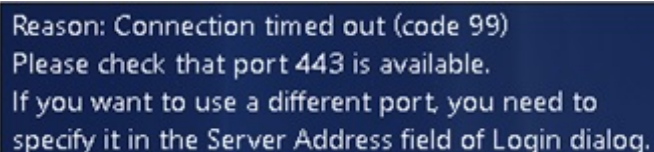
ポート接続の確認

ポートの可用性は、telnet.exe コマンド・ライン・ユーティリティを使用して確認できます。コマンド・プロンプトで、サーバのアドレスを telnet し、確認するポートを指定します (例: telnet.exe server.ericom.com 443)。応答が受信された場合、そのポートは telnet コマンドを実行しているシステムからアクセス可能です。一部のオペレーティング・システムには telnet.exe が含まれていないことに注意してください。

応答が受信されない場合、Ericom Connect 環境がエンドユーザ・デバイスからアクセス可能であることを確認します。一般的な問題は、リクエストされたポートをブロックしているファイアウォールが通信経路に存在していることです。

接続タイムアウト

エラー・メッセージ: Connection timed out (code 99) Please check that port 443 is available. If you want to use a different port, you need to specify it in the Server Address field of the Login dialog.(接続はタイムアウトしました (コード 99) ポート 443 が使用可能であることを確認してください) 別のポートを使用する場合は、ログイン・ダイアログのサーバ・アドレス・フィールドを指定する必要があります)



Reason: Connection timed out (code 99)
Please check that port 443 is available.
If you want to use a different port, you need to specify it in the Server Address field of Login dialog.

考えられる理由: Connect サーバがアクセスできない状態にあります。アドレスとポートの接続を確認してください。

AccessPortal の変更時のブラウザ・キャッシュのクリア

AccessPortal に関連する設定を変更する場合 (例: EUWS ポートまたは ESG ポートの変更)、変更を反映するために、エンドユーザはブラウザ・キャッシュをクリアする必要があります。

IE で 検索テキストを選択できない

Microsoft IE または Edge で AccessPortal を使用する場合、検索フィールドに入力したテキストをマウスでハイライトすることができません。これはブラウザの制約によるものです。



(7.1, 7.3)

Firefox 上の AccessPortal のスクロールが遅い

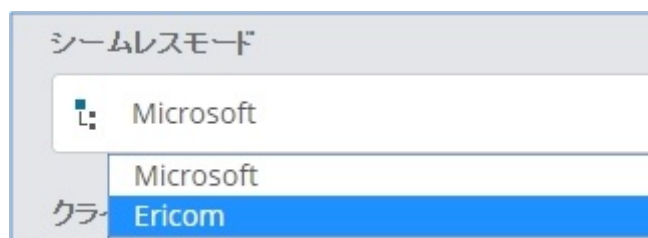
AccessPortal のアプリケーション・リストのスクロールが遅くなるという Firefox の既知の問題があります (<https://github.com/cubiq/iscroll/issues/577>)。Firefox でのこの既知の動作を避けるには、別のブラウザを使用してください。

新規ユーザのログインが切断される

これは、セッション・ホストから起動するシームレス・アプリケーションに影響する既知の問題です。

負荷のかかったセッション・ホストにユーザが誘導された場合、新しいユーザ・プロファイルの作成にかかる時間がアイドル接続時間を超えることがあり、結果としてセッションが切断されます。ユーザが再度シームレス・アプリケーションを起動すると、この時点ではユーザ・プロファイルがセッション・ホストに存在するため、セッションが正常に接続されます。

解決策の 1 つは、「シームレスモード」を「Microsoft」から「Ericom」に変更することです。



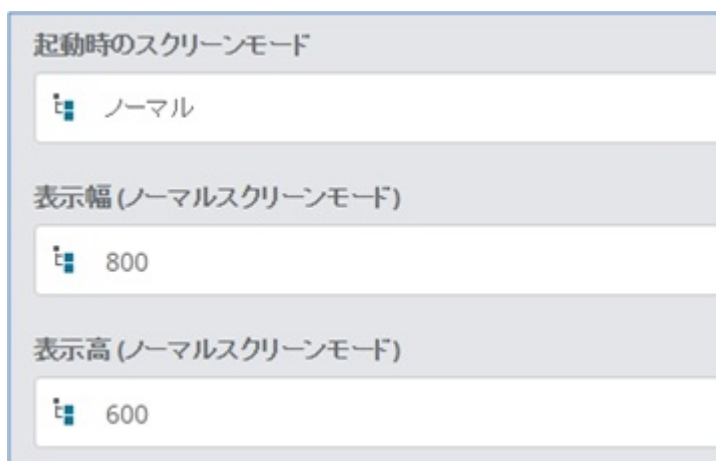
別の解決策は、「ログオフ遅延 (秒)」(「詳細」タブ内)の値を大きくすることです。エージェントにより十分なアクティビティが検出されていないために「自動」ログオフが起動している可能性があります。高い値の結果として、ユーザがセッションを閉じた際、セッションのログオフにより長い時間がかかります (また、同一ユーザーは同じセッションに接続できる可能性があります)。

印刷アドオンでの印刷ができない

一部のサードパーティ製アドオン・ソリューション (Tricerat、Net2Printer など) では、プリンタ・クライアントのビット・レベルを AccessPad のビット・レベルと一致させる必要があります (32 bit の AccessPad では 32 ビットのプリンタ・クライアントを使用する必要があります) Uniprint を使用する際には例外があり、ビット・レベルはクライアントと一致する必要がありません。結果として、AccessPad(32 bit) は、x64 OS 上の Uniprint x64 と共に動作可能です。

AccessNow タブレットの解像度が 800x600 に設定される

AccessNow では、幅 800 ピクセルと高さ 600 ピクセル以下の解像度のデバイスにおいて、800x600 ピクセルの最小解像度が使用されます。これらの値は、Ericom Connect 管理コンソールの「表示幅」と「表示高」のパラメータを設定することで変更できます。この設定を行うには、「起動時のスクリーンモード」が「ノーマル」に設定されている必要があります。



Firefox 44 で音声が出力されない

Firefox バージョン 43 と 44 上の AccessNow では、オーディオ再生は機能しません。バージョン 40 へ戻すか、バージョン 45 へアップグレードすることでこの問題は解決します (2016 年 3 月 1 日時点で、バージョン 45 はベータ版です)。

USB ドライブのリダイレクト

ダイナミック・ドライブ (例:セッション開始後にプラグインされる可能性のあるドライブ) をサポートするようセッションを設定するには、「Ericom Connect 管理コンソール」| 「詳細タブ」| 「リダイレクトするドライブ」に移動し、値「DynamicDrives」を入力します。

iOS 上の AccessNow は 1 つのファイルアップロードのみ

AccessNow の iOS ユーザは一度に 1 つのファイルしかアップロードできません。

■ 認証のトラブルシューティング

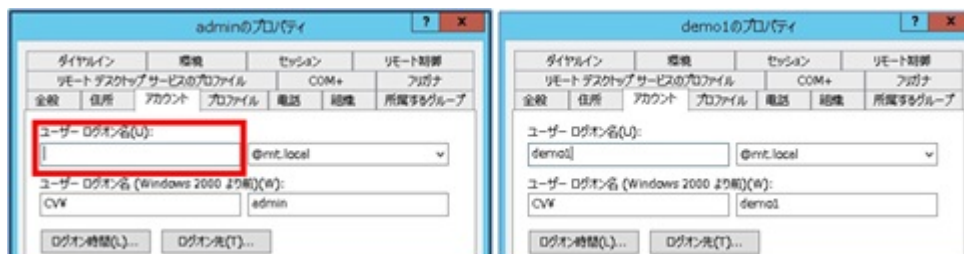
ログイン: ドメインの定義

Ericom Connect にサインインする Active Directory ユーザは、各ユーザ・アカウントの「プロパティ」でドメインが定義されている必要があります。定義されていない場合、サインインに失敗する可能性があります。ドメインを設定するには、Active Directory でユーザの「プロパティ」画面を開き、「アカウント」タブを選択します。「ユーザーログオン名」の隣に希望するドメインを選択します。



ログイン: ユーザ・ログオン名の定義

ユーザが Access コンポーネントの一部にアクセスできない場合、そのユーザ・アカウントの「ユーザー ログオン名」が定義されているかどうかを確認してください。次の例では、「admin」ユーザはログインすることができません。「demo1」ユーザは、アカウント・パラメータが適切に定義されているため、ログインが可能です。



認証サーバのエラー

エラー: Unable to connect to <アドレス> Ericom Authentication Server error (code 16): Invalid credentials. Check your account name and password.

```
Unable to connect to https://connect3dbvm.cloudapp.net:8443
Reason: Ericom Authentication Server error (code 16):
Invalid credentials. Check your account name and password.
```

考えられる理由:

- ユーザ名とパスワードを再度確認します。
- 正しいドメイン名が指定されていることを確認します。

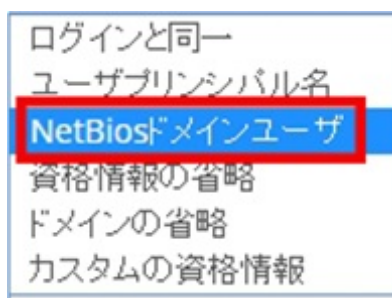
Windows 8/2012 でのログイン・フォーマットの問題

Windows 8.0 と 2012 (R2 以外) では、UPN フォーマットされたユーザ名「user@domain」の動作を妨げる、オペレーティング・システムのバグがあります。NetBIOS 形式「domainuser」はサポートされています。この問題は、8.1(Server 2012 R2) では修正されています。

この既知の問題への対策として、以下の 2 つの方法があります:

- Access クライアントのいずれかを使用して Connect にサインインする場合、「user@domain」形式ではなく、NetBIOS 形式 (domainuser) を使用します。
- Connect 管理コンソールを使用して、システムまたはグループ・レベルの「詳細」タブに移動し、「ログイン名フォーマット」の設定を行います。NetBIOS 形式を使用するには、「NetBios ドメインユー

ザ」を選択します。



SSL ネゴシエーションの失敗

Secure Gateway 経由で AccessNow を使用してアプリケーションまたはデスクトップへの接続を試みた場合、次のエラーが表示される場合があります: 「Gateway:SSL negotiation with host failed. (ゲートウェイ: ホストとの SSL ネゴシエーションに失敗しました)」



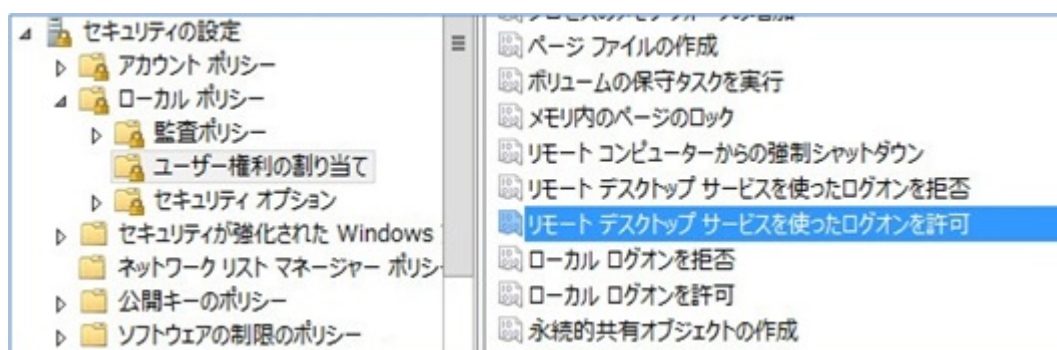
このエラーを解決するには、以下の手順を実行してください。

- AccessServer 管理コンソールを開きます
- 「General」タブで AccessServer サービスを停止します
- 「Security」タブに移動します
- 「Restore Default」ボタンをクリックします
- 「MMC」を開き、「証明書」のスナップインを開きます
- 「ローカルコンピューター」| 「個人」の下で、「Ericom Self Signed Certificate」を見つけ、それを削除します。
- AccessServer サービスを再起動すると、証明書が再作成されます。
- ESG を経由して接続を再試行します

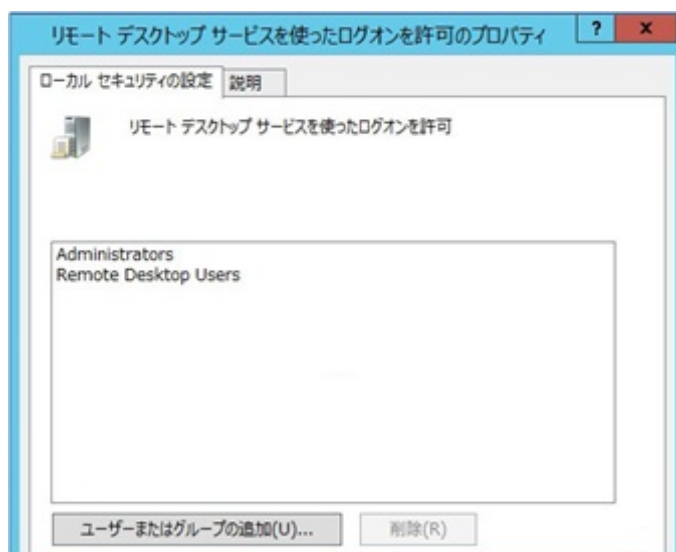
Windows 2012 での RDP アクセス許可の問題

Windows 2012 では、ユーザを Active Directory の「Remote Desktop Users」グループに追加するだけでは、システムへの RDP はユーザに許可されません。ユーザ (またはユーザのグループ) には、ローカル・アクセスも必要とされます。この設定を行うには:

- Windows 2012 サーバで「ローカル セキュリティ ポリシー」コンポーネントを開きます。
- 「ローカル ポリシー」を展開し、「ユーザー権利の割り当て」を選択します。ポリシーの一覧が表示されます。「リモート デスクトップ サービスを使ったログオンを許可」という名前のポリシーを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



- 目的のユーザまたはグループをポリシーに追加します。



■ パラメータ値とエラーコード

パラメータの説明と値

	設定名	説明	デフォルト	値の範囲
管理 Web サーバ	サービスの Keep Alive 間隔 (秒)	グリッドとの Keep Alive の間隔	10	10-3600
	Connect Admin アイドルタイムアウト (秒)	「X 秒でログアウトします」という警告メッセージを表示するまでのアイドル時間	300	10-2678400
	Connect Admin アイドル警告 (秒)	実際に管理者セッションをログオフするまでの「X 秒でログアウトします」という警告メッセージのカウントダウン時間	30	10-2678400
EUWS	エンドユーザポータルセッションの Keep Alive 間隔 (秒)	エンドユーザのポータル・セッションとグリッドの Keep Alive	300	10-3600
	サービスの Keep Alive 間隔 (秒)	エンドユーザの Web サーバとグリッドの Keep Alive の間隔	10	10-3600
ESG	サービスポイント当たりの最大接続数	ESG とサービス・ポイント (サービス・ポイント = EUWS アドレス + ポート) の間で開くことのできる最大同時 HTTP セッション数	32	2-最大
	リクエスト当たりの最大サービスポイント試行数	HTTP リクエストごとの、エラーを返すまでにリトライする EUWS の最大数	3	1-最大
	サービスの Keep Alive 間隔 (秒)	ESG サーバとグリッドの Keep Alive の間隔	10	10-3600
	新しい接続のタイムアウト (秒)	新しい RDP セッション用の認証トークンの有効期限	60	2-最大
	再接続タイムアウト (秒)	RDP セッション再接続用の認証トークンの有効期限	60	2-最大
	リダイレクトタイムアウト (秒)	RDP セッション・リダイレクト用の認証トークンの有効期限	60	2-最大
RemoteAgent	サンプリングレート	CUP とメモリ消費量	1	1-最大

エラーコードの定義

ログイン・エラー・メッセージ	考えられる理由
ログインに失敗しました - 資格情報が無効です (Login Failed - Invalid Credentials)	ユーザ名および/またはパスワードが間違っています
ログインに失敗しました - ロックされています (Login Failed - Locked out)	そのユーザ・アカウントはロックされています。継続するには、アカウントのロックを解除します
ログインに失敗しました - Radius パスワードが拒否されました (Login Failed - Radius Password Rejected)	RADIUS 認証に入力した値が拒否されました。
ログインに失敗しました - Radius のアクセスが拒否されました (Login Failed - Radius Access Rejected)	RADIUS 認証へのアクセスが拒否されました。ユーザが登録されていることを確認してください。
ログインに失敗しました - ライセンスを取得することができません (Login Failed - Unable to obtain a license)	サーバ上のライセンス・エラーのためにログインが失敗しました。ライセンスが有効であることを確認してください。
ログインに失敗しました - 認証が拒否されました (Login Failed - Authentication Rejected)	一般的な認証エラーが発生しました。このエラーの例としては、ユーザのパスワードの有効期限が切れているにもかかわらず、パスワードの変更がユーザに許可されていない場合に発生します。詳細については、「ユーザ 失敗したログイン (Users

パスワードの通知	理由
パスワードの有効期限が切れています (Your password has expired)	パスワードの有効期限が切れているため、変更する必要があります。
ログインする前にパスワードを変更する必要があります (You must change your password before logging in)	このアカウントは、ログインの前にパスワードを変更する必要があります。
2つのパスワードが一致しません (The two passwords do not match)	パスワードを変更する際に、2つのパスワードが一致していません
古いパスワードが間違っています (The old password is not correct)	パスワードを変更する際に、入力した古いパスワードが間違っています
The password does not meet the password policy requirements. Check the minimum password length, password complexity and password history requirements (パスワードはパスワード・ポリシーの要件を満たしていません。パスワードの最短の長さ、パスワードの複雑性、およびパスワード履歴の要件を確認してください)	入力した新しいパスワードは、パスワードの要件を満たしていません。パスワードについては、システム管理者に相談してください。

8.2 IVEX ダブルブラウザ Linux 管理者ガイド

8.2.1 製品概要とオプション

製品概要

IVEX ダブルブラウザ Linux とは、通常利用しているブラウザの他に、追加（ダブル）で、インターネットにアクセスする専用のブラウザを Linux で提供するソリューションです。画面転送で利用することが可能なため、DMZ の外など基幹ネットワークと切り離して設置いただく事で万一のウイルス感染などの際に基幹業務への影響を避けることができます。

詳しくは [ソリューション概要](#) (ページ 7) を合わせてご確認ください。

オプション機能

【ファイル共有オプション】

Linux 仮想ブラウザを通じて取得したダウンロードファイルや Web メール の添付ファイルを、ユーザの Windows 端末に取り込めます。内部ネットワークとのファイル共有用に新たにサーバを準備する必要がなく、手軽にファイル授受が可能になります。



注意:

ファイル転送には WebDAV を使用します。ファイル転送実施前にダブルブラウザ Linux 側でウイルスチェック (ClamAV を使用) が行われますが、未知のマルウェアを含めて対策したい場合は、ファイル無害化製品をご検討ください。

【ログオプション】

Advanced 版と Enterprise 版がございます。

< Advanced 版 >

ログオプションは IVEX ダブルブラウザ Linux でアクセスしたブラウザのアクセスログを取得し、CSV ファイルとして保存する機能を有します。他社正の統合ログ管理製品などへ取り込みご利用ください。

< Enterprise 版 >

Advanced 版と同様に生成されたアクセスログデータを別途用意する専用データベースに取り込みます。専用データベースではログの検索、集計やレポートなどが可能となります。弊社 Windows 環境のログ取得製品との連携が可能となります。Windows の操作ログ取得製品 [IVEX Logger シリーズ] と連携が可能で取得したログは Windows 環境と一元管理することが可能です。

8.2.2 導入ガイド



お願い:

導入当たっては、下記ドキュメントを合わせてご参照ください。

- [/設計時の注意点/ - \[Linux 版\]](#) (ページ 10)
- [/構築時の注意点/ - \[Linux 版\]](#) (ページ 12)
- [/運用時の注意点/ - \[Linux 版\]](#) (ページ 15)

構成について

ダブルブラウザ Linux ではユーザプロファイルなどの情報をローカルサーバ内に持つ『通常構成』と、NFS を利用し外部に持つ『NFS 構成』を選択することが可能となります。また、配信するブラウザは FireFox を基本として、Chrome を利用することが可能です。FireFox を配信するサーバと Chrome を配信するサーバを用意することで 2 種類のブラウザを配信する構成をとることも可能となります。

動作環境



警告:

IVEX ダブルブラウザ Linux サーバのリソース要件は、1 セッションが静的コンテンツを 1 ページ表示する場合、100 セッションの収容に必要と思われる **参考値** です。動画の再生などを行ったり、複数のタブを同時に開くと消費リソースは増大します。サイジングにおいては必ず実際の利用の要件を鑑みた条件での PoC を実施するようにお願いいたします。

IVEX ダブルブラウザ Linux サーバ	<p>OS*1</p> <ul style="list-style-type: none"> CentOS 7.2 (64bit) CentOS 7.3 (64bit) CentOS 7.4 (64bit) RedHat Enterplise Linux 7.3*2 RedHat Enterplise Linux 7.4 <p>CPU 20 Core 以上*3</p> <p>メモリ 64 GB 以上</p> <p>HDD 100 GB 以上</p> <p>パッケージ</p> <ul style="list-style-type: none"> firewalld*4 psmisc xfspgms (4.5.0 以上) nfs-utils*5 libvirt-daemon-kvm,virt-install*6
------------------------	--



上記参考値は、OS にて Spectre/Meltdown に対応した修正を適用した場合の、CPU 性能劣化を考慮した値となっています。

参考:



製品の出荷時テストは 2018 年 2 月 27 日時点で長期メンテナンス版である 4.4 系で実施しています。

CentOS7.2/7.3 でカーネルのバージョンが古い (4.4 より前) の場合には、KVM(仮想環境) に導入されます。

参考:

Kernel-lt によるカーネルアップデートを推奨いたします。

サポート対象 OS・EOS について

サポート対象 OS

動作環境 (ページ 546) に記載のある OS のみとなります。記載のない OS は未対応または、EOS となります。

*1 CentOS7.2/7.3 では Linux カーネル 4.4 が必須です。RHEL7.3 はカーネルが 3.10 のため、KVM 構成での導入となります。

*2 RHEL7.3 は物理サーバへの導入のみサポート対象です。[ref] (ページ 10)

*3 必要リソースは表示コンテンツなどにより大幅に変動します。[ref] (ページ 10)

*4 インストール時に必須です。利用を推奨しますが、インストール後に停止しても動作は可能です。

*5 NFS 利用時、及び、ログオプション (Enterprise 版) 利用時に必要です。

*6 KVM 構成の場合のみ必要です。



参考:

EOS (End of Support) OS メーカーによる正規サポート終了と共に、OS 起因となる障害サポートは終了といたします。製品起因の障害のサポートは以降 1 年間を持って EOS といたします。尚、本 EOS についてはベース OS 及びダブルブラウザ Linux で利用している Ubuntu(14.04LTS) において同様となります。

■ 事前作業

ホスト名の設定 (全環境)

1. ホスト名を確認します。

```
$ hostname
```



警告:

ベースとなる Linux サーバのホスト名は FQDN ではなく、コンピュータ名のみで設定をしてください。

変更が必要な場合、下記コマンドで変更可能です。

2. ホスト名を設定します。

※ 例として SERVERNAME と設定します。

```
$ sudo nmcli general hostname SERVERNAME
```

DNS の設定 (全環境 : Ericom Connect を利用する場合)

1. DNS の設定を確認します。

```
$ cat /etc/resolv.conf
```

**Tips:**

ベースとなる Linux サーバが参加する AD を DNS サーバとして指定してください。
変更が必要な場合、下記コマンドで変更可能です。

2. DNS サーバの指定を変更します。
※ 例として 192.168.0.*** と設定します。

```
$ sudo nmcli c m $(nmcli c s | grep -v UUID | cut -d' ' -f1) ipv4.dns 192.168.0.***  
$ sudo systemctl restart NetworkManager
```

3. DNS の設定を再確認します。

```
$ cat /etc/resolv.conf
```

xfsprogs アップデート (全環境)

1. xfsprogs のバージョンを確認します。

```
$ xfs_info -V
```



バージョンが 4.5.0 以上の場合は下記の更新手順は必要ありません。

参考:

2. xfsprogs の更新を行います。

```
$ sudo yum install xfsprogs
```



PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。

参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ sudo -E yum install xfsprogs
```

psmisc のインストール (全環境)

1. psmisc がインストール済みかを確認します。

```
$ rpm -qa | grep psmisc
```



psmisc がインストール済みの場合は下記の導入手順は必要ありません。

参考:

2. psmisc の導入を行います。

```
$ sudo yum install psmisc
```

PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
$ sudo -E yum install psmisc
```

カーネルアップデート (CentOS 7.2/7.3)



注意:

ConetOS/RHEL 7.4 の場合や RHEL7.3 で KVM 構成を取る場合は、下記手順は必要ありません。

1. カーネルのバージョンを確認します。

```
$ uname -r
```



参考:

バージョンが 4.4 の場合は下記の更新手順は必要ありません。

2. カーネルパッケージのインストールを行います。

```
$ sudo rpm --import https://www.elrepo.org/RPM-GPG-KEY-elrepo.org
$ sudo rpm -Uvh http://www.elrepo.org/elrepo-release-7.0-2.el7.elrepo.noarch.rpm
$ sudo yum install --enablerepo=elrepo-kernel kernel-lt
$ sudo cp -p /etc/yum.repos.d/elrepo.repo /etc/yum.repos.d/elrepo.repo.org
$ sudo sed -i -e "s/enabled=1/enabled=0/g" /etc/yum.repos.d/elrepo.repo
```

PROXY 配下の環境で実行する場合、下記のように実行してください。

192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

認証が不要な PROXY の場合「user:password@」の部分は不要です。



参考:

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/
$ sudo -E rpm --import https://www.elrepo.org/RPM-GPG-KEY-elrepo.org
$ sudo -E rpm -Uvh http://www.elrepo.org/elrepo-release-7.0-2.el7.
↳elrepo.noarch.rpm
$ sudo -E yum install --enablerepo=elrepo-kernel kernel-lt
$ sudo cp -p /etc/yum.repos.d/elrepo.repo /etc/yum.repos.d/elrepo.
↳repo.org
$ sudo sed -i -e "s/enabled=1/enabled=0/g" /etc/yum.repos.d/elrepo.
↳repo
```

オフラインで作業する場合には、下記のようにパッケージをダウンロードし、インストールしてください。



Tips:

入手先例: http://www.ftp.ne.jp/Linux/RPMS/elrepo/kernel/el7/x86_64/RPMS/
 パッケージ例: kernel-`lt-4.4.1-1.el7.elrepo.x86_64.rpm`

```
$ sudo rpm -ivh kernel-lt-4.4.1-1.el7.elrepo.x86_64.rpm
```

3. 起動カーネルの一覧を確認します。

※最初の行が 0 行目です。

カーネルバージョンが最新のものの行をご確認ください。

```
$ sudo awk -F\ ' '$1=="menuentry " {print $2}' /etc/grub2.cfg
```

4. 起動したいカーネルの行番号を指定します。

※最初の行 (0 行目) を指定する場合の例

```
$ sudo grub2-set-default 0
```

5. 起動ファイルに反映し再起動して下さい。

※最初の行 (0 行目) を指定する場合の例

```
$ sudo grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg  
$ sudo shutdown -r now
```

起動するカーネルの選択・設定

起動するカーネルを選択設定します。1 行目を実行すると、起動対象のリストが表示されます。リストの最初を選択する場合には、grub2-set-default で 0 を指定してください。リストの 2 番目を選択する場合には、1 を指定してください。

```
$ sudo awk -F\ ' '$1=="menuentry " {print $2}' /etc/grub2.cfg  
$ sudo grub2-set-default 0  
$ sudo grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

■ インストール

通常のインストール



注意:

NFS を利用する場合は本項は実施せず「[NFS 利用時のインストール \(ページ 554\)](#)」を実施してください。

インストーラの配置

インストーラを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。インストーラは下記のようなファイル名になっています。

```
IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2.2.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

インストーラの展開

インストーラは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

インストーラの実行

展開されたインストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer
```

以上でインストールは完了です。

AD への参加や EricomConnect への参加、プロファイル共有などを行いたい場合は「オペレーションガイド (ページ 556)」を参照ください。

NFS 利用時のインストール



注意:

NFS を利用しない場合は本項の実施は必要ございません。

NFS 環境は別途ご用意が必要となります。

インストーラの配置

インストーラを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。インストーラは下記のようなファイル名になっています。

```
IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

2.2.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

インストーラの展開

インストーラは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.tar.gz
```

インストーラの実行

展開されたインストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Linux-2.2.0.installer install-with-nfs
```

以上でインストールは完了です。

< NFS 利用時の設定注意事項 >

- NFS 環境は別途ご用意ください。
- NFS 環境は v4 は利用できません、v3 で用意してください。
- ベース OS での NFS の設定は、インストール後で結構です。
- インストール前にはまだマウントポイントがありません。
- /var/opt/IVEX/WBrowser/home/ にマウントしてください。
- NFS のマウントは、ベース OS 側で設定ください。



注意:

```
/etc/fstab 設定例：(インストール時にも下記表示されます)
※/etc/fstab ファイルを vi などのテキストエディタを利用し追記を行ってください。
=====
192.168.0.100:/exports /var/opt/IVEX/WBrowser/home/ nfs nfsvers=3,rw,sync,
↪hard,intr 0 0
=====
```

- NFS の v4 では利用できません。v3 をご利用ください (マウント時に nfsvers=3 指定等)。
- 正常に設定ができているか NFS 設定先の共有フォルダに『template』ディレクトリが作成されていることを確認ください。

以上でインストールは完了です。

AD への参加や EricomConnect への参加、プロファイル共有などを行いたい場合は「[オペレーションガイド \(ページ 556\)](#)」を参照ください。

アンインストール



注意:

- NFS 環境でアンインストールを行う際は必ず、作業前に NFS 環境のアンマウントを行ってから実行してください。アンマウントを行わない場合、利用者のプロフィール情報が削除されてしまいます。
- Ericom 環境をご利用の場合はダブルブラウザのアンインストール前に Ericom Connect 環境からの分離を行ってください。手順は、「[Ericom Connect サーバとの切断 \(ページ 561\)](#)」をご参照ください。
- プロファイル共有にてご利用いただいている場合は、プロフィールを共有するサーバからの分離を行ってください。手順は「[プロフィールを共有するサーバの分離 \(ページ 560\)](#)」をご参照ください。

下記コマンドでアンインストールできます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser uninstall
```



参考:

ダブルブラウザのアンインストール時はアンインストール後にサーバの再起動を行ってください。

8.2.3 オペレーションガイド

サービスの起動停止

サービスの起動

下記コマンドでサービスを起動できます。

※インストール直後は自動起動の設定となっており、実施の必要はありません。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
```

その時点で許可されている通信の情報が表示されます。

※上記実行により、サーバ起動時の自動起動の設定が有効化されます。

サービスの停止

下記コマンドでサービスを停止できます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```

リモートデスクトップ用の通信を停止し、その時点で許可されている通信の情報が表示されます。

※上記実行により、サーバ起動時の自動起動は無効化されます。



注意:

停止した状態でサーバ再起動を行った場合、サービスは自動起動いたしませんのでご注意ください。



Tips:

サービス停止でエラーがあった場合のエラーカウントのリセットサービス停止時にエラーが発生した場合、リセットを行わないと正常に停止できなくなる場合がございます。その場合は下記コマンドにてエラーカウントのリセットを行ってください。リセット後、再度サービス停止を行ってください。

```
$ sudo systemctl reset-failed WBrowser
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
```



注意:

ファイル共有オプションをご利用の場合、別途ファイル共有オプションのサービス起動が必要となります。

システム領域のバックアップ



注意:

システム領域のバックアップは、サービス停止【前】に実施してください。

事前準備 (バックアップツールのインストール)

ベース OS で xfsdump パッケージを追加してください。

```
$ sudo yum install -y xfsdump
```

proxy が必要な環境では、ベース OS の運用にあわせて、下記のような環境変数の設定等とあわせて実施ください。

```
$ export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
$ export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/
$ sudo -E yum install -y xfsdump
```

バックアップの実施

下記コマンドでバックアップを実施できます。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root /usr/local/bin/wbrowser-stop $ sudo xfsdump -l0 -L0 -
↳MO -f /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.dump /var/opt/IVEX/WBrowser/cow
```

「Dump Status: SUCCESS」 と表示されたかご確認ください。



参考:

「Dump Status: INTERRUPT」 と表示された場合には、以前のバックアップファイルが残っているかもしれません。移動等してください。

```
$ sudo mv /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.dump /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.dump-
↳OLD
```

バックアップが完了しましたら、通常の WBrowser stop を実施いただけます。

■ サービスが開始できない場合の対処

「ワーク領域をマウントできません」のメッセージで停止した場合



注意:

事前にバックアップが必要です。

事前に取得したバックアップから、下記手順にてワーク領域をリストアしてください。

```
$ sudo mkfs.xfs -f -m crc=1 /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.img
$ sudo mount /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.img /mnt
$ ( cd /mnt; sudo xfsrestore -f /var/opt/IVEX/WBrowser/cow.dump . )
$ sudo umount /mnt
```



注意:

xfsrestore 実行時のコマンドは、cow.dump の後に空白とピリオドがあります。ご注意ください。

リストアが完了しましたら、念の為、再度 WBrowser stop してから WBrowser start してください。

■ サービスの初期化

初期化手順

下記コマンドでインストール時の状態に戻すことができます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser initialize
```

**警告:**

NFS 環境で初期化を行う際は必ず、作業前に NFS 環境のアンマウントを行ってから実行してください。アンマウントを行わない場合、利用者のプロフィール情報が削除されてしまいます。

AD への参加

下記コマンドで AD へ参加する事ができます。AD に参加すると、ユーザーの管理を AD で行えます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ad-adddomain user@domain.local [force]
```

上記例の場合には、domain.local のドメインで権限のある user で参加の手続きを行います。

**Tips:**

AD への参加失敗が発生した後、再参加を行おうとした際に既に参加済みとして再参加ができな場合がございます。その場合は [force] オプションを指定いただく事で初期化を行い再参加が可能となります。

プロフィールを共有するサーバの追加

複数のサーバを利用する場合には、サーバ間でユーザのプロフィールを共有できます。

**参考:**

NFS 利用をされている場合、本項は不要となります。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo [既存のサーバの IP]
```

上記コマンド実行後、既存サーバで sudo の実行ができるアカウントを入力してください。サーバが複数ある場合、どのサーバを指定しても結構です。正常に追加ができない場合、サービスが起動できていないことが考えられます。その場合はサービスの起動を行ってください。

**注意:**

jointo コマンドは 1 度もサーバ群に追加されていないサーバで実行してください。

同期済みサーバの確認

プロフィールを共有するサーバの追加状態の確認を行うには以下コマンドにて確認ができます。実行すると同期済みのサーバを一覧で確認することができます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo-info
```

■ プロファイルを共有するサーバの分離

プロファイルを共有したサーバを分離したい場合は以下コマンドにて分離することが可能です。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser detach-server [既存のサーバの IP]
```



Tips:

プロファイル共有からの分離 (detach-server) を行った後の再参加の場合 [force] オプションの指定が必要になります。

■ 分離を行ったサーバの再追加

プロファイル分離した後に再度追加を行いたい場合、以前の共有設定を初期化する必要があります。その場合、jointo コマンドに [force] を追加することで以前の共有設定を初期化して再追加を行うことが可能となります。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo [既存のサーバの IP] force
```

■ /home 下の設定ファイル、template、administartor の同期

設定ファイル (パラメータ: WBrowser.conf 設定項目) や初期ユーザの template、administrator を同期するには下記コマンドの実行が必要になります。パラメータの設定変更時はコマンドの実行を行わないとプロファイル共有をしたサーバ間での同期が行われないのでご注意ください。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser synchro-conf
```



Tips:

GUI を利用しての template-user による Firefox の設定変更は自動的にプロファイルを共有したサーバ間での同期が行われます。

■ ワーク領域の拡張

IVEX ダブルブラウザ Linux の実行環境 (/var/opt/IVEX/WBrowser/root) に対する変更差分を保持するワーク領域のサイズを拡張します。初期値は 10GB です。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser work-expand [GB 単位の数値]
```

■ ユーザ分離領域の拡張

IVEX ダブルブラウザ Linux のユーザ毎の個別環境を一時的に保持する分離環境領域のサイズを拡張します。初期値は 10GB です。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser renew-user-tmp-area [GB 単位の数値]
```

Ericom Connect Remote Agent の設定

Ericom Connect Remote Agent のサービスは自動で起動します。サーバとの接続を設定して頂ければ、都度開始する必要はありません。

Ericom Connect サーバとの接続

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-connect [Connect サーバの IP]
```

Ericom Connect サーバとの切断

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-disconnect
```

Will this system be reconnected to the same Tenant in the future? (y/n)

という表示がされますが、それぞれ下記のような動作となります。



参考:

y : 切断したサーバを後ほど同じ Connect サーバに接続する場合。(Connect 上では「一時的に切断」となる)

n : 切断したサーバは Connect サーバから永久に削除する場合。(Connect 上では「永久に切断」となる)

n とした場合も、同じ Connect サーバに接続することは可能ですが、同名の別サーバとして認識されます。

Ericom Remote Agent サービスの開始

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-start
```

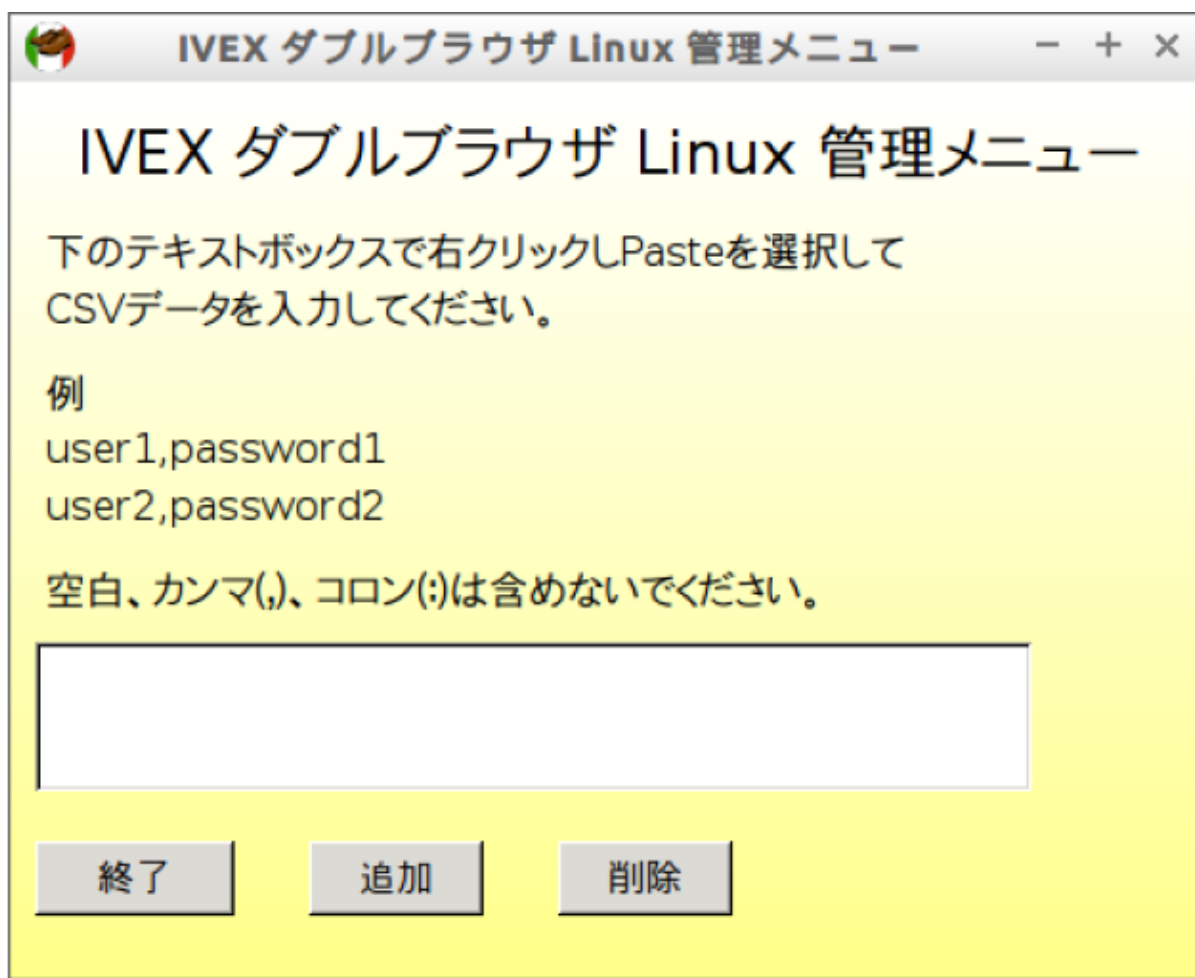
Ericom Remote Agent サービスの停止

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-stop
```

ローカルユーザーの追加・削除

AD を利用しない場合には、個々のサーバでローカルのアカウントを準備してご利用いただけます。リモートでログイン時に administrator アカウントを指定する事で管理メニューをご利用いただけます。

現時点 (2017/11/17) では、下図のようなユーザーの追加・削除ツールが起動しご利用いただけます。



IVEX ダブルブラウザ Linux 管理メニュー

IVEX ダブルブラウザ Linux 管理メニュー

下のテキストボックスで右クリックしPasteを選択して
CSVデータを入力してください。

例
user1,password1
user2,password2

空白、カンマ(,), コロン(:)は含めないでください。

終了 追加 削除

- アカウントとパスワードをカンマ (,) で区切ったデータをご準備いただき、フォームに貼り付けてご利用ください。
- 削除時には、パスワードは認識しません。追加直後にもそのまま削除できます。



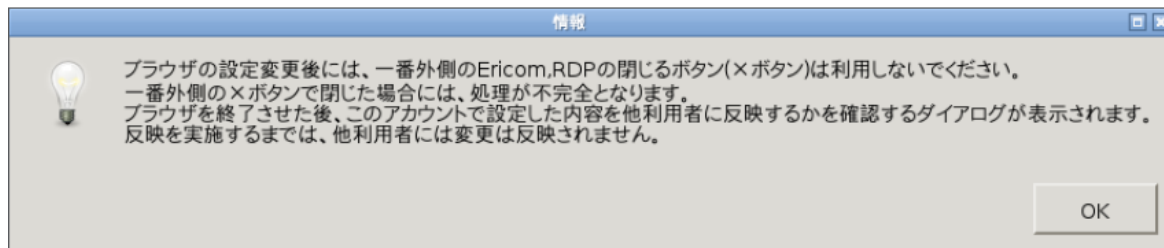
注意:

※ アカウント、パスワードには、空白、カンマ (,), コロン (:) はご利用いただけません。

■ Firefox の設定変更

リモートでログイン時に template-user アカウントを指定する事でシステム共通の Firefox の設定を変更いただけます。

1. template-user 起動時は下図のダイアログが表示されます。OK ボタンを押下すると Firefox が起動します。



2. FireFox の任意の設定変更を行ってください。

設定変更を行っても他利用者への影響はありません。

ブラウザ終了後に反映確認ダイアログで「はい」を選択した後、他利用者へ反映されます。



ブラウザを閉じる際は下図赤枠の「×」で閉じてください。

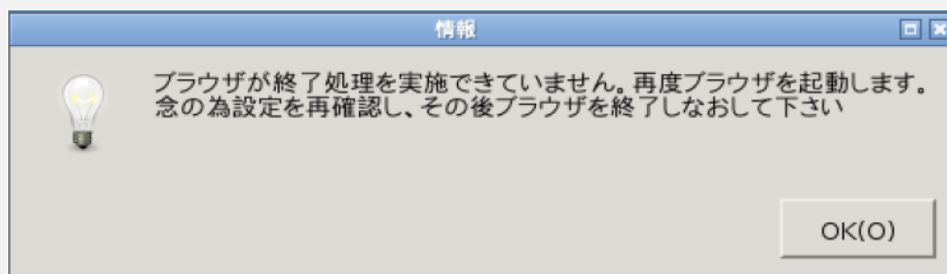
その他の閉じ方をした場合でも設定は保持されますがキャッシュが残る場合があります。

Firefox が終了処理を出来なかった場合、下図ダイアログが表示されます。

下記ダイアログが表示されなくなるまで繰り返してください。



注意:



3. Firefox を終了すると、下図のダイアログが表示されます。

「いいえ」を押下すると template へ反映されません。

※「いいえ」押下時も template-user の設定は保持されます。

「はい」を押下すると template へ反映されます。



参考:

保存先 : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/

プロファイル (保存フォルダ) 名例 : template-2017-01-01-1200

**警告:**

- 元のプロファイルは変更ごとに保持され増えるため、不要になったプロファイルは削除が必要となります。必ず全てのユーザが利用していないことを確認の上削除を行ってください。ユーザが利用中のプロファイルを削除した場合、予期せぬエラーが発生することがあります。
- template-user を利用した変更を行った場合、(4) 記載の反映を行わないと正常に反映されません。template-user を閉じる際は Blaze や RDP の「×」ボタンで閉じると反映のためのダイアログが表示されず、反映させることができません。
- template-user を利用中に WBrowser サービスの停止は行わないで下さい。変更した設定の反映ができないか、終了処理中に反映を行おうとすると予期せぬエラーが発生する可能性があります。template-user を終了してからサービス停止を行うようご注意ください。

4. template-user アカウントで FireFox の設定を変更すると、その変更は保持され、それ以降に追加されるユーザーに適用されます。

**参考:**

AD 未参加利用時の初期パスワードは「1234」です。
AD 参加利用時は AD 上の template-user ユーザのパスワードを利用してください。

**警告:**

template-user アカウントでログインした際、画面下に「お久しぶりです」の表示が出ることがございますが、その際にリフレッシュは行わない様ご注意ください。

■ FireFox のアップデート

FireFox のアップデートは ESR 版を利用している為、下記のようにしてアップデートを行ってください。アップデートは「template-user」にて FireFox の「ヘルプ」 - 「Mozilla FireFox について」から更新を行ってください。

**注意:**

更新時は template-user に更新のための権限を与える必要があります。
下記手順にて template-user に FireFox の権限を付与してください。
また、更新完了後は root に権限を戻していただき、不要な更新がかからないようご注意ください。

template-user に権限を与える

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/ chown template-user -R /opt/firefox
```

root に戻す

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/ chown root -R /opt/firefox
```

Flash プラグインのインストール

Flash のプラグインは下記のようにしてインストールできます。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/  
# export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
# export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
# apt-get update  
# apt-get install --no-install-recommends flashplugin-installer
```



PROXY を利用していない場合には export で始まる 2 行は不要です。
192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

参考:

Flash プラグインのアップデート

Flash プラグインのアップデートは [インストール](#) (ページ 566) と同手順にて実施ください。

JAVA プラグインのインストール

Java のプラグインは下記のようにしてインストールできます。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/  
# export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/  
# export https_proxy=https://user:password@192.168.0.10:8080/  
# apt-get update  
# apt-get install --no-install-recommends icedtea-7-plugin
```



PROXY を利用していない場合には export で始まる 2 行は不要です。
192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

参考:

JAVA プラグインのアップデート

Java プラグインのアップデートは [インストール](#) (ページ 566) と同手順にて実施ください。

Google Chrome の追加方法

ダブルブラウザ Linux の標準ブラウザは Firefox となります、Chrome を利用したい場合は以下手順で Chrome をインストールすることで『Chrome 専用サーバ』に切り替えることができます。



注意:

Firefox と Chrome は同一サーバ上で共存しての利用はできません。どちらかの専用サーバとなりますのでご注意ください。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root
# export http_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
# export https_proxy=http://user:password@192.168.0.10:8080/
# wget https://dl.google.com/linux/direct/google-chrome-stable_current_amd64.deb
# gdebi google-chrome-stable_current_amd64.deb
```



参考:

PROXY を利用していない場合には export で始まる 2 行は不要です。
192.168.0.10:8080 の部分は PROXY の設定にあわせてください。

利用ブラウザの変更方法

Chrome を追加されている場合、Firefox・Chrome を選択できます。変更は下記コマンドで行えます。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/ update-alternatives --config x-www-browser
```

コマンドを実行すると、下記のような選択表示となります。

Firefox を利用する場合には「1」を、Chrome を利用する場合には「2」を指定してください。

alternative x-www-browser (/usr/bin/x-www-browser を提供) には 2 個の選択肢があります。

現在の選択 [*] を保持するには Enter、さもなければ選択肢の番号のキーを押してください

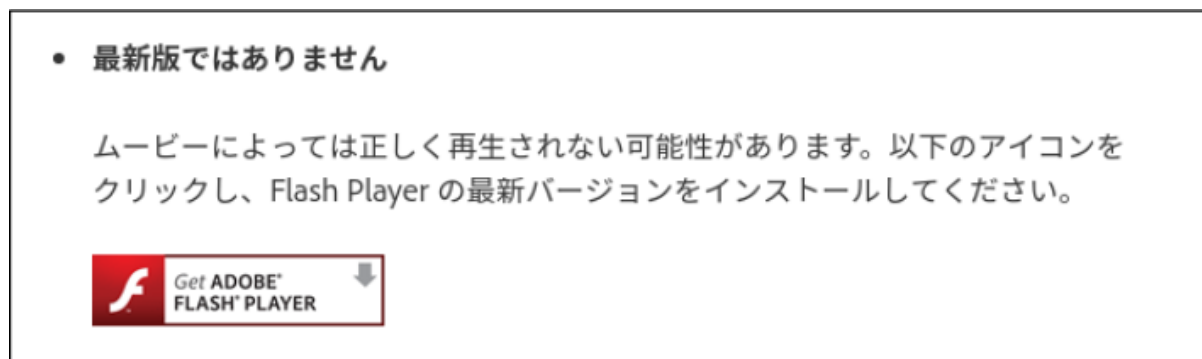
選択肢	パス	優先度	状態
0	/usr/bin/google-chrome-stable	200	自動モード
* 1	/usr/bin/firefox	40	手動モード
2	/usr/bin/google-chrome-stable	200	手動モード

Chrome で Flash Player を使用する

Chrome で Flash Player を使用する場合は、template-user でログインし下記サイトの確認を行ってください。

<https://helpx.adobe.com/jp/flash-player/kb/235703.html>

下図の文言とアイコンが表示された場合は、アイコンを押下してください。



上図アイコンを押下後、下図のダイアログが表示されますので、「許可」ボタンを押下してください。



8.2.4 ログオプション

Advanced エディション

ブラウザの利用履歴を CSV 保存する『ログオプション (AdvancedEdition)』用の手順となります。検索閲覧やレポート出力が可能な『ログオプション (EnterpriseEdition)』を利用する場合は別途追加の手順がございます。



警告:

ログオプションを利用する場合、生成ログファイルの保存先となる領域の拡張を行ってください。詳細の拡張方法は「[ログの保存場所の拡張方法 \(ページ 569\)](#)」をご確認ください。

動作環境 (ログオプション Ver.1.1.0)

下記 IVEX ダブルブラウザ Linux が動作している環境。

IVEX ダブルブラウザ Linux バージョン 2.0 以降

インストール

インストーラの配置

インストーラを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。インストーラは下記のようなファイル名になっています。

```
IVEX-WBrowser-Log-Option-1.1.0.installer.tar.gz
```

1.1.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

インストーラの展開

インストーラは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-Log-Option-1.1.0.installer.tar.gz
```

インストーラの実行

展開されたインストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Log-Option-1.1.0.installer
```

以上でインストールは完了です。

ログの保存場所

ログは次の場所に保存されます。

- 保存場所： /var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/log/WBrowser-USERS/



注意:

ログデータの自動削除は行われません、保存領域の拡張やログの定期待避、ローテート設定などを検討ください。尚、Enterprise 版を利用の場合は専用 DB への取り込み時に保存場所からは削除されます。

ログの保存場所の拡張方法

ログ保管場所の拡張は下記コマンドで拡張できます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser work-expand [GB 単位の数値]
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
```

ログのファイル名

ログのファイル名は次の規則で作成されます。

- ログファイル名規則：ユーザー名.年月日 (YYYYMMDD).log

- ログファイル名の例：wbuser.20160712.log

ログの内容

ログへ出力される内容

日時、利用サーバー名・ドメイン、ユーザー名、アクセスした URL と SSL 通信の有無等が、カンマ区切りで出力されます。

ログのサンプル

空欄は未使用です。本オプションではウェブ操作のみが出力されます。それぞれのカラムの詳細は「[ログオプション 出力形式詳細情報 \(ページ 655\)](#)」をご参照ください。

```
"", "2016-07-12 16:44:05.906", "test8.test.local", "user1", "ウェブ", "Firefox", "", "", "", "", "", "", "",
↪ "", "", "", "", "https://www.know-net.co.jp/"
"", "2016-07-12 16:44:33.236", "test8.test.local", "user1", "ウェブ", "Firefox", "", "", "", "", "", "", "",
↪ "", "", "", "", "http://www.ivex.jp/"
```



参考:

ログファイルは sjis で出力されているため、Linux サーバ上で表示すると「ウェブ」の文字が化けています。これは Enterprise 版において、IVEX Logger との連携のための仕様です。

ログオプションの有効化・無効化

ログオプションの有効化・無効化を設定できます。

```
- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：url-log:
- デフォルト値：on
  ※デフォルトでは有効となっています。無効にする場合 off にします。
```

バージョン確認

ログオプションのバージョンは以下コマンドで確認いただけます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser logoption-version
```

アンインストール

ログオプションがインストールされた状態で、下記コマンドを実行することでログオプションをアンインストールできます。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-Log-Option-1.1.0.installer
```

1.1.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

■ Enterprise エディション

別途 [IVEX ダブルブラウザ Linux ログオプション Enterprise エディション ドキュメント] をご参照ください。

■ 8.2.5 ファイル共有オプション

ファイル共有オプションを利用することで、ダブルブラウザ Linux 上にダウンロードしたファイルを、利用しているクライアント PC と共有することが可能となります。

■ 動作環境 (ファイル共有オプション Ver.1.1.0)

下記 IVEX ダブルブラウザ Linux が動作している環境。

```
IVEX ダブルブラウザ Linux バージョン 2.0 以降
```

■ インストール

インストーラの配置

インストーラを scp 等でサーバの任意の場所に置いてください。インストーラは下記のようなファイル名になっています。

```
IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.1.0.installer.tar.gz
```

1.1.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

インストーラの展開

インストーラは圧縮されています。下記のようなコマンドで展開してください。

```
$ tar zxvf IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.1.0.installer.tar.gz
```

インストーラの実行

展開されたインストーラを下記のようなコマンドで実行してください。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.1.0.installer
```

以上でインストールは完了です。

サービスの開始

下記コマンドでサービスを開始できます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser-WebDAV start
```



警告:

IVEX ダブルブラウザ Linux を手動で停止/起動した場合、ファイル共有オプションは自動開始されません。(停止したままとなります。)

IVEX ダブルブラウザ Linux が起動した後、手動でファイル共有オプションを起動してください。

サービスの停止

下記コマンドでサービスを停止できます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser-WebDAV stop
```

バージョン確認

ログオプションのバージョンは以下コマンドで確認いただけます。

```
$ sudo /usr/local/bin/WBrowser webdavoption-version
```

アンインストール

ログオプションがインストールされた状態で、下記コマンドを実行することでログオプションをアンインストールできます。

```
$ sudo ./IVEX-WBrowser-WebDAV-Option-1.1.0.installer
```

1.1.0 の部分はバージョンにより変わりますので読み換えてください。

ファイルの参照

クライアント PC から、WebDav クライアントを利用し、[https://\[IVEX ダブルブラウザ Linux の IP アドレス\]:4433/~\[ユーザー名\]/](https://[IVEX ダブルブラウザ Linux の IP アドレス]:4433/~[ユーザー名]/) にアクセスする事で、IVEX ダブルブラウザ Linux 上のデスクトップディレクトリのファイル一覧が参照できます。

```
例 : https://192.168.1.100:4433/~wbuser/
```

実際のアクセスはダブルブラウザ連携キットのファイル共有オプション (WebDav オプション) をインストールしてアクセスすることを推奨しております。詳しくは [ダブルブラウザ連携キット] - ファイル共有オプション (WebDav オプション) (ページ 594) をご参照ください。

8.2.6 パラメータシート

IP の設定パラメータ



不適切な場合には通信ができない場合があります。

注意:

- IP :
- ネットマスク :
- ゲートウェイ :

DNS の設定パラメータ



- 不適切な場合には AD への参加ができません。

注意:

- AD 環境では AD サーバが適切なパラメータになると思われます。
- nmtui コマンド等で、DNS の参照先が適切に設定されている事を確認してください。

- DNS1 :
- DNS2 :
- DNS3 :

ホスト名の設定パラメータ



- 不適切な場合にはアクセスが遅くなります。

注意:

- 自サーバのホスト名について /etc/hosts に設定するとスムーズです。
- /etc/hosts の情報を確認してください。
- 127.0.1.1 が自サーバを示す IP の標準的な値となります。
- 127.0.1.1 hostname hostname.domain.local 等を空白区切りで指定します。

- 設定 :

NFS 利用設定パラメータ



NFS を利用した場合の設定値です。

参考:

- 自サーバの/etc/fstab の情報を確認してください。
- vi 等のテキストエディタで編集可能です。

```
例 : 192.168.0.100:/exports          /var/opt/IVEX/WBrowser/home/          nfs
      nfsvers=3,rw,sync,hard,intr 0 0
```

『192.168.0.100:/exports』部分は NFS の接続先サーバアドレスとパスです。

- 利用可能な NFS は v3 となります、v4 には未対応なため、『nfsvers=3』を指定します。

- 設定 :

利用ブラウザ



設定されているブラウザバージョンです。

参考:

- Firefox (出荷時 : Firefox 60 (ESR))

- Ver. :

- Chrome (出荷時 : 66.0 ※未インストール)

- Ver. :

アイドル状態の継続時間によるログオフ設定パラメータ



無操作時間によりログオフできます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/etc/xrdp/sesman.ini
- 設定項目 : IdleTimeLimit=
- デフォルト値 : 0

- デフォルトでは無効となっています。
- 秒数で 0~35999 (9 時間 59 分 59 秒) まで指定できます。

```
- IdleTimeLimit=
```

■ 切断時動作設定パラメータ [1]



切断されてから、ログオフするまでの時間の設定です。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/etc/xrdp/sesman.ini
- 設定項目：KillDisconnected=
- デフォルト値：1
- デフォルトでは有効となっています。
- 有効時は 60 秒固定となります。

```
KillDisconnected=
```



60 秒以上にしたい場合は無効化（値：0）し、DisconnectedTimeLimit の値を設定してください。

Tips:

■ 切断時動作設定パラメータ [2]



切断されてから、ログオフするまでの時間の設定です。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/etc/xrdp/sesman.ini
- 設定項目：DisconnectedTimeLimit=
- デフォルト値：60
- デフォルトでは有効となっています。
- 有効時の最小値は 60 秒となります。

```
- DisconnectedTimeLimit=
```

ここまではサーバ毎に設定が可能です。以降はシステム単位で同一となります。

ログイン時間の制限パラメータ



利用中であっても一定時間でログオフできます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : login-time-limit:
- デフォルト値 : off
- デフォルトでは無効となっています。
- s(秒), m(分), h(時), d(日) の単位指定ができます。
- 例 : login-time-limit: 8h

```
- login-time-limit:
```

ダウンロードフォルダのリフレッシュ設定パラメータ



ダウンロードフォルダ (/home/ユーザ/Desktop) について、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : refresh-downloads:
- デフォルト値 : on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-downloads:
```

Firefox のプロファイルのリフレッシュ設定パラメータ



Firefox のプロファイルについて、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : refresh-firefox_profile:
- デフォルト値 : on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-firefox_profile:
```

お気に入りのリフレッシュ設定パラメータ



お気に入りについて、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : refresh-bookmarks:
- デフォルト値 : on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-bookmarks:
```

プラグインのリフレッシュ設定パラメータ



プラグインについて、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : refresh-plugins:
- デフォルト値 : on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)


```
- refresh-plugins:
```

■ サイトパスワードのリフレッシュ設定パラメータ



サイトパスワードについて、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：refresh-password:
- デフォルト値：on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-password:
```

■ クッキーのリフレッシュ設定パラメータ



クッキーについて、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：refresh-cookie:
- デフォルト値：on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-cookie:
```

■ 前回終了時のセッションのリフレッシュ設定パラメータ



前回終了時のセッションについて、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：refresh-session:

- デフォルト値 : on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-session:
```

■ 証明書のリフレッシュ設定パラメータ



証明書について、ログイン毎にリフレッシュを実施する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : refresh-certificates:
- デフォルト値 : on
- デフォルトでは有効となっています。(ログイン毎に初期化されます)

```
- refresh-certificates:
```

■ /etc 以下のファイルを削除する設定パラメータ



/etc 以下のファイルを削除する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル : /var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目 : hide-etc:
- デフォルト値 : off
- デフォルトでは無効となっています。(/etc 以下のファイルを削除しません)

```
- hide-etc:
```

■ /etc 以下のファイルで削除から除外する設定パラメータ



/etc 以下のファイルで削除から除外する設定ができます。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：hide-etc-exclude:
- デフォルト値：ld.so.cache nsswitch.conf passwd group login.defs host.conf resolv.conf hosts gai.conf localtime fonts mime.types mailcap alternatives libreoffice pulse xrdp/pulse
- デフォルト値よりも少なくした場合には正常動作しない可能性があります。

```
- hide-etc-exclude:
```

ClamAV 検知設定パラメータ [1]



/var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/tmp/[USER]/home 以下のファイルを検知対象とする設定ができます。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：virus-scan-home:
- デフォルト値：on
- on にすることで/home 以下のファイルを検知対象といたします。

```
- virus-scan-home:
```

ClamAV 検知設定パラメータ [2]



/var/opt/IVEX/WBrowser/root/以下のファイルを検知対象とする設定ができます。

参考:

- 設定ファイル：/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/WBrowser.conf
- 設定項目：virus-scan-root:
- デフォルト値：off
- on にすることで/var/opt/IVEX/WBrowser/root/以下のファイルを検知対象といたします。

```
- virus-scan-root:
```



/var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/tmp/[USER]/home を除く上記を対象とする
には『virus-scan-home』のパラメータを設定してください。

Tips:

8.3 ダブルブラウザ連携キット 管理者ガイド

8.3.1 設定および構成概要

管理者はユーザに配布する設定ファイルを事前にファイルサーバ上で設定しておくことが可能です。「WB-ConfigTool.exe」を起動し、環境に合わせて必要な設定を行って下さい。

設定一覧

区分：※ Connect 利用時のみ / ★ Connect 無しのみ / 無印 共通

項目名	区分	概要	備考
Connect サーバアドレス (FQDN)	※	Connect サーバのアドレスをポート番号とともに入力します。	ポート番号は通常 8011 です。SecureGateway を利用する場合は 443 となります
Secure Gateway を利用する	★	Secure Gateway を利用する場合にチェックを ON にします。	
Secure Gateway サーバアドレス (FQDN)	★	Secure Gateway を利用する場合、その FQDN または IP アドレスを入力します。	
Blaze Gateway サーバアドレス (FQDN)	★	Secure Gateway を利用しない場合の Blaze サーバ (Windows 中継サーバ) の FQDN または IP アドレスを入力します。	Windows 中継サーバ を利用しない場合は空白にしてください。Secure Gateway を利用する場合は localhost 固定となります。
RDS サーバアドレス (FQDN)	★	RDS サーバ (Linux サーバ) の FQDN または IP アドレスを入力します。	Windows 中継サーバを利用しない場合、Port 番号 8080 を付与してください。
UserID 生成方式		仮想ブラウザサーバへ連携する UserID の形式を選択します。	ユーザによる入力を選択すると接続時に入力ダイアログが表示されます。クライアント名は COMPUTER-NAME を利用するため全て大文字です。

項目名	区分	概要	備考
マルチドメインを利用する	※	Connect でマルチドメインを利用する際チェックを ON にします。	
ドメイン名	※	マルチドメイン利用時、初期設定のドメイン名を入力します。	@より後ろのみを入力します。
ドメイン名を表示する	※	UserID 生成において、ユーザによる入力を選択している場合、初期設定されているドメイン名を表示する場合にチェックを ON にします。	
ドメイン名の変更を許可する	※	表示されたドメイン名をユーザが変更できるようにするにはチェックを ON にします。	
固定パスワードを利用する		パスワードを共通のパスワードで運用する場合チェックを入れます。	チェックを外すと接続時にパスワード入力ダイアログが表示されます。
デスクトップ WBrower-Launcher のショートカットを配置する		デスクトップに WBrowerLauncher のアイコンを作成した場合にチェックを ON にします	ClickOnce による配置でのみ有効です。
スタートアップにショートカットを配置する (個別認証なしの場合のみ)	※	UserID 生成方式が「ユーザによる入力」でない、且つ「固定パスワードを利用する」にチェックが入って居る場合、スタートアップに WBrowerLauncher のショートカットを配置します	
ユーザにスタートアップファイルの削除を許可する	※	スタートアップに配置されるショートカットをユーザが削除することを許可します。	チェックがオフの場合、ショートカットを削除しても次回起動時に再作成されます。

項目名	区分	概要	備考
クリップボード共有を許可する	★	ローカルとリモートとのクリップボード共有を許可する場合チェックを ON にします。	
プリンタリダイレクトを許可する	★	ローカルとリモートとのプリンタリダイレクトを許可する場合チェックを ON にします。	
Blaze による高速化を有効にする	★	Ericom Blaze による高速化を有効にする場合、チェックを ON にします。	
イメージクオリティ	★	Blaze 利用時の画像の品質を設定します。(推奨値:40 設定可能範囲:1-100)	
画面全体に表示する	★	仮想ブラウザをクライアントの画面全体に表示する場合チェックを ON にします。	
幅：高さ	★	仮想ブラウザ起動時の最大サイズを指定します。	設定した以上のサイズには拡大できない状態となります。
タイトルバー	★	タイトルバーに表示する文字列を指定します。	
表示言語		連携キットの言語設定です。	リモートブラウザの言語設定ではありません。
カスタムユーザランチャー		IVEX ダブルブラウザ Linux の特殊ユーザ (administrator と template) のセッションを起動します。	
タイムスタンプが新しいコンテンツだけをコピーする		タイムスタンプが異なる場合の挙動を変更します。	OFF の場合、共有ファイルサーバが正となります。
コンテンツフォルダを同期する		共有ファイルサーバで削除したファイルの扱いを変更します。	ON の場合、クライアント側も削除されます。

項目名	区分	概要	備考
WebDav オプションを利用する		WebDav オプションをインストールした場合、該当機能を利用する場合にチェックをON にします。	別途オプションの購入が必要です。Contents フォルダ配下に WebDav フォルダが存在する場合のみ設定変更が可能です。
URL 自動判別オプションを利用する	※	URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を Click-Once でインストールして利用する場合にチェックをON にします。	別途オプションの購入が必要です。Contents フォルダ配下に Kotomine フォルダが存在する場合のみ設定変更が可能です。
KOTOMINE をデフォルトブラウザに設定する (Win7 のみ)	※	URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を自動的にデフォルトブラウザとして設定します。	Windows8.1 以上では設定画面が表示されます。マニュアルに従い、デフォルトブラウザとして KOTOMINE を設定してください。
下記のブラウザ用の KOTOMINE Browser Launcher を登録する。 <input type="checkbox"/> Internet Explorer <input type="checkbox"/> Google Chrome <input type="checkbox"/> Mozilla Firefox <input type="checkbox"/> Microsoft Edge	※	それぞれのブラウザ用に必要な登録を行います。	IE と Chrome は別途管理者権限でのブラウザ拡張のインストールが必要です。

■ Web 配布用設定ファイル (conf.cab) の作成

Web 経由で設定ファイルを配布する場合、「適用」ボタンをクリックして設定を確定後、「CAB ファイルの作成」をクリックし conf.cab を作成してください。作成された cab ファイルは自動的に contents フォルダ内に配置されます。



参考:

- WebDav オプション (ファイル共有オプション) をご利用で、contents フォルダ内に WBWebDav フォルダがある場合、同時に wbwebdav.cab も生成されます。
- URL 自動判別オプション (KOTOMINE) をご利用で、contents フォルダ内に Kotomine フォルダがある場合、同時に Kotomine.cab も生成されます。

■ ログ

連携キット (WBrower Launcher) のログは下記フォルダに出力されます。ログは最大 10 世代保持されます。

```
%LocalAppData%\ashisuto\WBLauncher_<ログ種別>_<マシン名>_<ユーザ ID>_<yyyymmdd>.log  
%LocalAppData%\ashisuto\WBConfigTool_<ログ種別>_<マシン名>_<ユーザ ID>_<yyyymmdd>.log
```

- Info ログ：起動するたびに記録されます。 Info レベル以上 (debug、error、trace を含む) が記録されます。
- Error ログ (定義エラー)：error イベントが発生した場合に記録されます。 error レベル以上 (trace を含む) が記録されます。
- Trace ログ (定義外 (例外) エラー)：trace レベルのイベントが発生した場合に記録されます。



参考:

ログレベルは問い合わせ時の調査資料採取を目的にデフォルトで「debug」レベルで記録をしています。ログレベルを info レベルに落とす場合は、contents フォルダ内の「debug」ファイルを「info」と名称変更してください。

8.3.2 ClickOnce による配布

当キットは ClickOnce を用いてクライアントにモジュールのインストールを行う仕組みを提供しています。ClickOnce では共有ファイルサーバを利用した配布と、Web サーバを用いた配布をサポートしています。ClickOnce はユーザ権限で実行が可能ですが、反面、同じ PC を利用するとしても、ユーザ毎にインストール作業が必要となります。

モジュール配置

共有ディレクトリへの配置

お客様の環境に、利用者がアクセス可能な共有ディレクトリを事前に準備してください。お手順書ではこのパスを「\ShareServer\WBrowserLauncher」として説明をおこないます。

WBrowserLauncher フォルダに zip ファイルを展開し下記のように配置してください。

```

\\ShareServer\ WBrowserLauncher\
  └ Application Files\
    └─ WBrowserLauncher_8_1_0_1
      └ en\
        └─ WBrowserLauncher.resources.dll
      └ ja\
        └─ WBrowserLauncher.resources.dll
      └ WB128.ico
      └ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
      └ WBrowserLauncher.application
      └ WBrowserLauncher.exe
      └ WBrowserLauncher.exe.config
      └─ WBrowserLauncher.exe.manifest
  └ contents\
    └ blaze.cab
    └ 'accessspad (Connect 利用時のみ必要) '
    └ debug (ログレベル設定ファイル)
    └ def.blaze_org (設定ファイル 1 オリジナルファイル)
    └ WB.conf_org (設定ファイル 2 オリジナルファイル)
    └ def.blaze (設定ファイル 1) ' ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。 '
    └─ WB.conf (設定ファイル 2) ' ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。 '
  └ publish.htm
  └ WB128.ico
  └ WBrowserLauncher.exe
  └ WBrowserLauncher.exe.config
  └ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
  └ WBConfigToo\
    └ en\
      └─ WBConfigTool.resources.dll
    └ ja\
      └─ WBConfigTool.resources.dll
    └ Microsoft.Deployment.Compression.Cab.dll
    └ Microsoft.Deployment.Compression.dll
    └ WBConfigTool.exe (管理者用設定アプリ)

```

```

|         | WBConfigTool.exe.config
|         | CT.conf_org
|         |   └─ CT.conf   ' ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。 '
└─ WBrowserLauncher.application (ユーザインストール用アプリケーション)

```



注意:

accesspad ファイルはコネクションブロッカー無しで構成する場合は削除してください。

Web サーバへの配置

お客様の Web サーバにおいて、適切なディレクトリに下記階層でファイルを配置してください。当手順書はこのパスを「wwwroot\WBrowserLauncher」として説明をおこないます。

```

wwwroot\ WBrowserLauncher\
|
|   └─ Application Files\
|       |   └─ WBrowserLauncher_8_1_0_1
|           |   └─ en\
|               |   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
|               |   └─ ja\
|                   |   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
|                   |   └─ WB128.ico
|                   |   └─ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
|                   |   └─ WBrowserLauncher.application
|                   |   └─ WBrowserLauncher.exe
|                   |   └─ WBrowserLauncher.exe.config
|                   |   └─ WBrowserLauncher.exe.manifest
|
|   └─ contents\
|       |   └─ blaze.cab
|       |   └─ 'accesspad (Connect 利用時のみ必要) '
|       |   └─ debug(ログレベル設定ファイル)
|       |   └─ def.blaze_org (設定ファイル 1 オリジナルファイル)
|       |   └─ WB.conf_org (設定ファイル 2 オリジナルファイル)
|       |   └─ def.blaze (設定ファイル 1)   ' ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。 '
|       |   └─ WB.conf (設定ファイル 2)   ' ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。 '
|       |   |   └─ conf.cab (Web 配布用設定ファイル) ' ※ ConfigTool 実行後生成されます。 '
|       |   └─ 'publish.htm (Web サーバ経由配布用スタートページサンプル) '
|       |   └─ WB128.ico
|       |   └─ WBrowserLauncher.exe
|       |   └─ WBrowserLauncher.exe.config
|       |   └─ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
|       |   └─ WBrowserLauncher\
|           |   └─ en\
|               |   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
|               |   └─ ja\
|                   |   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
|                   |   └─ Microsoft.Deployment.Compression.Cab.dll
|                   |   └─ Microsoft.Deployment.Compression.dll
|                   |   └─ WBrowserLauncher.exe (管理者用設定アプリ)
|                   |   └─ WBrowserLauncher.exe.config

```

```

| | CT.conf_org
| | CT.conf   ' ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。 '
| | WBrowserLauncher.application (ユーザインストール用アプリケーション)

```

**注意:**

accesspad ファイルはコネクションブローカー無しで構成する場合は削除してください。

■ ユーザによるインストール

ユーザは管理者が事前に配置したアプリケーションファイルのリンクをクリックすることで、モジュールのインストールを行うことができます。共有ファイルサーバでの配布や、IE を利用した Web 経由の配布においては、自動的にインストールが開始され、アプリケーションが初回起動します。(IE 以外のブラウザ経由ではダウンロードされる Application ファイルを実行する必要があります。)

インストールが完了するとユーザのスタートメニューの中に「K.K.Ashisuto」「WBrowser」[WBrowser Launcher] というメニューが追加され、デスクトップにも「WBrowser Launcher」というアイコンが配置されます。次回以降はこれらのアイコンからアプリケーションを起動できます。

**Tips:**

インストールされたアプリケーションプログラムの実体は「%LocalApp-data%Apps2.0*****wbro..tion_****」に格納されます。

共有ファイルサーバの場合

ユーザは管理者が事前に配置したアプリケーションファイルのリンクをクリックすることで、モジュールのインストールを行うことができます。

例： \\ShareServer\ WBrowserLauncher\WBrowserLauncher.application

Web サーバ経由の場合

ユーザは管理者が事前に配置した Publish.htm にアクセスし、「インストール」をクリックすることで、モジュールのインストールを行うことができます。

例： http://WebServer.ashisuto.local/ WBrowserLauncher/publish.htm

■ コンポーネントや設定ファイルの更新（バージョンアップ含む）

「contents」フォルダ内のファイル（設定ファイルや blaze.cab など）はアプリケーション起動の度にファイルの更新をチェックし、最新のものが \\ShareServer\WBrowserLauncher\contents 内にあれば、ダウンロードされるようになっていきます。必要に応じて管理者が公開フォルダ内のファイルを更新してください。

連携キット (WBrower Launcher) を更新する必要がある場合は新しく提供される zip ファイルを解凍したものをそのまま全て上書きしてください。

設定済みの def.blaze と WB.conf は上書きされずに残りますが、バージョンアップにより設定項目が増える場合がありますので、一度 **WBConfigTool.exe** を起動し、設定ファイルを上書きするようにしてください。

新しい連携キットが上書きされた場合、ユーザの次回実行時に新バージョンが検知され、インストールするかどうかのポップアップがユーザ画面に表示されますのでバージョンアップを選択するように事前にアナウンスしてください。

バージョン 7.6.1.6 までをご利用のお客様は 7.6.1.7 以上へ上書きアップデートを行う場合に必ず下記修正を実施してください。



注意:

```

<修正対象マシン>
    WBrower Configuration Tool 配置しているファイルサーバ
<修正対象ファイル>
    \\ShareServer\WBrowerLauncher\
        ↳ WBConfigTool\
            ↳ CT.conf
<修正箇所>
    修正前 : <_strTempUser>template</_strTempUser>
    修正後 : <_strTempUser>template-user</_strTempUser>
  
```

■ アンインストール

スタートメニューにある「WBrower Launcher のアンインストール」を実行してください。このプログラムにより、スタートアップ内のファイル削除を行ったあと、実際のアンインストールが実行されます。削除する場合は「このコンピュータからアプリケーションを削除します。」を選択し、1 つ前のバージョンに戻す場合は「アプリケーションを以前の状態に復元します。」を選択してください。



注意:

「コントロールパネル」の「プログラムと機能」から「WBrower Launcher」を選択し、「アンインストールと変更」よりアンインストールすると、各ユーザのスタートアップにショートカットが作成されている場合、ショートカットが不完全に残ってしまいます。

8.3.3 MSI によるインストール

WBrower Launcher のインストール



インストールには管理者権限が必要となります。

注意:

連携キット (WBrower Launcher) は MSI によるインストールも可能です。クライアント端末で、WBrower-Launcher.msi を実行し、インストールしてください。

下記パスにインストールされたことを確認してください。

```
- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\  
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrower Launcher\
```



インストールパスは変更できません。

参考:

デスクトップアイコンの配置制御

MSI でのインストール場合、AllUsers のデスクトップにアイコンが配置されます。インストール後に WBrower Configuration Tool による ON/OFF の制御ができません。アイコンを配置したくない場合は、同梱の MST ファイルを利用し、コマンドラインでインストールしてください。

コマンド例> (C:\work に MSI および MST が配置されている場合)

```
C:\> cd c:\temp  
C:\temp> msixexec /i WBrowerLauncher.msi TRANSFORMS=NoDesktop.mst
```

WBrower Configuration Tool のインストール

管理者のクライアント端末には追加で WBConfigTool.msi をインストールしてください。(※一般ユーザには不要です。)

下記パスにインストールされたことを確認してください。

```
- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\WBConfigTool  
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrower Launcher\WBConfigTool
```

設定ファイルの配布

管理者の端末で WBrower Configuration Tool を実行し、設定ファイルの書き換えを行って下さい。

contents フォルダ内の 2 つのコンフィグファイル「def.blaze」と「WB.conf」を一般ユーザのクライアント端末に配布し、contents フォルダ内に格納してください。



連携キットではファイル配布や MSI の配布機能は提供いたしません。必要に応じて Active Directory やその他ツールのご利用を検討してください。

参考:

(参考)MSI 版のファイル配置

<一般ユーザ端末>※ WBrowserLauncher のみをインストールした場合

```
C:\ Program Files (x86)   (※ 32bitOS の場合は C:\ Program Files)
├─ ashisuto
│   └─ WBrowser Launcher
│       ├── blaze\
│       ├── contents\
│       │   ├── blaze.cab
│       │   ├── accesspad (Connect 利用時のみ必要)
│       │   ├── debug (ログレベル設定ファイル)
│       │   ├── def.blaze_org (設定ファイル 1 オリジナルファイル)
│       │   ├── WB.conf_org (設定ファイル 2 オリジナルファイル)
│       │   ├── def.blaze (設定ファイル 1) ' ※管理者が配布してください。'
│       │   └─ WB.conf (設定ファイル 2) ' ※管理者が配布してください。'
│       ├── en\
│       │   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
│       ├── ja\
│       │   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
│       ├── WB128.ico
│       ├── WBrowserLauncher.exe
│       ├── WBrowserLauncher.exe.config
│       └─ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
```

<管理者用端末>※ WBrowserLauncher のみをインストールした場合

```
C:\ Program Files (x86)   (※ 32bitOS の場合は C:\ Program Files)
├─ ashisuto
│   └─ WBrowser Launcher\
│       ├── blaze\
│       ├── contents\
│       │   ├── blaze.cab
│       │   ├── accesspad (Connect 利用時のみ必要)
│       │   ├── debug (ログレベル設定ファイル)
│       │   ├── def.blaze_org (設定ファイル 1 オリジナルファイル)
│       │   ├── WB.conf_org (設定ファイル 2 オリジナルファイル)
│       │   ├── def.blaze (設定ファイル 1) ' ※利用者へ配布してください。'
│       │   └─ WB.conf (設定ファイル 2) ' ※利用者へ配布してください。'
│       ├── en\
│       │   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
│       ├── ja\
│       │   └─ WBrowserLauncher.resources.dll
│       ├── WB128.ico
│       └─ WBrowserLauncher.exe
```

```

└─WBrowerLauncher.exe.config
└─Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
└─WBConfigToo\
  └─en\
    └─WBConfigTool.resources.dll
  └─ja\
    └─WBConfigTool.resources.dll
  └─Microsoft.Deployment.Compression.Cab.dll
  └─Microsoft.Deployment.Compression.dll
  └─'WBConfigTool.exe (管理者用設定アプリ)'
  └─WBConfigTool.exe.config
  └─CT.conf_org
  └─CT.conf ※ ConfigTool 実行後自動生成されます。

```

■ コンポーネントや設定ファイルの更新（バージョンアップ含む）

「contents」フォルダ内の設定ファイルは必要に応じて管理者が再配布してください。連携キット (WBrower Launcher) を更新する必要がある場合は新しく提供される MSI を上書きインストールしてください。設定済みの def.blaze と WB.conf は上書きされずに残りますが、バージョンアップにより設定項目が増える場合がありますので、最新の **Configuration Tool** で作成した設定ファイルを上書きするようにしてください。

バージョン 7.6.1.6 までをご利用のお客様は 7.6.1.7 以上へ上書きアップデートを行う場合に必ず下記修正を実施してください。



注意:

```

<修正対象マシン>
  WBrower Configuration Tool をインストールしている管理者端末
<修正対象ファイル>
  C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrower Launcher\
                                     └─WBConfigTool\
                                           └─CT.conf
<修正箇所>
  修正前 : <_strTempUser>template</_strTempUser>
  修正後 : <_strTempUser>template-user</_strTempUser>

```

■ アンインストール

「コントロールパネル」の「プログラムと機能」から「WBrower Launcher」を選択し、「アンインストール」を実行してください。

8.3.4 ファイル共有オプション (WebDav オプション)

IVEX ダブルブラウザ Linux サーバへのオプションインストールは別途「IVEX ダブルブラウザ Linux 管理者ガイド」-「ファイル共有オプション (ページ 571)」を参照してください。当項では連携キットのファイル共有オプション (WebDav オプション) の追加インストールをご案内します。

モジュールのインストール

ClickOnce の場合

既にファイルサーバに配置されている ClickOnce 用のモジュール配布フォルダにオプションモジュールを追加してください。追加後の配置は下記ようになります。

```

\\ShareServer\ WBrowserLauncher\
  └ Application Files\
    └─┬ WBrowserLauncher_8_1_0_1
      └ contents\
        └─┬ blaze.cab
          └─┬ accesspad (Connect 利用時のみ必要)
            └─┬ debug (ログレベル設定ファイル)
              └─┬ def.blaze_org (設定ファイル 1 オリジナルファイル)
                └─┬ WB.conf_org (設定ファイル 2 オリジナルファイル)
                  └─┬ def.blaze (設定ファイル 1)
                    └─┬ WB.conf (設定ファイル 2)
                      └─┬ 'WBWebdav\'
                        └─┬ en\
                          └─┬ WBWebdav.resources.dll
                            └─┬ ja\
                              └─┬ WBWebdav.resources.dll
                                └─┬ folder.ico
                                  └─┬ WBWebdav.exe
                                    └─┬ WBWebdav.exe.config
                                      └─┬ ini
                                        └─┬ WB128.ico
                                          └─┬ WBrowserLauncher.exe
                                            └─┬ WBrowserLauncher.exe.config
                                              └─┬ WBrowserLauncher.exe.manifest
                                                └─┬ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
                                                  └─┬ WBConfigToo\
                                                    └─┬ WBrowserLauncher.application

```

Winscp の配置

当オプションでは WinSCP を WebDav クライアントとして利用します。既にクライアント PC に Winscp がインストールされている場合は、そのモジュールを利用することが可能です。もし、クライアント PC に Winscp がインストールされていない場合で、連携キットと同時に ClickOnce を使って配布したい場合、共有ディレクトリの WBWebDav フォルダ配下に「winscp」フォルダを作成し、必要なファイルを配置してください。



参考:

- 利用可能な winscp のバージョンは 5.7 以降です。
- winscp は下記サイトより、お客様にて入手してください。
- ClickOnce で配布する場合は portableexecutables 版をダウンロードし、必要なファイルのみをフォルダに配置してください。

【WinSCP.net】

WinSCP ダウンロードページ : <http://winscp.net/eng/download.php>

WinSCP 言語パックダウンロードページ :

<http://winscp.net/eng/translations.php>

MSI の場合

ファイル共有オプションは MSI によるインストールも可能です。



注意:

インストールには管理者権限が必要となります。

クライアント端末で、WBWebdav.msi を実行し、インストールしてください。下記パスにインストールされたことを確認してください。

```
- 64bit OS : C:\Program Files (x86)\ashisuto\WBrowser Launcher\contents\WBWebdav\  
- 32bit OS : C:\Program Files\ashisuto\WBrowser Launcher\contents\WBWebdav\
```



参考:

インストールパスは変更できません。

Winscp のインストール

当オプションでは WinSCP を WebDav クライアントとして利用します。クライアント PC に Winscp をインストールしておいてください。



参考:

- 利用可能な winscp のバージョンは 5.7 以降です。
- winscp は下記サイトより、お客様にて入手してください。

【WinSCP.net】

WinSCP ダウンロードページ : <http://winscp.net/eng/download.php>

WinSCP 言語パックダウンロードページ :

<http://winscp.net/eng/translations.php>

■ 設定ファイルの変更

ダブルブラウザ連携キットの [設定および構成概要](#) (ページ 582) を参考に、「WebDav オプションを利用する」にチェックを入れて、設定を作成してください。ClickOnce を利用して連携キットを配布している場合はクライアントの次回実行時に更新されますので配布は不要です。MSI を利用している場合は、[\[MSI によるインストール\] - 設定ファイルの配布](#) (ページ 591) に従って再配布してください。

■ Ericom SecureGateway を経由した WebDav の利用 (WBWebDavProxy)



注意:

ご利用には Ericom SecureGateway(以下、ESG) サーバ側に追加の設定が必要です。

また、各オプション製品は下記バージョン以降で当該機能に対応しています。

- 連携キットファイル共有オプション (WebDav オプション) : 1.0.1.2 以降
- IVEX ダブルブラウザ Linux ファイル共有オプション : 1.0.2 以降

セットアップ手順

1.

Ericom SecureGateway と同じサーバに IIS をセットアップします。[役割と機能の追加] より、下記のチェックを入れて IIS を追加してください。(提示されるその他の必要な機能も合わせて追加してください。)

- サーバの役割 : [Web サーバ (IIS)]
- Web サーバの役割 (役割サービス) - [アプリケーション開発] - [ASP.NET4.5]

2.

[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を開きます。

3.

[Default Web Site] において画面右側の [サイトの編集] から [バインド] を開きます。

4.

[追加] をクリックし下記設定で追加を行います。

- 種類 : https
- IP アドレス : 未使用の IP アドレスすべて
- ポート : 4433
- ホスト名 : 空欄
- SSL 証明書 : EricomConnect self-signed certificate

5.

元々ある 80 番ポートのバインドを削除し、サイトバインドの画面を閉じます。

6.

下記サイトより、追加に必要なモジュールを入手し、インストールしてください。

- Microsoft Application Request Routing 3.0 (x64)
<https://www.microsoft.com/en-ph/download/details.aspx?id=47333>
- Microsoft URL Rewrite Module 2.0 for IIS 7 (x64)
<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=7435>

6.

WBWebdavProxy.msi を実行してインストールを開始してください。

7.

Connct の管理者ユーザの情報を求めるポップアップが表示されるので、入力してください。

8.

インストーラーが終了すればセットアップを含めて完了です。

8.3.5 URL 自動判別オプション (KOTOMINE)

**注意:**

当オプションは、コネクションブローカー有り構成においてのみご利用いただけます。製品のインストールおよび設定についての詳細は別途 [\[URL 自動判別オプション \(KOTOMINE\) 管理者ガイド\]](#) (ページ 600) を参照してください。

ここでは、ClickOnce にて連携キットをご利用の場合のインストールと設定について、記載しています。

■ モジュールのインストール

ClickOnce の場合

既にファイルサーバに配置されている ClickOnce 用のモジュール配布フォルダにオプションモジュールを追加してください。追加後の配置は下記ようになります。

```

\\ShareServer\WBrowserLauncher\
  └ Application Files\
    └─┬ WBrowserLauncher_8_1_0_1
      └ contents\
        └ blaze.cab
        └ accesspad (Connect 利用時のみ必要)
        └ debug (ログレベル設定ファイル)
        └ def.blaze_org (設定ファイル 1 オリジナルファイル)
        └ WB.conf_org (設定ファイル 2 オリジナルファイル)
        └ def.blaze (設定ファイル 1)
        └ WB.conf (設定ファイル 2)
        └─┬ 'Kotomine\'
          └─┬ Ionic.Zip.dll
            └ BrowserLauncher.exe
            └ BrowserLauncher.exe.config (KOTIMINE 設定ファイル)
            └ BrowserLauncherAddon35.dll
            └ BrowserLauncherAddon40.dll
            └ BrowserLauncherChromeExt.crx
            └ BrowserLauncherFirefoxExt.xpi
            └ ConfigEditor.exe
            └ ConfigEditor.exe.config
            └ InternalUrls.ktmn (イントラ URL リスト)
            └─┬ Interop.SHDocVw.dll
              └ WB128.ico
              └ WBrowserLauncher.exe
              └ WBrowserLauncher.exe.config
              └ WBrowserLauncher.exe.manifest
              └ Interop.IWshRuntimeLibrary.dll
              └ WBConfigToo\
                └─┬ WBrowserLauncher.application

```

**参考:**

ConfigEditor はクライアント PC へ配布しない場合は削除してください。

MSI の場合

KOTOMINE のフォルダーから Setup.x86.msi を起動します。

詳細は別途 *KOTOMINE* のマニュアル (ページ 606) を参照してください。

■ ダブルブラウザ連携キットの設定

ClickOnce の場合

ダブルブラウザ連携キットの [設定および構成概要](#) (ページ 582) を参考に、「URL 自動判別オプションを利用する」にチェックを入れて、設定を作成してください。

また必要に応じて [KOTOMINE をデフォルトブラウザに設定する (Win7 のみ)] や [下記のブラウザ用の KOTOMINE Browser Launcher を登録する] のにもチェックを入れてください。

ClickOnce を利用して連携キットを配布している場合はクライアントの次回実行時に更新されますので配布は不要です。

MSI の場合



注意:

MSI を利用して、ダブルブラウザ連携キット、URL 自動判別オプション、をそれぞれインストールしている場合は、連携キット側での設定は不要です。

8.4 URL 自動判別オプション (KOTOMINE) 管理者ガイド

8.4.1 変更履歴

ドキュメントバージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.1	2017年2月	初版リリース
Version 1.2	2017年4月	<ul style="list-style-type: none">● ケースのイメージを修正しました。● KOTOMINE のファイルが表示された時のイメージを更新しました。● インストールの前の確認事項として.NET 4.*を追加しました。● 「インストール手順」を「インストール手順 / 更新手順」にし、更新の場合についてコメントを追加しました。● インストール手順 / 更新手順には「プログラムの関連付けを設定する」画面についての項目を追加しました。● インストーラーのパラメーター ACCESS_PAD_URI の説明を改正しました。● 連携キット (ClickOnce 版) による配布には、config ファイルの修正に関して項目を追加し、更新の場合についてコメントを追加しました。IE-Addon についての文言を一部改正しました。

ドキュメントバージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.3	2017年6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「KOTOMINE とは」項目は IE 以外に Chrome と Firefox も対応することを追記しました。 ● 「Chrome 拡張のインストールの前に」項目を追加しました。 ● 「Firefox 拡張のインストールの前に」項目を追加しました。 ● 「IE Add-on のインストールの前に」項目は他のブラウザの項目と同様に IE11 を IE の最新版に修正しました。 ● 「インストール手順 / 更新手順」には Chrome 拡張と Firefox 拡張について説明を追加しました。 ● 「インストール手順 / 更新手順」のイントラネットのブラウザの設定についてブラウザのコンボボックスの説明を追記しました。 ● 「連携キット (ClickOnce 版) による配布」には Chrome 拡張のインストールに関して説明を追加しました。 ● 「インストール後 (Chrome 拡張がインストールされた場合)」項目を追加しました。 ● 「インストール後 (Firefox 拡張がインストールされた場合)」項目を追加しました。 ● 「設定の編集」項目と「イントラネット URL リストの編集」項目の名前に「(Config Editor がインストールされていない場合)」を付けて変更しました。 ● 「設定の編集 (Config Editor がインストールされた場合)」項目と「イントラネット URL リストの編集 (Config Editor がインストールされた場合)」項目を追加しました。 ● 「Config Editor によるイントラネット URL リストの編集」項目を削除しました。 ● 「グループポリシーについて」には Chrome 拡張は IE と同じ対応が必要だという旨を記載しました。 ● KOTOMINE のインストーラーとファイルが表示された時のイメージを更新しました。
Version 1.3.1	2017年10月	<ul style="list-style-type: none"> ● Firefox アドオン (拡張機能) のインストール時の挙動変更に伴い、「インストール後 (FIREFOX 拡張がインストールされた場合)」項に挙動の変更部分を反映しました。

ドキュメントバージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.4	2018年3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「KOTOMINE とは」項目は Edge も対応することを追記しました。 ● 「Edge 拡張のインストールの前に」項目を追加しました。 ● 「インストール手順 / 更新手順」には Edge 拡張について説明を追加しました。 ● 「インストール手順 / 更新手順」、並びに「無人モードとインストーラーのパラメーター」には KOTOMINE のイントラネットのブラウザの新しい呼び方を追記しました。 ● KOTOMINE のインストーラーとファイルが表示された時のイメージを更新しました。
Version 1.4.1	2018年6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Edge 拡張のインストールの前に」項目には、Windows 10 バージョンに関する確認事項を追加しました。 ● 「インストール手順 / 更新手順」においては、完了前に表示される画面の項目を、Windows 8 の場合の項目と Windows 10 の場合の項目に分けました。
Version 1.4.2	2018年11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Edge 拡張のインストールの前に」項目には、サポート対象になっているバージョンを更新しました。
Version 1.4.3	2019年9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Edge 拡張のインストールの前に」項目には、サポート対象になっているバージョンを更新しました。 ● 「インストール後 (Chrome 拡張がインストールされた場合)」項目を最新化しました。 ● 「インストール後 (Firefox 拡張がインストールされた場合)」項目を最新化しました。

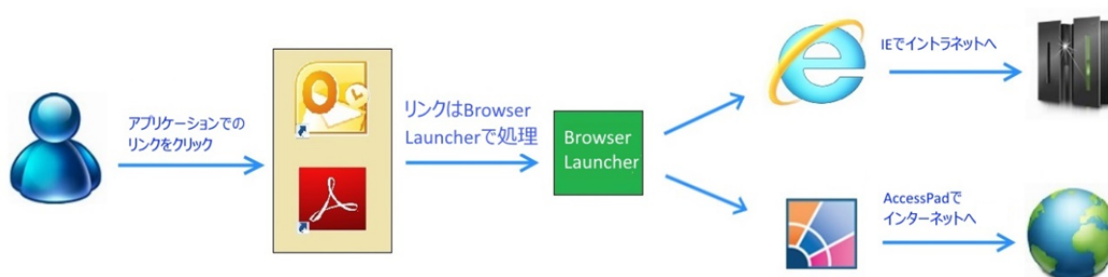
8.4.2 KOTOMINE とは

Ericom 製品では、インターネット向けの仮想ブラウザとイントラネット向けのブラウザの2つの(ダブル)ブラウザが必要ですが、KOTOMINE を使うことによって、イントラ・インターネットへのシームレスなブラウザアクセスを実現します。

KOTOMINE は2つのケースに対応します。

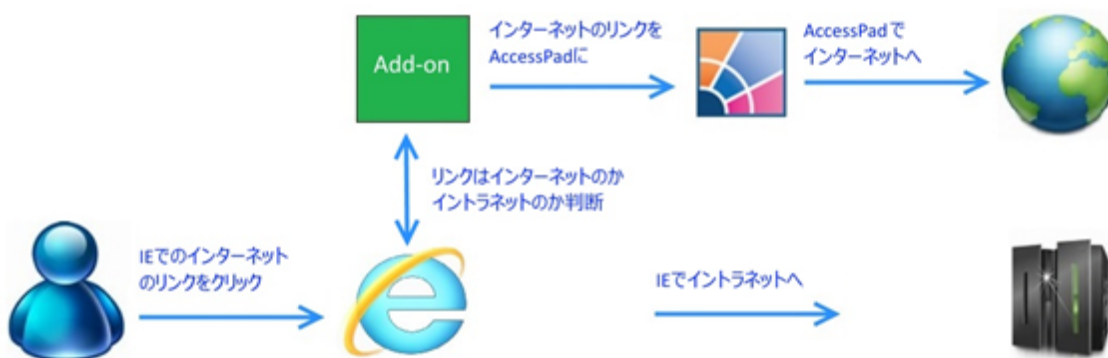
【ケース 1】

ユーザーが Outlook や Adobe Reader といったアプリケーションからリンクをクリックするケースです。その場合、既定のブラウザとして設定した KOTOMINE が正しいブラウザを選んで起動させます。



【ケース 2】

ユーザーがイントラネットのブラウザからインターネットのリンクをクリックするケースです。その場合、KOTOMINE の一部であるアドオン・拡張がクリックされたリンクを AccessPad で開きます。



※上図は IE を例として提示しています。Edge、Chrome、Firefox の場合も動作は同じです。

インストール方法は2つあります。

1. MSI によるインストール (ページ 606)
2. 連携キット (ClickOnce 版) による配布 (ページ 613)

8.4.3 インストールの前に

以下を確認してください。

- 1. Microsoft .NET Framework 3.5 (Client Profile でも可)、または Microsoft .NET 4.* Framework のインストール
- 2. ダブルブラウザ連携キット (Ericom AccessPad Client) のインストール

IE Add-on のインストールの前に

以下を確認してください。

- 1. Internet Explorer の最新版のインストール

Edge 拡張のインストールの前に

以下を確認してください。

- 1. Windows 10 のサポートされているバージョン*¹ のインストール
- 2. 上記の Windows 10 バージョンにおいての Edge の最新版のインストール
- 3. 当端末が Active Directory に所属していること
- 4. アプリのサイドローディングが許可されていること (MSI によるインストールの場合、インストール時に自動的にアプリのサイドローディングをオンにします)



注意:

サイドローディングを許可する設定になっているにも関わらず Edge 拡張が導入されない場合、一度「Store アプリ」の設定に変更してから「サイドローディング」の設定を行ってください。

- 5. Windows Defender Firewall のサービスを「開始」の状態にしていること ※ Windows Defender Firewall のルールを無効化しても問題ありません。



注意:

インストール時だけでなく、その後の利用時にもサービスを開始しておく必要があります。Kotomine の Edge 拡張は UWP アプリであり、UWP アプリを利用するには Windows Defender Firewall のサービスが起動している必要があります。これは UWP アプリの仕様に基づく要件です。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/13853/windows-lifecycle-fact-sheet>

但し、KOTOMINE においては、上記のページの記載に関わらずバージョン 1703 以下はサポートの対象外です。

*1 サポートされている Windows 10 のバージョンは次のページにてご確認ください。

■ Chrome 拡張のインストールの前に

以下を確認してください。

- 1. Chrome の最新版のインストール
- 2. 当端末が Active Directory に所属していること

■ Firefox 拡張のインストールの前に

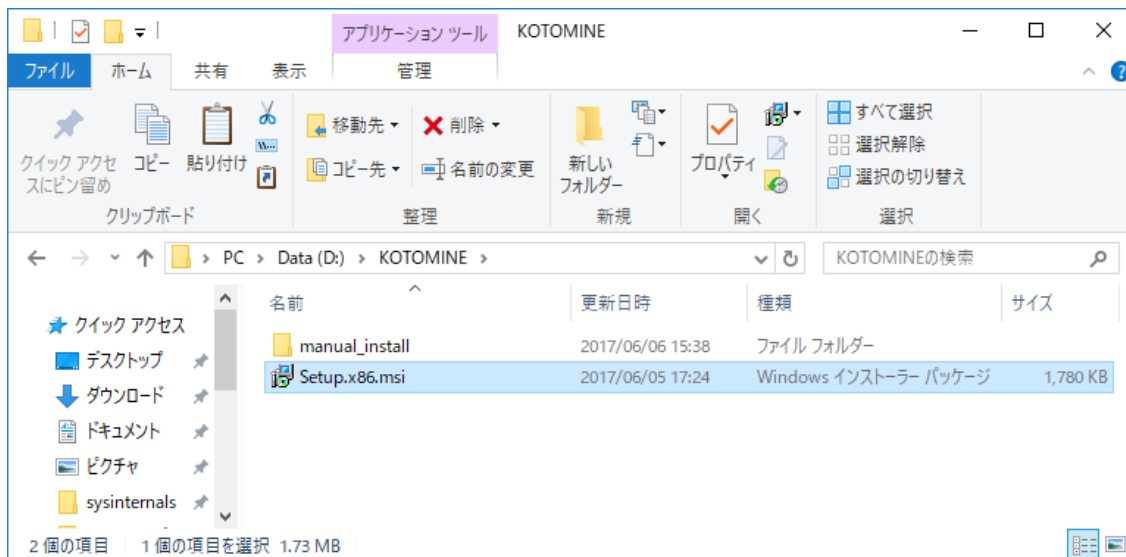
以下を確認してください。

- 1. Firefox の最新版のインストール
- 2. Firefox が起動されていないこと (アンインストール等の前にも確認必須)

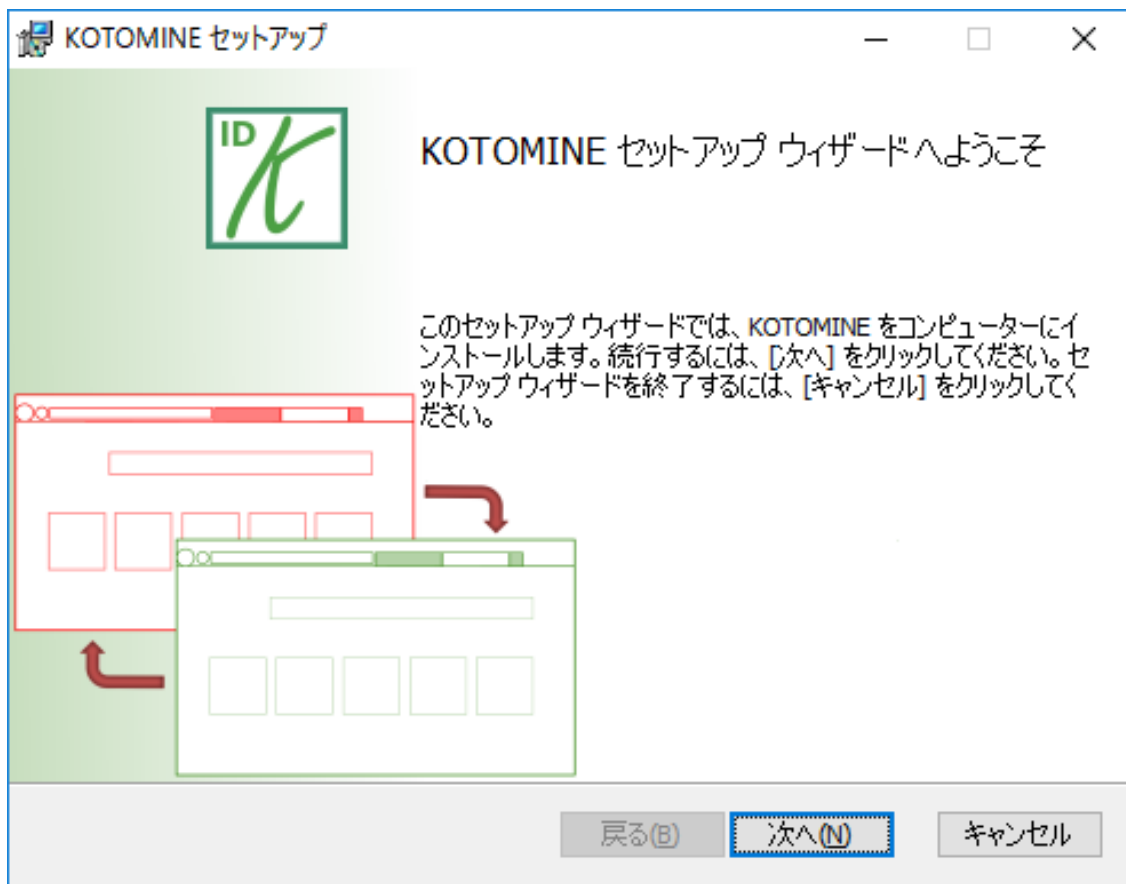
8.4.4 MSI によるインストール

インストール手順 / 更新手順

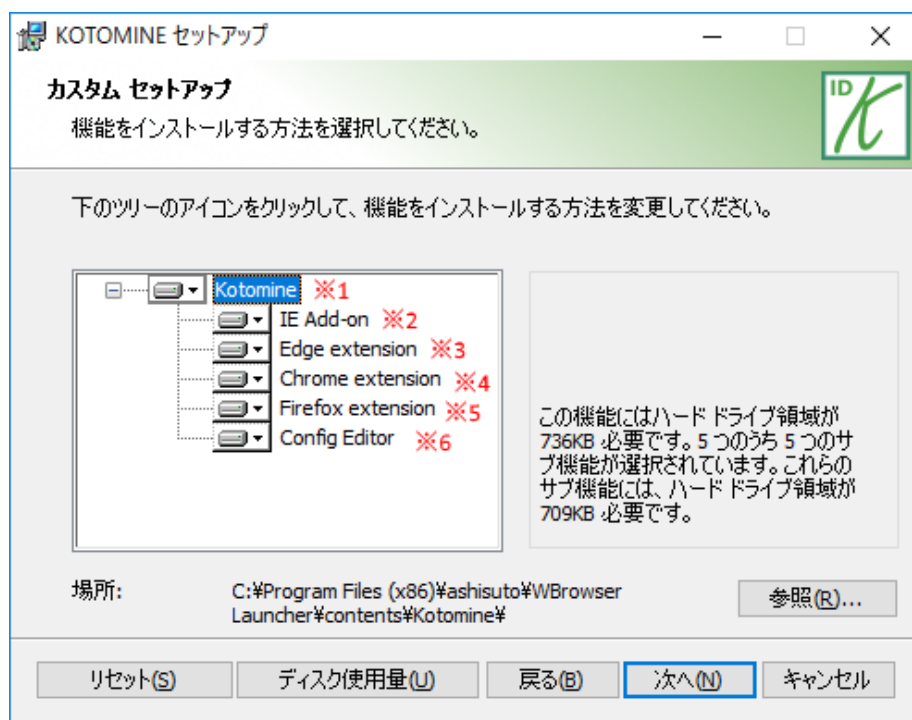
1. KOTOMINE のフォルダーから Setup.x86.msi を起動します。



2. 「次へ」をクリックします。



3. インストールする方法を選択します。

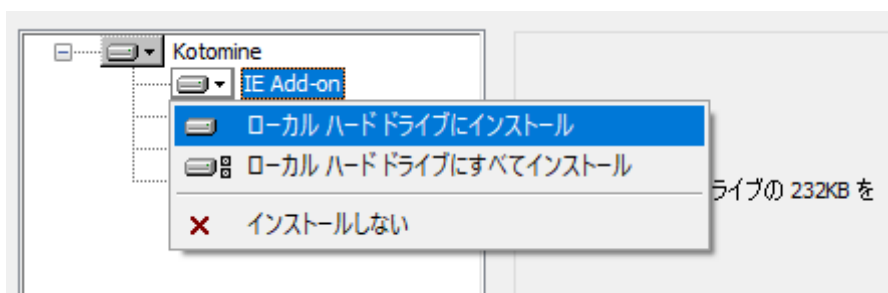


- ※ 1 **Kotomine:** メイン機能です。
- ※ 2 **IE Add-on:** Internet Explorer にアドインをインストールします。IE での閲覧の場合、URL を判別し、必要に応じて IE での閲覧を停止し AccessPad で開きます。IE がインストールされた際のみ表示します。
- ※ 3 **Edge extension:** Edge に拡張をインストールします。Edge での閲覧の場合、URL を判別し、必要に応じて Edge での閲覧を停止し AccessPad で開きます。Windows 10 Fall Creators Update 以降では、Edge がインストールされた際のみ表示します。
- ※ 4 **Chrome extensions:** Chrome に拡張をインストールします。Chrome での閲覧の場合、URL を判別し、必要に応じて Chrome での閲覧を停止し AccessPad で開きます。Chrome がインストールされた際のみ表示します。
- ※ 5 **Firefox extension:** Firefox に拡張をインストールします。Firefox での閲覧の場合、URL を判別し、必要に応じて Firefox での閲覧を停止し AccessPad で開きます。Firefox がインストールされた際のみ表示します。
- ※ 6 **Config Editor:** KOTOMINE の設定とイントラネット URL の一覧を編集するツールです。デフォルトではインストールされません。

ツリーではインストールが必要な機能を選択できます。

(ア) インストールする場合、該当する機能名を左クリックし、「ローカル ハード ドライブにインストール」を選択します。

(イ) インストールが必要ない場合、該当する機能名を左クリックし、「インストールしない」を選択します。



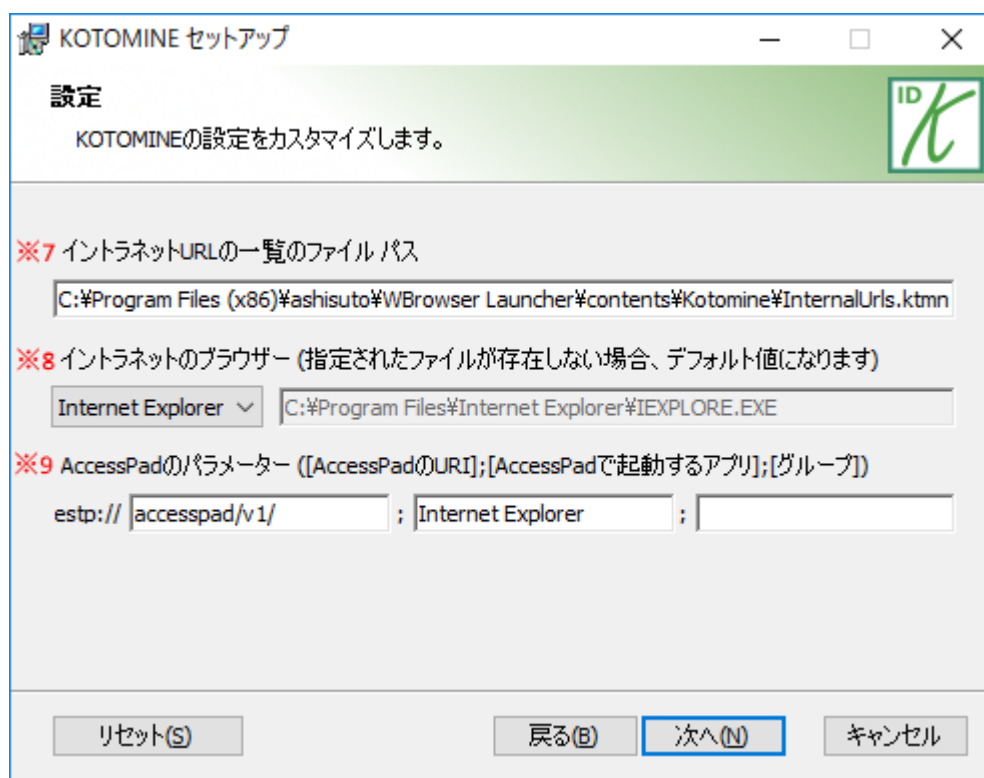
選択後「次へ」ボタンをクリックします。



インストール先フォルダーは変更できますが、保守等のサービスを円滑に受けられない場合がありますので、可能な限りパスを変更しないでください。

参考:

4. 設定をカスタマイズします。



- ※7 イン트라ネット URL の一覧のファイルパス: イン트라ネットのブラウザで閲覧できる URL が入力されたファイルのパスです。
- ※8 イン트라ネットのブラウザ: イン트라ネットの URL を開くためのブラウザです。KOTOMINE の対応するブラウザがインストールされた場合、コンボボックスから選べます。指定されたファイルが存在しない場合、デフォルト値 (IE) になります。KOTOMINE はイン트라ネットのブラウザを「"C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe" http://www.idnet.co.jp」、又は「microsoft-edge:http://www.idnet.co.jp」という形式で呼び出します。設定されたブラウザに対応する起動方法がない場合、イン트라ネット URL は開かない可能性があります。

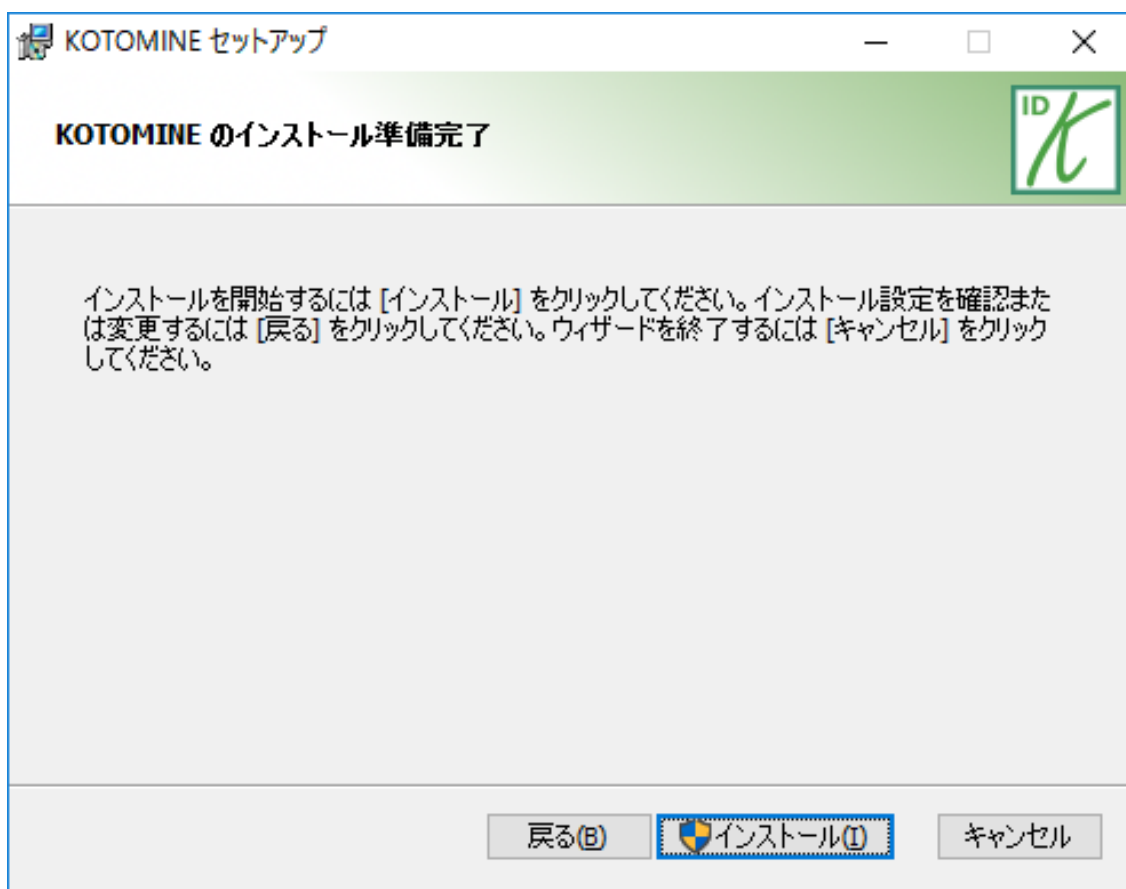
- ※ 9 AccessPad のパラメーター: AccessPad を起動する URI や AccessPad で起動するアプリ名やアプリのグループです。このフィールドに入力が必要な値は AccessPad の管理者に問い合わせてください。



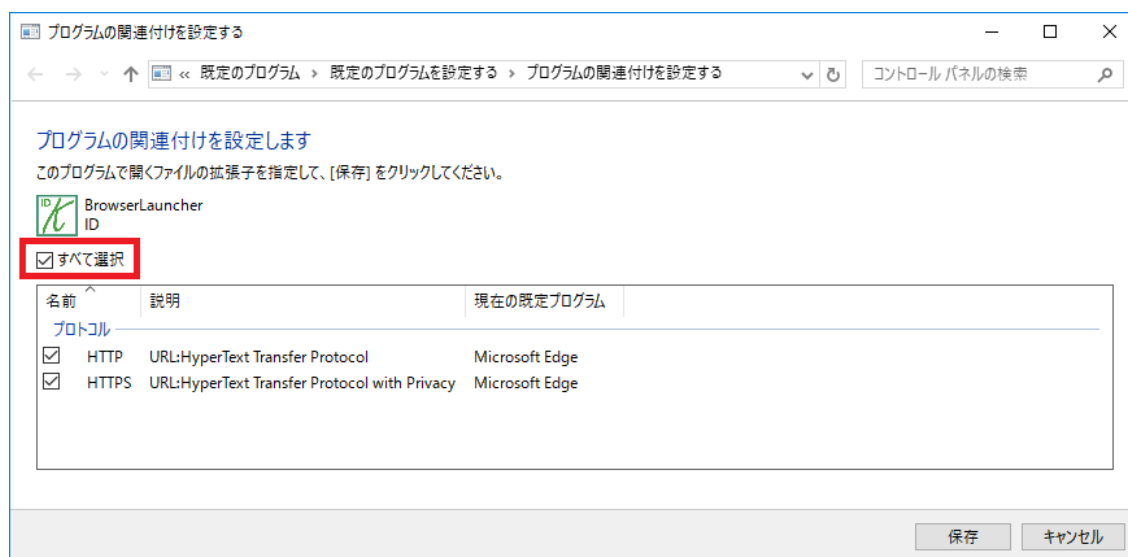
参考:

前バージョンからの更新の場合は、この画面にはインストールされた前バージョンの設定が表示されます。設定を変更せずに「次へ」ボタンをクリックすると、前バージョンの設定が新バージョンに引き継がれます。表示されていない設定も常に引き継がれます。必要に応じて、インストール後に config ファイルを修正してください。

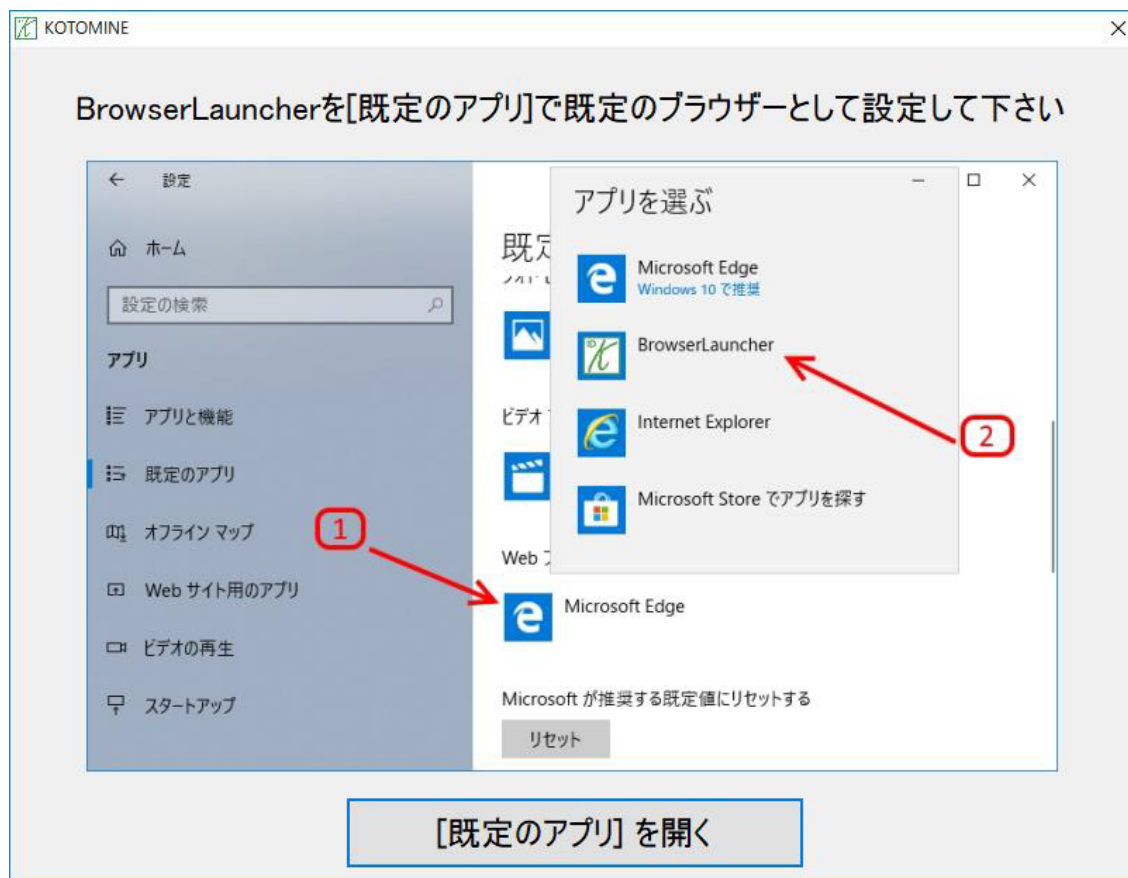
5. 「インストール」ボタンをクリックします。UAC のダイアログが表示される場合があります。必要に応じて管理者のパスワードを入力してください。



6. Windows 8 の場合、「プログラムの関連付けを設定する」画面が表示されます。「すべて選択」のチェックボックスをチェックし、保存ボタンをクリックします。



7. Windows 10 の場合、下記の画面が表示されます。「[既定のアプリ] を開く」ボタンをクリックし、設定アプリの [既定のアプリ] で BrowserLauncher を既定のブラウザーとして設定します。



8. 完了



■ 無人モードとインストーラーのパラメーター

KOTOMINE は無人モードでインストールすることができます。そのためには、下記のコマンドを実行してください。

```
msiexec.exe /i Setup.x86.msi /passive
```

上記のコマンドを実行すると、KOTOMINE はデフォルト値のパラメーターでインストールされます。コマンドに下記のパラメーターを引き渡すことでインストーラーのパラメーターの値を変えることができます。

- **INSTALLFOLDER** インストール先フォルダーです。(※円滑な保守サポートのために変更しないでください。)
- **INTERNAL_URLS_PATH** イン트라ネットのブラウザで閲覧できる URL が入力されたファイルのパスです。(※円滑な保守サポートのために変更しないでください。)
- **ACCESS_PAD_URI** AccessPad を起動するプロトコル無しの URI です。(※変更しないでください。)
- **ACCESS_PAD_APP** AccessPad で起動するアプリ名です。
- **ACCESS_PAD_GROUP** AccessPad で起動するアプリのグループです。
- **INTERNAL_BROWSER** イン트라ネットの URL を開くためのブラウザです。指定されたファイルが存在しない場合、デフォルト値 (IE) になります。

KOTOMINE はイントラネットのブラウザを「"C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe" <http://www.idnet.co.jp>」、又は「microsoft-edge:<http://www.idnet.co.jp>」という形式で呼び出します。設定されたブラウザに対応する起動方法がない場合、イントラネット URL は開かない可能性があります。

コマンドの例

```
msiexec.exe /i Setup.x86.msi /passive ACCESS_PAD_APP="Internet Explorer" ACCESS_PAD_GROUP=
↪ "WBrowser" INTERNAL_BROWSER="C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe"
```

■ Quiet モード

KOTOMINE は Quiet モードでインストールすることができます。そのためには、管理者として実行されたコマンドプロンプトで下記のコマンドを実行してください。

```
msiexec.exe /i Setup.x86.msi /quiet
```

上記のコマンドを実行すると、KOTOMINE はデフォルト値のパラメーターでインストールされます。コマンドにパラメーターを引き渡すことでインストーラーのパラメーターの値を変えることができます。パラメーターは無人モードのパラメーターと同じです。「[無人モードとインストーラーのパラメーター](#)」(ページ 611)をご参照ください。

コマンドの例

```
msiexec.exe /i Setup.x86.msi /quiet ACCESS_PAD_APP="Internet Explorer" ACCESS_PAD_GROUP=
↪ "WBrowser" INTERNAL_BROWSER="C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe"
```

8.4.5 連携キット (ClickOnce 版) による配布

âŠā 連携キットの配布用ファイルサーバの contents ディレクトリ内に Kotomine.zip を展開してください。

âŠą 必要に応じて、BrowserLauncher.exe.config ファイルの設定を修正します。詳しくは「[使用にあたって](#)」(ページ 623) - 「[設定の編集](#)」をご参照ください。

âŠć IE-Addon はインストールされません。必要な場合、各端末で管理者として実行されたコマンドプロンプトで下記のコマンドを実行してください。

```
BrowserLauncher.exe -unregisterAddon -registerAddon
```

âŠč Chrome 拡張はインストールされません。必要な場合、各端末で管理者として実行されたコマンドプロンプトで下記のコマンドを実行してください。

```
BrowserLauncher.exe -registerChromeExt
```

※連携キットの配布用ファイルサーバの所在等についてはダブルブラウザの管理者にお問い合わせください。



注意:

前バージョンからの更新の場合は、Kotomine.zip を展開する前に InternalUrls.ktmn と BrowserLauncher.exe.config を保存します。展開後には InternalUrls.ktmn を contents ディレクトリに戻し、旧 config ファイルの設定を新 config ファイルに記入します。



参考:

BrowserLauncher.exe がインストールされたパスについては下記のレジストリの値を確認してください。

```
HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\ID\Kotomine\AppPath
```

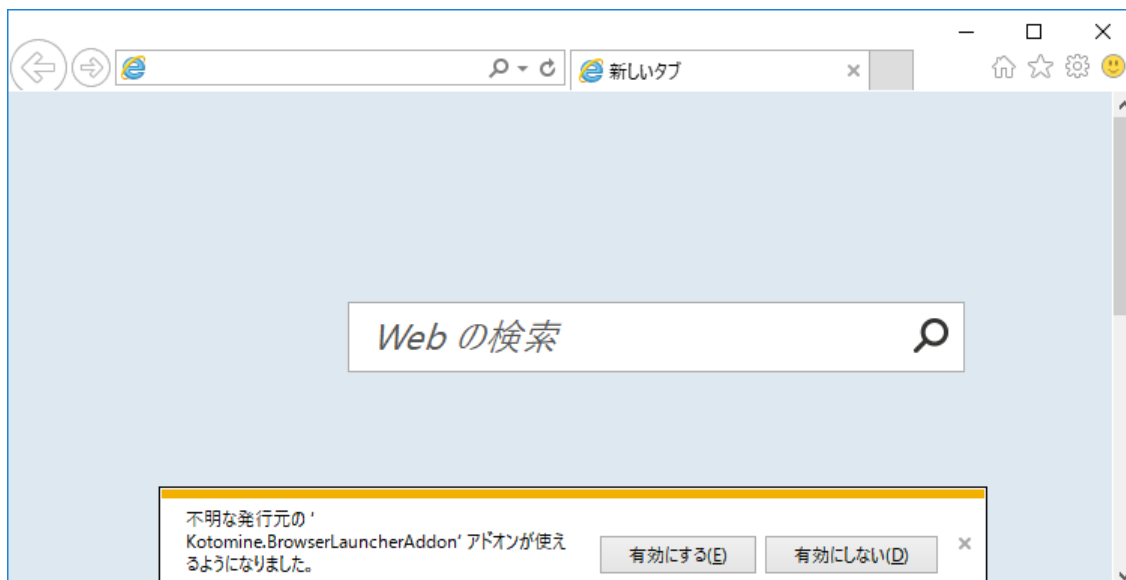


Tips:

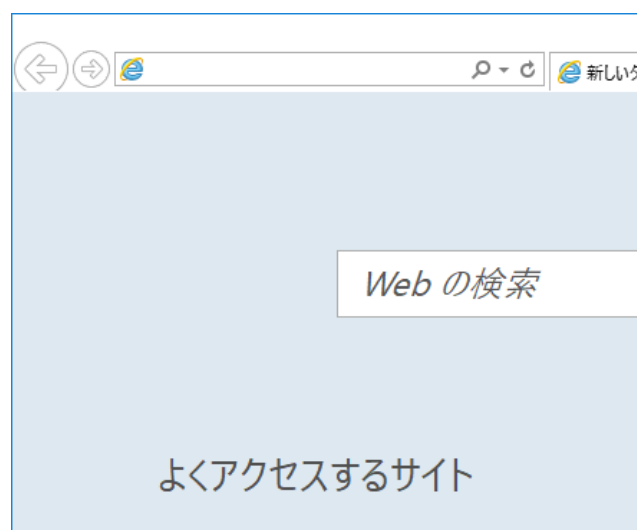
IE-Addon と Chrome 拡張のインストールについては、グループポリシーを活用することも可能です。詳しくは「[グループポリシーについて](#)」(ページ 628)をご参照ください。

8.4.6 インストール後 (IE Add-on がインストールされた場合)

1. IE を起動します。
2. 画面の下部に図のようなメッセージが表示された場合、「有効にする」ボタンをクリックします。

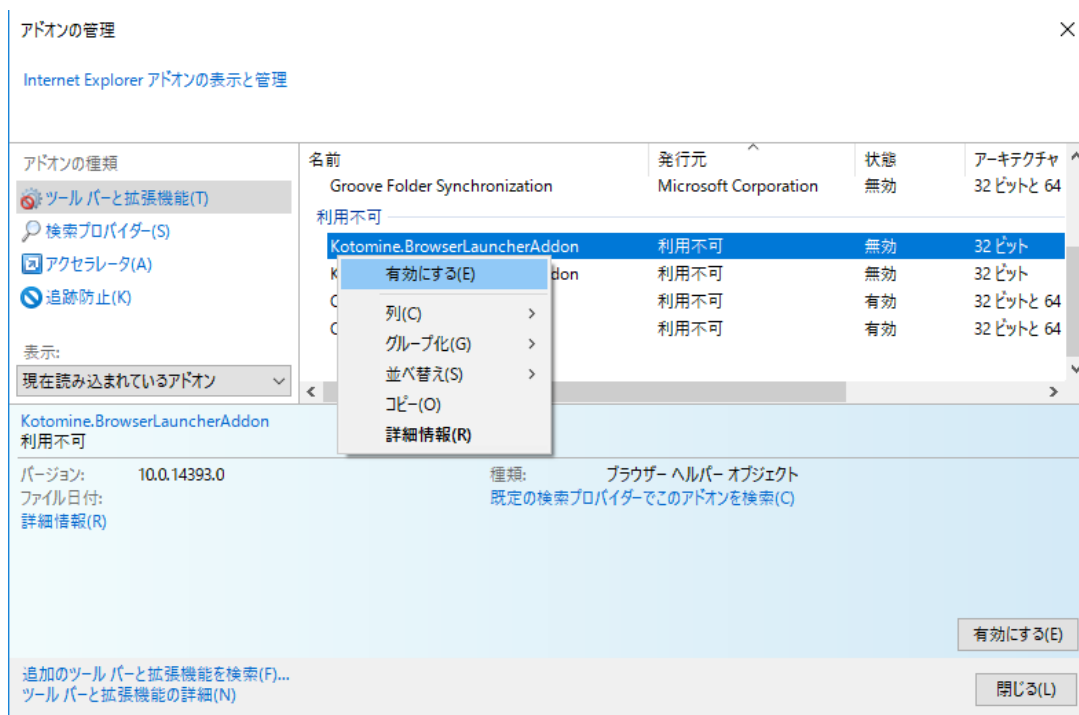


3. 上記のメッセージが表示されない場合



âŠš ツール メニューから「アドオンの管理」を選択します。

âŠš 一覧で Kotomine.BrowserLauncherAddon を左クリックし、表示されたメニューで「有効にする」をクリックします。



4. IE を再起動します。



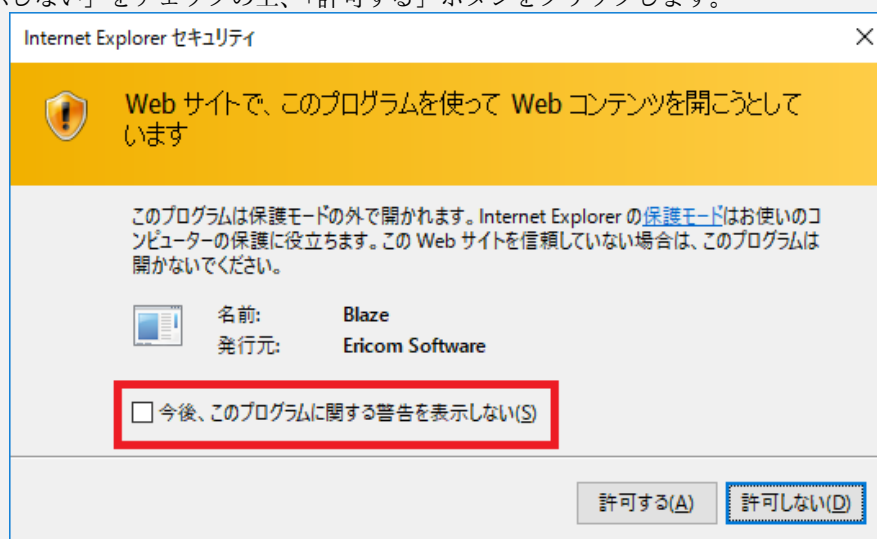
当設定については、グループポリシーを活用することも可能です。詳しくは「グループポリシーについて」(ページ 628)をご参照ください。

Tips:

IE で初めてインターネットの URL を閲覧しようとするとき下記画面が表示される場合があります。「許可する」ボタンをクリックすると AccessPad が起動します。今後、下記画面を表示せずに AccessPad を起動するには「今後、このプログラムに関する警告を表示しない」をチェックの上、「許可する」ボタンをクリックします。



参考:



8.4.7 インストール後 (Chrome 拡張がインストールされた場合)

Chrome 拡張を正常に稼働させるために、Chrome の予測サービスはオフにしてください。



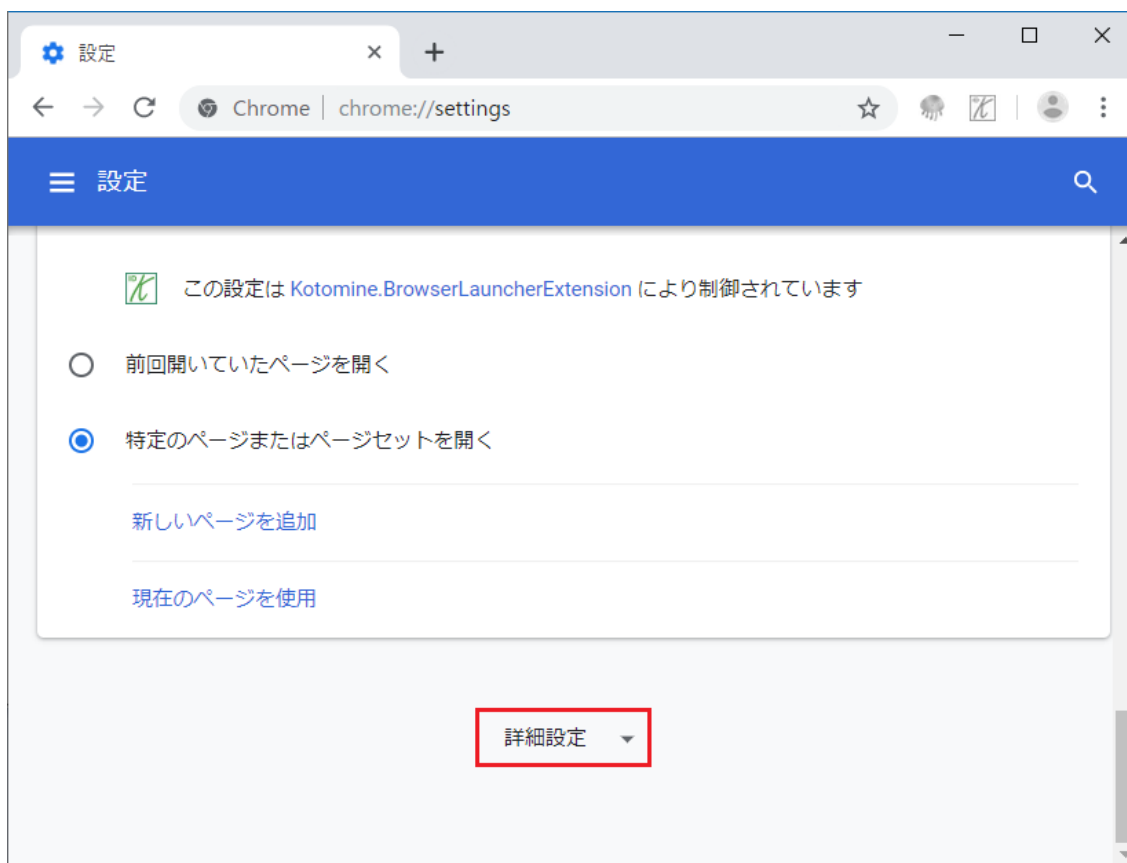
警告:

予測サービスとは、ユーザーがアドレスバーに URL を入力すると同時に、Chrome がその時点で入力した文字から URL を予測し、その予測したページをバックグラウンドで開くサービスです。従って、ユーザーがインターネット URL を入力始めると、予測サービスが URL の入力が終わるまでに URL を予測し、ページを開くことで AccessPad がその時点で起動します。

1. Chrome を起動します。
2. Chrome のメニューで「設定」をクリックします。



3. 画面の下部にある「詳細設定」をクリックします。



4. (a) 開かれたオプションの中で「ページをプリロードして、閲覧と検索をすばやく行えるようにします」のチェックを外します。



Chrome 拡張がインストールされた際、新しいタブのページは空ページになります。それはデフォルトで開くページがインターネット上での URL であるためです。Chrome の再起動で開くページを設定するには、下図のように、設定で「特定のページまたはページセットを開く」をチェックし、「新しいページを追加」をクリックし、表示されたダイアログで KOTOMINE のイントラネット URL の一覧に入っている URL を入力してください。

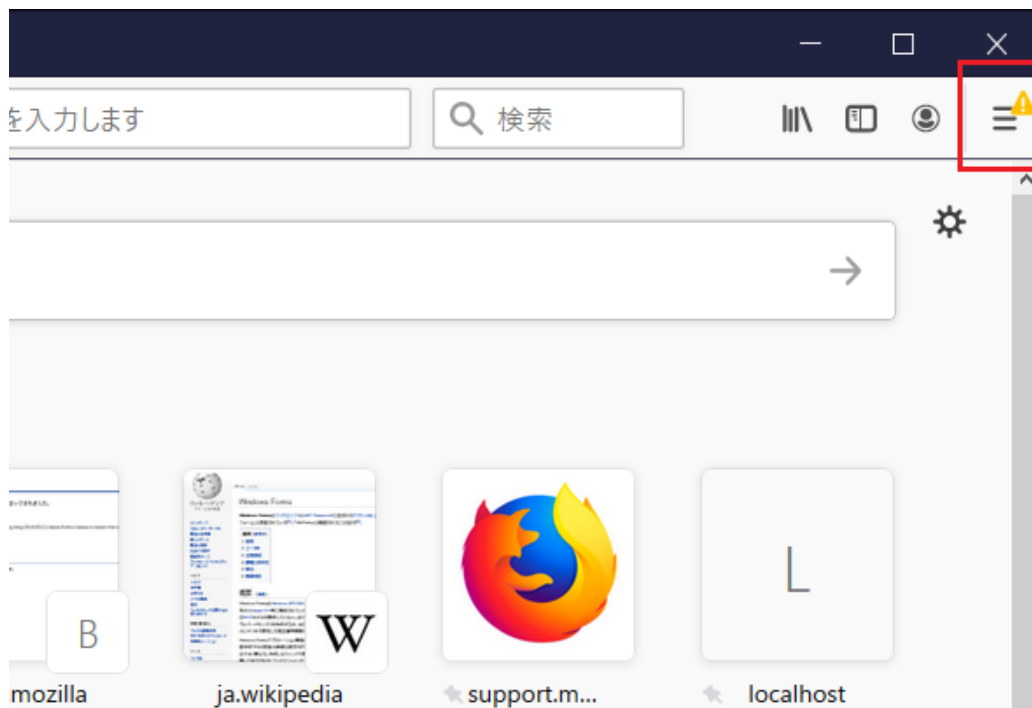


注意:

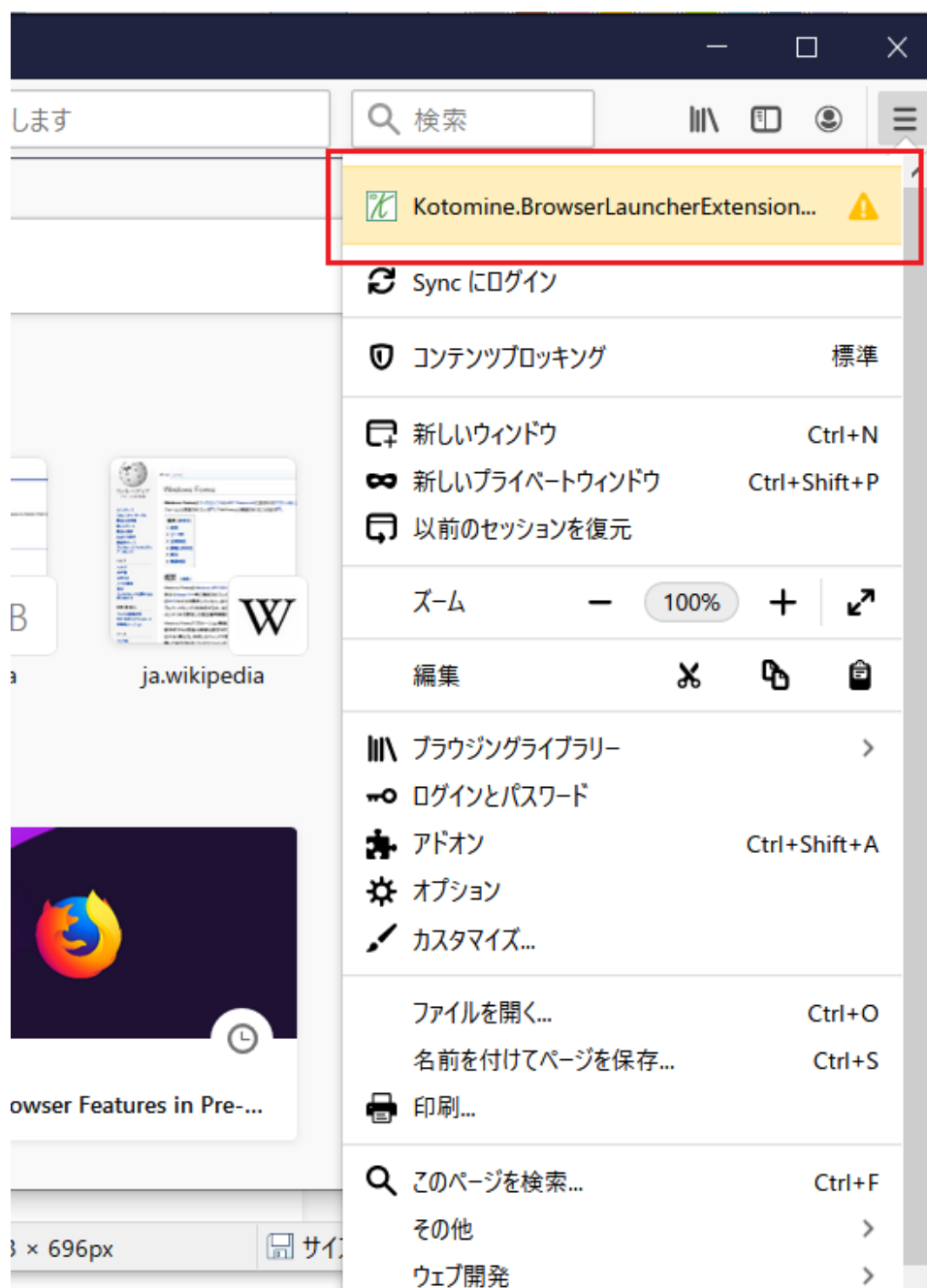
The screenshot shows the Chrome settings page at chrome://settings. The 'On startup' section is visible, with three radio button options: 'Open a new tab page' (unselected), 'Open pages you were last viewing' (unselected), and 'Open specific pages or page sets' (selected). Below the selected option, there is a text box containing the message 'この設定は Kotomine.BrowserLauncherExtension により制御されています'. At the bottom of this section, there are two buttons: 'Add new page' (highlighted with a red box) and 'Use current page'.

8.4.8 インストール後 (Firefox 拡張がインストールされた場合)

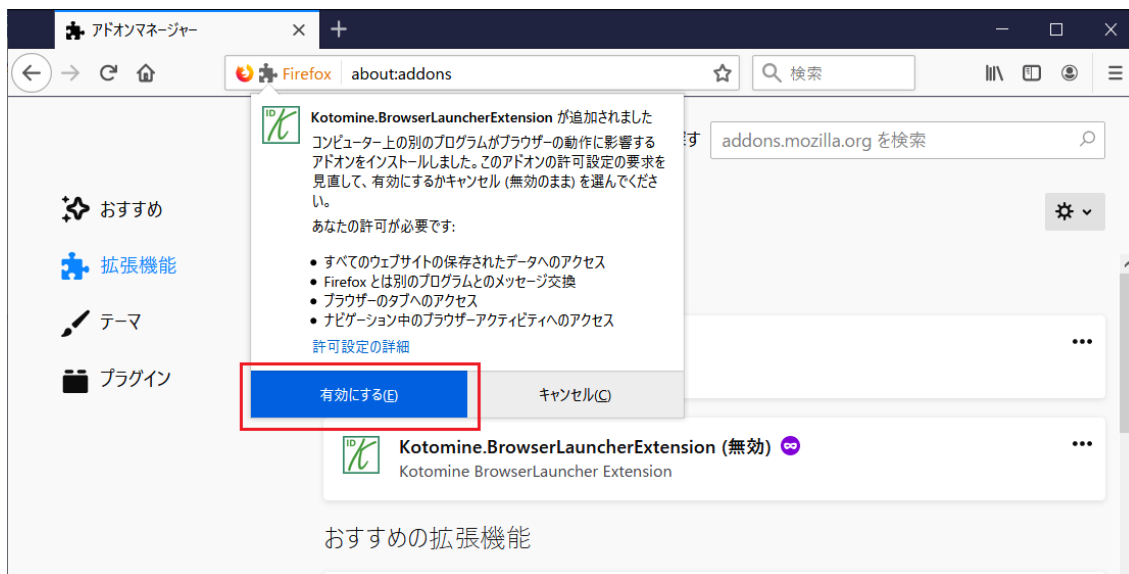
1. Firefox を起動します。
2. 右上の感嘆符のあるアイコンをクリックします。



3. 開かれたメニューで Kotomine.BrowserLauncherExtension をクリックします。



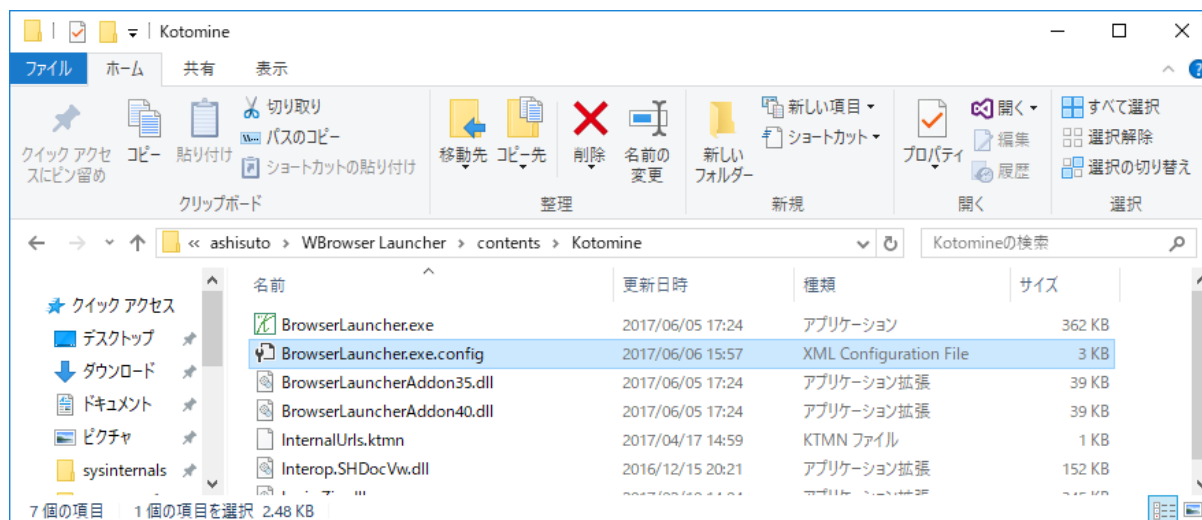
4. アドオンの追加画面で「有効にする」ボタンをクリックします。



8.4.9 使用にあたって

■ 設定の編集 (Config Editor がインストールされていない場合)

インストール後、設定を変える必要がある場合はインストール先フォルダーに格納された BrowserLauncher.exe.config ファイルをメモ帳などで編集してください。



参考:

連携キット (ClickOnce 版) による配布の場合、連携キットの配布用ファイルサーバの contents ディレクトリ内に格納された BrowserLauncher.exe.config を修正してください。クライアント PC にて連携キットの次回起動時に自動的に反映されます。



注意:

MSI でインストールした場合、変更したファイルを必要に応じてクライアント PC へ配布してください。

■ イン트라ネット URL リストの編集 (Config Editor がインストールされていない場合)

1. MSI でインストールの場合は、定義ファイルをインストール先フォルダー配下に配布してください。
2. 連携キット (ClickOnce 版) による配布の場合は、連携キットの配布用ファイルサーバの contents ディレクトリ内に配置してください。



参考:

連携キットの配布用ファイルサーバの所在等についてはダブルブラウザの管理者に問い合わせてください。

■ 設定の編集 (Config Editor がインストールされた場合)

1. スタートメニューで Config Editor を起動します。

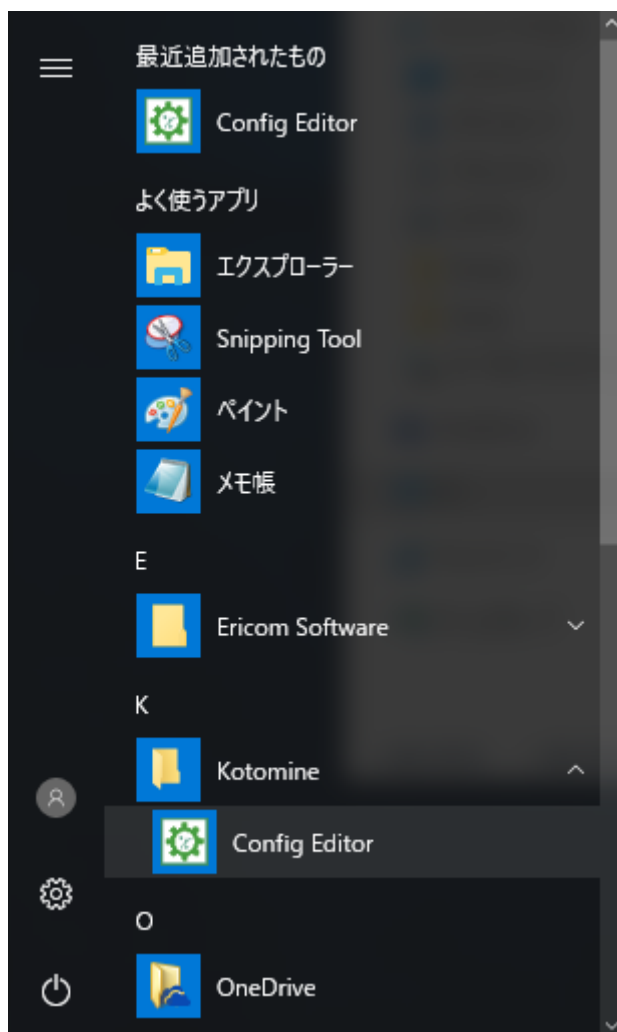


図 8.1 ※ Windows 10 のスタートメニュー

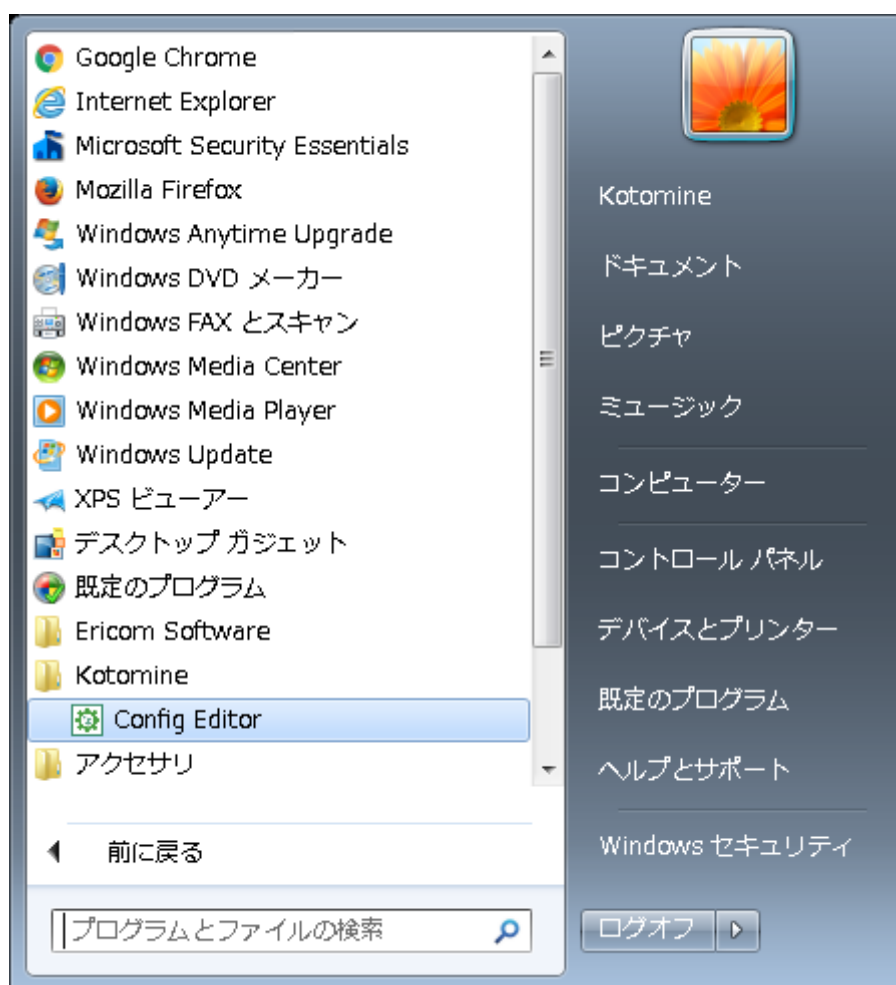


図 8.2 ※ Windows 7 のスタートメニュー

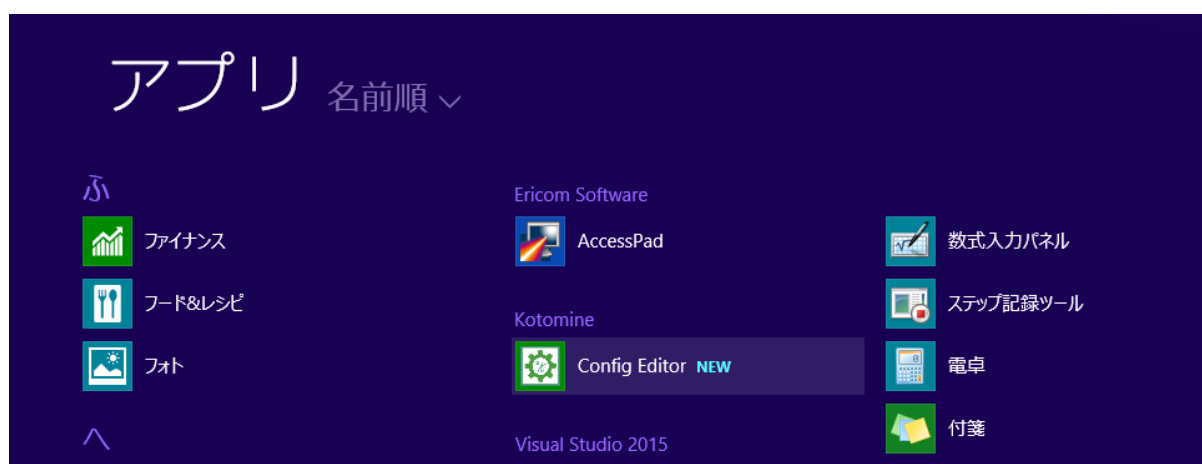
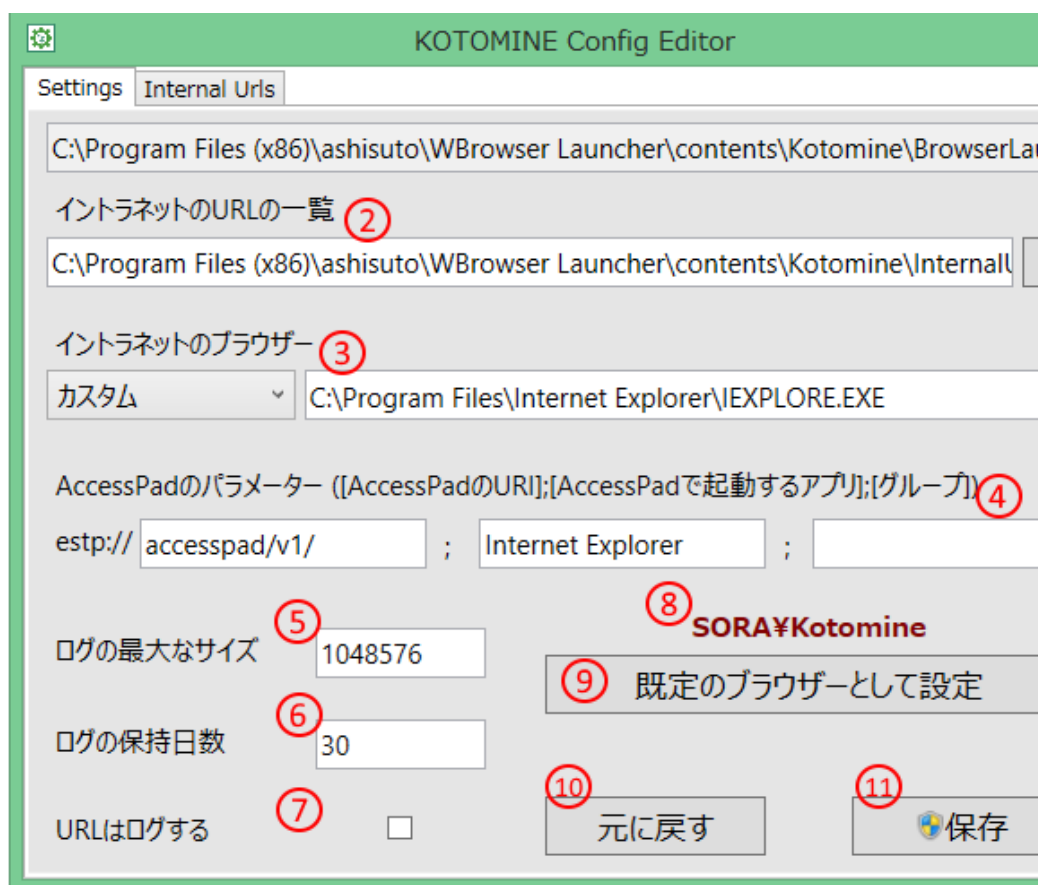


図 8.3 ※ Windows 8.1 のスタート画面



2. 必要な設定を編集します。

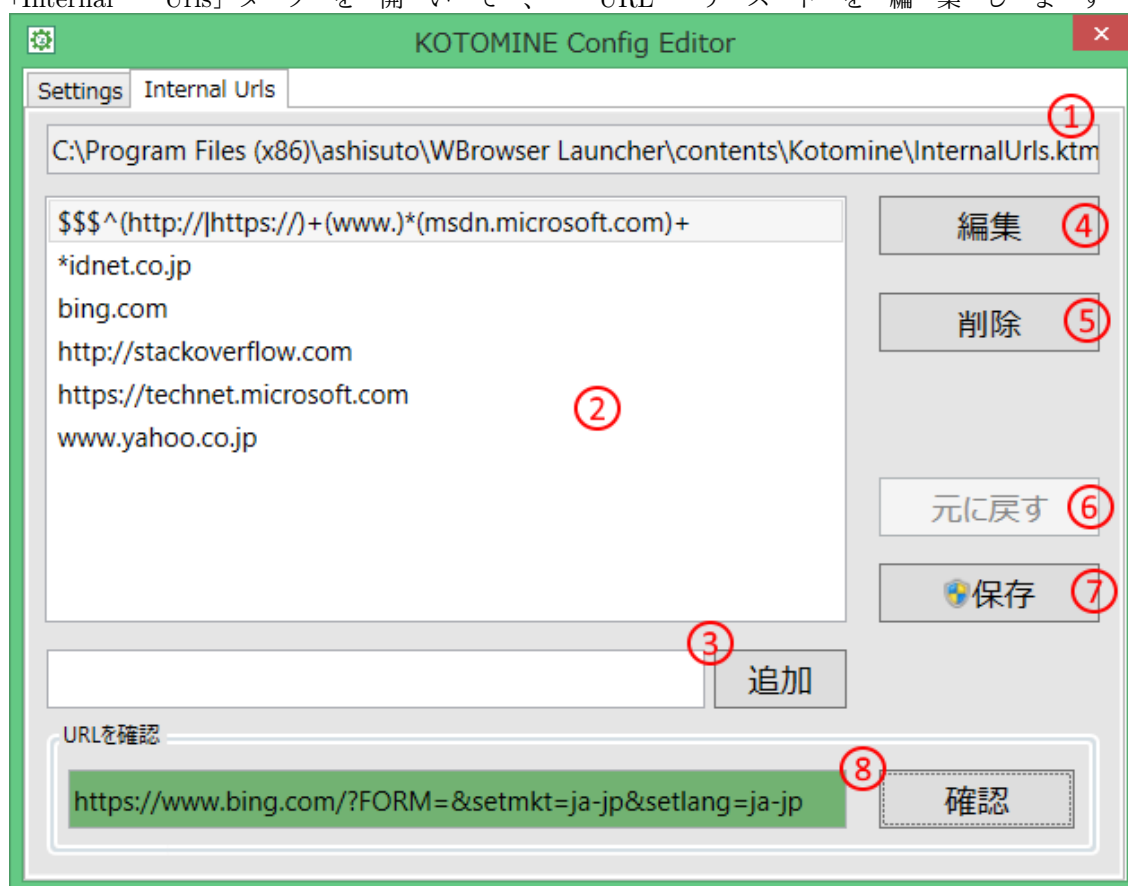
- **âŠā** 修正中の BrowserLauncher.exe.config ファイルのパスです。
- **âŠa** イン트라ネットのブラウザで閲覧できる URL が入力されたファイルのパスです。(同じく Config Editor にて修正できます)
- **âŠc** Word や Outlook といったアプリケーションでリンクをクリックする際、イントラネットの URL を開くためのブラウザです。KOTOMINE の対応するブラウザがインストールされた場合、コンボボックスから選べます。
- **âŠč** AccessPad を起動する URI や AccessPad で起動するアプリ名やアプリのグループです。このフィールドに入力が必要な値は AccessPad の管理者に問い合わせてください。
- **âŠd** ログ ファイルの最大なサイズです。0 の場合、デフォルト値を設定します。当サイズを超えると現在のログ ファイルの名前を変更し、新しいログ ファイルを作成します。
- **âŠe** 古いログを保存する日数です。0 の場合、古いログは保存しません。負数の場合、古いログは削除せずに保存されます。
- **âŠe** ログには KOTOMINE に引き渡された URL 等を記入するか否かの設定です。
- **âŠg** Config Editor を起動しているユーザーのログイン名です。KOTOMINE を既定のブラウザとして設定する際、必要な変更はこのユーザーのアカウントに適用します。
- **âŠí** Windows 7 の場合、KOTOMINE を既定のブラウザとして設定します。Windows 8.1、Windows 10 の場合、KOTOMINE が HTTP と HTTPS を開くように設定するために「プログラムの関連付けを設定する」画面を表示します。「すべて選択」をチェックの上、保存ボタンをク

リックしてください。

- **Ⓐ** 変更した設定をリセットし、ファイルから再読み込みします。
- **Ⓑ** 変更した設定を保存します。

■ イン트라ネット URL リストの編集 (Config Editor がインストールされた場合)

1. スタートメニューで Config Editor を起動します。(「設定の編集 (Config Editor がインストールされた場合)」(ページ 623) をご参考ください)
2. 「Internal Urls」タブを開いて、URL リストを編集します。



- **Ⓐ** 編集中のイントラネットの URL の一覧のファイルのパスです。
- **Ⓑ** イン트라ネットの URL の一覧です。
- **Ⓒ** テキストボックスに入力した URL を一覧に追加します。URL には正規表現を入力できます。KOTOMINE が入力された URL を正規表現として認識するには正規表現の語頭に \$\$\$ を付けて追加してください (上図の一つ目の URL を参照してください)。
- **Ⓓ** 一覧にて選択された URL を編集します。選択した URL を一覧から削除し、Ⓒ のテキストボックスに入力します。
- **Ⓔ** 一覧にて選択された URL を削除します。

- URL の一覧をファイルから再読み込みします。
- URL の一覧を保存します。
- ある URL が一覧でイントラネットの URL として認識されるかどうか確認できます。テキストボックスに確認し
 - － URL が一覧でイントラネットの URL として認識される場合、テキストボックスの背景色は緑色になります。
 - － URL が一覧でインターネットの URL として認識される場合、テキストボックスの背景色は赤色になります。

■ グループポリシーについて

グループポリシーを活用することで運用を容易にできます。

- 自動判別オプションの IE アドオン モジュールと Chrome 拡張 モジュールの追加登録（スタートアップスクリプトの活用）
※連携キット（ClickOnce 版）による配布の場合
- IE アドオンの利用側設定変更ならびに通知の無効化
- Internet Explorer 11 でのデフォルトブラウザの通知無効化
- デフォルトブラウザの再構成（ログオンスクリプトの利用）

詳細は別紙「グループポリシーの活用について」をご参照ください。

8.4.10 (アシスト補足資料)

URL 自動判別オプション (KOTOMINE) を Ericom Connect と組み合わせてご利用いただくための補足資料をご用意しております。

オプションのご利用にあたっては下記を合わせてご確認いただけますようお願いいたします。

- [/各製品との互換性について/](#) (ページ 656)
- [/Ericom Connect の利用時の設定について/](#) (ページ 660)

第 9 章

トラブルシュート

9.1 IVEX ダブルブラウザ Linux



設計/構築/運用における注意点 (ページ 9) および /リリースノート/ (ページ 36) を合わせてご確認ください。

お願い:

■ 9.1.1 仮想ブラウザ起動時にダイアログボックスが表示され、[LoginFailed] と表示されている

ログイン認証に失敗している場合に表示されます。

- パスワードに間違いがある、パスワードの期限切れの可能性がありますのでご確認ください。
- 他の接続先があり、正常に接続できている場合、WBrowserServer 上に AD 認証情報のキャッシュが残ってしまっていることが考えられます。下記コマンドにて AD 認証情報のキャッシュクリアを実行してください。

AD キャッシュクリア方法

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/ /opt/pbis/bin/ad-cache --delete-user --name [ユーザアカウント]
```

※上記 [ユーザアカウント] 部分は事象発生ユーザアカウントを [] なしで指定下さい。

9.1.2 仮想ブラウザ起動時にダイアログボックスが表示され、**[giving up]** と表示されている

IVEX ダブルブラウザ Linux で利用可能なディスクボリュームの利用可能領域が不足している場合や CPU 負荷等が高くなっている場合、接続タイムアウト時等に表示されます。

ディスクボリューム利用可能領域の確認

ディスクボリューム使用率の確認方法

```
$ df -h
```

実行結果サンプル

ファイルシステム	サイズ	使用	残り	使用%	マウント位置
devtmpfs	991M	0	991M	0%	/dev
tmpfs	1001M	0	1001M	0%	/dev/shm
tmpfs	1001M	8.5M	992M	1%	/run
tmpfs	1001M	0	1001M	0%	/sys/fs/cgroup
/dev/mapper/centos-root	64G	25G	40G	38%	/
/dev/sda1	497M	169M	328M	34%	/boot
/dev/loop0	1.3G	1.3G	0	100%	/var/opt/IVEX/WBrowser/base
/dev/loop1	10G	34M	10G	1%	/var/opt/IVEX/WBrowser/cow
overlay	10G	34M	10G	1%	/var/opt/IVEX/WBrowser/root
/dev/loop2	10G	33M	10G	1%	/var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/tmp
tmpfs	201M	0	201M	0%	/run/user/1000

残り 空き容量 **[Check!]**

使用 % 割り当てサイズに対する利用率 **[Check!]**

枯渇した領域がある場合は必要に応じた対処を行ってください。



/var/opt/IVEX/WBrowser/base は 100% 使用となりますが読み取り専用領域として用意しておりますので問題はございません。

参考:

/ [ルート] が枯渇している場合

- /var/log/ 配下のログや過去のバージョンのインストーラーなど、不要なものを削除してください。

`/var/opt/IVEX/WBrowser/cow` が枯渇している場合

- `/var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/log/` 配下のログなど、`/var/opt/IVEX/WBrowser/root/` 配下で不要なものを削除してください。
- または `/usr/local/bin/WBrowser work-expand` (ページ 560) による拡張を実施してください。

CPU 負荷の確認

CPU 利用率の確認方法

```
$ top
```

実行結果サンプル

```
top - 12:58:59 up 1 day, 2:59, 0 users, load average: 0.35, 0.09, 0.02
Tasks: 181 total, 5 running, 176 sleeping, 0 stopped, 0 zombie
%Cpu(s): 46.0 us, 46.7 sy, 5.1 ni, 0.4 id, 1.8 wa, 0.0 hi, 0.0 si, 0.0 st
KiB Mem: 2048600 total, 1983068 used, 65532 free, 310556 buffers
KiB Swap: 1679356 total, 2732 used, 1676624 free. 784660 cached Mem

  PID USER      PR  NI   VIRT   RES   SHR  S %CPU  %MEM    TIME+  COMMAND
 7581 test1    20   0 1744964 130512 56380 R 32.2   6.4   0:00.97 firefox
 7528 test1    20   0 235276   30324 17916 S  6.0   1.5   0:00.18 fcitx
 7384 root      20   0   19640   1628   1272 S  5.0   0.1   0:00.15 bindfs
 3670 root      0 -20     0     0     0 S  4.7   0.0   0:04.27 loop0
 7479 root      39  19  83224  16324  6364 R  3.3   0.8   0:00.10 iwatch
 7211 test1    20   0 152572  16488 13780 S  2.3   0.8   0:00.08 openbox
   27 root      20   0     0     0     0 S  1.3   0.0   0:02.45 kswapd0
 7161 root      20   0   49116  15332  7496 S  1.3   0.7   0:00.06 xrdp
 7203 test1    20   0   88792  23664 11776 S  1.3   1.2   0:00.09 X11rdp
 7590 test1    20   0 112324  17916 13268 S  1.0   0.9   0:00.03 mozc_server
 7549 test1    20   0 296048  14884 13112 S  0.7   0.7   0:00.02 notification-da
    9 root      20   0     0     0     0 R  0.3   0.0   0:06.15 rcuos/0
3739 root      0 -20     0     0     0 S  0.3   0.0   0:00.18 loop2
    1 root      20   0   44640   8708  4068 S  0.0   0.4   0:02.78 systemd
    2 root      20   0     0     0     0 S  0.0   0.0   0:00.01 kthreadd
```

%CPU CPU 占有率 [Check!]

%MEM メモリ占有率 [Check!]

PID プロセス ID (負荷の高いプロセスの終了時等に利用します)

COMMAND タスクのコマンド名

上記が高い状態となっているプロセスが無いか確認を行って下さい。終了することが可能であれば、対象プロセスを停止してください。



必要なプロセスを強制終了してしまうと重大な障害に繋がりますのでご注意ください。

警告:

9.1.3 仮想ブラウザ起動時に [青い] 画面が表示された後に切断される

ベース OS の Linux カーネルが 4.4 でない場合

CentOS7.2/7.3 では Linux カーネル 4.4 が必須です。デフォルトのカーネルバージョンの場合、当事象が発生します。

カーネル 4.4 以上の場合も動作する可能性がありますが、4.8 では同様の事象が発生します。特別な事情がなければ、長期サポートのカーネル 4.4 をご利用ください。

カーネルの更新手順は [\[IVEX ダブルブラウザ Linux 管理者ガイド\] の \[事前作業\]](#) (ページ 551) を参考に行ってください。

template ユーザのファイルオーナーが不正になっている場合

ベース OS の Linux カーネルが正しいバージョンにも関わらず、当事象が発生する場合、template ユーザのファイルオーナーが不正になっている可能性があります。下記の手順に従い、ファイルオーナーの修正を行ってください。

AD 連携をしている場合

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root
# cd /home
# chown -R template:domain^users template/
# chown -R template-user:domain^users template-user
```

AD 連携をしていない場合

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root
# cd /home
# chown -R template:template template/
# chown -R template-user:template template-user
```

9.1.4 仮想ブラウザ起動時に [黒い] 画面が表示された後に切断される

ブラウザ起動前に問題が発生しています。認証からセッション開始の間でのトラブルが考えられるため、下記対応を検討してください。

AD 認証情報のキャッシュクリア

AD 認証情報のキャッシュが不正となっていることが考えられます。AD キャッシュクリアを実行してください。

AD キャッシュクリア方法

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/ /opt/pbis/bin/ad-cache --delete-user --name [ユーザアカウント]
```

※上記 [ユーザアカウント] 部分は事象発生のユーザアカウントを [] なしで指定下さい。

ユーザプロファイルの削除

保持されているユーザプロファイルに問題が発生している可能性があります。削除してしまうと、原因の調査は困難となりますが、サービスの提供再開を優先される場合、実施をご検討ください。

プロファイル削除方法 (mv による待避)

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root/
# cd /home
# mv /home/[ユーザ ID] [ユーザ ID].bak
```



ユーザ個別にお気に入りの保存やダウンロードフォルダの保持を許可している場合、削除すると template ユーザの状態まで巻き戻ります。

警告:

ディスクボリューム利用可能領域の確認

ディスクボリューム使用率の確認方法

```
$ df -h
```

実行結果サンプル

ファイルシステム	サイズ	使用	残り	使用%	マウント位置
devtmpfs	991M	0	991M	0%	/dev
tmpfs	1001M	0	1001M	0%	/dev/shm
tmpfs	1001M	8.5M	992M	1%	/run
tmpfs	1001M	0	1001M	0%	/sys/fs/cgroup
/dev/mapper/centos-root	64G	25G	40G	38%	/
/dev/sda1	497M	169M	328M	34%	/boot
/dev/loop0	1.3G	1.3G	0	100%	/var/opt/IVEX/WBrowser/base
/dev/loop1	10G	34M	10G	1%	/var/opt/IVEX/WBrowser/cow
overlay	10G	34M	10G	1%	/var/opt/IVEX/WBrowser/root
/dev/loop2	10G	33M	10G	1%	/var/opt/IVEX/WBrowser/root/var/tmp
tmpfs	201M	0	201M	0%	/run/user/1000

残り 空き容量 [Check!]

使用 % 割り当てサイズに対する利用率 [Check!]

/var/opt/IVEX/WBrowser/var-tmp が枯渇している場合

- `/usr/local/bin/WBrowser renew-user-tmp-area` (ページ 560) による拡張を実施してください。

9.1.5 プロファイルに関するメッセージが表示され Firefox が起動しない

template ユーザのファイルオーナーが不正になっていることが考えられます。下記の手順に従い、ファイルオーナーの修正を行って下さい。

AD 連携をしている場合

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root
# cd /home
# chown -R template:domain^users template/
# chown -R template-user:domain^users template-user
```

AD 連携をしていない場合

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root
# cd /home
# chown -R template:template template/
# chown -R template-user:template template-user
```

第 10 章

APPENDIX

10.1 構成パターン別 Connect インストールコンポーネント

Connect の構成パターン (RDS、ダブルブラウザ Linux) によって、Connect サーバ上にインストールするコンポーネントの種類が異なります。環境に合わせて、下記のコンポーネントをインストールして下さい。

10.1.1 Windows 版

パターン (1)

Connect サーバ+ RDS サーバ同居構成

Ericom Connect Data Grid	●
Ericom Connect Controller Service	●
Ericom Connect Secure Gateway	*1
Ericom Connect Admin Web Service	●
Ericom Connect Client Web Service	●
Ericom Connect Remote Agent Web Service	*2
Ericom Connect Remote Agent Service	●

パターン (2)

Connect サーバのみ (RDS サーバは別建て) 構成

*1 Ericom Connect Secure Gateway (SSL 通信機能) を Connect サーバと同居させる場合、こちらにチェックを入れてインストールして下さい。

*2 RemoteAgent Type2 を利用する場合、こちらにチェックを入れてインストールしてください。

Ericom Connect Data Grid	●
Ericom Connect Controller Service	●
Ericom Connect Secure Gateway	*1
Ericom Connect Admin Web Service	●
Ericom Connect Client Web Service	●
Ericom Connect Remote Agent Web Service	*2
Ericom Connect Remote Agent Service	

10.1.2 Linux 版

Connect サーバのみ (IVEX ダブルブラウザ Linux サーバは別建て) 構成

Ericom Connect Data Grid	●
Ericom Connect Controller Service	●
Ericom Connect Secure Gateway	*1
Ericom Connect Admin Web Service	●
Ericom Connect Client Web Service	●
Ericom Connect Remote Agent Web Service	●
Ericom Connect Remote Agent Service	*2

*1 Ericom Connect Secure Gateway (SSL 通信機能) を Connect サーバと同居させる場合、こちらにチェックを入れてインストールして下さい。

*2 Connect サーバ上に Windows RDS サーバもインストールする構成の場合、Remote Agent Service にもチェックを入れてインストールして下さい。

10.2 ダブルブラウザ用サンプルアイコン

Ericom Connect で差し替えてご利用いただける、ダブルブラウザ用のサンプルアプリケーションです。

- [ダブルブラウザ用サンプルアイコン]

10.3 IVEX ダブルブラウザ Linux 設計/構築チェックリスト

10.3.1 設計フェーズ

check	確認項目
	サーバ 1 台あたりの同時接続数は 100 以下
	実際の収容数と必要リソースは必ず PoC によって決定する
	PoC では収容数と単位時間当たりのログイン数も考慮する
	クライアント PC とサーバの間に宛先 NAT が存在する場合、SecureGateway を設置する
	初期化せずにユーザ毎に保持するデータがある場合、保存対象のサイズを検討する
	ユーザ毎に保持するデータのバックアップを検討する
	システムバックアップは必ずオフラインバックアップの運用とする

コネクションブローカー有りの場合

check	確認項目
	Connect サーバの可用性設計を行う

	ダブルブラウザ専用の AD 構築を推奨
	ユーザプロフィールを共有するサーバの台数が 8 台を越える場合、rsync(デフォルト)ではなく NFS サーバによる共有を検討する

■ コネクションブローカー無しの場合

check	確認項目
	ユーザアカウントの管理は Linux サーバローカルで行う (AD 連携不可)
	複数台運用する場合、ユーザプロフィールの同期は不可

■ 10.3.2 構築フェーズ

■ ベース OS

check	確認項目
	CentOS7.2/7.3 の場合、カーネルのバージョンは 4.4 または CentOS7.4 か RHEL7.4
	ホスト名は FQDN(computername.domainname)ではなくコンピュータ名のみ (computername)
	ファイルシステムは xfs

	ルートパーティションに十分なサイズがある（特/homeに多くが取られていないこと）
	psmiscが導入されている
	firewalldが導入されている
	xfspgmsのバージョンが4.5以上である

■ IVEX ダブルブラウザ Linux

check	確認項目
	初期化せずにユーザ毎に保持するデータがある場合、下記対象のサイジングに注意する <ul style="list-style-type: none"> - var-tmp.img：セッション利用中に一時的にデータが保持される可能性がある領域 - ベース OS のルートパーティション：実際に保持する領域
	ログオプションを利用する場合、下記対象のサイジングに注意する <ul style="list-style-type: none"> - cow.img：ログデータが保存される領域
	最新の Updater まで順番に適用する

■ その他環境

check	確認項目
	AD 連携時は、AD 上に template-user アカウントが必要

	AD 連携時は、AD に参加可能な権限のアカウント/パスワードの情報が必要
	Connect 連携時は、Connect に参加可能な権限のアカウント/パスワードの情報が必要
	プロファイル共有の設定時は、互いに SSH 接続可能で sudo 権限をもったアカウント/パスワードの情報が必要

10.4 I V E X ダブルブラウザ Linux ベース OS 対応一覧

		CentOS / RedHat Enterprise Linux					
		7.6	7.5	7.4	7.3	7.2	7.1
I V E X	v2.5.1	OK ^{*2}	OK ^{*2}	OK ^{*2}	NG	NG	NG
	v2.5.0	UP ^{*3}	OK ^{*2}	OK ^{*2}	NG	NG	NG
	v2.4.0	NG ^{*4}	OK ^{*2}	OK ^{*2}	NG	NG	NG
	v2.3.0	NG ^{*4}	UP ^{*3}	OK	OK ^{*1}	OK ^{*1}	NG
	v2.2.1	NG ^{*4}	UP ^{*3}	OK	OK ^{*1}	OK ^{*1}	NG
	v2.2.0	NG ^{*4}	UP ^{*3}	OK	OK ^{*1}	OK ^{*1}	NG
	v2.0.2	NG ^{*4}	UP ^{*3}	UP ^{*3}	OK ^{*1}	OK ^{*1}	NG
	v2.0.1	NG ^{*4}	UP ^{*3}	UP ^{*3}	OK ^{*1}	OK ^{*1}	NG
	v1.6.0	NG	NG	NG	OK ^{*1}	OK ^{*1}	NG

*2 OS を新規インストールした環境をサポート (7.3 以前の環境をアップグレードした OS ではファイルシステムのバージョンが古い
ためインストール不可)

*3 新規インストールはできませんが、インストール後に OS のアップグレードを行うことは可能。

*4 インストール後に OS のアップグレードを行うことは可能かもしれませんが、稼働テストを実施していません。(未サポート)

*1 通常インストールする場合、4.4 へのカーネルバージョンアップが必要です。RHEL では標準カーネルのまま、KVM モードによる仮想アプライアンスとしてサポート。

10.5 IVEX ダブルブラウザ Linux Updater(アップデータ/パッチ)の適用について

10.5.1 適用 Updater の選択

Updater 適用の選択は下記を参考にしてください。

- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.5.1 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear, Updater25101, Updater25102, Updater25103 を適用してください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.5.0 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear, Updater25001, Updater25002, Updater25003, Updater25004 を適用してください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.4.0 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear, Updater24001, Updater24002 を適用してください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.3.0 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear を適用してください。
※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.2.1 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear を適用してください。
※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.2.0 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear を適用してください。
※ 2.2.1 以降へのバージョンアップをご検討ください。
※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.1.0 をご利用のお客様
→ defunct-x11rdp-clear, Updater21001, Updater21002 を適用してください。
※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。
- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.0.2 をご利用のお客様

→ defunct-x11rdp-clear,Updater20201,Updater20202 を適用してください。

※ダブルブラウザ連携キットは **7.6.1.7** 以上をご利用ください。(必須)

※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。

● 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux2.0.1 をご利用のお客様

(A) ダブルブラウザ連携キットを同時にアップデート 可能 な場合 (推奨)

→ Updater20101,20102,20103,defunct-x11rdp-clear,20104,20105,20106 を適用してください。

→ ダブルブラウザ連携キットを 7.6.1.7 以上に更新してください。

→ WBrowser-User-Lowercase を適用してください。(連携キット 7.6.1.7 以上に対して必須)

※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。

(B) ダブルブラウザ連携キットを同時にアップデート 不可能 な場合 (7.6.1.6 以下で利用)

→ Updater20101,20102,20103,defunct-x11rdp-clear,20104,20105,20106 を適用してください。

→ ダブルブラウザ連携キットのうち、ConfigurationTool のみ 7.6.1.7 をご利用ください。

※ **WBrowser-User-Lowercase** は適用しないでください。(必須)

※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。

(C) ダブルブラウザ連携キットを同時にアップデート 不可能 な場合 (7.6.1.6 以下で利用)

且つ ConfigurationTool も 7.6.1.6 以下をご利用になる場合。

→ Updater20101,20102,defunct-x11rdp-clear を適用してください。

※ **Updater20103** は適用しないでください。(推奨) 適用をする場合、個別対応が必要となります。別途お問い合わせください。

※ **WBrowser-User-Lowercase** は適用しないでください。(必須)

※ Updater20103 以降の不具合修正が適用されません。バージョンアップをご検討ください。(推奨)

※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。

● 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux1.6.0 をご利用のお客様

→ Updater16001,16002,16003(ext4-to-xf, Firefox-ESR-Installer 含む),16004,16005,defunct-x11rdp-clear,nouse-iwatch-cleanup-2017-08-10-01,16006 を適用してください。

→ ダブルブラウザ連携キットは 7.6.1.6 までとなります。7.6.1.7 以降をご利用の場合は、IVEX ダブルブラウザ Linux2.0.2 をご利用ください。

※ Firefox ESR60 のサポート期間が終了となります。2.5.0 以降へのバージョンアップをご検討ください。

- 現在 IVEX ダブルブラウザ Linux1.6.0 より低いバージョンをご利用のお客様

→ 最新版へのバージョンアップをご検討ください。

10.5.2 適用順序

Updater は必ず若い番号から順番に適用してください。また、途中のものをスキップすることはできません。(Firefox-ESR-Installer.tar.gz を除く)

2.5.1 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- WBrowser-updater-25101.tar.gz
- WBrowser-updater-25102.tar.gz
- WBrowser-updater-25103.tar.gz

2.5.0 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- WBrowser-updater-25001.tar.gz
- WBrowser-updater-25002.tar.gz
- WBrowser-updater-25003.tar.gz
- WBrowser-updater-25004.tar.gz

2.4.0 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- WBrowser-updater-24001.tar.gz
- WBrowser-updater-24002.tar.gz

2.3.0 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz

2.2.1 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz

2.2.0 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz

2.1.0 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- WBrowser-updater-21001.tar.gz
- WBrowser-updater-21002.tar.gz

2.0.2 への Updater 適用順番

- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- WBrowser-updater-20201.tar.gz
- WBrowser-updater-20202.tar.gz

2.0.1 への Updater 適用順番

- WBrowser-updater-20101.tar.gz
- WBrowser-updater-20102.tar.gz
- WBrowser-updater-20103.tar.gz
- WBrowser-User-Lowercase.tar.gz
- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- WBrowser-updater-20104.tar.gz
- WBrowser-updater-20105.tar.gz
- WBrowser-updater-20106.tar.gz

1.6.0 への Updater 適用順番

- WBrowser-updater-16001.tar.gz
- WBrowser-updater-16002.tar.gz
- ext4-to-xfs.tar.gz
- WBrowser-updater-16003.tar.gz

- Firefox-ESR-Installer.tar.gz
- WBrowser-updater-16004.tar.gz
- WBrowser-updater-16005tar.gz
- defunct-x11rdp-clear.tar.gz
- nouse-iwatch-cleanup-2017-08-10-01.tar.gz
- WBrowser-updater-16006tar.gz



注意:

現在 IVEX ダブルブラウザ Linux1.6.0 をご利用のお客様は「WBrowser-User-Lowercase」はご利用できません。また、「defunct-x11rdp-clear」は Updater16003 適用以降の環境でのみご利用いただけます。

10.6 IVEX ダブルブラウザ Linux の Proxy 設定

10.6.1 仮想ブラウザに対するシステム設定

下記ファイルを新規に作成してください

```
<設定ファイル>  
/var/opt/IVEX/WBrowser/root/home/proxy.sh
```

```
<以下記載サンプル>
```

```
#=====
HOST="***.***.***.***"
PORT="****"
NO_PROXY="127.0.0.1,localhost"
#=====
PROXY="$HOST:$PORT"
export http_proxy="http://$PROXY"
export https_proxy="https://$PROXY"
export ftp_proxy="ftp://$PROXY"

export no_proxy="$NO_PROXY"
```

10.6.2 ウイルススキャンパターンファイル更新用設定

下記ファイルを編集してください。

```
<設定ファイル>  
/var/opt/IVEX/WBrowser/root/etc/clamav/freshclam.conf
```

```
<編集箇所>
```

```
#HTTPProxyServer STR  
#HTTPProxyPort NUMBER  
#HTTPProxyUsername STR  
#HTTPProxyPassword STRING
```

該当部分のコメントアウトを削除して、

```
HTTPProxyServer 192.168.1.1  
HTTPProxyPort 8080  
#HTTPProxyUsername STR  
#HTTPProxyPassword STRING
```

などの様に環境に併せ設定を行ってください。

**Tips:**

認証が必要なプロキシの場合は HTTPProxyUsername および HTTPProxyPassword も設定をお願いいたします。

10.7 IVEX ダブルブラウザ Linux バックアップリストツール

バージョンアップ用のバックアップリストツールは出荷時の最新のを IVEX ダブルブラウザのダウンロードパッケージ内に同梱しておりますが、新しい本体がリリースされるたびに、バージョンアップ先バージョンが追加されたものが作成されます。

そのため、利用するタイミングで、こちらから最新のをダウンロードしてご利用いただくことをお勧めします。

バックアップリストツール

10.8 パラメータシート

- [IVEX ダブルブラウザ Linux パラメータシート \(v2.4.0~\)](#)
- [IVEX ダブルブラウザ Linux パラメータシート \(v2.0.1~v2.3.0\)](#)
- [IVEX ダブルブラウザ Linux パラメータシート \(v1.6.0\)](#)

10.9 WBrowser コマンド オプション一覧

- バージョンの確認と変更 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser-version
- AD への参加 (force : AD 参加済みでも、もう一回参加させる場合。) \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ad-adddomain user@domain.local (force)
- サービスの起動 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start
- サービスの終了 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop
- サービスの状態確認 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser status
- 初期化 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser initialize
- アンインストール \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser uninstall
- Ericom Connect サーバとの接続 (テナント名は省略可) \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-connect [Connect サーバの IP] ([テナント名])
- Ericom Connect サーバとの切断 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser ericom-disconnect
- プロファイルを共有するサーバの追加 (force : サーバ追加済みでも、もう一回追加する場合。) \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo [既存のサーバの IP] (force)
- プロファイルを共有するサーバの分離 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser detach-server [分離対象のサーバの IP]
- ユーザ環境分離用一時領域の再作成 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser renew-user-tmp-area [GB 単位の数値]
- システム保存領域の拡張 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser work-expand [GB 単位の数値]
- home 下の設定ファイル、template、adminstartor の同期 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser synchro-conf
- 同期済みサーバの確認 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser jointo-info
- ユーザ毎のロックファイルの確認 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser lock-info [既存のユーザ名]
- ログオプションのバージョン確認 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser logoption-version
- ファイル共有オプションのバージョン確認 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser webdavoption-version
- KVM 環境のコンソールへの接続 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-console
- KVM 環境の状態確認 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-status
- KVM 環境の開始 (停止は ssh やコンソール等から poweroff してください) \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-start

- KVM 環境の自動起動の有効化 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-autostart
- KVM 環境の自動起動の無効化 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-no-autostart
- KVM 環境の強制停止 \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser kvm-destroy

10.10 ログオプション 出力形式詳細情報

No, 項目名	出力内容	データ型	値のサンプル	備考
2	時刻	datetime	2015-08-29 19:10:49.397	YYYY-MM-DD hh:mm:ss.
3	コンピュータ名	varchar(30)	SERVER01	
4	ログインユーザ	varchar(64)	SERVER01\admin	コンピュータ名アカウント or ドメイン名アカウント
5	イベント	varchar(128)	ウェブ	ダブルブラウザでは「ウェブ」のみ対象
6	アプリケーションパス	varchar(2000)	Firefox	ダブルブラウザでは「Firefox」のみ
18	URL	varchar(2000)	http://www.google.co.jp	



参考:

他の項目は Windows 環境のログ取得製品 [IVEX Logger シリーズ] と併用した際に利用される項目となります。全ての項目一覧は [こちらの資料](#) をご確認ください。

10.11URL 自動判別オプション (KOTOMINE) 補足資料

10.11.1 各製品との互換性について

KOTOMINE1.1

ダブルブラウザ・ソリューション

- Windows 版 コネクションブローカー有りに対応
- Linux 版 未対応

Ericom Connect サーバ

- バージョン : 7.5.2 以上

ダブルブラウザ連携キット

- バージョン : 7.6.0.5~7.6.1.7

クライアント PC とローカルブラウザ

- OS バージョン Windows 7 のみ
- 対応ブラウザ Internet Explorer 11 のみ

KOTOMINE1.3

ダブルブラウザ・ソリューション

- Windows 版 コネクションブローカー有りに対応
- Linux 版 コネクションブローカー有りに対応

Ericom Connect サーバ

- Windows 版 7.5.2 以上
- Linux 版 8.1.0 以上

ダブルブラウザ連携キット

- Windows 版 8.1.0.1～8.1.0.2
- Linux 版 8.1.0.1～8.1.0.2

クライアント PC とローカルブラウザ

- OS バージョン Windows 7、Windows 8.1、Windows 10
- 対応ブラウザ Internet Explorer 11、Google Chrome、Mozilla Firefox



Microsoft Edge は未対応

注意:

KOTOMINE1.4

ダブルブラウザ・ソリューション

- Windows 版 コネクションブロッカー有りに対応
- Linux 版 コネクションブロッカー有りに対応

Ericom Connect サーバ

- Windows 版 7.5.2 以上
- Linux 版 8.1.0 以上 (8.2.0 以上を推奨)

ダブルブラウザ連携キット

- Windows 版 8.2.0.1～8.2.0.2
- Linux 版 8.2.0.1～8.2.0.2

クライアント PC とローカルブラウザ

- OS バージョン Windows 7、Windows 8.1、Windows 10
- 対応ブラウザ Internet Explorer 11、Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox

KOTOMINE1.4.1/1.4.2

ダブルブラウザ・ソリューション

- Windows 版 コネクションブローカー有りに対応
- Linux 版 コネクションブローカー有りに対応

Ericom Connect サーバ

- Windows 版 7.5.2 以上
- Linux 版 8.1.0 以上 (8.2.0 以上を推奨)

ダブルブラウザ連携キット

- Windows 版 8.2.0.4～
- Linux 版 8.2.0.4～

クライアント PC とローカルブラウザ

- OS バージョン Windows 7、Windows 8.1、Windows 10(1803)、Windows 10(1809)
- 対応ブラウザ Internet Explorer 11、Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox(~67 以下)

■ KOTOMINE1.4.3

ダブルブラウザ・ソリューション

- Windows 版 コネクションブローカー有りに対応
- Linux 版 コネクションブローカー有りに対応

Ericom Connect サーバ

- Windows 版 7.5.2 以上
- Linux 版 8.1.0 以上 (8.2.0 以上を推奨)

ダブルブラウザ連携キット

- Windows 版 8.2.0.4～
- Linux 版 8.2.0.4～

クライアント PC とローカルブラウザ

- OS バージョン Windows 7、Windows 8.1、Windows 10(1803,1809,1903,1909)
- 対応ブラウザ Internet Explorer 11、Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox

10.11.2 URL 自動判別オプション利用時の Ericom Connect の設定について



ダブルブラウザ連携キットの設定については、[\[ダブルブラウザ連携キット管理者ガイド\]](#) (ページ 598) を参照してください。

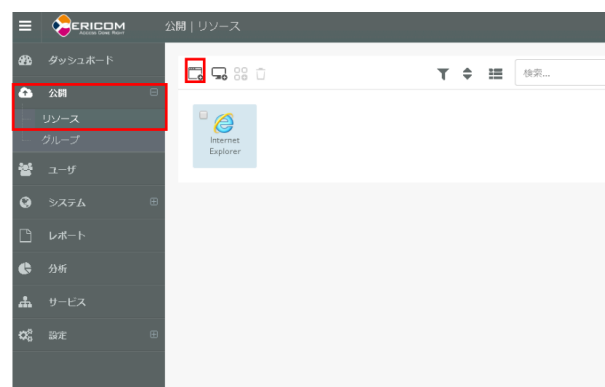
参考:

当ドキュメントは、ダブルブラウザソリューションのオプション製品、URL 自動判別オプション (KOTOMINE) をご利用いただく際の、Ericom Connect (以下、Connect) の設定について、一例を元にご説明した簡易手順書となります。あくまで、簡易的に環境を構築することに重きを置いておりますので、手順書の前提環境に則る記載になっている点をご容赦ください。

1. Connect の管理コンソールへアクセスし、ログインします。

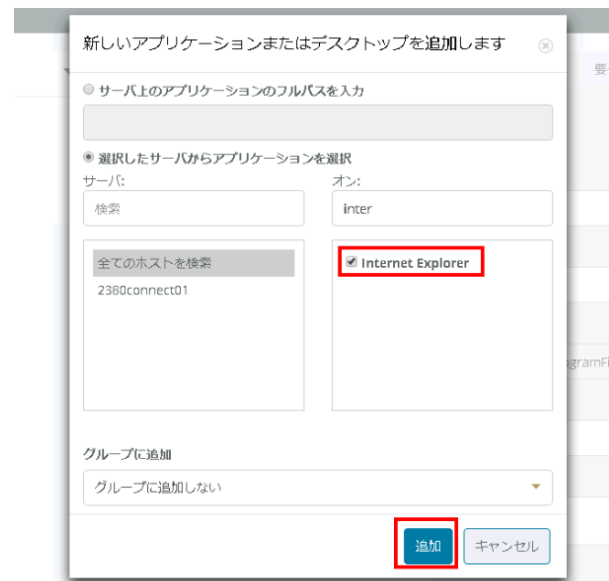


2. [公開]-[リソース] とクリックし、続けて [アプリケーション追加] をクリックします。



3. 既に公開済みのものと同様に、ブラウザを追加公開します。

Windows 版の場合は IE、Linux 版の場合は /etc/xrdp/startwm.sh の公開です。



4. 追加した IE の設定を下記のように変更します。

[基本]

リソース名： HideIE

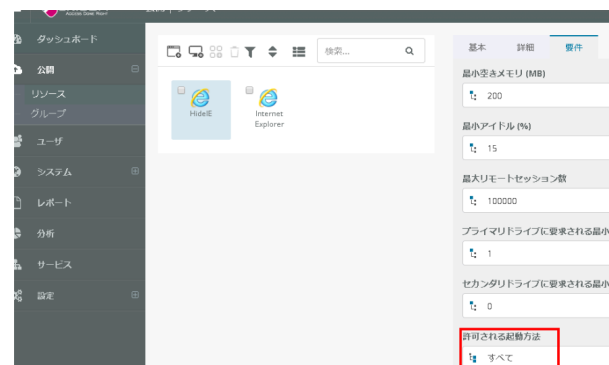
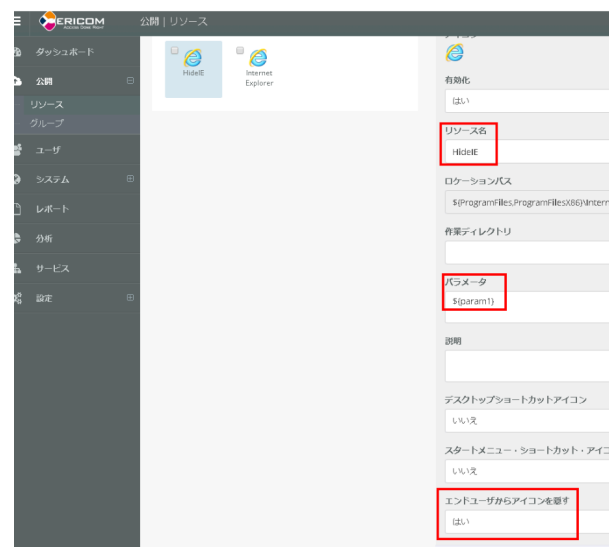
※任意の名前。KOTOMINE 側の設定で利用します。

パラメータ： \${param1}

エンドユーザからアイコンを隠す： はい

[要件]

許可される起動方法： すべて



5. [公開]-[グループ] とクリックし、続けて [グループ追加] をクリックします。



6. 既に公開済みのものと同様に、グループを作成し、[リソース]に先ほど公開設定した HideIE を紐づけて作成します。

[ユーザ]と[リソース]は既存の公開設定と同じで問題ありません。

※グループ名は任意です。KOTOMINE 側の設定で利用します。

新しいグループを作成

グループ名
Hide

下記のタブにあるアプリケーションとデスクトップのリストからアイテムを選んでください。

アプリケーション (1) デスクトップ (0)

名前	最終追加
<input checked="" type="checkbox"/> HideIE	Jul 19, 2017, 4:56:24 PM
<input type="checkbox"/> Internet Explorer	Jul 19, 2017, 4:49:40 PM

10 行(表示) 2 行中 1 / 2

作成 キャンセル

基本 リソース 詳細 ユーザ システム

+

名前	タイプ	ドメイン	プロパティ
Domain Users	グループ	cvtest.local	

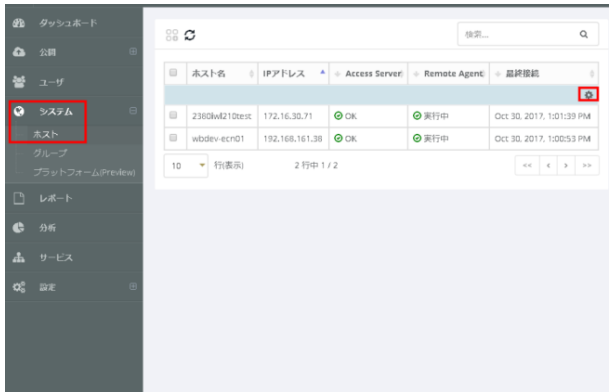

10 行(表示) 1 行中 1 / 1

基本 リソース 詳細 ユーザ システム

+

グループ名	ホスト数
Windows RDS	0

10 行(表示) 1 行中 1 / 1

<p>7. [システム]-[ホスト] とクリックし、リスト上部の [歯車マーク] をクリックします。</p> <p>[設定] タブの [サービス Keep Alive 間隔] を [30] から [3] に変更します。</p> <p>変更したら [保存] ボタンをクリックし、設定を保存します。</p> <p>※この設定は Linux 版のみ必須です。 Windows 版では不要です。</p>	
<p>8. 変更したら [保存] ボタンをクリックし、設定を保存します。</p> <p>※この設定は Linux 版のみ必須です。 Windows 版では不要です。</p>	
<p>9. 設定変更後、即時反映させるために、ダブルブラウザ Linux のサービスを再起動します。</p> <p>※この設定は Linux 版のみ必須です。 Windows 版では不要です。</p>	<pre>\$ sudo /usr/local/bin/WBrowser stop \$ sudo /usr/local/bin/WBrowser start</pre>

10.11.3 KOTOMINE の ConfigEditor による設定について

KOTOMINE において、前項で設定した Connect での公開内容の登録する場合の手順を記載します。

1. < ClickOnce で連携キットを配布している場合 >

配布元のファイルサーバ上に展開した Kotomine フォルダ (Contents フォルダ配下に存在) の ConfigEditor.exe を実行し、KOTOMINE ConfigEditor を起動します。

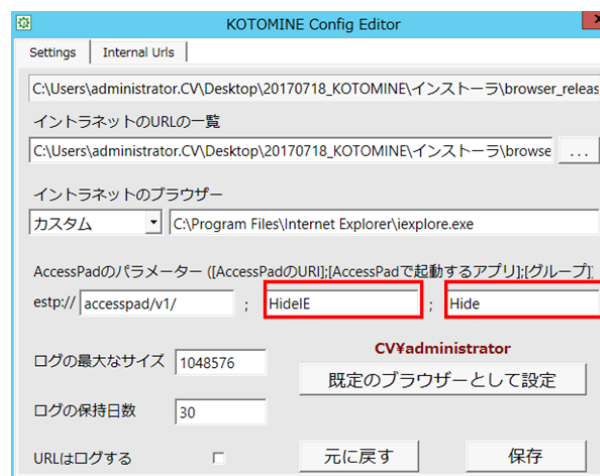
< MSI で連携キットおよび KOTOMINE をインストールしている場合 >

管理者端末にインストールした KOTOMINE Config Editor を起動します。

[Settings] タブにある AccessPad のパラメーターにおいて、それぞれ下記の対応で値を入力してください。

- AccessPad で起動するアプリ:
前項の手順 4 で設定したリソース名
- グループ:
前項の手順 6 で設定したグループ名

入力を行ったら「保存」ボタンをクリックしてください。



2. その他、KOTOMINE に関する詳細な設定、[Internal Urls] の設定などについては、[\[URL 自動判別オプション \(KOTOMINE\) 管理者ガイド\]](#) (ページ 600) をご参照ください。

3. Config Editor で設定した内容は、下記 2 ファイルに記録されています。

Kotomine 設定ファイル：

BrowserLauncher.exe.config

イントラネット URL リスト：

InternalUrls.ktmn

<連携キットを **ClickOnce** で配布している場合>

「Contents フォルダ」配下のファイルはクライアント PC に同期されるため、再配布は不要です。

< **MSI** で連携キットおよび **KOTOMINE** をインストールしている場合>

更新された 2 ファイルを、各クライアント PC に配布してください。

配布先：

[連携キットインストールパス
]ContentsKotomine

10.12 変換候補表示暫定対応手順

10.12.1 作業前提

- IVEX ダブルブラウザ Linux ver.2.1.0 では Updater21001 が適用済みであること。ver.2.2.0 および 2.2.1 では前提条件はありません。
- ユーザログイン中にインストールしても問題ありません。インストール後、再ログインしたユーザから反映されます。
- 複数台環境の場合には適用したい全てのサーバ上でインストールが必要です。

10.12.2 作業手順

インストール手順

下記コマンドを実行します。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root  
# apt install uim-gtk2.0
```

アンインストール手順

下記コマンドを実行します。

```
$ sudo chroot /var/opt/IVEX/WBrowser/root  
# apt purge uim-gtk2.0
```

10.12.3 その他

- 変換候補は Firefox ウィンドウの左下に表示されます。
- 表示上の注意として、Firefox と Blaze のウィンドウの配置によって、変換候補が Firefox ウィンドウの下側に表示される場合があります。Firefox ウィンドウを全画面で利用したり、下にスペースが少なくなるように移動させる等で、Firefox ウィンドウに収まるように表示されます。変換候補が下に隠れて見えないといった場合には Firefox のウィンドウの移動をお試しください。

10.13 サポートポリシー

10.13.1 IVEX ダブルブラウザ Linux

対象製品

このルールについては以下の 3 製品にのみ適用対象となります。

- IVEX ダブルブラウザ Linux
- ファイル共有オプション
- ログオプション (Enterprise 版を除く)

バージョンレベルの定義

以下の三種類のバージョンレベルのリリースがあります。各バージョンレベルがリリースされると、赤字の番号が更新されます。

- メジャーバージョンレベル : **x** .x.x
- マイナーバージョンレベル : x. **x** .x 機能拡張と不具合修正が含まれます
- サービスリリースレベル : x.x. **x** 不具合修正リリースのみが含まれます

リリースとサポートの前提

- 正式リリースの案内は、パートナーメルマガ/パートナー Web/当ページおよび Ericom 製品オンラインドキュメントのサポート状況一覧/サポートメルマガにて告知します。
- ファイル共有オプション、およびログオプションは、対応する本体のサポートに準じます。

サポートポリシー

● EOS (End of Support)

- OS メーカーによる正規サポート終了と共に、OS 起因となる障害サポートは終了といたします。
- 製品起因の障害のサポートはベース OS の正式サポート終了から 1 年間で EOS となります。
- 本 EOS についてはベース OS 及びダブルブラウザ Linux で利用している Ubuntu(14.04LTS/18.04LTS) において同様となります。

販売ポリシー

- 新規購入時はアシストのリリース最新バージョンが提供されます。
- 追加購入時はリリース後 5 年以内であれば現利用バージョンと同一を提供します。

サポート状況一覧

製品	バージョン	対応ベース OS	ベース OS のサポート終了	製品内部の Ubuntu	Ubuntu のサポート終了	製品起因の不具合対応終了 (EOS)
IVEX ダブルブラウザ Linux	1.6	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 14.04 LTS	2019 年 4 月	2020 年 4 月
	2.0	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 14.04 LTS	2019 年 4 月	2020 年 4 月
	2.1	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 14.04 LTS	2019 年 4 月	2020 年 4 月
	2.2	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 14.04 LTS	2019 年 4 月	2020 年 4 月
	2.3	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 14.04 LTS	2019 年 4 月	2020 年 4 月
	2.4	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 14.04 LTS	2019 年 4 月	2020 年 4 月
	2.5	CentOS 7 / RHEL 7	2024 年 6 月 30 日	Ubuntu 18.04 LTS	2023 年 4 月	2024 年 4 月

10.13.2 ダブルブラウザ連携キット

対象製品

このルールについては以下の 1 製品にのみ適用対象となります。

- ダブルブラウザ連携キット

バージョンレベルの定義

以下の 2 種類のバージョンレベルのリリースがあります。各バージョンレベルがリリースされると、赤字の番号が更新されます。

- Ericom 製品バージョンレベル：x.x.x .x 含まれる、Ericom AccessPad のバージョン番号と一致します。
- 連携キットバージョンレベル：x.x.x. x 連携キットのリリース毎にインクリメントされます。不具合修正と機能拡張が含まれます。

リリースとサポートの前提

- Ericom 製品のバージョンアップ時には、それに追従するマイナーバージョンアップを Ericom 製品リリース後 1 ヶ月以内を目処に提供します。

- 正式リリースの案内は、パートナーメルマガ/パートナー Web/当ページおよび Ericom 製品オンラインドキュメントのサポート状況一覧/サポートメルマガにて告知します。

サポートポリシー

- Ericom Connect のサポートポリシーに準じます。詳しくは [Ericom 製品 アクセスプロダクトのサポートポリシー](#) をご確認ください。

販売ポリシー

- 新規購入時はアシストのリリース最新バージョンが提供されます。
- 追加購入時はリリース後 5 年以内であれば現利用バージョンと同一を提供します。

10.13.3 URL 自動判別オプション (KOTOMINE)

対象製品

このルールについては以下の 1 製品にのみ適用対象となります。

- URL 自動判別オプション (KOTOMINE)

バージョンレベルの定義

- メジャーバージョンレベル : x .x.x
- マイナーバージョンレベル : x. x .x 機能拡張と不具合修正が含まれます
- サービスリリースレベル : x.x. x 不具合修正リリースのみが含まれます

リリースとサポートの前提

- 正式リリースの案内は、パートナーメルマガ/パートナー Web/当ページおよび Ericom 製品オンラインドキュメントのサポート状況一覧/サポートメルマガにて告知します。

サポートポリシー

- 問合せ対応については、マイナーバージョンのリリース後 3 年間とさせていただきます。
- 不具合修正は基本的には最新バージョンに対して行われますが、マイナーバージョンリリース後 2 年間は、上位バージョンにバージョンアップすることによって著しい不都合が生じる場合において、サービスリリースが作成される可能性があります。

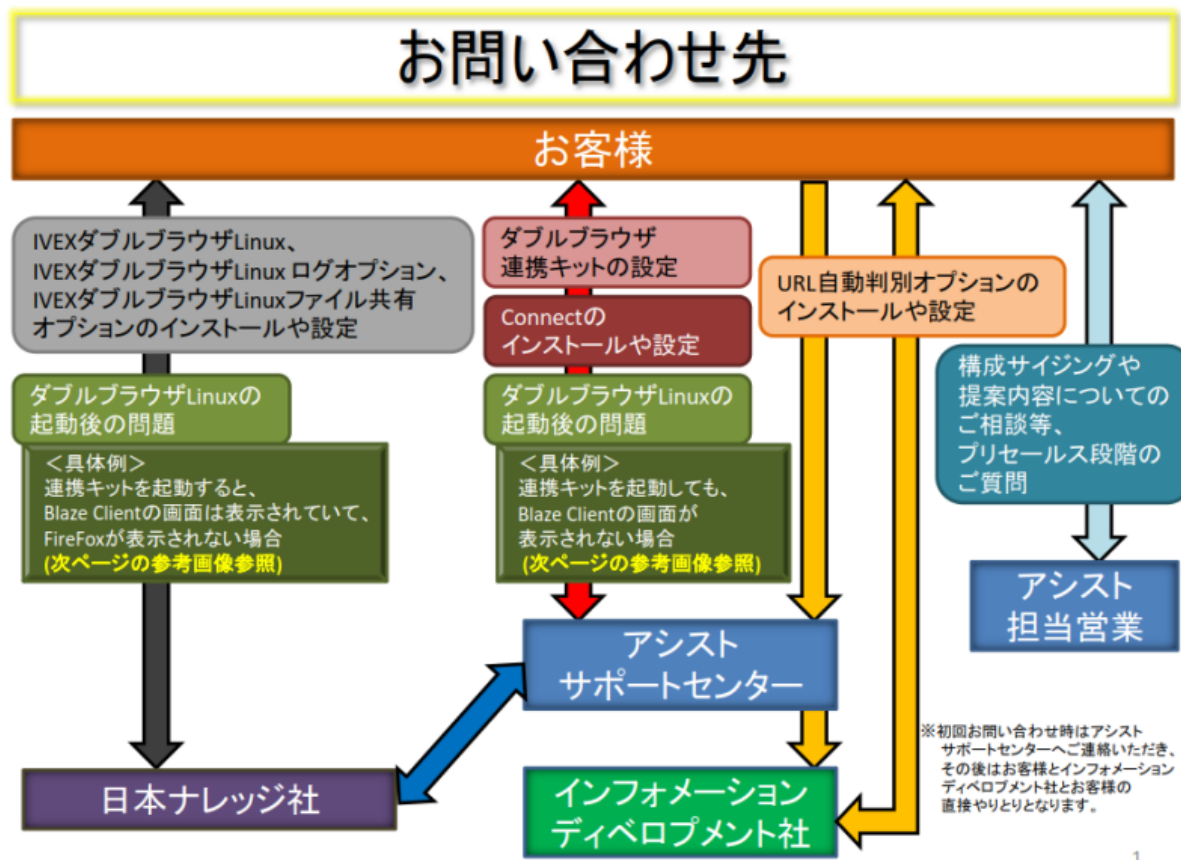
販売ポリシー

- 新規購入時はアシストのリリース最新バージョンが提供されます。

10.13.4 コンポーネント間のバージョン互換

IVEX ダブルブラウザ Linux	1.6	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5
Ericom Connect	7.6.1	7.6.1	8.1.0	8.2.0	8.2.0	8.2.0	8.5.0
連携キット	~7.6.1.6	7.6.1.7, 7.6.1.8	8.1.0.x, 8.5.0.1~	8.2.0.x, 8.5.0.1~	8.2.0.x, 8.5.0.1~	8.2.0.x, 8.5.0.1~	8.5.0.1~
ログオプション	1.0.5~ 1.0.6	1.1.0/1.2.0	1.1.0/1.2.0	1.1.0/1.2.0	1.1.0/1.2.0	1.1.0/1.2.0(ESR68 対応)	1.1.0/1.2.0(ESR68 対応)
ファイル共有オプション	1.0.0~ 1.0.2	1.1.0	1.1.0	1.1.0	1.1.0	1.2.0	1.2.0
URL 自動判別オプション (KOTOMINE)	1.1	1.1	1.3	1.4~	1.4~	1.4~	1.4~

10.14 サポート / お問い合わせ先



1



お願い:

ダブルブラウザソリューションは複数社の製品を組み合わせご利用いただいております関係上、それぞれの製品についてのお問い合わせ先が異なっております。それぞれのサポートセンター間で情報の連携は可能ですが、迅速なサポートの為に適切なお問い合わせ先へのご連絡をお願いいたします。

10.14.1 アシスト サポートセンター

お問い合わせいただける事象

- ダブルブラウザ連携キットのインストールや設定/トラブル
- Ericom Connect のインストールや設定/トラブル
- URL 自動判別オプションのインストールや設定/トラブル (受付)
- ダブルブラウザ Linux 起動後の問題

ー 連携キットを起動しても Blaze Client の画面が表示されない場合

* Ericom AccessPad のエラー画面が表示され Code.6 や Code.18 などのエラーコードが

表示されている

- * UnhandledException などのエラー画面が表示されている

お問い合わせ先

お手元のサポート契約書類をご確認いただき、サポート ID をご準備の上、書類に記載されたお問い合わせ先へご連絡願います。

製品お問い合わせ時のテンプレートご利用のお願い



お願い:

E-mail、Ashisuto Web Support Center(AWSC) よりお問い合わせいただく際は、ご契約時に送付させていただきました資料に記載されております問い合わせテンプレートを是非ご利用ください。問題の早期解決とお客様環境情報把握を目的としております。全てにご記入いただく必要はございませんが、不足している情報については、サポート対応の中で随時確認させていただきます。

Ashisuto Web Support Center(AWSC) アカウント登録のお願い



お願い:

弊社では Ashisuto Web Support Center(AWSC) をご用意しており、Web からのお問い合わせや、お客様に有益な技術情報の提供も行っております。主に下記のようなコンテンツをご利用いただけます。

- Web からのご質問のご登録と更新、履歴管理
- 製品技術ナレッジ (FAQ) の参照
- 技術ドキュメントの参照

AWSC サイトでは、現在いただいているお問い合わせのステータス管理や過去お問い合わせの履歴参照等の仕組みをご用意しております。AWSC サイトをご利用いただく際には、アカウント (AID) の登録が必要です。1つのサポート ID に対して AID の登録数制限はございませんので、複数人でアカウントを作成いただき、関係者間での情報共有基盤としてもご利用いただけます。また、FAQ や技術資料は、毎月更新され、お客様が製品を最大限ご利用いただけるように積極的な情報提供を行っておりますので、是非 AWSC サイトにて AID をご登録の上、ご利用ください。

AWSC のご利用は、下記サイトより AID を作成の上、ご利用ください。

- AWSC ログインに必要な AID の作成、AWSC ご利用方法について
https://www.ashisuto.co.jp/support/awsc_entry.pdf
- AWSC ログインについて <https://support.ashisuto.co.jp/>

10.14.2 日本ナレッジ IVEX サポートグループ

お問い合わせいただける事象

- IVEX ダブルブラウザ Linux のインストールや設定/トラブル
- IVEX ダブルブラウザ Linux ログオプションのインストールや設定/トラブル

- IVEX ダブルブラウザ Linux ファイル共有オプションのインストールや設定/トラブル
- ダブルブラウザ Linux 起動後の問題
 - － 連携キットを起動すると Blaze Client の画面は表示されるが、Firefox が表示されない場合
 - * xrdp のエラー画面やログイン画面が表示されている
 - * 真っ黒な画面のまま先に進まない
 - * 青いな画面のまま先に進まない
 - * 黒い画面が一瞬表示されてすぐに切断される
 - * 青い画面が一瞬表示されてすぐに切断される

お問い合わせ先

お手元のサポート契約書類をご確認いただき、サポート ID をご準備の上、書類に記載されたお問い合わせ先へご連絡願います。



お願い:

メールの CC にアシストサポートセンターの情報共有用アドレス (eri_nkc@ashisuto.co.jp) を追加していただくと、情報の連携がよりスムーズになります。当アドレスは情報共有専用であり、アシストサポートセンター宛のお問い合わせにはご利用いただけません。ご了承ください。

10.14.3 インフォメーション・ディベロップメント社

お問い合わせいただける事象

- URL 自動判別オプションのインストールや設定/トラブル (受付以降)



参考:

初回の受付はアシストサポートセンターへご連絡いただき、その後はお客様とインフォメーション・ディベロップメント社との直接やり取りとなります。

10.14.4 アシスト 担当営業

お問い合わせいただける事象

- 構成やサイジング、ご提案内容についての相談など、プリセールス段階のご質問。
- ご契約内容、保守契約期間や費用に関するお問い合わせ

10.14.5 アシスト Ericom キー発行窓口

お問い合わせいただける事象

- ライセンスの新規発行、再発行

お問い合わせ先

eri_key@ashisuto.co.jp



- ライセンス追加のご検討やお見積については、担当営業、または sk_info@ashisuto.co.jp までご連絡をお願いいたします。

お願い:

第 11 章

法律に基づく告知および免責事項

本ドキュメントは、明示的かつ適切に認められたユーザを支援することのみを目的としたもので、株式会社アシスト（以下「当社」）により随時、変更または撤回されることがあります。

本ドキュメントの所有権は 当社および各製品のメーカー各社に属します。

当ドキュメントに記載されているソフトウェアおよびドキュメント自体は、ライセンス契約の下で提供されています。各社の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、複製、開示、変更することはできません。

ここに記載されている情報は、告知なく変更されることがあり、「現状のまま」として提供され、誤りがないことを保証されていません。

ここで挙げられている例の一部は、例示のためのみにて提供され、特に記載のない限り架空のものです。実際の関係や関連性について推測されるもの、または推測されるべきものではありません。

当ドキュメントからリンクやバナーなどによって他のサイトに移動された場合、移動先サイトで提供される情報、サービス等について一切の責任を負いません。

Ericom[®]、Ericom Connect[®]、PowerTerm[®] は、Ericom Software の登録商標（米国）です。Ericom Blaze[™]、Ericom AccessNow[™]、Ericom AccessToGo[™]、Ericom Shield[™]、PowerTerm WebConnect[™] は、Ericom Software の商標です。その他の名称はそれぞれの所有者の商標である場合があります。